

令和5年度

業務報告書

大田市総合的な人口減少対策事業  
少子化対策に係る調査研究等業務

令和6年3月

島根県大田市

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所



# 目次

第1章 全体概要編 .....	1
I 概要編 .....	3
1. 業務目的 .....	3
2. 業務の全体フローと業務体制 .....	3
第2章 地域人口の現状分析、将来予測、定住増加推計 .....	7
I 概要編 .....	9
1. 将来人口の推計手法と補正方法 .....	9
2. 人口安定化の条件と定住増加組数 .....	15
3. 人口推計シート（推計結果）の構成・見方 .....	17
II 大田市全体編 .....	20
1. 現状分析（2018～2023年） .....	20
2. 現状推移シナリオ .....	25
3. U & I ターン増加シナリオ .....	27
4. 組み合わせ最適シナリオ .....	29
III まちづくりセンター単位編 .....	32
1. 現状分析（2018～2023年） .....	33
2. 現状推移シナリオ .....	47
3. 組み合わせ最適シナリオ .....	57
第3章 各種調査分析結果 .....	69
I 人口に関する発展的分析結果 .....	71
1. ライフステージ（出生～幼少期～進学・就職期～結婚・出産期～子育て期）を通じた年代人口の長期的変化 .....	71
2. 人口循環率 .....	75
II 人口に関する分野横断的分析結果 .....	79
1. 産業別就業人口 .....	79
2. 大田市通勤・通学者の動向 .....	85
III アンケート調査結果 .....	87

1.	市民アンケート調査概要 .....	87
2.	市民アンケート調査結果 .....	88
3.	市民アンケート調査票 .....	132
4.	中学生・高校生アンケート調査概要 .....	184
5.	中学生・高校生アンケート調査結果 .....	185
6.	中学生・高校生アンケート調査票 .....	200
<b>IV ヒアリング調査結果 .....</b>		<b>202</b>
1.	庁内関係部署へのヒアリング .....	202
2.	関連団体へのヒアリング .....	206
3.	ヒアリング結果のまとめ .....	221
<b>V 他自治体現状分析 .....</b>		<b>225</b>
<b>VI 現行施策の効果検証と要因分析 .....</b>		<b>236</b>
<b>VII 【追加調査】世代をつなぎ、今後のより良い地域づくりに向けた一歩を踏み出すための</b>		
<b>条件整理（世代別期待・求められる行動について） .....</b>		<b>255</b>
<b>第4章 人口減少対策に関する施策の検討 .....</b>		<b>257</b>
<b>I 戦略の策定 .....</b>		<b>259</b>
1.	戦略を立てる上での前提条件の整理と勘所 .....	259
2.	ライフステージ軸 .....	260
3.	4つの“場” .....	262
4.	大田市の戦略 .....	263
<b>II 既存施策のスクラップ&amp;ビルドの検討、提言 .....</b>		<b>264</b>
<b>III 具体的な施策検討・提言 .....</b>		<b>269</b>
1.	検討の過程 .....	269
2.	検討の結果 .....	270
<b>第5章 各種協議について .....</b>		<b>311</b>
<b>I 調査検討委員会 .....</b>		<b>313</b>
1.	委員名簿 .....	313
2.	協議の経過 .....	313

3.	記録.....	314
<b>II 庁内連絡会議 .....</b>		<b>351</b>
1.	委員名簿.....	351
2.	協議の経過.....	351
3.	記録.....	352
<b>第6章 議員・職員研修及び市民フォーラムについて.....</b>		<b>359</b>
<b>I 研修会.....</b>		<b>361</b>
1.	職員研修会.....	361
2.	議員研修会.....	362
<b>II 市民フォーラム（大田市未来展望フォーラム）.....</b>		<b>363</b>
1.	開催概要.....	363
2.	開催の様子.....	364
<b>第7章 政策提言 .....</b>		<b>371</b>
<b>I 全体のまとめ.....</b>		<b>373</b>
1.	地区別人口分析等から見る大田市の現状 .....	373
2.	アンケート調査結果から見た大田市の現状 .....	375
3.	ヒアリング結果から見た大田市の現状 .....	376
4.	検討の歩み.....	377
5.	まとめ.....	377
<b>II 持続可能な大田市の実現に向けた具体提案.....</b>		<b>380</b>
1.	女性の起業、定住支援.....	380
2.	地区別定住戦略の策定と地域への愛着の醸成 .....	381
3.	安心して子育てできる環境づくり .....	384
4.	大田市としての都市の求心力の向上と周辺地域の活性化 .....	386
5.	仕組みづくりと体制づくり .....	389



# 第1章 全体概要編





# I 概要編

## 1. 業務目的

全国的な人口減少が進む中で、大田市においても人口減少は喫緊の課題となっている。

本業務においては、その対策を検討するもので、「移住・定住促進」「結婚支援」「子育て支援」「少子化対策」など、関連するあらゆる施策の現況と社会情勢を整理して、効果的な施策実施につなげることを目的とする。

## 2. 業務の全体フローと業務体制

### (1) 業務内容

仕様書に示される以下の項目に対する実施事項を整理する。

仕様項目	実施事項
(1) 情報収集、現況整理	
①各種分析 地区別の人口分析、モデル地区の選定と分析、産業別の人口分析 等	・大田市全体及び 27 地区の分析 ・モデル地区は池田地区と大森地区を選定。地元関係図作成等を実施。 ・産業別人口の分析実施
②施策整理 各施策の状況整理のため、関係部署へのヒアリングを実施	・各所管課を対象に実施
③関連団体へのヒアリング 子育てサークル等へのヒアリングによる実態把握	・各分野の実践者を対象に実施
④他自治体現状分析 県内 8 市、類似自治体の状況を分析	・県内 15 市町にて実施。類似自治体として兵庫県明石市、大分県豊後高田市の状況を分析
⑤整理した内容の報告	・調査検討委員会、庁内連絡会議にて報告
(2) アンケート調査の実施	
①アンケート調査票の設計 効率的な結果を得るための設問等の設計	・大田市民 18 歳～45 歳を対象に実施。回答者属性に分けて詳細に分析するため、全 4 種類のアンケート調査票を配布し分析・調査実施 ・中高生アンケート調査を実施。 ・調査検討委員会、庁内連絡会議にて報告
②アンケート結果の集計 アンケート結果のデータ入力・集計作業	
③アンケート結果の分析 集計したアンケート結果の分析作業	
④分析結果の報告、フィードバック	

(3) 現行施策の効果検証と要因分析	
<p>(1) 及び (2) で整理した内容を分析し、本市における施策の効果を検証するとともに、他自治体との比較を行い、本市における人口減少対策の強み・弱みを明らかにすることで、今後進めていく人口減少対策検討の基本とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策調査シートを作成し、所管課に回答いただく。</li> <li>・ 施策調査シートの結果を集約し、施策状況一覧シートを作成</li> </ul>
(4) 対策の検討、提言	
①戦略の策定	・ 今後の検討の枠組みを提案
②既存施策のスクラップ&ビルドの検討、提言	・ 行政施策天気図ワークショップを実施
③具体的な施策検討、提言	・ 全 70 のアクションプランの種及び 4 つの具体アクションプランの提言
(5) 庁内検討会議、検討委員会の支援	
①庁内検討会議への出席、支援、報告書作成 (年 8 回程度開催予定)	・ 5 月、6 月、7 月、10 月、11 月に 2 回、12 月、2 月の計 8 回実施
②検討委員会への出席、支援、報告書作成 (年 5 回程度開催予定)	・ 6 月、7 月、10 月、12 月、2 月の計 5 回実施
③拡大庁内連絡会議への出席、支援、報告書作成 (①と②の合同会議/年 4 回予定)	・ 6 月、7 月、10 月、12 月、2 月の計 5 回実施 (ただし、①と②の合同開催)
(6) 研修会、フォーラム等の開催	
①市職員向けの研修会開催	・ 11 月に実施
②市議会議員向けの研修会開催	・ 12 月に実施
③市民向けのフォーラム等開催 (3 月頃の開催を想定)	・ 3 月に実施

## (2) 業務の全体フロー

月	会議	調査・分析
4		人口推計・分析の実施 他自治体現状分析
5	第1回庁内連絡会議	現行施策の効果検証
6	第1回調査検討委員会	関連団体ヒアリング調査
7	第2回調査検討委員会	アンケート調査実施
8		
9		
10	第3回調査検討委員会	庁内関係部署ヒアリング調査実施 アクションプラン整理検討
11	第2回庁内連絡会議 第3回庁内連絡会議 市職員向け研修会	
12	第4回調査検討委員会 議員向け研修会	
1		本業務における成果とりまとめ
2	第5回調査検討委員会	
3	市民フォーラム	

## (3) 業務体制

業務受託者：一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

業務責任者：代表理事 藤山 浩

分 析：理事 森山 慶久

業務実施：主任研究員・野村 秀一郎

業務支援：研究マネージャ・田中 宏美

業務支援：研究マネージャ・山下 知子



## **第2章 地域人口の現状分析、将来 予測、定住増加推計**



# I 概要編

## 1. 将来人口の推計手法と補正方法

### (1) 使用した推計手法について

地域人口の推計によく使われる手法は、【コーホート要因法】と【コーホート変化率法】の2つがある。これら2つ以外の推計手法には、使用する変数が多い等、実用上の問題が多く、実際にはあまり使われていないのが実情である。

大田市の人口推計では【コーホート変化率法】を使用して将来人口を推計した。ただし、【コーホート変化率法】をベースとしつつも多数の補正を加えることで、持続可能な地域社会総合研究所が独自開発した推計手法となっている。次節以降で、コーホート変化率法と補正方法について解説する。

### (2) コーホート変化率法とは

#### ・コーホート法とは

同時に出生した集団（コーホート）の、ある期間の人口の変化を捉えることで将来人口を推計する方法である。コーホート法は大きく分けると、【コーホート変化率法】と【コーホート要因法】の2つがある。

例えば、ある年の20～24歳人口は5年後には25～29歳となるが、その間の実際の人口動態を分析し、これから導出された傾向を基準として20～24歳人口に乗じることで、5年後の25～29歳人口を推計する。

#### ・コーホート変化率法とは

小地域（基礎自治体「市区町村」よりも小さな地域単位）の人口推計に使用されることが多い手法で、必要とするデータは、出発時点（基準年）における男女年齢別の人口と、通常5年前の男女年齢別人口だけである。従って、生残率と合計特殊出生率あるいは純移動率といった専門家でないでと算出しにくいデータを揃えなくてもよい。しかも、男女年齢別の人口だけなら、住民基本台帳等のデータを使えば、毎年でも更新できる。コーホート変化率や出生数の推計に使用する子ども女性比率は、比較的統計上の誤差が小さいことから、人口が少ない地域の推計にも適している。また、これから行うようにU&Iターン等の増加を組み入れることも容易となる。

「コーホート変化率法」では、通常、対象地域における直近5年間のコーホート変化率が、今後も継続すると仮定して将来推計を行う。出生数は、基準年における20～39歳女性人口と0～4歳人口の比率が、今後も一定であると仮定して推計する。つまり、子どもを出産する年齢の女性が増えれば、赤ちゃんの数も一定割合で増えると想定している。その際、0～4歳児の男女比を男子105、女子100と設定するのが普通である。

・＜参考＞コーホート要因法とは

出発時点（基準年）における男女年齢別の人口に、何らかの方法で設定された将来の、男女年齢別生残率と男女年齢別純移動率、そして女性の年齢別出生率を乗じて算出するものである。このうち、生残率と合計特殊出生率は、都道府県や市町村では人口動態統計から算出可能だが、純移動率はデータが一般的には整備されていないため、新たに推計作業が必要となる。また、人口が数千人レベルの地域では、求められた生残率、合計特殊出生率ならびに純移動率は、統計上の誤差が大きく、そのためさまざまな補正作業が必要となる。

国立社会保障・人口問題研究所といった専門機関が、市町村等の長期的な人口予測を行なう際には、この「コーホート要因法」を使っている。そして、「日本創生会議」の人口推計も、同研究所の推計結果を下敷きにしている。

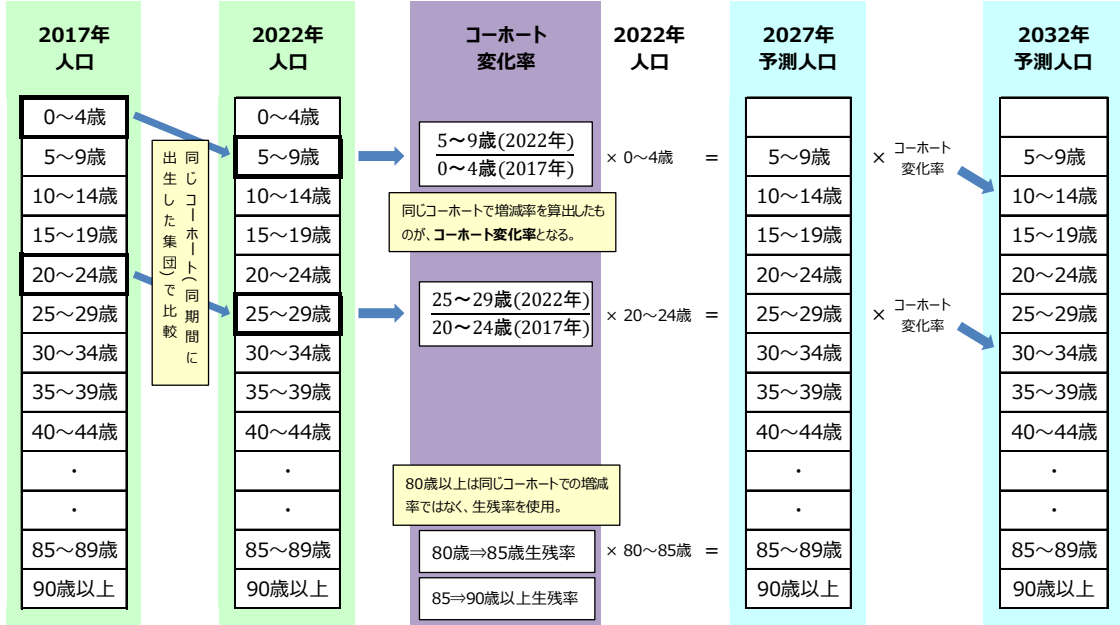
以上を踏まえ、今回の大田市人口推計では、対象地域データの集約が困難な「コーホート要因法」よりも、小地域にも対応し理解しやすい「コーホート変化率法」を使用して将来人口を推計するのが適切であると判断する。



### (3) 将来人口推計の計算イメージ

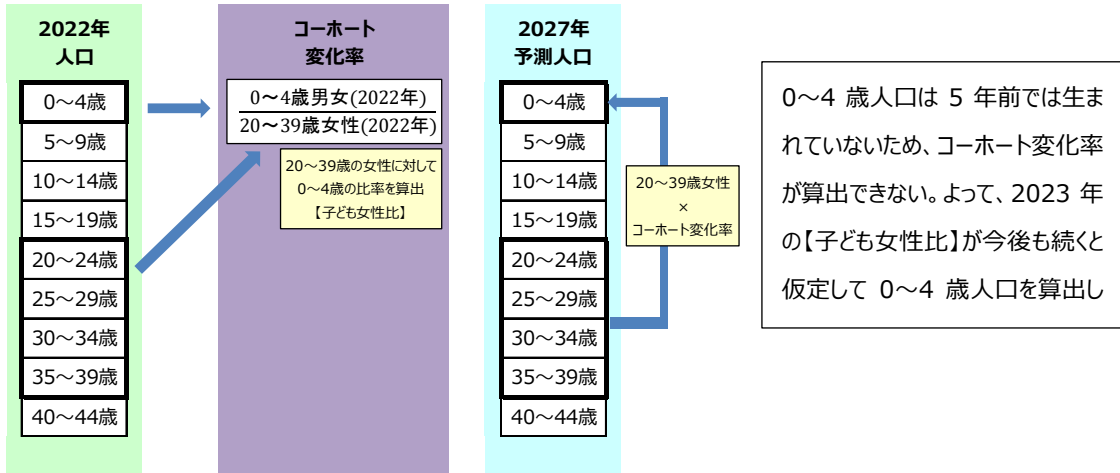
コーホート変化率法を用いた、将来人口推計の計算方法を理解していただくため、以下に計算イメージを掲載する。

#### 【5～90歳以上の計算方法】



※中山間地域においては80歳以上の社会移動は稀であると予測されるため、変化率には生残率(2030⇒2035年)を使用した。

#### 【0～4歳の計算方法】



※男女の出生性比は105:100として計算した(世界の統計より)。

#### (4) 推計地域とシミュレーション内容

大田市全体・まちづくりセンター27地域、計28地域での人口推計・分析及び、出生率・流出率・定住増加が改善した場合の人口推計シミュレーションを実施した。

推計した単位（市全体・まちづくりセンター単位）によって、将来人口予測・人口安定化に必要な定住増加組数等の合計値は異なるが、この理由は以下の通りである。

小さな地域単位にすると、その中で良いコーホート変化率を持っている地域の人口予測は、大きく伸びる結果となる。あまりに過大な変化率は一定の補正を実施しているが、それでもそうした優良地域に引っ張られ、小さい単位に分割するほど合計値は大きくなる傾向がある。一方、大きな地域単位（市全体）にすると、過大な変化率は平準化され、より少なめの予測値になる傾向がある。

ただ、この傾向や合計値の差異は、あくまで地域ごとの実態を踏まえて予測値を算出する基本に立てば不可避であり、無理に大きな地域単位等に合わせて補正すると、地域の現状を正確に反映しないことになる。

推計した単位の合計値を比較して、どちらが正確なのかということにはあまり意味はなく、それぞれの単位・数値で、基本に則り、算出されていることが重要であると考えて推計を実施している。

#### (5) 人口分析・将来人口の推計に使用したデータ

##### ・大田市住民基本台帳の人口データ（2018・2023年04月30日現在）

男女5歳刻み19階級（90歳以上一括り）の人口データを使用した。

（外国人を含む総数）

##### ・将来の80歳以上の大田市生残率データ（2018年3月推計）

中山間地域において80歳以上の社会移動は稀であると予測されることから、コーホート変化率の代わりに80歳以上は生残率を用いて推計を行った。

生残率データは【国立社会保障・人口問題研究所】のホームページよりダウンロードした。

## (6) 補正が必要な地域と補正方法について

コーホート変化率法の考え方は、過去 5 年間の人口動態が、将来にわたって維持されるものと仮定して推計する手法である。これは逆に考えると過去 5 年間の人口動態が続かない地域については、将来人口が正しく算出できない可能性が高く、このような地域では変化率の補正が必要となる。また、小地域での推計においては、男女 5 歳刻み階級の人口が 0 人で、推計に必要な変化率の算出自体ができない地域も多々あり、このような地域についても補正が必要となってくる。

補正が必要な地域の条件と補正方法を以下に示す。

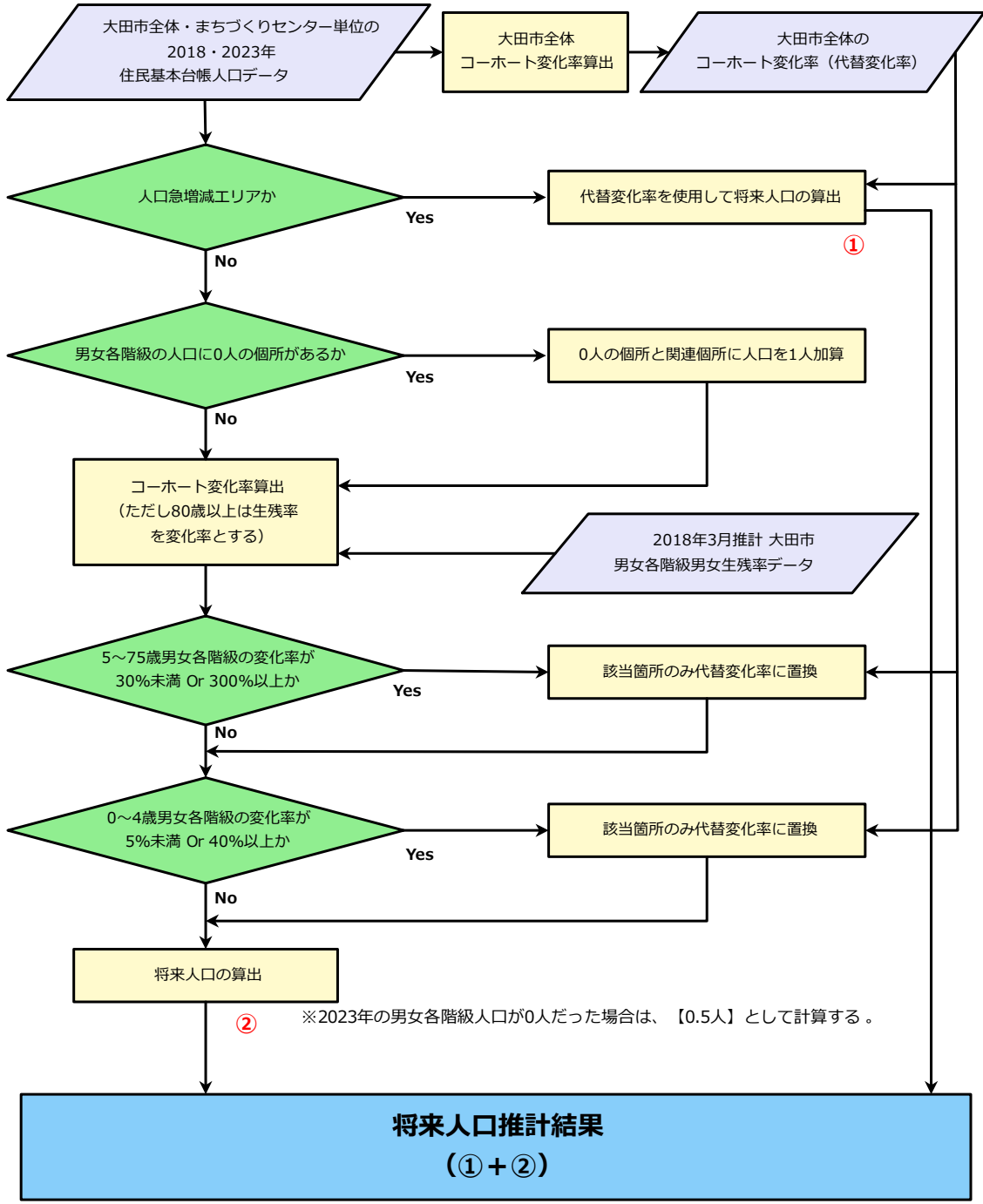
- 80 歳未満の男女 5 歳刻み階級の変化率が 0%となる地域については、該当の男女 5 歳刻み階級人口と、それに関連する階級人口に 1 人加算処理して変化率を算出した。
- 将来人口を算出する際には 2023 年の男女 5 歳刻み各階級に変化率を乗じて将来人口を推計するが、その際に 2023 年の男女階級人口が 0 人の場合は、僅かでも傾向を反映させるため、0.5 人に置換して将来人口を推計した。
- 特殊施設（老人ホーム等）の新設・廃止等の理由で、80 歳未満男女 5 歳刻み階級の変化率が急増減となる階級の変化率は※<sub>1</sub>代替変化率を使用した。  
急増減階級とみなす閾値は以下の通りである。  
5～75 歳：変化率が 30%未満 Or 300%超え  
0～4 歳：変化率が 5%未満 Or 40%超え
- 全体の人口が過去 5 年間で急増減しているエリアについては、一時的な要因の可能性が高いため（新興住宅地建設、立ち退き等）、80 歳未満の変化率は※<sub>1</sub>代替変化率を使用した。  
急増減地域とみなす閾値は以下の通りである。  
過去 5 年間の人口増減率が（70%未満 Or 120%超え） And 2023 年地域総人口 30 人以上

### ※<sub>1</sub>代替変化率について

住民基本台帳 2018・2023 年人口データから、大田市全体男女 5 歳刻み 80 歳未満までの 16 階級の変化率を算出し、これを代替変化率とした。

### (7) 将来人口推計のフローチャート

前述の「(6) 補正が必要な地域と補正方法について」の考え方を当てはめて、コホート変化率法で将来人口推計を実施すると、以下のフローチャートのように図示できる。



## 2. 人口安定化の条件と定住増加組数

### (1) 人口安定化の条件

地域人口の長期安定化（以下「人口安定化」という）の条件としては、以下の3つの基準を同時に満たしていれば、人口安定化が達成できているものとして仮定する。

① 30年後の人口総数が2023年人口総数と比較して**1割減以内**に収まること。

② 30年後の高齢化率が2023年の高齢化率と比較して**悪化しない**こと。

ただし、2023年の高齢化率が40%以下の場合は、30年後の高齢化率が**40%以内**に収まれば高齢化率は悪化していないものと判断する。

③ 30年後の年少人口（0～14歳）が2023年の年少人口と比較して**1割減以内**に収まること。

「まち・ひと・しごと創生」の長期ビジョン（2014年策定）では2060年に1億人程度の人口を確保することを目指している。これは当時人口から換算すると、約45年後には人口減少率が約2割減以内に収まるという意味である。

「まち・ひと・しごと創生」の長期ビジョンの目標に準拠し、30年後に1割減以内となれば、45年後（2060年頃）には2割減以内には収まる可能性が高いため、30年後人口総数1割減以内を人口安定化の条件と設定した。また、45年後ではなく、30年後を評価基準としたのは、地域住民の方にとって45年は長いと感じられ、目標意識が薄れてしまうことを危惧し、比較的近い将来の30年後を基準としている。

実際には各地域の実情・課題・可能性に応じた、地域毎の人口安定化の条件を設定することが望まれる。

## (2) 定住増加組数

合計特殊出生率・流出率の改善だけで人口安定化が難しい場合、新たに定住人口を増加させる必要があり、どの程度の定住増加人口を確保していけば達成できるのか算出する必要がある。そこで、人口安定化に必要な定住増加組数を算出している。このような「処方箋」があつてこそ「地域人口ビジョン」であり、今後の「総合戦略」も具体的な目標数値がなければ、実効性のあるものにはならないと考える。

定住人口の増加を考える場合、まず、定住を増やそうとする世代のターゲットを決める必要がある。卒業や就職、結婚や出産、退職といった人生の節目と出来事と、居住地の移動が連動することが多いので、社会移動が比較的多いと想定される以下の3世帯(世代)を中心に定住増加人口を考える。

- 30歳代前半夫婦が4歳以下の子どもを連れてU・Iターン(3人)
- 20代前半夫婦がU・Iターン(2人)
- 60代前半夫婦(定年退職者)がU・Iターン(2人)

上記の3世帯を1組(合計7人)とし、毎年1組ずつ定住していくものとする。なお、人口安定化に必要な組数の最少単位は0.1組として算出する。

### 3. 人口推計シート（推計結果）の構成・見方

#### （1）推計結果シートの構成

人口推計した結果は Microsoft 社の「Microsoft Excel」というソフトで閲覧することができる。【現行推移モデル】【U&I ターン増加モデル】【組み合わせ最適モデル】の3つのパターン別推計結果を閲覧でき、加えて【定住組数・流出率・※<sub>1</sub>合計特殊出生率】が変更された場合のシミュレーションも可能となっている。なお、人口推計シート（推計結果）は、DVD-ROM に収録し成果品として納品する。

- **現行推移モデル**

現状の分析結果に加え、過去 5 年間の人口動態が続いた場合の 45 年後（2068 年）までの推計結果の表示が可能。

- **U&I ターン増加モデル**

【流出率・合計特殊出生率】は過去 5 年間の人口動態が続くと仮定し、定住増加だけで人口安定化を達成した場合の推計結果と、定住増加を変更したシミュレーションが可能。

- **組み合わせ最適モデル**

10 代後半の流出率（主に高校卒業後）を半減させ、合計特殊出生率を【2.29（段階的に上昇）】（H27.10 大田市人口ビジョンの目標出生率から設定）とし、それでも人口安定化が達成できない場合は定住を増加させ、人口安定化を達成した場合の推計結果と、定住増加・流出率を変化させたシミュレーションが可能。

ただし、現状で流出率が 0%未満の地域は現状のままとし、合計特殊出生率も同様に、設定した値を超えている地域については現状のままとした。

#### ※<sub>1</sub>合計特殊出生率について

ここでの【合計特殊出生率】とは、現状の社会移動を含む【子ども女性比（0～4 歳／20～39 歳女性）】を変換して算出したもので、一般的な【「期間」合計特殊出生率】とは異なる。ただし、【「期間」合計特殊出生率】と【子ども女性比】は高い相関関係にあるため、値は近似し、むしろ社会移動を含めているため、より実効性が高いともいえる。

【子ども女性比】から【合計特殊出生率】への変換式：

$$\text{合計特殊出生率} = (\text{2023 年 0～4 歳} / \text{2023 年 20～39 歳女性}) \times 4$$

## (2) 推計結果シートの解説

現状推移モデルの結果を基に、各値や各グラフを解説する。

変化率に補正をかけているエリアか  
 FLG 0 = 補正をかけていない  
 FLG 3 = 80歳未満すべての階級に補正をかけている  
 FLG 45 = 一部の該当階級に補正をかけている

前後5年の男女年齢別の人口データ

5年毎の男女年齢別の将来人口を計算

男女年齢階級別のコーホート変化率・率のグラフ

【総人口・高齢化率・後期高齢化率・小・中学生数】を自動集計

現在と二十年後（年次は可変）の階層別の男女人口

The screenshot displays the '人口予測シミュレーション' (Population Simulation) interface. It includes a header with '現行推移モデル' (Current Trend Model) and a table of population data by age and gender. Below the table are several charts: a bar chart for '5年毎の男女年齢別の将来人口を計算' (Future population by 5-year age groups), a bar chart for '男女年齢階級別のコーホート変化率・率のグラフ' (Cohort change rate and rate graph by age and gender), and a bar chart for '今後の5年刻みの総人口と高齢化率予測のグラフ' (Graph of total population and aging rate prediction by 5-year intervals). On the right side, there are three more charts: '図④ 2022年人口ピラミッド' (2022 population pyramid), '図⑤ 2042年人口ピラミッド予測 (現行推移モデル)' (2042 population pyramid prediction), and '図⑥ 小・中学生人口の将来予測 (現行推移モデル)' (Future prediction of elementary and middle school student population). A '備考欄' (Remarks) section is also visible.

今後の5年刻みの総人口と高齢化率予測のグラフ

今後の5年刻みの小学生・中学生数及び、年少人口の予測グラフ



### (3) 推計シミュレーション方法

U&I ターン増加モデルを基に、シミュレーション方法を解説する。

#### ● 出生率を変更するには

該当箇所に入出生率を入力すると自動計算されます。  
出生率を一律に設定されたい場合は、左側のセルを入力、  
期間毎に詳細な設定をしたい場合は、右側のセルを入力してください。

#### ● 毎年の定住組数を変更させるには

該当箇所に入毎年定住組数を入力すると自動計算されます。

#### ● 10代後半の流出率を変更させるには

該当箇所に入流出率を入力すると自動計算されます。

#### ● その他の変更をされたい場合は

「出生率・10代後半流出率・毎年定住組数」以外にも詳細な設定をされたい場合は、該当の変化率を直接変更してください。変化率の値を変更すると自動計算されます。

ただし、変更される場合は、人口推計の考え方・計算方法等を十分に理解した上で変更されることをお奨めします。

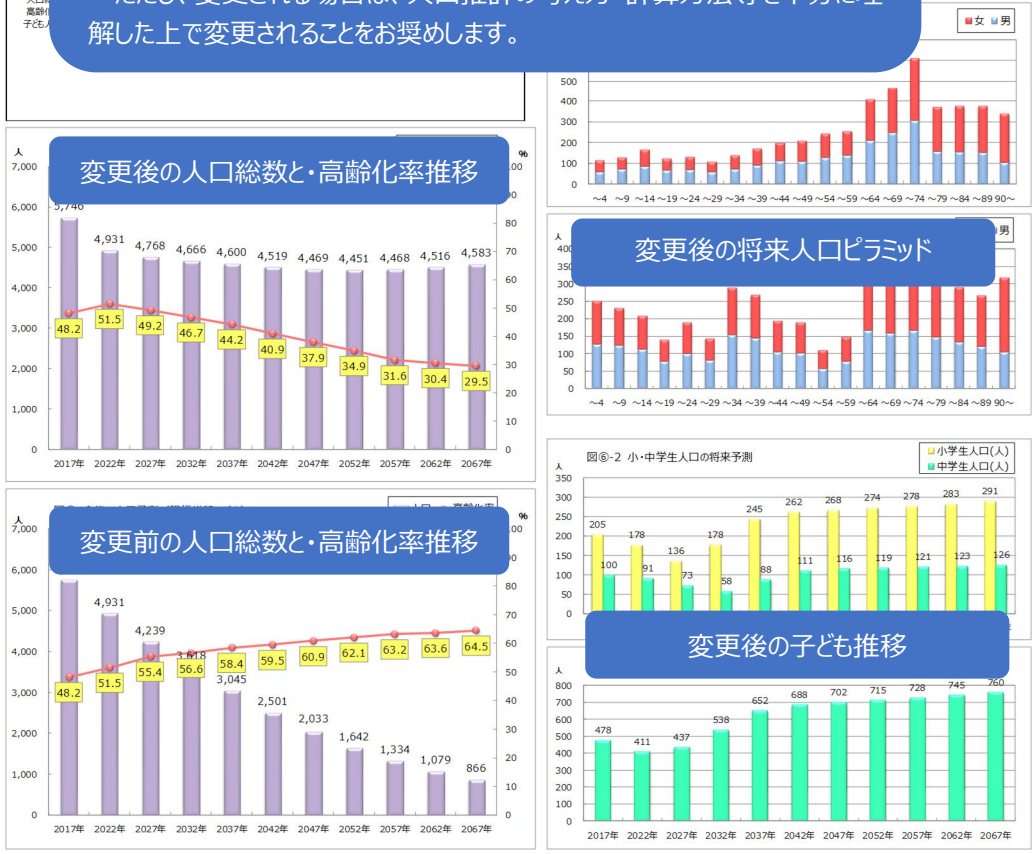
人口予測シミュレーション

出生率: 1.80

10代後半流出率: 33%

毎年定住組数: 13.4

年	出生率	10代後半流出率	毎年定住組数
2022年~2027年	1.80	33%	13.4
2027年~2032年	1.80	33%	13.4
2032年~2037年	1.80	33%	13.4
2037年~2042年	1.80	33%	13.4
2042年~2047年	1.80	33%	13.4



## Ⅱ 大田市全体編

大田市全体での人口の現状分析・パターン別人口推計シミュレーションを行った。

### 1. 現状分析（2018～2023年）

大田市全体の過去5年間（2018～2023年間）の人口動態の推移を検討していく。

#### （1）人口全体増減

	実数			率			
	2018年	2023年	増減	2018年	2023年	比率増減	増減率
人口総数	35,206	32,487	-2,719				-7.7%
高齢者	13,633	13,361	-272	38.7%	41.1%	2.4%	-2.0%
4歳以下幼児	1,181	918	-263	3.4%	2.8%	-0.5%	-22.3%
小学生	1,622	1,503	-119	4.6%	4.6%	0.0%	-7.4%
30代女性	1,528	1,260	-268	4.3%	3.9%	-0.5%	-17.5%

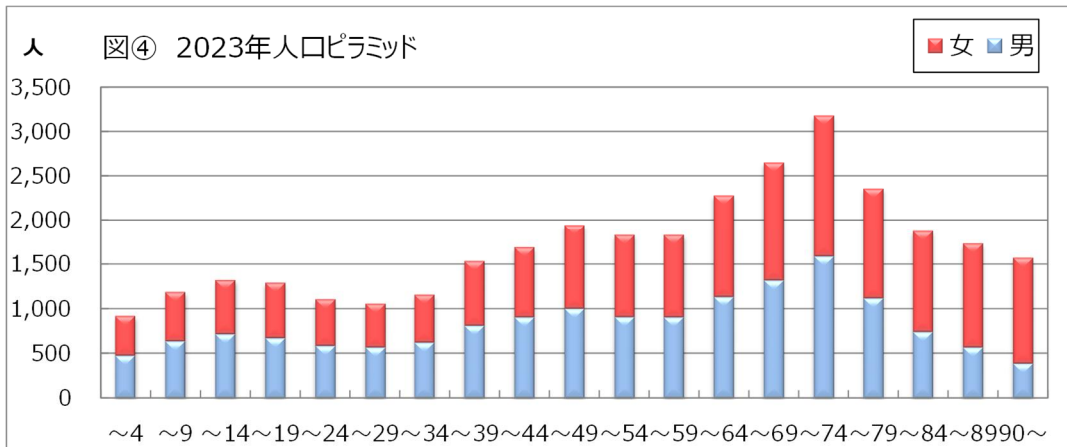
大田市全体として人口は減少傾向にある。高齢者比率が増加している半面、次世代を担う4歳以下幼児と30代女性の数・比率もわずかながら減少していることが課題である。

<参考>2023年大田市・島根県平均・全国平均との比較

	大田市 2023年	島根県平均 2020年	全国平均 2020年
高齢化率	41.1%	34.4%	28.7%
4歳以下幼児	2.8%	3.7%	3.7%
小学生率	4.6%	5.2%	5.1%
30代女性	3.9%	4.8%	5.5%

島根県・全国平均は2020年国勢調査統計より集計（年齢不詳人口は按分し、外国人含む総数で集計）

## (2) 年代別人口構成グラフ



60代後半～70代前半を中心にピークがあり、現在の地域を担っている主力人材もここに集中していることが予測される。そのため、現在の70歳前半が元気なうちに、次世代の地域を担う人材の確保と継承という観点から、今後5～10年間での次世代定住が急務となる。

人口の年齢構成で最も大切なことは、全体のバランスである。高齢者層・子育て世代の30～40代、そして、小・中学生の3つの年代層のバランスがとれていることが重要であると考えられる。

## (3) 男女年代別コーホート変化率

### ア) 男女年代別コーホート変化率とは

まず、コーホートとは「同じ期間に出生した集団」のことで、例えば、2023年の5～9歳と、2018年の0～4歳は同じ期間に出生しているため、同じコーホートということになる。

この同じコーホートで男女年代別に増減率を算出したものが「男女年代別コーホート変化率」となる。

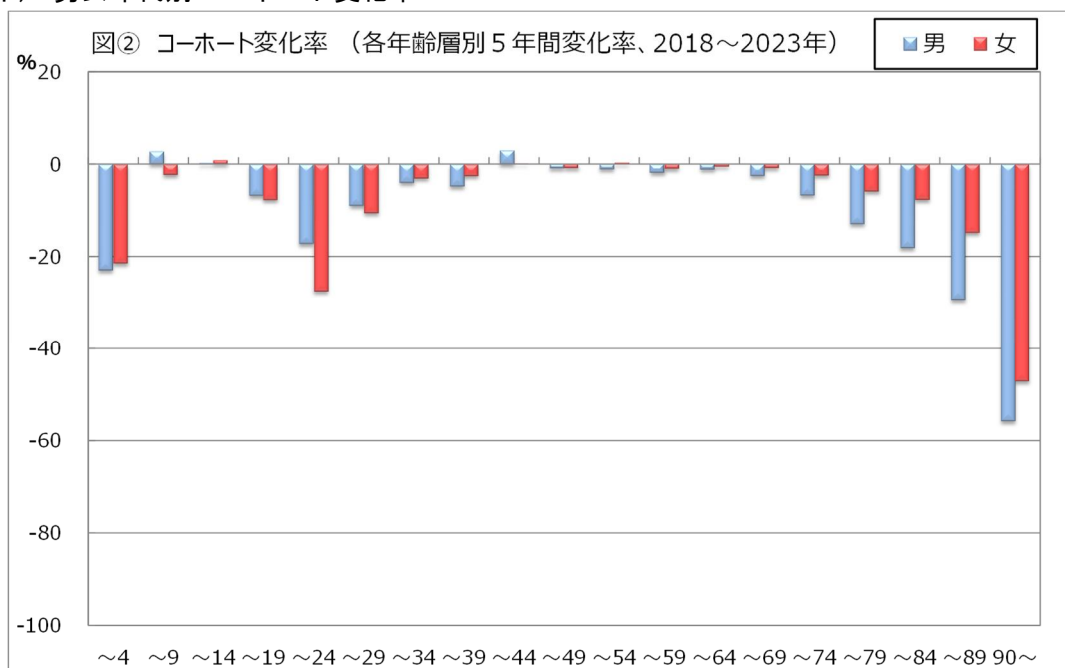
算出例：5～9歳男のコーホート変化率 =

$$(2023年男5～9歳人口 / 2018年男0～4歳人口) - 1$$

現在の各男女別の5歳刻み人口を、5年前の5歳若い年齢層の人口と比べることで、該当する年齢層について、差し引きでどれだけの流出入（社会増減）や、出生・死亡（自然増減）があったかが分かる。地域の人口動態を見る場合、コーホート変化率は非常に重要な数値であると考えている。

なお、0～4歳のコーホート変化率は、算出に必要な人口が5年前では存在していないため算出できない。そのため、以下の年代別コーホート変化率グラフの0～4歳の数値は、単純な増減率（2023年0～4歳人口 / 2018年0～4歳人口 - 1）を示している。

## イ) 男女年代別コーホート変化率



5～9歳男性、10代後半女性、40代前半男性ではわずかに流入超過が見られるが、全体的にはほとんどの世代で減少傾向となっている。

注視されるのが、20代～30代の子育て世代の大幅な流出超過と、4歳以下幼児の大幅な減少である。流出は高校入学時世代を中心に始まっており、流出した人口はほとんど地元には戻らず、その後も30代世代まで流出傾向が続いている。

また、特に懸念されるのは20～39歳の子育て世代において、総じて男性より女性の方が多く流出していることである。結婚・出産年齢女性の大幅な流出超過が、更なる少子化を呼ぶといった悪循環が始まることが懸念される。「結婚、出産、子育て」の各段階に応じた切れ目のない支援体制が望まれる。

20・30代を中心とした若年層の流出率抑制と、30代からのU&Iターン者（特に子連れ世帯）の上乗せが同時に進むことが理想となる。

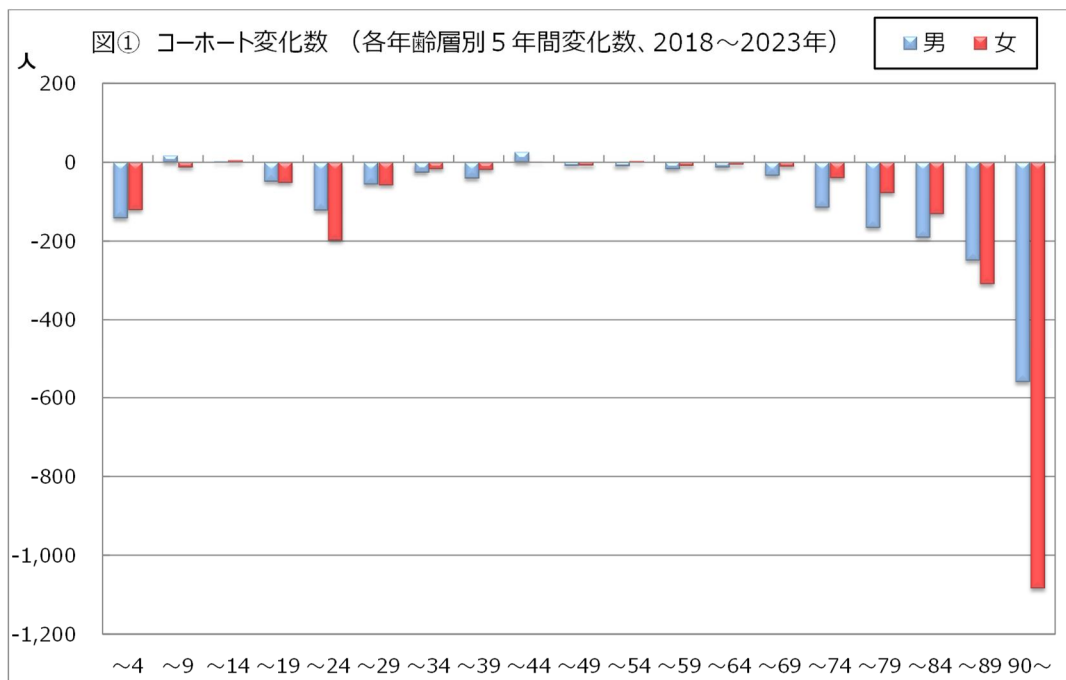
過去5年間の推移が25年続いた場合の例：

2023年に5～9歳男性が100人いた場合、2048年には68人まで減少（-32人）。

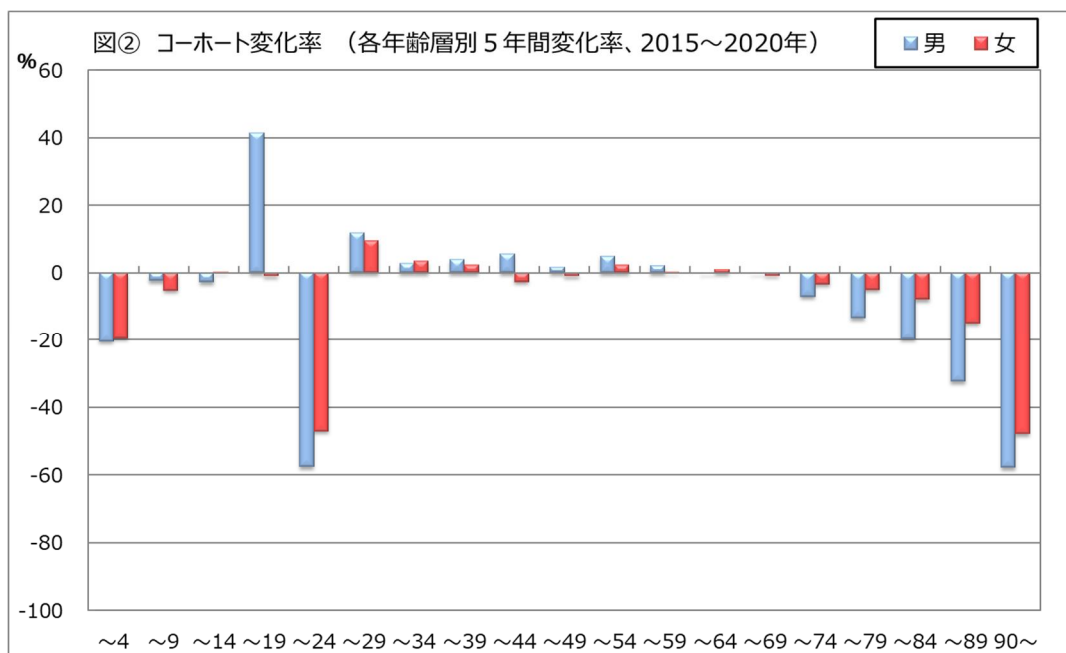
2023年に5～9歳女性が100人いた場合、2048年には58人まで減少（-42人）。

次頁に大田市全体コーホート変化数と、近隣市（2015～2020年間）のコーホート変化率のグラフを参考までに掲載する。

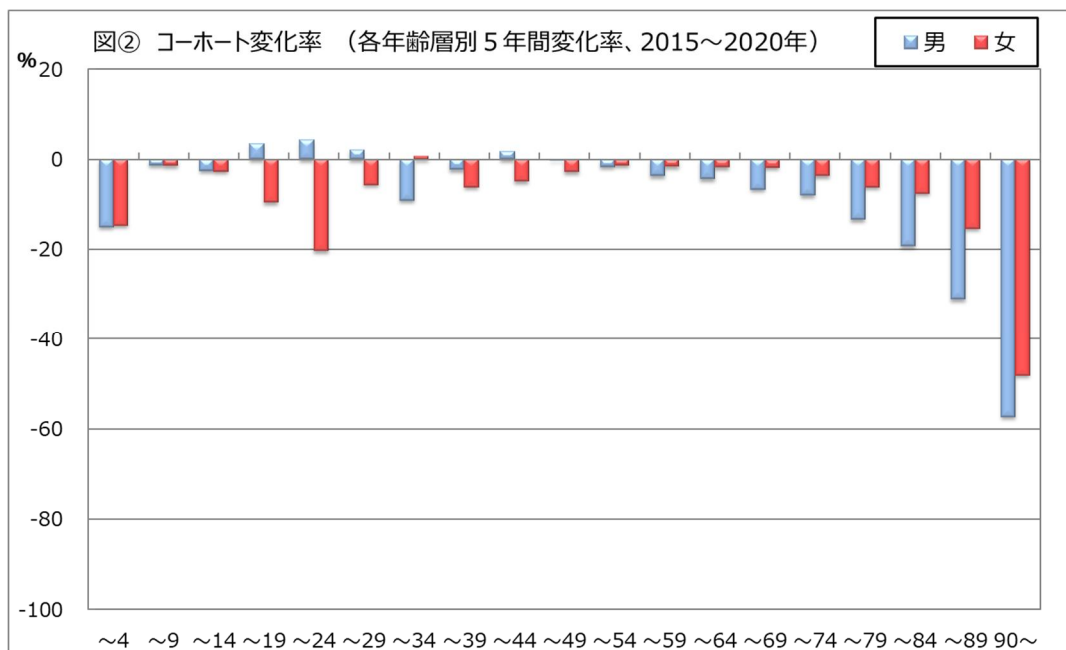
<参考>大田市全体 年代別コーホート変化数（2018～2023年間）



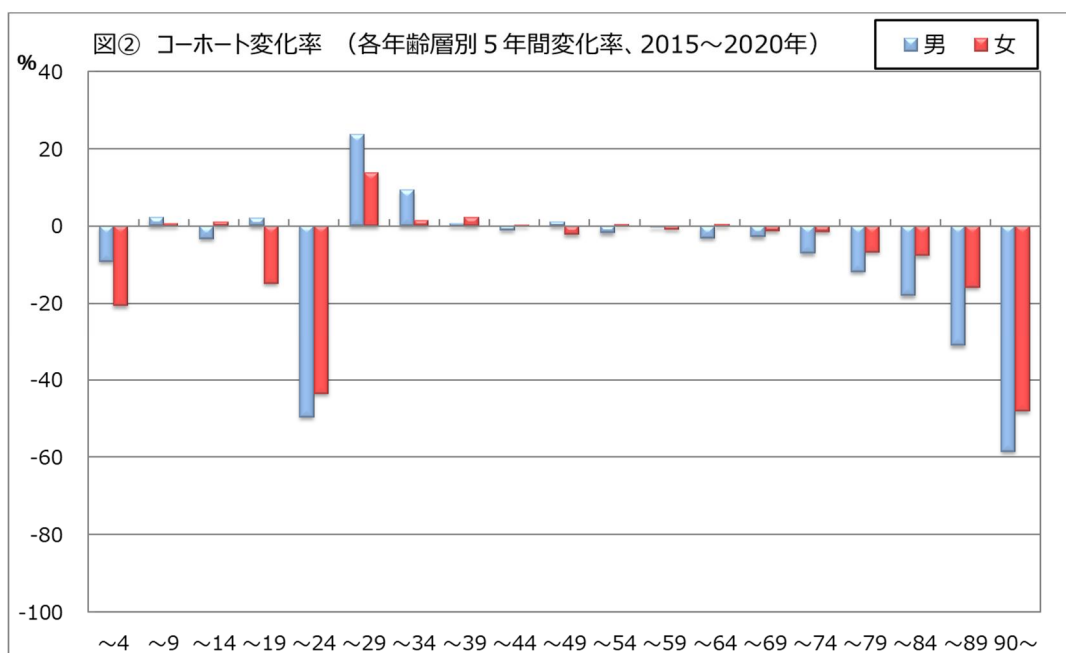
<参考>江津市全体 年代別コーホート変化率（2015～2020年間：国勢調査）



<参考>浜田市全体 年代別コーホート変化率（2015～2020年間：国勢調査）



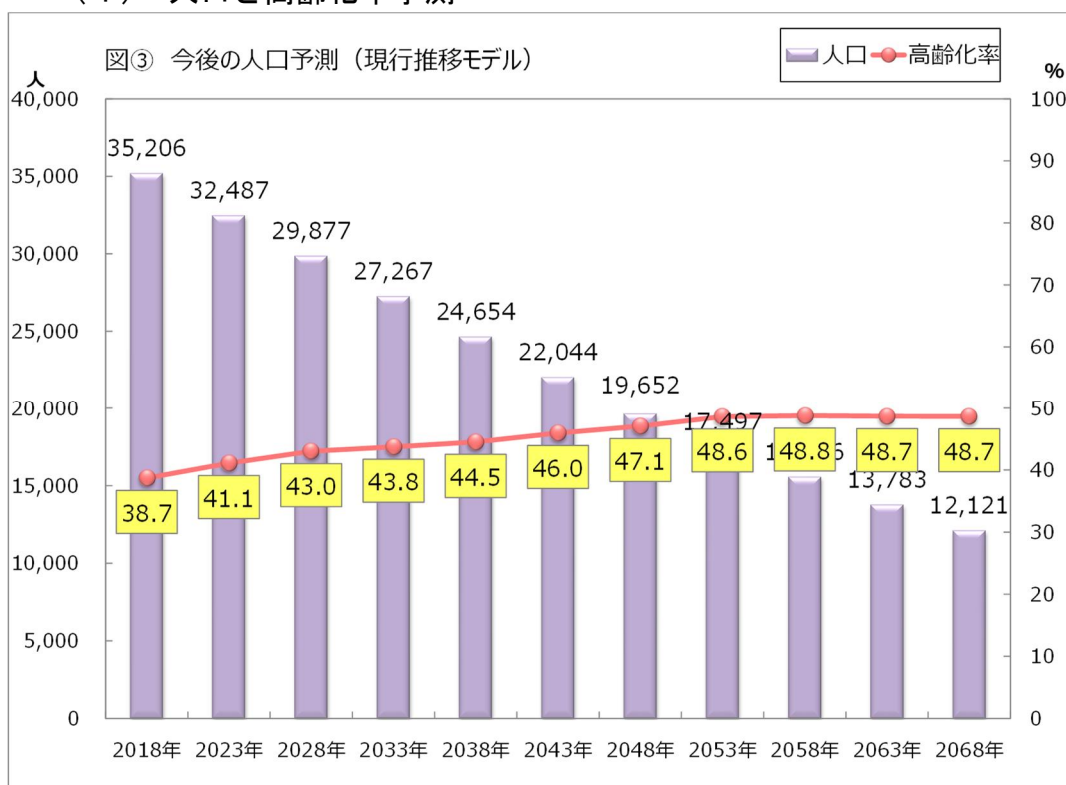
<参考>益田市全体 年代別コーホート変化率（2015～2020年間：国勢調査）



## 2. 現状推移シナリオ

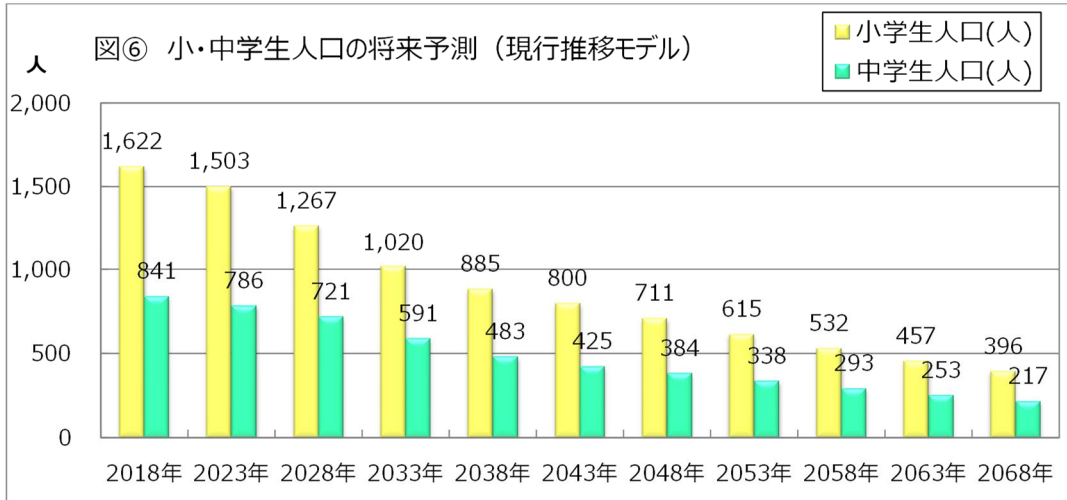
過去5年間（2018～2023年間）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討していく。

### （1）人口と高齢化率予測



高齢者の自然減少と若年層（特に20～39歳）を中心に人口減少が進み、人口総数は右肩下がりとなる。高齢者の減少以上に若年層の流出が大きいため、高齢化率は右肩上がりとなり、人口の下げ止まりが見えない状態となる。45年後の2068年には現在人口の約6.3割の減少となる。

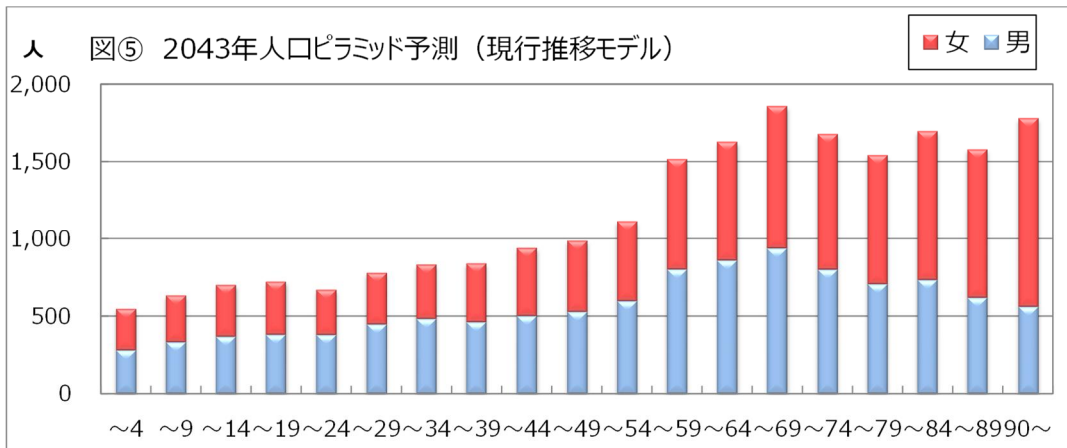
## (2) 小・中学生数予測



小・中学生も人口総数と同じく右肩下がりとなり、2068年には現在小・中学生数の約7.3割減となる。これは子育て世代（20代～30代）の流出率の悪化による影響が大きい。

一般的な傾向として、小・中学生数が減少し始めると、学校数の維持が困難となり、定住条件の悪化につながる懸念される。

## (3) 20年後の年代別人口構成グラフ



2023年の人口構成グラフよりも各年代の人口が縮小しており、特に50代後半未満の人口の厚みが失われ、更なる人口の縮小につながろうとしている。

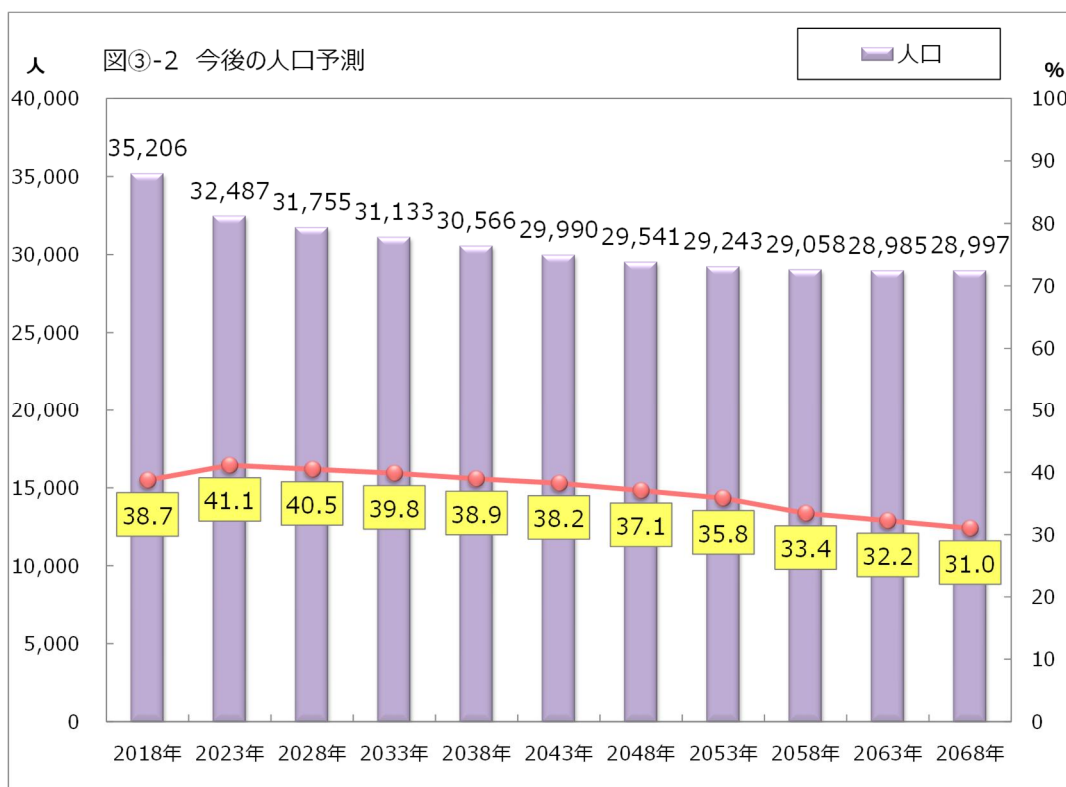


### 3. U & I ターン増加シナリオ

人口動態と出生率を現状のままとし、定住増加だけで人口安定化を達成させた場合の人口推移を検討していく。

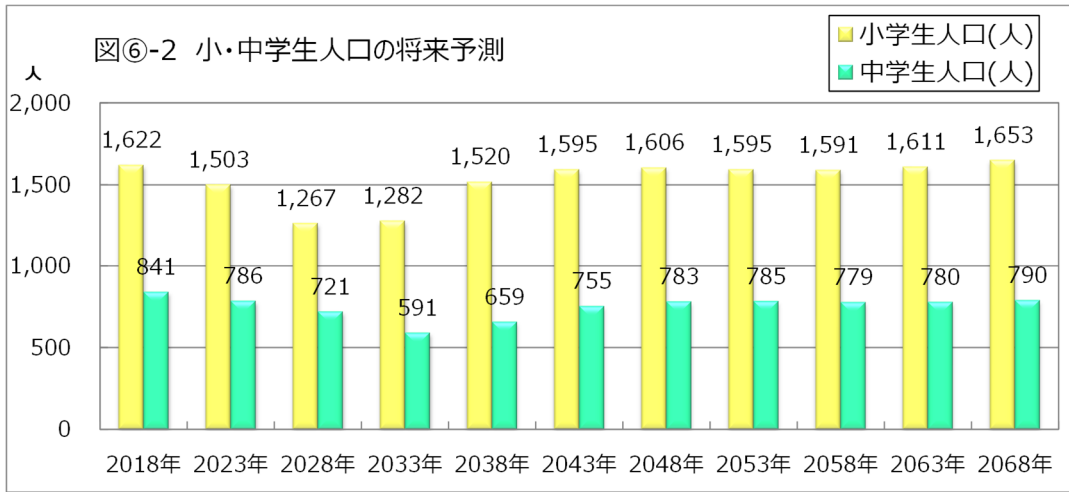
\*安定化定住増加組数：毎年各世代 48.1 組（144 世帯 337 人）＝ 現在人口の約 1.0%

#### (1) 人口と高齢化率予測



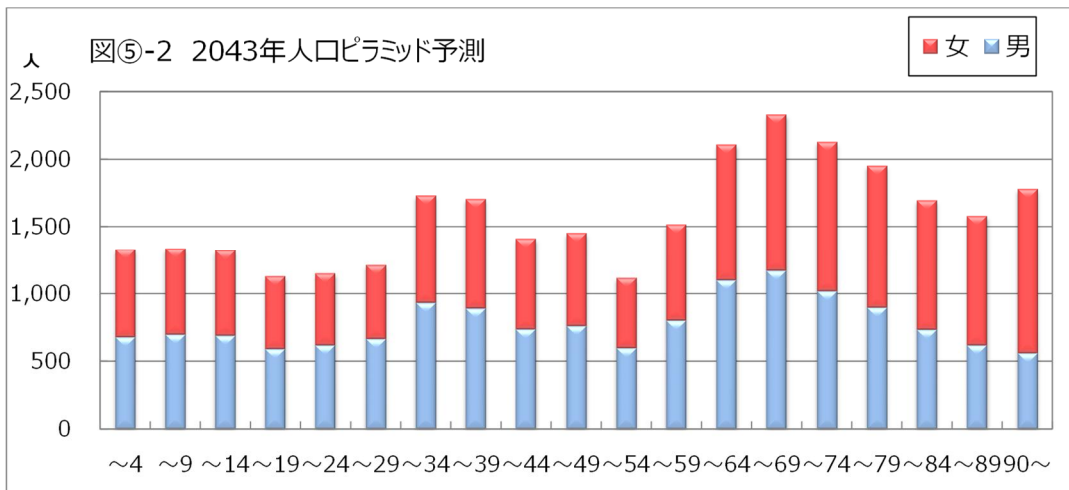
人口総数、高齢化率ともに、長期にわたる安定化が達成される。

(2) 小・中学生数予測



小・中学生数においては、2028年頃までは減少傾向にあるものの、その後は増加傾向にあり、約1,600人で安定化が達成される。

(3) 20年後の年代別人口構成グラフ



50代後半未満の人口の厚みが回復し、安定した人口の再生産が展望できる。

## 4. 組み合わせ最適シナリオ

組み合わせ最適シナリオとしては【出生率・流出率・定住増加】という3つパラメータを組み合わせる目標が最適であると考えます。まずは、【出生率・10代後半の流出率】を改善させ、その上で、過去の若年層の人口流出を補うように3世代バランスのとれた定住増加させるというのが望ましい。

○組み合わせを【出生率・10代後半の流出率・定住増加】とした理由

地域の人口変化は、自然動態の「出生」「死亡」、社会動態の「流入」「流出」の4つによって決まる。従って、人口減少に歯止めをかける場合、自然動態の「出生」を増やすか、社会動態の「流出」を減らすか、「流入」を増やすか、といういずれか（又は複数）の対策が必要となる。この考え方の下、組み合わせ最適シナリオとして以下の3条件を設定した。

- ・出生率 = 自然動態の「出生」増加
- ・10代後半の流出率 = 社会動態の「流出」減少
  - ※「流出」の減少を10代後半に代表しているのは、大田市のような中山間地域では10代後半の流出率が最も大きく、この世代を取り戻すことが地域人口に最も貢献しうると考えているためである。
- ・定住増加 = 社会動態の「流入」増加

【出生率・10代後半の流出率・定住増加】の3つを組み合わせる最適シナリオの目標値と、シミュレーション結果を以下に示す。

なお、出生率は大田市の目標出生率である2.29と設定した（H27.10大田市人口ビジョンより）。

出生率：2.29（段階的に上昇）

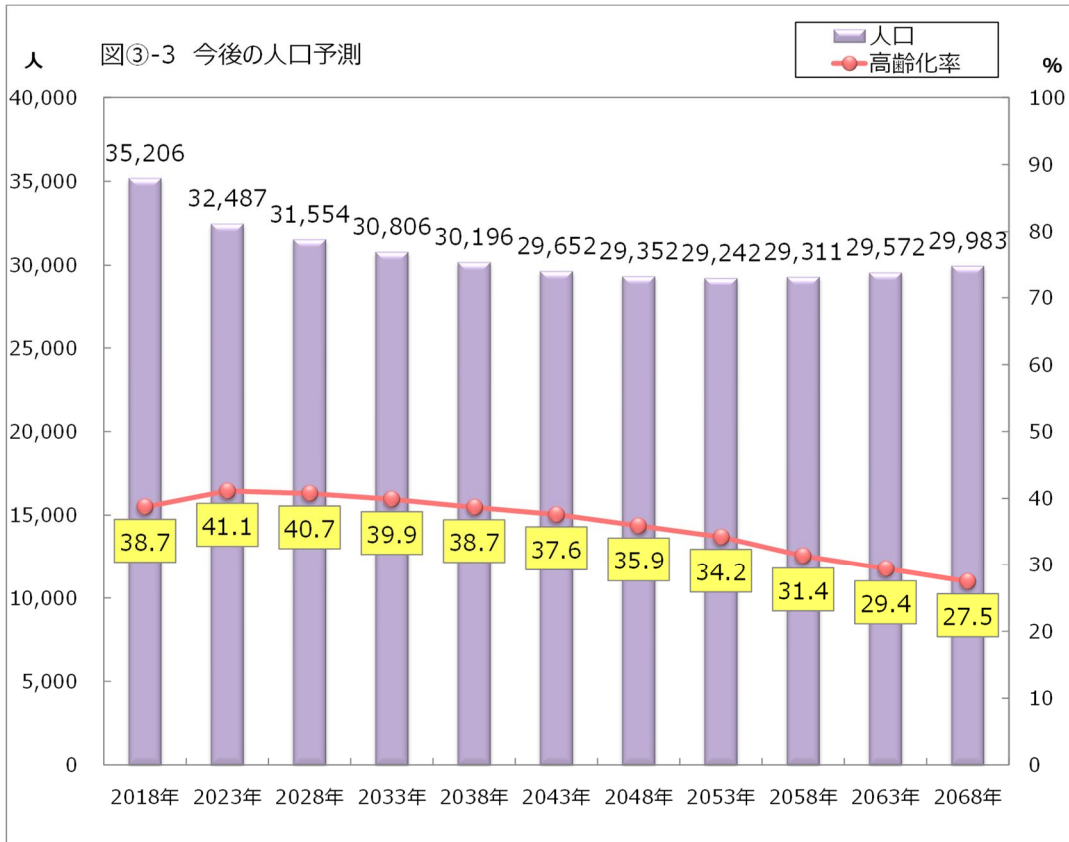
	合計特殊出生率
2023年	1.75
2028年	1.89
2033年	2.02
2038年	2.16
2043年	2.29
2048年～	2.29

流出率：10代後半の流出を半減

安定化定住組数：毎年36.4組（109世帯255人）現在人口の約0.8%

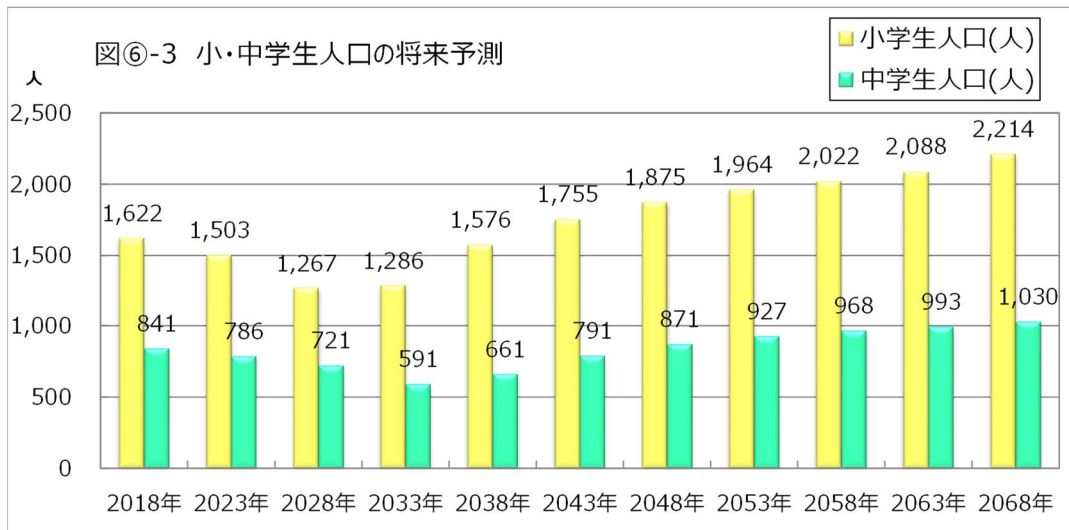
出生率・10代後半流出率の改善との「合わせ技」効果で、前述の「3.U&Iターン増加シナリオ」より少ない定住増加で十分となる。

(1) 人口と高齢化予測



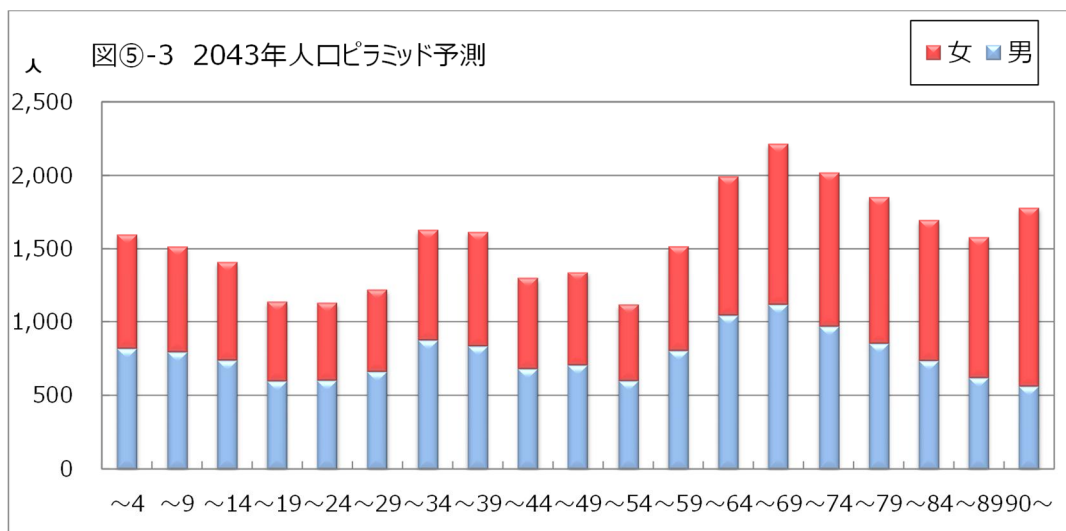
人口総数、高齢化率とも、長期にわたる安定化が達成される。

(2) 小・中学生数予測



小・中学生数においては、2028年頃までは減少傾向にあるものの、その後は増加傾向にあり安定化が達成される。

(3) 20年後の年代別人口構成グラフ



50代後半未満の人口の厚みが回復し、安定した人口の再生産が展望できる。

### Ⅲ まちづくりセンター単位編

大田市全体の人口推計だけでなく、更に小さな地域で見ることも重要である。地域毎の実情・課題・可能性に応じた現状分析・人口推計をすることで、より具体的な地域活性化策を提示することができるだろう。

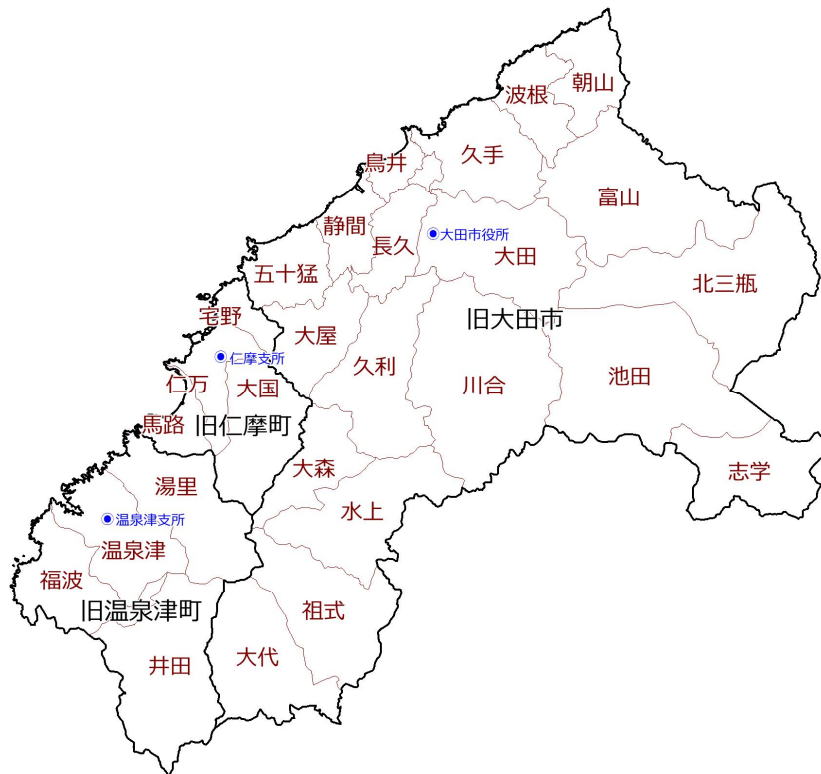
大田市を27のまちづくりセンターの管轄ごとに分割し、まちづくりセンター単位毎に現状分析・パターン別人口推計シミュレーションを行った。

大田市まちづくりセンター単位のような母集団（人口）の小さな地域の推計では、補正は実施しているものの、変動が大きく表われて非現実的な推計結果が算出される場合がある。だが、非現実的な推計結果となった場合でも、基本に則り算出されていることが重要であると考えため、定義している以外の補正は実施せずに算出している。

地域毎のデータは一覧表及び、地図で表示する。

<参考>

大田市まちづくりセンター単位名称マップ



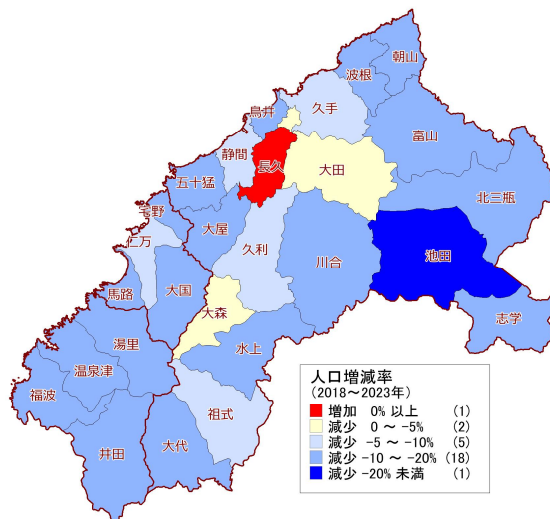
※境界はイメージであり、実際の地域における厳密な境界を示すものではない。

## 1. 現状分析（2018～2023年）

27のまちづくりセンター単位毎に、過去5年間（2018～2023年間）の人口動態の推移を検討していく。

### （1）人口増減数・増減率

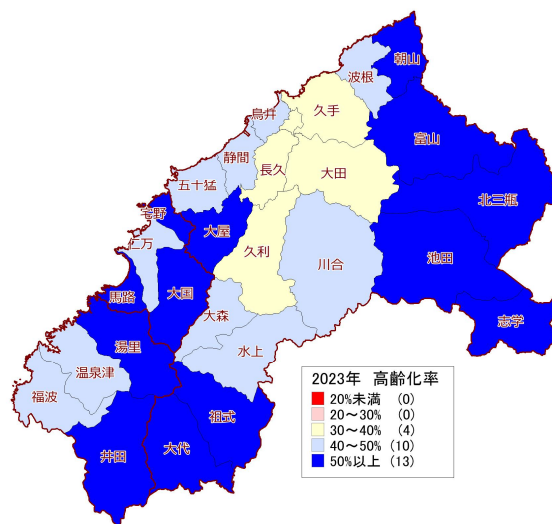
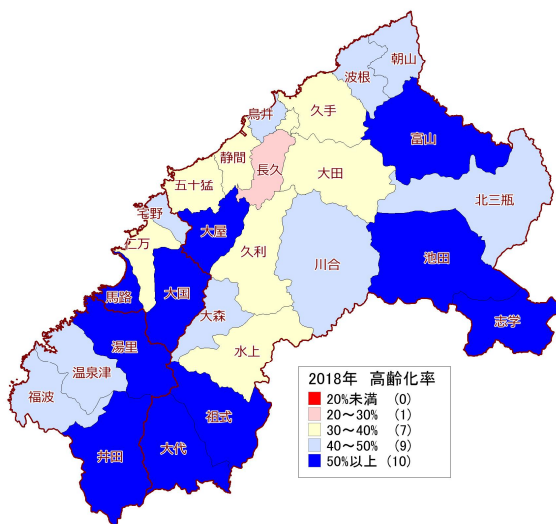
地域名	2018年 人口総数	2023年 人口総数	増減数	増減率
大田	8,304	8,102	-202	-2.4%
川合	1,795	1,578	-217	-12.1%
池田	809	619	-190	-23.5%
志学	559	484	-75	-13.4%
北三瓶	501	445	-56	-11.2%
富山	513	417	-96	-18.7%
朝山	489	435	-54	-11.0%
波根	1,270	1,139	-131	-10.3%
久手	4,070	3,826	-244	-6.0%
鳥井	1,191	1,064	-127	-10.7%
長久	3,009	3,029	20	0.7%
静間	1,354	1,249	-105	-7.8%
五十猛	1,336	1,165	-171	-12.8%
大屋	344	276	-68	-19.8%
久利	1,337	1,260	-77	-5.8%
大森	403	401	-2	-0.5%
水上	496	431	-65	-13.1%
祖式	322	295	-27	-8.4%
大代	349	300	-49	-14.0%
湯里	532	453	-79	-14.8%
温泉津	1,119	958	-161	-14.4%
井田	563	482	-81	-14.4%
福波	646	574	-72	-11.1%
仁万	2,475	2,261	-214	-8.6%
宅野	529	449	-80	-15.1%
大國	381	342	-39	-10.2%
馬路	510	453	-57	-11.2%
合計	35,206	32,487	-2,719	-7.7%



長久地区を除くほとんどの地域で人口は減少傾向にあり、5年間で10%以上減少している地域が27分の19地域も存在する。

## (2) 高齢化率

地域名	2018年 高齢化率	2023年 高齢化率	比率 増減	増減率	2018年 高齢者数	2023年 高齢者数	増減数
大田	31.3%	32.4%	1.2%	1.2%	2,598	2,628	30
川合	45.3%	48.1%	2.8%	-6.8%	814	759	-55
池田	52.0%	52.2%	0.1%	-23.3%	421	323	-98
志学	52.1%	55.6%	3.5%	-7.6%	291	269	-22
北三瓶	46.7%	50.8%	4.1%	-3.4%	234	226	-8
富山	52.8%	54.7%	1.8%	-15.9%	271	228	-43
朝山	46.8%	54.5%	7.7%	3.5%	229	237	8
波根	42.0%	42.8%	0.9%	-8.4%	533	488	-45
久手	35.1%	38.4%	3.3%	2.7%	1,430	1,469	39
鳥井	40.1%	42.1%	2.0%	-6.3%	478	448	-30
長久	28.3%	33.4%	5.1%	18.8%	853	1,013	160
静間	38.0%	40.2%	2.2%	-2.3%	514	502	-12
五十猛	39.7%	45.2%	5.6%	-0.6%	530	527	-3
大屋	54.4%	62.7%	8.3%	-7.5%	187	173	-14
久利	36.6%	39.9%	3.3%	2.7%	490	503	13
大森	41.9%	40.4%	-1.5%	-4.1%	169	162	-7
水上	39.3%	43.4%	4.1%	-4.1%	195	187	-8
祖式	53.1%	54.9%	1.8%	-5.3%	171	162	-9
大代	55.3%	57.7%	2.4%	-10.4%	193	173	-20
湯里	52.4%	55.2%	2.7%	-10.4%	279	250	-29
温泉津	43.6%	45.9%	2.3%	-9.8%	488	440	-48
井田	53.6%	59.1%	5.5%	-5.6%	302	285	-17
福波	46.9%	49.7%	2.7%	-5.9%	303	285	-18
仁万	37.1%	40.3%	3.2%	-0.9%	919	911	-8
宅野	48.4%	53.5%	5.1%	-6.3%	256	240	-16
大国	52.8%	59.1%	6.3%	0.5%	201	202	1
馬路	55.7%	59.8%	4.1%	-4.6%	284	271	-13
合計	38.7%	41.1%	2.4%	-2.0%	13,633	13,361	-272

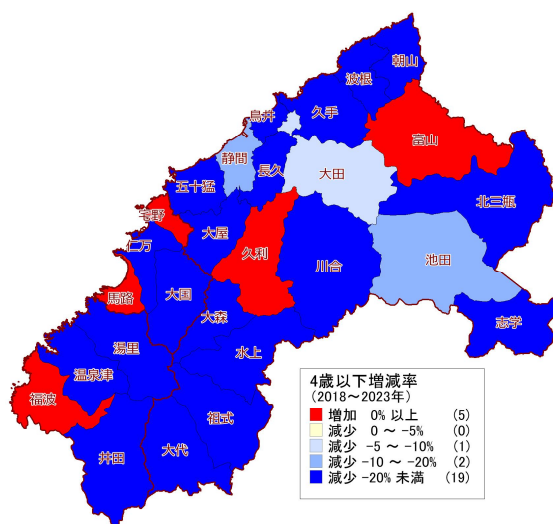


高齢化率は27分の26地域で上昇、市全体で約2.4%上昇しているが、高齢者数は27分の21地域で減少している。高齢者数の減少が始まっている地域では、高齢者人口のピーク又は、ピークを越えている可能性が高いことを意味し、自然減数が増えることで人口減少に拍車がかかると予測される。また、高齢者数が減少しているにもかかわらず高齢化率が上昇しているのは、高齢者の減少（主に自然減）以上に、若年層での流出が大きいためである。



(3) 4歳以下幼児数・増減率

地域名	2018年 4歳以下 幼児率	2023年 4歳以下 幼児率	増減率	2018年 4歳以下 幼児数	2023年 4歳以下 幼児数	増減数
大田	4.3%	4.2%	-5.8%	359	338	-21
川合	2.6%	1.7%	-41.3%	46	27	-19
池田	1.2%	1.3%	-20.0%	10	8	-2
志学	2.0%	1.4%	-36.4%	11	7	-4
北三瓶	3.2%	1.3%	-62.5%	16	6	-10
富山	1.2%	1.4%	0.0%	6	6	0
朝山	1.8%	0.5%	-77.8%	9	2	-7
波根	2.4%	1.8%	-30.0%	30	21	-9
久手	3.4%	2.7%	-23.9%	138	105	-33
鳥井	3.5%	2.1%	-47.6%	42	22	-20
長久	5.4%	4.2%	-22.2%	162	126	-36
静間	3.5%	3.3%	-14.6%	48	41	-7
五十猛	3.8%	0.9%	-80.4%	51	10	-41
大屋	0.9%	0.7%	-33.3%	3	2	-1
久利	2.8%	3.6%	18.4%	38	45	7
大森	7.4%	4.7%	-36.7%	30	19	-11
水上	2.0%	1.6%	-30.0%	10	7	-3
祖式	2.8%	1.0%	-66.7%	9	3	-6
大代	1.4%	1.0%	-40.0%	5	3	-2
湯里	1.7%	1.5%	-22.2%	9	7	-2
温泉津	2.1%	1.8%	-29.2%	24	17	-7
井田	1.2%	0.4%	-71.4%	7	2	-5
福波	2.3%	2.6%	0.0%	15	15	0
仁万	3.3%	2.7%	-25.9%	81	60	-21
宅野	1.3%	1.8%	14.3%	7	8	1
大国	2.4%	0.3%	-88.9%	9	1	-8
馬路	1.2%	2.2%	66.7%	6	10	4
合計	3.4%	2.8%	-22.3%	1,181	918	-263



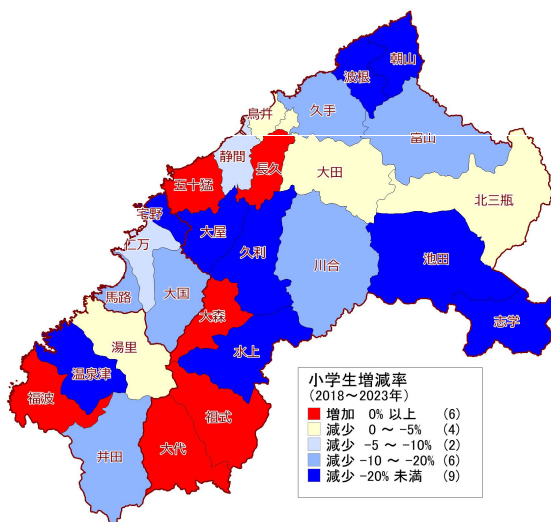
市全体では過去5年間で約2.2割も減少しており、地域別に見ても、27分の22地域で減少している。一方で、久利地区、宅野地区及び馬路地区においては、わずかではあるが、増加した地域もある。

#### (4) 小学生数・増減率

小学生数は5～14歳男女人口に3/5を乗じて算出した(小学生は7～12歳と仮定)。

なお、下記表の小学生数は、小数点以下を四捨五入して表記しているため、各年の小学生数と、5年間増減数が一致しない場合がある。

地域名	2018年 小学生率	2023年 小学生率	増減率	2018年 小学生数	2023年 小学生数	増減数
大田	5.5%	5.5%	-1.8%	455	446	-8
川合	3.8%	3.6%	-17.4%	69	57	-12
池田	3.7%	2.8%	-42.0%	30	17	-13
志学	3.3%	2.9%	-25.8%	19	14	-5
北三瓶	4.1%	4.4%	-2.9%	20	20	-1
富山	1.4%	1.4%	-16.7%	7	6	-1
朝山	4.3%	3.6%	-25.7%	21	16	-5
波根	5.1%	3.8%	-33.0%	65	44	-22
久手	5.2%	4.9%	-10.5%	211	189	-22
鳥井	4.1%	4.5%	-2.4%	49	48	-1
長久	5.3%	5.7%	8.6%	160	174	14
静間	5.1%	5.2%	-5.3%	68	65	-4
五十猛	4.0%	5.0%	11.4%	53	59	6
大屋	2.1%	1.3%	-50.0%	7	4	-4
久利	5.7%	4.7%	-22.2%	76	59	-17
大森	3.7%	6.3%	68.0%	15	25	10
水上	4.2%	3.1%	-37.1%	21	13	-8
祖式	4.1%	5.5%	22.7%	13	16	3
大代	2.1%	2.6%	8.3%	7	8	1
湯里	2.6%	3.0%	0.0%	14	14	0
温泉津	4.1%	3.3%	-30.3%	46	32	-14
井田	2.2%	2.1%	-19.0%	13	10	-2
福波	3.0%	4.1%	21.9%	19	23	4
仁万	5.0%	5.0%	-7.8%	123	113	-10
宅野	3.6%	2.8%	-34.4%	19	13	-7
大国	2.7%	2.5%	-17.6%	10	8	-2
馬路	2.2%	2.3%	-10.5%	11	10	-1
合計	4.6%	4.6%	-7.4%	1,622	1,503	-119



小学生人口全体は過去5年間で約0.7割も減少しているが、地域別に見ると27分の6地域(2018年小学生人口が0人の地域は除く)で維持・増加している。

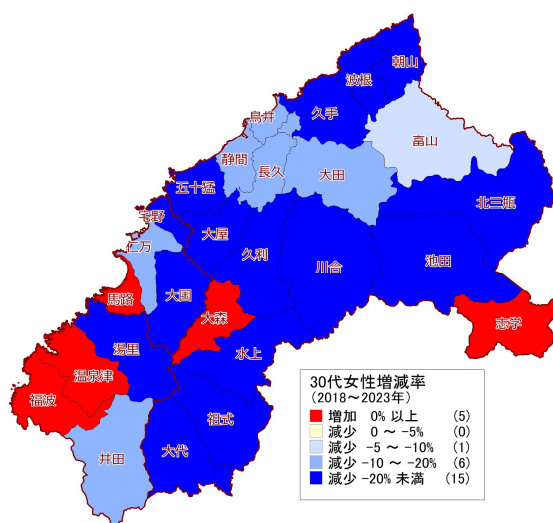
これから小学生となる4歳以下幼児数が大幅な減少傾向にあることから、現状の推移が今後も続くと、小学生人口の減少に歯止めをかけることは難しい。

## (5) 30代女性数・増減率

30代女性人口は過去5年間で約1.8割も減少しており、数にして27分の22地域(30代女性が0人だった地域は除く)で30代女性が減少している。

結婚・出産年齢女性の減少は今後の少子化に大きく影響してくるため、地域毎に取り返し対策を実施しつつ、30代女性全体としての取返しを期待したい。

地域名	2018年 30代 女性率	2023年 30代 女性率	増減率	2018年 30代 女性数	2023年 30代 女性数	増減数
大田	5.6%	4.9%	-13.6%	462	399	-63
川合	3.2%	2.9%	-20.7%	58	46	-12
池田	2.5%	2.1%	-35.0%	20	13	-7
志学	1.8%	2.7%	30.0%	10	13	3
北三瓶	3.8%	3.4%	-21.1%	19	15	-4
富山	2.1%	2.4%	-9.1%	11	10	-1
朝山	4.9%	1.8%	-66.7%	24	8	-16
波根	2.9%	2.5%	-24.3%	37	28	-9
久手	4.7%	3.9%	-22.1%	190	148	-42
鳥井	4.5%	4.2%	-16.7%	54	45	-9
長久	6.0%	5.2%	-13.3%	181	157	-24
静間	4.4%	3.9%	-16.9%	59	49	-10
五十猛	4.0%	3.4%	-24.5%	53	40	-13
大屋	2.3%	2.2%	-25.0%	8	6	-2
久利	4.3%	3.5%	-24.1%	58	44	-14
大森	4.5%	5.0%	11.1%	18	20	2
水上	2.6%	2.1%	-30.8%	13	9	-4
祖式	4.3%	3.7%	-21.4%	14	11	-3
大代	3.2%	2.3%	-36.4%	11	7	-4
湯里	2.6%	2.4%	-21.4%	14	11	-3
温泉津	3.0%	3.5%	0.0%	34	34	0
井田	2.7%	2.5%	-20.0%	15	12	-3
福波	2.0%	3.5%	53.8%	13	20	7
仁万	4.5%	3.9%	-19.8%	111	89	-22
宅野	3.4%	1.3%	-66.7%	18	6	-12
大国	2.9%	2.3%	-27.3%	11	8	-3
馬路	2.4%	2.6%	0.0%	12	12	0
合計	4.3%	3.9%	-17.5%	1,528	1,260	-268

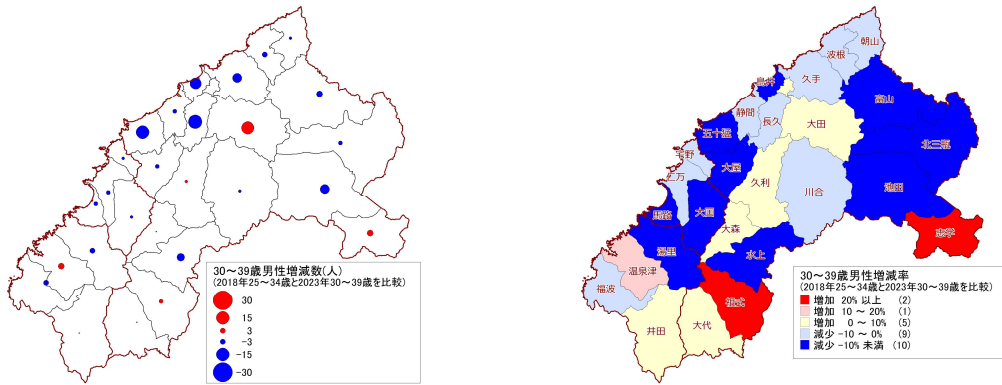


### (6) 30代男女コーホート増減数・増減率

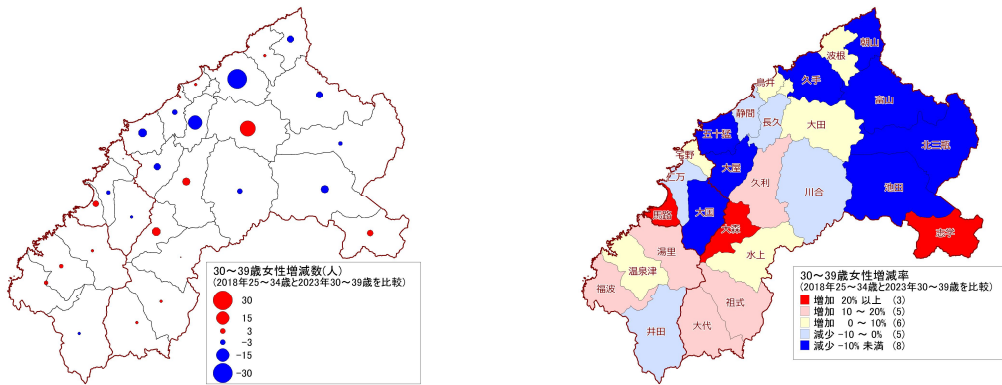
2018年と2023年の30～39歳男女の増減率ではなく、2018年25～34歳と2023年30～39歳男女で増減率を算出した。これにより、2018～2023年間での30代男女の社会増減が把握可能となる。

地域名	男性 コーホート 増減率	女性 コーホート 増減率	2018年 男25～34 歳人口数	2023年 男30～39 歳人口数	2018年 女25～34 歳人口数	2023年 女30～39 歳人口数	男性 増減数	女性 増減数
大田	3.3%	5.6%	423	437	378	399	14	21
川合	-1.9%	-6.1%	54	53	49	46	-1	-3
池田	-24.2%	-31.6%	33	25	19	13	-8	-6
志学	30.8%	44.4%	13	17	9	13	4	4
北三瓶	-18.2%	-11.8%	11	9	17	15	-2	-2
富山	-36.4%	-33.3%	11	7	15	10	-4	-5
朝山	-10.0%	-38.5%	10	9	13	8	-1	-5
波根	-8.3%	3.7%	36	33	27	28	-3	1
久手	-4.0%	-16.9%	198	190	178	148	-8	-30
鳥井	-22.6%	2.3%	53	41	44	45	-12	1
長久	-8.6%	-9.8%	186	170	174	157	-16	-17
静間	-3.4%	-5.8%	59	57	52	49	-2	-3
五十猛	-23.8%	-14.9%	63	48	47	40	-15	-7
大屋	-22.2%	-45.5%	9	7	11	6	-2	-5
久利	2.2%	15.8%	46	47	38	44	1	6
大森	0.0%	53.8%	13	13	13	20	0	7
水上	-18.8%	0.0%	32	26	9	9	-6	0
祖式	20.0%	10.0%	10	12	10	11	2	1
大代	0.0%	16.7%	8	8	6	7	0	1
湯里	-16.7%	10.0%	18	15	10	11	-3	1
温泉津	10.3%	6.3%	39	43	32	34	4	2
井田	0.0%	-7.7%	8	8	13	12	0	-1
福波	-8.1%	11.1%	37	34	18	20	-3	2
仁万	-2.1%	-2.2%	95	93	91	89	-2	-2
宅野	-6.3%	0.0%	16	15	6	6	-1	0
大国	-20.0%	-11.1%	5	4	9	8	-1	-1
馬路	-18.2%	50.0%	11	9	8	12	-2	4
合計	-4.5%	-2.8%	1,497	1,430	1,296	1,260	-67	-36

ア) 男性増減数・増減率



イ) 女性増減数・増減率



大田市全体では男女とも減少傾向にあり、地域別に見ても 27 分の 20 地域（25～34 歳男女が 0 人だった地域は除く）で減少している。また、女性より男性の流出率の方が大きい傾向にある。

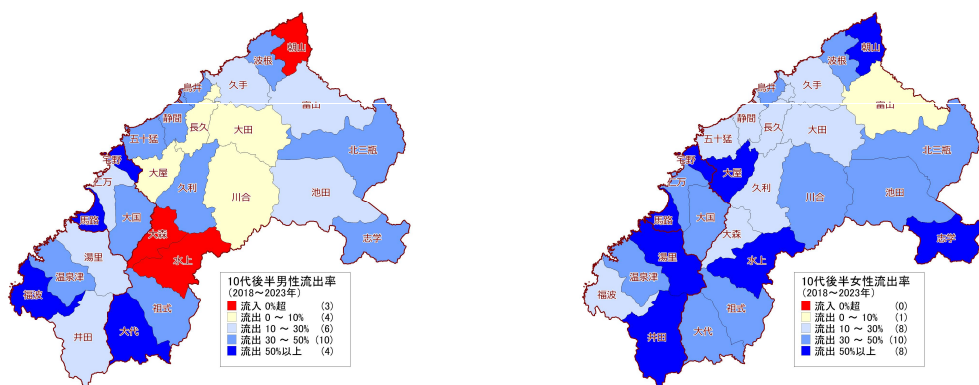
男女がともに増加している地域が 30 代夫婦の U・I ターンが増えている地域であると推測でき（男女増加地域：4 地域）、他方で男女とも減少している地域では夫婦での流出が多いと推測できる（男女減少地域：12 地域）。

(7) 10代後半男女流出数・流出率

地域名	男性 10代後 半流出率	女性 10代後 半流出率	2018年 男10代後 半人口数	2023年 男20代前 半人口数	2018年 女10代後 半人口数	2023年 女20代前 半人口数	男性 流出数	女性 流出数
大田	3.5%	17.0%	201	194	176	146	7	30
川合	0.0%	41.0%	23	23	39	23	0	16
池田	20.0%	41.7%	15	12	12	7	3	5
志学	38.5%	55.6%	13	8	9	4	5	5
北三瓶	45.5%	33.3%	11	6	9	6	5	3
富山	11.1%	0.0%	9	8	6	6	1	0
朝山	-16.7%	58.3%	6	7	12	5	-1	7
波根	41.2%	36.4%	34	20	33	21	14	12
久手	12.3%	15.5%	106	93	84	71	13	13
烏井	40.0%	30.0%	25	15	20	14	10	6
長久	1.7%	13.8%	59	58	80	69	1	11
静間	38.1%	25.0%	21	13	20	15	8	5
五十猛	36.8%	27.3%	19	12	22	16	7	6
大屋	0.0%	71.4%	2	2	7	2	0	5
久利	34.5%	11.5%	29	19	26	23	10	3
大森	-100.0%	28.6%	2	4	7	5	-2	2
水上	-9.1%	50.0%	11	12	12	6	-1	6
祖式	40.0%	33.3%	5	3	3	2	2	1
大代	50.0%	40.0%	2	1	5	3	1	2
湯里	25.0%	83.3%	4	3	6	1	1	5
温泉津	40.0%	30.0%	15	9	30	21	6	9
井田	25.0%	72.7%	8	6	11	3	2	8
福波	66.7%	12.5%	9	3	8	7	6	1
仁万	21.7%	43.4%	60	47	53	30	13	23
宅野	63.6%	53.8%	11	4	13	6	7	7
大国	33.3%	33.3%	3	2	6	4	1	2
馬路	75.0%	55.6%	4	1	9	4	3	5
合計	17.3%	27.6%	707	585	718	520	122	198

ア) 男性流出率

イ) 女性流出率



10代後半（主に高校卒業後）人口は、ほとんどの地域で流出超過していることが分かる。30代コーホート増減とは逆の傾向となっており、男性より女性の流出率の方が高い。

## (8) 出生率

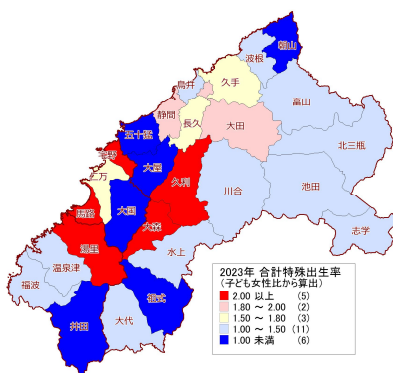
ここでの【出生率】は、現状の社会移動を含む【子ども女性比（0～4歳／20～39歳女性）】を変換して算出したもので、一般的な【「期間」合計特殊出生率】とは異なる。ただし、【「期間」合計特殊出生率】と【子ども女性比】は高い相関関係にあるため、値は近似し、むしろ社会移動を含めているため、より実効性が高いとも言える。

【子ども女性比】から【合計特殊出生率】の変換式：

$$\text{合計特殊出生率} = (\text{2023年 0～4歳} / \text{2023年 20～39歳女性}) \times 4$$

地域名	出生率	2023年 女20～39 歳人口数	2023年 4歳以下 人口数	子ども 女性比
大田	1.91	709	338	0.48
川合	1.30	83	27	0.33
池田	1.23	26	8	0.31
志学	1.27	22	7	0.32
北三瓶	1.00	24	6	0.25
富山	1.14	21	6	0.29
朝山	0.50	16	2	0.13
波根	1.47	57	21	0.37
久手	1.52	276	105	0.38
鳥井	1.19	74	22	0.30
長久	1.66	303	126	0.42
静間	1.95	84	41	0.49
五十猛	0.61	66	10	0.15
大屋	0.89	9	2	0.22
久利	2.20	82	45	0.55
大森	2.11	36	19	0.53
水上	1.22	23	7	0.30
祖式	0.86	14	3	0.21
大代	1.09	11	3	0.27
湯里	2.00	14	7	0.50
温泉津	1.08	63	17	0.27
井田	0.47	17	2	0.12
福波	1.43	42	15	0.36
仁万	1.61	149	60	0.40
宅野	2.13	15	8	0.53
大国	0.31	13	1	0.08
馬路	2.00	20	10	0.50
合計	1.62	2,269	918	0.40

大田市2014～2018年平均合計特殊出生率は【1.62】(27地区平均値より)



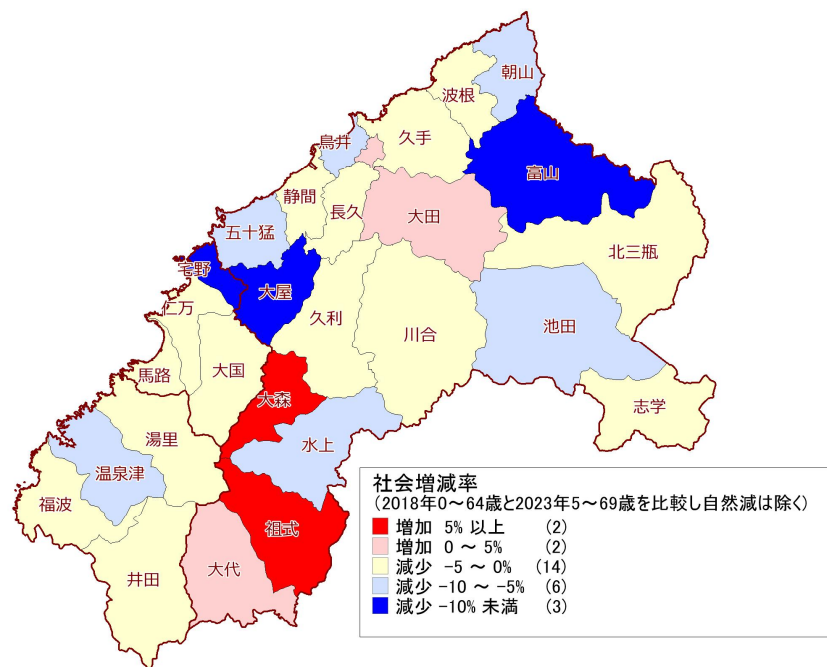
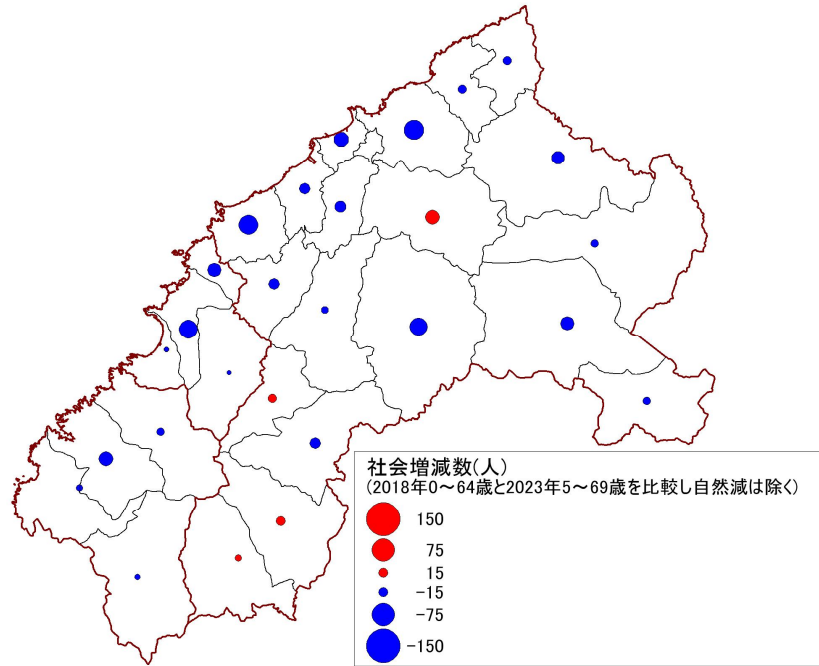
取得時点による誤差・母数が小さいことによるバラツキはあるが、27分の19地域(20～39歳女性人口が0人の地域は除く)で、2014～2018年の大田市平均合計特殊出生率より低い値となった。これは実際の出生数が少ないというよりも、出産後数年の間に地域外に移動(引越し)しているため、子ども女性比(0～4歳／20～39歳女性)の値が小さくなっていると推測される。子ども女性比の小さな地域では出産後夫婦の定着も大きな課題であると考えられる。また逆に、子ども女性比変換後の出生率が高い地域においては4歳以下子連れ世帯の移住が比較的多いと考えられる。

### (9) 社会増減数・増減率

2018～2023年0～64歳の自然減数（死亡者数）を、生残率データから予め算出しておき、2018年0～64歳人口から自然減数を除算したものと、2023年5～69歳で増減率を算出した。2018～2023年での自然減数を除くことで、より実態に近い社会増減が把握可能となる。

地域名	社会増減率	2018年0～64歳人口数(自然減除)	2023年5～69歳人口数	社会増減数
大田	0.6%	5,651	5,682	31
川合	-4.9%	970	922	-48
池田	-7.8%	383	353	-30
志学	-4.4%	265	253	-12
北三瓶	-4.1%	264	253	-11
富山	-11.6%	239	211	-28
朝山	-5.5%	257	243	-14
波根	-1.8%	729	716	-13
久手	-2.2%	2,613	2,556	-57
鳥井	-5.2%	705	669	-36
長久	-1.1%	2,136	2,113	-23
静間	-2.2%	831	812	-19
五十猛	-7.0%	796	740	-56
大屋	-13.3%	155	134	-21
久利	-1.2%	837	827	-10
大森	5.7%	232	245	13
水上	-6.8%	297	277	-20
祖式	10.0%	149	164	15
大代	4.9%	153	161	8
湯里	-4.2%	250	239	-11
温泉津	-5.4%	623	590	-33
井田	-2.6%	257	250	-7
福波	-2.5%	338	330	-8
仁万	-3.3%	1,539	1,488	-51
宅野	-11.0%	270	240	-30
大国	-1.9%	177	174	-3
馬路	-2.4%	222	217	-5
合計	-2.2%	21,338	20,859	-479





27分の23地域で社会減少しているという結果となった。  
 社会増加している地域では4歳以下増加率、小学生増加率、出生率も高い傾向にあることから、子連れ世帯の影響が大きいと予測される。  
 上記も踏まえ、多くの地域に共通する人口減少の最も大きな要因は、若年世代の流出であり、特に20・30代における流出超過が大きく影響していると予測される。

(10) コーホート変化率一覧

地域名	性別	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳
大田	男	0.91	1.03	1.04	0.98	0.97	1.16	1.09	0.99	1.02	0.98	0.96	1.00	0.93	0.91	0.92	0.85
	女	0.98	1.01	1.02	0.90	0.83	1.17	1.08	1.04	0.95	1.00	1.01	1.00	0.98	0.99	0.96	0.93
川合	男	0.71	0.88	0.91	1.03	1.00	0.67	1.00	0.97	0.95	1.07	0.95	0.82	1.00	0.98	0.94	0.84
	女	0.52	0.93	1.09	0.96	0.59	0.54	1.00	0.89	1.10	0.98	1.04	0.98	0.98	0.99	0.99	0.95
池田	男	0.88	0.50	0.93	0.75	0.80	0.43	0.58	0.86	1.20	1.00	1.09	1.00	0.96	0.97	0.86	0.84
	女	0.50	1.00	0.91	0.69	0.58	1.20	0.56	0.80	1.10	1.06	0.96	1.05	1.00	1.00	0.98	0.86
志学	男	1.67	1.33	0.71	1.00	0.62	0.50	1.29	1.33	1.11	1.00	0.80	0.89	0.94	1.05	0.88	0.81
	女	0.25	1.00	1.00	1.00	0.44	1.00	1.40	1.50	1.00	0.92	0.89	0.83	1.06	0.96	0.97	0.84
北三瓶	男	0.75	1.50	1.29	0.38	0.55	0.60	1.25	0.57	1.27	1.08	0.88	0.86	1.12	1.00	0.96	1.00
	女	0.25	0.83	1.60	1.00	0.67	1.00	1.13	0.67	1.00	0.92	0.83	1.08	1.25	1.00	1.04	0.96
富山	男	0.60	0.60	1.00	1.00	0.89	0.70	0.86	0.95	1.00	0.89	0.93	0.92	0.97	0.89	1.04	0.90
	女	3.00	3.00	1.00	0.33	1.00	0.50	0.50	0.86	1.75	0.75	1.00	1.07	0.89	0.92	0.95	0.95
朝山	男	0.50	1.00	1.00	0.89	1.17	0.67	1.75	0.33	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.06	0.90	0.96
	女	0.00	1.00	1.00	1.00	0.42	0.38	0.75	0.56	1.00	1.13	1.00	0.93	0.92	1.07	1.05	0.91
波根	男	0.43	1.10	0.96	1.05	0.59	1.00	0.77	1.14	1.11	0.97	1.13	0.93	1.10	0.95	0.83	0.83
	女	1.33	1.00	1.00	0.97	0.64	0.53	1.00	1.07	1.13	0.91	1.10	1.03	1.07	1.02	1.00	0.92
久手	男	0.75	1.07	1.00	0.99	0.88	0.96	1.01	0.92	1.00	1.02	1.00	1.05	0.96	1.00	0.92	0.92
	女	0.77	0.91	1.01	0.93	0.85	0.78	0.87	0.80	1.09	1.02	0.99	0.98	0.99	0.99	0.96	0.92
鳥井	男	0.78	0.94	1.05	0.92	0.60	0.69	0.59	0.90	1.17	0.97	1.04	0.98	1.07	1.03	0.90	0.73
	女	0.33	0.92	1.13	0.89	0.70	0.52	0.81	1.14	0.96	1.00	1.00	1.09	1.02	0.93	0.98	1.02
長久	男	0.75	1.04	1.00	0.81	0.98	1.39	0.96	0.87	1.06	0.95	1.04	1.00	0.96	1.03	0.95	0.94
	女	0.81	0.91	0.95	0.97	0.86	1.33	0.86	0.94	0.92	0.98	0.94	0.92	0.99	1.03	0.98	0.98
静間	男	0.71	1.00	0.90	0.76	0.62	0.92	0.89	1.03	1.06	1.06	0.96	0.94	1.04	0.96	0.95	0.85
	女	1.05	1.00	0.96	1.11	0.75	0.91	1.00	0.89	0.84	1.08	1.00	0.98	1.10	1.02	1.01	0.93
五十猛	男	0.25	1.09	1.03	0.89	0.63	0.62	0.68	0.82	0.98	1.07	1.00	0.96	0.96	0.95	0.94	0.90
	女	0.11	0.74	0.89	0.90	0.73	0.71	0.78	0.92	1.03	1.05	1.03	0.94	0.96	0.94	0.96	0.98
大屋	男	0.33	0.67	0.75	1.00	1.00	0.71	0.33	1.00	1.00	0.88	0.80	1.00	0.88	1.00	0.89	0.85
	女	0.00	1.00	0.50	1.00	0.72	2.00	0.57	0.50	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.80	0.95	0.79
久利	男	1.33	1.60	0.96	0.86	0.66	0.68	1.07	1.00	1.06	0.89	1.00	1.03	1.00	1.06	0.91	0.92
	女	1.09	1.22	1.00	0.86	0.88	0.75	1.40	1.00	1.11	0.88	1.03	0.98	0.94	0.95	1.00	0.88
大森	男	0.50	0.88	1.00	1.11	2.00	0.83	1.00	1.00	1.00	1.13	1.00	1.00	1.00	1.07	1.10	0.95
	女	0.79	1.14	1.00	0.75	0.71	0.85	1.60	1.50	1.40	1.10	1.11	1.00	0.86	1.00	1.00	0.92
水上	男	0.57	0.71	1.00	1.00	1.09	1.25	0.63	1.00	0.90	0.80	1.10	1.00	1.00	0.95	0.95	0.86
	女	1.00	0.67	1.00	0.64	0.50	0.62	0.60	1.50	1.11	1.00	1.08	1.00	1.00	0.95	0.76	1.00
祖式	男	1.00	1.00	1.17	0.71	0.60	1.00	1.25	1.17	1.11	0.83	1.33	1.20	1.40	1.07	0.95	0.85
	女	0.14	1.43	1.00	3.00	0.67	0.50	1.00	1.13	1.67	1.00	1.00	1.17	1.14	0.95	0.93	1.00
大代	男	0.00	1.50	1.33	1.00	0.50	0.67	0.50	1.50	1.13	2.00	1.20	1.25	1.05	1.06	0.82	0.95
	女	1.00	1.00	1.00	1.25	0.60	0.33	0.50	1.40	1.17	0.83	1.00	1.17	1.10	1.00	1.00	0.96
湯里	男	1.33	0.33	1.00	1.75	0.75	0.30	0.67	0.87	1.00	0.75	0.93	1.15	1.16	1.00	0.89	0.73
	女	0.50	1.00	1.14	0.75	0.72	0.89	1.67	0.86	1.00	1.38	1.00	1.06	1.00	1.05	0.93	1.00
温泉津	男	0.67	0.75	0.88	1.00	0.60	0.44	1.24	1.00	1.05	1.08	0.97	0.96	1.00	0.93	0.96	0.79
	女	0.75	0.58	1.00	0.94	0.70	0.44	1.20	0.94	1.06	1.04	1.00	1.03	0.89	1.07	0.97	0.93
井田	男	0.50	1.25	1.00	1.00	0.75	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.06	1.00	1.15	0.94	0.97	0.81
	女	0.00	1.00	1.00	0.83	0.72	1.00	1.00	0.88	0.86	0.86	1.00	0.92	1.06	0.96	1.03	0.94
福波	男	0.60	1.10	1.27	0.75	0.33	0.67	1.00	0.84	1.29	1.00	0.75	1.06	0.88	0.94	0.91	0.90
	女	1.80	1.00	1.13	0.80	0.88	1.67	1.22	1.00	1.25	0.82	0.93	0.88	0.96	1.04	0.97	0.89
仁万	男	0.82	1.10	1.06	0.90	0.78	0.72	0.89	1.06	0.97	0.95	1.02	0.98	0.92	1.02	0.97	0.90
	女	0.67	1.05	1.04	1.02	0.57	0.91	0.84	1.08	0.90	1.02	1.03	0.99	0.96	0.98	0.99	1.00
宅野	男	1.33	1.33	0.90	0.89	0.36	0.91	0.63	1.25	0.83	1.00	1.00	0.94	1.06	1.06	1.04	0.87
	女	1.00	0.75	1.00	0.63	0.46	0.50	1.50	0.75	0.86	0.83	0.94	1.00	1.09	1.05	1.04	0.93
大国	男	0.00	0.80	1.00	0.80	0.67	0.63	1.00	0.50	0.90	1.29	1.60	0.93	1.11	0.85	1.04	0.92
	女	0.25	1.00	1.50	0.86	0.67	0.33	0.50	1.00	1.25	1.00	1.14	1.00	1.25	1.06	1.00	1.00
馬路	男	1.50	0.75	0.88	1.00	0.83	0.50	0.60	1.00	1.22	1.63	0.83	1.00	1.24	0.97	1.07	0.93
	女	2.00	2.50	0.40	1.00	0.44	0.50	2.00	1.33	0.67	1.00	1.17	1.00	1.00	0.89	1.00	1.00

※0～4歳は2018・2023年間の増減率である。

## (11) 一覽表

地域名	現状分析 2018~2023年														
	(1) 人口総数				(2) 高齢化率		(3) 4歳以下幼児率・増減			(4) 小学生率・増減			(5) 30代女性率・増減		
	2018年 人口総 数	2023年 人口総 数	増減数	増減率	2018 年 高齢化 率	2023 年 高齢化 率	2018 年 4歳以 下幼児	2023 年 4歳以 下幼児	増減率	2018 年 小学生 率	2023 年 小学生 率	増減率	2018 年 30代女 性率	2023 年 30代女 性率	増減率
大田	8,304	8,102	-202	-2.4%	31.3%	32.4%	4.3%	4.2%	-5.8%	5.5%	5.5%	-1.8%	5.6%	4.9%	-13.6%
川合	1,795	1,578	-217	-12.1%	45.3%	48.1%	2.6%	1.7%	-41.3%	3.8%	3.6%	-17.4%	3.2%	2.9%	-20.7%
池田	809	619	-190	-23.5%	52.0%	52.2%	1.2%	1.3%	-20.0%	3.7%	2.8%	-42.0%	2.5%	2.1%	-35.0%
志学	559	484	-75	-13.4%	52.1%	55.6%	2.0%	1.4%	-36.4%	3.3%	2.9%	-25.8%	1.8%	2.7%	30.0%
北三瓶	501	445	-56	-11.2%	46.7%	50.8%	3.2%	1.3%	-62.5%	4.1%	4.4%	-2.9%	3.8%	3.4%	-21.1%
富山	513	417	-96	-18.7%	52.8%	54.7%	1.2%	1.4%	0.0%	1.4%	1.4%	-16.7%	2.1%	2.4%	-9.1%
朝山	489	435	-54	-11.0%	46.8%	54.5%	1.8%	0.5%	-77.8%	4.3%	3.6%	-25.7%	4.9%	1.8%	-66.7%
波根	1,270	1,139	-131	-10.3%	42.0%	42.8%	2.4%	1.8%	-30.0%	5.1%	3.8%	-33.0%	2.9%	2.5%	-24.3%
久手	4,070	3,826	-244	-6.0%	35.1%	38.4%	3.4%	2.7%	-23.9%	5.2%	4.9%	-10.5%	4.7%	3.9%	-22.1%
鳥井	1,191	1,064	-127	-10.7%	40.1%	42.1%	3.5%	2.1%	-47.6%	4.1%	4.5%	-2.4%	4.5%	4.2%	-16.7%
長久	3,009	3,029	20	0.7%	28.3%	33.4%	5.4%	4.2%	-22.2%	5.3%	5.7%	8.6%	6.0%	5.2%	-13.3%
静間	1,354	1,249	-105	-7.8%	38.0%	40.2%	3.5%	3.3%	-14.6%	5.1%	5.2%	-5.3%	4.4%	3.9%	-16.9%
五十猛	1,336	1,165	-171	-12.8%	39.7%	45.2%	3.8%	0.9%	-80.4%	4.0%	5.0%	11.4%	4.0%	3.4%	-24.5%
大屋	344	276	-68	-19.8%	54.4%	62.7%	0.9%	0.7%	-33.3%	2.1%	1.3%	-50.0%	2.3%	2.2%	-25.0%
久利	1,337	1,260	-77	-5.8%	36.6%	39.9%	2.8%	3.6%	18.4%	5.7%	4.7%	-22.2%	4.3%	3.5%	-24.1%
大森	403	401	-2	-0.5%	41.9%	40.4%	7.4%	4.7%	-36.7%	3.7%	6.3%	68.0%	4.5%	5.0%	11.1%
水上	496	431	-65	-13.1%	39.3%	43.4%	2.0%	1.6%	-30.0%	4.2%	3.1%	-37.1%	2.6%	2.1%	-30.8%
祖式	322	295	-27	-8.4%	53.1%	54.9%	2.8%	1.0%	-66.7%	4.1%	5.5%	22.7%	4.3%	3.7%	-21.4%
大代	349	300	-49	-14.0%	55.3%	57.7%	1.4%	1.0%	-40.0%	2.1%	2.6%	8.3%	3.2%	2.3%	-36.4%
湯里	532	453	-79	-14.8%	52.4%	55.2%	1.7%	1.5%	-22.2%	2.6%	3.0%	0.0%	2.6%	2.4%	-21.4%
温泉津	1,119	958	-161	-14.4%	43.6%	45.9%	2.1%	1.8%	-29.2%	4.1%	3.3%	-30.3%	3.0%	3.5%	0.0%
井田	563	482	-81	-14.4%	53.6%	59.1%	1.2%	0.4%	-71.4%	2.2%	2.1%	-19.0%	2.7%	2.5%	-20.0%
福波	646	574	-72	-11.1%	46.9%	49.7%	2.3%	2.6%	0.0%	3.0%	4.1%	21.9%	2.0%	3.5%	53.8%
仁万	2,475	2,261	-214	-8.6%	37.1%	40.3%	3.3%	2.7%	-25.9%	5.0%	5.0%	-7.8%	4.5%	3.9%	-19.8%
宅野	529	449	-80	-15.1%	48.4%	53.5%	1.3%	1.8%	14.3%	3.6%	2.8%	-34.4%	3.4%	1.3%	-66.7%
大国	381	342	-39	-10.2%	52.8%	59.1%	2.4%	0.3%	-88.9%	2.7%	2.5%	-17.6%	2.9%	2.3%	-27.3%
馬路	510	453	-57	-11.2%	55.7%	59.8%	1.2%	2.2%	66.7%	2.2%	2.3%	-10.5%	2.4%	2.6%	0.0%
合計	35,206	32,487	-2,719	-7.7%	38.7%	41.1%	3.4%	2.8%	-22.3%	4.6%	4.6%	-7.4%	4.3%	3.9%	-17.5%

地域名	現状分析 2018～2023年											
	(6) 30代コ-ホ-ト増減数・率				(7) 10代後半流出数・率				(8) 出生率	(9) 社会増減数・率		
	男性 増減数	女性 増減数	男性 増減率	女性 増減率	男性 流出数	女性 流出数	男性 流出率	女性 流出率	出生率	増減数	増減率	
大田	14	21	3.3%	5.6%	7	30	3.5%	17.0%	1.91	31	0.6%	
川合	-1	-3	-1.9%	-6.1%	0	16	0.0%	41.0%	1.30	-48	-4.9%	
池田	-8	-6	-24.2%	-31.6%	3	5	20.0%	41.7%	1.23	-30	-7.8%	
志学	4	4	30.8%	44.4%	5	5	38.5%	55.6%	1.27	-12	-4.4%	
北三瓶	-2	-2	-18.2%	-11.8%	5	3	45.5%	33.3%	1.00	-11	-4.1%	
富山	-4	-5	-36.4%	-33.3%	1	0	11.1%	0.0%	1.14	-28	-11.6%	
朝山	-1	-5	-10.0%	-38.5%	-1	7	-16.7%	58.3%	0.50	-14	-5.5%	
波根	-3	1	-8.3%	3.7%	14	12	41.2%	36.4%	1.47	-13	-1.8%	
久手	-8	-30	-4.0%	-16.9%	13	13	12.3%	15.5%	1.52	-57	-2.2%	
鳥井	-12	1	-22.6%	2.3%	10	6	40.0%	30.0%	1.19	-36	-5.2%	
長久	-16	-17	-8.6%	-9.8%	1	11	1.7%	13.8%	1.66	-23	-1.1%	
静間	-2	-3	-3.4%	-5.8%	8	5	38.1%	25.0%	1.95	-19	-2.2%	
五十猛	-15	-7	-23.8%	-14.9%	7	6	36.8%	27.3%	0.61	-56	-7.0%	
大屋	-2	-5	-22.2%	-45.5%	0	5	0.0%	71.4%	0.89	-21	-13.3%	
久利	1	6	2.2%	15.8%	10	3	34.5%	11.5%	2.20	-10	-1.2%	
大森	0	7	0.0%	53.8%	-2	2	-100.0%	28.6%	2.11	13	5.7%	
水上	-6	0	-18.8%	0.0%	-1	6	-9.1%	50.0%	1.22	-20	-6.8%	
祖式	2	1	20.0%	10.0%	2	1	40.0%	33.3%	0.86	15	10.0%	
大代	0	1	0.0%	16.7%	1	2	50.0%	40.0%	1.09	8	4.9%	
湯里	-3	1	-16.7%	10.0%	1	5	25.0%	83.3%	2.00	-11	-4.2%	
温泉津	4	2	10.3%	6.3%	6	9	40.0%	30.0%	1.08	-33	-5.4%	
井田	0	-1	0.0%	-7.7%	2	8	25.0%	72.7%	0.47	-7	-2.6%	
福波	-3	2	-8.1%	11.1%	6	1	66.7%	12.5%	1.43	-8	-2.5%	
仁万	-2	-2	-2.1%	-2.2%	13	23	21.7%	43.4%	1.61	-51	-3.3%	
宅野	-1	0	-6.3%	0.0%	7	7	63.6%	53.8%	2.13	-30	-11.0%	
大国	-1	-1	-20.0%	-11.1%	1	2	33.3%	33.3%	0.31	-3	-1.9%	
馬路	-2	4	-18.2%	50.0%	3	5	75.0%	55.6%	2.00	-5	-2.4%	
合計	-67	-36	-4.5%	-2.8%	122	198	17.3%	27.6%	1.62	-479	-2.2%	

## 2. 現状推移シナリオ

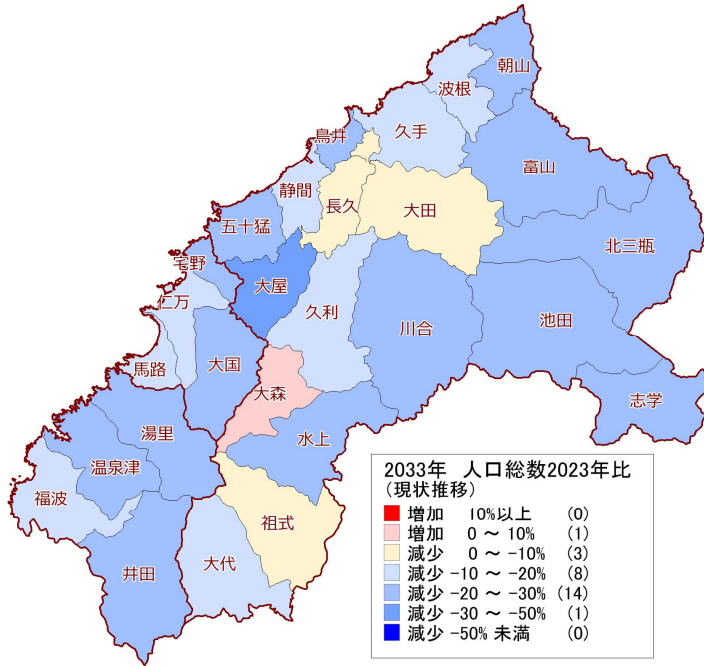
27のまちづくセンター単位毎に、過去5年間の人口動態が続いた場合の人口推移を検討していく。

### (1) 人口予測

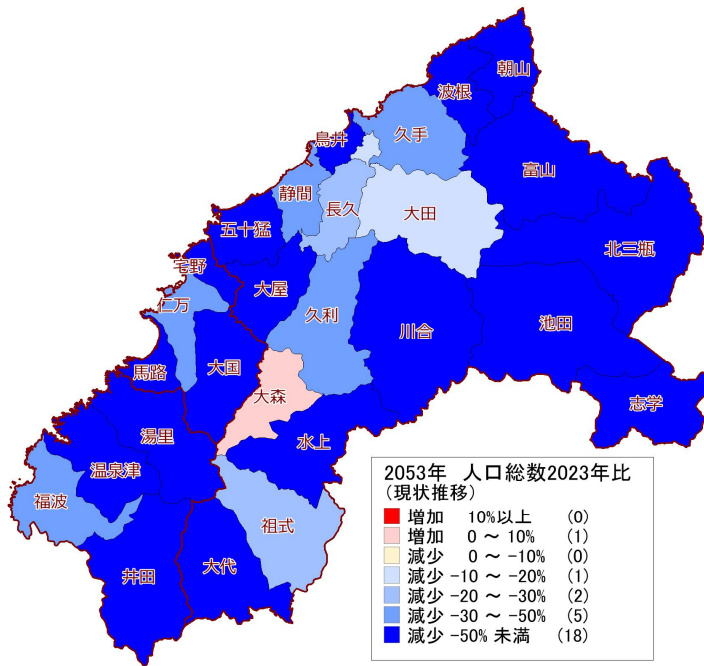
#### ア) 一覧表

地域名	人口総数				対2023年比		
	2023年	2033年	2053年	2068年	2033年	2053年	2068年
大田	8,102	7,668	6,708	6,122	-5.4%	-17.2%	-24.4%
川合	1,578	1,216	612	339	-23.0%	-61.2%	-78.5%
池田	619	452	198	91	-26.9%	-68.0%	-85.3%
志学	484	362	181	114	-25.2%	-62.6%	-76.4%
北三瓶	445	352	194	113	-20.8%	-56.4%	-74.6%
富山	417	298	118	53	-28.6%	-71.8%	-87.4%
朝山	435	323	136	62	-25.8%	-68.8%	-85.7%
波根	1,139	925	558	349	-18.8%	-51.0%	-69.4%
久手	3,826	3,281	2,143	1,485	-14.3%	-44.0%	-61.2%
鳥井	1,064	841	442	239	-21.0%	-58.4%	-77.5%
長久	3,029	2,784	2,288	1,916	-8.1%	-24.5%	-36.7%
静間	1,249	1,079	710	509	-13.6%	-43.2%	-59.3%
五十猛	1,165	891	405	206	-23.6%	-65.2%	-82.3%
大屋	276	181	57	22	-34.5%	-79.4%	-92.1%
久利	1,260	1,131	876	757	-10.2%	-30.5%	-39.9%
大森	401	427	436	455	6.5%	8.8%	13.5%
水上	431	331	170	95	-23.1%	-60.6%	-78.0%
祖式	295	278	223	193	-5.9%	-24.3%	-34.5%
大代	300	247	148	88	-17.6%	-50.5%	-70.8%
湯里	453	341	180	108	-24.8%	-60.3%	-76.1%
温泉津	958	720	368	196	-24.8%	-61.6%	-79.5%
井田	482	361	153	77	-25.2%	-68.3%	-84.0%
福波	574	475	295	249	-17.3%	-48.7%	-56.7%
仁万	2,261	1,884	1,156	746	-16.7%	-48.9%	-67.0%
宅野	449	336	159	70	-25.2%	-64.6%	-84.3%
大国	342	267	141	69	-21.9%	-58.8%	-79.8%
馬路	453	363	174	100	-19.9%	-61.7%	-77.9%
合計	32,487	27,812	19,228	14,824	-14.4%	-40.8%	-54.4%

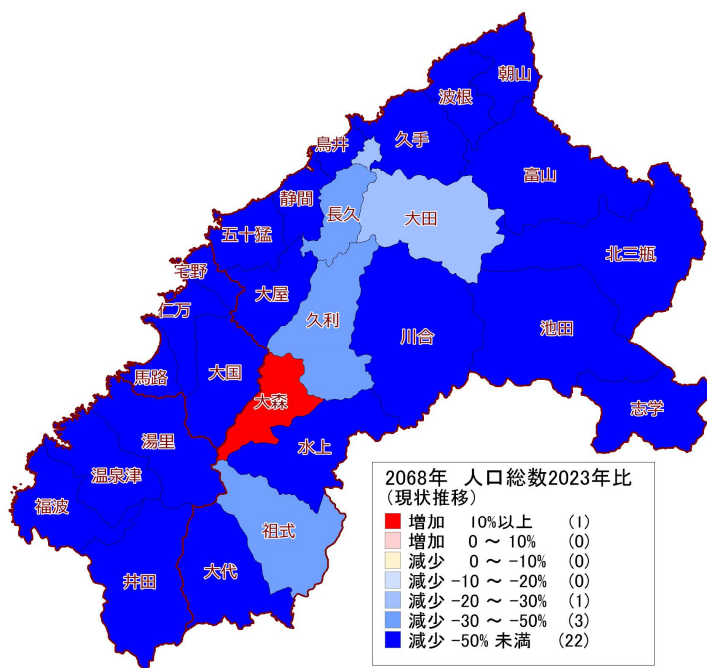
イ) 人口増減率 2033 年（対 2023 年）



ウ) 人口増減率 2053 年（対 2023 年）



エ) 人口増減率 2068 年（対 2023 年）



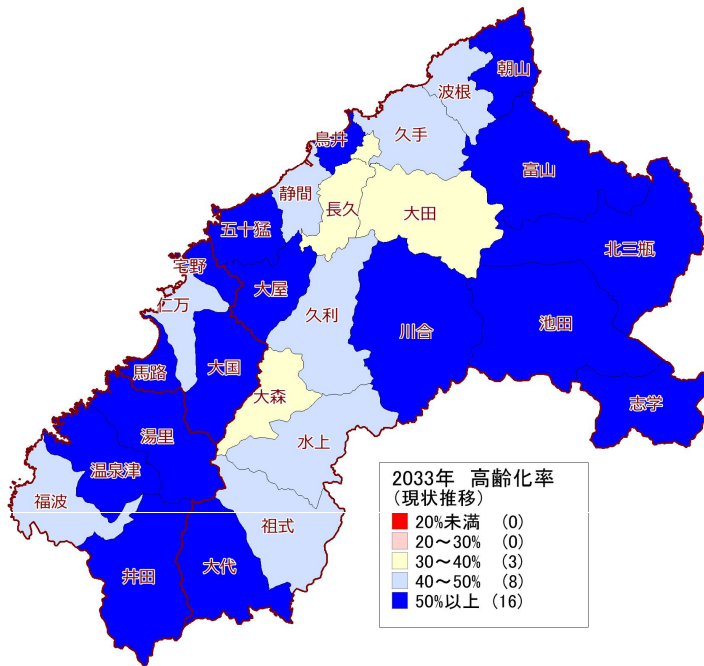
現状のまま推移すると、30年後の2053年には、27分の18地域で人口が半数未満となり、45年後の2068年には22地域で人口が半数未満（うち7地域では8割以上の減少）となる。

(2) 高齢化率予測

ア) 一覧表

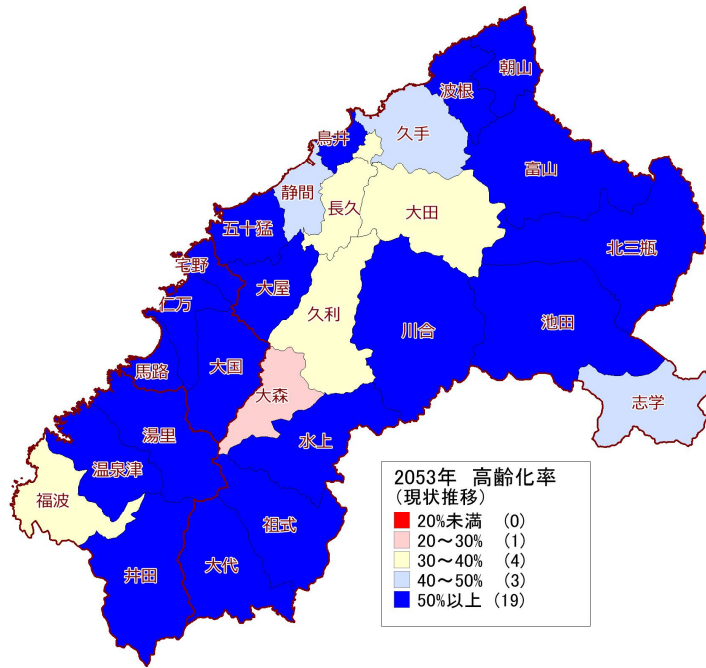
地域名	高齢化率				対2023年比率増減			高齢者数			
	2023年	2033年	2053年	2068年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年
大田	32.4%	31.9%	32.0%	29.7%	-0.5%	-0.5%	-2.7%	2,628	2,449	2,143	1,820
川合	48.1%	53.1%	62.1%	63.4%	5.0%	14.0%	15.3%	759	646	380	215
池田	52.2%	60.5%	77.4%	81.3%	8.3%	25.3%	29.1%	323	274	153	74
志学	55.6%	54.9%	44.5%	51.4%	-0.7%	-11.1%	-4.2%	269	199	81	59
北三瓶	50.8%	58.0%	59.5%	57.1%	7.2%	8.7%	6.3%	226	204	115	64
富山	54.7%	63.0%	70.1%	79.4%	8.3%	15.5%	24.7%	228	187	83	42
朝山	54.5%	59.6%	80.8%	80.3%	5.1%	26.3%	25.8%	237	192	110	50
波根	42.8%	46.6%	56.8%	60.7%	3.8%	13.9%	17.9%	488	431	317	212
久手	38.4%	41.4%	48.4%	50.0%	3.0%	10.0%	11.6%	1,469	1,357	1,038	742
鳥井	42.1%	50.8%	68.5%	72.7%	8.7%	26.4%	30.5%	448	427	303	174
長久	33.4%	33.4%	37.4%	36.3%	-0.1%	4.0%	2.9%	1,013	930	856	696
静間	40.2%	47.2%	48.8%	44.7%	7.0%	8.6%	4.5%	502	509	346	228
五十猛	45.2%	54.5%	72.7%	78.6%	9.3%	27.4%	33.3%	527	485	295	162
大屋	62.7%	66.5%	77.4%	75.5%	3.8%	14.8%	12.8%	173	120	44	16
久利	39.9%	41.3%	37.5%	28.8%	1.4%	-2.4%	-11.2%	503	468	329	218
大森	40.4%	31.4%	28.5%	32.2%	-9.0%	-11.9%	-8.2%	162	134	124	147
水上	43.4%	49.6%	58.8%	70.4%	6.2%	15.4%	27.0%	187	164	100	67
祖式	54.9%	46.0%	51.2%	44.0%	-8.9%	-3.8%	-10.9%	162	128	114	85
大代	57.7%	58.9%	75.4%	83.2%	1.3%	17.8%	25.5%	173	146	112	73
湯里	55.2%	60.3%	66.7%	51.6%	5.1%	11.5%	-3.6%	250	205	120	56
温泉津	45.9%	51.8%	65.1%	76.4%	5.8%	19.2%	30.5%	440	373	240	150
井田	59.1%	66.3%	66.2%	67.2%	7.2%	7.1%	8.0%	285	239	101	52
福波	49.7%	49.8%	36.0%	33.7%	0.1%	-13.6%	-15.9%	285	236	106	84
仁万	40.3%	45.3%	53.2%	52.0%	5.0%	12.9%	11.8%	911	854	614	388
宅野	53.5%	60.0%	79.0%	80.4%	6.6%	25.6%	27.0%	240	202	126	57
大国	59.1%	58.8%	83.8%	84.8%	-0.3%	24.8%	25.7%	202	157	118	59
馬路	59.8%	62.2%	68.4%	69.0%	2.4%	8.6%	9.1%	271	226	119	69
合計	41.1%	42.9%	44.7%	40.9%	1.8%	3.5%	-0.3%	13,361	11,941	8,587	6,057

イ) 高齢化率 2033年

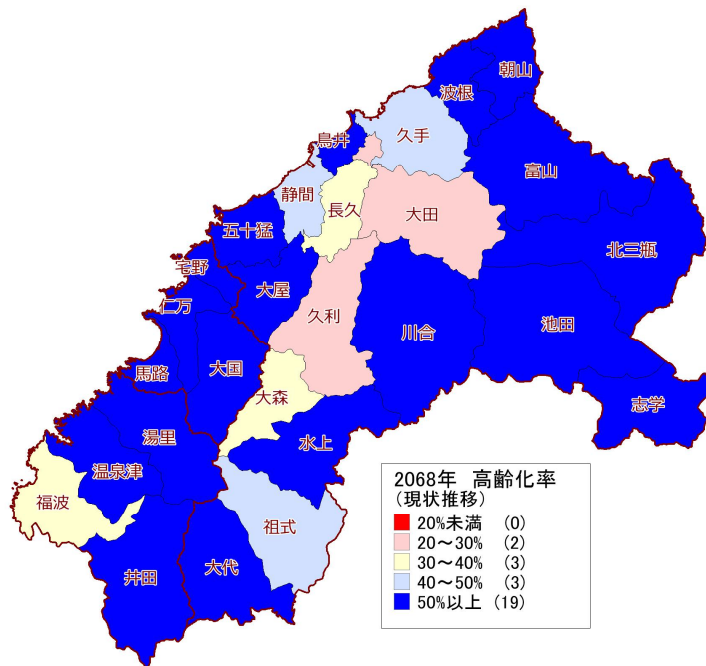




ウ) 高齢化率 2053 年



エ) 高齢化率 2068 年



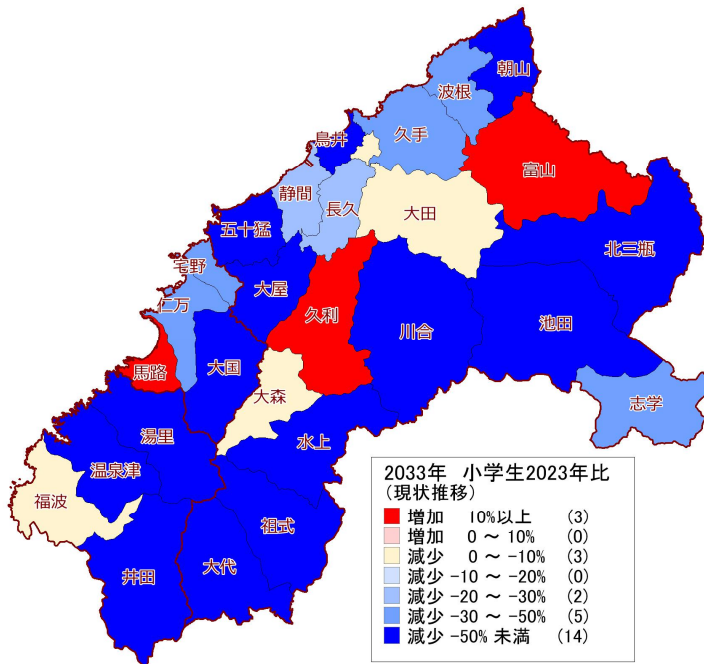
ほとんどの地域で高齢者数は現在頃をピークに右肩下がりとなるが、高齢化率は今後も上昇することが確認できる。そして、多くの地域で高齢者の減少以上に若年層の流出が大きいため、高齢化率は右肩上がりとなり 2053 年には、半数以上の 27 分の 19 地域で高齢化率が 50%を超える。

(3) 小学生数予測

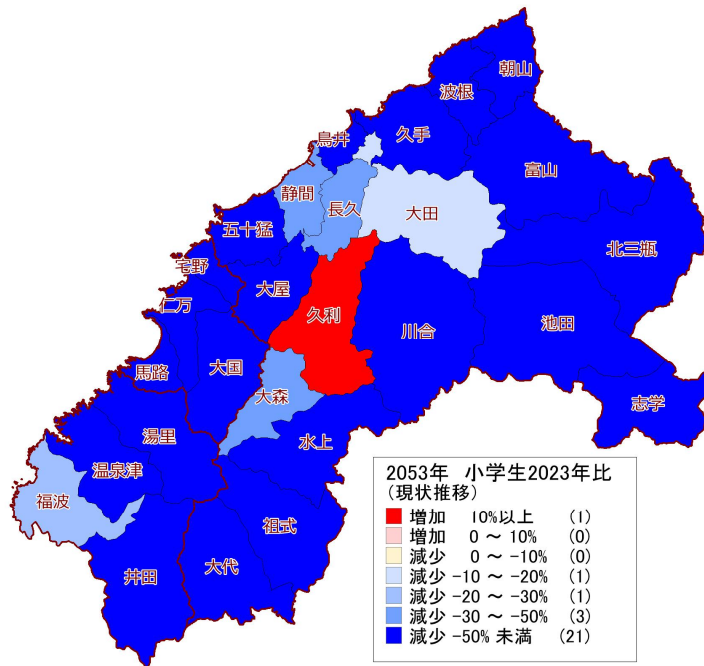
ア) 一覧表

地域名	小学生数				対2023年比			小学生率			
	2023年	2033年	2053年	2068年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年
大田	446	405	364	332	-9.3%	-18.6%	-25.7%	5.5%	5.3%	5.4%	5.4%
川合	57	25	10	4	-55.3%	-82.1%	-92.8%	3.6%	2.1%	1.7%	1.2%
池田	17	5	1	1	-69.1%	-91.8%	-96.0%	2.8%	1.2%	0.7%	0.8%
志学	14	10	6	3	-30.7%	-58.8%	-77.5%	2.9%	2.6%	3.1%	2.7%
北三瓶	20	10	10	4	-51.3%	-51.7%	-79.2%	4.4%	2.7%	4.9%	3.7%
富山	6	10	2	1	63.3%	-62.0%	-84.2%	1.4%	3.3%	1.9%	1.8%
朝山	16	2	0	0	-85.8%	-98.0%	-99.7%	3.6%	0.7%	0.2%	0.1%
波根	44	25	11	6	-43.3%	-75.8%	-87.4%	3.8%	2.7%	1.9%	1.6%
久手	189	114	65	37	-39.9%	-65.7%	-80.5%	4.9%	3.5%	3.0%	2.5%
烏井	48	21	7	3	-56.4%	-84.6%	-94.0%	4.5%	2.5%	1.7%	1.2%
長久	174	139	109	85	-20.2%	-37.4%	-50.9%	5.7%	5.0%	4.8%	4.5%
静間	65	46	37	29	-29.3%	-43.2%	-55.4%	5.2%	4.2%	5.2%	5.7%
五十猛	59	10	3	0	-82.5%	-95.6%	-99.2%	5.0%	1.2%	0.6%	0.2%
大屋	4	2	0	0	-56.5%	-89.6%	-94.1%	1.3%	0.9%	0.7%	1.0%
久利	59	77	74	75	31.1%	25.0%	27.6%	4.7%	6.8%	8.4%	9.9%
大森	25	23	15	18	-7.9%	-40.9%	-29.9%	6.3%	5.4%	3.4%	3.9%
水上	13	5	1	0	-62.2%	-94.9%	-98.4%	3.1%	1.5%	0.4%	0.2%
祖式	16	3	7	5	-80.1%	-56.0%	-70.8%	5.5%	1.2%	3.2%	2.4%
大代	8	3	1	0	-55.5%	-81.3%	-94.3%	2.6%	1.4%	1.0%	0.5%
湯里	14	5	6	3	-64.0%	-56.5%	-75.4%	3.0%	1.5%	3.3%	3.1%
温泉津	32	11	3	1	-64.1%	-90.9%	-97.2%	3.3%	1.6%	0.8%	0.5%
井田	10	3	1	0	-72.2%	-90.3%	-97.8%	2.1%	0.8%	0.6%	0.3%
福波	23	21	18	20	-9.7%	-23.7%	-15.0%	4.1%	4.5%	6.1%	8.0%
仁万	113	72	44	26	-36.4%	-61.1%	-77.4%	5.0%	3.8%	3.8%	3.4%
宅野	13	9	2	1	-30.7%	-84.0%	-92.6%	2.8%	2.6%	1.3%	1.3%
大国	8	3	1	1	-68.7%	-84.3%	-92.2%	2.5%	1.0%	0.9%	0.9%
馬路	10	13	3	4	23.2%	-67.3%	-62.5%	2.3%	3.5%	1.9%	3.8%
合計	1,503	1,071	801	659	-28.7%	-46.7%	-56.2%	4.6%	3.9%	4.2%	4.4%

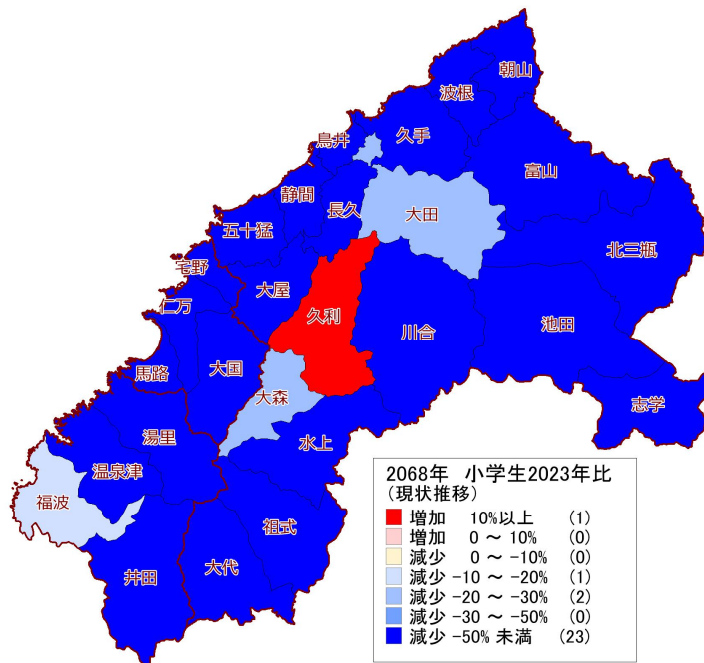
イ) 小学生増減率2033年(対2023年)



ウ) 小学生増減率 2053 年（対 2023 年）



エ) 小学生増減率 2068 年（対 2023 年）



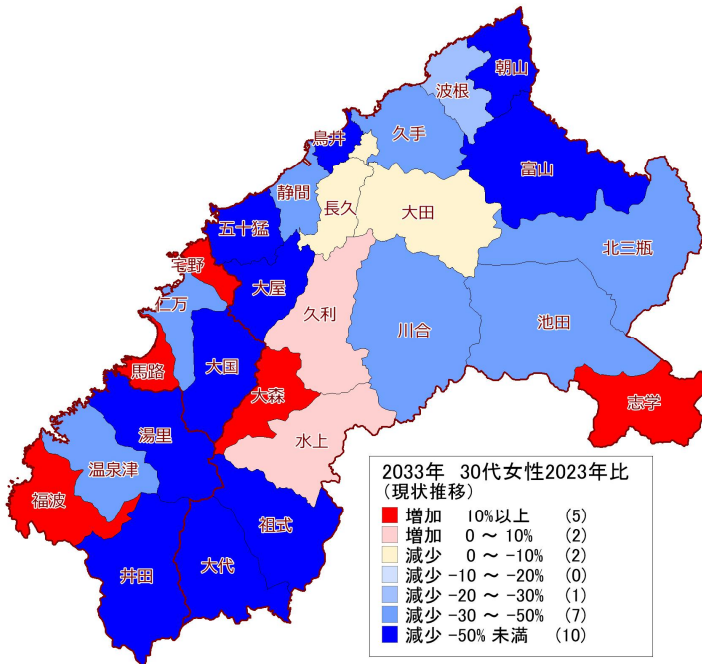
一時的には小学生数が増加する地域も確認できるが、中・長期的に見ると、ほとんどの地域で小学生数の減少は続き、2053年には27分の21地域（小学生人口が0人の地域は除く）で小学生数が半数未満となっていく。これは子育て世代の流出と、それに伴う出生数の低下が要因であると考えられる。

(4) 30代女性数予測

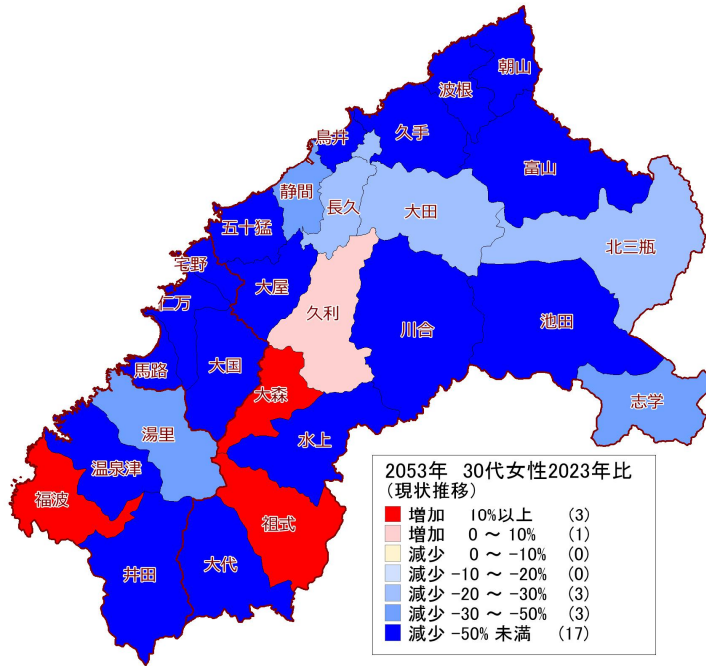
ア) 一覧表

地域名	30代女性数				対2023年比			30代女性率			
	2023年	2033年	2053年	2068年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年
大田	399	369	319	306	-7.6%	-20.2%	-23.2%	4.9%	4.8%	4.7%	5.0%
川合	46	25	13	4	-45.9%	-72.4%	-91.0%	2.9%	2.0%	2.1%	1.2%
池田	13	7	1	1	-43.6%	-95.1%	-92.4%	2.1%	1.6%	0.3%	1.1%
志学	13	16	9	5	23.8%	-33.0%	-61.5%	2.7%	4.4%	4.8%	4.4%
北三瓶	15	9	11	5	-40.0%	-26.7%	-66.8%	3.4%	2.6%	5.7%	4.4%
富山	10	4	1	0	-63.6%	-90.4%	-97.3%	2.4%	1.2%	0.8%	0.5%
朝山	8	3	0	0	-66.8%	-95.2%	-99.1%	1.8%	0.8%	0.3%	0.1%
波根	28	20	7	5	-29.4%	-74.6%	-83.6%	2.5%	2.1%	1.3%	1.3%
久手	148	88	51	32	-40.5%	-65.6%	-78.3%	3.9%	2.7%	2.4%	2.2%
鳥井	45	20	10	3	-56.0%	-78.6%	-93.4%	4.2%	2.4%	2.2%	1.2%
長久	157	141	111	85	-9.9%	-29.1%	-46.1%	5.2%	5.1%	4.9%	4.4%
静間	49	31	28	23	-35.7%	-42.4%	-52.9%	3.9%	2.9%	4.0%	4.5%
五十猛	40	16	5	1	-59.7%	-88.4%	-97.2%	3.4%	1.8%	1.1%	0.6%
大屋	6	3	1	0	-57.1%	-91.4%	-93.2%	2.2%	1.4%	0.9%	1.9%
久利	44	45	47	43	2.6%	6.2%	-2.1%	3.5%	4.0%	5.3%	5.7%
大森	20	33	27	17	65.9%	32.6%	-16.9%	5.0%	7.8%	6.1%	3.7%
水上	9	9	1	0	4.6%	-93.5%	-96.7%	2.1%	2.8%	0.3%	0.3%
祖式	11	2	13	8	-80.7%	15.3%	-29.9%	3.7%	0.8%	5.7%	4.0%
大代	7	1	1	0	-82.9%	-87.1%	-97.5%	2.3%	0.5%	0.6%	0.2%
湯里	11	4	8	5	-60.5%	-31.5%	-56.5%	2.4%	1.3%	4.2%	4.4%
温泉津	34	20	4	2	-40.5%	-87.8%	-95.4%	3.5%	2.8%	1.1%	0.8%
井田	12	5	2	1	-60.4%	-84.3%	-94.3%	2.5%	1.3%	1.2%	0.9%
福波	20	33	22	23	63.0%	12.3%	12.6%	3.5%	6.9%	7.6%	9.1%
仁万	89	50	35	21	-43.7%	-60.4%	-76.7%	3.9%	2.7%	3.0%	2.8%
宅野	6	8	1	1	31.3%	-81.0%	-89.7%	1.3%	2.3%	0.7%	0.9%
大国	8	1	1	0	-85.4%	-91.1%	-96.6%	2.3%	0.4%	0.5%	0.4%
馬路	12	15	3	3	22.2%	-75.3%	-73.9%	2.6%	4.0%	1.7%	3.1%
合計	1,260	978	729	593	-22.4%	-42.2%	-52.9%	3.9%	3.5%	3.8%	4.0%

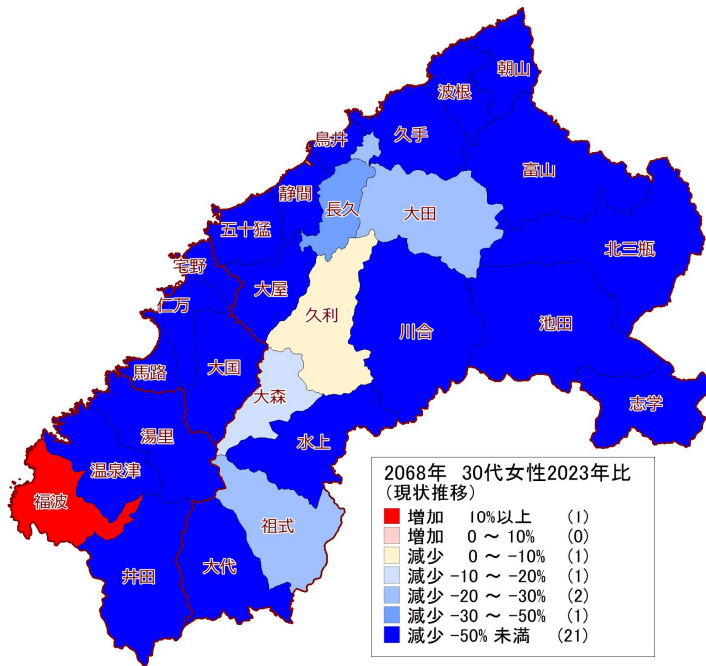
イ) 30代女性増減率 2033年 (対2023年)



ウ) 30代女性増減率 2053年（対2023年）



エ) 30代女性増減率 2068年（対2023年）



ほとんどの地域で30代女性の減少は続き、2053年には27分の17地域（30代女性人口が0人の地域は除く）で、2068年には18地域で半数未満（うち14地域では8割以上の減少）となっていく。

(5) 一覧表

地域名	現状推移シナリオ															
	(1) 人口総数				(2) 高齢化率				(3) 小学生数予測				(4) 30代女性数予測			
	2023年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年
大田	8,102	7,668	6,708	6,122	32.4%	31.9%	32.0%	29.7%	446	405	364	332	399	369	319	306
川合	1,578	1,216	612	339	48.1%	53.1%	62.1%	63.4%	57	25	10	4	46	25	13	4
池田	619	452	198	91	52.2%	60.5%	77.4%	81.3%	17	5	1	1	13	7	1	1
志学	484	362	181	114	55.6%	54.9%	44.5%	51.4%	14	10	6	3	13	16	9	5
北三瓶	445	352	194	113	50.8%	58.0%	59.5%	57.1%	20	10	10	4	15	9	11	5
富山	417	298	118	53	54.7%	63.0%	70.1%	79.4%	6	10	2	1	10	4	1	0
朝山	435	323	136	62	54.5%	59.6%	80.8%	80.3%	16	2	0	0	8	3	0	0
波根	1,139	925	558	349	42.8%	46.6%	56.8%	60.7%	44	25	11	6	28	20	7	5
久手	3,826	3,281	2,143	1,485	38.4%	41.4%	48.4%	50.0%	189	114	65	37	148	88	51	32
鳥井	1,064	841	442	239	42.1%	50.8%	68.5%	72.7%	48	21	7	3	45	20	10	3
長久	3,029	2,784	2,288	1,916	33.4%	33.4%	37.4%	36.3%	174	139	109	85	157	141	111	85
静間	1,249	1,079	710	509	40.2%	47.2%	48.8%	44.7%	65	46	37	29	49	31	28	23
五十猛	1,165	891	405	206	45.2%	54.5%	72.7%	78.6%	59	10	3	0	40	16	5	1
大屋	276	181	57	22	62.7%	66.5%	77.4%	75.5%	4	2	0	0	6	3	1	0
久利	1,260	1,131	876	757	39.9%	41.3%	37.5%	28.8%	59	77	74	75	44	45	47	43
大森	401	427	436	455	40.4%	31.4%	28.5%	32.2%	25	23	15	18	20	33	27	17
水上	431	331	170	95	43.4%	49.6%	58.8%	70.4%	13	5	1	0	9	9	1	0
祖式	295	278	223	193	54.9%	46.0%	51.2%	44.0%	16	3	7	5	11	2	13	8
大代	300	247	148	88	57.7%	58.9%	75.4%	83.2%	8	3	1	0	7	1	1	0
湯里	453	341	180	108	55.2%	60.3%	66.7%	51.6%	14	5	6	3	11	4	8	5
温泉津	958	720	368	196	45.9%	51.8%	65.1%	76.4%	32	11	3	1	34	20	4	2
井田	482	361	153	77	59.1%	66.3%	66.2%	67.2%	10	3	1	0	12	5	2	1
福波	574	475	295	249	49.7%	49.8%	36.0%	33.7%	23	21	18	20	20	33	22	23
仁万	2,261	1,884	1,156	746	40.3%	45.3%	53.2%	52.0%	113	72	44	26	89	50	35	21
宅野	449	336	159	70	53.5%	60.0%	79.0%	80.4%	13	9	2	1	6	8	1	1
大国	342	267	141	69	59.1%	58.8%	83.8%	84.8%	8	3	1	1	8	1	1	0
馬路	453	363	174	100	59.8%	62.2%	68.4%	69.0%	10	13	3	4	12	15	3	3
合計	32,487	27,812	19,228	14,824	41.1%	42.9%	44.7%	40.9%	1,503	1,071	801	659	1,260	978	729	593

### 3. 組み合わせ最適シナリオ

組み合わせ最適シナリオとしては、27のまちづくセンター毎に【出生率・10代後半の流出率】を改善させ、過去の若年層の人口流出を補うように3世代バランスのとれた人口定住を増加させるというのが望ましい。

【出生率・流出率・定住増加】の3つを組み合わせ最適シナリオを検討していく。

なお、出生率は大田市の目標出生率である2.29と設定した（H27.10大田市人口ビジョンより）。

出生率：2.29（段階的に上昇）

ただし、現状で2.29を超えている地域については現状のままとする。

流出率：10代後半の流出率を半減

ただし、現状で流出がない地域は現状のままとする。

安定化定住組数：毎年各世代36.4組（合計109世帯255人）現在人口の約0.8%

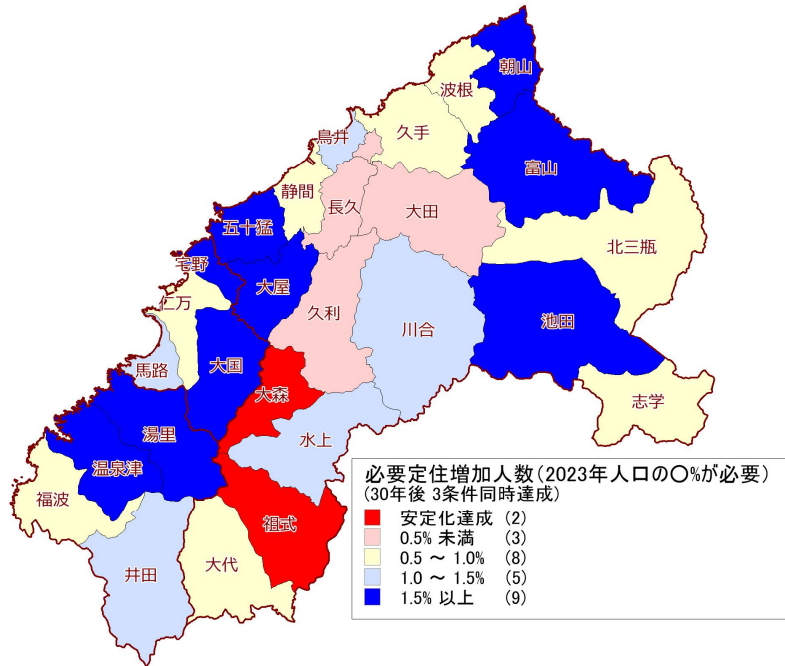
2023年人口の約0.8%（人口12.5人に対して約1人の定住増加）

#### （1）人口予測

##### ア）一覧表

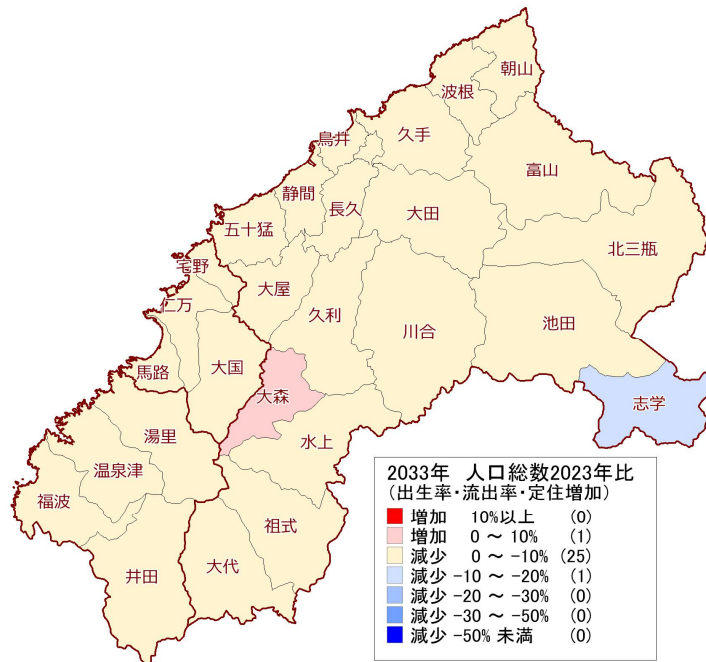
地域名	10代後半流出率		合計特殊出生率	毎年定住増加組数	1,000人当たり必要人数	人口総数				対2023年比		
	男性	女性				2023年	2033年	2053年	2068年	2033年	2053年	2068年
大田	2%	9%	2.29	0.5	0.4	8,102	7,772	7,314	7,271	-4.1%	-9.7%	-10.3%
川合	0%	21%	2.29	3.2	14.2	1,578	1,488	1,426	1,476	-5.7%	-9.7%	-6.4%
池田	10%	21%	2.29	1.7	19.2	619	597	573	600	-3.6%	-7.4%	-3.1%
志学	19%	28%	2.29	0.6	8.7	484	430	437	514	-11.2%	-9.7%	6.3%
北三瓶	23%	17%	2.29	0.6	9.4	445	415	422	467	-6.7%	-5.3%	5.0%
富山	6%	0%	2.29	1.2	20.1	417	394	400	434	-5.5%	-4.1%	4.1%
朝山	-17%	29%	2.29	1.3	20.9	435	428	406	412	-1.6%	-6.6%	-5.3%
波根	21%	18%	2.29	1.5	9.2	1,139	1,080	1,029	1,040	-5.2%	-9.7%	-8.7%
久手	6%	8%	2.29	4.4	8.1	3,826	3,694	3,453	3,435	-3.4%	-9.7%	-10.2%
鳥井	20%	15%	2.29	2.0	13.2	1,064	1,024	967	962	-3.8%	-9.1%	-9.6%
長久	1%	7%	2.29	0.8	1.8	3,029	2,892	2,728	2,672	-4.5%	-9.9%	-11.8%
静間	19%	13%	2.29	1.4	7.8	1,249	1,215	1,147	1,182	-2.7%	-8.1%	-5.3%
五十猛	18%	14%	2.29	2.7	16.2	1,165	1,136	1,061	1,070	-2.5%	-8.9%	-8.2%
大屋	0%	14%	2.29	1.0	25.4	276	261	254	286	-5.4%	-8.1%	3.8%
久利	17%	6%	2.29	0.7	3.9	1,260	1,205	1,139	1,186	-4.3%	-9.6%	-5.9%
大森	-100%	14%	2.29	0.0	0.0	401	428	461	508	6.8%	14.8%	26.8%
水上	-9%	25%	2.29	0.9	14.6	431	412	392	399	-4.3%	-9.1%	-7.3%
祖式	20%	17%	2.29	0.0	0.0	295	293	331	431	-0.8%	12.0%	46.2%
大代	25%	20%	2.29	0.4	9.3	300	287	294	315	-4.4%	-2.1%	4.9%
湯里	13%	14%	2.29	1.4	21.6	453	413	409	469	-8.9%	-9.8%	3.4%
温泉津	20%	15%	2.29	2.2	16.1	958	905	865	864	-5.5%	-9.7%	-9.9%
井田	13%	14%	2.29	1.0	14.5	482	456	456	544	-5.4%	-5.3%	13.0%
福波	33%	6%	2.29	0.5	6.1	574	533	527	663	-7.1%	-8.2%	15.6%
仁万	11%	22%	2.29	2.5	7.7	2,261	2,152	2,047	2,081	-4.8%	-9.5%	-8.0%
宅野	32%	27%	2.29	1.2	18.7	449	434	424	421	-3.3%	-5.5%	-6.2%
大国	17%	17%	2.29	0.8	16.4	342	328	322	326	-4.0%	-6.0%	-4.7%
馬路	9%	28%	2.29	0.9	13.9	453	435	412	462	-4.0%	-9.1%	2.0%
合計				35.4	7.6	32,487	31,109	29,695	30,492	-4.2%	-8.6%	-6.1%

イ) 安定化に必要な定住増加人数 (1,000 人当たり)



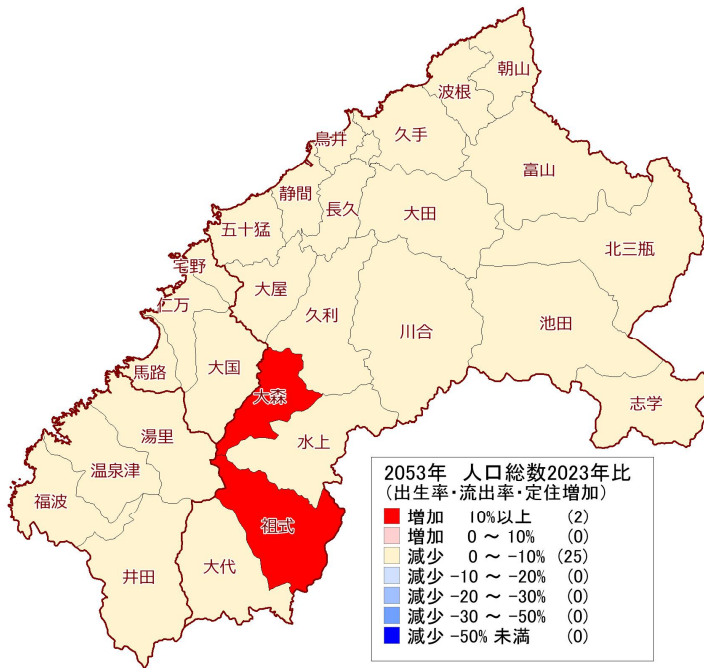
安定化に必要な定住増加人数 (1,000 人当たり) は、半数以上の 27 分の 14 地域で、2023 年人口の 1%以上の定住増加が毎年必要となる。だが一方で、5 地域 (大森、祖式) では既に安定化を達成していることも注目される。

ウ) 人口増減率 2033 年 (対 2023 年)

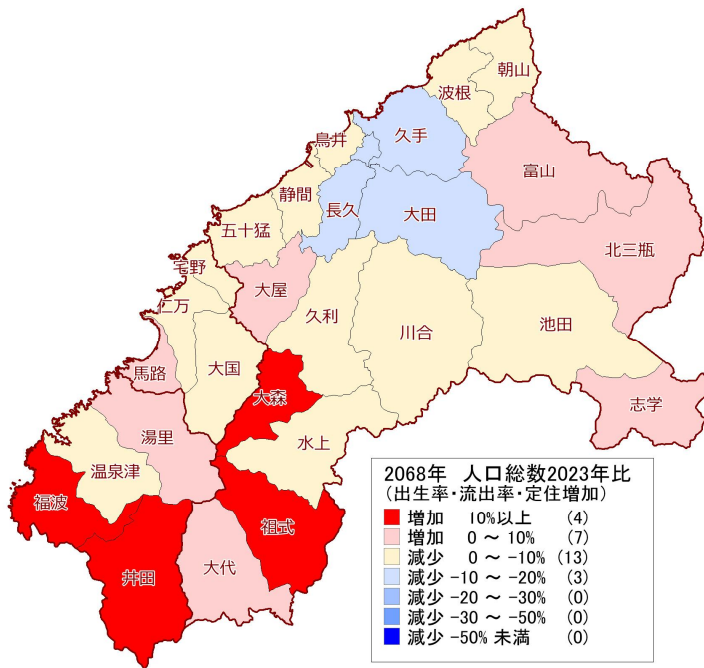




エ) 人口増減率 2053 年（対 2023 年）



オ) 人口増減率 2068 年（対 2023 年）



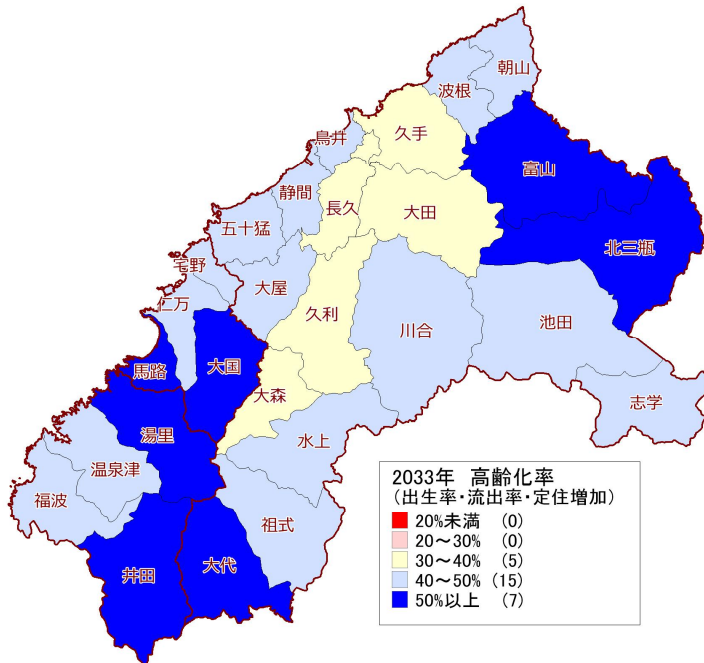
30年後の2053年にはすべての地域で人口総数が1割減以内となり、長期的に人口総数の安定化が達成される。

(2) 高齢化率予測

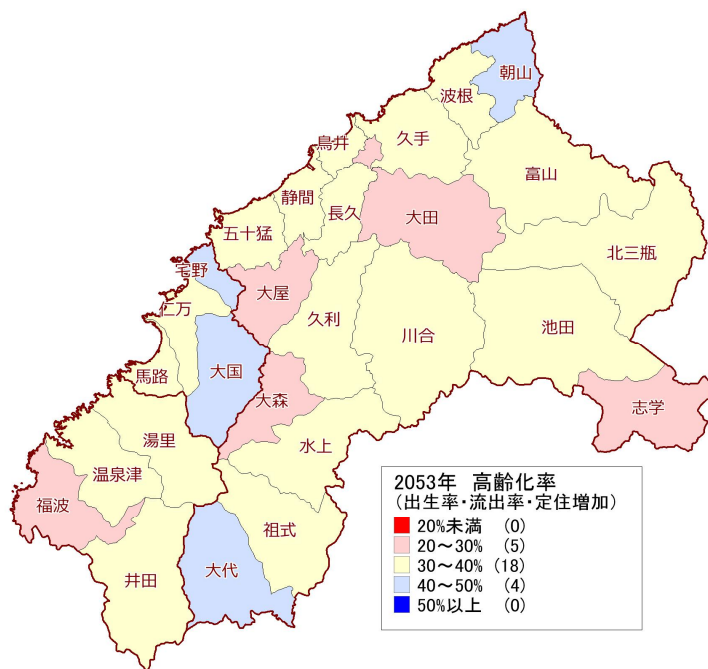
ア) 一覧表

地域名	10代後半流出率		合計特殊出生率	毎年定住増加組数	高齢化率				対2023年比率増減			高齢者数			
	男性	女性			2023年	2033年	2053年	2068年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年
大田	2%	9%	2.29	0.5	32.4%	31.6%	29.6%	25.5%	-0.9%	-2.9%	-7.0%	2,628	2,453	2,163	1,851
川合	0%	21%	2.29	3.2	48.1%	45.5%	35.9%	28.3%	-2.6%	-12.2%	-19.8%	759	677	512	417
池田	10%	21%	2.29	1.7	52.2%	48.7%	38.2%	30.0%	-3.5%	-13.9%	-22.2%	323	290	219	180
志学	19%	28%	2.29	0.6	55.6%	47.6%	23.8%	18.8%	-8.0%	-31.8%	-36.8%	269	205	104	96
北三瓶	23%	17%	2.29	0.6	50.8%	50.6%	33.8%	22.0%	-0.1%	-17.0%	-28.8%	226	210	142	103
富山	6%	0%	2.29	1.2	54.7%	50.1%	31.5%	24.9%	-4.6%	-23.2%	-29.8%	228	197	126	108
朝山	-17%	29%	2.29	1.3	54.5%	48.2%	41.7%	31.3%	-6.3%	-12.8%	-23.2%	237	206	169	129
波根	21%	18%	2.29	1.5	42.8%	41.3%	36.6%	30.5%	-1.6%	-6.2%	-12.3%	488	446	377	317
久手	6%	8%	2.29	4.4	38.4%	37.9%	35.3%	29.8%	-0.5%	-3.1%	-8.6%	1,469	1,401	1,219	1,022
鳥井	20%	15%	2.29	2.0	42.1%	43.6%	39.5%	31.9%	1.5%	-2.6%	-10.2%	448	447	382	306
長久	1%	7%	2.29	0.8	33.4%	32.4%	32.7%	28.0%	-1.0%	-0.8%	-5.4%	1,013	938	892	749
静間	19%	13%	2.29	1.4	40.2%	43.1%	35.3%	27.0%	2.9%	-4.9%	-13.2%	502	523	405	320
五十猛	18%	14%	2.29	2.7	45.2%	45.0%	38.0%	30.6%	-0.3%	-7.2%	-14.7%	527	511	403	327
大屋	0%	14%	2.29	1.0	62.7%	49.1%	29.6%	20.8%	-13.5%	-33.1%	-41.9%	173	128	75	60
久利	17%	6%	2.29	0.7	39.9%	39.4%	31.4%	22.2%	-0.5%	-8.5%	-17.7%	503	475	358	263
大森	-100%	14%	2.29	0.0	40.4%	31.3%	27.0%	28.8%	-9.1%	-13.4%	-11.6%	162	134	124	147
水上	-9%	25%	2.29	0.9	43.4%	41.9%	34.0%	31.1%	-1.4%	-9.4%	-12.3%	187	173	133	124
祖式	20%	17%	2.29	0.0	54.9%	43.6%	34.6%	19.7%	-11.3%	-20.3%	-35.2%	162	128	114	85
大代	25%	20%	2.29	0.4	57.7%	52.2%	43.9%	37.9%	-5.4%	-13.8%	-19.7%	173	150	129	119
湯里	13%	14%	2.29	1.4	55.2%	52.0%	38.3%	24.6%	-3.2%	-16.9%	-30.6%	250	215	156	115
温泉津	20%	15%	2.29	2.2	45.9%	43.6%	38.1%	34.1%	-2.3%	-7.8%	-11.8%	440	395	330	295
井田	13%	14%	2.29	1.0	59.1%	54.5%	31.0%	21.1%	-4.6%	-28.1%	-38.1%	285	248	142	115
福波	33%	6%	2.29	0.5	49.7%	45.2%	24.0%	17.2%	-4.4%	-25.7%	-32.5%	285	241	126	114
仁万	11%	22%	2.29	2.5	40.3%	40.8%	35.3%	26.8%	0.5%	-5.0%	-13.5%	911	879	723	557
宅野	32%	27%	2.29	1.2	53.5%	49.1%	41.7%	31.7%	-4.3%	-11.7%	-21.8%	240	213	177	133
大野	17%	17%	2.29	0.8	59.1%	50.1%	47.5%	36.7%	-9.0%	-11.6%	-22.4%	202	165	153	120
馬路	9%	28%	2.29	0.9	59.8%	53.7%	37.1%	28.4%	-6.2%	-22.7%	-31.4%	271	233	153	131
合計				35.4	41.1%	39.5%	33.7%	27.2%	-1.7%	-7.4%	-13.9%	13,361	12,281	10,008	8,305

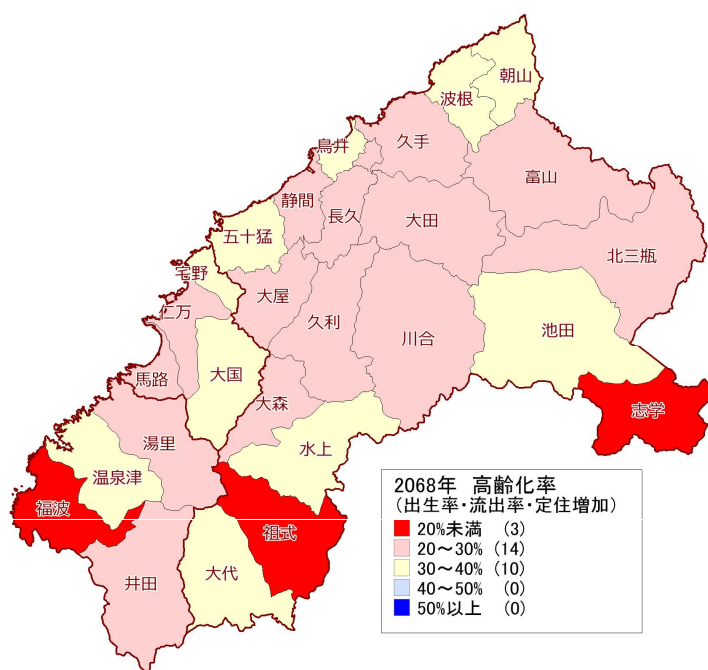
イ) 高齢化率 2033年



ウ) 高齢化率 2053 年



エ) 高齢化率 2068 年



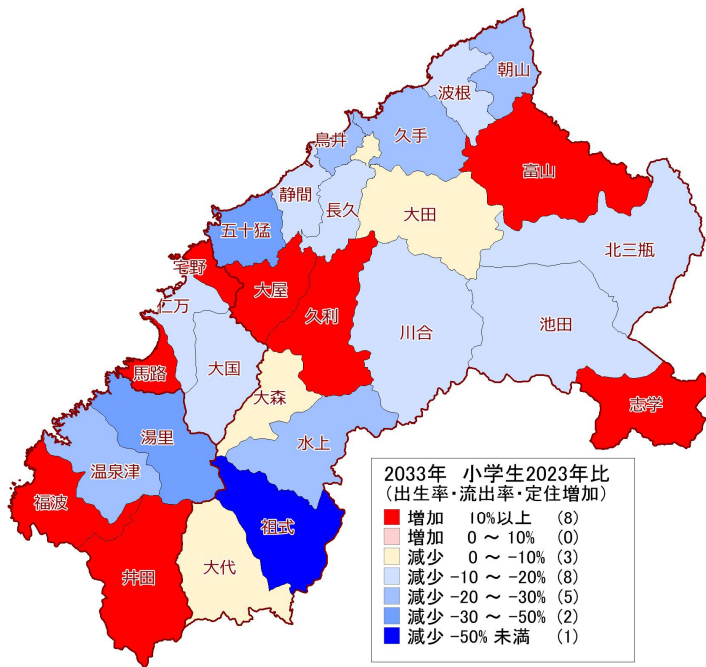
長期的に、すべての地域で 40%未満での高齢化率の安定、低下が達成される。

(3) 小学生数予測

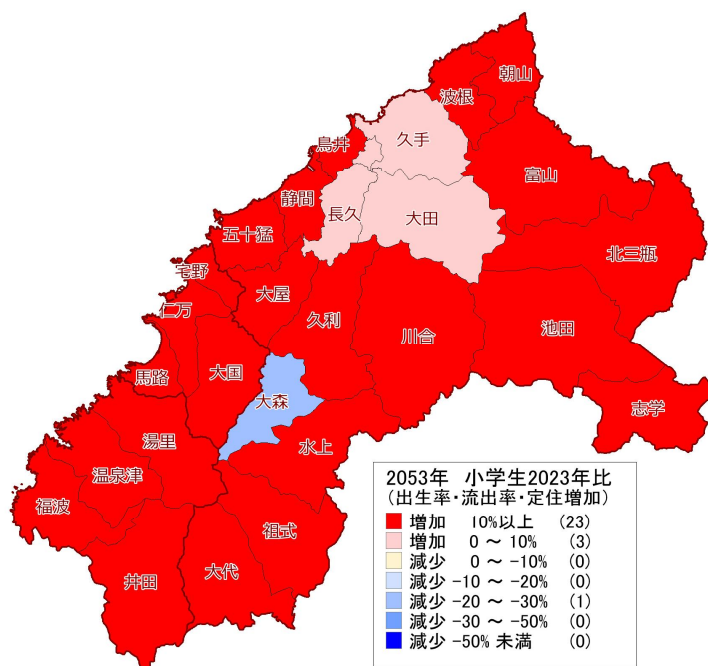
ア) 一覧表

地域名	10代後半流出率		合計 特殊 出生 率	毎年 定住 増加 組数	小学生数				対2023年比			小学生率			
	男性	女性			2023年	2033年	2053年	2068年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年
大田	2%	9%	2.29	0.5	446	412	484	497	-7.6%	8.3%	11.2%	5.5%	5.3%	6.6%	6.8%
川合	0%	21%	2.29	3.2	57	47	89	102	-18.1%	55.5%	79.4%	3.6%	3.1%	6.2%	6.9%
池田	10%	21%	2.29	1.7	17	14	33	42	-19.0%	90.1%	140.6%	2.8%	2.4%	5.8%	7.0%
志学	19%	28%	2.29	0.6	14	16	39	48	17.1%	179.6%	247.2%	2.9%	3.8%	8.8%	9.3%
北三瓶	23%	17%	2.29	0.6	20	17	49	61	-14.8%	148.6%	209.5%	4.4%	4.1%	11.7%	13.1%
富山	6%	0%	2.29	1.2	6	23	45	57	276.9%	645.7%	851.2%	1.4%	5.7%	11.2%	13.2%
朝山	-17%	29%	2.29	1.3	16	12	27	31	-23.1%	71.0%	101.2%	3.6%	2.8%	6.6%	7.6%
波根	21%	18%	2.29	1.5	44	37	57	64	-14.7%	30.4%	46.5%	3.8%	3.5%	5.6%	6.2%
久手	6%	8%	2.29	4.4	189	147	207	222	-22.1%	9.5%	17.7%	4.9%	4.0%	6.0%	6.5%
鳥井	20%	15%	2.29	2.0	48	36	61	69	-25.8%	27.2%	44.4%	4.5%	3.5%	6.3%	7.2%
長久	1%	7%	2.29	0.8	174	148	181	183	-15.0%	3.8%	5.4%	5.7%	5.1%	6.6%	6.9%
静間	19%	13%	2.29	1.4	65	55	84	98	-14.7%	30.2%	51.5%	5.2%	4.5%	7.4%	8.3%
五十猛	18%	14%	2.29	2.7	59	33	68	77	-44.7%	14.9%	30.4%	5.0%	2.9%	6.4%	7.2%
大屋	0%	14%	2.29	1.0	4	7	18	24	88.9%	395.6%	577.8%	1.3%	2.6%	7.0%	8.5%
久利	17%	6%	2.29	0.7	59	84	107	128	43.1%	82.1%	118.2%	4.7%	7.0%	9.4%	10.8%
大森	-100%	14%	2.29	0.0	25	23	19	24	-7.4%	-24.9%	-5.5%	6.3%	5.4%	4.1%	4.7%
水上	-9%	25%	2.29	0.9	13	10	16	18	-26.4%	24.5%	34.4%	3.1%	2.4%	4.2%	4.4%
祖式	20%	17%	2.29	0.0	16	4	24	44	-72.8%	49.8%	169.8%	5.5%	1.5%	7.3%	10.1%
大代	25%	20%	2.29	0.4	8	7	16	18	-7.0%	103.9%	129.6%	2.6%	2.5%	5.4%	5.7%
湯里	13%	14%	2.29	1.4	14	9	26	32	-37.5%	88.7%	132.3%	3.0%	2.1%	6.4%	6.8%
温泉津	20%	15%	2.29	2.2	32	23	38	41	-26.8%	20.2%	29.1%	3.3%	2.6%	4.4%	4.8%
井田	13%	14%	2.29	1.0	10	12	36	48	19.5%	250.9%	374.2%	2.1%	2.7%	7.8%	8.9%
福波	33%	6%	2.29	0.5	23	26	51	79	12.8%	119.4%	238.9%	4.1%	5.0%	9.7%	12.0%
仁万	11%	22%	2.29	2.5	113	94	157	177	-17.5%	38.5%	56.0%	5.0%	4.3%	7.7%	8.5%
宅野	32%	27%	2.29	1.2	13	16	28	31	29.4%	119.9%	143.2%	2.8%	3.8%	6.5%	7.3%
大國	17%	17%	2.29	0.8	8	7	18	23	-16.3%	119.6%	175.6%	2.5%	2.1%	5.7%	7.1%
馬路	9%	28%	2.29	0.9	10	21	34	46	101.8%	230.9%	351.6%	2.3%	4.7%	8.2%	10.0%
合計				35.4	1,503	1,340	2,011	2,286	-10.8%	33.8%	52.1%	4.6%	4.3%	6.8%	7.5%

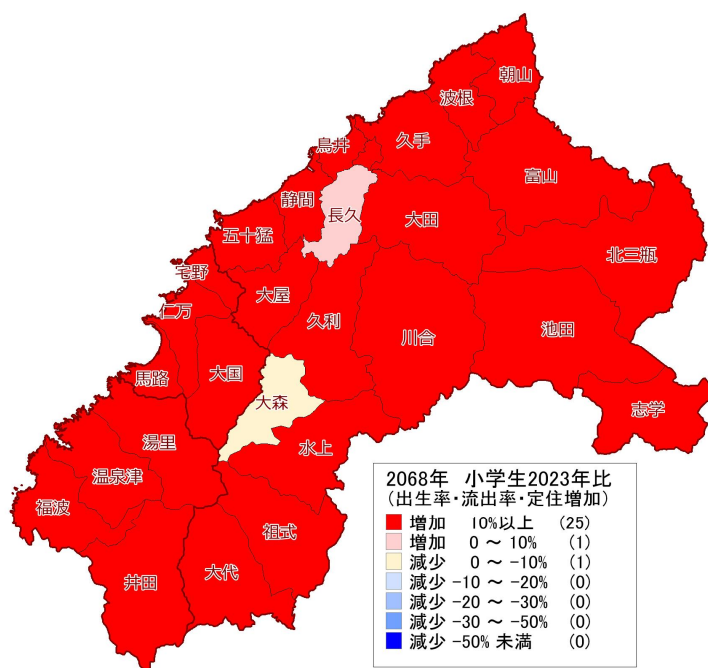
イ) 小学生増減率 2033年 (対2023年)



ウ) 小学生増減率 2053 年（対 2023 年）



エ) 小学生増減率 2068 年（対 2023 年）



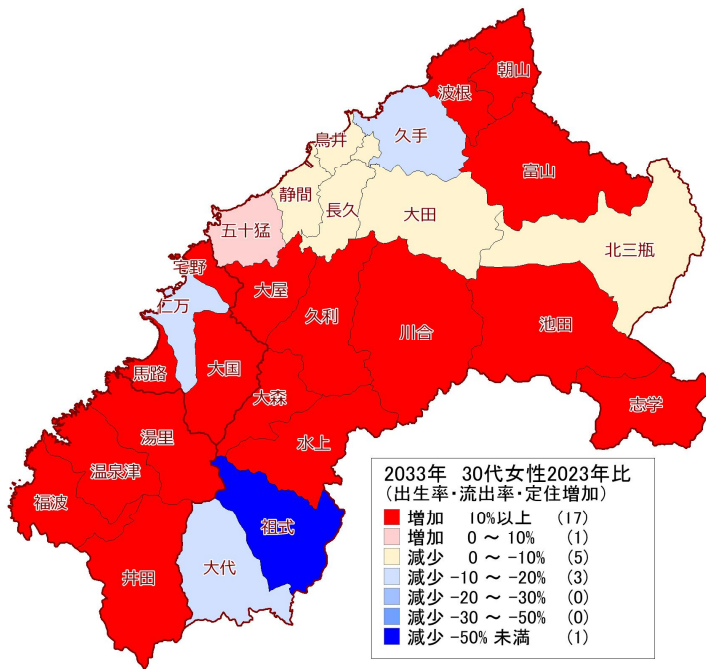
長期的に、ほとんどの地域で小学生数は増加し、安定化が達成される

(4) 30代女性数予測

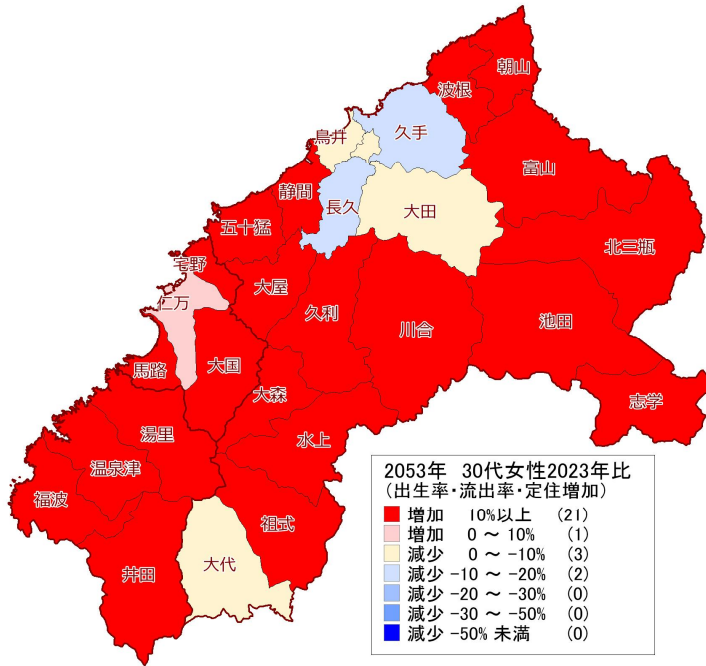
ア) 一覧表

地域名	10代後半流出率		合計特殊出生率	毎年定住増加組数	30代女性数				対2023年比			30代女性率				
	男性	女性			2023年	2033年	2053年	2068年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年	
大田	2%	9%	2.29	0.5	399	374	363	389	-6.4%	-9.1%	-2.5%	4.9%	4.8%	5.0%	5.3%	
川合	0%	21%	2.29	3.2	46	55	64	74	19.9%	38.5%	61.8%	2.9%	3.7%	4.5%	5.0%	
池田	10%	21%	2.29	1.7	13	23	26	36	74.1%	102.8%	176.8%	2.1%	3.8%	4.6%	6.0%	
志学	19%	28%	2.29	0.6	13	24	32	46	81.5%	147.4%	255.2%	2.7%	5.5%	7.4%	9.0%	
北三瓶	23%	17%	2.29	0.6	15	14	24	35	-6.7%	62.5%	132.5%	3.4%	3.4%	5.8%	7.5%	
富山	6%	0%	2.29	1.2	10	14	14	17	38.6%	37.3%	66.3%	2.4%	3.5%	3.4%	3.8%	
朝山	-17%	29%	2.29	1.3	8	13	14	16	59.6%	70.1%	102.3%	1.8%	3.0%	3.3%	3.9%	
波根	21%	18%	2.29	1.5	28	35	33	42	26.1%	17.7%	50.8%	2.5%	3.3%	3.2%	4.1%	
久手	6%	8%	2.29	4.4	148	128	122	145	-13.7%	-17.4%	-1.8%	3.9%	3.5%	3.5%	4.2%	
鳥井	20%	15%	2.29	2.0	45	41	42	47	-8.4%	-6.4%	4.7%	4.2%	4.0%	4.4%	4.9%	
長久	1%	7%	2.29	0.8	157	149	137	141	-5.0%	-12.9%	-10.3%	5.2%	5.2%	5.0%	5.3%	
静間	19%	13%	2.29	1.4	49	45	58	73	-8.7%	18.8%	49.4%	3.9%	3.7%	5.1%	6.2%	
五十猛	18%	14%	2.29	2.7	40	42	46	56	5.0%	14.7%	39.5%	3.4%	3.7%	4.3%	5.2%	
大屋	0%	14%	2.29	1.0	6	9	15	22	55.4%	151.3%	259.7%	2.2%	3.6%	5.9%	7.5%	
久利	17%	6%	2.29	0.7	44	52	64	74	18.5%	45.8%	68.0%	3.5%	4.3%	5.6%	6.2%	
大森	-100%	14%	2.29	0.0	20	33	32	21	65.9%	59.2%	4.3%	5.0%	7.7%	6.9%	4.1%	
水上	-9%	25%	2.29	0.9	9	21	16	18	129.6%	80.9%	102.3%	2.1%	5.0%	4.2%	4.6%	
祖式	20%	17%	2.29	0.0	11	2	16	27	-80.7%	44.1%	148.0%	3.7%	0.7%	4.8%	6.3%	
大代	25%	20%	2.29	0.4	7	6	7	7	-14.3%	-2.8%	3.4%	2.3%	2.1%	2.3%	2.3%	
湯里	13%	14%	2.29	1.4	11	13	30	42	15.5%	170.7%	284.0%	2.4%	3.1%	7.3%	9.0%	
温泉津	20%	15%	2.29	2.2	34	42	38	44	22.3%	11.2%	29.1%	3.5%	4.6%	4.4%	5.1%	
井田	13%	14%	2.29	1.0	12	14	21	33	17.7%	75.0%	175.7%	2.5%	3.1%	4.6%	6.1%	
福波	33%	6%	2.29	0.5	20	38	39	65	88.0%	96.2%	225.2%	3.5%	7.0%	7.4%	9.8%	
仁万	11%	22%	2.29	2.5	89	76	95	116	-14.5%	6.2%	30.0%	3.9%	3.5%	4.6%	5.6%	
宅野	32%	27%	2.29	1.2	6	18	19	22	191.7%	210.7%	260.4%	1.3%	4.0%	4.4%	5.1%	
大國	17%	17%	2.29	0.8	8	9	10	12	14.6%	27.8%	46.3%	2.3%	2.8%	3.2%	3.6%	
馬路	9%	28%	2.29	0.9	12	24	23	35	100.0%	95.7%	188.4%	2.6%	5.5%	5.7%	7.5%	
合計					35.4	1,260	1,312	1,400	1,655	4.1%	11.1%	31.3%	3.9%	4.2%	4.7%	5.4%

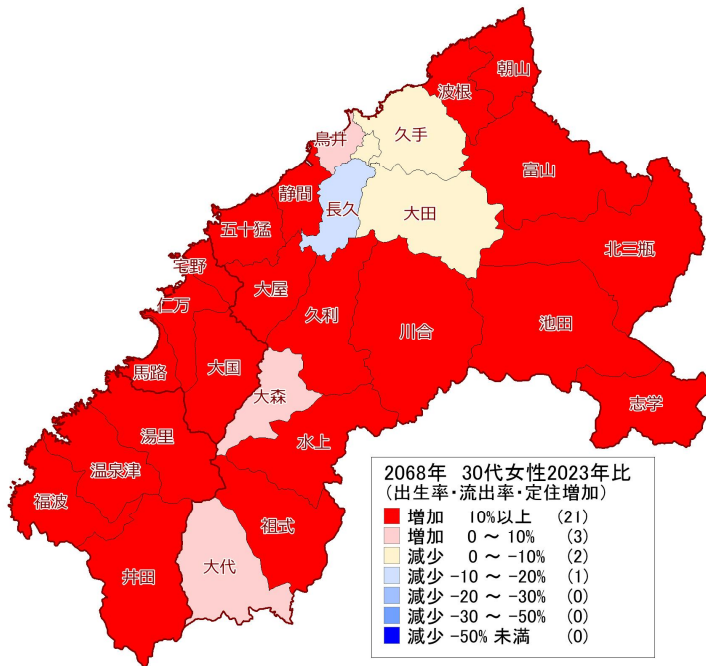
イ) 30代女性増減率 2033年 (対2023年)



ウ) 30代女性増減率 2053年（対2023年）



エ) 30代女性増減率 2068年（対2023年）



長期的に、ほとんどの地域で30代女性の安定化が達成される。

## (5) 一覧表

地域名	組み合わせ最適シナリオ											
	10代 後半 男性 流出率	10代 後半 女性 流出率	合計 特殊 出生率	毎年 定住 増加 組数	(1) 人口総数				(2) 高齢化率			
					2023年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年
大田	2%	9%	2.29	0.5	8,102	7,772	7,314	7,271	32.4%	31.6%	29.6%	25.5%
川合	0%	21%	2.29	3.2	1,578	1,488	1,426	1,476	48.1%	45.5%	35.9%	28.3%
池田	10%	21%	2.29	1.7	619	597	573	600	52.2%	48.7%	38.2%	30.0%
志学	19%	28%	2.29	0.6	484	430	437	514	55.6%	47.6%	23.8%	18.8%
北三瓶	23%	17%	2.29	0.6	445	415	422	467	50.8%	50.6%	33.8%	22.0%
富山	6%	0%	2.29	1.2	417	394	400	434	54.7%	50.1%	31.5%	24.9%
朝山	-17%	29%	2.29	1.3	435	428	406	412	54.5%	48.2%	41.7%	31.3%
波根	21%	18%	2.29	1.5	1,139	1,080	1,029	1,040	42.8%	41.3%	36.6%	30.5%
久手	6%	8%	2.29	4.4	3,826	3,694	3,453	3,435	38.4%	37.9%	35.3%	29.8%
烏井	20%	15%	2.29	2.0	1,064	1,024	967	962	42.1%	43.6%	39.5%	31.9%
長久	1%	7%	2.29	0.8	3,029	2,892	2,728	2,672	33.4%	32.4%	32.7%	28.0%
静間	19%	13%	2.29	1.4	1,249	1,215	1,147	1,182	40.2%	43.1%	35.3%	27.0%
五十猛	18%	14%	2.29	2.7	1,165	1,136	1,061	1,070	45.2%	45.0%	38.0%	30.6%
大屋	0%	14%	2.29	1.0	276	261	254	286	62.7%	49.1%	29.6%	20.8%
久利	17%	6%	2.29	0.7	1,260	1,205	1,139	1,186	39.9%	39.4%	31.4%	22.2%
大森	-100%	14%	2.29	0.0	401	428	461	508	40.4%	31.3%	27.0%	28.8%
水上	-9%	25%	2.29	0.9	431	412	392	399	43.4%	41.9%	34.0%	31.1%
祖式	20%	17%	2.29	0.0	295	293	331	431	54.9%	43.6%	34.6%	19.7%
大代	25%	20%	2.29	0.4	300	287	294	315	57.7%	52.2%	43.9%	37.9%
湯里	13%	14%	2.29	1.4	453	413	409	469	55.2%	52.0%	38.3%	24.6%
温泉津	20%	15%	2.29	2.2	958	905	865	864	45.9%	43.6%	38.1%	34.1%
井田	13%	14%	2.29	1.0	482	456	456	544	59.1%	54.5%	31.0%	21.1%
福波	33%	6%	2.29	0.5	574	533	527	663	49.7%	45.2%	24.0%	17.2%
仁万	11%	22%	2.29	2.5	2,261	2,152	2,047	2,081	40.3%	40.8%	35.3%	26.8%
宅野	32%	27%	2.29	1.2	449	434	424	421	53.5%	49.1%	41.7%	31.7%
大国	17%	17%	2.29	0.8	342	328	322	326	59.1%	50.1%	47.5%	36.7%
馬路	9%	28%	2.29	0.9	453	435	412	462	59.8%	53.7%	37.1%	28.4%
合計				35.4	32,487	31,109	29,695	30,492	41.1%	39.5%	33.7%	27.2%



地域名	組み合わせ最適シナリオ											
	10代 後半 男性 流出率	10代 後半 女性 流出率	合計 特殊 出生率	毎年 定住 増加 組数	(3) 小学生数予測				(4) 30代女性数予測			
					2023年	2033年	2053年	2068年	2023年	2033年	2053年	2068年
大田	2%	9%	2.29	0.5	446	412	484	497	399	374	363	389
川合	0%	21%	2.29	3.2	57	47	89	102	46	55	64	74
池田	10%	21%	2.29	1.7	17	14	33	42	13	23	26	36
志学	19%	28%	2.29	0.6	14	16	39	48	13	24	32	46
北三瓶	23%	17%	2.29	0.6	20	17	49	61	15	14	24	35
富山	6%	0%	2.29	1.2	6	23	45	57	10	14	14	17
朝山	-17%	29%	2.29	1.3	16	12	27	31	8	13	14	16
波根	21%	18%	2.29	1.5	44	37	57	64	28	35	33	42
久手	6%	8%	2.29	4.4	189	147	207	222	148	128	122	145
鳥井	20%	15%	2.29	2.0	48	36	61	69	45	41	42	47
長久	1%	7%	2.29	0.8	174	148	181	183	157	149	137	141
静間	19%	13%	2.29	1.4	65	55	84	98	49	45	58	73
五十猛	18%	14%	2.29	2.7	59	33	68	77	40	42	46	56
大屋	0%	14%	2.29	1.0	4	7	18	24	6	9	15	22
久利	17%	6%	2.29	0.7	59	84	107	128	44	52	64	74
大森	-100%	14%	2.29	0.0	25	23	19	24	20	33	32	21
水上	-9%	25%	2.29	0.9	13	10	16	18	9	21	16	18
祖式	20%	17%	2.29	0.0	16	4	24	44	11	2	16	27
大代	25%	20%	2.29	0.4	8	7	16	18	7	6	7	7
湯里	13%	14%	2.29	1.4	14	9	26	32	11	13	30	42
温泉津	20%	15%	2.29	2.2	32	23	38	41	34	42	38	44
井田	13%	14%	2.29	1.0	10	12	36	48	12	14	21	33
福波	33%	6%	2.29	0.5	23	26	51	79	20	38	39	65
仁万	11%	22%	2.29	2.5	113	94	157	177	89	76	95	116
宅野	32%	27%	2.29	1.2	13	16	28	31	6	18	19	22
大国	17%	17%	2.29	0.8	8	7	18	23	8	9	10	12
馬路	9%	28%	2.29	0.9	10	21	34	46	12	24	23	35
合計				35.4	1,503	1,340	2,011	2,286	1,260	1,312	1,400	1,655



## **第3章 各種調査分析結果**



## I 人口に関する発展的分析結果

前述において、大田市における、全市及び全 27 地区のまちづくりセンター単位での人口動態を把握した。次に人口減少に至る要因をより多角的に分析するために、過去から現在に至るまでの人口動態を分析したほか、人口減少に特に影響を与えている年代を特定するためのさらに詳細な分析を実施した。

### 1. ライフステージ（出生～幼少期～進学・就職期～結婚・出産期～子育て期）を通じた年代人口の長期的変化

#### (1) 目的

前述の大田市の推計人口を見ると、子育て世帯等を中心とした若年層の流出が明らかとなっている。このことについて、過去に生まれた世代の流出状況はどの程度であったのか、近年の世代よりも良いのか悪いのかについて把握することを目的として実施した。

#### (2) 基本的な考え方

5 歳階級別人口が 5 年後の 5 歳階級に移動した際、変化率はどのようになっているのか、過去の世代から現在の世代にかけて、コーホート変化率を算出した。

#### (3) 算定式

1980 年時点で 0～4 歳階級の人口が 5 年経過すると、5 歳～9 歳階級人口に移動する。今回は、この変化率を年代別かつ男女別にそれぞれ積算した。

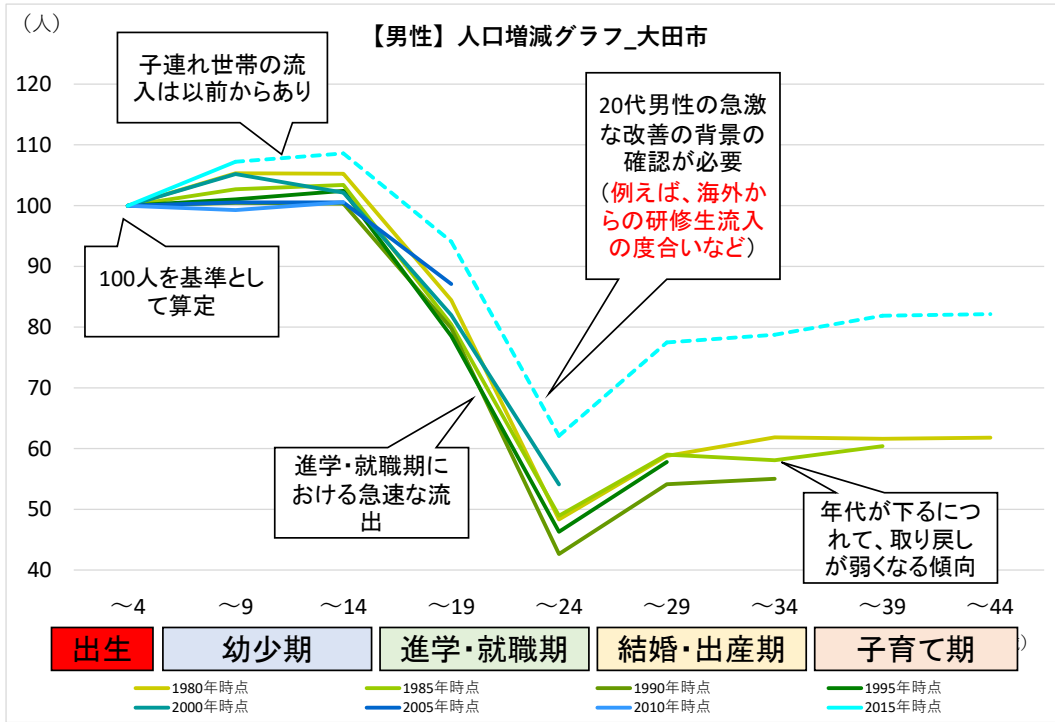
[算定イメージ図]

	年齢層	～4	～9
1980	男	1,500	1,707
	女	1,415	1,689
	男女計	2,915	3,396
1985	男	1,379	1,580
	女	1,375	1,500
	男女計	2,754	3,080

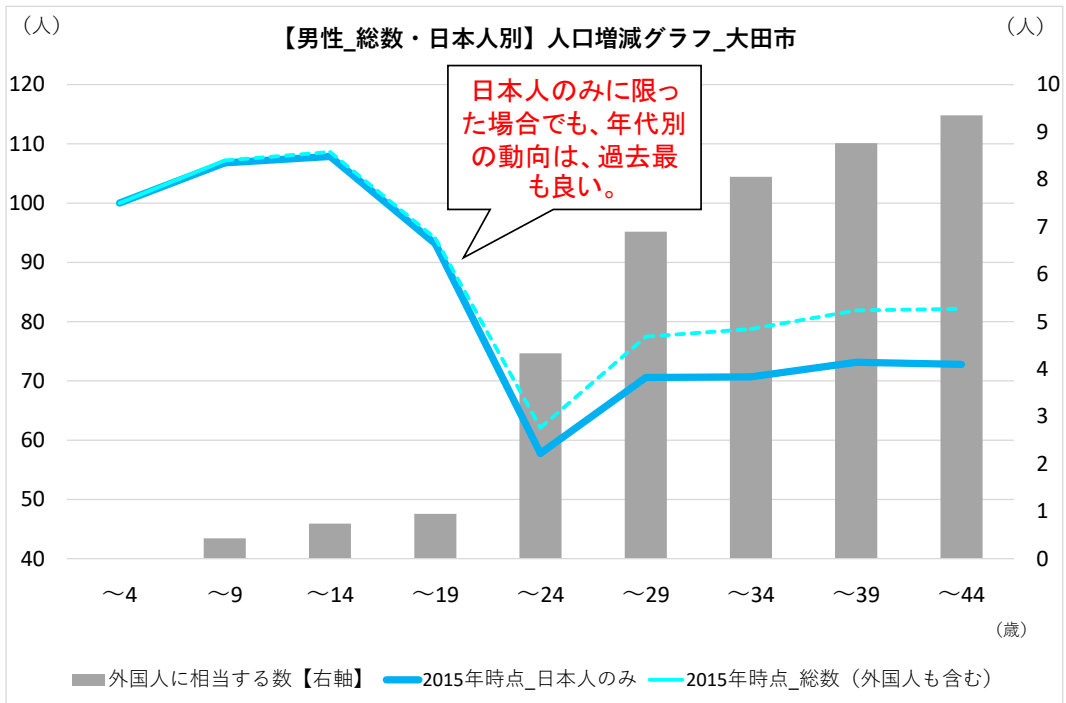
$$= 1,580 / 1,500 = 1.05$$

(4) 結果

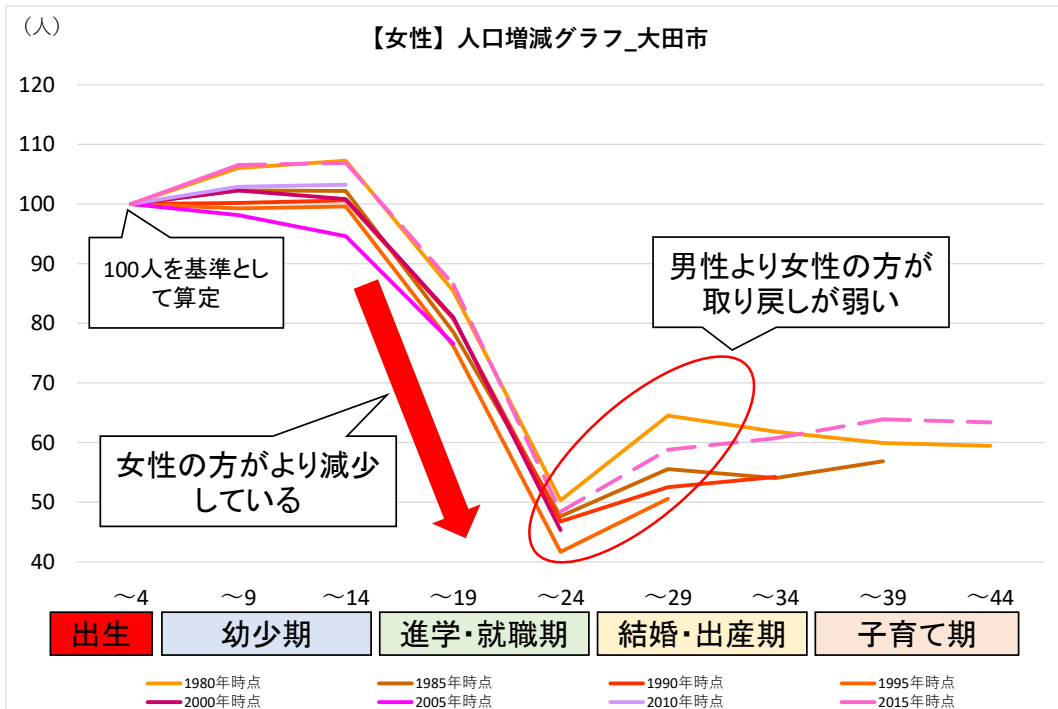
[大田市におけるこれまでの人口増減数【男性】(データ：国勢調査)]



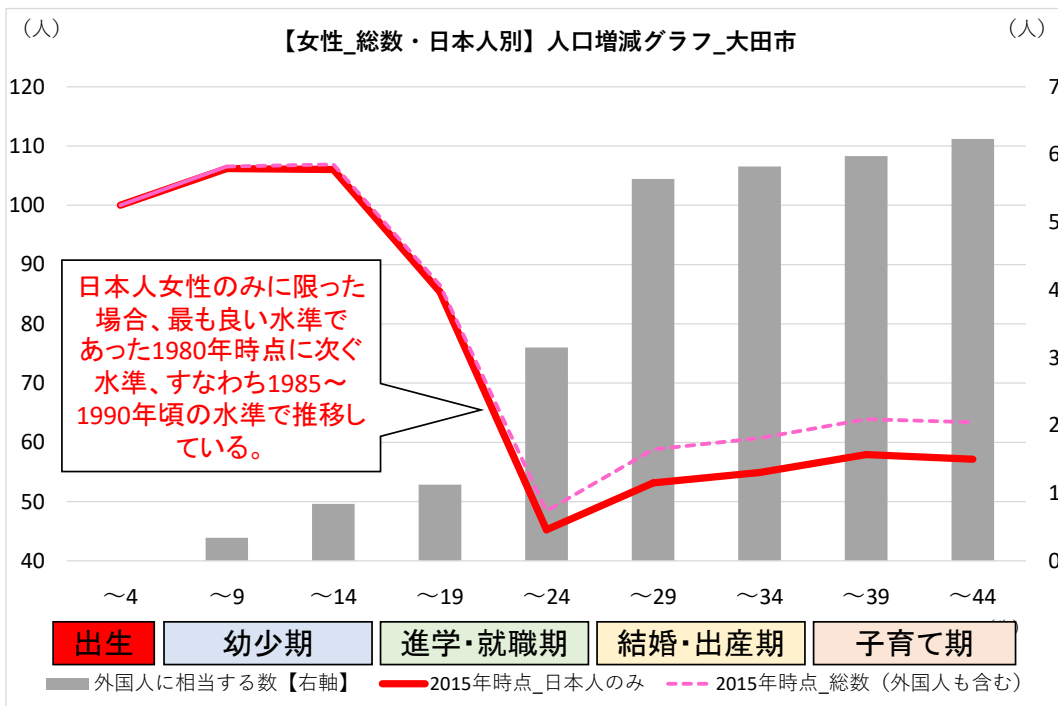
[[「2015年時点」を日本人のみにした場合のグラフ]



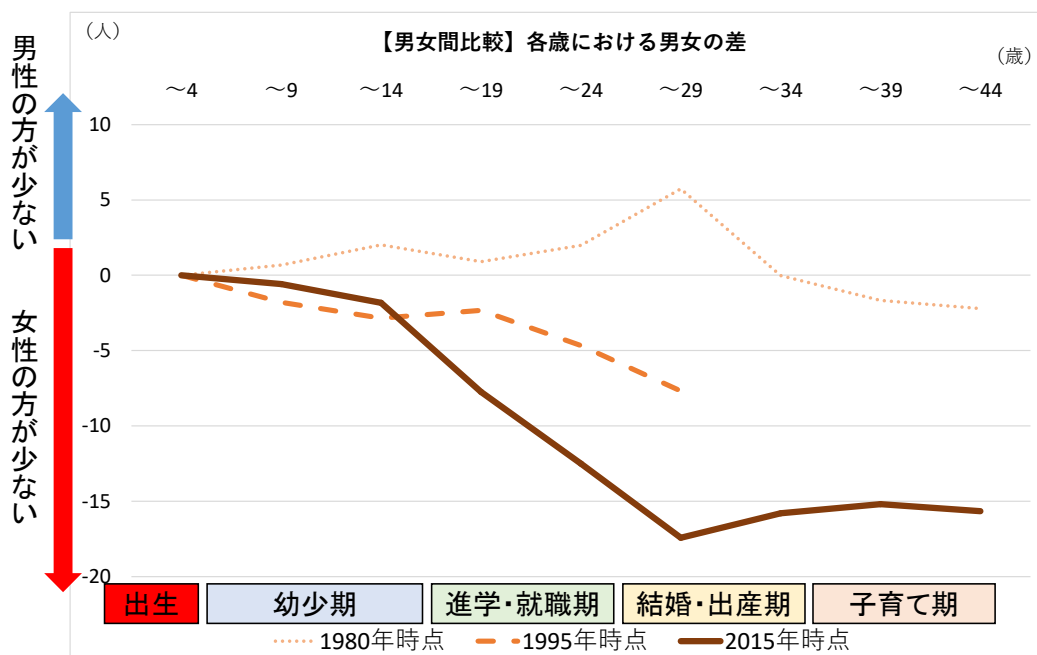
[大田市におけるこれまでの人口増減数【女性】(データ：国勢調査)]



[「2015年時点」を日本人のみにした場合のグラフ]



[人口増減数の男女間比較～男女間での傾向の違いをみる]



■ 上記グラフの計算式＝女性の数－男性の数  
 ⇒つまり、0より下に位置しているグラフは、女性の方が人口動態が悪い状態（差し引きで男性よりも人口減少が進んでいる）であることを示す。

全体を俯瞰してみると、男性よりも女性の方が各年代における減少幅が大きくなっている。また、「15～19歳」から「20～24歳」の期間に注目すると、世代が新しくなればなるほど、「女性の方が少ない」にグラフが移行し、かつグラフの傾斜がきつくなっており、男性よりも女性の方がより人口が減少するペースが速いことが分かる。



## 2. 人口循環率

### (1) 目的

人口が増減する要因として、人口の流入による要因が大きいと考えられる。このため、赤ちゃんとして生まれた女の子が成長して出産適齢期に至るまでにどの程度流入しているのかを算出するとともに（＝出産適齢期残存率）、出産適齢期の女性が子どもを産む数（ここでは合計特殊出生率）を掛け合わせることで、親世代から子世代へと世代交代する際にどの程度の出生力を示すかを算出する（＝出産適齢期出生率）。

### (2) 基本的な考え方

人口の循環度合を表す基本的な考え方として、男女の大人 2 人に対して子どもが 2 人（もしくはそれ以上）生まれることで、人口は維持（もしくは増加）することになるという状態を理想として分析を行った。

### (3) 算定式

人口の循環度合を表す基本的な考え方として、男女の大人 2 人に対して子どもが 2 人（もしくはそれ以上）生まれることで、人口は維持（もしくは増加）することになるという状態を理想として分析を行った。

人口循環率 (2) = 0～4 歳-5～9 歳女性人口変化率 × 5～9 歳-10～14 歳女性人口変化率 × 10～14 歳-15～19 歳女性人口変化率 × 15～19 歳-20～24 歳女性人口変化率 × 20～24 歳-25～29 歳女性人口変化率 × 25～29 歳-30～34 歳女性人口変化率 × 30～34 歳-35～39 歳女性人口変化率 × 合計特殊出生率

○青文字：出産適齢期残存率の部分を表す式。

実際に子どもがどれだけ生まれるのか（出生数）は母親の数がいくら存在するかで決まる。そこで、0 歳の女性が生まれた後の流入の具合（人口の変化率）を求めるため、5 歳階級ごとのコーホート変化率を用いた。なお、直接的に出生に影響するのは出産適齢期（ここでは、20 歳～39 歳の女性）の女性人口であるため、より分析を簡単にするため、39 歳までの女性のみをコーホート変化率を用いて算出した。

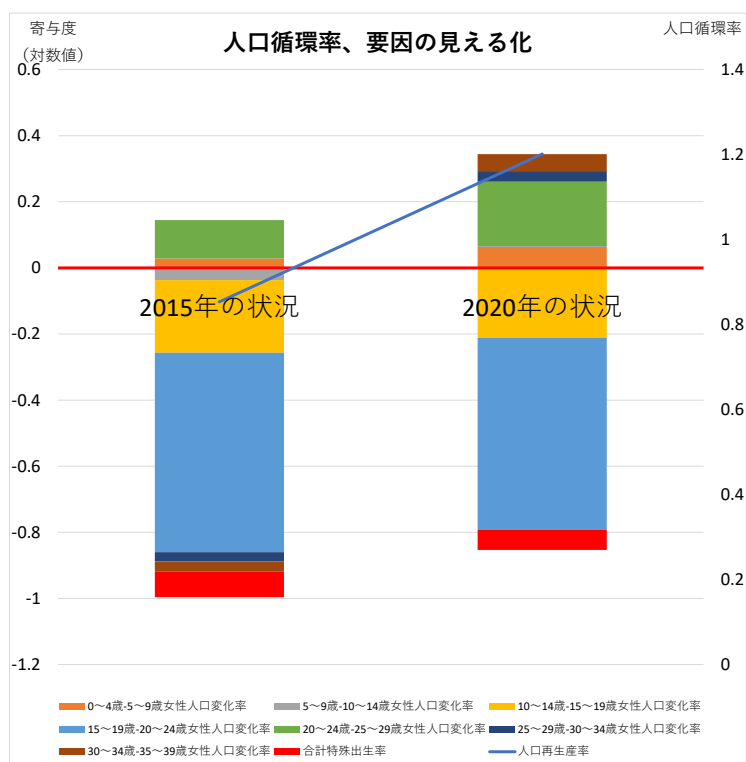
○赤文字：出産適齢期出生率の部分を表す式。

出産適齢期を迎えた女性がどの程度の割合で子どもを産むのかを、いわゆる、子ども女性比の考え方をを用いて算出した。



## (4) 結果

[人口循環率について]



■データの諸元									
	人口再生産率	0～4歳-5～9歳女性人口変化率	5～9歳-10～14歳女性人口変化率	10～14歳-15～19歳女性人口変化率	15～19歳-20～24歳女性人口変化率	20～24歳-25～29歳女性人口変化率	25～29歳-30～34歳女性人口変化率	30～34歳-35～39歳女性人口変化率	合計特殊出生率
2015	0.853507453	0.028529146	-0.03712052	-0.21916398	-0.60381849	0.116146141	-0.02787492	-0.0313462	-0.07689936
2020	1.201736431	0.063397245	0.003125112	-0.2113138	-0.58053304	0.194159544	0.032205781	0.051158785	-0.06157928

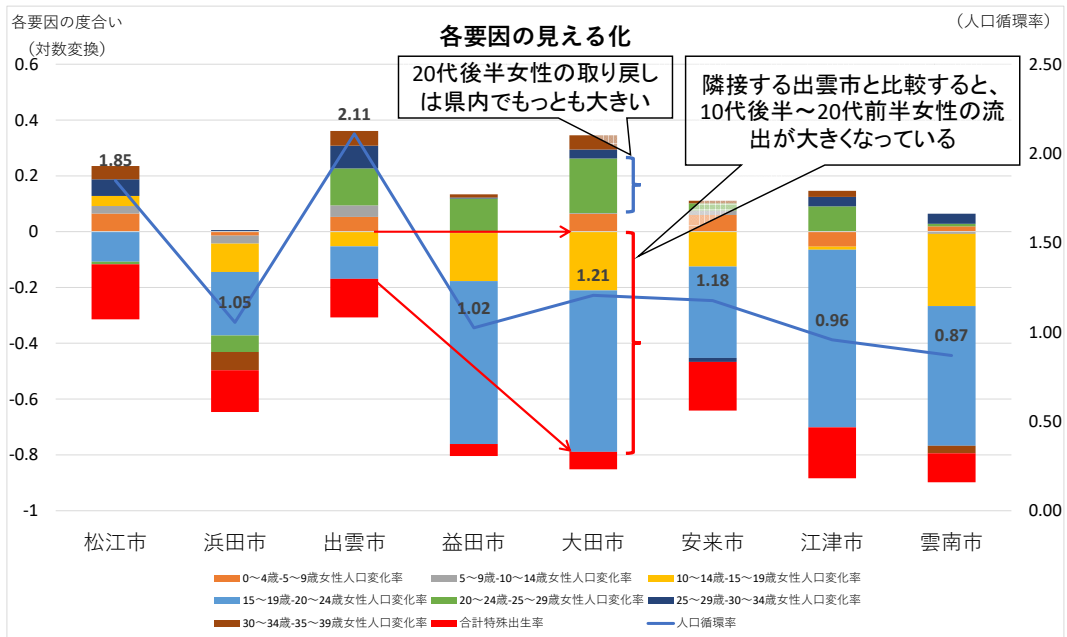
※) 対数変換による数値のプラスマイナスを表現するため、ここでの合計特殊出生率は、子ども女性比に2を掛けた数字としている。

大田市における人口再生産率については、2015年は0.85、2020年は1.20となっており改善はしているが、人口が置換可能な水準である「2」には到達していない。

最もマイナスに寄与しているのは、15～19歳-20～24歳女性人口変化率である。

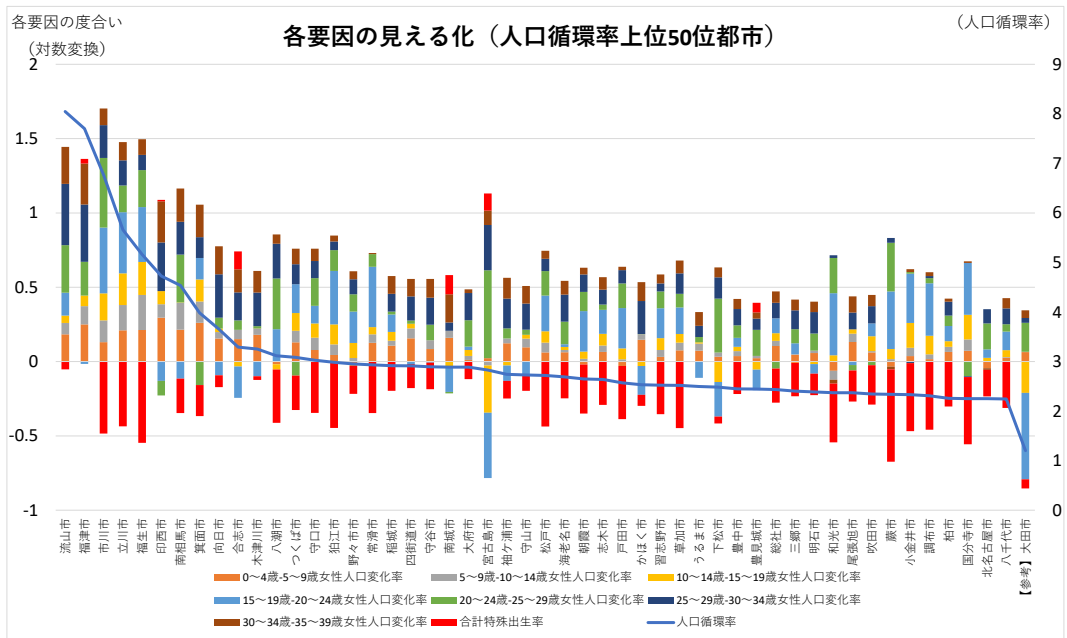
つまり、出産期以前における流出超過の累積が少子化・人口減少の一番の要因となっていることが数字上からも明らかとなった。

[<参考>島根県内8市における人口循環率の状況]



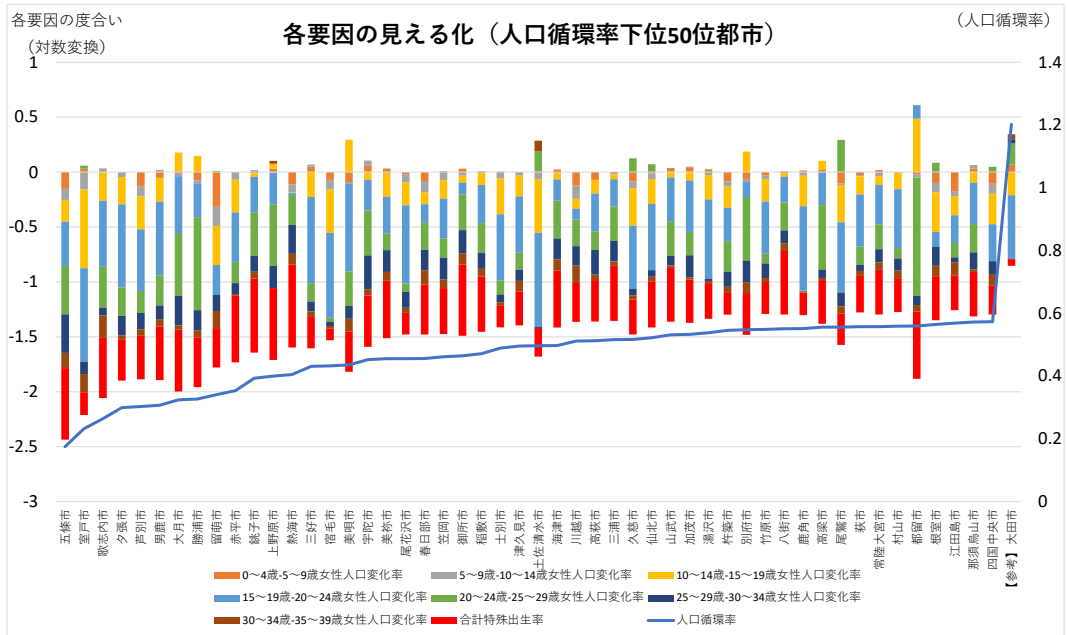
大田市の人口再生産率は、出雲市と松江市に次いで3番目の高さとなっている。

[<参考>他都市における人口循環率上位50都市算出結果 (人口50万以下の市)]



人口循環率が高い都市ほど、各年齢別女性人口の増加が多く影響している。最も影響を与えているのは出生率、次いで15～19歳-20～24歳女性人口変化率である。

[<参考>他都市における人口循環率下位 50 都市算出結果（人口 50 万以下の市）]



人口循環率が低い都市ほど、各年齢別女性人口の減少による影響が多くなっている。最も影響を与えているのは出生率、次いで 15～19 歳-20～24 歳女性人口変化率である。

## Ⅱ 人口に関する分野横断的分析結果

人口減少の原因を解明した上で、さまざまな分野での人口動態への影響を深掘りする必要がある。そこで、産業別の就業人口と通勤・通学の動きを調査し、これらが地域社会に与えている影響について分析した。

### 1. 産業別就業人口

#### (1) 目的

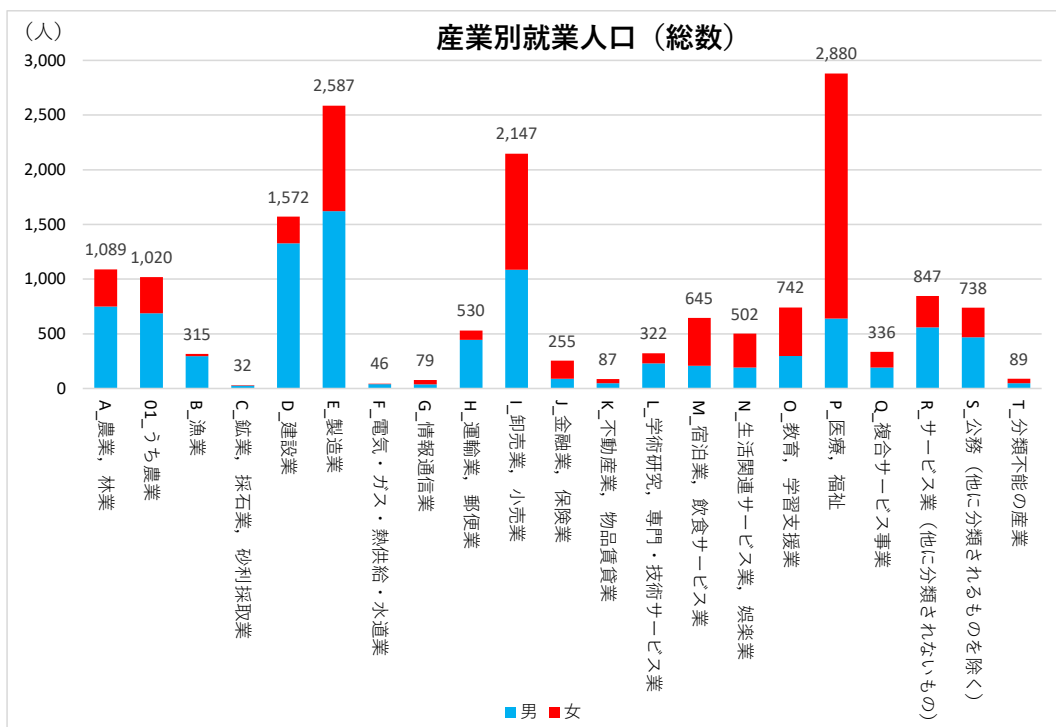
産業別就業者の分析は、労働市場の動向を理解する上で重要である。これにより、人々がどの産業で働いているか、またどのような職業が選ばれているかが明らかとなる。この分析を通じて、職業選択の指標を提供し、地域経済の構造と労働市場の需給関係を把握することが目的である。

#### (2) 結果

##### ア) 全産業分類

大田市の雇用を支えている主要産業は、「農業」、「建設業」、「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「公務」となっている。なお、就業者総数は、16,860 人となっている。

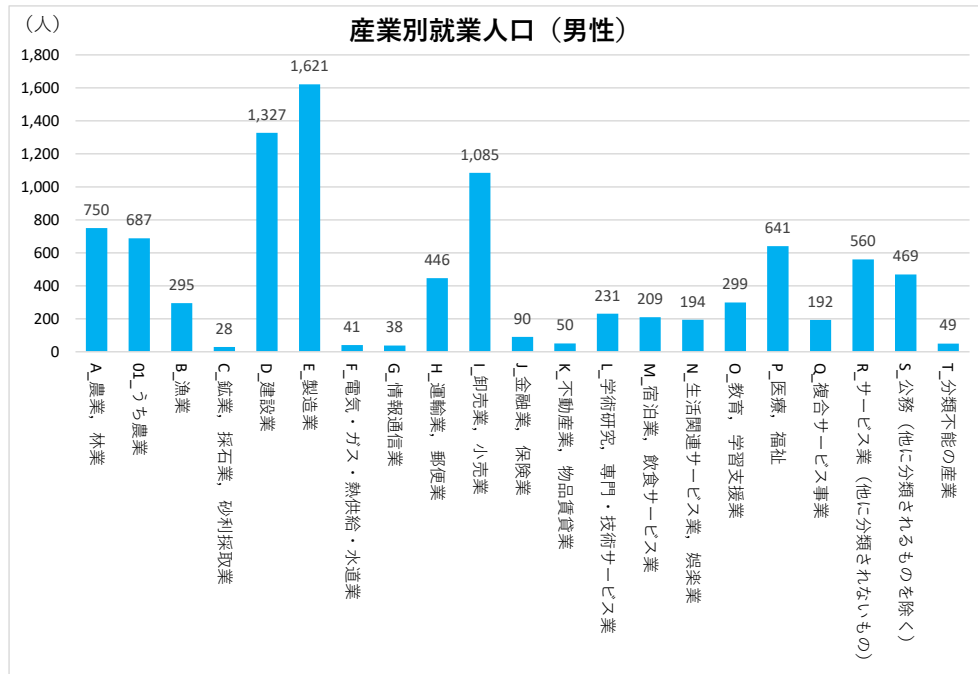
[産業別就業人口 (総数)]



データ) 2020年国勢調査

男性の就業先として最も多いのは「製造業」、次いで「建設業」となっている。なお、男性就業者数は9,302人となっている。

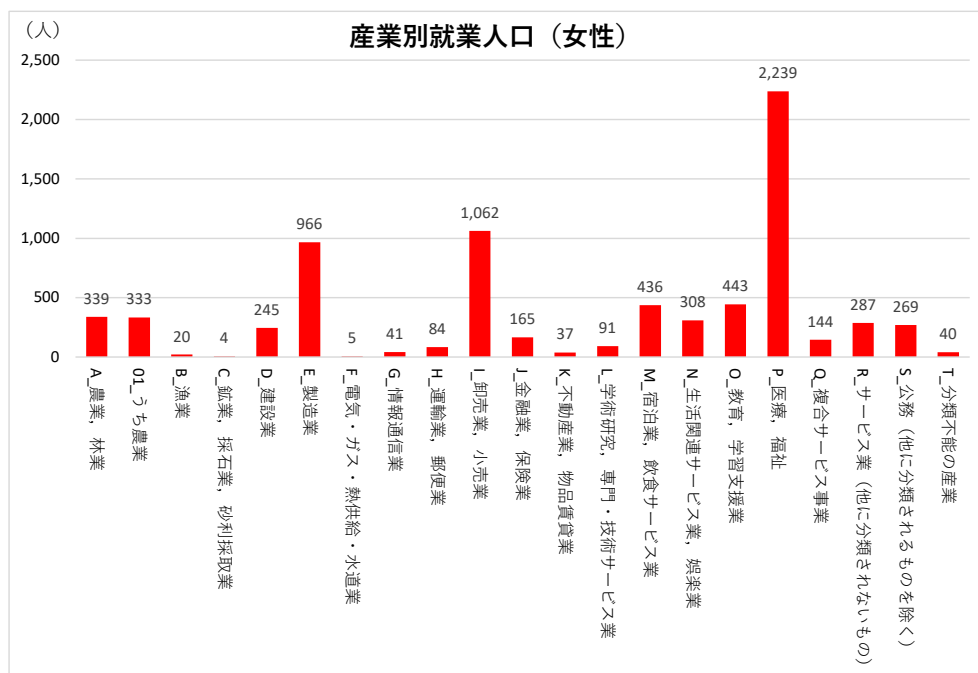
[産業別就業人口（男性）]



データ) 2020年国勢調査

女性の就業先として最も多いのは「医療、福祉」となっている。なお、女性就業者数は7,558人となっている。

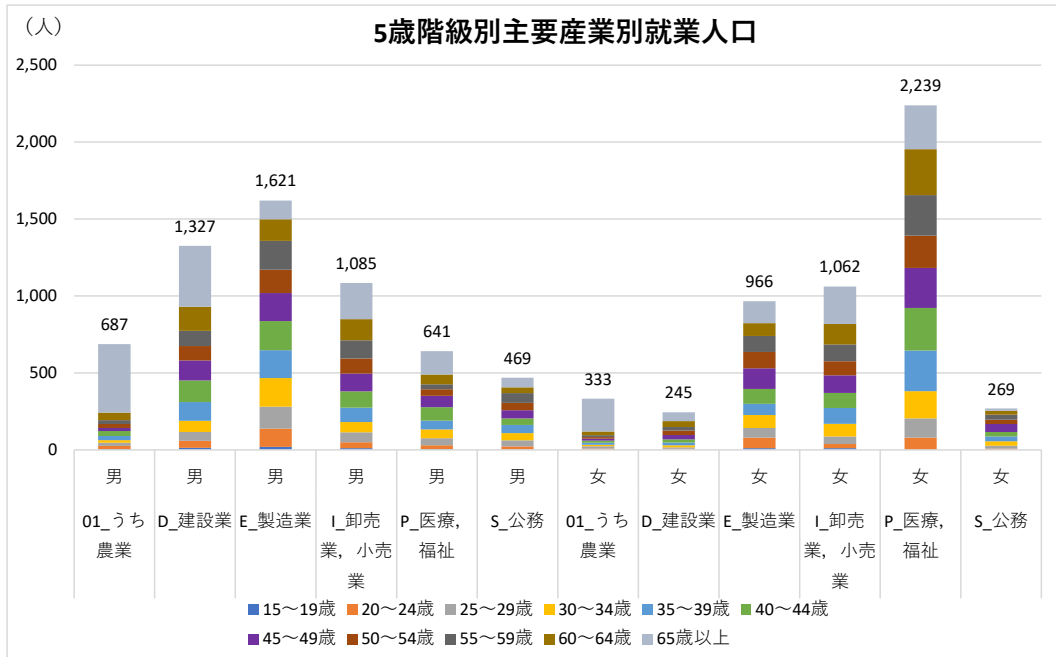
[産業別就業人口（女性）]



データ) 2020年国勢調査

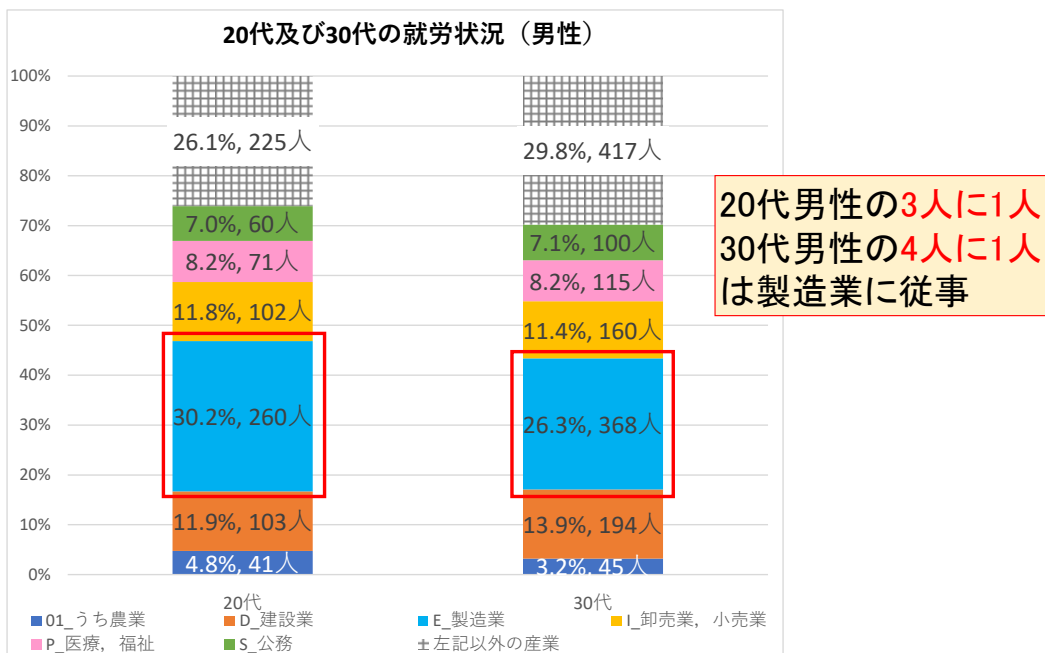
年代構成のバランスをみると、「男性：建設業」と「女性：医療、福祉」は比較的多様な年代で構成されているのに対し、農業や建設業は半数～3割以上が65歳以上の高齢者となっている。

[5歳階級別主要産業別就業人口]



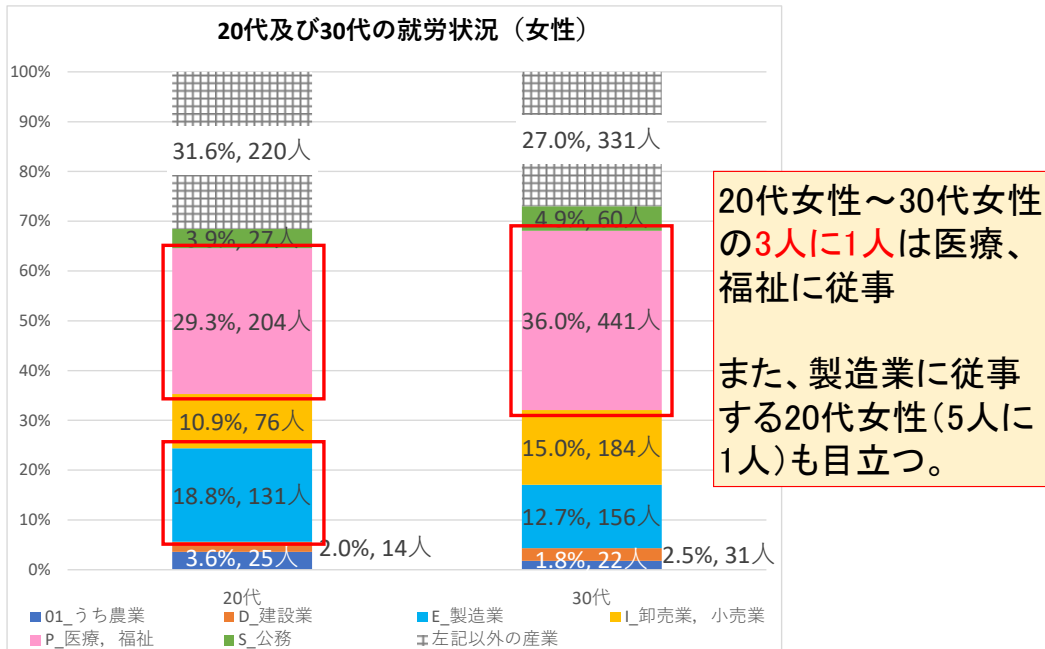
20代～30代男性の雇用を支えている産業は、「製造業」となっている。

[若年層の就労状況（大田市・男性）]

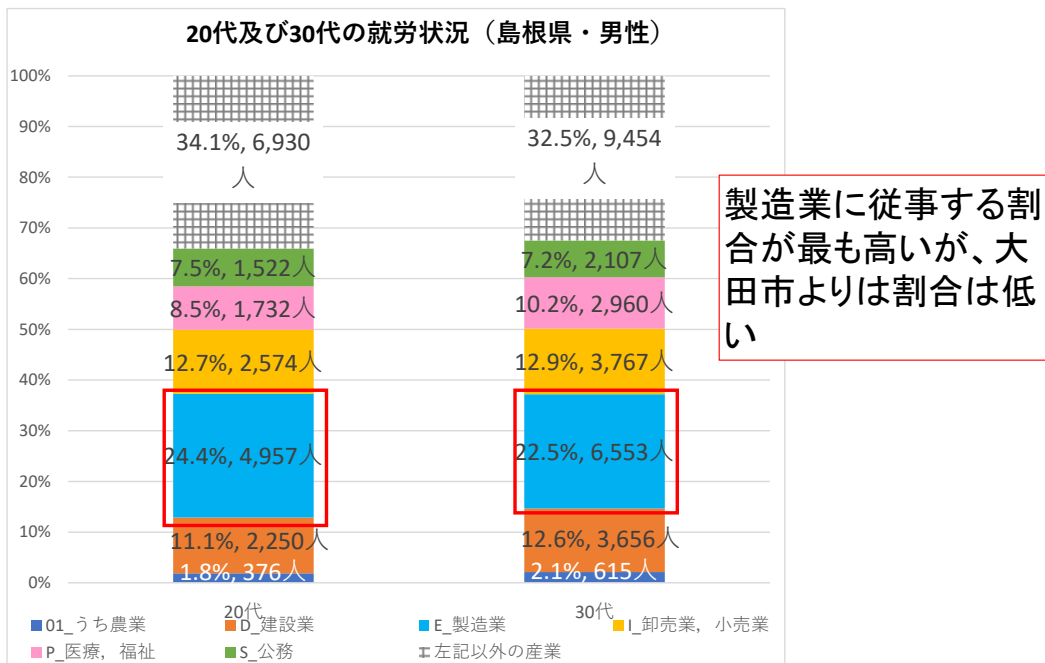


20代～30代女性の雇用を支えている産業は、「医療、福祉」となっている。

[若年層の就労状況（大田市・女性）]

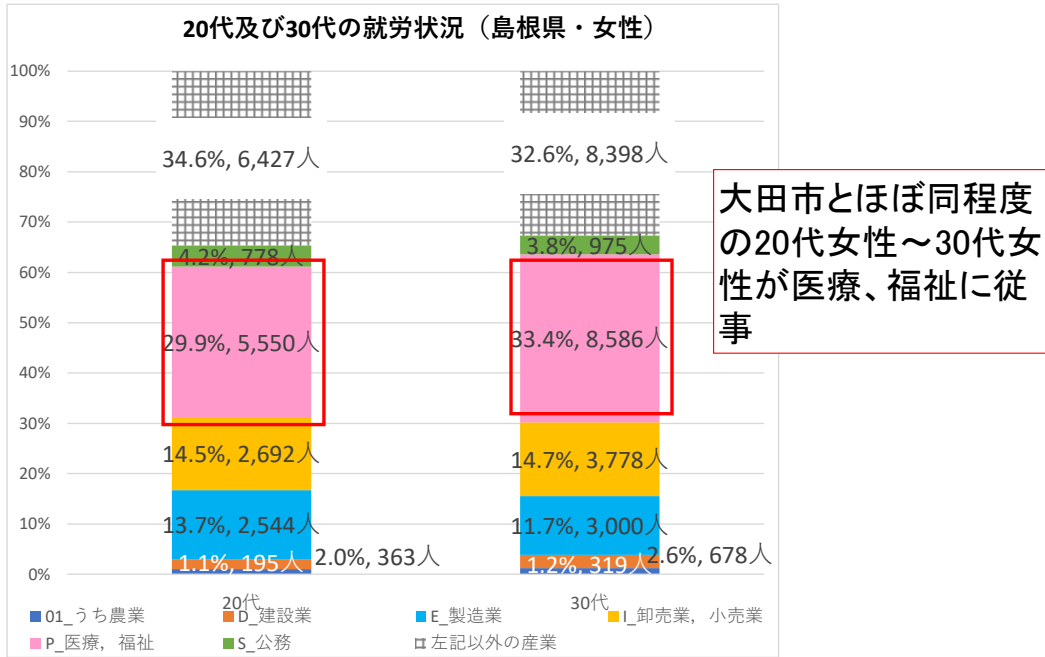


[<参考>若年層の就労状況（島根県・男性）]





[<参考>若年層の就労状況（島根県・女性）]



イ) 医療・福祉の状況

医療については、小児科系診療所及び病床数は県平均と比較して2～3倍多い。医師数は県平均より少ない。

■地域医療

	施設数	人口10万人あたり施設数	
	大田市	大田市	島根県
一般診療所数	28	85.25	82.99
うち小児科系診療所数	14	42.62	23.24
うち産婦人科系診療所数	0	0	4.32
病院数	2	6.09	6.85

※一般診療所の施設数は重複してカウントされている

※大田市立病院に産婦人科、小児科あり

	病床数	人口10万人あたり病床数	
	大田市	大田市	島根県
一般診療所病床数	67	203.98	56.92
病院病床数	397	1208.67	1444.29

	人員数	人口10万人あたり人員数	
	大田市	大田市	島根県
医師数	68	207.03	297.71
歯科医師数	13	39.58	54.98
薬剤師数	30	91.34	92.68

出典) 日本医師会 「地域医療情報システム」

介護については、施設数及び職員数ともに、県平均と同程度の水準にある。

■地域介護

	施設数	75歳以上1千人あたり施設数	
	大田市	大田市	島根県
介護施設数	94	12.9	13.1

	定員数	75歳以上1千人あたり定員数	
	大田市	大田市	島根県
入所定員数	592	81.27	86.78

	人員数	75歳以上1千人あたり人員数	
	大田市	大田市	島根県
介護職員数	559.79	76.85	78.01

出典) 日本医師会 「地域医療情報システム」

ウ) 製造業の状況

波根地区において製造業、建設土木、運輸等の企業が集積した工業団地が存在する。



- 新生飼料(株): 家畜飼料製造・販売
  - イマックス(株): 管工事
  - 島根電工(株): 電気工事
  - 島根電機(株): 電気機械器具製造
  - 黒徳建設(株): 港湾工事
  - (株)丸田: 卸売業
  - (株)桜木機工: 精密機械加工
  - (株)Eco-Life: 卸売業
  - (株)東路: 道路貨物運送業
  - (株)出雲村田製作所: 電子部品製造
- \*所在地/大田市波根町(事業主体: 大田市)

## 2. 大田市通勤・通学者の動向

### (1) 目的

通勤・通学者の動向の数値調査は、地域内外への人の流れを把握する上で不可欠である。そこで、男女別に通勤・通学先を調査した。

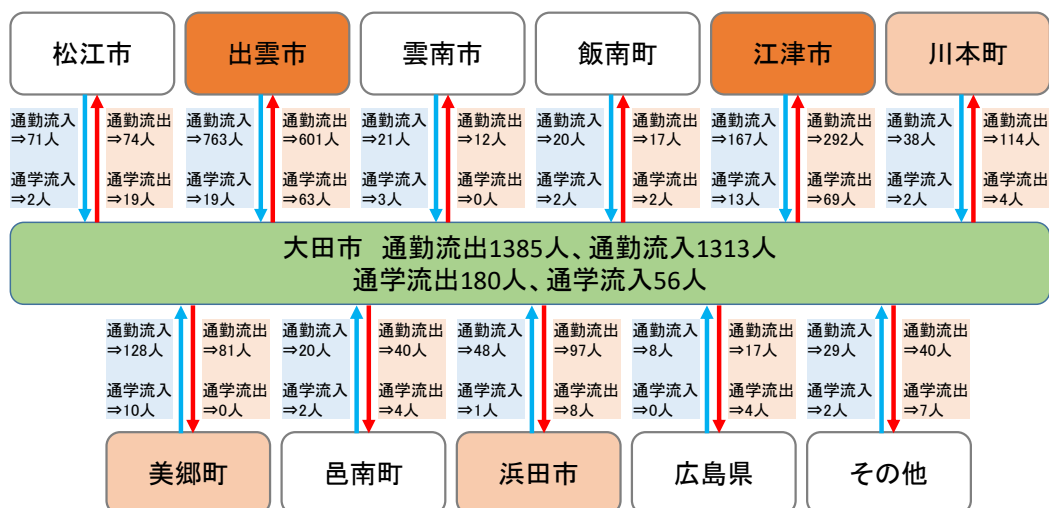
### (2) 結果

#### ア) 男性の状況

通勤について、流出入の状況を見ると、約70人の流出超過となっているがその差は1割未満である。流出先として最も多いのは出雲市、次いで江津市、川本町、浜田市となっている。流入元として最も多いのは出雲市、次いで江津市、美郷町となっている。

続いて、通学について、流出入の状況を見ると、圧倒的に流出の方が多い。流出先として最も多いのは江津市、次いで出雲市となっている。

【男性】通勤・通学者の動向



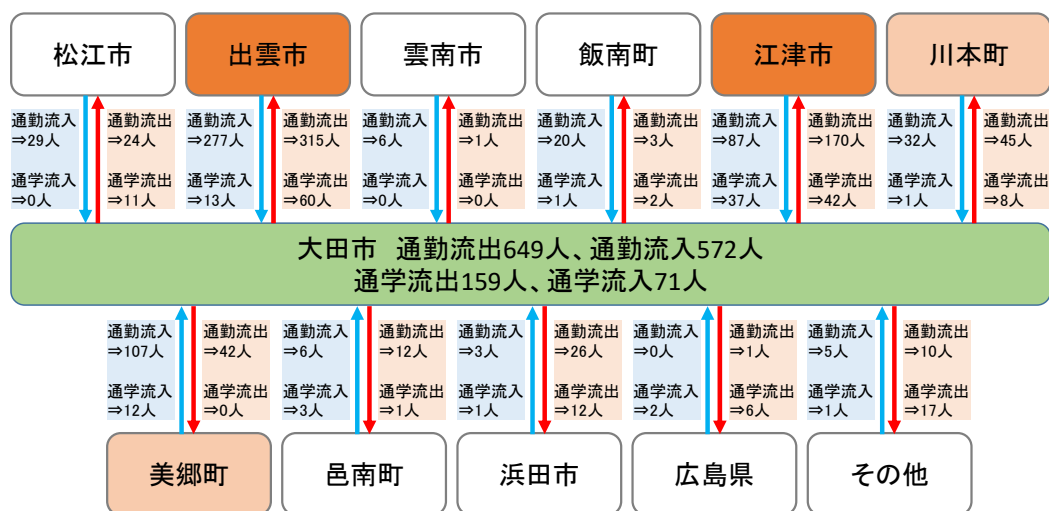
出典) 2020年国勢調査

## イ) 女性の状況

通勤について、流出入の状況を見ると、流出超過となっている。流出先として最も多いのは出雲市、次いで江津市、川本町、美郷町となっている。流入元として最も多いのは出雲市、次いで美郷町、江津市となっている。

続いて、通学について、流出入の状況を見ると、圧倒的に流出の方が多い。流出先として最も多いのは出雲市、次いで江津市となっている。

【女性】通勤・通学者の動向



出典) 2020 年国勢調査

### Ⅲ アンケート調査結果

#### 1. 市民アンケート調査概要





##### (1) 目的

独身世帯、婚姻世帯へのアンケート調査を実施し、実態やニーズ、活用できる市内資源等を洗い出す。併せて、若い世代の市外流出の要因等を分析するため、18歳以上45歳以下の若年層の意向調査を行う。

##### (2) 実施概要

- ・実施月：2023年7月～8月
- ・実施方法：しまね電子申請サービスによるオンラインのみでの回答受付
- ・調査対象：18歳以上45歳以下の市民6,964人  
※ただしパートナーがいる世帯はどちらか片方のみ回答
- ・回収数：全959票

##### ■調査票別回収数

	属性	本分析での表現	回収数(世帯)
A	パートナーあり、子どもあり	ふたり親(子あり)世帯	 377
B	パートナーあり、子どもなし	ふたり親(子なし)世帯	 84
C	パートナーなし、子どもあり	独身(子あり)世帯	 48
D	パートナーなし、子どもなし	独身(子なし)世帯	 450

##### (3) 調査結果の留意事項

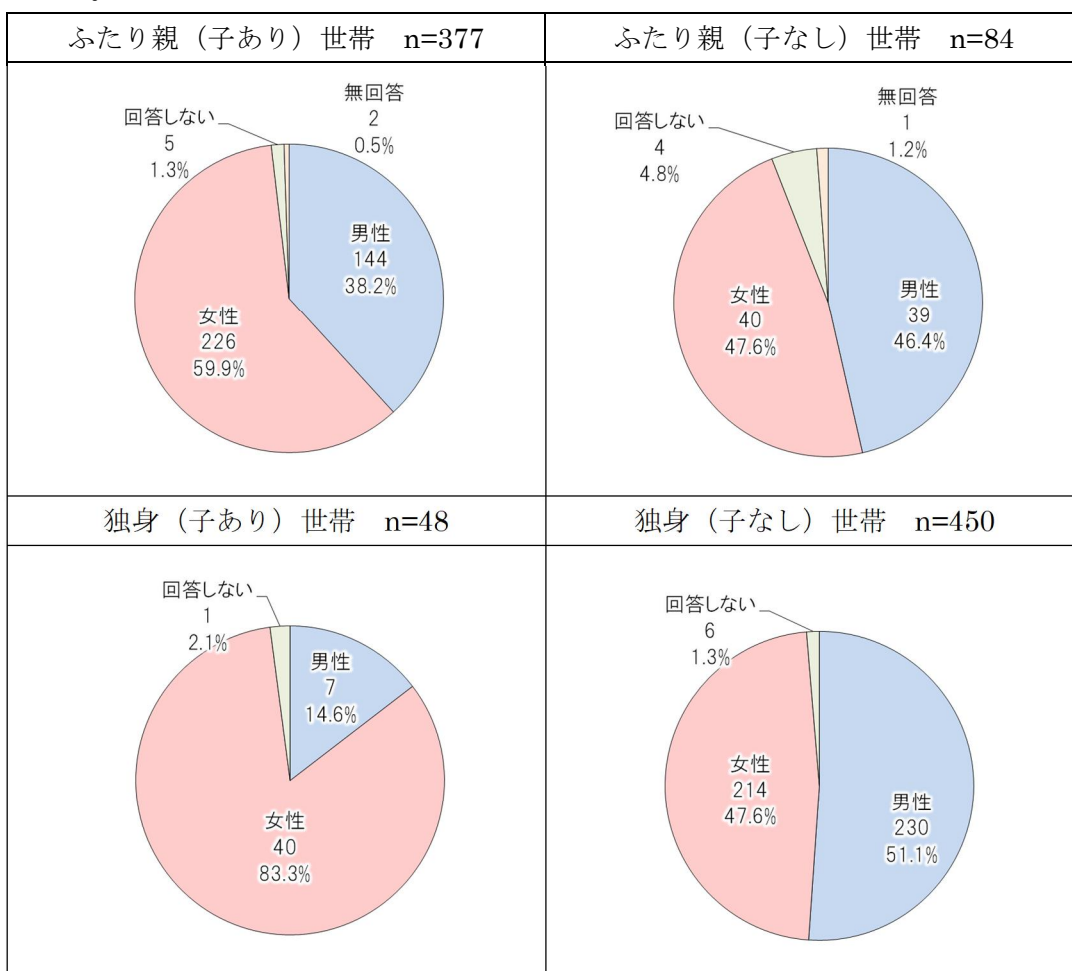
- ・母数 (n) について  
本アンケート調査では、4つの対象に共通した設問、独立した設問が存在する。そのため、分析結果の全てが959票を母数としているのではなく、対象を絞った回答結果もある。
- ・本分析結果での表記の説明  
【パートナーの有無に関して】  
「調査票 A,B 合算」としたものは、主に「ふたり親世帯」と記載。  
「調査票 C,D 合算」としたものは、主に「独身世帯」と記載。  
  
【子どもの有無に関して】  
「調査票 A,C 合算」としたものは、主に「子あり世帯」と記載。  
「調査票 B,D 合算」としたものは、主に「子なし世帯」と記載。

## 2. 市民アンケート調査結果

### (1) 基礎情報

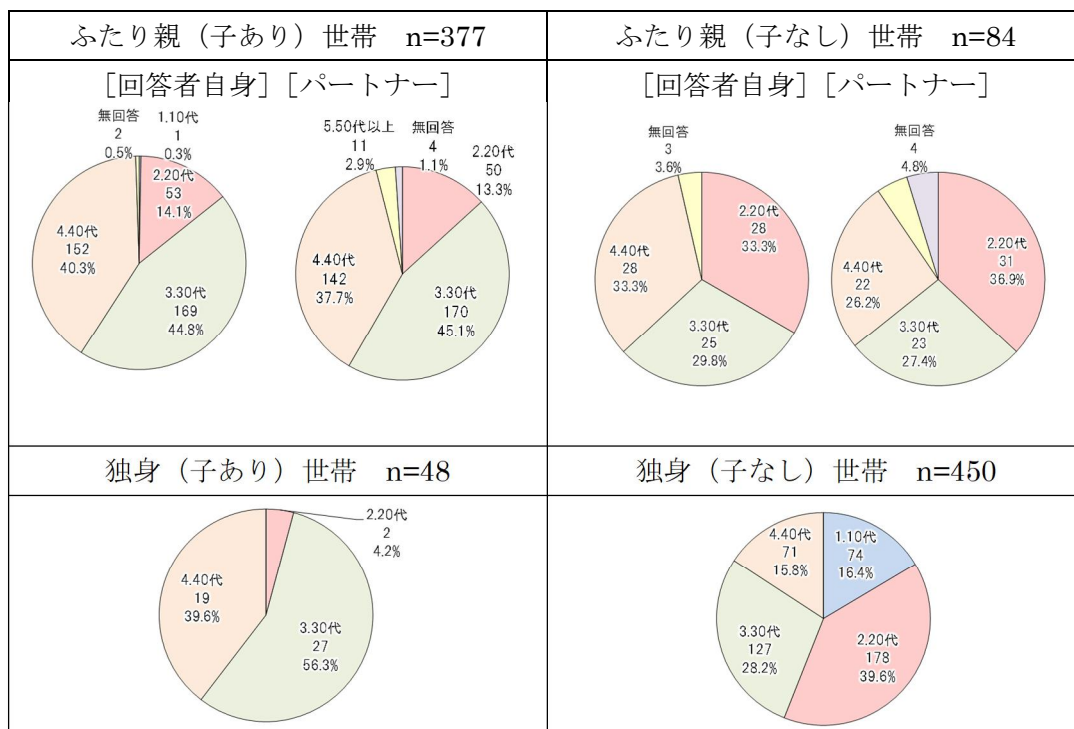
#### ア) 回答者の性別

回答者の性別は以下の通り。本アンケートに回答した一人親の約 8 割は女性となっている。



## イ) 回答者（パートナー）の年齢

回答者の年齢は以下の通り。



[調査票別性別と年齢の内訳]

		調査票A		調査票B		調査票C	調査票D
		回答者	パートナー	回答者	パートナー		
男性	10代	0	0	0	0	0	30
	20代	16	29	12	17	0	76
	30代	73	87	14	10	0	80
	40代	55	98	12	11	7	44
	50代以上	0	11	0	2	0	0
女性	10代	1	0	0	0	0	43
	20代	36	20	15	13	2	99
	30代	94	82	11	13	27	46
	40代	95	41	14	9	11	26
	50代以上	0	0	0	2	0	0
回答しない	10代	0	0	0	0	0	1
	20代	1	1	1	1	0	3
	30代	2	1	0	0	0	1
	40代	2	3	2	2	1	1
	50代以上	0	0	0	0	0	0

【参考値】 調査票別性別の平均年齢 単位：歳

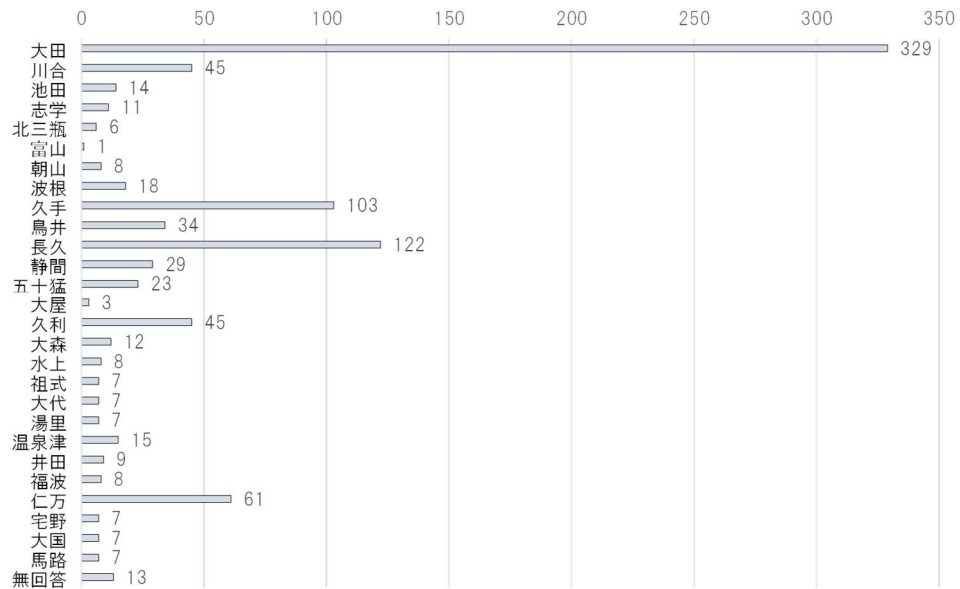
性別	調査票A		調査票B		調査票C	調査票D
	回答者	パートナー	回答者	パートナー		
男性	38	39	35	35	45	31
女性	38	36	35	35	37	28

※年齢は10歳階級での設問としていたことから、10歳階級の中央値（10代であれば15歳と仮定）を回答者数でかけ合わせものを回答者数で除している。なお50代以上の中央値は55歳と仮定して算定。

### ウ) 回答者の居住地

「大田」にお住まいの方からの回答が最も多く、次いで「長久」、「久手」となっている。

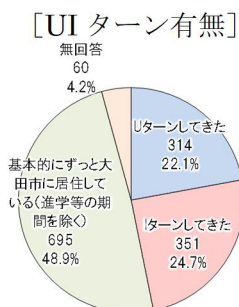
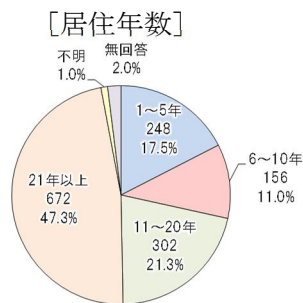
地区名	大田	川合	池田	志学	北三瓶	富山	朝山	波根	久手	鳥井	長久	静間	五十猛	大屋
件数	329	45	14	11	6	1	8	18	103	34	122	29	23	3
割合	34.3%	4.7%	1.5%	1.1%	0.6%	0.1%	0.8%	1.9%	10.7%	3.5%	12.7%	3.0%	2.4%	0.3%
地区名	久利	大森	水上	祖式	大代	湯里	温泉津	井田	福波	仁万	宅野	大国	馬路	無回答
件数	45	12	8	7	7	7	15	9	8	61	7	7	7	13
割合	4.7%	1.3%	0.8%	0.7%	0.7%	0.7%	1.6%	0.9%	0.8%	6.4%	0.7%	0.7%	0.7%	1.4%



### エ) 居住年数とUIターン有無（パートナー含む、n=1,420）

居住年数は21年以上が最も多く、次いで「11～20年」、「1～5年」となっている。

約5割近くがUIターンで大田市に来ている。また、UIターン元としては、「出雲市」が最も多く、次いで「松江市」、「広島市」となっている。

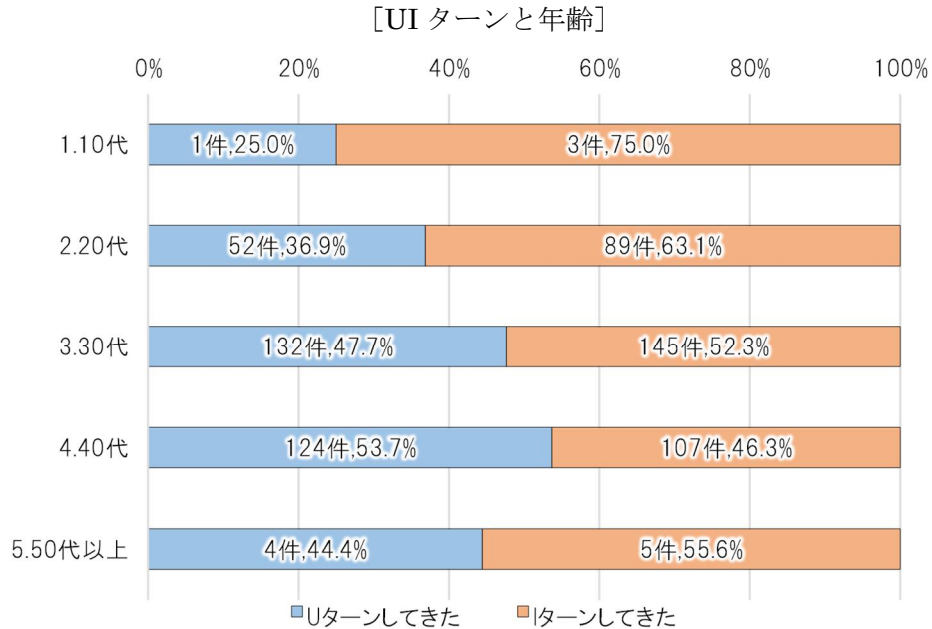


順位	UIターン元	件数
1	島根県出雲市	89
2	島根県松江市	76
3	広島県広島市	33
4	島根県浜田市	28
5	広島県(市町村名不明)	27
6	大阪府(市町村名不明)	24
7	大阪府大阪市	21
8	島根県江津市	18
9	島根県益田市	18
10	東京都(市町村名不明)	13
11	島根県雲南市	12
12	島根県美郷町	11
13	京都府京都市	10
14	京都府(市町村名不明)	7
15	岡山県(市町村名不明)	7
16	鳥取県鳥取市	6
17	島根県川本町	6
18	島根県(市町村名不明)	6
19	神奈川県(市町村名不明)	6
20	福岡県福岡市	6



オ) UI ターン限定クロス集計<年齢とのクロス> (n=653 (無回答除外))

UI ターン者に限定して、その年齢内訳をみると、年齢が上がるほどUターン者は増加し、Iターン者は減少している。



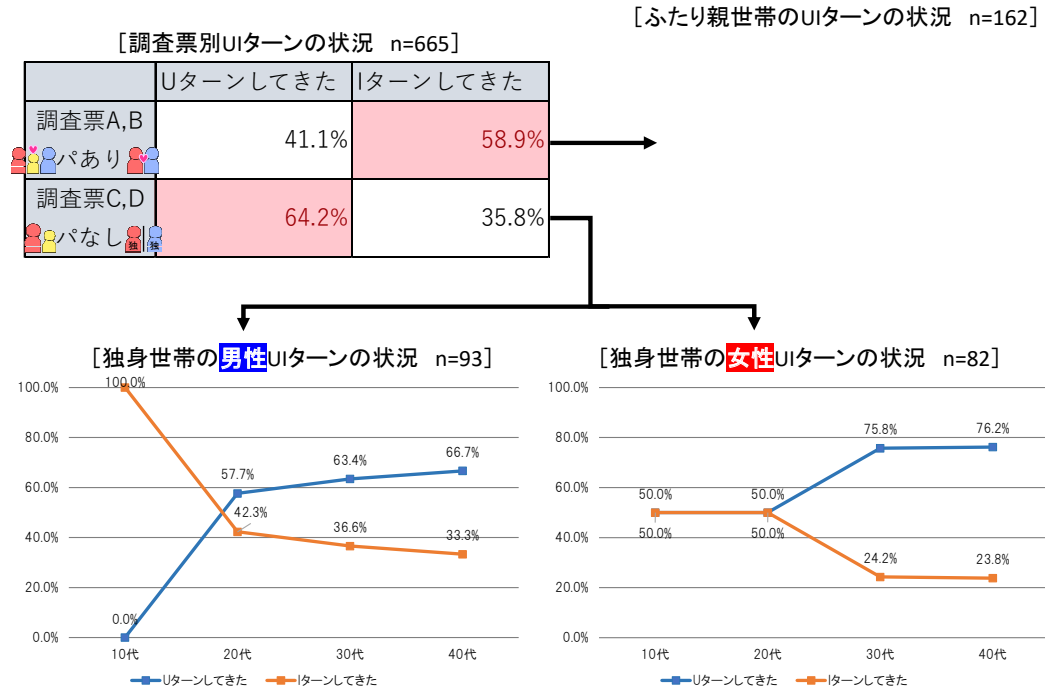
【分析結果に関する留意事項】

より焦点を絞った分析を行うため、「基本的にずっと大田市に居住している」及び無回答は除いて分析している。

ここでの母数は 653 票 (n=653) とする。前スライドでは、U ターン者が n=314、I ターン者が n=351 であるため、純粋な母数は n=665 となるが、年齢無回答が存在するため、ここでは、無回答を除いた数で集計している。以降同様。

カ) UI ターン限定クロス集計<性別とのクロス> (n=665 (無回答除外))

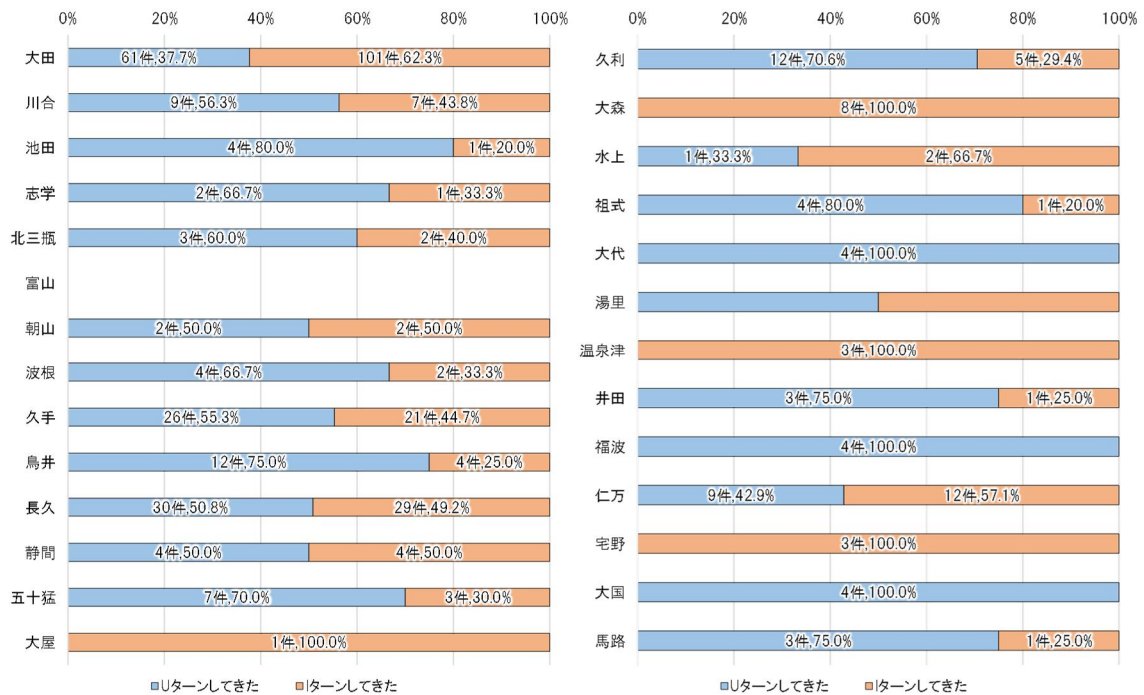
UI ターン者に限定して、パートナーがいる世帯といない世帯で、UI ターンの傾向は大きく分かれる。



キ) UI ターン限定クロス集計<地域とのクロス> (n=424 (無回答除外))

UI ターン者に限定した地域別の内訳は以下の通り。

[UI ターンと地域とのクロス]



※より焦点を絞った分析を行うため、「基本的にずっと大田市に居住している」及び無回答は除いて分析している。

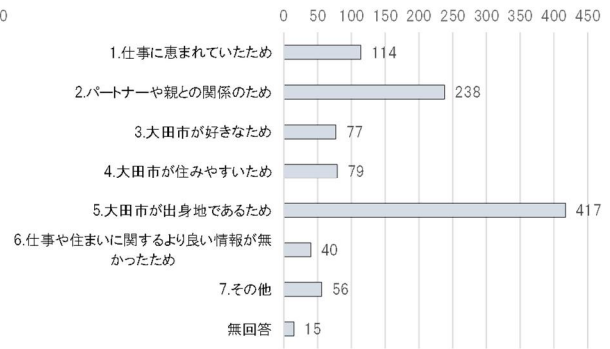
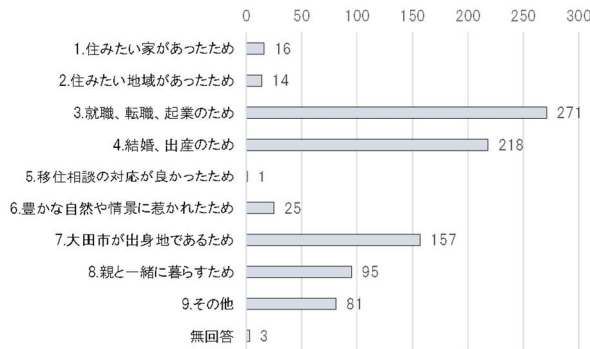
ク) UI ターン理由と居住理由 (パ含む、n=1420)

UI ターンの理由として最も多いのは「転職、就職、起業のため」となっており、次いで「結婚、出産のため」となっている。

基本的に大田市に居住している理由として最も多いのは「大田市が出身地であるため」となっており、次いで「パートナーや親との関係のため」となっている。

【UI ターンの理由】

【基本的に大田市に居住している理由】



【その他回答】

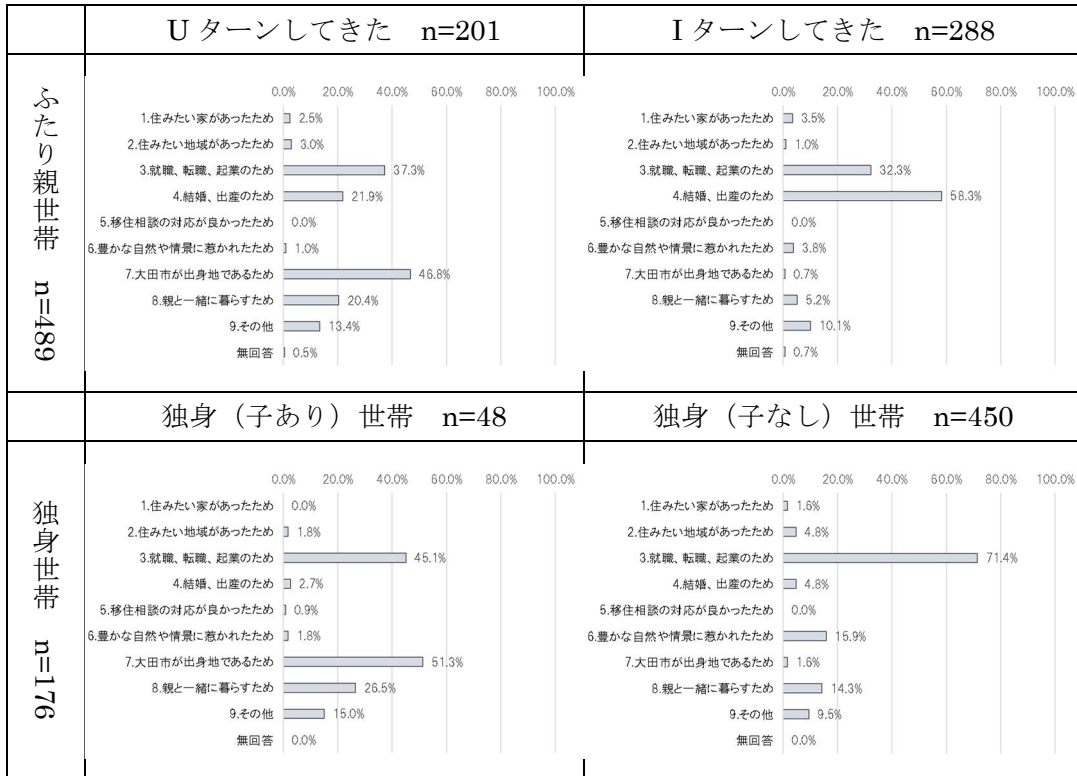
- ・ 離婚のため
- ・ 失業したため
- ・ 家族の離別のため
- ・ パートナーの都合のため
- ・ 子育てのため
- ・ コロナのため

【その他回答】

- ・ 土地と家を継ぐため
- ・ 県外に出る機会が無かった。特に行く場所が無かった。
- ・ 県外に行くのが面倒だから
- ・ 大田の人と結婚したから
- ・ 実家暮らしだから
- ・ 神楽のため
- ・ 地元企業の就職試験に受かったため

ケ) UIターン理由限定クロス集計<調査票別とのクロス> (n=314 (無回答除外))

UIターン者に限定して、調査票別(パートナーの有無)に以下のとおり集計した。

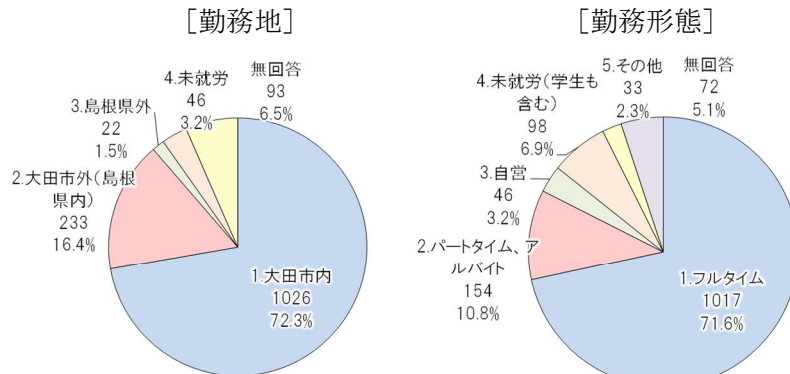


(2) 勤務状況

ア) 勤務状況 (パ含む、n=1420)

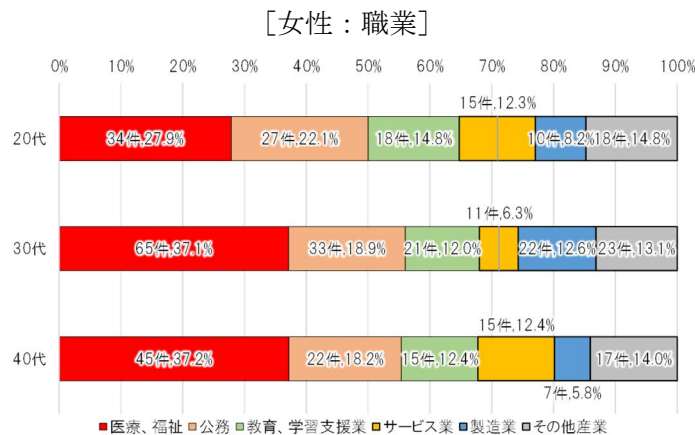
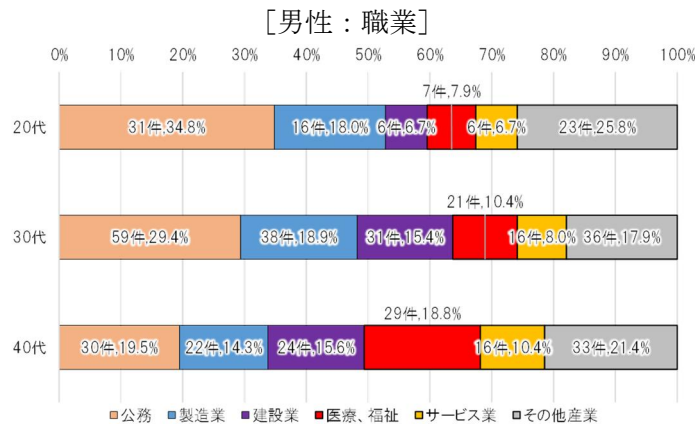
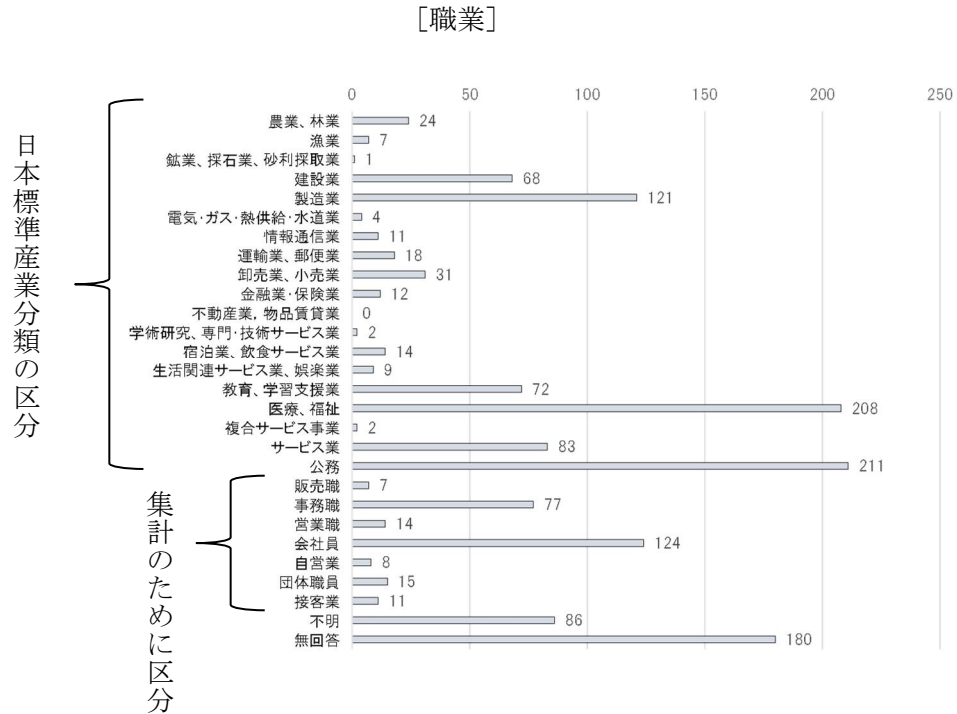
勤務地として最も多いのは「大田市内」となっており、次いで「大田市外(島根県内)」となっている。

勤務形態として最も多いのは「フルタイム」となっており、次いで「パートタイム、アルバイト」となっている。



イ) 産業分類別勤務状況 (パ含む、n=1420)

産業分類の区分に分けた職業の中で最も多いのは「公務」となっており、次いで「医療、福祉」、「製造業」となっている。



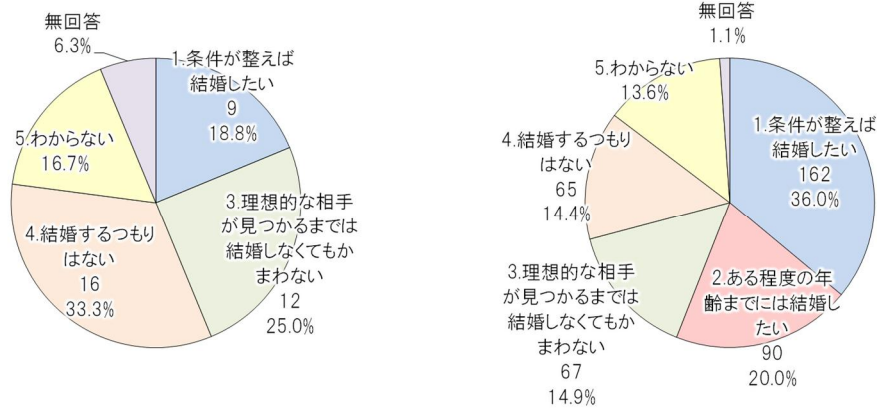
### (3) 結婚の意向

#### ア) パートナーがいない方の結婚の意向 (n=498)

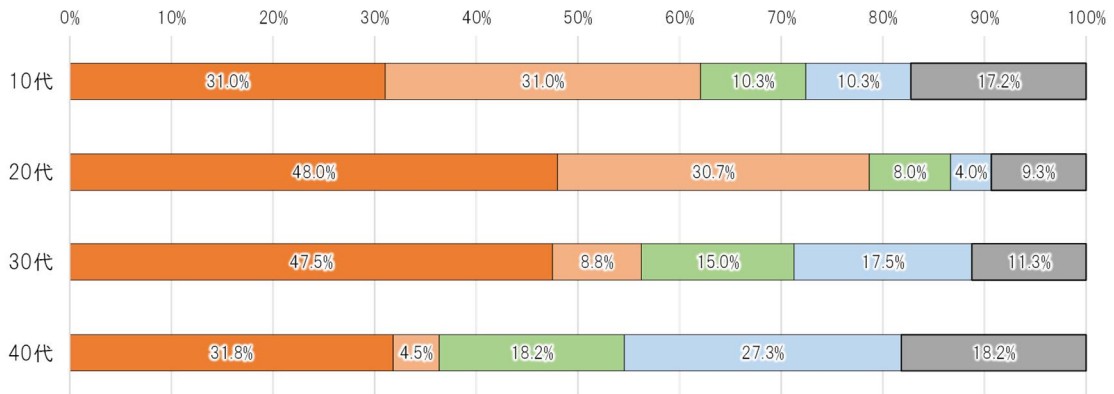
ひとり親の約2割は結婚の意向があるものの、約3割は結婚の意向が無く、理想的な相手の有無に依存した場合も含めると約6割が結婚を考えていない。

一方で、独身者（パートナーと子どもを持たない方）については、約3割は結婚に対して消極的である。

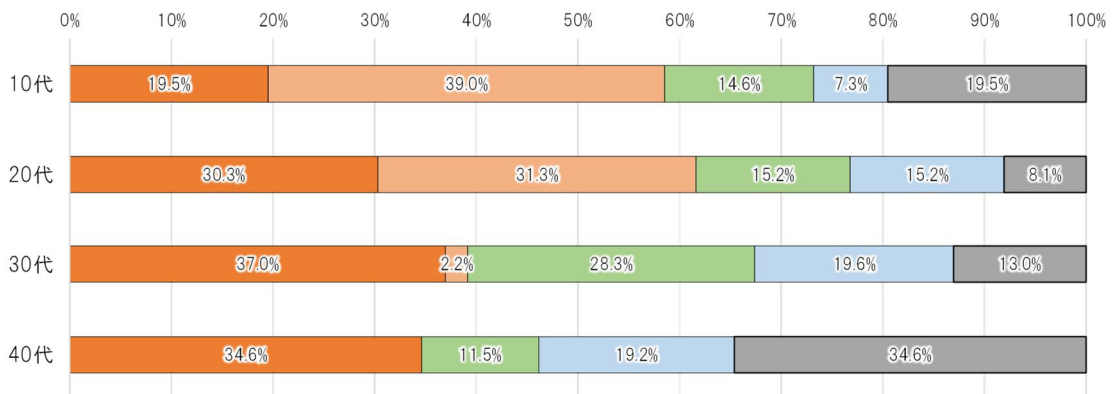
[独身（子あり）世帯 n=48] [独身（子なし）世帯 D：パなし、子なし n=450]



[男性：独身（子なし世帯）結婚意向と性別年齢別]



[女性：独身（子なし世帯）結婚意向と性別年齢別]



[凡例] 1.条件が整えば結婚したい 2.ある程度の年齢までには結婚したい 3.理想の相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない 4.結婚するつもりはない 5.わからない

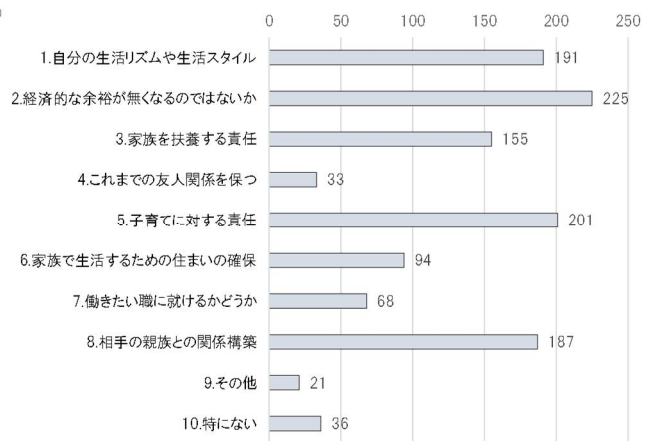
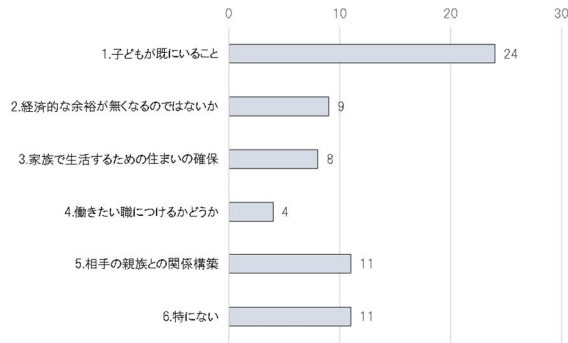
## イ) 結婚に対する不安 (n=498)

結婚に対する不安として、独身(子あり)世帯は「子どもが既にいる」が最も多い。  
一方で、独身者については、経済的余裕に関することや子育てに対する責任がそれぞれ多くなっている。

「相手親族との関係構築」は両者に共通する不安として挙げられている。

[独身(子あり)世帯 n=48]

[独身(子なし)世帯 n=450]



### 【その他回答】

#### ○パートナーや家族との関係性

- ・ パートナーとこの先、仲良く出来るか
- ・ 家族と良好な関係を築けるかどうか
- ・ 相手と自分の家族の関係構築
- ・ パートナーの人間性、収入

#### ○結婚に関する個人的な不安や懸念

- ・ パーソナルスペースに自分以外の人を受け入れられるか不安
- ・ そもそも他人を信用出来ない性格
- ・ 子供を持てる年代ではない
- ・ 子供が嫌い
- ・ 相手が見つかるかどうか
- ・ 相手がいるかどうか
- ・ わからない
- ・ 結婚することはないと思っている
- ・ 宗教法人の代表者を引き継ぐ予定である自身が結婚する場合、パートナーにとっては大幅な環境の変化は不可避であること

#### ○経済的な不安

- ・ 経済的にも結婚して家庭を持ちたいと思っても難しいです。例えば結婚して子供ができたとしても安心して子供を預けられる制度や遊ぶ場所が充実していない
- ・ 今の養育費でしんどいのに、これ以上お金がかかるのは経済的に無理だから、子ども作っても無責任になる
- ・ 給料が少ない
- ・ 職場の給料でやっていけるのか

#### ○家庭内の役割や負担

- ・ 家事の負担
- ・ 仕事から帰って家事をしたくない
- ・ 嫁、母、はこう動くべきであるという考えに辟易する(夕飯の支度をしないといけなく、母親だから酒をのむのが憚られるなど)
- ・ 親と同居できるか

ウ) 独身者限定結婚意向とのクロス集計 (n=445 (無回答除外))

独身者の結婚に対する不安をみると、結婚の意向の有無に関わらず、「経済的余裕の無さ」が上位に挙がっている。また、他も概ね同様の理由となっている。

[結婚意向別独身 (子なし) 世帯結婚不安理由のランキング]

	1 ・自分の生活リズムや生活スタイル	2 ・経済的な余裕が無くあるのではないか	3 ・家族を扶養する責任	4 ・これまでの友人関係を保つ	5 ・子育てに対する責任	6 ・家族で生活するための住まいの確保	7 ・働きたい職に就けるかどうか	8 ・相手の親族との関係構築	9 ・その他	10 ・特にない
1.条件が整えば結婚したい	3位 40.7%	1位 50.0%	32.1%	6.8%	2位 42.0%	26.5%	14.8%	38.9%	4.3%	5.6%
2.ある程度の年齢までには結婚したい	35.6%	1位 60.0%	36.7%	7.8%	2位 50.0%	22.2%	18.9%	3位 42.2%	1.1%	4.4%
3.理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	同率1位 50.7%	49.3%	40.3%	7.5%	同率1位 50.7%	17.9%	17.9%	同率1位 50.7%	3.0%	1.5%
4.結婚するつもりはない	2位 47.7%	1位 49.2%	35.4%	9.2%	3位 46.2%	15.4%	10.8%	38.5%	7.7%	20.0%
5.わからない	1位 42.6%	3位 39.3%	29.5%	4.9%	36.1%	13.1%	11.5%	2位 41.0%	8.2%	14.8%

エ) 所属している趣味サークルや利用している婚活サービス (独身世帯、n=498)

婚活サービス・マッチングアプリとして、はぴこ会への登録やマッチングアプリへの登録がみられる。趣味サークルとしても、スポーツ系のサークルや音楽・神楽などの芸術活動に参加している方がいる。婚活サービス・マッチングアプリの利用は主に30代以降にみられる。

[年齢別性別所属している趣味サークルや利用している婚活サービス]

性別	年代	趣味・サークル	婚活サービス・マッチングアプリ
男性	10代	・ソフトボール ・梶音楽教室相談支援授業所えーる ・大田スポーツクラブ	—
	20代	・ソフトボール ・バスケットボール(2件) ・バンド、神楽、ソフトバレー ・フットサル ・サッカーボランティア ・合唱団 ・地域住民だけのバドミントン	—
	30代	・バスケットボール(2件) ・職場のクラブ ・草野球 ・島大スマブラサークル ・落語サークル	・ペアーズ(マッチングアプリ) ・島根縁結びサポートセンター ・恋みくじ
	40代	・市外でのサークル ・卓球(趣味サークル) ・陶芸サークル、コーラスサークル	・しまこ(2件) ・はぴこ大田(2件) ・マッチングアプリ(2件)
女性	10代	—	—
	20代	・クラシックバレエ ・テニスクラブ ・広報音訳ボランティア ベルの会 ・読書	・ハピコ会 ・TikTokライブ配信、YouTube動画配信など
	30代	・ソフトバレーボール ・バレーボール ・太鼓、神楽	・ペアーズ ・with(マッチングアプリ) ・婚活アプリ
	40代	・バレーボールチーム ・趣味サークルに入っている	・ハピコ ・はぴこに登録していた

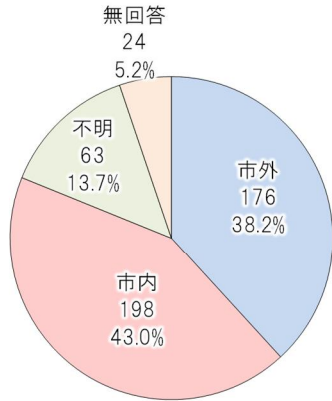


#### (4) パートナーとの出会い

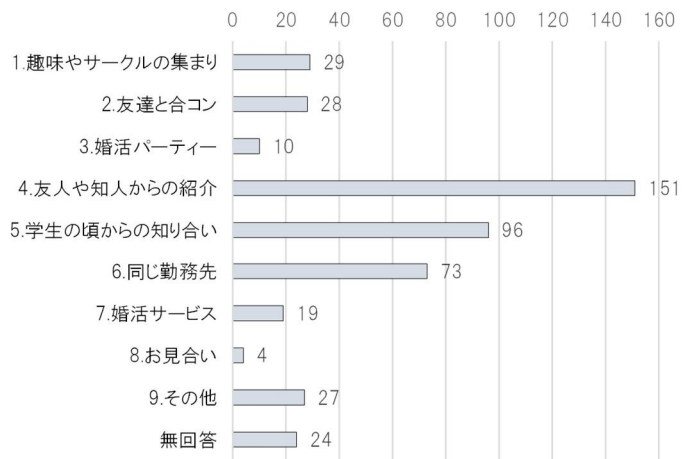
##### ア) 現在のパートナーといつ・どこで出会ったのか（ふたり親世帯、n=461）

パートナーとの出会いについて、「友人や知人からの紹介」「学生の頃からの知り合い」が多い一方で、婚活サービスの活用や婚活パーティー、お見合いなどの結婚活動の場での出会いは少ない。

[パートナーとの出会い]



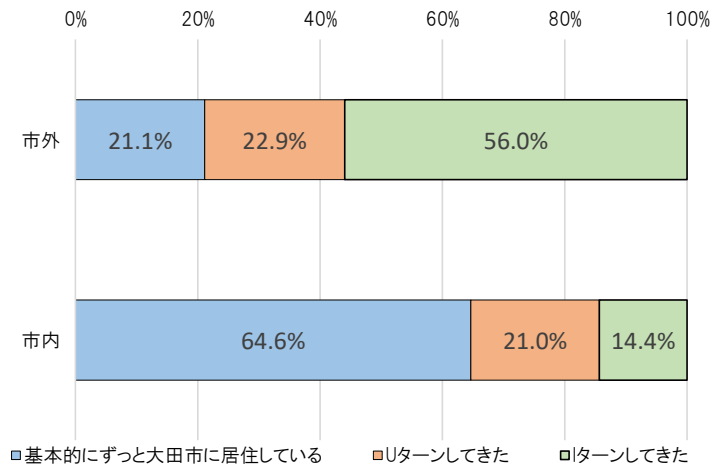
[パートナーと出会った場所]



##### 【その他回答】

- 職場研修
- 当時の職場のお客さん
- 友人の結婚式
- たまたま会った
- 仕事の研修で一緒になった。
- 子供の時からの知り合い
- 友人同士の食事に同席。
- コンビニで奥さんが働いていてナンパした。
- 遊んでいたらそこにいた
- インスタグラムのハッシュタグで繋がった。
- バイト先
- 大田市内、お祭りの準備
- マッチングサイト
- 勤務先のお客様だった
- 同じアパート
- インターネットサービス
- マッチングアプリ
- 職場のボランティア活動
- 旅先
- SNS
- アプリで親睦を深めた

[回答者の UI ターン状況別パートナーと出会った場所]



[世帯ごとの UI ターン状況別パートナーと出会った場所]

	夫:基本大田市にいる。 妻:基本大田市にいる。	夫:基本大田市にいる。 妻:Uターンしてきた。	夫:基本大田市にいる。 妻:ターンしてきた。	夫:基本大田市にいる。	夫:Uターンしてきた。	夫:ターンしてきた。
市外	7.0%	3.5%	33.9%	0.6%	0.0%	0.0%
市内	56.5%	5.7%	10.9%	0.5%	0.5%	0.5%
	夫:Uターンしてきた。 妻:基本大田市にいる。	夫:Uターンしてきた。 妻:Uターンしてきた。	夫:ターンしてきた。 妻:基本大田市にいる。	夫:ターンしてきた。 妻:Uターンしてきた。	夫:ターンしてきた。 妻:Uターンしてきた。	妻:基本大田市にいる。
市外	3.5%	15.2%	15.2%	2.9%	16.4%	1.8%
市内	11.4%	1.0%	7.8%	1.6%	2.1%	1.6%

【市外での出会い】

- ①夫が基本的に大田市、妻はIターンのパターンが多い。
- ②夫婦ともにIターンできたのパターンが2番目に多い。

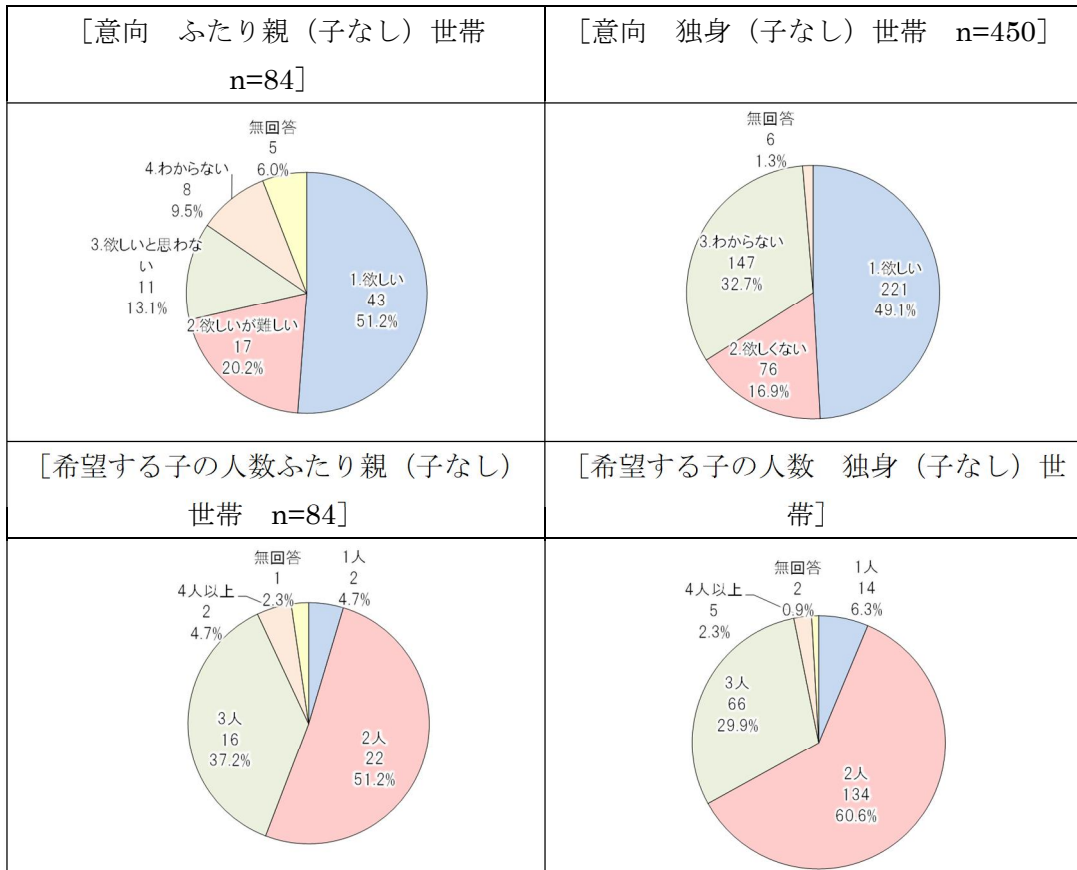
【市内での出会い】

- ①夫婦ともに大田市内のパターンが多い。
- ②夫がUターンしてきた、妻が基本的に大田市のパターンが2番目に多い。

(5) 将来的な子どもの意向

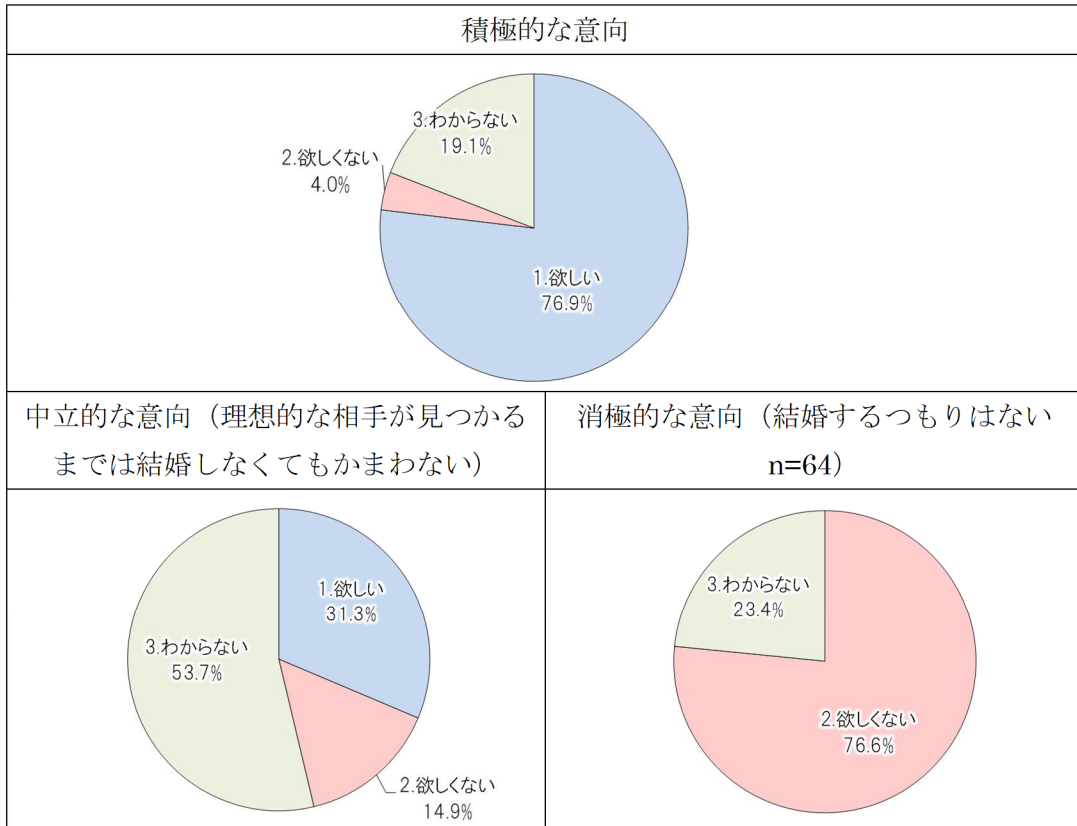
ア) 将来的に子どもが欲しいかどうか<子なし世帯> (n=534)

子ども意向については、一人親、独身者とも約半数が欲しいと考えているなど傾向が近い。希望する子の人数についても、概ね近い傾向にある。



イ) 独身者が結婚して子どもを持つ割合 (n=445)

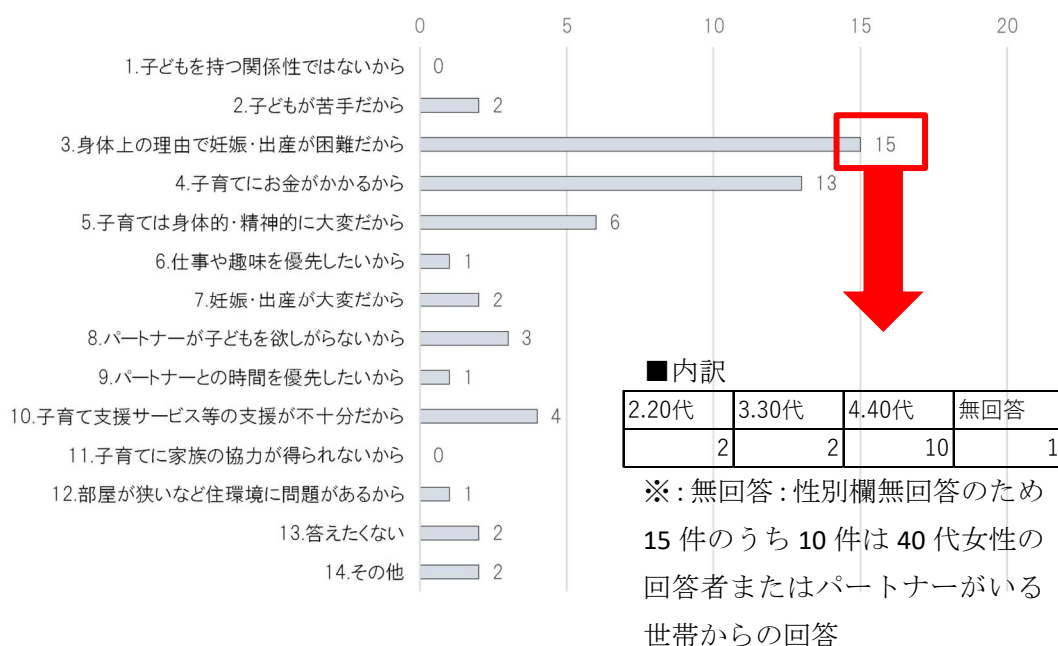
中立的な意向を持つ方であっても、子どもを希望する声は3割ある。



### ウ) 子どもを持つことが難しいと考える理由<子なし世帯> (n=84)

子どもを持つことが難しいと考える理由として最も多かったのは、「身体上の理由で妊娠・出産が困難だから」が最も多く、次いで「子育てにお金がかかるから」、「子育ては身体的・精神的に大変だから」となっており、身体上の理由によることが多いとみられる。

[理由 ひとり親 (子なし) 世帯 n=84]



※独身者の意向については、回答者に配慮した構成とするために、子どもを持つことに対する不安の理由は問わず、「結婚に対する不安」を聞いている。

## (6) 子育て世帯の属性と子どもの状況

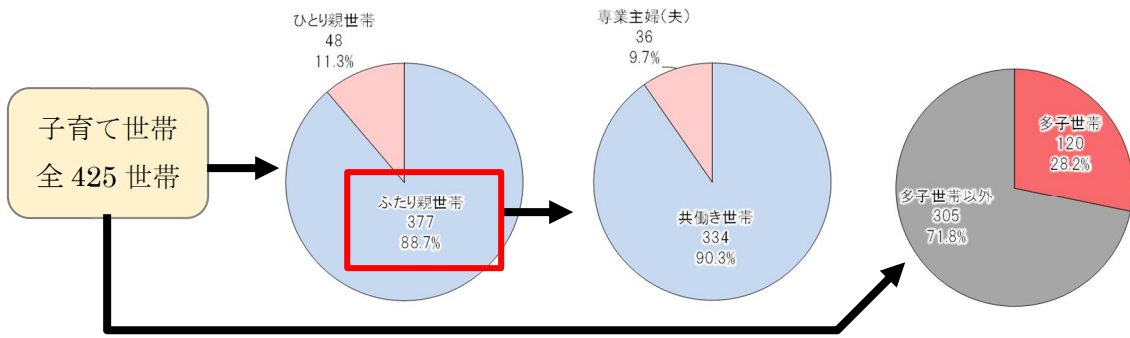
### ア) 子育て世帯の分類 (子あり世帯 n=425)

子育て世帯に関して、より詳細な傾向を把握するため、アンケート結果から得られたデータを用いて、以下の通りに分類した。

#### 【子育て世帯の区分】

- 共働き世帯
- 専業主婦 (夫) 世帯
- 多子世帯
- ひとり親世帯

[子育て世帯の区分割合]



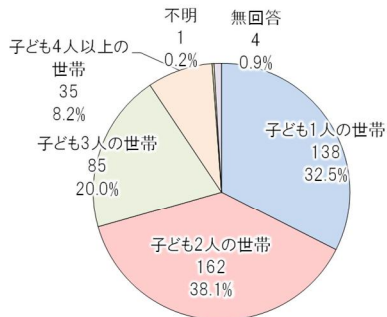
※専業主婦（夫）世帯の定義は、本アンケートの勤務形態を問う設問において、夫婦どちらか片方が「未就労」となっている世帯を抽出している。

※多子世帯とは、子どもが3人以上いる世帯のこと。

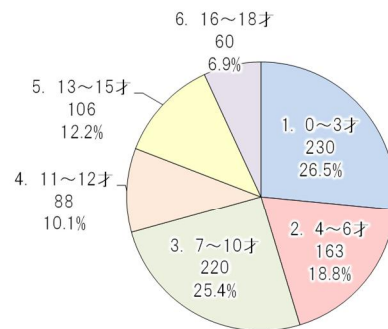
イ) 子どもの状況（子あり世帯 n=425）

本アンケートに回答した子どものいる回答者の状況をみると、子ども2人の世帯が最も多く、次いで、子ども一人の世帯からの回答が多くなっている。平均して1世帯あたりの子ども数は2.1人となっている。

[現在の子の人数別世帯数]



[子の年齢区分]



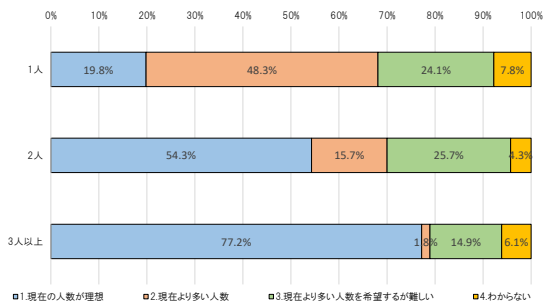
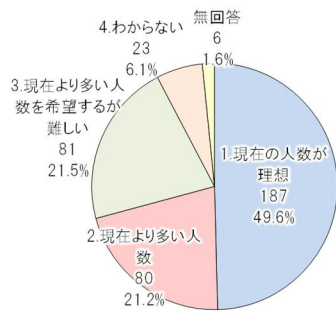
[1世帯あたりの子どもの数]

子どもの数	867	人
有効世帯数	420	世帯
1世帯あたりの子ども数	2.1	人
※不明及び無回答は除く		

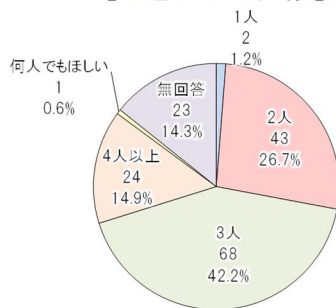
ウ) 将来的に子どもが欲しいかどうか（理想の子の人数）＜子どもとパートナーがいる世帯＞（n=377）

ふたり親（子あり）世帯の今後の子ども意向について、約7割が2～3人と希望している。また、4人以上とする人も1割存在し、現在子どもがいない世帯よりも、希望する割合が高くなっている。

[意向 ふたり親（子あり）世帯 n=377] [現在の子ども数に対する子どもの意向]



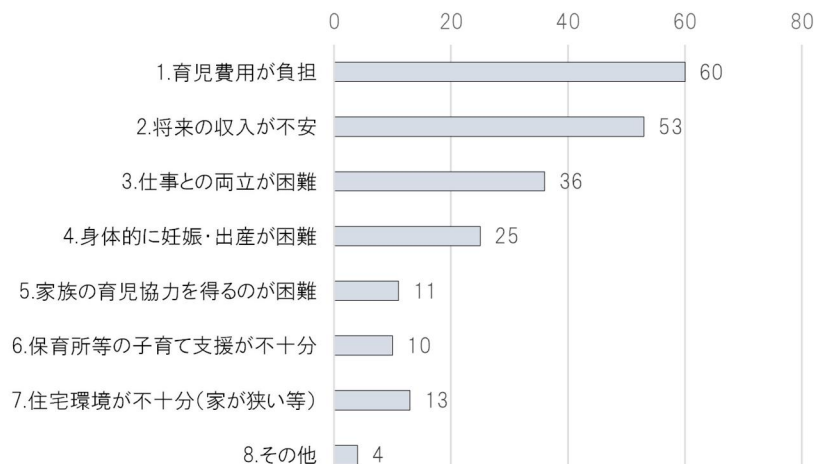
[理想の子の人数]



エ) 将来的に子どもが欲しいかどうか（理想の子の人数）＜ふたり親（子あり）世帯＞（n=377）

経済的な理由から、これ以上子どもを希望することが難しいと考える世帯が多い。

[現在より多い人数を希望するが難しい理由]

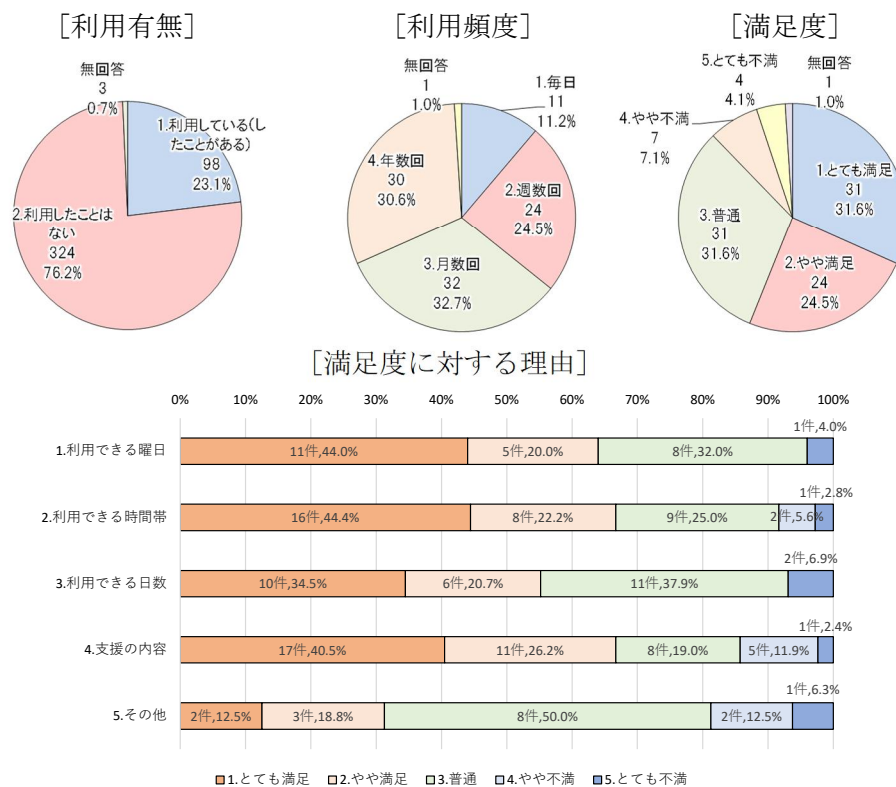


【その他回答】

- ・ 子ども会がとにかく負担。いつかやる役職が、ワンオペで育児家事仕事をこなしながらがきつい。子ども会が無かったらもう2人くらい産みたかった。
- ・ とにかく、市からの支援が少なすぎる。3人以降は一時金とか作って欲しい

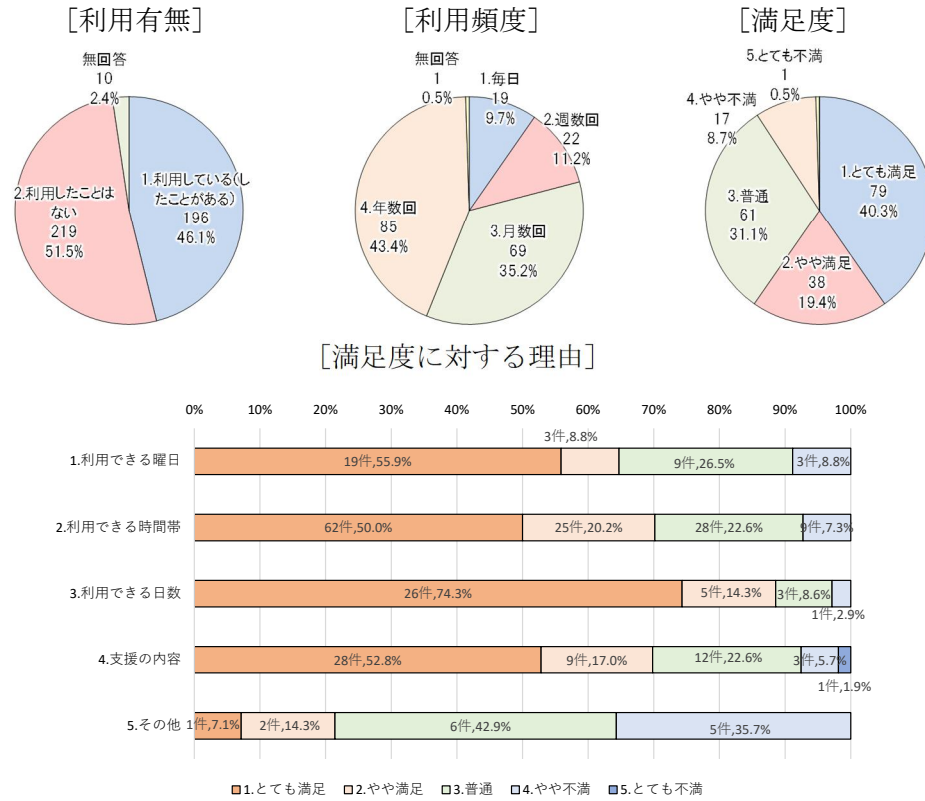
## (7) 公的な子育て援助について

### ア) 一時預かりについて



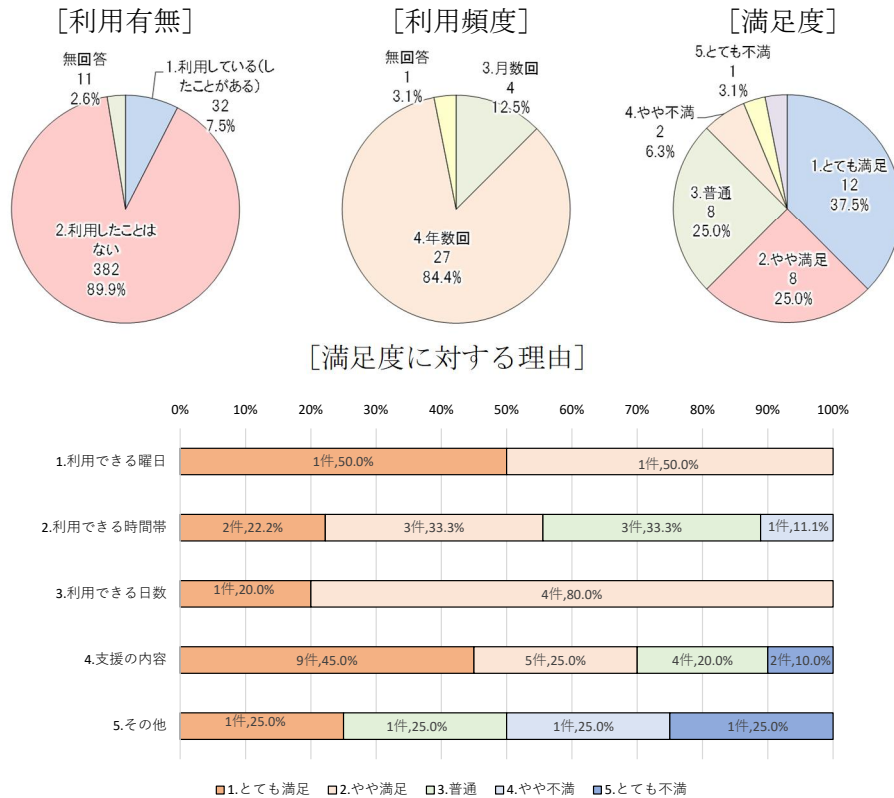
【その他】慣らし保育として利用

## イ) 延長保育について



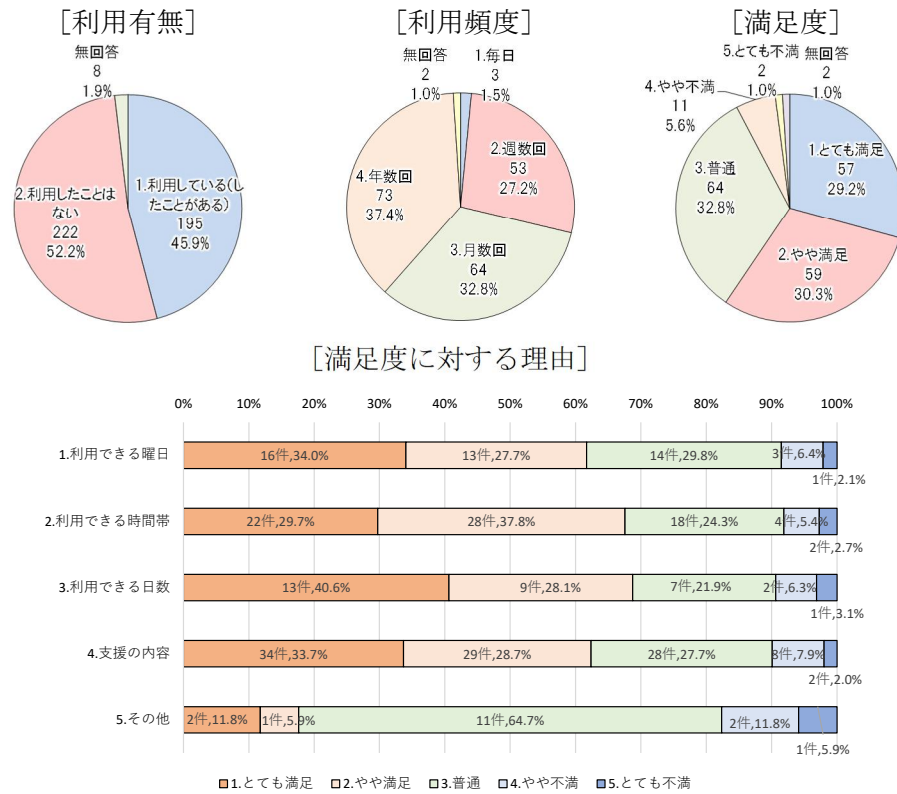
【その他】1分遅れてもお金がかかる

## ウ) 病児保育・病後児保育について



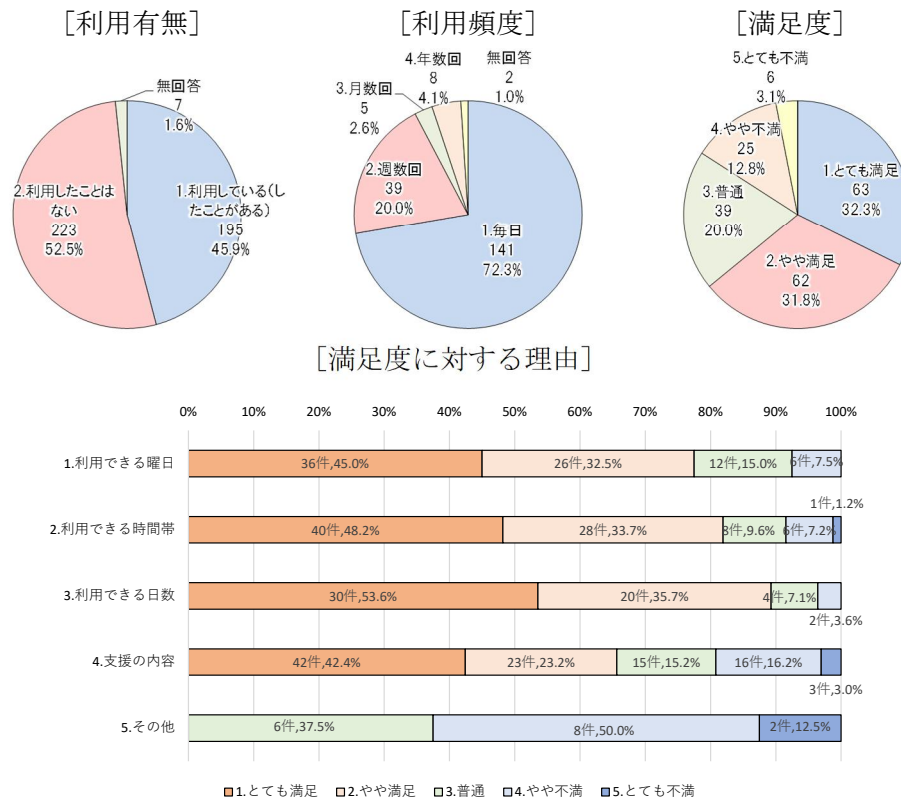


## エ) 子育て支援センターについて



【その他】保育園の見学を兼ねて使用した

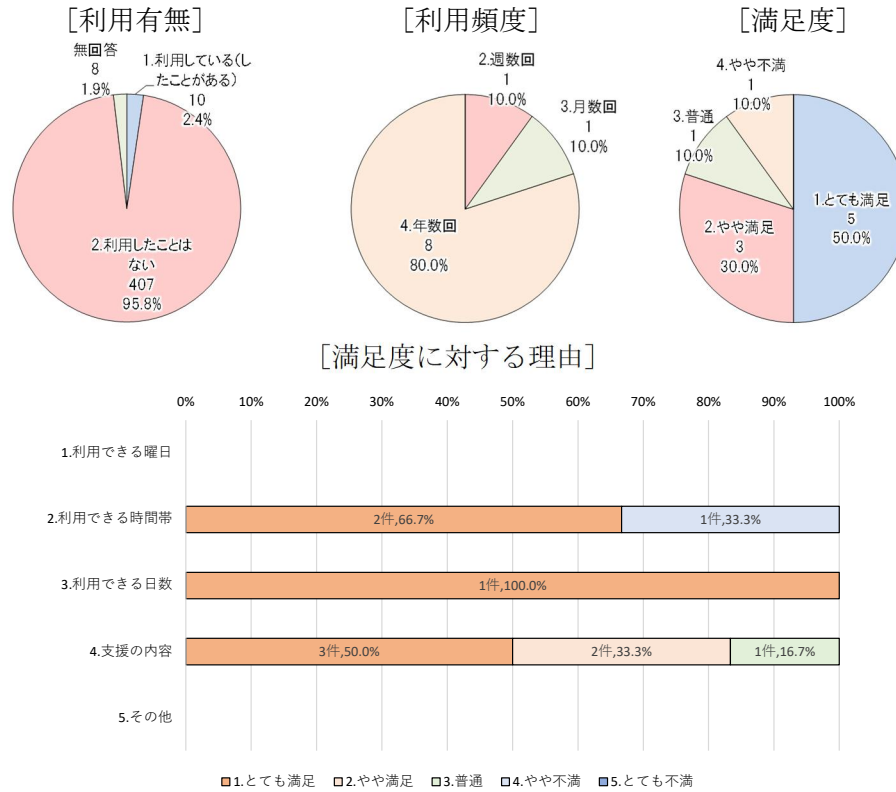
## オ) 放課後児童クラブについて



【その他】当時の先生が適切ではなかった

子どもがはばしくて(行儀が悪くて)、夏休みに1日中見れないので午前で帰ってほしいと言われ、やめた。

## カ) ファミリーサポートセンターについて



## キ) 必要な(充実して欲しい)子育て支援サービス

### ○経済的支援

- ・ 高校無償化
- ・ 高校進学補助金
- ・ 給食費無料
- ・ 第二子からの保育無償化
- ・ 18歳未満の医療費無償化
- ・ 学費の免除
- ・ 高校生の医療費軽減
- ・ 児童手当の増額
- ・ 子育て支援金の増額
- ・ 現金配布
- ・ 物資の配布(オムツ、ミルクなど)

### ○医療・健康

- ・ 小児科専門の地域医院
- ・ 産後すぐの預かり施設
- ・ 予防接種の代行サービス
- ・ 子供医療の拡充
- ・ 孤立しないための相談支援
- ・ 産後ケアの充実
- ・ 小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科などの医療施設の充実

### ○遊び・レクリエーション施設

- ・ 雨の日の室内アスレチック
- ・ 子供が遊べる施設の増設
- ・ 屋内の遊び場
- ・ 公園、アスレチック
- ・ 公園の整備・遊具の増設
- ・ 学童保育の資質向上
- ・ 土日利用可能な施設

### ○教育・学習

- ・ 学力向上のための補習
- ・ 塾や勉強ができる場所

### ○サービス・制度の改善

- ・ オンラインでの申し込み・申請
- ・ 病児保育
- ・ 放課後・長期休みの子どもの預かりサービス
- ・ 病後児保育の利用改善
- ・ 保育園の完全無料化
- ・ 子育て相談の場の設置・充実
- ・ 緊急な預かり保育
- ・ 子育てママのコミュニティ発信
- ・ 子育て支援センターの場所やイベントの改善
- ・ 児童クラブの体制支援
- ・ 中学生部活動のクラブ移行及び交通費補助
- ・ 子育て相談がしやすい場の提供

### ○地域コミュニティ

- ・ 地域部落との共同子育て
- ・ 同じ悩みを持つ親同士の繋がり

### ○その他

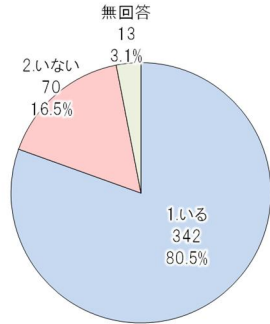
- ・ オムツの定期便
- ・ 大田市内の観光地に電子レンジ設置
- ・ 急な仕事の際の短時間預かり
- ・ 障がい児向け、ひとり親向けサービス

(8) 家族・友人による子育て援助について

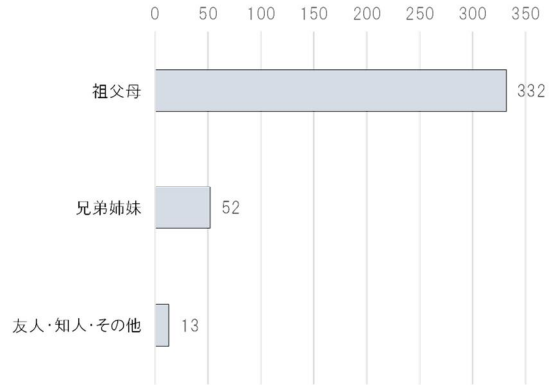
ア) 月1回以上子育て支援する方の有無 (子あり世帯 n=425)

月1回以上子育て支援する方の有無について、いると回答した方は約8割となっている。

[子育て支援者の有無]



[子育て支援者属性の内訳 複数回答可]



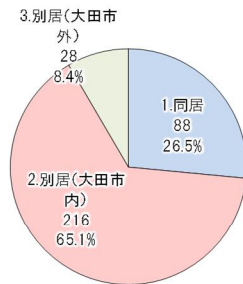
[子育て世帯属性別の状況]

	1.いる	2.いない	無回答
共働き世帯	82.3%	15.0%	2.7%
専業主婦(夫)	83.3%	16.7%	0.0%
多子世帯	86.7%	11.7%	1.7%
ひとり親世帯	70.8%	25.0%	4.2%

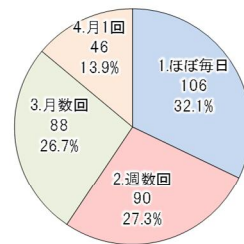
イ) 祖父母について

祖父母は子育てにおいて、頻度の多さ、内容の充実が見られることから、大変重要な役割を担っていることが分かる。また、居住関係が近いほど、より充実した支援が行われている。

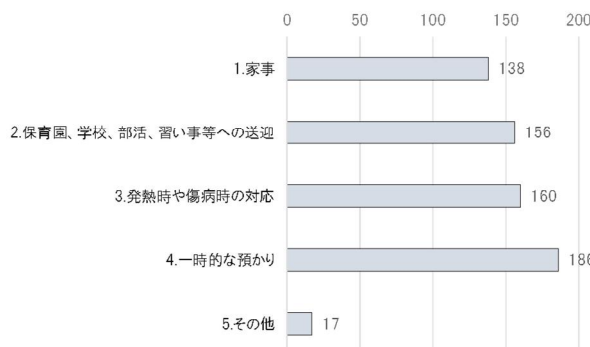
[支援者との居住関係]



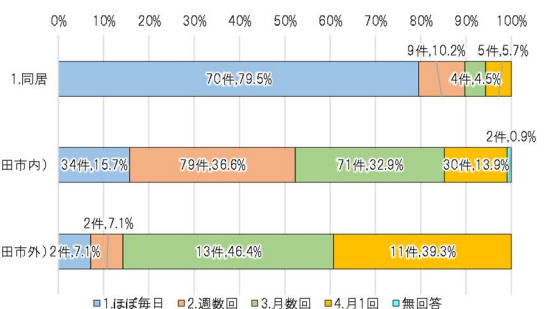
[支援頻度]



[支援内容]



[クロス集計：居住関係別支援頻度]

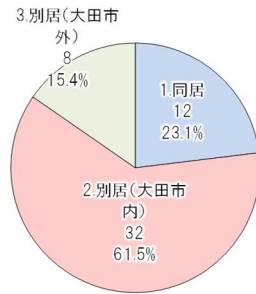


[クロス集計：居住関係別支援内容]

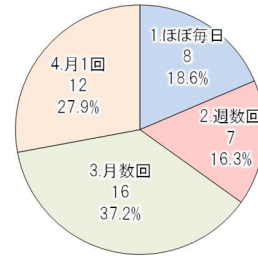
	1.家事	2.保育園、学校、部活、習い事等への送迎	3.発熱時や傷病時の対応	4.一時的な預かり	5.その他
1.同居	83.0%	60.2%	63.6%	31.8%	5.7%
2.別居(大田市内)	27.8%	45.4%	41.7%	65.3%	4.2%
3.別居(大田市外)	17.9%	17.9%	50.0%	60.7%	10.7%

ウ) 兄弟姉妹について

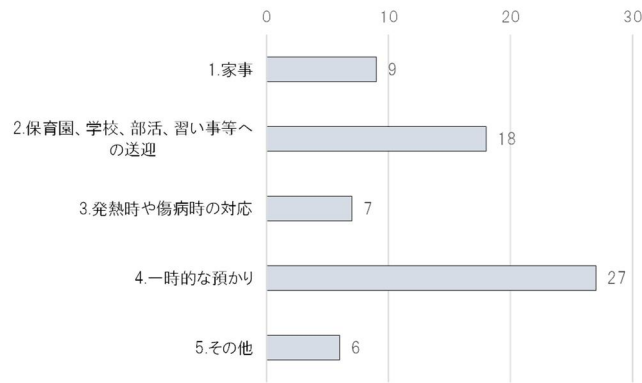
[支援者との居住関係]



[支援頻度]

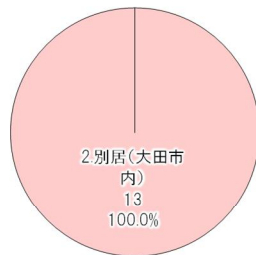


[支援内容]

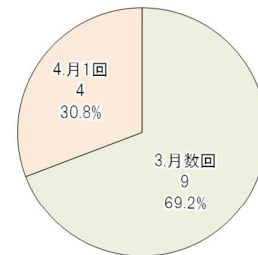


エ) 知人・友人・その他について

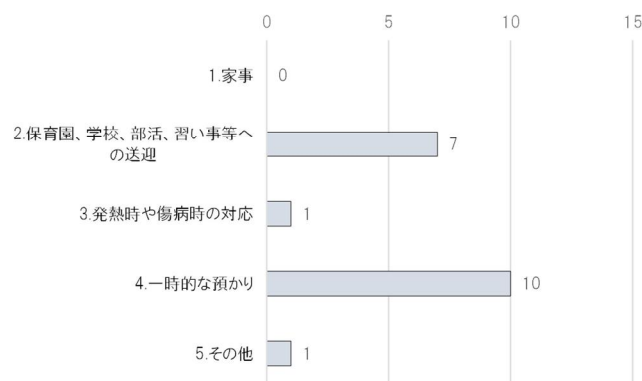
[支援者との居住関係]



[支援頻度]



[支援内容]

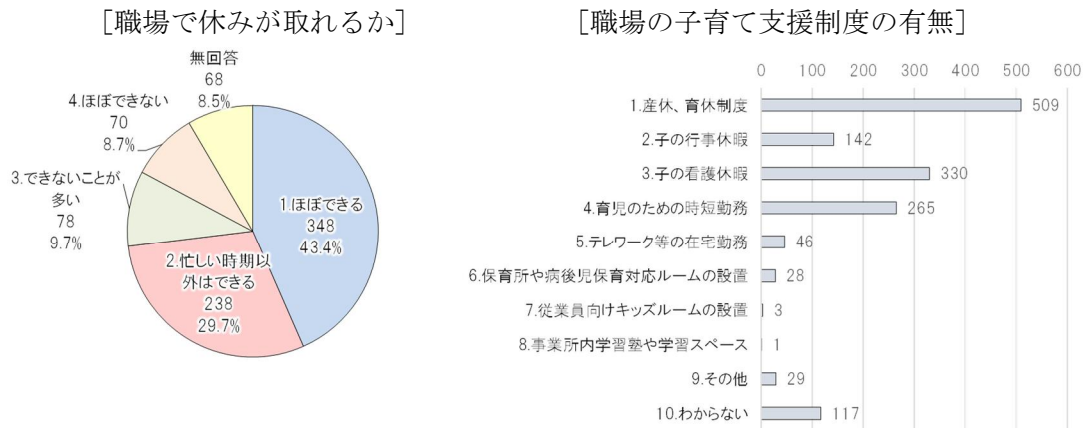


## (9) 子育てに関する職場の状況について

### ア) 職場での各種支援策 (子あり世帯 n=425)

職場で休みが取れるかどうかについて、ほぼできるという回答は約4割、忙しい時期を除いて出来るという回答も含めると約7割となっている。

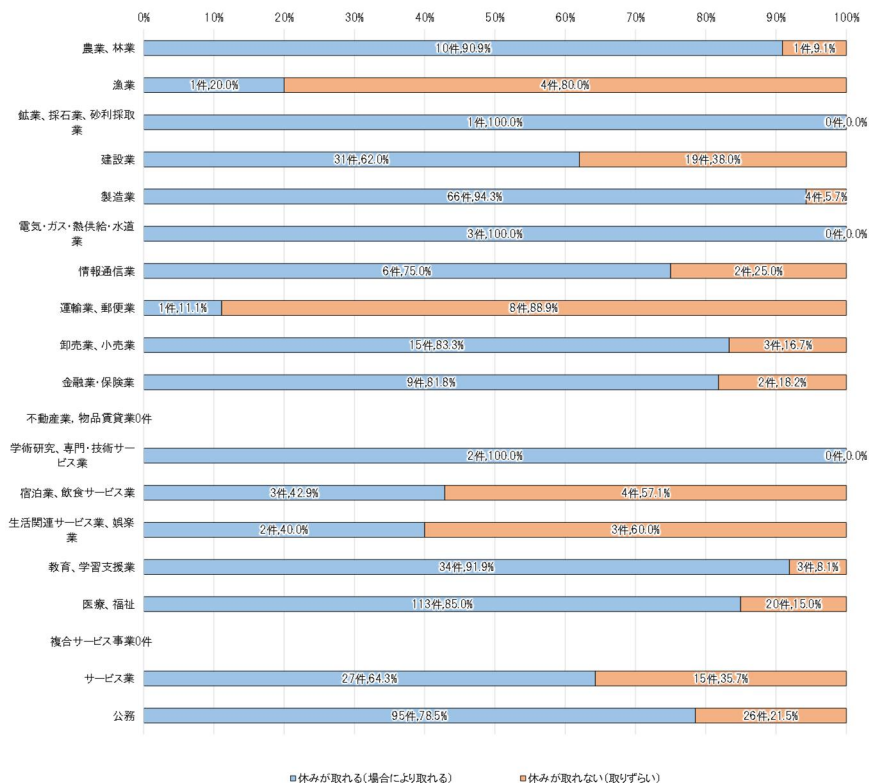
職場での子育て支援制度として最も多かったのは、「産休、育休制度」であり、次いで「子の看護休暇」、「育児のための時短勤務」となっている。総じて制度的、ハード的支援な充実が見られている一方で、職場によっては不十分なところもあるとみられ、対応すべき余地があるとみられる。



### イ) 職業別クロス集計 (子あり世帯 n=425)

建設業については、比較的休みが取れないと答えている割合が高い。就業人口の多い「製造業」「医療、福祉」「公務」のいずれも、休みが取れるという回答が多い。

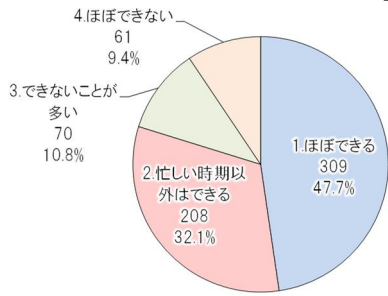
[子あり世帯別 n=425]



ウ) 子育て世帯の属性別クロス集計（共働き世帯のうちの夫婦別 n=648）

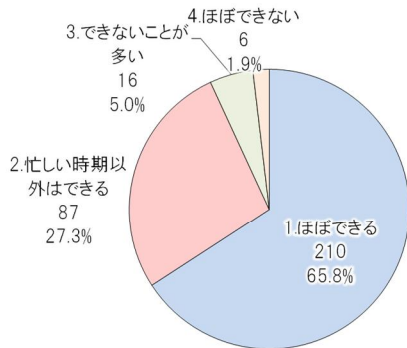
約 3 割の夫が出来ないと回答しており、男女で差がみられる。

[共働き世帯のうちの夫婦別 n=648]

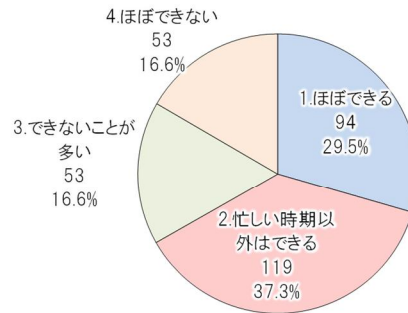


	1. ほぼできる	2. 忙しい時期以外はできる	3. できないことが多い	4. ほぼできない
妻	210	87	16	6
夫	94	119	53	53
回答しない	5	2	1	2
不明	0	0	0	0
合計	309	208	70	61

[妻の状況]



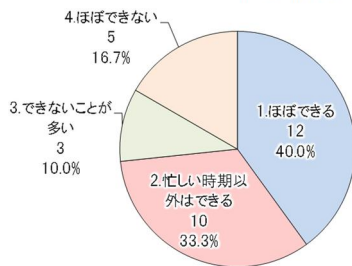
[夫の状況]



エ) 子育て世帯の属性別クロス集計（専業主婦（夫）世帯のうちの夫婦別 n=30）

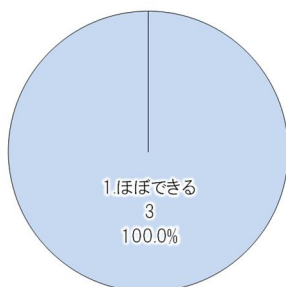
専業主婦を持つ夫の約 3 割が出来ないと回答している。

[専業主婦（夫）世帯のうちの夫婦別 n=30]

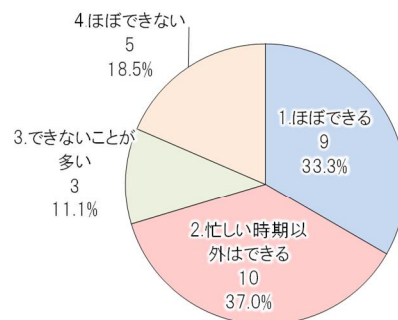


	1. ほぼできる	2. 忙しい時期以外はできる	3. できないことが多い	4. ほぼできない
主夫を持つ妻	3	0	0	0
主婦を持つ夫	9	10	3	5
回答しない	0	0	0	0
不明	0	0	0	0
合計	12	10	3	5

[妻の状況]



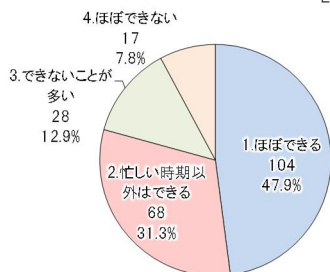
[夫の状況]



オ) 子育て世帯の属性別クロス集計（多子世帯のうちの夫婦別 n=213）

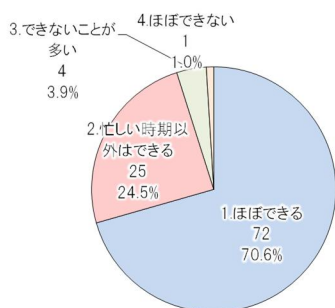
約4割の夫が出来ないと回答しており、子育て世帯の分類の中で最も大きな男女差が見られている。

[多子世帯のうちの夫婦別 n=213]

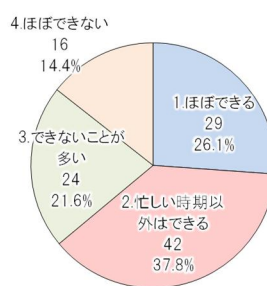


	1. ほぼできる	2. 忙しい時期以外はできる	3. できないことが多い	4. ほぼできない
妻	72	25	4	1
夫	29	42	24	16
回答しない	3	1	0	0
不明	0	0	0	0
合計	104	68	28	17

[妻の状況]



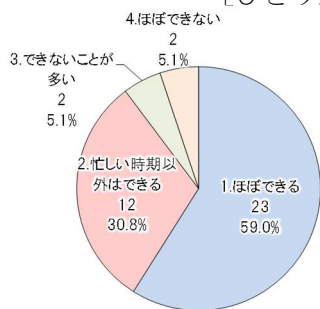
[夫の状況]



カ) 子育て世帯の属性別クロス集計（ひとり親世帯のうちの男女別 n=39）

ひとり親世帯については、できないと回答する方も若干存在している。

[ひとり親世帯のうちの男女別 n=39]



	1. ほぼできる	2. 忙しい時期以外はできる	3. できないことが多い	4. ほぼできない
女性	21	9	1	1
男性	2	3	1	0
回答しない	0	0	0	1
不明	0	0	0	0
合計	23	12	2	2

[職場の子育て支援制度\_自由記述]

○休暇・休業制度

- 産休のみ利用可能
- 産休・育休は存在するが、勤務形態により利用制限
- 女性のみ産休・育休利用
- 有給休暇がある
- 有給休暇がほとんどない
- 有給や休暇取得の制約
- 予防接種のための休暇あり
- コロナ禍の就職で年休の取得困難
- 休暇取得は上司の機嫌次第
- パートは休みやすい/パートナーは父親で休み取得が難しい
- 長期休暇中、職場への連れてきてOK
- 自営業者は自分で休暇を調整
- 休んでも良い雰囲気
- 突発的な事情でのスケジュール調整が難しい

○勤務形態による子育ての課題

- 自営業のため病気時も子供を連れて行き寝かせるしかない
- 経営者は融通がきく
- 子連れ出勤が許可されている
- 応じてもらえる確率が高いが、制度の明確性不明

○制度と経済的影響

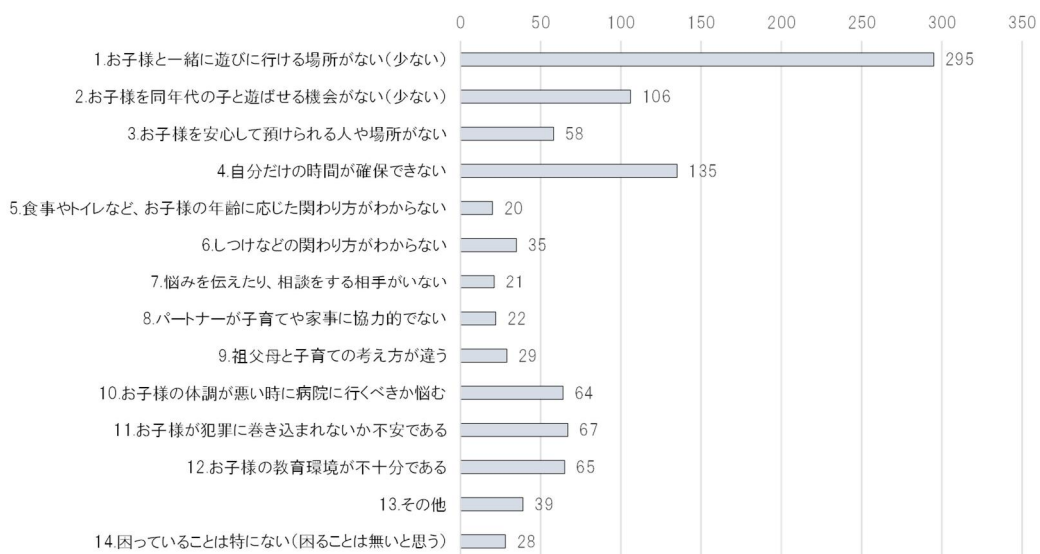
- 休暇利用によるボーナスの減少に不安
- 保育所利用補助制度あり

(10) 子育て全般に関して

ア) 子育てをしていて困っていること (子あり世帯 n=425)

子育てをしていて困っていることとして最も多かったのは、「お子様と一緒に遊びに行ける場所がない(少ない)」であり、次いで「自分だけの時間が確保できない」、「お子様を同年代の子と遊ばせる機会がない(少ない)」となっている。

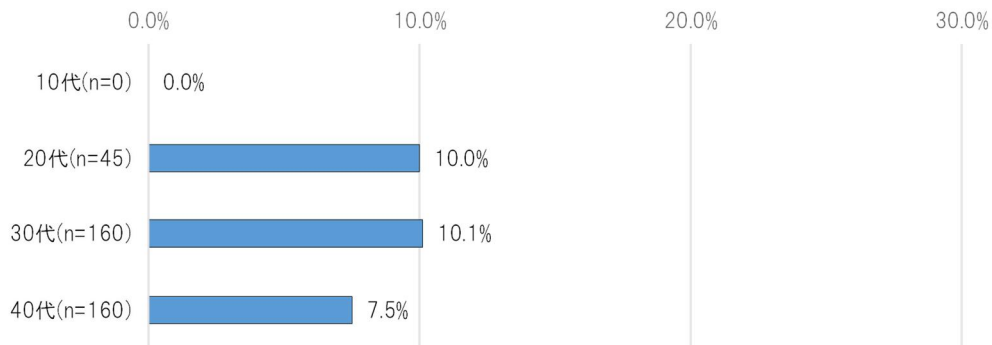
[子育てをしていて困っていること]



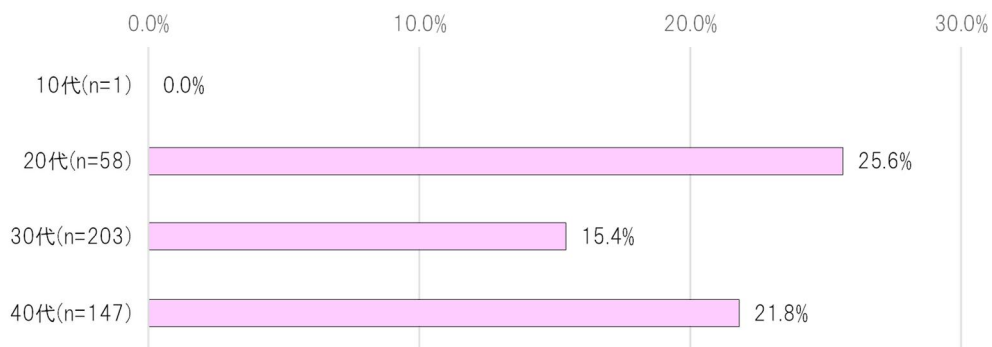


### イ) 困りごと設問限定クロス集計<性別年齢とのクロス>

「自分だけの時間が確保できない」について、性別年齢別に分析すると、女性の方が選択されている割合が高く、特に20代がもっとも高くなっている。また、男性からの回答は少ない。家庭内での役割分担における家事・育児と自分の時間のバランスにおいて、女性の方に負担がかかっていると考えられる。



■【男性】4.自分だけの時間が確保できない



□【女性】4.自分だけの時間が確保できない

### [困りごとクロス集計]

	1 (少ない) お子様と一緒に遊びに行ける場所がない	2 (少ない) お子様を同年代の子と遊ばせる機会がない	3 お子様を安心して預けられる人や場所がない	4 自分だけの時間が確保できない	5 食事やトイレなど、お子様の年齢に応じた関わり方がわからない	6 しつけなどの関わり方がわからない	7 悩みを伝えたり、相談をする相手がいない	8 パートナーが子育てや家事に協力的でない	9 祖父母と子育ての考え方が違う	10 お子様の体調が悪い時に病院に行くべきか悩む	11 お子様が犯罪に巻き込まれないか不安である	12 お子様の教育環境が不十分である	13 その他	14 困っていることは特にない(困ることは無いと思う)
共働き世帯	70.4%	26.0%	13.5%	32.0%	4.8%	8.4%	4.2%	6.0%	6.9%	15.9%	17.7%	17.1%	10.5%	7.8%
専業主婦(夫)	69.4%	36.1%	22.2%	41.7%	8.3%	11.1%	8.3%	2.8%	16.7%	22.2%	22.2%	19.4%	11.1%	5.6%
多子世帯	70.0%	18.3%	13.3%	35.0%	2.5%	5.8%	2.5%	8.3%	6.7%	10.8%	15.8%	15.8%	12.5%	8.3%
ひとり親世帯	66.7%	12.5%	6.3%	25.0%	2.1%	6.3%	8.3%	0.0%	8.3%	10.4%	18.8%	18.8%	12.5%	10.4%

[自由記述 (全体)]

○仕事との両立

- ・ 週末の仕事による部活の送迎や大会の手伝いの負担
- ・ パートナーの長時間勤務
- ・ 仕事復帰後の育児支援の不十分さ
- ・ 男性の育児支援の不十分さ
- ・ 夫のボランティア仕事による家族時間の不足
- ・ 育休や傷病による収入減少と物価高
- ・ 職場環境の問題と産休の取得困難

○遊び場・公共的サービスの不足

- ・ 公園、屋根付きの公園、屋内プールの不在
- ・ 公園や子供が遊べる施設が不十分
- ・ 雨の日の遊び場の不足
- ・ 季節に応じた遊び場の不足
- ・ 年間通じての遊び場の不足
- ・ 休日診療を行う歯医者や内科の不在
- ・ 市内に小児科がない
- ・ 少ない病院と長い診療時間
- ・ 小児科の専門医の不在
- ・ 専門病院の不足
- ・ 子供を連れて行く病院の不足
- ・ 小児科医院や市立病院の問題
- ・ 乳児対応施設の希望
- ・ 乳児対応飲食店の不足
- ・ 病気の子供の預け先がない

○経済的問題

- ・ 経済的負担
- ・ 多子家庭や子育ての経済的支援の不足
- ・ 教育費用の高さ
- ・ 高校生の医療費の高さ
- ・ 母子家庭のコロナ感染と傷病手当の問題

○教育・進路

- ・ 将来の進学・就労先の不在
- ・ 教育のレベルが低い
- ・ 子供向け体験の機会が少ない
- ・ 子供の夢の支援の不足

○その他の問題

- ・ 買い物が不便
- ・ 子育て用品の販売場所が少ない
- ・ 遠くの学校への送迎義務
- ・ 習い事の送迎問題
- ・ パートナーの家事協力の不足
- ・ 子どもが入院中で子育ての現状不明
- ・ 余裕のない子育て
- ・ 障がい児の相談先の不足

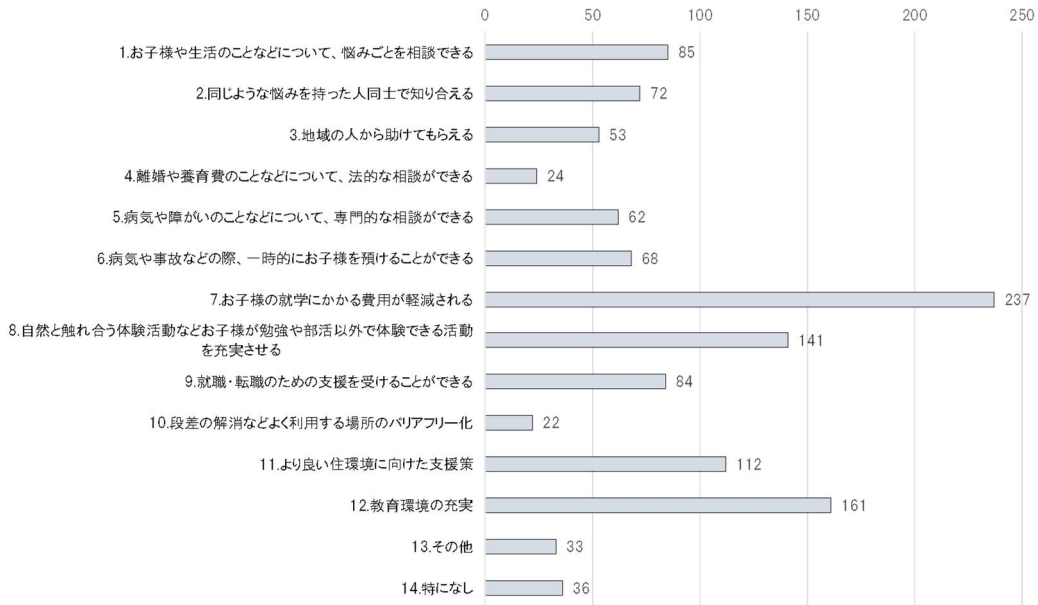
[自由記述 (子育て世帯の属性別)] ※頻出した順に掲載

<p><b>共働き世帯</b> に関するまとめ</p>	<p><b>①地域の設備・施設の不足</b> ・ 公園・遊具の不足、子育て用品の購入場所、休日診療する病院、特定の専門の医療機関。</p> <p><b>②仕事との両立の困難さ</b> ・ 週末の仕事、子どもの部活や大会への参加や送迎、仕事復帰後の支援の不足。</p> <p><b>③教育・医療に関する懸念</b> ・ 教育のレベル、小児科の不足、医療施設へのアクセス。</p> <p><b>④経済的な問題</b> ・ 生活費の増加、共働きでも収入減での生活の困難さ。</p>
<p><b>専業主婦(夫)世帯</b> に関するまとめ</p>	<p><b>①地域の設備・施設の不足</b> ・ 子供のオムツ交換やミルクを上げる場所。</p> <p><b>②夫やパートナーの仕事の問題</b> ・ 拘束時間の長さ、休日勤務。</p>
<p><b>多子世帯</b> に関するまとめ</p>	<p><b>①地域の設備・施設の不足</b> ・ 公園・遊具の不足、習い事、進学先、保育園の閉園、購入場所、医療施設。</p> <p><b>②教育・医療に関する懸念</b> ・ 教育のレベル、進学先、小児科の不足、特定の専門の医療機関。</p> <p><b>③経済的な問題</b> ・ 子育ての経済的支援の不足、教育費用。</p>
<p><b>ひとり親世帯</b> に関するまとめ</p>	<p><b>①医療の問題</b> ・ 高い医療費、専門的な医療機関の不足やアクセス、休日の救急診療体制。</p> <p><b>②経済・職場の問題</b> ・ 職場環境の困難さ、産休の取得の困難さ。</p>

## ウ) 子育てに必要なこと

子育てに必要なこととして最も多かったのは、「お子様の就学にかかる費用が軽減される」であり、次いで「教育環境の充実」、「自然と触れ合う体験活動などお子様が勉強や部活以外で体験できる活動を充実させる」となっている。

[子育てに必要なこと]



[必要なことクロス集計]

	1 お子様や生活のことなどについて、悩みごとを相談できる	2 同じような悩みを持った人同士で知り合える	3 地域の人から助けられる	4 離婚や養育費のことなどについて、法的な相談ができる	5 病気や障がいのことなどについて、専門的な相談ができる	6 病気や事故などの際、一時的にお子様を預けることができる	7 お子様の就学にかかる費用が軽減される	8 自然と触れ合う体験活動などお子様が勉強や部活以外で体験できる活動を充実させる	9 就職・転職のための支援を受けることができる	10 段差の解消などよく利用する場所のバリアフリー化	11 より良い住環境に向けた支援策	12 教育環境の充実	13 その他	14 特になし
共働き世帯	19.8%	15.9%	13.2%	3.9%	13.2%	14.4%	56.6%	35.6%	19.8%	5.4%	27.2%	40.7%	6.6%	8.4%
専業主婦(夫)	33.3%	27.8%	16.7%	8.3%	30.6%	19.4%	55.6%	36.1%	25.0%	2.8%	30.6%	30.6%	16.7%	11.1%
多子世帯	15.8%	9.2%	12.5%	0.8%	11.7%	12.5%	63.3%	37.5%	21.7%	4.2%	23.3%	40.0%	9.2%	8.3%
ひとり親世帯	12.5%	16.7%	6.3%	14.6%	12.5%	25.0%	56.3%	18.8%	16.7%	4.2%	20.8%	25.0%	10.4%	6.3%

### ○専業主婦(夫)世帯

- ・悩み事の相談支援や当事者同士の交流を求めている意見が多い。

### ○多子世帯

- ・子どもの多さから教育費の負担軽減及び教育環境の充実を求める意見が多い。

### ○ひとり親世帯

- ・養育費に関する支援を求めているほか、一時的に子どもを預けることが支援体制を求める意見が多い。

[自由記述 (全体)]

○施設・環境の提供

- ・ 大型商業施設、乳児が遊べる場所の存在
- ・ 子供だけで遊べる公園や広場の要望
- ・ 地区に学童がないことによる職場移転の懸念
- ・ 公共施設におけるおむつ替え・授乳室の設置希望
- ・ 子供と遊べる場所の充実
- ・ 自然環境の維持や美化の要望

○経済的支援

- ・ 増税と出費の増加による経済的心配
- ・ 20～30代の収入向上や補助策の要望
- ・ 子どものための休業支援や手当の要望
- ・ 経済的補助の必要性
- ・ 保育料、副食費の無料化及び補助金提供の希望
- ・ 児童手当の増額要望
- ・ 給付金の増額希望

○教育・習い事

- ・ 小学校の宿題の対応余裕がない
- ・ 習い事の選択制約
- ・ 学校の生徒数減少
- ・ 高校給食の導入
- ・ 大田での習い事情報の希望
- ・ 習い事の実施の充実
- ・ 進学高校の復活要望

○健康・安全

- ・ 病院が少ないことによる不安
- ・ ハラスメントのない環境を望む
- ・ 病児保育の要望

○地域社会との関連

- ・ 子育て支援の必要性
- ・ 子どもを迷惑に思う人の減少希望
- ・ 地域活性化や多子家庭の支援策
- ・ 互助の精神での子育ての希望

○働く親のサポート

- ・ 自分の時間がなく、近くに楽しみがない
- ・ 子どもと親への実質的な支援要望
- ・ 子育てしやすい雇用条件の提案

○その他

- ・ PayPayや口座振り込みによる費用支払い
- ・ 現実的な結婚や子育ての困難さ

[自由記述 (子育て世帯の属性別)] ※頻出した順に掲載

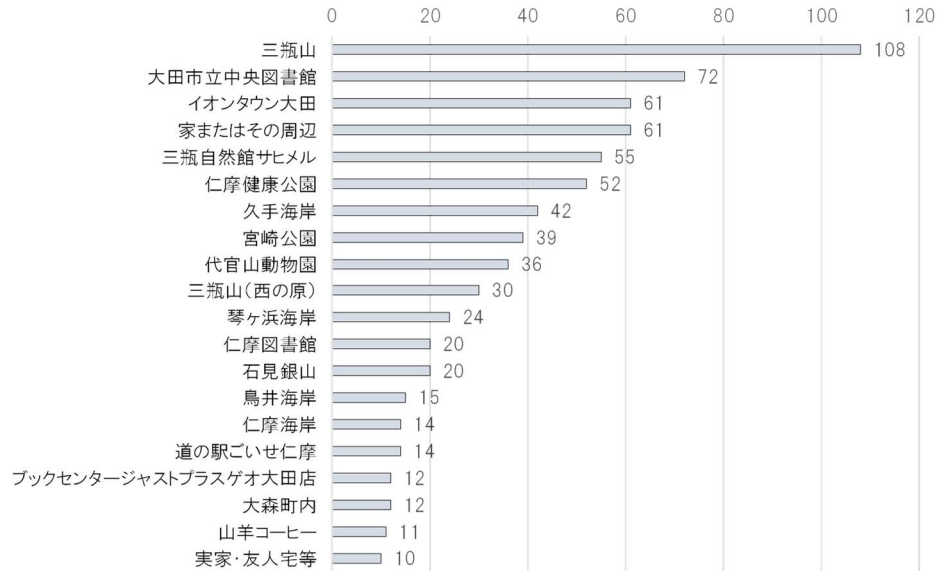
<p><b>共働き世帯</b> に関するまとめ</p>	<p><b>①仕事と生活の両立</b> ・ 日々のルーチンと仕事の両立の難しさ、自分の時間の欠如、地域での楽しみの不足。 <b>②地域の設備・施設の不足</b> ・ 公園や広場、病院のアクセス、習い事の実施の制約。 <b>③教育への懸念</b> ・ 子供の個性に合わせた教育や学校の課題。 <b>④経済的な懸念</b> ・ 増税に伴う出費、子育ての経済的な支援の希望。</p>
<p><b>専業主婦(夫)世帯</b> に関するまとめ</p>	<p><b>①地域の設備・施設の希望</b> ・ 大型商業施設や乳児が遊べる場所。 <b>②社会的な配慮</b> ・ 子どもを迷惑と感じる人々の意識の変革。 <b>③便利な支払い方法</b> ・ PayPay支払いや口座振込・引き落とし。</p>
<p><b>多子世帯</b> に関するまとめ</p>	<p><b>①仕事と生活の両立</b> ・ 自分の時間の欠如、地域での楽しみの不足。 <b>②地域の設備・施設の不足</b> ・ 公園や広場、病院のアクセス。 <b>③経済的な懸念</b> ・ 増税に伴う出費、子育ての経済的な支援の希望。</p>
<p><b>ひとり親世帯</b> に関するまとめ</p>	<p><b>①自然環境について</b> ・ 川や山の保全。 <b>②地域の設備・施設の希望</b> ・ 子供と一緒に遊べる場所の充実。 <b>③教育の実施</b> ・ 進学高校の復活。 <b>④経済的なサポート</b> ・ 給付金の増加の希望。</p>

(11) お気に入りの場所・行事・イベント

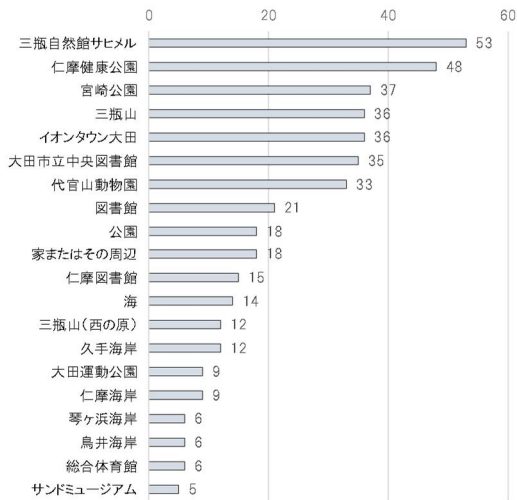
ア) 大田市内の場合

お気に入りの場所として最も多かったのは、「三瓶山」となっており、次いで「大田市立中央図書館」、「イオンタウン大田」となっている。

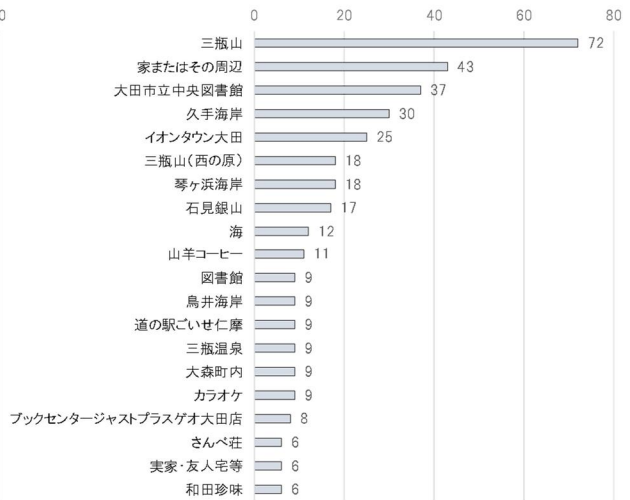
[大田市内]



[子あり世帯、大田市内]



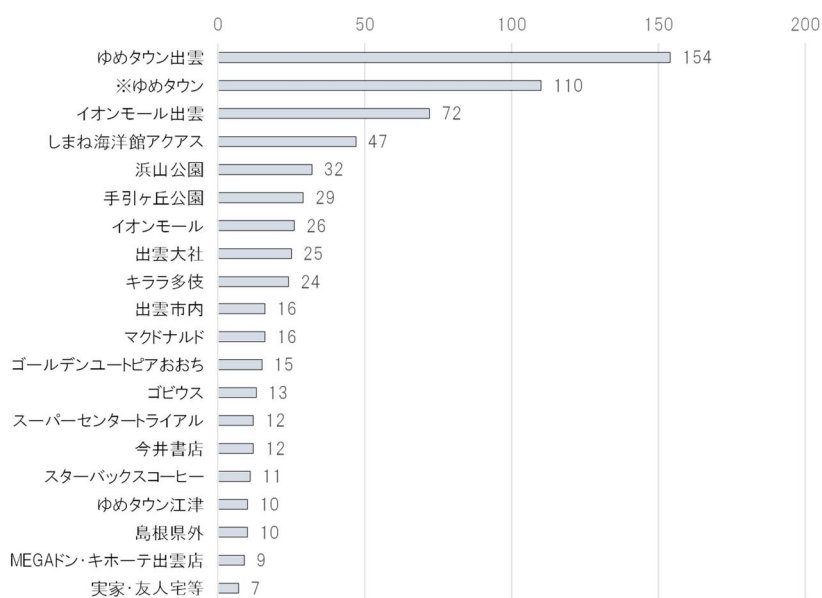
[子なし世帯、大田市内]



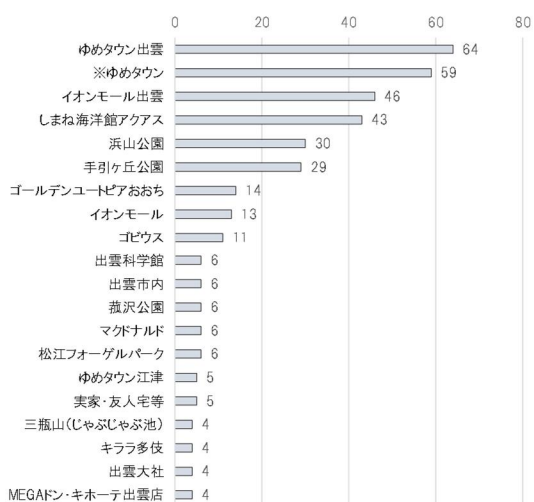
## イ) 大田市外の場合

お気に入りの場所として具体的な名称が特定できる施設の中で最も多かったのは、「ゆめタウン出雲」となっており、次いで「イオンモール出雲」、「しまね海洋館アクアス」となっている。大市内よりも市外施設の回答が多い傾向となっている。

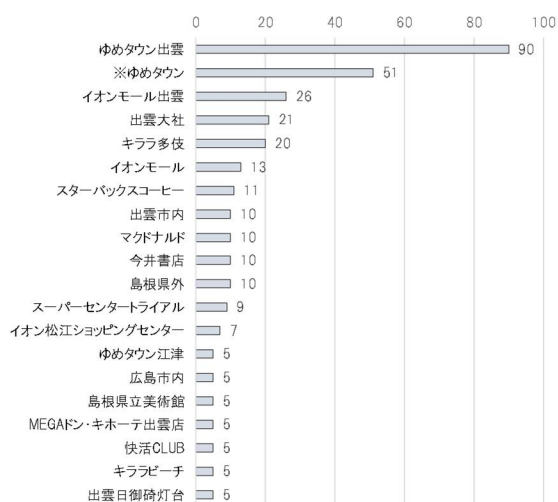
[大田市外]



[子あり世帯、大市内]



[子なし世帯、大市内]



## ウ) 行事・イベント

お気に入りの行事・イベントとして最も多かったのは、「中日つあん」となっており、次いで「天領さん」、「にまごいせ祭り」となっている。

[行事・イベント]

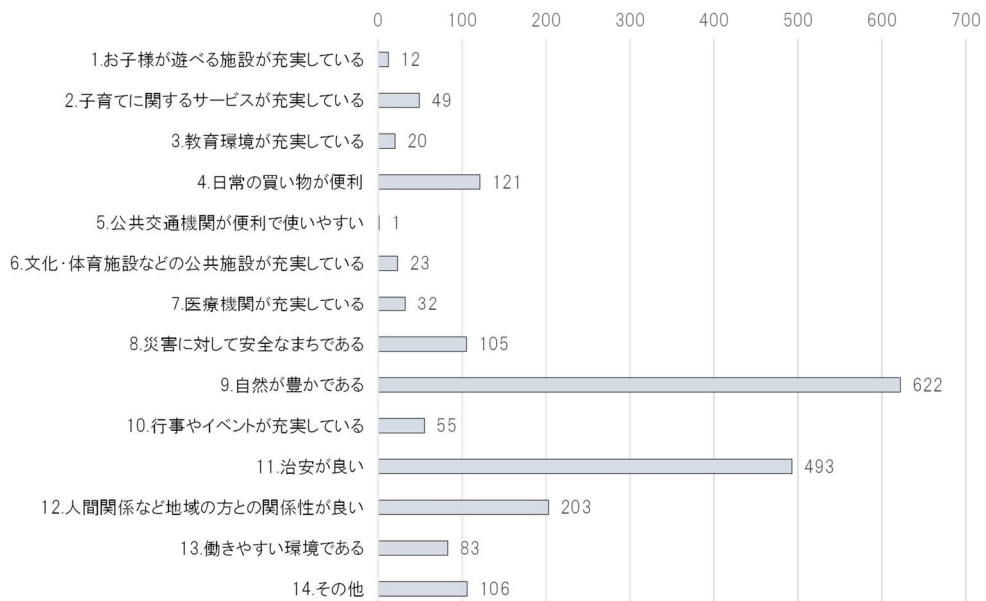


## (12) 大田市に対する満足度

### ア) 満足度 (n=959)

大田市で満足している点として最も多かったのは、「自然が豊かである」となっており、次いで「治安が良い」、「人間関係など地域の方との関係性が良い」となっている。

[満足度]



イ) 満足度クロス集計<地域とのクロス> (n=946 (無回答除外))

大田市に対する満足度を地域別でみると、中心部の地区ほど買物利便性を評価している一方、教育機関が集中している大田町の評価は低い。行事やイベントと人間関係の良さに相関がみられる。大森地区の働きやすさはある程度評価されている。

[地域別満足度]

	社会整備資本							自然資本、人的資本 等							母数(n)
	1.お子様が遊べる施設が充実している	2.子育てに関するサービスが充実している	3.教育環境が充実している	4.日常の買い物物が便利	5.公共交通機関が便利で使いやすい	6.文化・体育施設などの公共施設が充実している	7.医療機関が充実している	8.災害に対して安全なまちである	9.自然が豊かである	10.行事やイベントが充実している	11.治安が良い	12.人間関係など地域の方との関係性が良い	13.働きやすい環境である	14.その他	
大田	1.5%	4.6%	1.5%	18.5%	0.3%	2.7%	3.0%	11.6%	61.4%	5.2%	53.2%	22.5%	10.9%	12.2%	329
川合	2.2%	6.7%	6.7%	8.9%	0.0%	2.2%	2.2%	8.9%	71.1%	11.1%	51.1%	20.0%	8.9%	17.8%	45
池田	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	71.4%	0.0%	42.9%	21.4%	7.1%	7.1%	14
志学	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	63.6%	9.1%	18.2%	27.3%	0.0%	9.1%	11
北三瓶	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	33.3%	6
富山	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
朝山	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	62.5%	0.0%	37.5%	25.0%	12.5%	12.5%	8
波根	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	61.1%	5.6%	55.6%	16.7%	5.6%	11.1%	18
久手	1.0%	7.8%	3.9%	8.7%	0.0%	2.9%	4.9%	16.5%	65.0%	5.8%	54.4%	23.3%	7.8%	11.7%	103
舟井	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	2.9%	2.9%	8.8%	58.8%	0.0%	41.2%	8.8%	0.0%	11.8%	34
長久	0.0%	4.9%	1.6%	22.1%	0.0%	0.8%	4.9%	11.5%	64.8%	3.3%	50.8%	18.0%	7.4%	8.2%	122
静間	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	24.1%	62.1%	3.4%	69.0%	13.8%	3.4%	13.8%	29
五十益	0.0%	0.0%	4.3%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.4%	52.2%	0.0%	52.2%	8.7%	4.3%	13.0%	23
大屋	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	3
久利	0.0%	11.1%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	4.4%	4.4%	68.9%	4.4%	51.1%	20.0%	11.1%	8.9%	45
大森	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	75.0%	16.7%	50.0%	58.3%	33.3%	25.0%	12
水上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	87.5%	0.0%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	8
祖式	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7
大代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	28.6%	7
湯里	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	42.9%	14.3%	57.1%	14.3%	0.0%	14.3%	7
温泉津	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	53.3%	0.0%	46.7%	6.7%	13.3%	6.7%	15
井田	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	77.8%	11.1%	44.4%	22.2%	0.0%	0.0%	9
権波	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%	12.5%	8
仁万	4.9%	4.9%	3.3%	4.9%	0.0%	4.9%	3.3%	6.6%	68.9%	6.6%	49.2%	26.2%	9.8%	8.2%	61
宅野	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	28.6%	28.6%	100.0%	28.6%	57.1%	42.9%	28.6%	0.0%	7
大国	28.6%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	14.3%	71.4%	42.9%	85.7%	42.9%	14.3%	14.3%	7
馬路	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	85.7%	42.9%	42.9%	57.1%	14.3%	0.0%	7

ウ) 満足度クロス集計<年代別 UI ターン別とのクロス> (n 各項目による)

大田市に対する満足度を年代別にみると、10代において、自然資本、人的資本に対する評価が高くなっている。また、UI ターン状況別にみると、買物先と働きやすさについて、I ターンの方が U ターン者よりも高く評価している。

[性別年齢別満足度]

		社会整備資本							自然資本、人的資本 等							母数(n)
		1.お子様が遊べる施設が充実している	2.子育てに関するサービスが充実している	3.教育環境が充実している	4.日常の買い物物が便利	5.公共交通機関が便利で使いやすい	6.文化・体育施設などの公共施設が充実している	7.医療機関が充実している	8.災害に対して安全なまちである	9.自然が豊かである	10.行事やイベントが充実している	11.治安が良い	12.人間関係など地域の方との関係性が良い	13.働きやすい環境である	14.その他	
男性	10代	6.7%	10.0%	3.3%	6.7%	0.0%	6.7%	10.0%	6.7%	73.3%	23.3%	60.0%	36.7%	6.7%	0.0%	30
	20代	0.0%	1.0%	1.0%	16.3%	0.0%	3.8%	5.8%	11.5%	66.3%	5.8%	47.1%	26.0%	9.6%	11.5%	104
	30代	0.6%	4.2%	1.8%	9.6%	0.0%	1.2%	2.4%	11.4%	59.9%	4.8%	47.9%	15.0%	6.6%	13.8%	167
	40代	1.7%	5.9%	2.5%	11.9%	0.0%	2.5%	3.4%	11.0%	60.2%	4.2%	52.5%	16.1%	8.5%	14.4%	118
女性	10代	2.3%	6.8%	2.3%	6.8%	0.0%	6.8%	6.8%	20.5%	72.7%	9.1%	56.6%	36.4%	9.1%	0.0%	44
	20代	0.0%	1.3%	1.3%	14.5%	0.0%	3.3%	1.3%	10.5%	62.5%	5.3%	54.6%	19.1%	9.9%	9.9%	152
	30代	1.7%	7.3%	1.7%	14.6%	0.0%	0.6%	1.7%	9.0%	69.1%	5.1%	52.8%	23.0%	7.9%	9.6%	178
	40代	2.1%	8.2%	3.4%	11.0%	0.7%	1.4%	4.1%	11.6%	65.1%	4.1%	49.3%	19.9%	11.6%	15.1%	146

[UI ターン状況別満足度]

	1.お子様が遊べる施設が充実している	2.子育てに関するサービスが充実している	3.教育環境が充実している	4.日常の買い物物が便利	5.公共交通機関が便利で使いやすい	6.文化・体育施設などの公共施設が充実している	7.医療機関が充実している	8.災害に対して安全なまちである	9.自然が豊かである	10.行事やイベントが充実している	11.治安が良い	12.人間関係など地域の方との関係性が良い	13.働きやすい環境である	14.その他	母数(n)
Uターンしてきた	1.9%	4.7%	1.4%	13.7%	0.0%	1.9%	1.9%	9.5%	64.5%	4.3%	47.9%	17.1%	5.7%	13.7%	211
Iターンしてきた	1.8%	7.7%	1.8%	19.1%	0.0%	3.2%	3.2%	7.7%	65.5%	7.7%	47.7%	25.0%	14.1%	10.5%	220
基本的にずっと大田市に居住している	0.8%	4.5%	2.5%	9.2%	0.2%	2.5%	3.9%	13.3%	66.4%	5.5%	56.1%	22.3%	7.4%	10.5%	488



[その他回答]

○満足していない・不便を感じる

- 交通の不便さ
- 買い物する場所の限定性
- 子供を連れて行く公園の不足
- 賃金が安い
- 教育長の考え方に不満
- 市内の魅力やサービスが不足
- 就職の機会が少ない
- 全体的な不満や中途半端な感じ

○子育て関連のサポートやメリット

- 子育て環境が良い
- 中学生までの医療費が無料
- 子育て支援センターのサポート
- 両親や親戚のサポートの有無

○住む理由や背景

- 親や家族が大田市内に住んでいる
- 出身地や実家が近い
- 職場や仕事が大田市にある

○市内の環境や特色

- ワークライフバランスの浸透
- 人が少なく、静かで落ち着く
- 渋滞や混雑が少ない
- 観光スポットや世界遺産の存在
- バイクでのドライブや美味しい食べ物

○具体的な魅力やメリットを感じない・中立的な意見

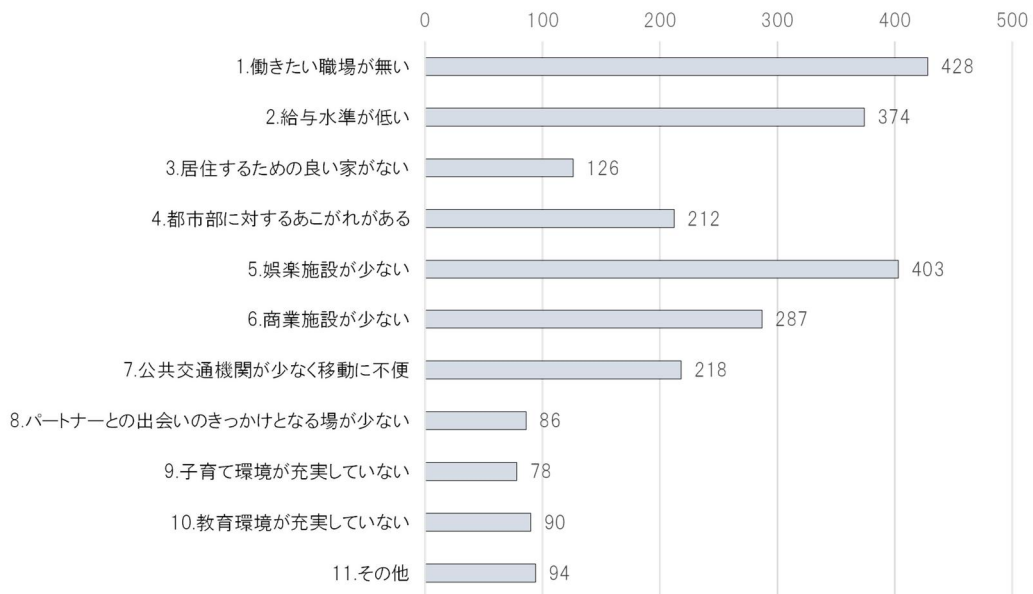
- 特になし・何もない・普通
- 住みなれている・馴染みがある

(13) 人口減少の要因

ア) 人口減少の要因

人口減少の要因として最も多かったのは、「働きたい職場が無い」となっており、次いで「娯楽施設が少ない」、「給与水準が低い」となっている。

[人口減少の要因]

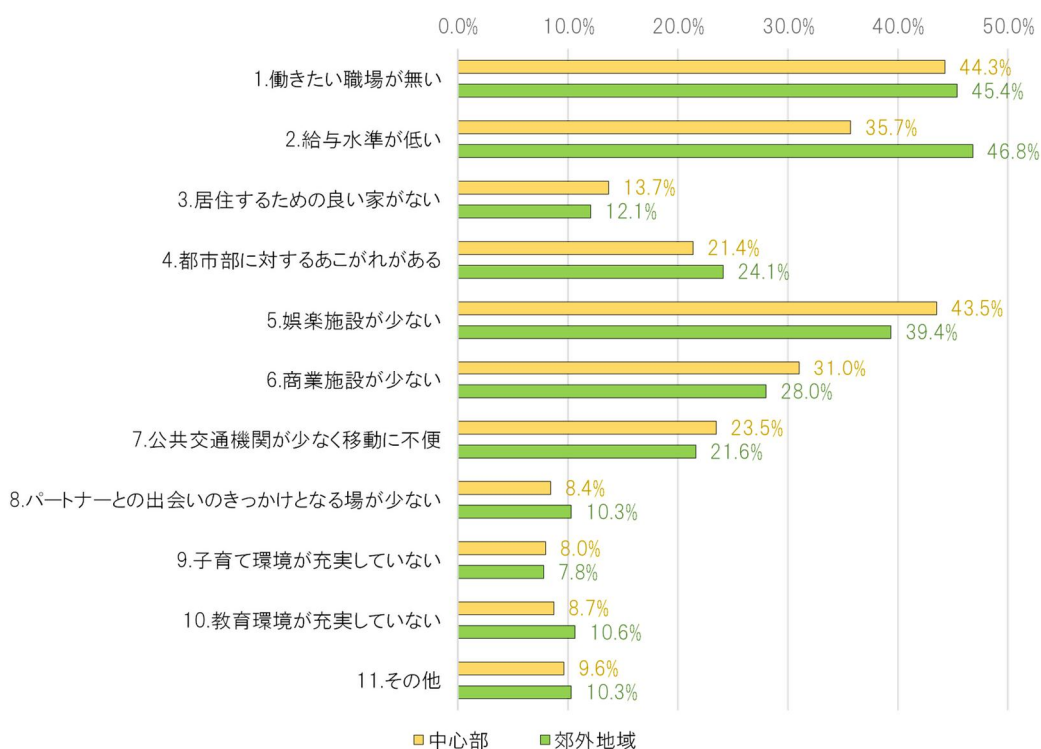


## イ) 地域別の人口減少要因

給与水準について、中心部よりも郊外部の方が割合が高い。

一方で、娯楽施設と商業施設の少なさについては、郊外部よりも中心部の方が割合が高い。

[地域別の要因]



※中心部として定義した地区は、大田、長久、久手、鳥井、仁万、温泉津の6地区。

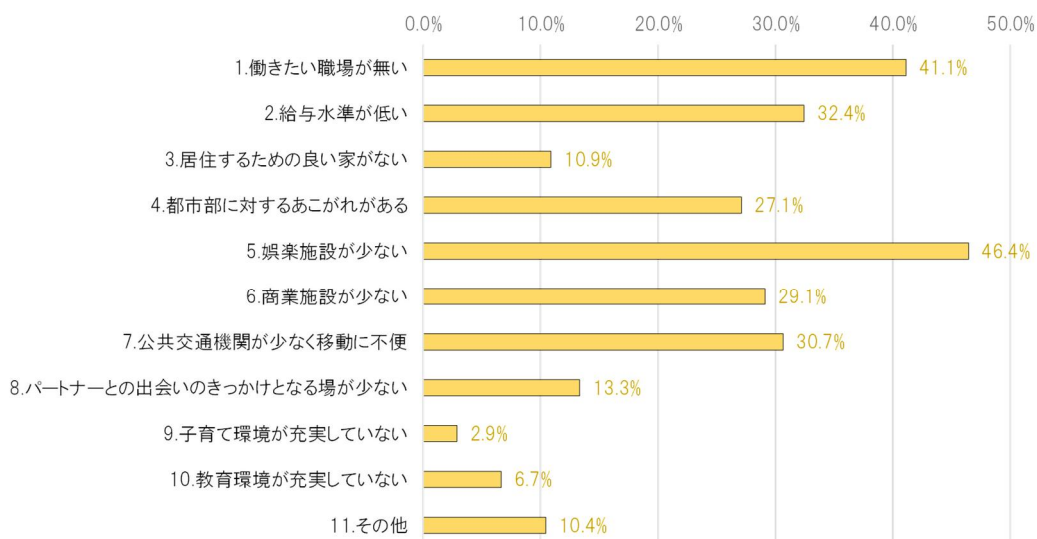
理由は、大田、長久、久手、鳥井については、用途地域が設定されており、ある程度の人口や産業の集積が図られた地区であるため。仁万、温泉津は用途地域の設定は無いが、大田市が定める立地適正化計画において両地区は地域の中心拠点として位置付けられているため。

## ウ) 独身（子なし）世帯の人口減少要因

娯楽施設が少ないが一番高い。

公共交通機関が少なく移動に不便というのも全体に比べて高くなっている。またパートナーの出会いのきっかけが少ないという意見も多い

[独身者の要因]



[独身（子なし）世帯が選ぶ要因とその理由]

<b>働きたい職場が無い</b> に関するまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 老人人口が多いため、特定の業種、例えば福祉や介護に求人が偏りがち。</li> <li>• 若者が希望するような職場や新しい業種の企業が少ないための都市部への流出。</li> <li>• 地域の産業構造の偏りや経済活動の低下により、職場や企業の多様性が不足。</li> <li>• 地域企業の給与水準や福利厚生、キャリアアップの機会が限られている。</li> </ul>
<b>娯楽施設が少ない</b> に関するまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域内でのエンターテインメントの選択肢が限られていることから外出の際に行き先が制限される。</li> <li>• 大型のスポーツ施設や映画館、レジャースポットの不足により、週末の過ごし方やデートスポットに困る。</li> <li>• 地域の活性化や観光促進のためのイベントや施設が少なく、若者の居住意向が低下。</li> </ul>
<b>公共交通機関が少なく移動に不便</b> に関するまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域内のバスや電車の本数が少ないため、日常の移動が不便。</li> <li>• 地域間、特に都市部へのアクセスが難しく、買い物や医療機関へのアクセスに時間や手間がかかる。</li> <li>• 運賃の問題や交通手段の選択肢の少なさから、車を所有しないと生活が困難。</li> <li>• 高齢になり車が運転できなくなることを思うと、今の時点から不安に思う。将来の生活に不安がある。</li> </ul>

現在の公共交通機関の不足を鑑みて、将来自らが自動車の運転を行えなくなった際の生活に懸念を抱く若年世代もいる。

## エ) 要因の理由

以下、各項目ごとに要因の理由を記載する。

<p><b>働きたい職場が無い</b> に関するまとめ</p>	<p><b>○職種・業種の偏りと限定性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業種に偏りがある、例えば介護の求人が目立つ。</li> <li>・ 職種や業種が少なく、選択の幅が狭い。</li> <li>・ 一般的なものから、特定の業種(例:IT、アパレル)まで求人が少ない。</li> </ul> <p><b>○企業の少なさと質の問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内に存在する企業の数が少ない。</li> <li>・ 良い会社のイメージや知識が少ない。</li> <li>・ 大手や魅力的な企業が不足している。</li> </ul> <p><b>○条件や福利厚生の問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給与の低さや労働条件の不十分さ。</li> <li>・ フレックスタイム制やワークシェアリングの導入が求められる。</li> <li>・ 福利厚生が充実している企業が少ない。</li> </ul> <p><b>○情報の不足</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業や求人の情報が少ない。</li> <li>・ 求人ページやHPの情報が不十分。</li> <li>・ 募集条件が厳しい、または限定的。</li> </ul> <p><b>○職場環境と文化の問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的な価値観や慣習に囚われた職場が多い。</li> <li>・ 人間関係の質の問題や古い価値観の持つ会社。</li> <li>・ 若い人や特定の背景を持つ人々にとって魅力的でない職場環境。</li> </ul> <p><b>○地域的な要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市部との比較での選択肢の少なさや魅力の不足。</li> <li>・ 地域の人口や教育水準の問題。</li> <li>・ 地域内での選べる職種や求人が特定の範囲に限定されている。</li> </ul>
-------------------------------------	--

<p><b>給与水準が低い</b> に関するまとめ</p>	<p><b>○物価高とのバランス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物価高騰に対する賃上げが見られない。</li> <li>・ 手取りが少ない。</li> <li>・ 物価高による生活の圧迫感。</li> </ul> <p><b>○給与不足の実感</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的に給与が低い。</li> <li>・ 残業未払いの問題。</li> <li>・ 手当やボーナスの少なさ。</li> </ul> <p><b>○地域性の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市部や他の地域との給与格差。</li> <li>・ 車が必須な地域の家計の負担。</li> <li>・ 企業誘致の不足。</li> </ul> <p><b>○生活実態と給与</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実家暮らしによる給与の実感の薄さ。</li> <li>・ アパートや一人暮らしでは厳しい給与水準。</li> <li>・ 共働きが必須な家庭の増加。</li> </ul> <p><b>○子育て世帯への影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供を持つことの難しさ。</li> <li>・ 子育て費用の不足。</li> <li>・ 子ども1人で精一杯。大学に行かせたいが厳しい。</li> <li>・ 子育て家庭への支援の不足。</li> </ul> <p><b>○企業の問題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業の小規模化や零細企業の多さ。</li> <li>・ 正社員でありながら低給与。</li> <li>・ 競合する施設や企業の少なさ。</li> <li>・ 地域特性を生かした産業振興に課題。</li> </ul> <p><b>○地域間の給与比較</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大都会や他県との給与差。</li> <li>・ 地域内での給与格差。</li> <li>・ 自動車維持や物価の違いによる生活コストの影響。</li> </ul> <p><b>○女性の給与問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性の給与が特に低いとの声。</li> <li>・ 専門知識があっても給与に反映されない。</li> <li>・ 女性というだけで給与上昇に壁がある。</li> </ul>
-----------------------------------	--

<p><b>居住するための良い家がない</b></p> <p>に関するまとめ</p>	<p><b>○家賃や賃貸が高い</b> 田舎なのに家賃が高い。 都会並みの家賃。 所得が低い割に家賃が高い。</p> <p><b>○空き家の問題</b> 空き家が多すぎる。 空き家はあるが住めない、または貸してもらえない。 空き家の情報が不透明または少ない。</p> <p><b>○良質な住宅やアパートの不足</b> ファミリー向けや一人暮らし向けのアパートが少ない。 騒音が少ないアパートやマンションの不足。 新しいアパートの家賃が高い。</p> <p><b>○土地に関して</b> 住宅を建てたいが土地が見つげにくいまたは高い。 空き家を撤去して土地を開放すべきという提案。 希望する地域での土地の不足。</p> <p><b>○住宅の状態や条件の問題</b> 古い家が多い。 住むにはリフォームが必要な家が多い。 賃貸物件が狭い、または子育てに適していない。</p> <p><b>○不動産の取り扱いや情報の問題。</b> 一部の個人が複数の空き家を所有している。 空き家バンクのハードルが高い。</p> <p><b>○その他の要因</b> 交通の便や周辺環境。 田舎特有のご近所付き合いが大変。 職場に近い家の中々ない。</p>
--	--

<p><b>都市部に対するあこがれがある</b></p> <p>に関するまとめ</p>	<p><b>○都市部の魅力・利便性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ショッピング、教育環境の格差</li> <li>・ 施設やお店が充実しているため</li> <li>・ 娯楽施設が沢山あるから</li> <li>・ 公共交通機関や商業施設が充実している</li> <li>・ SNSの『映える』写真投稿の影響</li> <li>・ 若者の間で流行している店舗や施設の経験ができない</li> <li>・ 都会には10代、20代の流行が反映されているから</li> </ul> <p><b>○大田市の不満点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大田市の施設やサービスが不足</li> <li>・ 大田市にはなんもないって言う人が多いから</li> <li>・ 大田市に、ないものが大概ある</li> <li>・ ショッピングモールがない</li> <li>・ 一度は外に出てみたいという気持ちがあると思う</li> </ul> <p><b>○地域の自然環境や状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田舎すぎる</li> <li>・ 山しかないから</li> </ul> <p><b>○若者の都会に対する夢</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い人は一度は都会の方へ出てみたいと思っている気がする</li> <li>・ 一度は都会に出てみたいと思うから</li> <li>・ 若者の妄想が過ぎる</li> <li>・ メディアで話題のモノに触れたい</li> <li>・ メディアで都会の華やかさがしきりに流れてくる</li> <li>・ Uターンは少ないが、都市部との比較やリアルな情報提供を通じて、大田市の魅力を伝えるべきという提案</li> </ul> <p><b>○生活・仕事の機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進学や就職のために都市部へ</li> <li>・ 都会の進学先でそのまま就職する</li> <li>・ 都市部にある就職先や娯楽施設等の魅力があるものが少ない</li> <li>・ 進学や仕事の機会が都市部に多い</li> <li>・ 働きたい場所が多い</li> </ul>
---	--

<p style="text-align: center;"><b>娯楽施設が 少ない</b></p> <p style="text-align: center;">に関するまとめ</p>	<p><b>○施設の不足・選択肢の少なさ</b>          屋内で遊べる施設がない          カラオケやボーリングなどがない          若者が集まれる場所はカラオケくらいしかない          子供から大人まで楽しめるような場所が少ない          子供の遊び場が特に雨の日に不足している</p> <p><b>○市外施設への依存</b>          遊び場がないので市街に遊びに行くしかない          出雲市まで行かないと楽しくない          多くの人は出雲に出かけている          娯楽施設が一切無いため出雲・松江に住む人が多い          遊びたい場合は出雲市へ行くことが多い</p> <p><b>○若者向けの遊び場の不足</b>          若者向けの娯楽施設が極端に少ない          ゲーセンやカラオケ店のような場所が欠けている          若者向けの店舗が存在しない          独身者の出会いの場所がない          若者が遊ぶ場所が全くない</p> <p><b>○具体的な施設の要望</b>          映画館などが欲しい          ゆめタウン出雲のような施設が欲しい          大型のゲームセンターが無い          ネカフェやボーリング場が欲しい          せっかくの雪を活かした施設やスキー場の再開          発</p>	<p><b>○公共場所の不足</b>          公園遊具の不足          無料で身体を動かして遊べる場所の要望          親子で行ける遊び場の欠如          子どもやパートナーと楽しめる施設が不足          子供が自由に遊べる場所の不足</p> <p><b>○地域の魅力や資源の未活用</b>          三瓶山などの自然資源の活用不足          小さい子が遊べる公園はあるものの、学生向けの場所がない          自然しかない地域の魅力を最大限に活かしていない          将来的な魅力を感じさせる施設が少ない          地域の自然や特色を生かした施設がほしい</p> <p><b>○新しい市役所よりも人が集まる施設の建設が望ましい</b>          若者の遊ぶ施設がないと人口減少に繋がる          人口が少ないから経営が成り立たない          休日に遊ぶ場所がないため経済的な流出が懸念される</p> <p><b>○賑わいを生む施設が必要</b>          遊び場がないと感じる          ゆっくり休める場所や遊べる場所が欠けている          パチンコ屋しかないという不満          退屈してしまう          娯楽施設の存在が分からない、または認知されていない</p>
--	---	--

<p style="text-align: center;"><b>商業施設が 少ない</b></p> <p style="text-align: center;">に関するまとめ</p>	<p><b>○商業施設の不足</b>          ・ 映画館がない          ・ 大型スーパーや百貨店がない          ・ ショッピングモールがない          ・ 専門店が少ない(模型屋、若者向けの店など)          ・ 大田市内の選択肢が少ない、出雲や松江に行く必要がある          ・ イオンやゆめタウン出雲などの施設がほしい          ・ 全国チェーンの店舗が少ない</p> <p><b>○日常生活の不便</b>          ・ 子供用品が少ない、市外での購入が必要          ・ 食料品以外は市外やネットでの購入が主流          ・ 車がないと生活が困難          ・ 安いスーパーがない          ・ 土地はあるが、施設が不足している</p> <p><b>○若者・子供向け施設の不足</b>          ・ 若者向けの施設やショップが少ない          ・ 子供達が遊べる場所や子供向けの外食場所が不足          ・ 学生や若者が集まる場所がない</p> <p><b>○市の魅力・活気の不足</b>          ・ 市外に比べ品揃えや店の質が低い          ・ 人が少ない、活気がない          ・ 仕事や娯楽の選択肢に限られる          ・ 市内での買い物が高い、または品数が少ない</p> <p><b>○移動・アクセスの問題</b>          ・ 市外に行く回数が多い          ・ 買い物や飲食のために出雲や松江に行く必要がある          ・ 都会の方が魅力的、住みやすいと感じる人が多い          ・ 立地的な問題から、他の都市に出てしまう</p>	
--	--	--

<p>公共交通機関が少なく移動に不便に関するまとめ</p>	<p><b>○交通手段の本数や利便性の問題</b>  バス、JRの本数が少ない  高速道路、JRの便利が悪い  中学、高校からの帰りのバスも不便  次の便が来るまで1時間かかったりする  JRバスの本数が少ないだけでなく、運転免許取得が不可能な者への移動支援が不足  西部、東部のどちら対しても移動手段が少なく時間がかかる  電車の待ち時間が長すぎる  日に2本のバスと2時間に1本の電車</p> <p><b>○車が必須の社会</b>  私用車ありきで物事が考えられてる  車を運転しないとどこにも行けない  車がないと移動手段がない  車がほぼ必要不可欠  生活に車が必須で不便</p> <p><b>○経済的な負担の問題</b>  バス、電車賃が高い  自家用車がないと生活できないのに税金が上がるしガソリン代もかかる  市内を公共交通機関だけで移動するのは難しいから。県外のライブなどに行くのに費用がたかさんかかるから  移動距離も長いから必然と交通費も高くなる  山間部は市内へ出るにもバスかタクシーしか無く、どちらも高い</p> <p><b>○将来的な不安</b>  今は車で良いが、将来的に不安  高齢になり車が運転出来なくなる時の事を考えると不安がある。ネットスーパー的なサービスが必要になる事も考えられる  車がないとどこにも行けず、将来の生活に不安がある(免許返納など考える年齢になると)</p> <p><b>○都市までが遠い</b>  人口減少のため山間部と市内への交通機関が少ない  鉄道や高速道路が充実していないため県外からの友人を呼び寄せにくい  県外の友達も、交通の弁が悪すぎて帰る気にならないと言われる</p>
-------------------------------	---

<p>パートナーとの出会いのきっかけとなる場が少ないに関するまとめ</p>	<p><b>○地域的要因</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>田舎での出会いが少ない</li> <li>大田市の婚活イベントが不足</li> <li>都市部への流出</li> <li>市外や県外でパートナーを探す傾向</li> </ul> </p> <p><b>○自身の生活スタイルによる問題</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事と家の往復だけ</li> <li>自営業での出会いが少ない</li> </ul> </p> <p><b>○適切な出会いの場が無い</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>合コンや集まりが不足</li> <li>若者が参加しづらいイベント</li> <li>出会いを促進するサービスやマッチングアプリの不足</li> <li>食事やデートスポットが少ない</li> <li>イベントの質問題(例: サクラが多い)</li> <li>職種の多様性がない、偏った年齢層や性別</li> <li>インドア派のイベントが少ない</li> </ul> </p> <p><b>○若者の人口とコミュニティの問題</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>若者が市外・県外へ移住</li> <li>自然な出会いの場に参加しない若者が多い(例: 青年部)</li> <li>同世代のコミュニティーが形成しづらい</li> <li>適齢な年代の男女が少ない</li> <li>若者が集まる場所の不足</li> </ul> </p> <p><b>○心理的要因</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>出会いの場に行っても知り合いばかりで恥ずかしい</li> <li>きっかけやときめく相手がいらない感覚</li> <li>出会いがシンプルにない、または出会いの場がまずないと感じる</li> <li>友人関係ができていない人は良いが、できない人は難しい</li> </ul> </p>
---------------------------------------	--

<p>子育て環境が充実していない に関するまとめ</p>	<p><b>○遊び場・公園の不足</b> 公園の設備が整っていない 遊具が少ない、壊れている 屋内で遊べる施設が欲しい 遊ぶ施設の規模が小さい 子供の遊ぶ場所が少ない</p> <p><b>○医療の不足</b> 子どもがきちんと診られる医療機関が限られている 発達障がいなどの特別なケアが必要な子供への支援が不足 病児保育の不足 休日診療の不足</p> <p><b>○経済的支援の不足</b> 保育料が高い チャイルドシートなど必要なものへの助成が不十分 児童手当の増額要望 子育て応援金や支援金の不足 金銭的サポートが充実していない 子育てに関わる費用の負担軽減</p> <p><b>○施設関連の問題</b> 施設の老朽化 教員・保育士の不足 習い事やイベントが少ない 子ども向けのサービスや教育の品質に不安</p> <p><b>○安全性・インフラの問題</b> 安全な歩道の整備が不足 通学路が危険 倒壊しそうな空き家が放置されている 運転マナーの問題</p> <p><b>○働く親への配慮</b> 働きながらの妊娠・出産のハードルが高い 仕事と子育ての両立の困難さ 男性の育休取得の難しさ 保育士の給料の問題</p> <p><b>○情報・サポート体制の不足</b> 乳幼児期の支援や情報の不足 子育て支援体制が整っていない 子育てに関する政策が見えない</p> <p><b>○他地域との比較</b> 他市との比較での劣後感 大田市での子育て環境の評判は良くない 市政への不信感や期待値の低さ</p>
----------------------------------	---

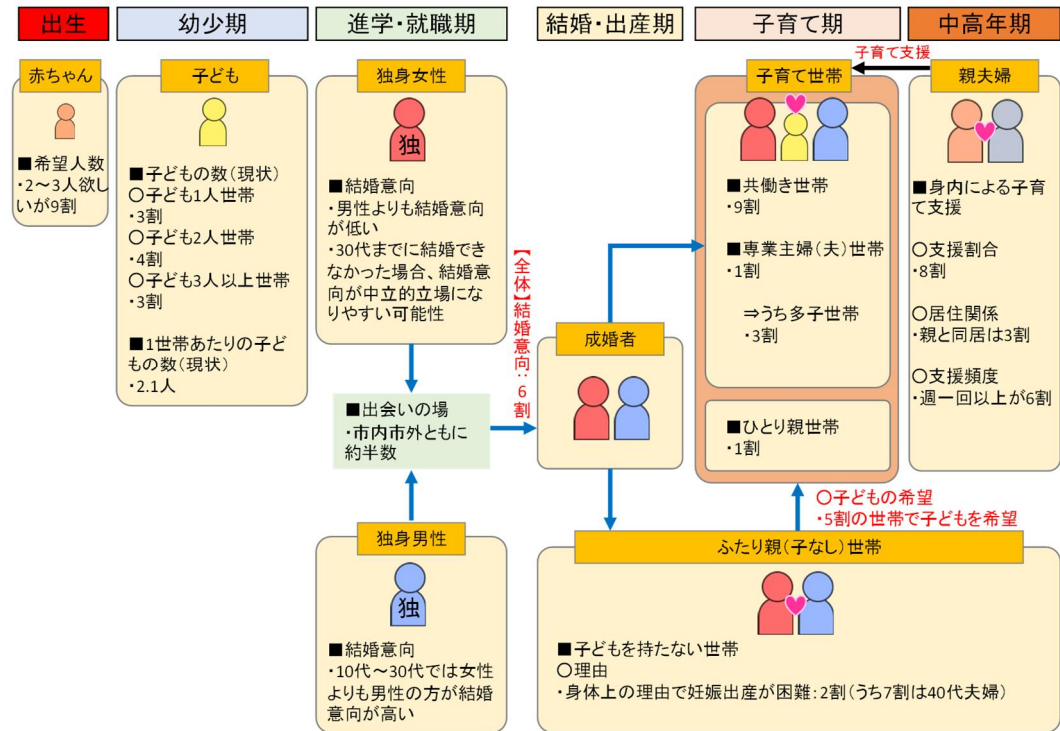
<p>教育環境が充実していない に関するまとめ</p>	<p><b>○進学のための移住</b> 大田を進学タイミングで離れ、他の場所に定住することが多い 高校や大学への進学を契機に市外へ転出 大学や専門学校が存在しないための移住</p> <p><b>○教育機関・施設の不足と質の問題</b> 市内の高校の選択肢の不足 英語教育などの習い事の選択肢が少ない 私立学校が存在しない 塾や習い事の選択肢が少ない 学校や塾の建物や施設の老朽化</p> <p><b>○学力・教育レベルの懸念</b> 学力テストの結果が低い 学校の指導内容が不十分 教育水準が低い</p> <p><b>○教員の働き方・教育委員会に対する懸念</b> 教員の過労問題 教員の雑務が多く、教育に集中できない状況 教育委員会が機能していない、相談に応じない</p> <p><b>○子供向けの施設整備の不足</b> 子どもが楽しめる施設の不足 習い事やスポーツ施設の不足 学童利用時の勉強の機会が少ない 児童数が少ない学校が多すぎる</p> <p><b>○その他の教育環境の懸念</b> ICTの活用が遅れている 学習塾のレベルが低い 障がい者向けの支援不足</p>
---------------------------------	---



<p><b>その他</b> に関するまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少や少子高齢化が問題となっており、これは大田市だけでなく、日本全体の問題である。</li> <li>・市政や政策が中途半端で、実際の住民のニーズにできていない。</li> <li>・生活費や税金が高く、一方でサービスや設備が不足。</li> <li>・若者にとっての魅力や将来性を感じにくい。</li> <li>・学びや働く場が限られており、大田市以外の場所への移住や就職が多い。</li> <li>・観光や自然環境以外の魅力が乏しいと感じる住民が多い。</li> <li>・大田市の家賃や光熱費が高い。</li> <li>・専門学校や大学が不足。</li> <li>・医療機関や大きな病院の不足。</li> <li>・若い世代が大田市に魅力を感じない。</li> <li>・イベントや娯楽施設が少ない。</li> <li>・高い税金と共同住宅の家賃。</li> <li>・SNSの活用不足。</li> <li>・市役所が市民の声にできていない。</li> <li>・商業施設や家族向けの施設が不足。</li> <li>・若者や家族の生活や子育てに不便。</li> </ul>
-------------------------------	---

オ) まとめと＜参考＞属性別回答割合等のまとめ

[属性別回答割合等のまとめ]



### 3. 市民アンケート調査票

#### (1) 調査票 A (パートナーあり、18 歳以下の子あり)

しまね電子申請サービス (大田市) 

[ログイン](#)

[利用者登録](#)

[申請書ダウンロード](#)

[手続き申込](#) > [申込内容照会](#) > [職責署名検証](#)

手続き申込

[手続き選択をする](#) [メールアドレスの確認](#) [内容を入力する](#) [申し込みをする](#)

申込

選択中の手続き名：【起案用】人口減少対策にかかるアンケート調査 (調査票A：パートナーあり、18歳以下のお子様あり)  
問合せ先 [+開く](#)

問1-1. お住まいの地域を選択してください。

問1-2. あなたとパートナーの大田市での居住歴とUターン経験についてお答えください。

(1) あなたの大田市での居住年数をお答えください。

例：5年3ヵ月

(2) あなたのUターンの有無について、以下から1つ選択してください。

Uターンされた方はどちらから来られたかお答えください。(例：〇〇県△△市から／アメリカから)

1.Uターンしてきた

2.Uターンしてきた

3.基本的にずっと大田市に居住している (進学等の期間を除く)

**(3) あなたのUターンの理由について、選択してください。※(2)で「1」「2」を選択された方**

あてはまるものを全て選択してください。  
「9.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.住みたい家があったため
- 2.住みたい地域があったため
- 3.就職、転職、起業のため
- 4.結婚、出産のため
- 5.移住相談の対応が良かったため
- 6.豊かな自然や情景に惹かれたため
- 7.大田市が出身地であるため
- 8.親と一緒に暮らすため
- 9.その他

**(4) あなたが、ずっと大田市に居住されている理由を選択してください。※(2)で「3」を選択された方**

あてはまるものを全て選択してください。  
「7.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.仕事に恵まれていたため
- 2.パートナーや親との関係のため
- 3.大田市が好きなため
- 4.大田市が住みやすいため
- 5.大田市が出身地であるため
- 6.仕事や住まいに関するより良い情報が無かったため
- 7.その他

**(5) パートナーの大田市での居住年数をお答えください。**

例：5年3ヵ月

**(6) パートナーのUターンの有無について、以下から1つ選択してください。**

Uターンされた方はどちらから来られたかお答えください。(例：〇〇県△△市から/アメリカから)

- 1.Uターンしてきた

2.1ターンしてきた

3.基本的にずっと大田市に居住している（進学等の期間を除く）

**（7）パートナーのU1ターンの理由について、選択してください。※（6）で「1」「2」を選択された方**

あてはまるものを全て選択してください。  
「9.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.住みたい家があったため
- 2.住みたい地域があったため
- 3.就職、転職・起業のため
- 4.結婚・出産のため
- 5.移住相談の対応が良かったため
- 6.豊かな自然や情景に惹かれたため
- 7.大田市が出身地であるため
- 8.親と一緒に暮らすため
- 9.その他

**（8）パートナーがずっと大田市に居住されている理由を選択してください。※(6)で「3」を選択された方**

あてはまるものを全て選択してください。  
「7.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.仕事に恵まれていたため
- 2.パートナーや親との関係のため
- 3.大田市が好きのため
- 4.大田市が住みやすいため
- 5.大田市が出身地であるため
- 6.仕事や住まいに関するより良い情報が無かったため
- 7.その他

**問2．あなたとパートナーの就労状況等についてお答えください。**

(1) あなたの性別を選択してください。

(2) あなたの年齢を選択してください。

(3) あなたの勤務地を選択してください。

(4) あなたの勤務形態を選択してください。

(5) あなたの職業・業種をお答えください。

就労しておられる方のみお答えください。

(6) あなたの就労時間をお答えください。

就労しておられる方のみお答えください。

例：〇〇時～△△時

(7) パートナーの性別を選択してください。

(8) パートナーの年齢を選択してください。

(9) パートナーの勤務地を選択してください。

(10) パートナーの勤務形態を選択してください。

(11) パートナーの職業・業種をお答えください。

就労しておられる方のみお答えください。

### (12) パートナーの就労時間をお答えください。

就労しておられる方のみお答えください。

例：〇〇時～△△時

### 問3-1. 大田市に暮らしていて満足と感じていることは何ですか。

あてはまるものを全て選択してください。

「14.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.お子様が遊べる施設が充実している
- 2.子育てに関するサービスが充実している
- 3.教育環境が充実している
- 4.日常の買い物が便利
- 5.公共交通機関が便利で使いやすい
- 6.文化・体育施設などの公共施設が充実している
- 7.医療機関が充実している
- 8.災害に対して安全なまちである
- 9.自然が豊かである
- 10.行事やイベントが充実している
- 11.治安が良い
- 12.人間関係など地域の方との関係性が良い
- 13.働きやすい環境である
- 14.その他

### 問3-2. あなたとパートナーの出会いについて、選択してください。

現在のパートナーと出会った機会や場所としてあてはまるものを全て選択してください。また、出会った機会や場所が「市内」か「市外」のどちらであるのかもお答えください。

※選択肢の下の四角に「市内」か「市外」とご入力ください。

- 1.趣味やサークルの集まり

- 2.友達と合コン

3.婚活パーティー

4.友人や知人からの紹介

5.学生の頃からの知り合い

6.同じ勤務先

7.婚活サービス

8.お見合い

9.その他

10.特にない

**問3-3. 問3-2で「9.その他」を選択された方にお聞きます。具体的な内容をお答えください。**

**問4-1. あなたのお子様の年齢区分を選択し、年齢区分の下の四角の中に人数をお答えください。**

18歳以下のお子様についてお答えください。

1. 0～3才

2. 4～6才

3. 7～10才

4. 11～12才

5. 13～15才

6. 16～18才

**問4-2. 今後のお子様に関するご意向をお答えください。**

**(1) 希望するお子様の人数を選択してください。**

**(2) (1)で「2」又は「3」と回答された方にお聞きます。理想とするお子様の人数をお答えください。**

※下の四角の中に人数をお答えください。

人

**(3) (1)で「3」と回答された方にお聞きます。その理由を3つ選択してください。**

「8.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.育児費用が負担
- 2.将来の収入が不安
- 3.仕事との両立が困難
- 4.身体的に妊娠・出産が困難
- 5.家族の育児協力を得るのが困難
- 6.保育所等の子育て支援が不十分
- 7.住宅環境が不十分（家が狭い等）
- 8.その他

**問5-1. 以下の大田市の子育て支援サービス等についてお聞きます。**

**「一時預かり保育」についてお聞きます。**

**(1) 利用の有無を選択してください。（一時預かり保育）**

**(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。（一時預かり保育）**



(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(一時預かり保育)

(4) (3) の理由を選択してください。(一時預かり保育)

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯
- 3.利用できる日数
- 4.支援の内容
- 5.その他

「延長保育」についてお聞きします。

(1) 利用の有無を選択してください。(延長保育)

(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(延長保育)

(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(延長保育)

(4) (3) の理由を選択してください。(延長保育)

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯
- 3.利用できる日数
- 4.支援の内容
- 5.その他

「病児保育・病後児保育」についてお聞きします。

(1) 利用の有無を選択してください。(病児保育・病後児保育)

(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(病児保育・病後児保育)

(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(病児保育・病後児保育)

(4) (3) の理由を選択してください。(病児保育・病後児保育)

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯
- 3.利用できる日数
- 4.支援の内容
- 5.その他

「子育て支援センター」についてお聞きします。

(1) 利用の有無を選択してください。(子育て支援センター)

(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(子育て支援センター)

(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(子育て支援センター)

(4) (3) の理由を選択してください。(子育て支援センター)

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯
- 3.利用できる日数
- 4.支援の内容
- 5.その他

「放課後児童クラブ」についてお聞きします。

(1) 利用の有無を選択してください。(放課後児童クラブ)

(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(放課後児童クラブ)

(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(放課後児童クラブ)

(4) (3)の理由を選択してください。(放課後児童クラブ)

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯
- 3.利用できる日数
- 4.支援の内容
- 5.その他

「ファミリーサポートセンター」についてお聞きします。

(1) 利用の有無を選択してください。(ファミリーサポートセンター)

(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(ファミリーサポートセンター)

(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(ファミリーサポートセンター)

(4) (3)の理由を選択してください。(ファミリーサポートセンター)

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯
- 3.利用できる日数
- 4.支援の内容
- 5.その他

問5-2. その他、子育てに役立った大田市の支援サービスがあればご記入ください。

問5-3. その他、必要と思われる（より充実を図ってほしい）子育て支援サービスがあればご記入ください。

問6-1. 月に1回以上の頻度で子育てを支援してくれる方（知人・親族等）の有無を選択してください。

問6-2. 問6-1で「1.いる」と答えた方にお聞きします。以下の支援者ごとに状況をお答えください。

支援者が「祖父母」という方に、「祖父母」の支援状況をお聞きします。

(1) 支援者の居住について選択してください。（祖父母）

(2) 支援の頻度について選択してください。（祖父母）

(3) 支援の内容を選択してください。（祖父母）

「5.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.家事
- 2.保育園、学校、部活、習い事等への送迎
- 3.発熱時や傷病時の対応
- 4.一時的な預かり
- 5.その他

支援者が「兄弟姉妹」という方に、「兄弟姉妹」の支援状況をお聞きします。

(1) 支援者の居住について選択してください。（兄弟姉妹）

(2) 支援の頻度について選択してください。(兄弟姉妹)

(3) 支援の内容を選択してください。(兄弟姉妹)

- 1.家事
- 2.保育園、学校、部活、習い事等への送迎
- 3.発熱時や傷病時の対応
- 4.一時的な預かり
- 5.その他

支援者が「知人・友人・その他」という方に、「知人・友人・その他」の支援状況をお聞きます。

(1) 支援者の居住について選択してください。(知人・友人・その他)

(2) 支援の頻度について選択してください。(知人・友人・その他)

(3) 支援の内容を選択してください。(知人・友人・その他)

- 1.家事
- 2.保育園、学校、部活、習い事等への送迎
- 3.発熱時や傷病時の対応
- 4.一時的な預かり
- 5.その他

問6-3. あなたの職場では、育児や養育に関する要件が発生した時、休みを取ることができますか。

あてはまるものを選択してください。

**問6-4. あなたの職場で整備されている子育て支援制度について、あてはまるものを全て選択してください。**

「9.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.産休、育休制度
- 2.子の行事休暇
- 3.子の看護休暇
- 4.育児のための時短勤務
- 5.テレワーク等の在宅勤務
- 6.保育所や病後児保育対応ルームの設置
- 7.従業員向けキッズルームの設置
- 8.事業所内学習塾や学習スペース
- 9.その他

- 10.わからない

**問6-5. パートナーの職場では、育児や養育に関する要件が発生した時、休みを取ることができますか。**

あてはまるものを選択してください。

**問6-6. パートナーの職場で整備されている子育て支援制度について、あてはまるものを選択してください。**

「9.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.産休、育休制度
- 2.子の行事休暇
- 3.子の看護休暇
- 4.育児のための時短勤務
- 5.テレワーク等の在宅勤務
- 6.保育所や病後児保育対応ルームの設置
- 7.従業員向けキッズルームの設置
- 8.事業所内学習塾や学習スペース
- 9.その他

- 10.わからない

問7-1. お子様と共に余暇を過ごすお気に入りの場所・施設を3つお答えください。(大田市内)

「お気に入りの場所」「利用頻度・訪問頻度」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例
- 1 ○○海岸 毎週 きれいな海岸で遊べるから
  - 2 ○○図書館 毎週 たくさん読書ができるから
  - 3 ○○山 月1回 山頂からの見晴らしがよいから

1	
2	
3	

入力文字数：11/2000

問7-2. お子様と共に余暇を過ごすお気に入りの場所・施設を3つお答えください。(大田市内外)

「お気に入りの場所」「利用頻度・訪問頻度」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例
- 1 ○○○○ 毎週 商品の品ぞろえが良いから
  - 2 △△△△ 毎週 お気に入りのスイーツがあるから
  - 3 □□□□ 月1回 お店の雰囲気が好きだから

- 1
- 2
- 3

入力文字数： 11/ 2000

**問7-3. お子様と共に参加したことがある大田市のイベントの中で、お気に入りのものをお答えください。**

3つまでお答えください。

「お気に入りの行事・イベント」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例
- 1 ○○○○ (ステージイベントがおもしろいから)
  - 2 △△△△ (屋台がたくさんあって楽しみだから)
  - 3 □□□□ (多くの人と交流ができるから)

- 1
- 2
- 3

入力文字数： 11/ 2000

**問8-1. あなたが子育てをされていて困っていることはありますか。**

あてはまるものを全て選択してください。

「13.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。



- 1.お子様と一緒に遊びに行ける場所がない（少ない）
- 2.お子様を同年代の子と遊ばせる機会がない（少ない）
- 3.お子様を安心して預けられる人や場所がない
- 4.自分だけの時間が確保できない
- 5.食事やトイレなど、お子様の年齢に応じた関わり方がわからない
- 6.しつけなどの関わり方がわからない
- 7.悩みを伝えたり、相談をする相手がない
- 8.パートナーが子育てや家事に協力的でない
- 9.祖父母と子育ての考え方が違う
- 10.お子様の体調が悪い時に病院に行くべきか悩む
- 11.お子様が犯罪に巻き込まれないか不安である
- 12.お子様の教育環境が不十分である
- 13.その他

- 14.困っていることは特にない（困ることは無いと思う）

## 問8-2. あなたが子育てをされていて必要としていることはどのようなものですか。

あてはまるものを全て選択してください。  
「13.その他」を選択された場合は、具体的にお答えください。

- 1.お子様や生活のことなどについて、悩みごとを相談できる
- 2.同じような悩みを持った人同士で知り合える
- 3.地域の人から助けられる
- 4.離婚や養育費のことなどについて、法的な相談ができる
- 5.病気や障がいのことなどについて、専門的な相談ができる
- 6.病気や事故などの際、一時的にお子様を預けることができる
- 7.お子様の就学にかかる費用が軽減される
- 8.自然と触れ合う体験活動などお子様が勉強や部活以外で体験できる活動を充実させる
- 9.就職・転職のための支援を受けることができる
- 10.段差の解消などよく利用する場所のバリアフリー化
- 11.より良い住環境に向けた支援策
- 12.教育環境の充実
- 13.その他

- 14.特になし

問9．大田市の人口減少の要因は何であると考えますか。以下から3つ選び、その理由もお答えください。

1.働きたい職場が無い

2.給与水準が低い

3.居住するための良い家がない

4.都市部に対するあこがれがある

5.娯楽施設が少ない

6.商業施設が少ない

7.公共交通機関が少なく移動に不便

8.パートナーとの出会いのきっかけとなる場が少ない

9.子育て環境が充実していない

10.教育環境が充実していない

11.その他

問10．その他、子育て・教育・移住定住等に関するご意見がございましたら、ご入力ください。

アンケートは以上で終了です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

確認へ進む



### 入力中のデータを一時保存・読み込み


#### 【申込データ一時保存、再読み込み時の注意事項】


- ・添付ファイルは一時保存されません。再読み込み後は、必要に応じて、ファイルを添付し直してください。
- ・パソコンに一時保存した申込データはパソコンで閲覧・加筆・修正することはできません。
- ・システムに読み込む場合は一時保存した手続きの画面でしか読み込めませんので、ご注意ください
- ・**入力中の申込データをパソコンに一時保存しますので、保存した申込データの取扱いは、申請者の責任において管理をお願いします。**

**「入力中のデータを保存する」では申込みの手続きが完了していませんのでご注意ください。**

※入力中の申込データをパソコンに一時保存します。

※一時保存した申込データを再度読み込みます。

 入力中のデータを保存する

 保存データの読み込み

お問い合わせ先：電子申請サービスヘルプデスク

TEL：0120-464-119

(平日9：00～17：00 年末年始除く)

FAX：06-6455-3268

e-mail：[help-shinsei-shimane@s-kantan.com](mailto:help-shinsei-shimane@s-kantan.com)

しまね電子申請サービスは、住民や企業の方がインターネットを通じて行政手続、イベント申込み等を行うことができる、島根県と県内市町村が共同で運営するサービスです。

○運営団体・・・島根県電子自治体共同利用システム運営協議会

(島根県、松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、江津市、雲南市、奥出雲町、飯南町、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町  
(事務局 島根県地域振興部情報政策課内))

(2) 調査票 B (パートナーあり、18 歳以下の子なし)

## しまね電子申請サービス (大田市)



[ログイン](#)

[利用者登録](#)

[申請書ダウンロード](#)

> 手続き申込 > 申込内容照会 > 職責署名検証

### 手続き申込

[手続き選択をする](#) [メールアドレスの確認](#) [内容を入力する](#) [申し込みをする](#)

### 申込

選択中の手続き名: 【起案用】人口減少対策にかかるアンケート調査 (調査票B: パートナーあり、18歳以下のお子様なし)  
問合せ先 [+開く](#)

**問1-1. お住まいの地域を選択してください。**

**問1-2. あなたとパートナーの大田市での居住歴とUターン経験についてお答えください。**

**(1) あなたの大田市での居住年数をお答えください。**

例: 5年3ヵ月

**(2) あなたのUターンの有無について、以下から1つ選択してください。**

Uターンされた方はどちらから来られたかお答えください。(例: ○○県△△市から/アメリカから)

1.Uターンしてきた

2.Uターンしてきた

3.基本的にずっと大田市に居住している (進学等の期間を除く)

**(3) あなたのUターンの理由について、選択してください。※(2)で「1」「2」を選択された方**

あてはまるものを全て選択してください。  
「9.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.住みたい家があったため
- 2.住みたい地域があったため
- 3.就職、転職、起業のため
- 4.結婚、出産のため
- 5.移住相談の対応が良かったため
- 6.豊かな自然や情景に惹かれたため
- 7.大田市が出身地であるため
- 8.親と一緒に暮らすため
- 9.その他

**(4) あなたが、ずっと大田市に居住されている理由を選択してください。※(2)で「3」を選択された方**

あてはまるものを全て選択してください。  
「7.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.仕事に恵まれていたため
- 2.パートナーや親との関係のため
- 3.大田市が好きなため
- 4.大田市が住みやすいため
- 5.大田市が出身地であるため
- 6.仕事や住まいに関するより良い情報が無かったため
- 7.その他

**(5) パートナーの大田市での居住年数をお答えください。**

例：5年3ヵ月

**(6) パートナーのUターンの有無について、以下から1つ選択してください。**

Uターンされた方はどちらから来られたかお答えください。(例：〇〇県△△市から/アメリカから)

- 1.Uターンしてきた

2.1ターンしてきた

3.基本的にずっと大田市に居住している（進学等の期間を除く）

**（7）パートナーのUIターンの理由について、選択してください。※（6）で「1」「2」を選択された方**

あてはまるものを全て選択してください。  
「9.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.住みたい家があったため
- 2.住みたい地域があったため
- 3.就職、転職・起業のため
- 4.結婚・出産のため
- 5.移住相談の対応が良かったため
- 6.豊かな自然や情景に惹かれたため
- 7.大田市が出身地であるため
- 8.親と一緒に暮らすため
- 9.その他

**（8）パートナーがずっと大田市に居住されている理由を選択してください。※(6)で「3」を選択された方**

あてはまるものを全て選択してください。  
「7.その他」を選択された場合は、具体的にお答えください。

- 1.仕事に恵まれていたため
- 2.パートナーや親との関係のため
- 3.大田市が好きのため
- 4.大田市が住みやすいため
- 5.大田市が出身地であるため
- 6.仕事や住まいに関するより良い情報が無かったため
- 7.その他

**問2．あなたとパートナーの就労状況等についてお答えください。**

(1) あなたの性別を選択してください。

(2) あなたの年齢を選択してください。

(3) あなたの勤務地を選択してください。

(4) あなたの勤務形態を選択してください。

(5) あなたの職業・業種をお答えください。

就労しておられる方のみお答えください。

(6) あなたの就労時間をお答えください。

就労しておられる方のみお答えください。

例：〇〇時～△△時

(7) パートナーの性別を選択してください。

(8) パートナーの年齢を選択してください。

(9) パートナーの勤務地を選択してください。

(10) パートナーの勤務形態を選択してください。

(11) パートナーの職業・業種をお答えください。

就労しておられる方のみお答えください。

### (12) パートナーの就労時間をお答えください。

就労しておられる方のみお答えください。

例：〇〇時～△△時

### 問3-1. 大田市に暮らしていて満足と感じていることは何ですか。

あてはまるものを全て選択してください。

「14.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.お子様が遊べる施設が充実している
- 2.子育てに関するサービスが充実している
- 3.教育環境が充実している
- 4.日常の買い物が便利
- 5.公共交通機関が便利で使いやすい
- 6.文化・体育施設などの公共施設が充実している
- 7.医療機関が充実している
- 8.災害に対して安全なまちである
- 9.自然が豊かである
- 10.行事やイベントが充実している
- 11.治安が良い
- 12.人間関係など地域の方との関係性が良い
- 13.働きやすい環境である
- 14.その他

### 問3-2. あなたとパートナーの出会いについて、選択してください。

現在のパートナーと出会った機会や場所としてあてはまるものを全て選択してください。また、出会った機会や場所が「市内」か「市外」のどちらであるのかもお答えください。

※選択肢の下の四角に「市内」か「市外」とご入力ください。

- 1.趣味やサークルの集まり

- 2.友達と合コン



3.婚活パーティー

4.友人や知人からの紹介

5.学生の頃からの知り合い

6.同じ勤務先

7.婚活サービス

8.お見合い

9.その他

10.特になし

**問3-3. 問3-2で「9.その他」を選択された方にお聞きます。具体的な内容をお答えください。**

**問4-1. あなたは将来的に子どもが欲しいと思われますか。あてはまるものを選択してください。**

「1.欲しい」を選択された方は、希望される人数をお答えください。（記入例：3人）

1.欲しい

2.欲しいが難しい

3.欲しいと思わない

4.わからない

**問4-2. 問4-1で「2.」「3.」を選択された方にお聞きます。その理由をお答えください。**

あてはまるものを全て選択してください。

「14.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

1.子どもを持つ関係性ではないから

- 2.子どもが苦手だから
- 3.身体上の理由で妊娠・出産が困難だから
- 4.子育てにお金がかかるから
- 5.子育ては身体的・精神的に大変だから
- 6.仕事や趣味を優先したいから
- 7.妊娠・出産が大変だから
- 8.パートナーが子どもを欲しがらないから
- 9.パートナーとの時間を優先したいから
- 10.子育てで支援サービス等の支援が不十分だから
- 11.子育てに家族の協力が得られないから
- 12.部屋が狭いなど住環境に問題があるから
- 13.答えたくない
- 14.その他

#### 問4-3. どのような支援があれば子どもが欲しいという希望に近づけるとおもいますか。

あてはまるものを全て選択してください。  
「10.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.妊娠・出産のための相談体制の整備
- 2.妊娠・出産のための経済的な支援
- 3.他の妊婦や子育て中の親との交流
- 4.職場における理解や支援
- 5.子育てに関する家族等からの支援
- 6.保育（託児）サービスの充実
- 7.子育てのための経済的な支援
- 8.地域や社会全体での子育ての支援体制
- 9.わからない
- 10.その他

#### 問5. 大田市の人口減少の要因は何であると考えますか。以下から3つ選び、その理由もお答えください。

- 1.働きたい職場が無い

2.給与水準が低い

3.居住するための良い家がない

4.都市部に対するあこがれがある

5.娯楽施設が少ない

6.商業施設が少ない

7.公共交通機関が少なく移動に不便

8.パートナーとの出会いのきっかけとなる場が少ない

9.子育て環境が充実していない

10.教育環境が充実していない

11.その他

#### 問6-1. 余暇を過ごすお気に入りの場所・施設を3つお答えください。(大田市内)

「お気に入りの場所」「利用頻度・訪問頻度」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例
- 1 ○○海岸 毎週 海岸線がきれいだから
  - 2 ○○図書館 毎週 静かに読書ができるから
  - 3 ○○山 月1回 山頂からの見晴らしがよいから

1  
2  
3

入力文字数：11/2000

**問6-2. 余暇を過ごすお気に入りの場所・施設を3つお答えください。(大田市外)**

「お気に入りの場所」「利用頻度・訪問頻度」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例 1 ○○○○ 毎週 商品の品ぞろえが良いから  
2 △△△△ 毎週 お気に入りのコーヒーがあるから  
3 □□□□ 月1回 お店の雰囲気が好きだから

1  
2  
3

入力文字数：11/2000

**問6-3. 大田市の行事・イベントの中で、お気に入りのものを、理由とともに3つお答えください。**

「お気に入りの行事・イベント」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例 1 ○○○○ (ステージイベントがおもしろいから)

- 2 △△△△ (屋台がたくさんあって楽しみだから)
- 3 □□□□ (多くの人と交流ができるから)

1

2

3

入力文字数： 11/ 2000

問7. その他、子育て・教育・移住定住等に関するご意見がございましたら、ご入力ください。

アンケートは以上で終了です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

確認へ進む



#### 入力中のデータを一時保存・読み込み


##### 【申込データ一時保存、再読み込み時の注意事項】


- ・添付ファイルは一時保存されません。再読み込み後は、必要に応じて、ファイルを添付し直してください。
- ・パソコンに一時保存した申込データはパソコンで閲覧・加筆・修正することはできません。
- ・システムに読み込む場合は一時保存した手続きの画面でしか読み込めませんので、ご注意ください
- ・**入力中の申込データをパソコンに一時保存しますので、保存した申込データの取扱いは、申請者の責任において管理をお願いします。**

**「入力中のデータを保存する」では申込みの手続きが完了していませんのでご注意ください。**

※入力中の申込データをパソコンに一時保存します。

※一時保存した申込データを再度読み込みます。

 入力中のデータを保存する

 保存データの読み込み

お問い合わせ先：電子申請サービスヘルプデスク  
TEL：0120-464-119

(平日 9:00~17:00 年末年始除く)

FAX: 06-6455-3268

e-mail: [help-shinsei-shimane@s-kantan.com](mailto:help-shinsei-shimane@s-kantan.com)

しまね電子申請サービスは、住民や企業の方がインターネットを通じて行政手続、イベント申込み等を行うことができる、島根県と県内市町村が共同で運営するサービスです。

○運営団体・・・島根県電子自治体共同利用システム運営協議会

(島根県、松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、江津市、雲南市、奥出雲町、飯南町、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町  
(事務局 島根県地域振興部情報政策課内))

(3) 調査票 C (パートナーなし、18 歳以下の子あり)

## しまね電子申請サービス (大田市)



[ログイン](#)  
[利用者登録](#)

[申請書ダウンロード](#)

> 手続き申込 > 申込内容照会 > 職責署名検証

### 手続き申込

[手続き選択をする](#) [メールアドレスの確認](#) [内容を入力する](#) [申し込みをする](#)

### 申込

選択中の手続き名：【起案用】人口減少対策にかかるアンケート調査（調査票C：パートナーなし、18歳以下のお子様あり）  
問合せ先 [+開く](#)

#### 問1-1. お住まいの地域を選択してください。

#### 問1-2. 大田市での居住年数をお答えください。

例：3年2か月

#### 問1-3. UIターンの有無を以下より1つ選択してください。

UIターンされた方はどちらから来られたかお答えください。（例：〇〇県△△市から／アメリカから）

1.Uターンしてきた

2.Iターンしてきた

3.基本的にずっと大田市に居住している（進学等の期間を除く）

#### 問1-4. UIターンの理由を選択してください。※問1-3で「1」「2」を選択された方

あてはまるものを全て選択してください。  
「9.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

1.住みたい家があったため

- 2.住みたい地域があったため
- 3.就職、転職、起業のため
- 4.結婚、出産のため
- 5.移住相談の対応が良かったため
- 6.豊かな自然や情景に惹かれたため
- 7.大田市が出身地であるため
- 8.親と一緒に暮らすため
- 9.その他

**問1-5. ずっと大田市に居住されている理由を選択してください。※問1-3で「3」を選択された方**

あてはまるものを全て選択してください。  
「7.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.仕事に恵まれていたため
- 2.パートナーや親との関係のため
- 3.大田市が好きなため
- 4.大田市が住みやすいため
- 5.大田市が出身地であるため
- 6.仕事や住まいに関するより良い情報が無かったため
- 7.その他

**問2. あなたの就労状況についてお答えください。**

**(1) あなたの性別を選択してください。**

**(2) あなたの年齢を選択してください。**

**(3) あなたの勤務地を選択してください。**



**(4) あなたの勤務形態を選択してください。**

**(5) あなたの職業・業種をお答えください。**

就労しておられる方のみお答えください。

**(6) あなたの就労時間をお答えください。**

就労しておられる方のみお答えください。

例：〇〇時～△△時

**問3. 大田市に暮らしていて満足と感じていることは何ですか。**

あてはまるものを全て選択してください。

「14.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.お子様ที่遊べる施設が充実している
- 2.子育てに関するサービスが充実している
- 3.教育環境が充実している
- 4.日常の買い物が便利
- 5.公共交通機関が便利で使いやすい
- 6.文化・体育施設などの公共施設が充実している
- 7.医療機関が充実している
- 8.災害に対して安全なまちである
- 9.自然が豊かである
- 10.行事やイベントが充実している
- 11.治安が良い
- 12.人間関係など地域の方との関係性が良い
- 13.働きやすい環境である
- 14.その他

**問4. あなたのお子様の年齢区分を選択し、年齢区分の下の四角の中に人数をお答えください。**

18歳以下のお子様についてお答えください。

- 1. 0～3才

2. 4～6才

3. 7～10才

4. 11～12才

5. 13～15才

6. 16～18才

問5-1. 以下の大田市の子育て支援サービス等についてお聞きします。

「一時預かり保育」についてお聞きします。

(1) 利用の有無を選択してください。(一時預かり保育)

(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(一時預かり保育)

(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(一時預かり保育)

(4) (3)の理由を選択してください。(一時預かり保育)

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯
- 3.利用できる日数
- 4.支援の内容
- 5.その他

「延長保育」についてお聞きします。

(1) 利用の有無を選択してください。(延長保育)

(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(延長保育)

(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(延長保育)

(4) (3)の理由を選択してください。(延長保育)

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯
- 3.利用できる日数
- 4.支援の内容
- 5.その他

「病児保育・病後児保育」についてお聞きします。

(1) 利用の有無を選択してください。(病児保育・病後児保育)

(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(病児保育・病後児保育)

(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(病児保育・病後児保育)

(4) (3)の理由を選択してください。(病児保育・病後児保育)

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯

3.利用できる日数

4.支援の内容

5.その他

### 「子育て支援センター」についてお聞きます。

(1) 利用の有無を選択してください。(子育て支援センター)

(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(子育て支援センター)

(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(子育て支援センター)

(4) (3)の理由を選択してください。(子育て支援センター)

1.利用できる曜日

2.利用できる時間帯

3.利用できる日数

4.支援の内容

5.その他

### 「放課後児童クラブ」についてお聞きます。

(1) 利用の有無を選択してください。(放課後児童クラブ)

(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(放課後児童クラブ)

(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(放課後児童クラブ)

▼

**(4) (3) の理由を選択してください。(放課後児童クラブ)**

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯
- 3.利用できる日数
- 4.支援の内容
- 5.その他

**「ファミリーサポートセンター」についてお聞きます。**

**(1) 利用の有無を選択してください。(ファミリーサポートセンター)**

▼

**(2) 利用したことがある方は、利用頻度を選択してください。(ファミリーサポートセンター)**

▼

**(3) 利用したことがある方は、満足度を選択してください。(ファミリーサポートセンター)**

▼

**(4) (3) の理由を選択してください。(ファミリーサポートセンター)**

- 1.利用できる曜日
- 2.利用できる時間帯
- 3.利用できる日数
- 4.支援の内容
- 5.その他

**問5-2. その他、子育てに役立った大田市の支援サービスがあればご記入ください。**

問5-3. その他、必要と思われる（より充実を図ってほしい）子育て支援サービスがあればご記入ください。

問6-1. 月に1回以上の頻度で子育てを支援してくれる方（知人・親族等）の有無を選択してください。

問6-2. 問6-1で「1.いる」と答えた方にお聞きします。以下の支援者ごとに状況をお答えください。

支援者が「祖父母」という方に、「祖父母」の支援状況をお聞きします。

(1) 支援者の居住について選択してください。（祖父母）

(2) 支援の頻度について選択してください。（祖父母）

(3) 支援の内容を選択してください。（祖父母）

- 1.家事
- 2.保育園、学校、部活、習い事等への送迎
- 3.発熱時や傷病時の対応
- 4.一時的な預かり
- 5.その他

支援者が「兄弟姉妹」という方に、「兄弟姉妹」の支援状況をお聞きします。

(1) 支援者の居住について選択してください。（兄弟姉妹）

(2) 支援の頻度について選択してください。（兄弟姉妹）

**(3) 支援の内容を選択してください。(兄弟姉妹)**

- 1.家事
- 2.保育園、学校、部活、習い事等への送迎
- 3.発熱時や傷病時の対応
- 4.一時的な預かり
- 5.その他

**支援者が「知人・友人・その他」という方に、「知人・友人・その他」の支援状況をお聞きます。**

**(1) 支援者の居住について選択してください。(知人・友人・その他)**

**(2) 支援の頻度について選択してください。(知人・友人・その他)**

**(3) 支援の内容を選択してください。(知人・友人・その他)**

- 1.家事
- 2.保育園、学校、部活、習い事等への送迎
- 3.発熱時や傷病時の対応
- 4.一時的な預かり
- 5.その他

**問6-3. 育児や養育に関する要件が発生した時、職場で休みを取ることができますか。**

あてはまるものを選択してください。

**問6-4. 職場で整備されている子育て支援制度について、あてはまるものを全て選択してください。**

「9.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.産休、育休制度

- 2.子の行事休暇
- 3.子の看護休暇
- 4.育児のための時短勤務
- 5.テレワーク等の在宅勤務
- 6.保育所や病後児保育対応ルームの設置
- 7.従業員向けキッズルームの設置
- 8.事業所内学習塾や学習スペース
- 9.その他

- 10.わからない

**問7-1. お子様と共に余暇を過ごすお気に入りの場所・施設を3つお答えください。（大田市内）**

「お気に入りの場所」「利用頻度・訪問頻度」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例
- 1 ○○海岸 毎週 きれいな海岸線で遊べるから
  - 2 ○○図書館 毎週 たくさん読書ができるから
  - 3 ○○山 月1回 山頂からの見晴らしがよいから

1

2

3

入力文字数： 11/ 2000

**問7-2. お子様と共に余暇を過ごすお気に入りの場所・施設を3つお答えください。（大田市外）**

「お気に入りの場所」「利用頻度・訪問頻度」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例
- 1 ○○○○ 毎週 商品の品ぞろえが良いから
  - 2 △△△△ 毎週 お気に入りのスイーツがあるから
  - 3 □□□□ 月1回 お店の雰囲気が好きだから



- 1
- 2
- 3

入力文字数： 11/ 2000

**問7-3. お子様と共に参加したことがある大田市のイベントの中で、お気に入りのものをお答えください。**

3つまでお答えください。

「お気に入りの行事・イベント」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例
- 1 ○○○○ (ステージイベントがおもしろいから)
  - 2 △△△△ (屋台がたくさんあって楽しみだから)
  - 3 □□□□ (多くの人と交流ができるから)

- 1
- 2
- 3

入力文字数： 11/ 2000

**問8-1. あなたが子育てをされていて困っていることはありますか。**

あてはまるものを全て選択してください。

「13.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.お子様と一緒に遊びに行ける場所がない（少ない）
- 2.お子様を同年代の子と遊ばせる機会がない（少ない）
- 3.お子様を安心して預けられる人や場所がない
- 4.自分だけの時間が確保できない
- 5.食事やトイレなど、お子様の年齢に応じた関わり方がわからない
- 6.しつけなどの関わり方がわからない
- 7.悩みを伝えたり、相談をする相手がない
- 8.パートナーが子育てや家事に協力的でない
- 9.祖父母と子育ての考え方が違う
- 10.お子様の体調が悪い時に病院に行くべきか悩む
- 11.お子様が犯罪に巻き込まれないか不安である
- 12.お子様の教育環境が不十分である
- 13.その他

- 14.困っていることは特にない（困ることは無いと思う）

### 問8-2. あなたが子育てをされていて必要としていることはどのようなものですか。

あてはまるものを全て選択してください。  
「13.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.お子様や生活のことなどについて、悩みごとを相談できる
- 2.同じような悩みを持った人同士で知り合える
- 3.地域の人から助けられる
- 4.離婚や養育費のことなどについて、法的な相談ができる
- 5.病気や障がいのことなどについて、専門的な相談ができる
- 6.病気や事故などの際、一時的にお子様を預けることができる
- 7.お子様の就学にかかる費用が軽減される
- 8.自然と触れ合う体験活動などお子様が勉強や部活以外で体験できる活動を充実させる
- 9.就職・転職のための支援を受けることができる
- 10.段差の解消などよく利用する場所のバリアフリー化
- 11.より良い住環境に向けた支援策
- 12.教育環境の充実
- 13.その他

- 14.特になし

問9-1. 結婚に関するあなたのお考えに近いものを1つ選び、選択してください。

問9-2. あなたは結婚することに対してどんなことを不安に思いますか。

あてはまるものを全て選択してください。

- 1.子どもが既にいること
- 2.経済的な余裕が無くなるのではないか
- 3.家族で生活するための住まいの確保
- 4.働きたい職につけるかどうか
- 5.相手の親族との関係構築
- 6.特にない

問9-3. あなたには、所属している趣味サークルや利用している婚活サービスなどがありますか。

ご自由にお答えください。

問10. 大田市の人口減少の要因は何であると考えますか。以下から3つ選び、その理由もお答えください。

- 1.働きたい職場が無い

- 2.給与水準が低い

- 3.居住するための良い家がない

- 4.都市部に対するあこがれがある

- 5.娯楽施設が少ない

- 6.商業施設が少ない

- 7.公共交通機関が少なく移動に不便

8.パートナーとの出会いのきっかけとなる場が少ない

9.子育て環境が充実していない

10.教育環境が充実していない

11.その他

**問11. その他、子育て・教育・移住定住等に関するご意見がございましたら、ご入力ください。**

**アンケートは以上で終了です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。**

確認へ進む



#### 入力中のデータを一時保存・読み込み

**【申込データ一時保存、再読み込み時の注意事項】**

- ・添付ファイルは一時保存されません。再読み込み後は、必要に応じて、ファイルを添付し直してください。
- ・パソコンに一時保存した申込データはパソコンで閲覧・加筆・修正することはできません。
- ・システムに読み込む場合は一時保存した手続きの画面でしか読み込めませんので、ご注意ください
- ・**入力中の申込データをパソコンに一時保存しますので、保存した申込データの取扱いは、申請者の責任において管理をお願いします。**

**「入力中のデータを保存する」では申込みの手続きが完了していませんのでご注意ください。**

※入力中の申込データをパソコンに一時保存します。

※一時保存した申込データを再度読み込みます。

入力中のデータを保存する

保存データの読み込み

お問い合わせ先：電子申請サービスヘルプデスク

TEL：0120-464-119

(平日9：00～17：00 年末年始除く)

FAX：06-6455-3268

e-mail：[help-shinsei-shimane@s-kantan.com](mailto:help-shinsei-shimane@s-kantan.com)

しまね電子申請サービスは、住民や企業の方がインターネットを通じて行政手続、イベント申込み等を行うことができる、島根県と県内市町村が共同で運営する

サービスです。

○運営団体・・・島根県電子自治体共同利用システム運営協議会  
（島根県、松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、江津市、雲南市、奥出雲町、  
飯南町、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町  
（事務局 島根県地域振興部情報政策課内））

(4) 調査票 D (パートナーなし、18 歳以下の子なし)

# しまね電子申請サービス (大田市)



[ログイン](#)  
[利用者登録](#)

[申請書ダウンロード](#)

> [手続き申込](#) > [申込内容照会](#) > [職責署名検証](#)

## 手続き申込

[手続き選択をする](#) [メールアドレスの確認](#) **[内容を入力する](#)** [申し込みをする](#)

### 申込

選択中の手続き名: 【起案用】人口減少対策にかかるアンケート調査 (調査票D: パートナーなし、18歳以下のお子様なし)  
問合せ先 [+開く](#)

**問1. 以下の項目について、あてはまるものを1つ選択してください。**

(1) あなたの性別を選択してください。

(2) あなたの年齢を選択してください。

(3) あなたの家族構成を以下より1つ選択してください。

「3.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

1.一人暮らし  
 2.親と同居  
 3.その他

(4) あなたの居住地域を選択してください。

(5) あなたの勤務地を選択してください。

就労しておられる方のみお答えください。

**(6) あなたの勤務形態を以下より1つ選択してください。**

就労しておられる方のみお答えください。

「5.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.フルタイム
- 2.パートタイム、アルバイト
- 3.未就労
- 4.学生
- 5.その他

**(7) あなたのご職業をお答えください。**

就労されている方のみご記入ください。

**問2. あなたの大田市での居住歴、UIターン経験、今後の居住意向についてお答えください。**

**(1) 居住年数をお答えください。**

例：3年2か月

**(2) UIターンの有無を以下より1つ選択してください。**

UIターンされた方はどちらから来られたかお答えください。(例：〇〇県△△市から/アメリカから)

- 1.UIターンしてきた

- 2.Iターンしてきた

- 3.基本的にずっと大田市に居住している(進学等の期間を除く)

**(3) UIターンの理由を選択してください。**

あてはまるものを全て選択してください。

「9.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.住みたい家があったため
- 2.住みたい地域があったため
- 3.就職、転職、起業のため
- 4.結婚、出産のため
- 5.移住相談の対応が良かったため
- 6.豊かな自然や情景に惹かれたため
- 7.大田市が出身地であるため
- 8.親と一緒に暮らすため
- 9.その他

#### (4) ずっと大田市に居住されている理由を選択してください。

あてはまるものを全て選択してください。  
「7.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.仕事に恵まれていたため
- 2.パートナーや親との関係のため
- 3.大田市が好きなため
- 4.大田市が住みやすいため
- 5.大田市が出身地であるため
- 6.仕事や住まいに関するより良い情報が無かったため
- 7.その他

#### (5) 今後5年以内の引っ越しのご意向を選択してください。

#### 問3. 大田市に暮らしていて満足と感じていることは何ですか。

あてはまるものを全て選択してください。  
「14.その他」を選択された方は、具体的にお答えください。

- 1.お子様が遊べる施設が充実している
- 2.子育てに関するサービスが充実している
- 3.教育環境が充実している
- 4.日常の買い物が便利
- 5.公共交通機関が便利で使いやすい



- 6.文化・体育施設などの公共施設が充実している
- 7.医療機関が充実している
- 8.災害に対して安全なまちである
- 9.自然が豊かである
- 10.行事やイベントが充実している
- 11.治安が良い
- 12.人間関係など地域の方との関係性が良い
- 13.働きやすい環境である
- 14.その他

**問4-1. 結婚に関するあなたのお考えに近いものを選択してください。**

**問4-2. あなたは将来的に子どもが欲しいと思われませんか。あてはまるものを以下よ1つ選択してください。**

「1.欲しい」を選択された方は、希望される人数をお答えください。（記入例：3人）

- 1.欲しい

- 2.欲しくない

- 3.わからない

**問4-3. あなたは結婚することに対してどんなことを不安に思いますか。**

あてはまるものを全て選択してください。

「9.その他」を選択された場合は、具体的にお答えください。

- 1.自分の生活リズムや生活スタイル
- 2.経済的な余裕が無くなるのではないか
- 3.家族を扶養する責任
- 4.これまでの友人関係を保つ
- 5.子育てに対する責任
- 6.家族で生活するための住まいの確保
- 7.働きたい職に就けるかどうか
- 8.相手の親族との関係構築
- 9.その他

10.特にない

**問4-4. あなたには、所属している趣味サークルや利用している婚活サービスなどがありますか。**

ご自由にお答えください。

**問5. 大田市の人口減少の要因は何であると考えますか。以下から3つ選び、その理由もお答えください。**

1.働きたい職場が無い

2.給与水準が低い

3.居住するための良い家がない

4.都市部に対するあこがれがある

5.娯楽施設が少ない

6.商業施設が少ない

7.公共交通機関が少なく移動に不便

8.パートナーとの出会いのきっかけとなる場が少ない

9.子育て環境が充実していない

10.教育環境が充実していない

11.その他

**問6-1. 余暇を過ごすお気に入りの場所・施設を3つお答えください。(大田市内)**

「お気に入りの場所」「利用頻度・訪問頻度」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例
- 1 ○○海岸 毎週 海岸線がきれいだから
  - 2 ○○図書館 毎週 静かに読書ができるから
  - 3 ○○山 月1回 山頂からの見晴らしがよいから

入力文字数：0/2000

**問6-2. 余暇を過ごすお気に入りの場所・施設を3つお答えください。(大田市外)**

「お気に入りの場所」「利用頻度・訪問頻度」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 記入例
- 1 ○○○○ 毎週 商品の品ぞろえが良いから
  - 2 △△△△ 毎週 お気に入りのコーヒーがあるから
  - 3 □□□□ 月1回 お店の雰囲気が好きだから

入力文字数：0/2000

問6-3. 大田市の行事・イベントの中で、お気に入りのものを、理由とともに3つお答えください。

「お気に入りの行事・イベント」「お気に入りの理由」の順に入力をしてください。

- 回答例
- 1 ○○○○ (ステージイベントがおもしろいから)
  - 2 △△△△ (屋台がたくさんあって楽しみだから)
  - 3 □□□□ (多くの人と交流ができるから)

入力文字数：0/2000

問7. その他、子育て・教育・移住定住等に関するご意見がございましたら、ご入力ください。

アンケートは以上で終了です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

確認へ進む



入力中のデータを一時保存・読み込み

【申込データ一時保存、再読み込み時の注意事項】

- ・添付ファイルは一時保存されません。再読み込み後は、必要に応じて、ファイルを添付し直してください。
- ・パソコンに一時保存した申込データはパソコンで閲覧・加筆・修正することはできません。
- ・システムに読み込む場合は一時保存した手続きの画面でしか読み込めませんので、ご注意ください
- ・**入力中の申込データをパソコンに一時保存しますので、保存した申込データの取扱いは、申請者の責任において管理をお願いします。**

「入力中のデータを保存する」では申込みの手続きが完了していませんのでご注意ください。

※入力中の申込データをパソコンに一時保存します。

↓ 入力中のデータを保存する

※一時保存した申込データを再度読み込みます。

↑ 保存データの読み込み

お問い合わせ先：電子申請サービスヘルプデスク

TEL：0120-464-119

(平日 9：00～17：00 年末年始除く)

FAX：06-6455-3268

e-mail：[help-shinsei-shimane@s-kantan.com](mailto:help-shinsei-shimane@s-kantan.com)

しまね電子申請サービスは、住民や企業の方がインターネットを通じて行政手続、イベント申込み等を行うことができる、島根県と県内市町村が共同で運営するサービスです。

○運営団体・・・島根県電子自治体共同利用システム運営協議会

(島根県、松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、江津市、雲南市、奥出雲町、飯南町、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町  
(事務局 島根県地域振興部情報政策課内))

## 4. 中学生・高校生アンケート調査概要

### (1) 目的

大田市においては、中学生及び高校生の進学や就職をきっかけとした市外流出が見られている。そこで、その実態を把握するとともに、将来を担う若い世代の大田市に対する評価や期待を把握するため、中学生及び高校生を対象とした意識調査を行う。

### (2) 中学生アンケート調査の実施概要

- ・実施月：2023年11月～12月
- ・実施方法：Google フォームによるオンラインでの回答受付
- ・調査対象：各中学校の2年生266名
- ・回収数：206票
- ・回収率：77.4%

※学校側の意向により、所属学校を問う設問は設けていない。

### (3) 高校生アンケート調査の実施概要

- ・実施月：2023年10月
- ・実施方法：Google フォームによるオンラインでの回答受付
- ・調査対象：各高校の2年生202名
- ・回収数：190票
- ・回収率：94.1%

[学校別回収数]

学校名	対象数	回数数
大田高等学校	125	122
邇摩高等学校	76	65
出雲養護学校邇摩分教室	1	1
無回答	—	2
合計	202	190

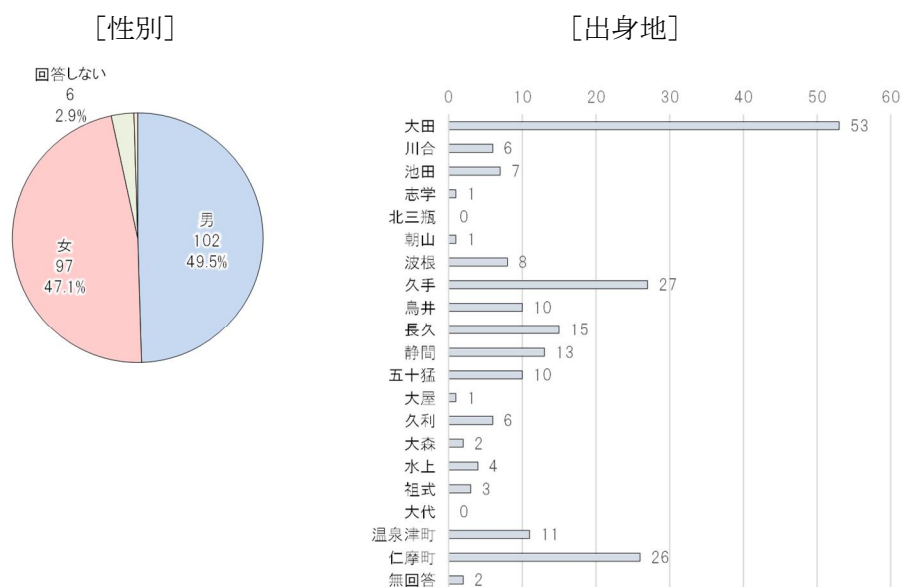
## 5. 中学生・高校生アンケート調査結果

本項においては、概ね中学生と高校生の設問が類似していること、かつ中学生と高校生での比較を簡単なものとするため、一つの項目に対して、中学生と高校生の2つを掲載することとする。なお、どちらか一方のみの設問である場合は、それが分かるように明記する。

### (1) 基礎情報

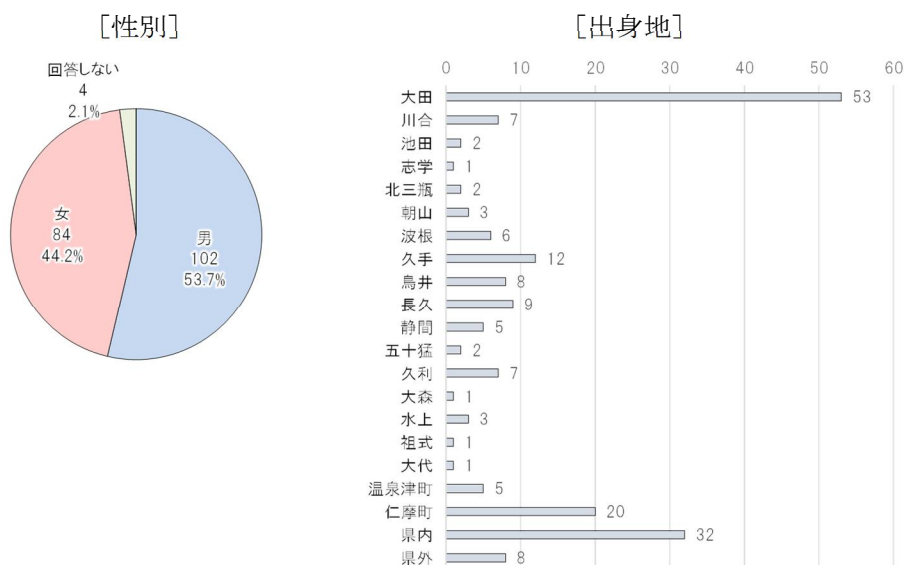
#### ア) 【中学生】回答者の性別、出身地

回答者の性別と出身地は以下の通り。大田地区の出身者が多い。



#### イ) 【高校生】回答者の性別、出身地

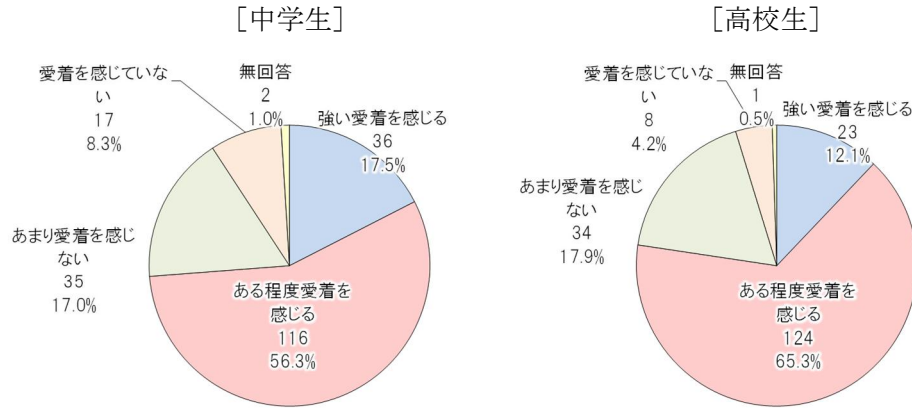
回答者の性別と出身地は以下の通り。大田地区の出身者が多い。また、大田市外の学生も2割近く存在している。



## (2) 大田市への愛着

中学生については、大田市への愛着について、「強い愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」が約7割を占めている。

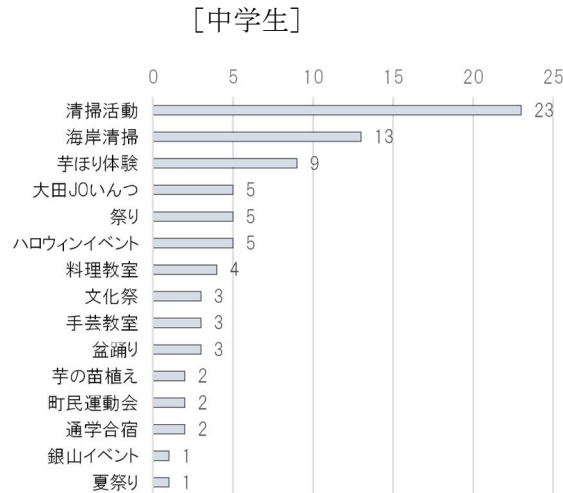
高校生についても、大田市への愛着について、「強い愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」が約8割を占めている。



## (3) 地域・地元企業との関わり

地域や地元企業との関わりについて、中学生に対しては回答のしやすさの観点から設問を1つとした一方で、高校生については、自ら主体的に地域に関わる機会が多い為、より活動の場面を詳細に把握するため、4つの設問に分けて調査した。

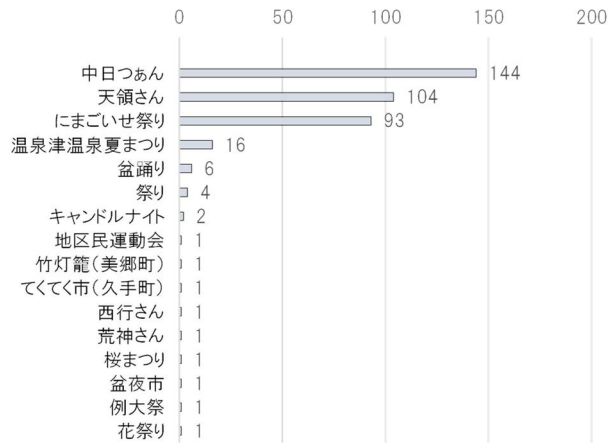
### ア) 【中学生】地域や地元企業との関わりについて



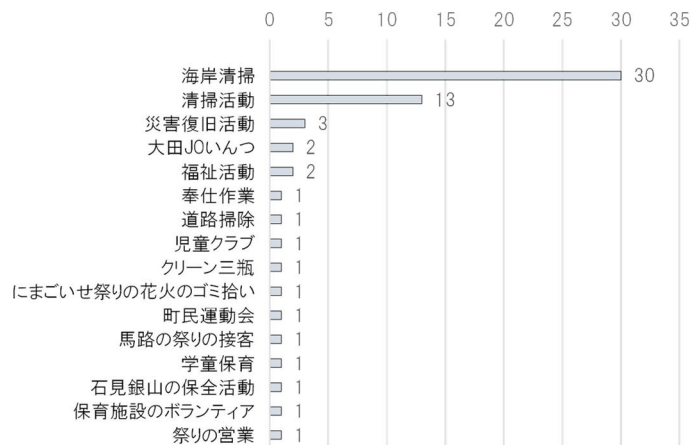


イ) 【高校生】 地域や地元企業との関わりについて

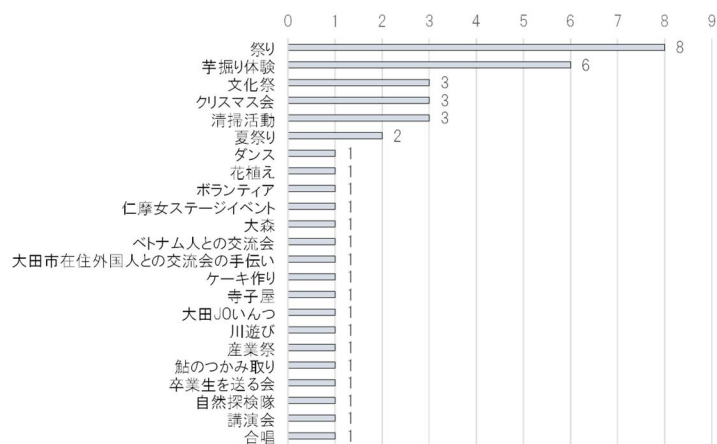
[地域の行事・イベントで参加したことがあるもの]



[ボランティア活動で参加したことがあるもの]



[まちづくりセンター（公民館）の活動で参加したことがあるもの]



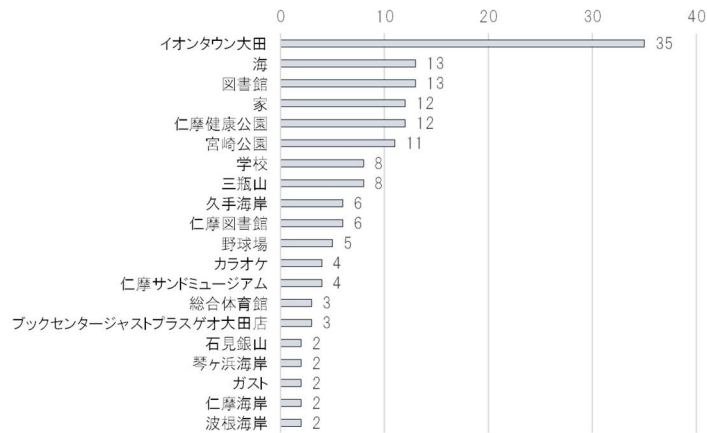
[企業の活動で参加したことがあるもの]



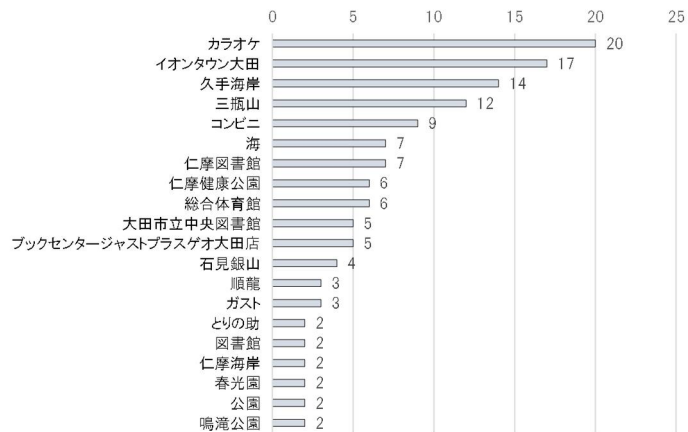
(4) お気に入りの場所等

ア) お気に入りの場所 (市内)

[中学生]

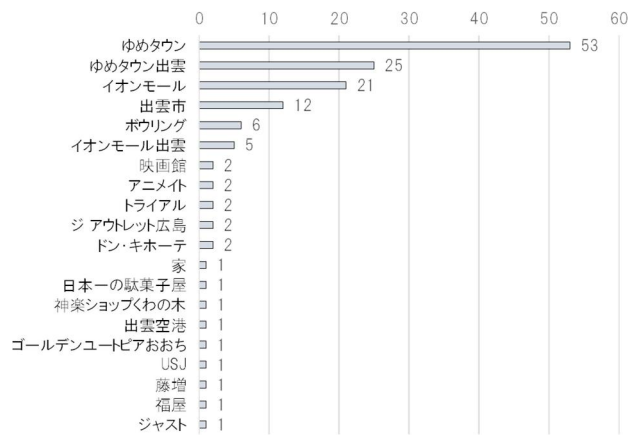


[高校生]

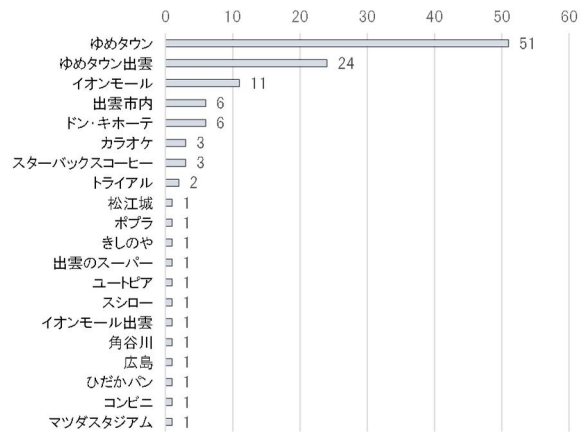


イ) お気に入りの場所（市外）

[中学生]

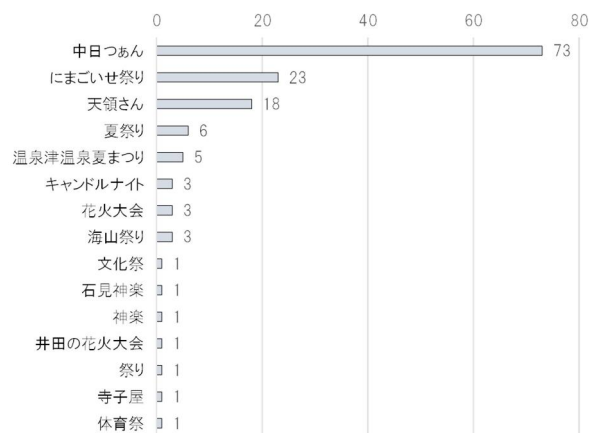


[高校生]

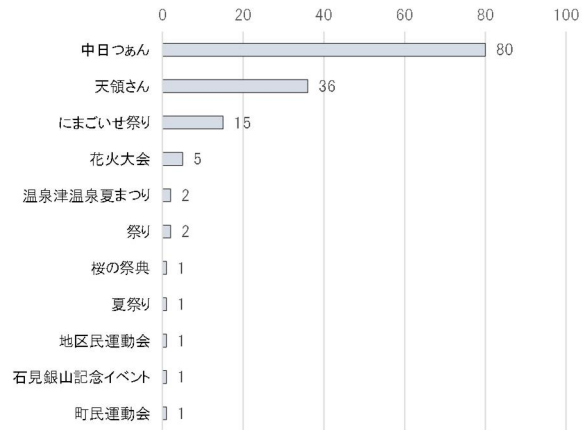


ウ) お気に入りのイベント・行事

[中学生]



[高校生]

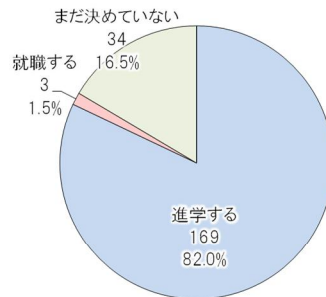


(5) 卒業後の進路、就職先について

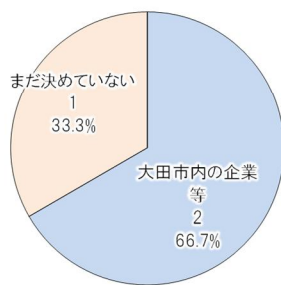
ア) 中学生

進学希望者は8割となっているが、そのうち2割は市外の高校に進学意向がある。

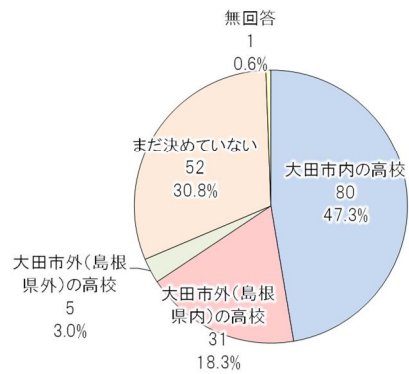
[進路]



[就職希望先]



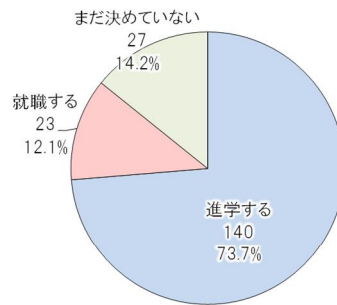
[希望進学先]



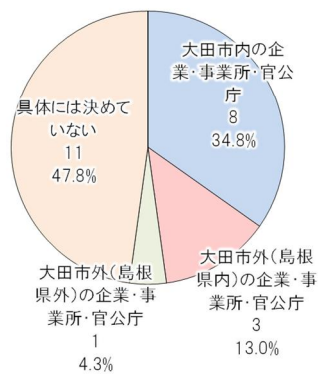
## イ) 高校生

進学希望者は7割、就職希望者は1割となっている。

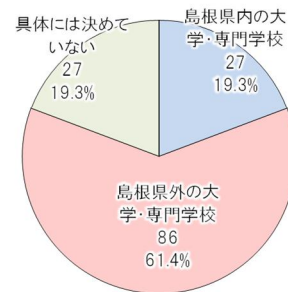
[進路]



[就職希望先]



[希望進学先]

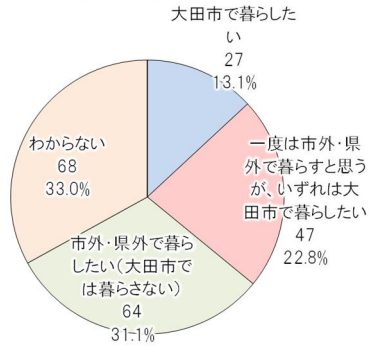


(6) 卒業後の進路、就職先について

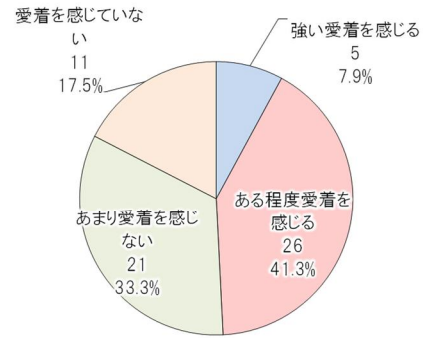
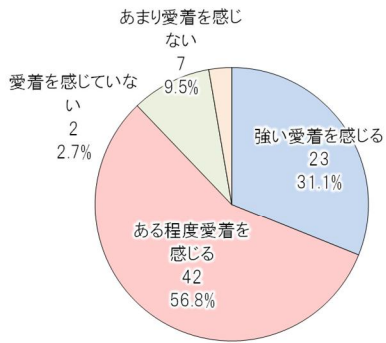
ア) 中学生

回答者の居留意向は以下の通り。将来的に大田市に居住したいと考えている学生ほど、強い愛着を示す傾向にある。

[居留意向]



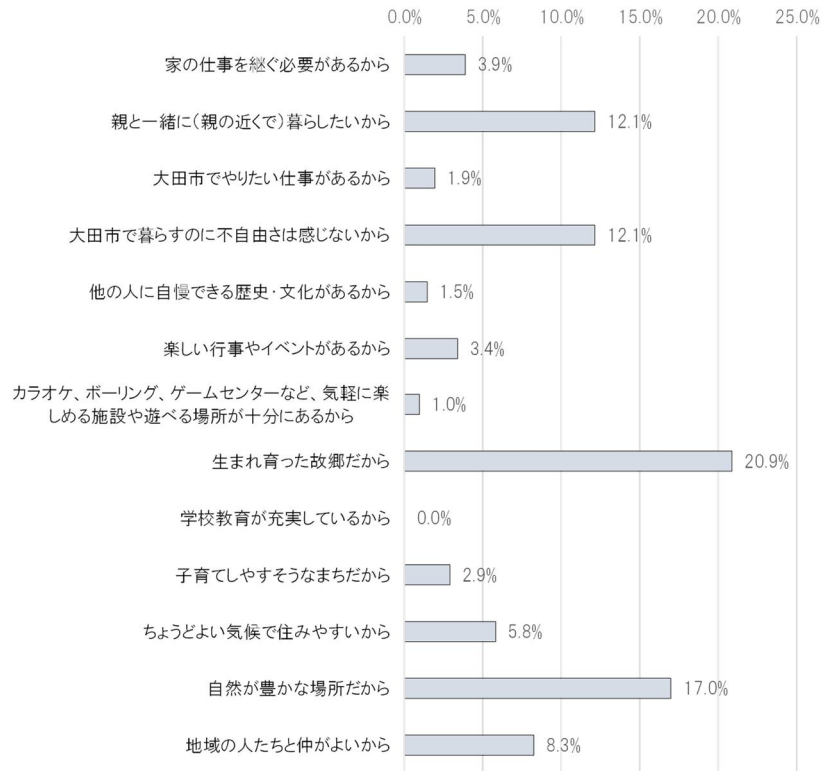
[居留意向別の愛着度クロス集計]



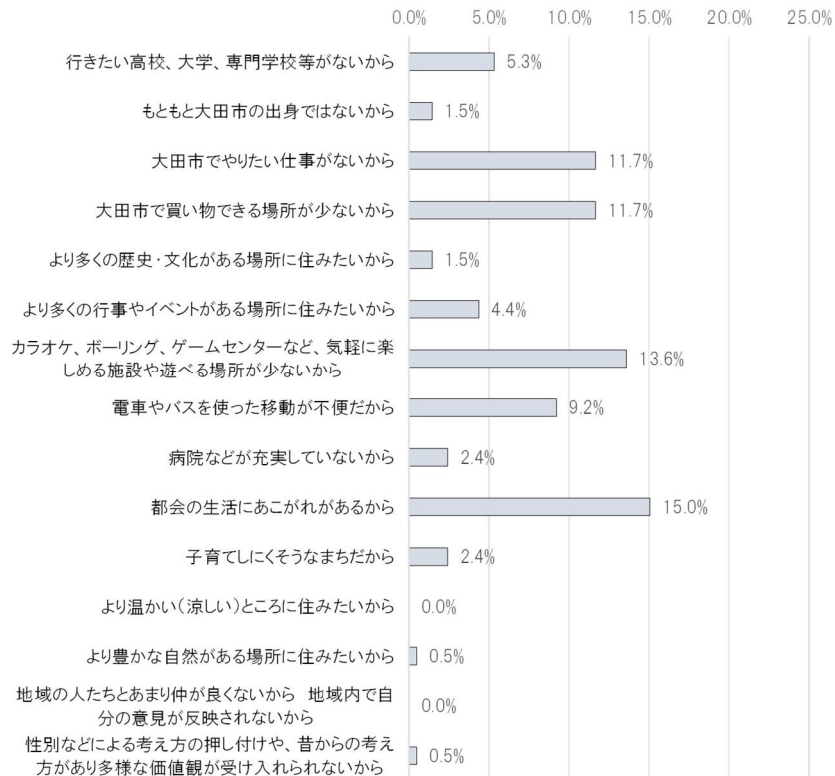
⇒「大田市で暮らしたい」「一度は市外・県外で暮らすと思うがいずれは大田市で暮らしたい」と回答した方のクロス集計結果。

⇒「市外・県外で暮らしたい(大田市では暮らさない)」と回答した方のクロス集計結果。

[将来的に大田市に居住する理由]



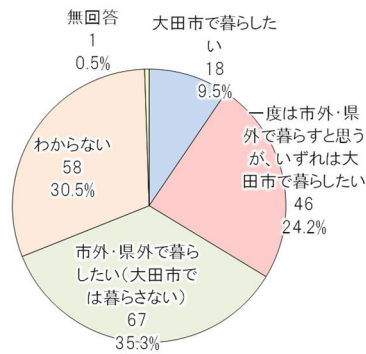
[将来的に大田市に居住しない理由]



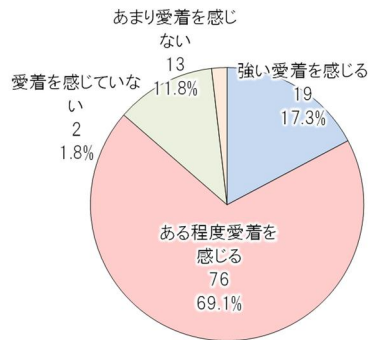
## イ) 高校生

回答者の居留意向は以下の通り。将来的に大田市に居住したいと考えている学生ほど、強い愛着を示す傾向にある。

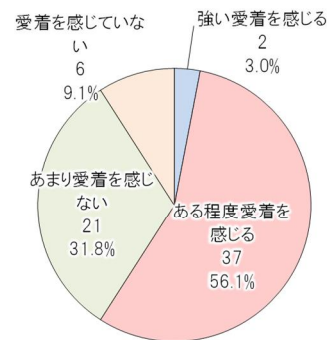
[居留意向]



[居留意向別の愛着度クロス集計]



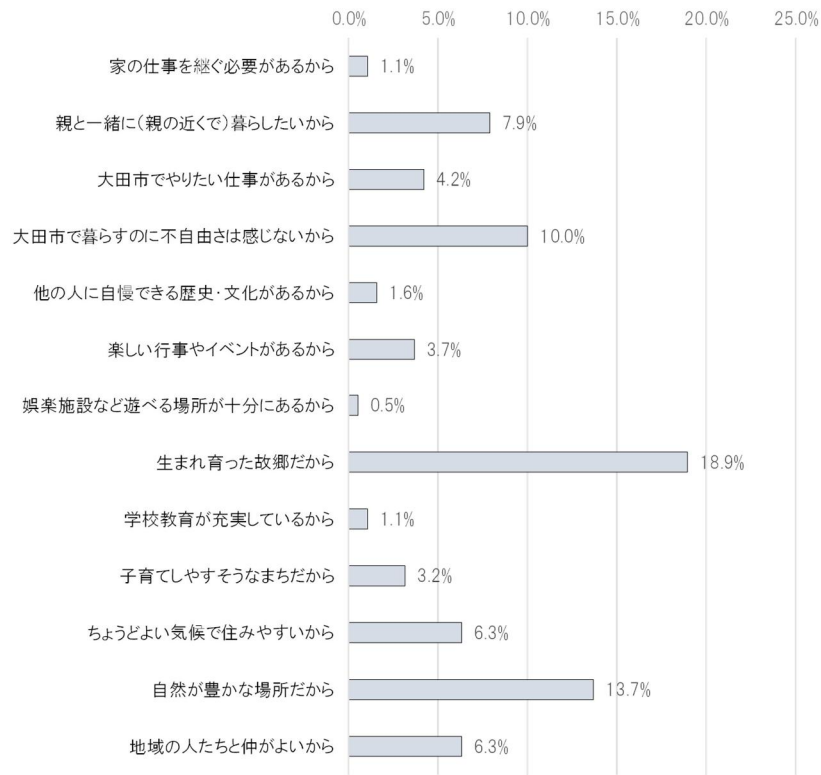
⇒「大田市で暮らしたい」「一度は市外・県外で暮らすと思うがいずれは大田市で暮らしたい」と回答した方のクロス集計結果。



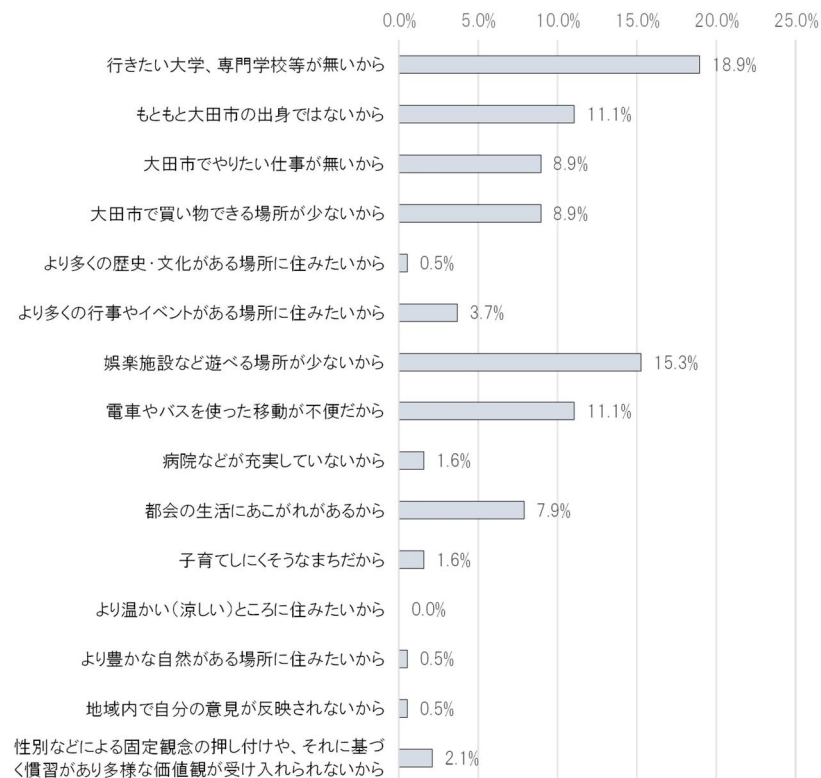
⇒「市外・県外で暮らしたい(大田市では暮らさない)」と回答した方のクロス集計結果。



[将来的に大田市に居住する理由]



[将来的に大田市に居住しない理由]

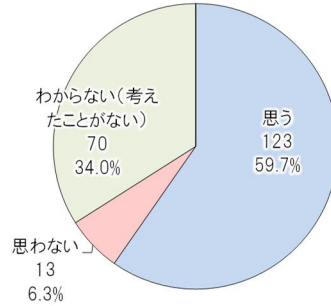


## (7) 将来のライフプランに関する意向

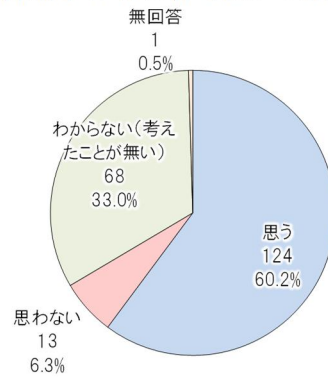
### ア) 【中学生】結婚、子育ての意向

回答者の結婚、子育ての意向は以下の通り。

[結婚などによりパートナーと共に暮らしたいと思うかどうか]



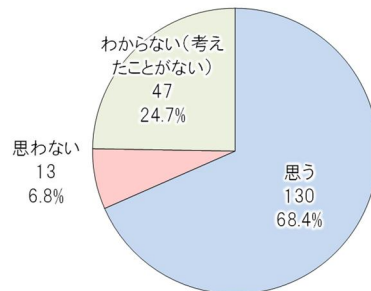
[将来子どもを育てたいと思うかどうか]



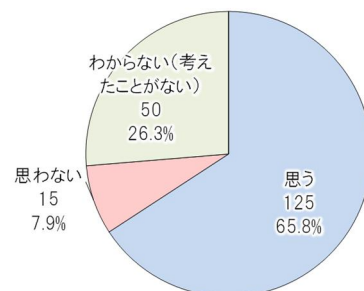
### イ) 【高校生】結婚、子育ての意向

回答者の結婚、子育ての意向は以下の通り。

[結婚などによりパートナーと共に暮らしたいと思うかどうか]



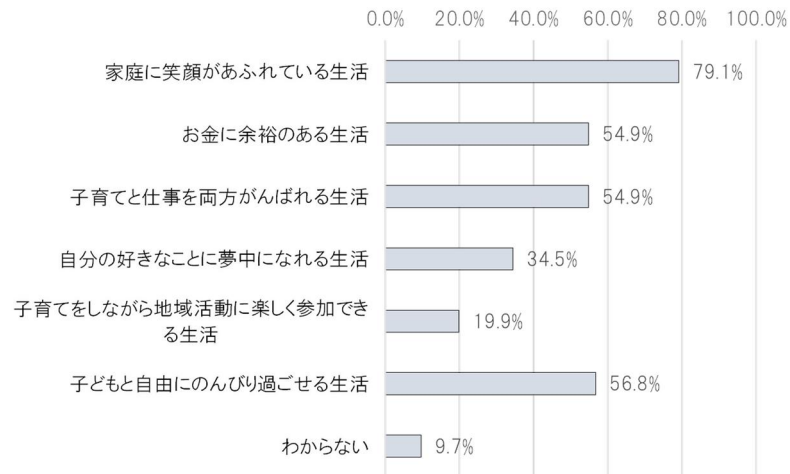
[将来子どもを育てたいと思うかどうか]



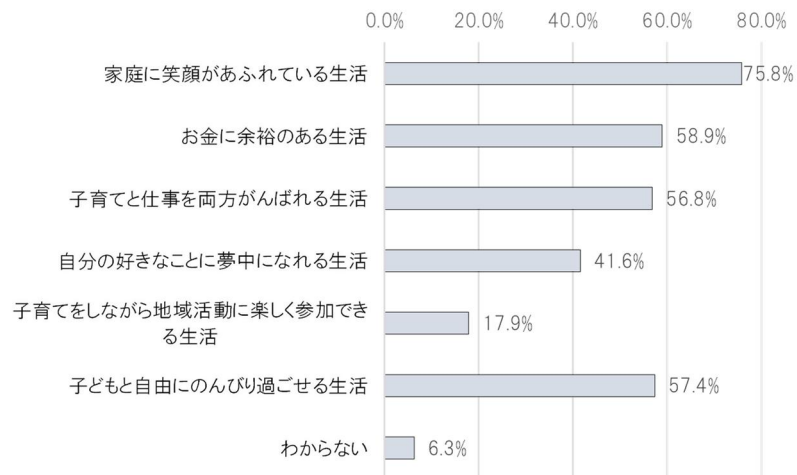
ウ) 将来あなたが家庭を持ち、子どもを育てる立場になったとして、どんな生活を望むのか

回答者の結婚、子育ての意向は以下の通り。

[中学生]



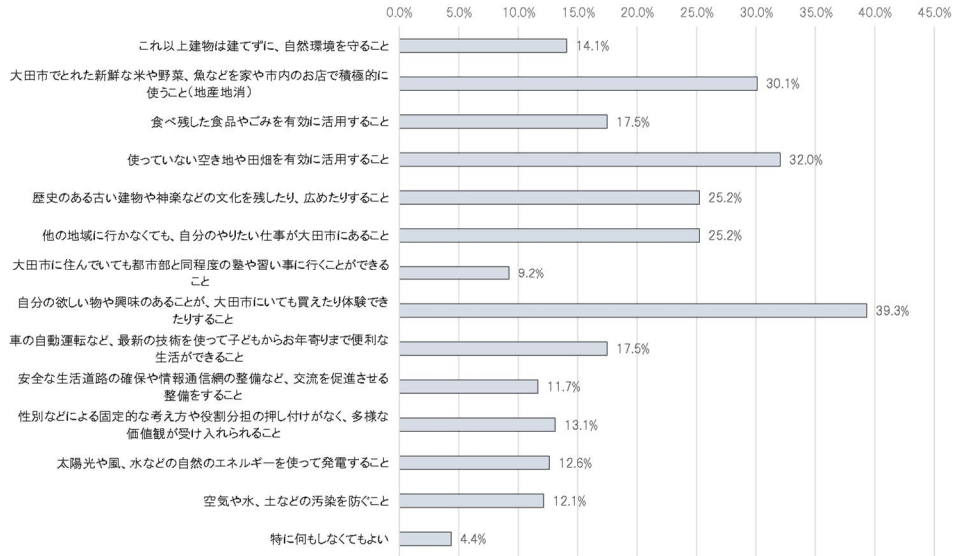
[高校生]



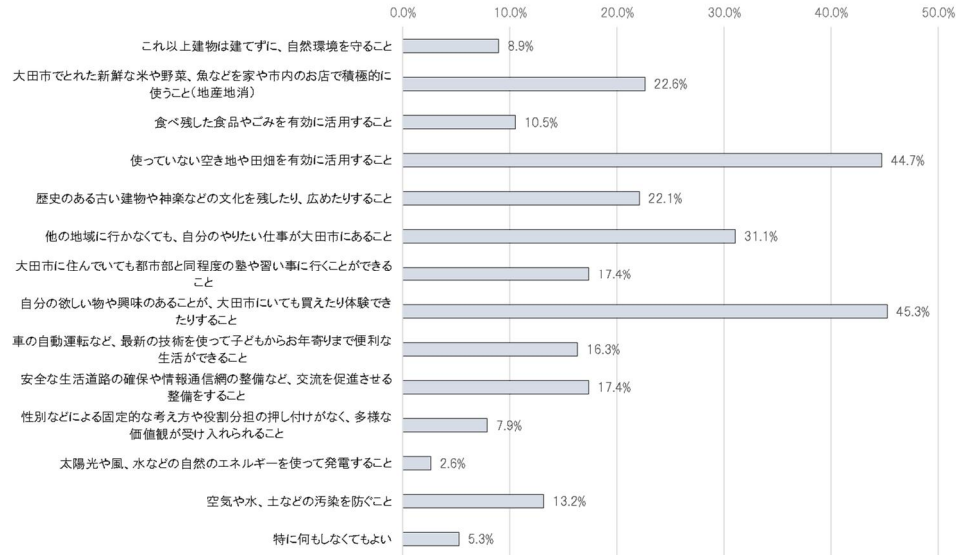
エ) 大人になったあなたやあなたの子も世代がこのまちで暮らし続けるためには、何が必要だと思うか

中学生・高校生の回答結果は次の通り。

[中学生]



[高校生]



## オ) 自由記述

### ○インフラ・施設の充実・改善

- 都会っぽくする、駅を大きくする
- もっと遊べるお店が欲しい
- コンビニを増やす
- 山陰本線の本数を増やす
- 道が狭い
- 夜の街灯を増やす
- 交通アクセス(バス)の改善
- ファストフードのチェーン店を増やす
- 食べ物や服のお店を増やす
- 大田私立図書館の勉強スペースを申請無しで使えるように
- 外観が古い建物のリニューアル
- 商業施設の増加
- バスの本数と料金の見直し
- 映画館や楽しめる店を増やす
- ビーバード復活
- 室内の遊び場の創設
- 空き家や使われていない土地の活用
- 星が綺麗
- 駅通りの古い建物の活用
- セブンイレブンなどの店舗増加
- Uber Eatsの導入

### ○イベント・活動の企画・実施

- 市街や県外から人が来るようなイベントの開催
- 若者を引っ張り出すようなイベントの頻繁な企画
- 交流の場を増やす、自然を活かすイベント
- 市内の魅力を伝える活動の強化
- 映えスポットや映えスイーツの導入

### ○多様性・価値観の受容・認知

- 家族の形や働き方など多様な生き方が認められる環境の整備
- 若者の声をもっと取り入れるべき
- 英語が使える仕事の増加

### ○具体的な魅力やメリットを感じない・中立的な意見

- 特になし・何もない・普通
- 住みなれている・馴染みがある

## 6. 中学生・高校生アンケート調査票

### (1) 中学生アンケート調査項目

問1. あなたの性別をお答えください。
問2. あなたがお住まいのまちはどこですか。
問3. 大田市への愛着について、あてはまるものを1つ選択してください。
問4. 大田市では、自治会、ボランティア団体、まちづくりセンター、企業などが主体となったさまざまな活動が開催されています。あなたが参加したことがある活動をご入力ください。(いくつでも) できるだけ、「活動名」と「活動場所」をご入力ください。 例) 一斉清掃活動(〇〇自治会)、災害復旧ボランティア(〇〇地区)、いも掘り体験(〇〇町)、料理教室(〇〇まちづくりセンター)、福祉研修会(〇〇まちづくりセンター)など
問5. あなたは学校を卒業後、どのような進路を希望していますか。あてはまるものを1つ選択してください。
問6①. 進学先の希望をお答えください。
問6②. 就職先の希望をお答えください。
問7. 将来は大田市で暮らしたいと思いませんか。あてはまるものを1つ選択してください。
問8①. 大田市で暮らしたい(いずれは大田市で暮らしたい)と思う理由は何ですか。あてはまるものを3つ選択してください。
問8②. 大田市で暮らさないと考える理由は何ですか。あてはまるものを3つ選択してください。
問9①. あなたは将来、結婚などによりパートナーと共に暮らしたいと思いませんか。あてはまるものを1つ選択してください。
問9②. あなたは将来、子どもを育てたいと思いませんか。あてはまるものを1つ選択してください。
問9③. 将来あなたが家庭を持ち、子どもを育てる立場になったとして、どんな生活を望みますか。あてはまるものすべてを選択してください。
問9④. 大人になったあなたやあなたの子ども世代がこのまちで暮らし続けるためには、何が必要だと思いませんか。あてはまるものを3つ選択してください。
問10. <u>大田市内</u> で、あなたが、友達や家族と遊びに行くお気に入りの場所・施設を3つ以内でお答えください。
問11. <u>大田市外</u> で、あなたが、友達や家族と遊びに行くお気に入りの場所・施設を3つ以内でお答えください。
問12. 大田市の行事・イベントの中で、お気に入りのものを、理由とともに3つ以内でお答えください。
問13. 大田市のまちのことについてご意見がありましたら、以下にご入力ください。

## (2) 高校生アンケート調査項目

問1. あなたの性別をお答えください。
問2. あなたが通う学校名をお答えください。
問3. あなたの出身地をお答えください。
問4. 大田市への愛着について、あてはまるものを1つ選択してください。
問5①. 「地域の行事・イベント」で参加したことがあるものをご入力ください。
問5②. 「ボランティア活動」で参加したことがあるものをご入力ください。
問5③. 「まちづくりセンター（公民館）の活動」で参加したことがあるものをご入力ください。
問5④. 「企業の活動」で参加したことがあるものをご入力ください。
問6. あなたは学校を卒業後、どのような進路を希望していますか。あてはまるものを1つ選択してください。
問7①. 進学先の希望をお答えください。
問7②. 就職先の希望をお答えください。
問8. 将来は大田市で暮らしたいと思いませんか。あてはまるものを1つ選択してください。
問9①. 大田市で暮らしたい（いずれは大田市で暮らしたい）と思う理由は何ですか。あてはまるものを3つ選択してください。
問9②. 大田市で暮らさないと考える理由は何ですか。あてはまるものを3つ選択してください。
問10①. あなたは将来、結婚などによりパートナーと共に暮らしたいと思いませんか。あてはまるものを1つ選択してください。
問10②. あなたは将来、子どもを育てたいと思いませんか。あてはまるものを1つ選択してください。
問10③. 将来あなたが家庭を持ち、子どもを育てる立場になったとして、どんな生活を望みますか。あてはまるものすべてを選択してください。
問10④. 大人になったあなたやあなたの子ども世代がこのまちで暮らし続けるためには、何が重要だと思いませんか。あてはまるものを3つ選択してください。
問11. あなたが、友達や家族と遊びに行くお気に入りの場所・施設（大田市内）を、3つ以内でお答えください。
問12. あなたが、友達や家族と遊びに行くお気に入りの場所・施設（大田市内外）を、3つ以内でお答えください。
問13. 大田市の行事・イベントの中で、お気に入りのものを、理由とともに3つ以内でお答えください。
問14. 大田市のまちのことについてご意見がありましたら、以下にご入力ください。

## IV ヒアリング調査結果

### 1. 庁内関係部署へのヒアリング

#### (1) 目的

各施策の状況整理のため、庁内の関係部署へヒアリングを実施した。

#### (2) 実施概要

- ・ 10月17日(火) 11:00～ 学校教育課・学事魅力化推進室  
13:00～ 子ども保育課・子ども家庭支援課  
14:00～ まちづくり定住課
- ・ 10月18日(水) 10:00～ 産業企画課

#### (3) 学校教育課・学事魅力化推進室

##### ア) 現状

- ・ 学力育成プロジェクトが令和4年度から実施されており、3か年計画で学力が伸び悩んでいる生徒の支援に力を入れている。
- ・ 現在の授業形態は古く、これまでの読み書き中心から問題解決する力が要求されている。
- ・ 教員の授業形態を変革し、教育力の向上を目指している。
- ・ 外国人児童に対する日本語指導支援体制を市の方でも強化しており、スムーズに学校生活を送れるよう支援している。
- ・ 高校教育では、地域との連携を深めることで高校の魅力化を図り、学力向上にも繋がると考えている。

##### イ) 課題

- ・ 学校で行われている学力向上の取組が外部に十分に知られていない。
- ・ 日本語指導が必要な子どもたちに対する教育過程の設定とその周知が課題である。
- ・ 地域との繋がりを深める取組において、コーディネーターの配置ができない場合があり、学校にとって大きな負担となっている。
- ・ 子どもたちの将来に対するビジョンが年々減少しており、自分の将来について明確な考えを持っていない生徒が多い。



#### ウ) 今後の方向性

- ・ 授業改善と教員の意識改革をさらに推進し、学力向上の取組を継続していく必要がある。
- ・ 学校教育と地域の活動を結びつけ、子どもたちが将来に向けて夢を持てるような取組を強化していくことが重要である。
- ・ 保護者や地域からの意見を積極的に収集し、教育環境の向上に反映させていくべきである。
- ・ 高校生の将来像や進路に関する具体的な調査結果を基に、大田市の魅力向上に貢献する教育政策を展開していく計画である。

### (4) 子ども保育課・子ども家庭支援課

#### ア) 現状

- ・ 大田市では、人口減少に対する課題を抱えており、これに対応するための具体的な施策を検討している。令和6年度以降の施策実施を目指し、現存の施策のリニューアル、新たな施策の創出、及び既存施策の補強を含めた検討が行われている。
- ・ 子ども保育課・子ども家庭支援課では、地域全体で子どもの育成に取り組むための多様な施策について、地域の人々や関連団体からの意見を広く収集している。
- ・ 市外からの移住促進、子育て支援の拡充、教育機会の提供など、多方面からのアプローチが必要であると認識されている。

#### イ) 課題

- ・ 移住促進や定住支援のためには、より効果的な情報発信と、具体的な支援策の整備が求められている。
- ・ 子育て支援においては、公的な支援サービスの利用が少ない一方で、利用者からの満足度は高い。利用促進のための情報提供や意識啓発が必要である。
- ・ 子どもが欲しいと考える家庭が多いにもかかわらず、出産や子育てへの経済的負担感が強く、支援策の拡充が求められている。

#### ウ) 今後の方向性

- ・ 地域全体での子育て支援の体制を強化し、子育てがしやすい環境作りを進める。特に、経済的な支援策の拡充と、子どもの遊び場や学びの場の提供に重点を置く。
- ・ 地域ごとの特性を踏まえた、柔軟で多様な子育て・教育支援策の開発を目指す。地域コミュニティの活性化を通じた子育て支援の強化が鍵となる。
- ・ 市外からの移住促進と定住支援のために、住宅支援や地域との連携による歓迎の仕組みを整える。また、多様な家族構成に対応した支援策を提供し、子どもを持ちたいと考える人々への具体的な支援を行う。

## (5) まちづくり定住課

### ア) 現状

- ・ 昭和の時代に行政が地域に多大な投資をした結果、地域社会自らが課題に対して取り組んでいくための活力が弱まった状況が見受けられる。そのため、地域の問題を行政に頼ることも増えてきている。
- ・ 地域社会の活性化に必要なのは、住民自らが地域の課題に対して取り組む姿勢である。しかし、そのための人材育成や環境整備が十分ではない。

### イ) 課題

- ・ 地域コミュニティの弱体化と、それに伴う住民主体のまちづくりの動きの不足が課題として挙げられる。
- ・ 若者や新たな住民を地域社会に組み込むための効果的な仕組みがない。
- ・ 地域の魅力を外部に伝え、移住促進や定住支援を行う体制が未整備である。
- ・ 地域内での空き家の有効活用策が十分に検討されておらず、その管理や活用の仕組み作りが求められている。

### ウ) 今後の方向性

- ・ 地域社会の再活性化を目指し、住民が自ら課題解決に取り組むための環境整備と人材育成に力を入れる必要がある。
- ・ 移住者や若者を地域社会に組み込むための新たな仕組みを構築する。これには、地域の魅力を伝えるための情報発信や、移住後のサポート体制の整備が含まれる。
- ・ 空き家問題に対する具体的な対策を策定し、空き家の有効活用を通じて地域の活性化を図る。これには、空き家バンクの充実や、地域住民と協働での空き家管理・活用プランの作成が求められる。
- ・ 地域全体での協力体制を構築し、住民、移住者、行政が一体となったまちづくりを進める。

## (6) 産業企画課

### ア) 現状

- ・ 産業企画課では、人口減少に歯止めをかけるため、産業振興と人材育成に関する施策を推進している。具体的には、サテライトオフィスの設置支援、企業立地奨励金の提供など、企業誘致と新規事業創出を促進している。
- ・ また、産業人材の育成確保促進事業を通じて、高校生を含む若年層に対する職業教育やキャリア支援を強化している。これには、ウェブサイトの運営や企業紹介動画の作成、U・Iターン就職促進事業などが含まれる。
- ・ 地域の産業と教育機関の連携を深めることで、地域全体の産業基盤の強化を目指しており、産業分野における新たな人材確保のための施策を模索中。

### イ) 課題

- ・ 産業企画課が推進する施策の認知度が低く、地域内外の潜在的な利用者に十分に情報が届いていない。
- ・ 地域における求人と求職者のミスマッチが存在し、特に若者が地域で希望する職種や業種に就く機会が限られている。
- ・ 産業人材の育成と確保に関する施策が、十分な成果を上げているとは言い難い状況にある。特に、高校生を対象とした職業教育の効果とその持続可能性に課題。

### ウ) 今後の方向性

- ・ 産業企画課が推進する施策の認知度向上と利用促進のために、より効果的な情報発信と啓発活動を行う。
- ・ 地域内で求められる産業人材と地域外からの移住者やU・Iターン者を結びつけるための新たな施策を開発する。
- ・ 企業と教育機関の連携をさらに深め、産業分野での実践的な職業教育やインターシップの機会を増やすことで、地域に根差した人材育成の体制を構築する。

## 2. 関連団体へのヒアリング

### (1) 目的

様々な分野で活動している大田市内の団体に、人口減少対策に関する取組みや課題、今後の在り方などについて意見を伺うために、各団体に関わる分野のテーマを中心にヒアリングを実施した。

また、地区の実態をより詳細に把握するために、全27地区の中から、人口動態の良い地域として大森地区、人口動態に課題のある地域として池田地区をそれぞれモデル地区として選定し、通常のヒアリングに加えて、地元関係図を作成した。

### (2) 実施概要

- ・日時：2023年6月から2023年7月にかけて実施
- ・実施地区：大田市内（8地区、高校2校、子育てサークル5団体※）  
※子育てサークルについては、簡単なアンケート用紙を配布し、後日回答頂く形を取った。

#### ・主なヒアリング項目

- 人口の増加減少要因
- 地区の課題
- 地域の組織・団体
- 活動のスケジュール
- 行政に求める施策や事業等

#### ・ヒアリング実施先

##### 【まちづくりセンター】

- 大森まちづくりセンター（モデル地区：地元関係図も作成）
- 祖式まちづくりセンター
- 福波まちづくりセンター
- 馬路まちづくりセンター
- 大屋まちづくりセンター
- 富山まちづくりセンター
- 朝山まちづくりセンター
- 池田まちづくりセンター（モデル地区：地元関係図も作成）

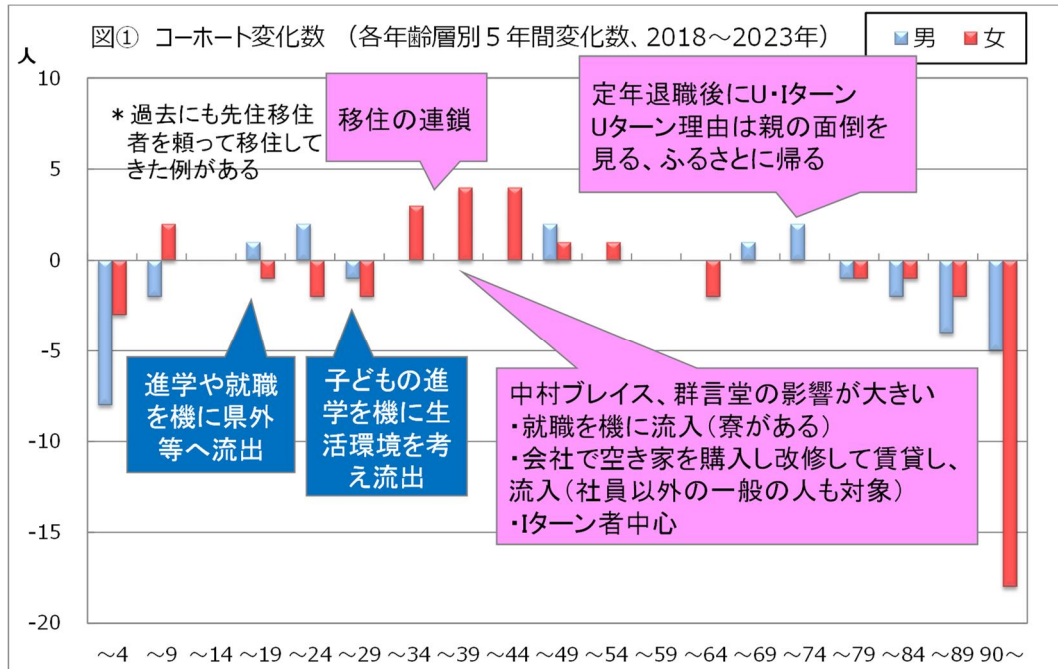
##### 【子育て教育関係者】

- 大田高校
- 邇摩高校
- 子育てサークル

以下、ヒアリング結果について、「人口動態」と「取組みの成果・課題」について記載する。また、地元関係図を作成した地区については、それも併せて掲載する。

### (3) 大森まちづくりセンター【モデル地区】

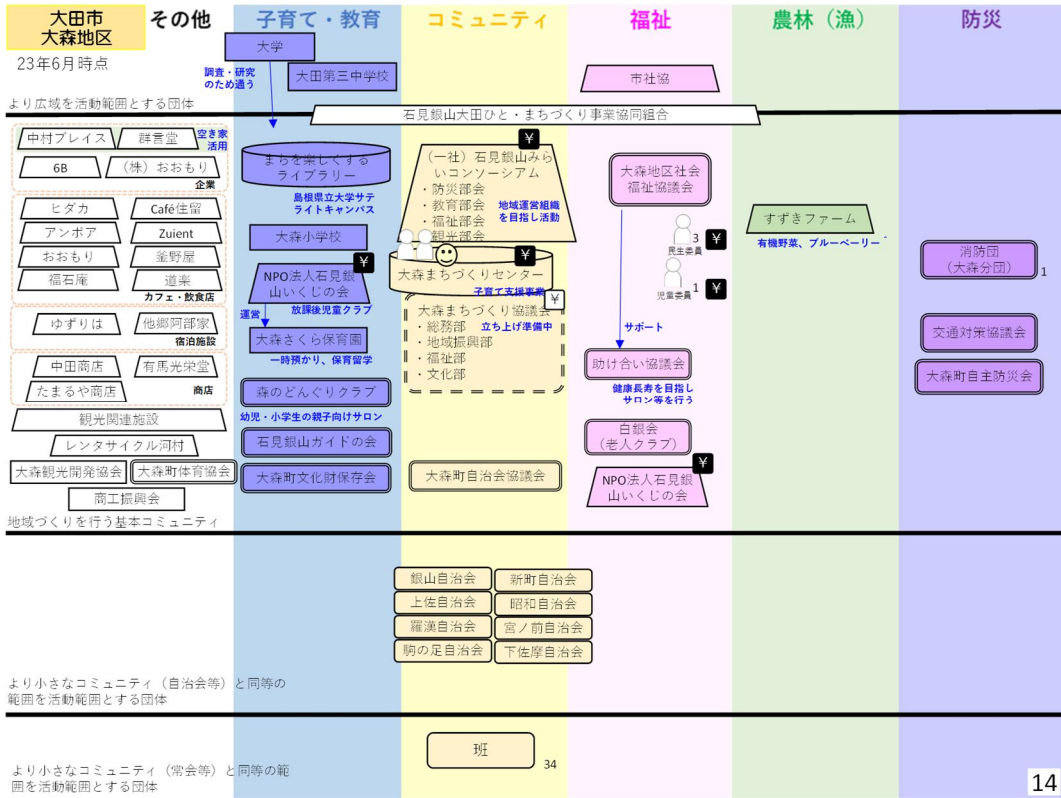
#### ア) 人口動態について



#### イ) 取組みの成果・課題

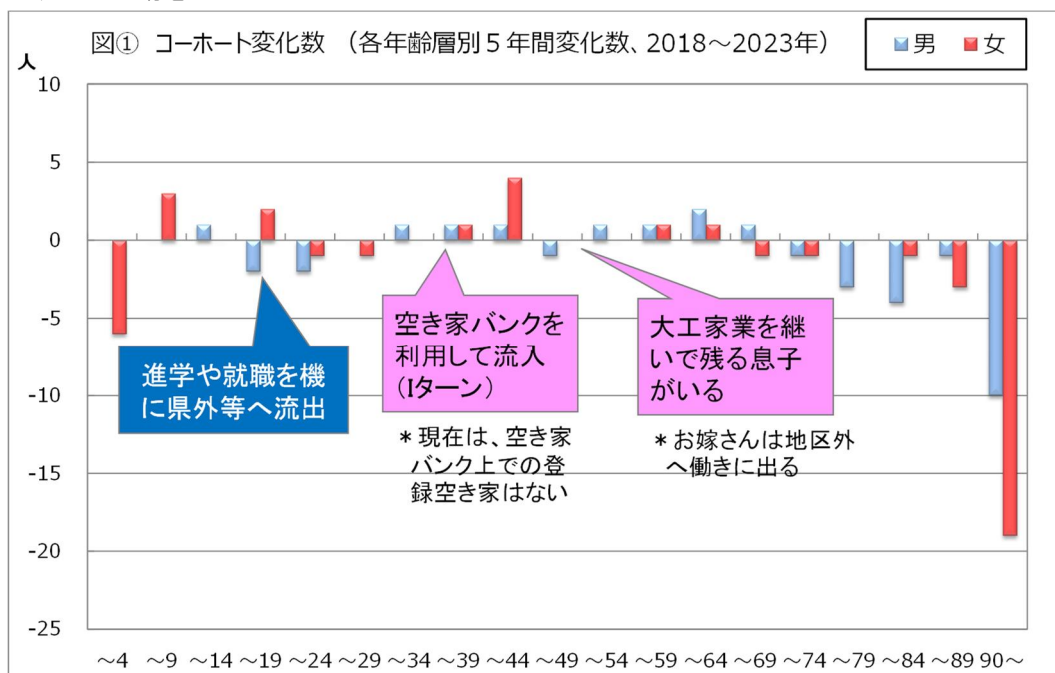
地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石見銀山がある</li> <li>・大森銀山伝統的建造物群保存地区</li> <li>・大学から調査等で大学生が多く訪れる</li> </ul>
手ごたえ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中心的企業が雇用を支え、人口の流入が生まれている。また、住まいについても、これら企業が空き家を賃貸物件としてリニューアルされている。</li> <li>・Iターン者が別のIターン者を呼ぶという好循環</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塾などの教育環境が乏しい(昔は英語やピアノ、そろばんなど習い事があったが今はない)</li> <li>・Iターン者の子育て世帯は、特に両親ともが風邪を引いて子どもをみられないときに頼れる相手や場所がない(コロナ禍で実感)</li> <li>・空き家対策(地域外に所有者がいる家屋への対策)</li> <li>・交通弱者の支援環境整備</li> <li>・Iターン者は多いが、Uターン者は少ない</li> </ul>

## ウ) 地元関係図



#### (4) 祖式まちづくりセンター

##### ア) 人口動態について

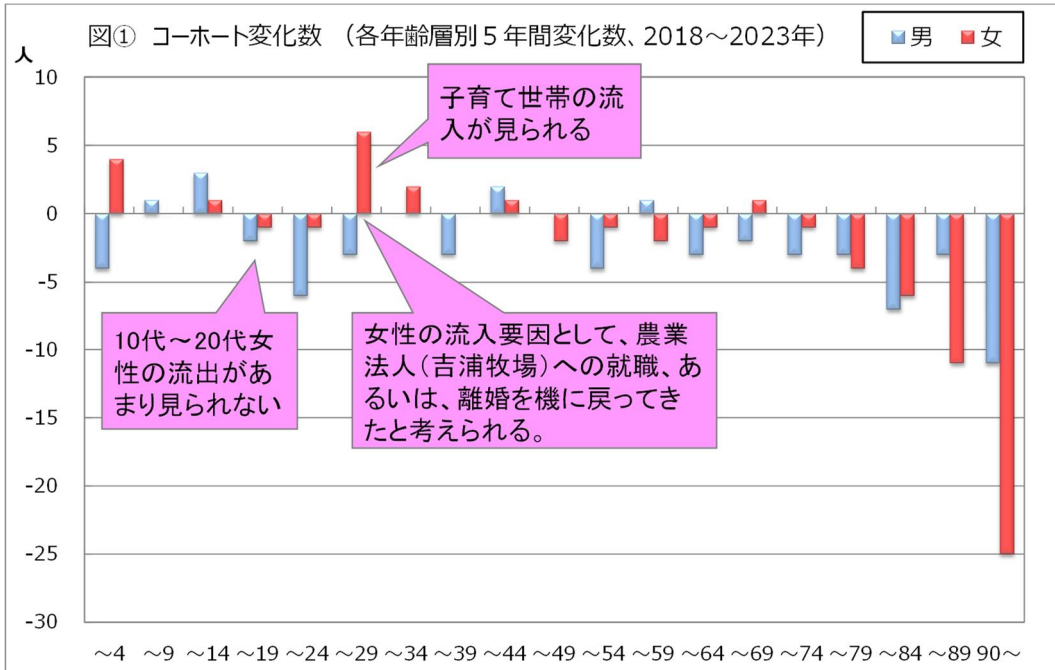


##### イ) 取組みの成果・課題

地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山間の農村地域</li> <li>・ 保・幼・小・中と教育機関がない</li> <li>・ かつては大工さんが多かった (現在も 4 軒ある)</li> </ul>
手ごたえ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ここ 10 年間で移住者 (特に I ターン者) が増加</li> <li>・ 空き家バンクに登録されていた住宅に移住者が住む</li> <li>・ 大工家業を継いで残る息子がいる</li> <li>・ 独居老人が多いこともあり夏場を中心に移動販売車が来る</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鳥獣害</li> <li>・ 移住者増により入居可能な空き家が無い状態⇒空き家自体は存在しているが、登録につながっていない</li> <li>・ 10 自治会中 4 自治会は戸数減少により活動休止</li> <li>・ 子育て・教育環境の整備 (塾、習い事・子どもたちのたまり場がない)</li> <li>・ 交通弱者の支援環境整備 (冬季は積雪によりなかなか買い物に行けない高齢者もいる)</li> </ul>

(5) 福波まちづくりセンター

ア) 人口動態について



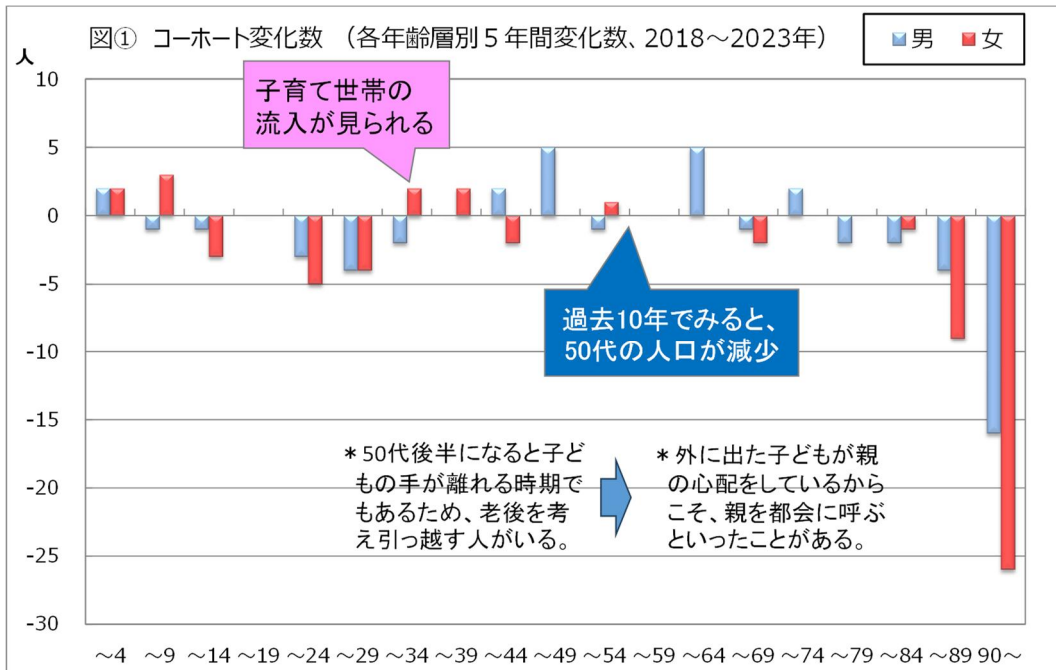
イ) 取組みの成果・課題

地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江津まで 20 分、大田まで 40 分。ベッドタウンのようだが環境は整っていない。</li> <li>・福光海水浴場は絶好のロケーション。ほぼプライベートビーチ。</li> <li>・7月になると 300~400 羽近くのウミネコが一斉に飛び立つ姿が見られる。</li> </ul>
手ごたえ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井田地区の高齢者が、福波の空き家を購入して入居する例もある。</li> <li>・子育て支援サークル(若ママの会)が精力的に活動。12~13 人位の参加がある。育ちきった子に地域を向いてもらうのは難しいため、小さいうちから地域との触れ合いの機会を与えるのに意義がある。</li> <li>・吉浦牧場は地域の大きな雇用元。大田市外からの就労者が多い。敷地内には社宅もある。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人親や長男男性などの独身者が多い。出会いの場が必要ではあるが、はぴこ会に登録するのは気が引ける方もいる。であれば、地域行事を出会いの場にしてもらいたい。より自然な出会いを求めている。</li> <li>・吉浦牧場では、外国籍の方も勤務している。中には、子どもがいて運転免許がない方もいらっしゃる。何かこういった移住者に対する生活レベルでのサポートがあればと思う。</li> </ul>



(6) 馬路まちづくりセンター

ア) 人口動態について

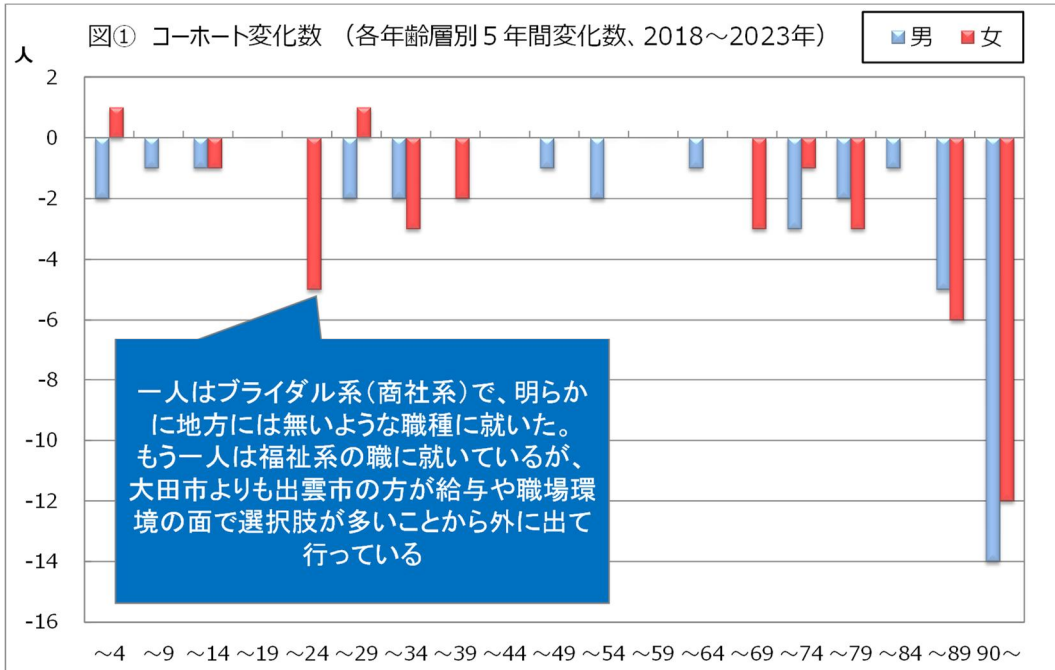


イ) 取組みの成果・課題

地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>• かつては大工や左官職人が多い出稼ぎで成り立っていたまちである。</li> <li>• 琴ヶ浜を始めとした観光資源に強みを持っている。</li> <li>• 道幅が狭く、駐車場が確保できないことが移住のネックとなっている。</li> </ul>
手ごたえ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 夕暮れコンサートの魅力にひかれてIターンで来られた方がいる。</li> <li>• ここ数年間で外国人の方が空家を購入されている動きもある。おそらく近くの工場への勤務と合わせて住まいは馬路に選んでいただけた可能性がある。</li> <li>• 集落支援員を一人配置し、地区の魅力をPRするパンフレットを作成。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 近くにJR駅やバス停はあるものの、人は定着せず通りすがってしまうことが多い。</li> <li>• 感覚的に2件に1件は空家であると思われるが、駐車場の確保がネックとなり、移住者を逃している可能性がある。</li> <li>• 以前から自治会輸送の検討を進めており、運輸局からの許可までもらっていたが、現在は諸事情により検討を中断。</li> </ul>

(7) 大屋まちづくりセンター

ア) 人口動態について

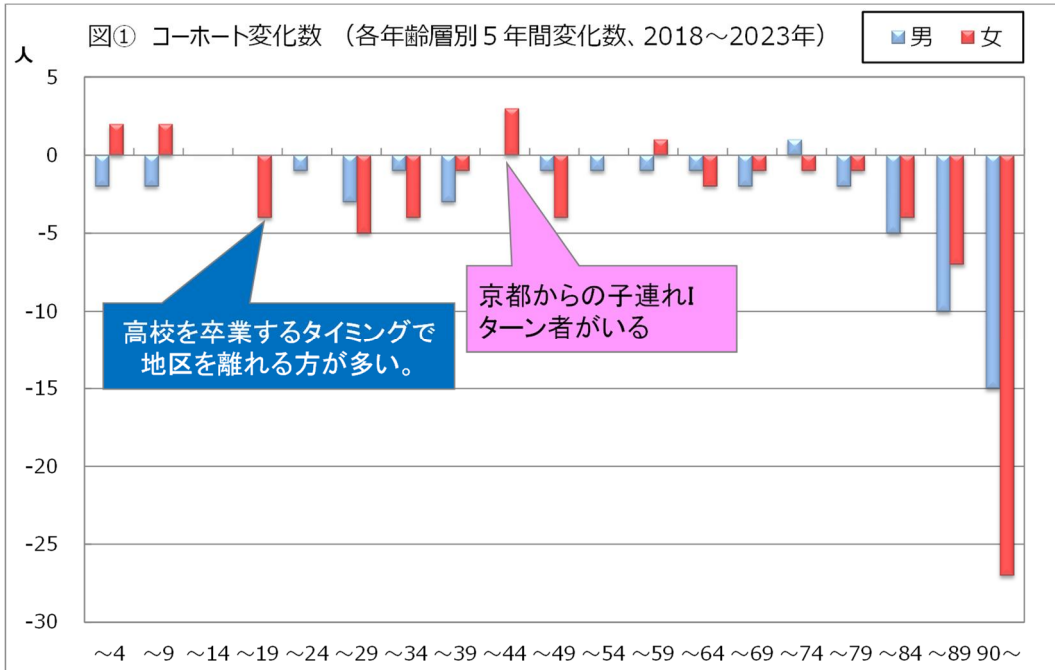


イ) 取組みの成果・課題

地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>大屋神楽、すぎやまこういち氏が作曲した校歌があるなど素晴らしい歴史文化がある。</li> </ul>
手ごたえ	<ul style="list-style-type: none"> <li>70代のメンバーが中心となって、地域の米や野菜など食材を使った福祉弁当を毎月30食作っている。利用者からは好評。⇒将来的には、昔の幼稚園をカフェにする案と連動させ、メニューとしても加えていきたい意向がある。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路インフラの整備が課題。</li> <li>過去に30代独身女性が地区内の空家に移り住んできたことがあった。出雲の職場で働きながら大屋地区に住み続けていたが、朝が早いこともあり、最終的には出雲へ引っ越された。</li> <li>子育て世帯にとっても、車が無いと生活が出来ない状況であり、中学生頃から部活動が本格化する際の送り迎えなどにかなりの負担を強いられる。⇒ある家庭では、家からバス停までの5kmの距離を祖父祖母が対応していたものの、対応が難しくなり久利地区に引っ越された方もいる。</li> </ul>

(8) 富山まちづくりセンター

ア) 人口動態について

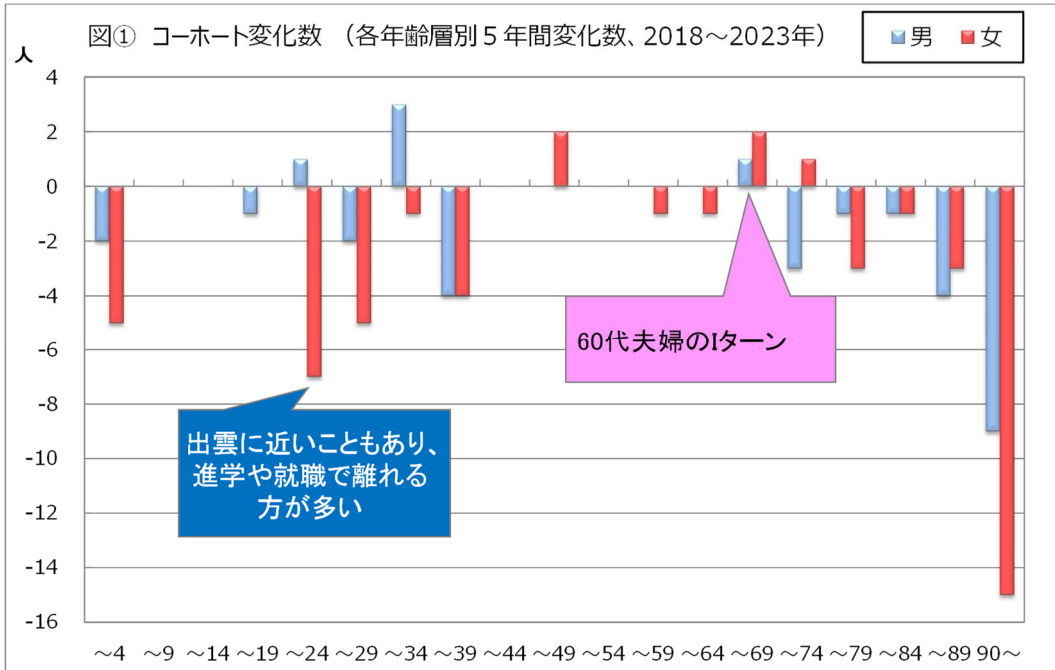


イ) 取組みの成果・課題

地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>急斜面の有する農地が広がる地区。</li> <li>地域の活動自体はかなり活発であり、ピザ窯を使ったイベントや夏休みのイベントなど、多様な年代を対象にした活動を展開。</li> </ul>
手ごたえ	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業に興味がある I ターン者が空家を探しているところ、前所有者の農業機械などがそのまま家に残っていたことも移住の決め手となったと考えられる。現在この方は、田と畑を持ち、ヤギやニワトリを飼っている。</li> <li>上記の移住者が、今年の3月から地域食堂を開始。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>状態の悪い空き家が多い。</li> <li>地区を離れる子どもに対する親の反応として、この地区を出た以上はもう帰ってくるなどということをする人は多い。</li> <li>幼保小中が地区内に無い為、子の送り迎えに苦勞している。</li> <li>人柄として、お願いされると何でも引き受ける気質の人が多い一方で、自ら動くのはおっくうと考える人が多いと思う。</li> </ul>

(9) 朝山まちづくりセンター

ア) 人口動態について

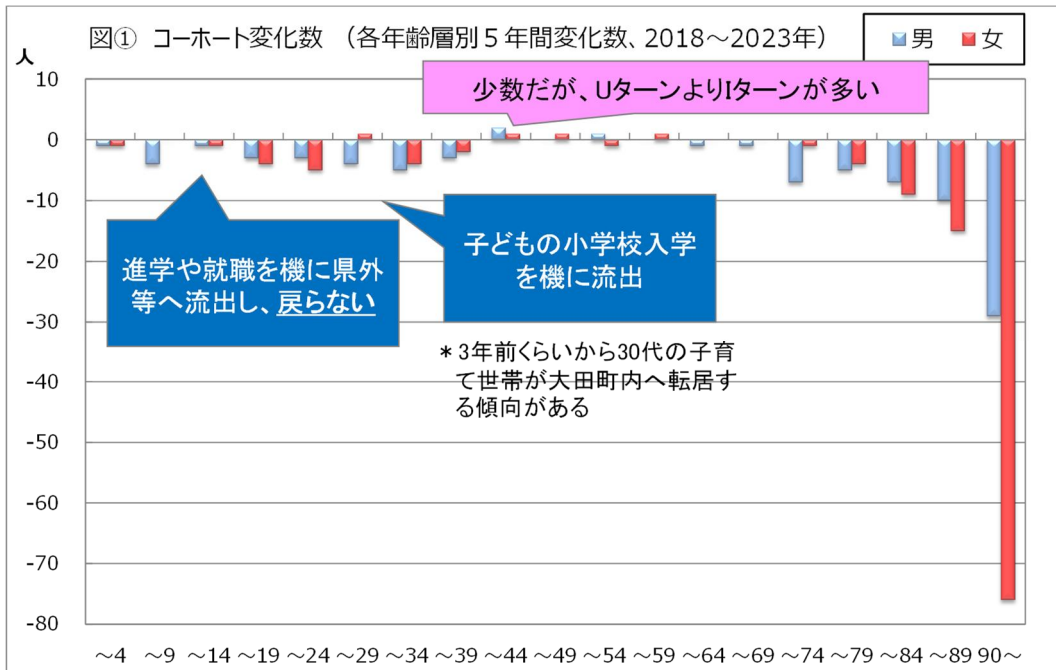


イ) 取組みの成果・課題

地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石見と出雲の境に位置し、それにまつわる史跡などがある。かつては出雲神楽の社中もあった。</li> <li>・海と山が揃った地域で、島津屋のりは大変貴重。</li> <li>・県の食肉加工所があり 100 人以上は勤務している。</li> </ul>
手ごたえ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I ターンの方が中心となって空家を改修し、ドッグランを整備した。地域にとっての居場所となっている。社協が一部費用の助成を行っている。</li> <li>・20 年~30 年前に開設されていた農産物直売所を 4~5 年前に復活させ、高齢者の集いの場につながっている。</li> <li>・長寿会が所有する梅園も人気。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独身男性、一人親の方々が体感的に 2 割程度はいる。</li> <li>・コロナにより、体育祭や子ども会などが休止となっている。</li> <li>・比較的、親、子、孫の 3 世代が揃った家庭もあるものの、若い世代に対する地域活動の継承がうまくいっていない。</li> </ul>

(10) 池田まちづくりセンター【モデル地区】

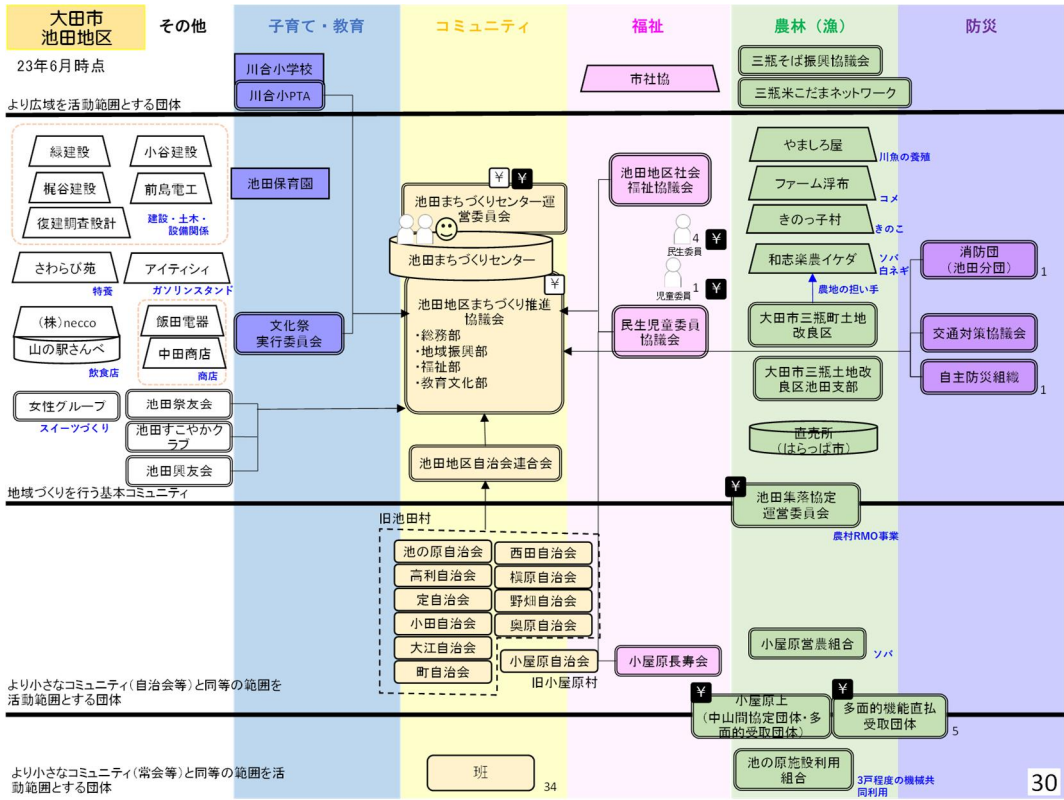
ア) 人口動態について



イ) 取組みの成果・課題

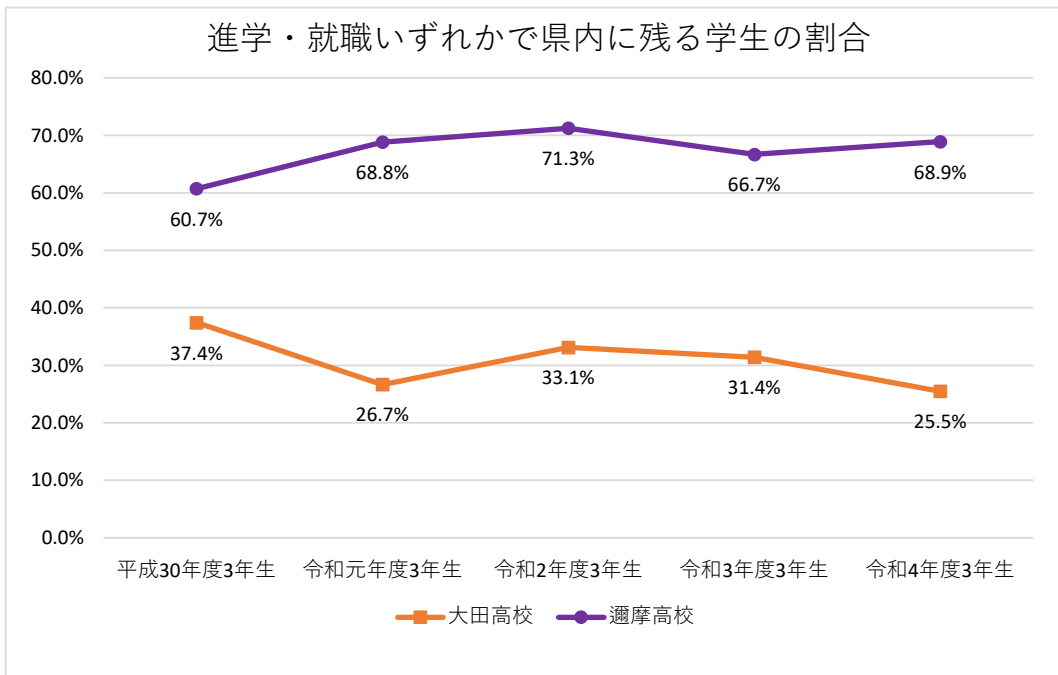
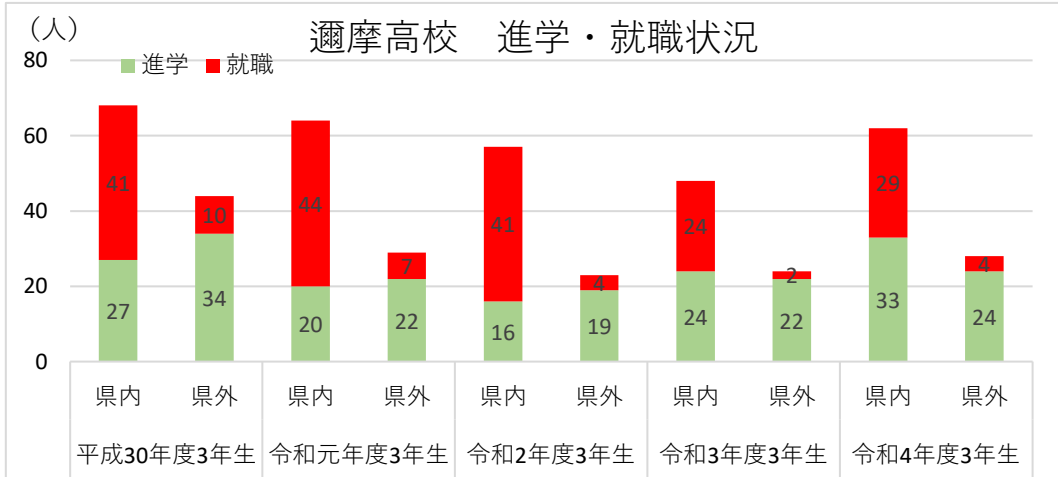
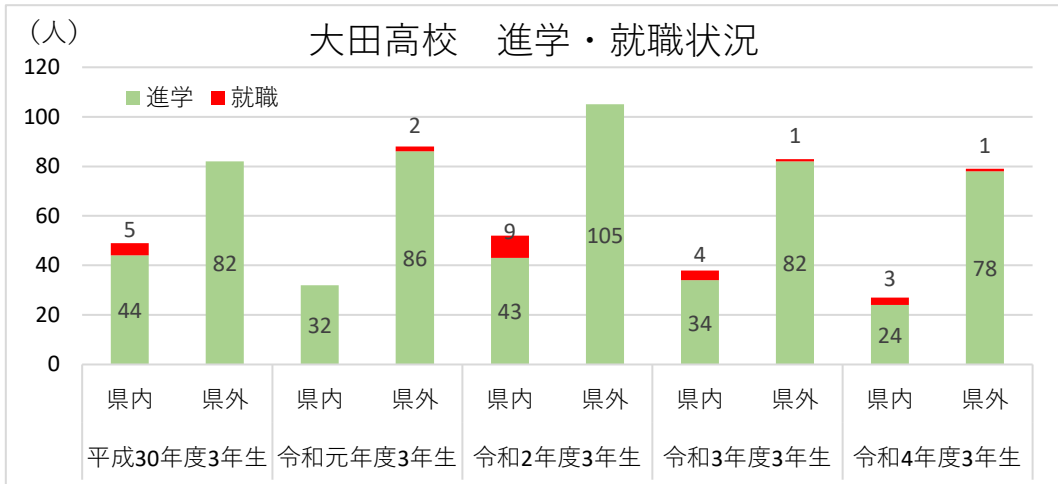
地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三瓶山の裾野上の農山村地域</li> <li>・令和5年3月 池田小学校閉校</li> <li>・かつての地場産業は農業・畜産、観光業</li> </ul>
手ごたえ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そばや米などの豊かな農産物を活用した女性加工グループ、三瓶周辺地域が連携したそば振興協議会、経験豊富な有機農業者が存在しており、個々において特徴ある活動が展開されている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内外の人や組織を生かせる体制づくり</li> <li>・子育てについては、若者が子育てしやすい環境づくり</li> <li>・移住定住については、生活支援や住宅支援、働きやすい環境整備</li> <li>・福祉の充実を図り、高齢者が住みやすい環境づくり</li> </ul>

## ウ) 地元関係図



(11) 大田市内高校の2校へのヒアリング

ア) 高校卒業後の進学・就職動向



### イ) 大田高校のヒアリング結果

進学状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前は関東などの都心部に行きたいと考える学生は多かったが、今後は減少するかもしれない。その代わりに、広島や岡山などのちょっとした都会を選ぶ学生は増えている。</li> </ul>
就職状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学者については、近年は県外への就職は見られていない。</li> <li>・大学を卒業した後は、大田には戻らず出雲に住む人が多いと聞いている。</li> <li>・就職説明会については、1年に1回ほど地元企業からあるのみである。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の意識として、一生に一回きりの仕事に着くという感覚は減っているものと思われる。</li> <li>・何かこれをやりたいと考える学生は少ない。</li> <li>・大田高校卒業者は大田のことが好きと言う学生は多い。大田高校では1年生から2年生にかけて探求学習に取り組んでいる。これらの活動には、地元の社協やまちセンなどに協力いただいている。</li> </ul>

### ウ) 邇摩高校のヒアリング結果

進学状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学先として、松江の短大や調理専門学校に進学する学生がいる。</li> <li>・男子生徒よりも女子生徒の方が、県外への進学意欲が高く、都会志向が強い。</li> </ul>
就職状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職者の方が進学者よりも少ないものの、近年では就職者も増えつつある。</li> <li>・就職支援については、卒業生や地元で活躍している人を呼ぶなどして工夫している。また、就職に対する意向は学生自身のみならず親の意向も反映されることから、PTAを対象とした企業説明会を夏に開催予定である。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業系列は農業を学ぶ学科である。進学、就職先として、前者は農業大学校、後者は食品加工会社、パン製造（広島など）などがある。一方で、農業生産に関して、求人が来ても就職先として選ぶ人は少ない。理由として、農業に対してしんどいと感じている学生が多いからと思われる。</li> <li>・ビジネス系列は簿記やプログラミングを学ぶ学科である。就職先として、事務職での求人が少ないこともあり、学びを活かした就職先が限られる。</li> <li>・福祉系列及び食とこども系列については、介護系職員や保育士などの専門職に関係するため、進学・就職先は安定している。</li> <li>・ふるさと教育については、出来る限り実施している。ただし、地域との連絡調整を担っていた大田市教育委員会の魅力化推進員の配属が</li> </ul>



	<p>今年からなくなったのは非常に残念。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来に対して強いビジョンを持っている学生は年々減っているように感じる。自身の将来について、どうとでもなると考える学生が多い。</li> <li>・そもそも中学 3 年生の段階から市外の高校に出る人がいることも気になっている。この地域であれば、石見智翠館などに進学する中学生がいる。</li> </ul>
--	--

## (12) 子育てサークル（アンケート調査によって状況を把握した）

### ア) 各団体の活動状況

#### ■みなかみくれよんくらぶ

活動内容	・休会中
活動に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表交代する方がいない</li> <li>・保育園に小さいうちから入る子が多いので特に参加者が少ない</li> </ul>

#### ■はみんぐばード

活動内容	・町センターを利用して保健師さんに声をかけて、いろいろ活動をしたり、悩みを話し合ったり、交流をもつ
活動に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数が少なくなっている</li> </ul> <p>(すくなくとも、活動し続けることが大事だと思っている)</p>

#### ■子育てサロン「ほとな会」

活動内容	・毎月 1 回第二木曜日長久まちづくりセンターにて開催。内容は季節の行事（七夕会やクリスマス会）おもちゃづくり、健康相談、体操教室など
活動に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが少ないため参加される方も少ない</li> <li>・情報提供しているが参加される方が少ない</li> </ul>

#### ■にこにこの会

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月 1 回程度古民家を借りて集まる（不特定）</li> <li>・集まった方同士で話をしたりしてゆっくり過ごす</li> </ul>
活動に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所を借りるので場所代として参加費をもらっている</li> <li>・少しでも負担を少なくしたい</li> </ul>

■COLOR

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回「ここから」を開催し、子育ての悩みや不安を話したり、学校にいけないお子さんの居場所づくりを行っている。</li> </ul>
活動に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決まった場所がないこと（今は場所を借りて開催しており拠点となる場所が欲しい）</li> <li>・メンバーはみな仕事をしながら活動しているため、出来れば毎日開設したいが難しい</li> <li>・開設資金が限られている</li> </ul>

イ) 大田市の評価及び今後必要と思われる活動や支援

産前産後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産後ケア事業が不足。他県で出産した際に、その市民である母子は希望すれば1日千円程度で入院期間を延ばせる制度があり、とても良いなと思った。</li> <li>・自宅安静や入院となった際に、上の子を預ける場所を探すのが難しかった。</li> <li>・上の子の延長保育も産前産後2カ月の補助はあるが、自宅安静に対しては補助されないのは負担と思った。</li> </ul>
子ども用品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に子ども用品を中心としたフリマを実施した際にとっても需要があり、必要としている人が多いことが分かった。</li> </ul>
居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共働き家庭における子ども達の安心安全な居場所づくり</li> <li>・地域全体での見守り環境づくり</li> <li>・高齢者と子ども達が触れ合える環境づくり</li> <li>・保育園に通っていない子ども平日の遊び場がない</li> <li>・他県などから来た親同士の交流の場がない</li> <li>・市役所以外のところで気軽に相談したり集まったりできる場所が少ない</li> </ul>
保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親が希望する保育園に待機なしで入園できると良い</li> <li>・一時預かりやショートステイの支援が充実すると親がリフレッシュしながら子育てができるのではないかと</li> </ul>
病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院が少ない</li> </ul>
出産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産院がない。</li> <li>・マイ助産師制度 ⇒妊娠、出産、産後ひとりの助産師が伴走することで、妊産婦母親の不安と孤立を安心と自信、自立へと導くことができる</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーガニック給食を取り入れ、全国にPR出来ると大田市に興味を持ってくれる人が増えるのではないかと</li> </ul>
働ける場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口を増やすには働ける場所が必要と感じる。企業の誘致や働く場所の紹介を積極的にしてほしい。</li> </ul>

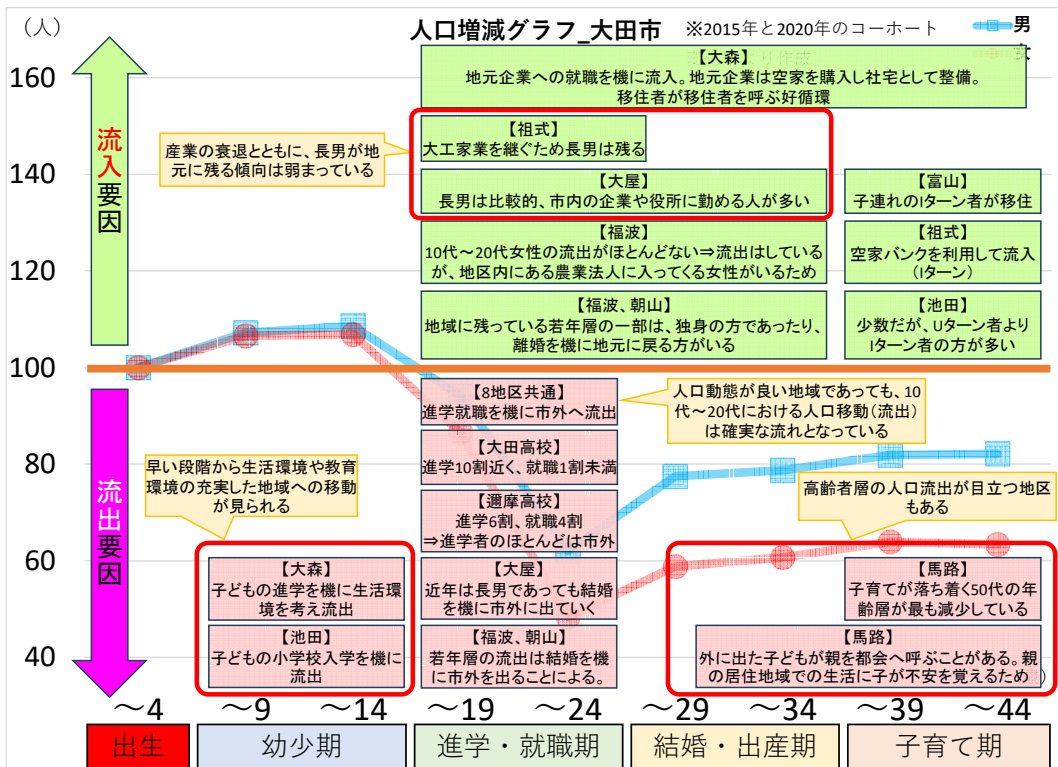
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大田市では不登校児童生徒が増えている。是非、調査研究して新たな対策を考えて欲しい。</li> <li>・多様な学び場の整備</li> </ul>
------	--

ウ) 行政の支援以外にもご自身が所属する団体もしくはご自身が主体となることができること

<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政では規制があったり介入しにくい部分を連携して取り組むこととして、例えば移動支援事業（学校や職場、福祉施設、自宅への送迎）、自宅訪問事業（相談、料理、掃除、保育など）</li> <li>・居場所づくり</li> <li>・産後ケア事業</li> </ul>
---

### 3. ヒアリング結果のまとめ

#### (1) 人口の流入・流出要因のまとめ



(2) 主な取組と手ごたえ・地域資源

		主な取組・地区の概要	手ごたえ・特徴
人口動態の良い地域	大森	大森銀山伝統的建造物群保存地区 大学から調査等で大学生が多く訪れる	地域の中心的企業が雇用を支え、人口が流入 移住者同士、ご近所付き合いが良好
	祖式	保・幼・小・中と教育機関がない かつては大工さんが多かった(現在も4軒ある) 大規模な圃場整備を行っている	ここ10年間で移住者(特にIターン者)が増加 大工が多く、家屋の修繕に対応 大工家業を継いで残る息子がいる
	福波	5歳までの女の子、20代後半の女性にプラスあり 10代後半から20代の女性があまり流出していない 海水浴として人気のある場所でのイベント開催(初開催)	大きく成長したに地域を向いてもらうのは難しい。小さいうちから地域との触れ合いを促すために、子育て支援サークル(若ママの会)としての活動の意義がある 農業法人(吉浦牧場)が地域の大きな雇用につながる
	馬路	仁万地区の幼保小中に通う 地区の観光資源である琴ヶ浜の清掃活動	琴ヶ浜での夕暮れコンサートが決め手となり移住 地区で活動する集落支援員が移住定住に関する活動を展開。東京でのアプローチを図っている。
人口動態に課題のある地域	大屋	他の地区よりも10年ほど少子高齢化が進む 自治会輸送の検討	過去に独身女性のIターン者が来ている(後に引っ越す) 大屋神楽など多くの歴史・文化的資源がある
	富山	幼保小中が無い 地域活動が盛ん	Iターン者が地域食堂を開く お願いされると何でも引き受ける気質の人が多い
	朝山	孫世代までの3世代が同じ地区内に住んでいる 地区社協が中心となりサロンや地域活動への支援を行う	移住者を中心とした有志により空家を改修したドッグランを整備 農産物直売所が高齢者の集いの場(サロン)として機能
	池田	令和5年3月 池田小学校閉校 かつての地場産業は農業・畜産、観光業	農産物加工グループを始めとした多様な組織・団体が存在
大田高校	進学10割近く、就職1割未満 “ダイコウプロジェクト”1、2年生を対象とした探求学習	探求学習により大田市への愛着につながっている。	
邇摩高校	進学6割、就職4割 ⇒進学者のほとんどは市外	県内就職者がほとんどを占める。 保護者への社会見学会を開催し、地元志向を高める	
子育てサークル	主に未就学児を持つ家庭を対象とした悩み相談・交流・体験事業を展開。 市内に16グループ存在(休会中含む)	子育て中の親同士の横のつながりづくり 息抜き場	

(3) 個別課題

		課題	
人口動態の良い地域	大森	塾などの教育環境が乏しい 地域外に住む空家所有者への対応	子育てにおける1ターナー者の孤立(親が病気の時に頼れる存在がない)
	祖式	子育て・教育環境の整備(塾、習い事・子どもたちのたまり場がない)	鳥獣被害が多い 現在は空家バンク上において登録空家が無い状態
	福波	子どもはスポ少などの習い事が多く忙しい。 子ども達と地域が触れ合うときがない。	盆踊りでも、帰省された方も参加しているが減っている。愛着がなくなっているため。
	馬路	立地特性上、家の前に駐車場が確保できないため移住時の大きな障害となっている	交通弱者対策として自治会輸送の検討を途中まで進めていたが、諸事情により中断
人口動態に課題のある地域	大屋	とにかく道路インフラの整備が課題である	大屋神楽が文化としてあるものの、メンバーは大屋地区の出身者はほとんどいない
	富山	幼稚園が無い為、子どもの迎えがかなり負担となっている	子どもに対してこの地区を出た以上は帰ってくるなということ言う人は多い。
	朝山	若い世代の地元活動への参画が弱い 近年では、大田市内の高校に行かず、出雲に行く子が多い	コロナにより、体育祭や子ども会が休止中となっている
	池田	若者が子育てしやすい環境づくり	福祉の充実を図り、高齢者が住みやすい環境づくり
大田高校	進学先について、以前よりは関東・関西方面での都会志向は減っているが、 <b>広島や岡山などのちょっとした都会を志向する学生は多い</b>	これをやりたいと考えている生徒は昔よりも少ない	
邇摩高校	農業系列について、求人が来てもなかなか就職につながらない⇒農業はしんどいという体感があるから ビジネス系列についても、大田市内での事務職の求人が限られるため、就職先は狭い	女性の方が、県外・都会志向が強い 智翠館高校に通う生徒も多い 強いビジョンを持っている生徒は年々減少している。すなわち、将来はどうとでもなると考える生徒が多い	
子育てサークル	生まれてくる子どもが少ないため利用者が少ない 活動場所にお金がかかるため参加費を徴収している⇒少しでも負担は減らしたい	活動資金が限られる メンバーはみな別の仕事をしながらであるため、毎日開設したいが難しい	

#### (4) 共通の課題

##### ア) 住まいの安定的確保

人口減少対策において住まいの確保を重要視する声が多く挙げられた。また、移住者側としても空家があったことが移住の決めの一つとなっている。

しかしながら、空家として流通している物件は少ない現状があり、空き家のストック量は常に一定ではない。原因として、空家になった後の管理が適切に行われていないことによる家屋の老朽化といったことや仏壇があるなどの心理的問題、家財の整理が出来ていないなどの問題が障害となっている。

また、今回ヒアリングを行った地区においては、自治会やまちセンなどの地域の団体が空家問題に関して組織的に関わっているといったことはないようである。

これに対し、ヒアリングを行った地区からの意見では、地区として空家への関与を求める声や公営住宅の整備を求める声、年々増え続けている空き地・耕作放棄地への新規住宅建設を求める声がある。

##### イ) 集う場、遊ぶ場の確保

保育園に通わず自宅で育児されている子どもが平日に遊ぶことが出来る場所がない、移住された子育て世帯などの親同士の交流を図る場所がないといった声がある。

##### ウ) 結婚支援

結婚支援を目的とした場ではなく、より自然な場での出会いを求める声がある。

##### エ) 産前産後に対する支援

出産時の子どもの預け先、金銭的補助に対する支援を求める声がある。

##### オ) 高等教育機関の整備

若者の定着と若者の持つ活気を狙って、大学の誘致を求める声がある。

## V 他自治体現状分析

### (1) 目的

人口減少に関する取組として、大田市の状況を広く島根県内の15市町(隠岐を除く)を対象に取り組みされている施策を調査した。

また、併せて、大田市に参考になると考えられる先進的取組を行っている自治体として、兵庫県明石市、大分県豊後高田市の取組も併せて調査した。

### (2) 県内15市町村(大田市も含む)の調査結果

#### ア) 大田市、松江市、浜田市

■他自治体の取組調査 2023年8月現在

調査自治体		大田市	松江市	浜田市
基礎情報 (国設標準)	人口(R2)	32,846人	203,616人	54,592人
分野	保育料(0~2歳) ※副食費含む	有料 【独自】保育料引き下げ、多子世帯に対する減額	有料 【独自】生計を一にする兄弟が2人以上いる子どもの保育料は無料	有料 【独自】保育料引き下げ
	保育料(3~5歳)	全国一律無償化		
	副食費(3~5歳)	有料 【独自】第3子以降免除	有料	有料 【独自】第3子以降免除
	医療費(未就学児) 自己負担額	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円
	医療費(小学生) 自己負担額	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:1割負担(2,000円) 入院外(通院・薬局等):1割負担(1,000円) ※薬局等は無料
	医療費(中学生) 自己負担額	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):助成対象外	入院:3割負担(2,000円) 入院外(通院・薬局等):3割負担(1,000円) ※薬局等は無料
	医療費(高校生) 自己負担額	入院:助成対象外 入院外(通院・薬局等):助成対象外	入院:2,000円~20歳未満まで 入院外(通院・薬局等):助成対象外~20歳未満まで	入院:3割負担(2,000円) 入院外(通院・薬局等):3割負担(1,000円) ※薬局等は無料
	給食費(幼稚園)	有料	有料	有料
	給食費(小学校)	有料	有料	有料
	給食費(中学校)	有料	有料	有料
	ファミリーサポートセンター	有料(減免あり) 【独自】兄弟で同時に利用する場合、2人目からは半額	有料(助成あり) 【独自】まっえファミリーサポートセンターを兄弟姉妹で同時に利用した場合の2人目以降の利用料が半額	有料(減免あり) 【独自】1人のおねがい会員が複数の子どもを預ける場合は、2人目から半額
	病児保育	市内1か所 有料2,000円(利用負担金、食費実費分)	市内5か所 有料1,000円+食事・おやつ代 ※病児保育支援システム「あずかるこちゃん」にて予約可能	1か所 有料1,000円+軽食
	通学支援	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助。公共機関定期料金全額、自転車通学月額500円など	<松江市学生通学支援補助金> 小中学生に対して定期券購入費が1か月あたり1万円を超える場合、超えた部分を全額補助	県内の高校へ通学する定期券代を一部補助
	学習支援 (公営塾等)	—	—	—
	子育て環境整備	—	—	—
	移住定住 (住宅取得に関する補助を中心にピックアップ)	—	<子育て世帯定住団地取得支援> 市が指定する郊外の住宅団地(八雲町富谷グリーンタウン、島根町マリンタウン加賀)にお住まいになる方の住宅購入を支援します。U/Iタウンの方には補助額の上乗せがあります。 <子育て世帯定住促進宅地貸付制度> 市が指定する住宅団地の宅地を、子育て世帯に20年間普通賃貸与します。(契約保証金あり) 期間満了後は、その宅地を無償譲渡します。	若者の住宅取得(新築・購入)を応援します(39歳以下、補助率2/100、上限40万円)
	仕事	就職支援 (市町独自)	—	—
結婚・妊娠・出産	※国の「出産・子育て応援交付金事業」と出産育児一時金は除く	—	—	

※医療費の欄について、慢性呼吸器疾患等16疾患に対する補助は除く

イ) 出雲市、益田市、安来市

■他自治体の取組調査 2023年8月現在

調査自治体		出雲市	益田市	安来市	
基礎情報 (国設標準)		人口(R2)	172,775人	45,003人	37,062人
分野	子育て・教育	保育料(0～2歳) ※副食費含む	有料	有料 【独自】第3子以降の3歳未満児保育料無料	有料 【独自】一定所得以下の世帯の第1子(2歳児まで)・第2子(2歳児まで)・所得に関わらず第3子以降(2歳児まで)の保育料軽減
		保育料(3～5歳)			
		副食費(3～5歳)	有料	有料 【独自】所得階層に関わらず、第2子以降免除	有料 【独自】第3子以降免除
		医療費(未就学児) 自己負担額	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円
		医療費(小学生) 自己負担額	入院:1割負担(2,000円) 入院外(通院・薬局等):1割負担(1,000円) ※薬局等は無料	入院:1割負担(2,000円) 入院外(通院・薬局等):1割負担(1,000円) ※薬局等は無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円
		医療費(中学生) 自己負担額	入院:1割負担(2,000円) 入院外(通院・薬局等):1割負担(1,000円) ※薬局等は無料	入院:1割負担(2,000円) 入院外(通院・薬局等):1割負担(1,000円) ※薬局等は無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円
		医療費(高校生) 自己負担額	入院:助成対象外 入院外(通院・薬局等):助成対象外	入院:助成対象外 入院外(通院・薬局等):助成対象外	入院:助成対象外 入院外(通院・薬局等):助成対象外
		給食費(幼稚園)	有料	有料	有料
		給食費(小学校)	有料	有料	有料
		給食費(中学校)	有料	有料	有料
	ファミリーサポートセンター	有料(減免あり) 【独自】兄弟で同時に利用する場合、2人目からは半額	有料(減免あり) 【独自】兄弟で同時に利用する場合、2人目からは半額	有料	
	病児保育	病児保育3か所:有料1,000円(軽食込み) 病後児保育3か所:有料500円(軽食込み)	1か所 有料1,500円(食事・おやつ代込み) ※病児保育支援システム「あずかるこちゃん」にて予約可能	1か所 有料1,600円+食事代300円	
	通学支援	なし	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助	
	学習支援 (公営塾等)	—	—	—	
子育て環境整備	—	—	○プレイルーム(子育て支援センター内) プレイルームがあり、親子で自由に遊べます ○つどいの広場(親子交流センター内) プレイルームや屋外スペースがあり、親子が気軽につどい、自由に遊べる場です。また、子育てに関する相談に応じています		
移住定住	住宅支援等 (住宅取得に関する補助を中心にピクアップ)	新婚世帯、子育て世帯及び孫ターン世帯に該当するUターン者や、自然豊かな地域(過疎・辺り地域、およびそれに類すると指定した地域)へのUターン者が、出雲市へ定住する目的で住宅を建築、購入(中古住宅を含む)する場合、予算の範囲内で固定資産税・都市計画税相当額の助成金	—		
仕事	就職支援 (市助独自)	学生・Uターン者就職支援窓口あり	—		
結婚・妊娠・出産	出産祝い金 ※国の「出産・子育て応援交付金事業」と出産育児一時金は除く	—	—		

※医療費の欄について、慢性呼吸器疾患等16疾患に



ウ) 江津市、雲南市、奥出雲町

■他自治体の取組調査 2023年8月現在

調査自治体		江津市	雲南市	奥出雲町
基礎情報 (国設標準)	人口(R2)	22,959人	36,007人	11,849人
子育て・教育	保育料(0～2歳) ※副食費含む	有料 【独自】第3子以降の3歳未満児保育料無料	有料 【独自】保育料引き下げ、第3子以降の3歳未満児保育料無料、土曜日を利用しない場合減免、多子世帯に対する減額	無料
	保育料(3～5歳)			
	副食費(3～5歳)	有料	無料	無料
	医療費(未就学児) 自己負担額	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	無料
	医療費(小学生) 自己負担額	入院:1割負担(2,000円) 入院外(通院・薬局等):1割負担(1,000円) ※薬局等は無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	無料
	医療費(中学生) 自己負担額	入院:1割負担(2,000円) 入院外(通院・薬局等):1割負担(1,000円) ※薬局等は無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	無料
	医療費(高校生) 自己負担額	入院:1割負担(2,000円) 入院外(通院・薬局等):1割負担(1,000円) ※薬局等は無料	入院:助成対象外 入院外(通院・薬局等):助成対象外	無料
	給食費(幼稚園)	有料	有料	有料
	給食費(小学校)	有料	有料	有料
	給食費(中学校)	有料	有料	有料
	ファミリーサポートセンター	有料 2人目半額	有料 2人目半額	有料(減免あり) 2人目半額
	病児保育	1か所 有料2,000円(飲食料含む)	4か所 有料1,500円(食事・おやつ代込み)	1か所 有料2,000円+軽食費
	通学支援	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助	雲南市遠距離生徒等市民バス通学補助金:幼小中の通学に要する市民バスの使用料を補助	遠距離通学をする中学生の通学に要する費用を補助
	学習支援 (公営塾等)	—	「どようびなえいご」 休日開催。100人以上の小学生が登録。市内各小中高校には「学校・地域・民間・行政」を繋ぐコーディネーターを配置	—
子育て環境整備	—	—	—	
移住定住	住宅支援等 (住宅取得に関する補助を中心にピクアップ)	—	子育て世帯の宅地購入を支援(最大100万円)	ふるさと留学奨励金 町外から転入学する児童・生徒たちを育てている親族等に交付します。 児童、生徒一人あたり10万円。
仕事	就職支援 (市助独自)	—	—	—
結婚・妊娠・出産	出産祝い金 ※国の「出産・子育て応援交付金事業」と出産育児一時金は除く	—	—	奥出雲まちごと子育て応援金:誕生時と小学校入学時に町内で使用できる商品券10万円分

※医療費の欄について、慢性呼吸器疾患等16疾患に

エ) 飯南町、川本町、美郷町

■他自治体の取組調査 2023年8月現在

基礎情報 (国設調査)		調査自治体	飯南町	川本町	美郷町
		人口(R2)	4,577人	3,248人	4,355人
分野	子育て・教育	保育料(0~2歳) ※副食費含む	無料	無料	無料
		保育料(3~5歳)			
		副食費(3~5歳)	無料	無料	無料
		医療費(未就学児) 自己負担額	無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円
		医療費(小学生) 自己負担額	無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円
		医療費(中学生) 自己負担額	無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円
		医療費(高校生) 自己負担額	無料	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:助成対象外 入院外(通院・薬局等):助成対象外
		給食費(幼稚園)	不明	無料	無料
		給食費(小学校)	有料	有料	有料
		給食費(中学校)	有料	有料	有料
	ファミリーサポートセンター	有料	設置無し	設置無し	
	病児保育	設置無し	設置無し	病後児保育2か所 有料1日1,000円、1日1,500円	
	通学支援	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助	
	学習支援 (公営塾等)	公営塾学習支援館 学校と連携しながら、きめ細やかな学習支援とキャリア教育の実施。高校生は月5,000円等。	英検助成 英語検定を受験する費用の全額を補助。 (同一級同年度内1回)	○公営塾の開設 中学生に向けて町内2か所で週2回、受講料無料の塾を開設。 ○美郷町ふるさと定住奨学金(給付型) 卒業後、美郷町への定住を条件に高校・大学・専門学校等の修学期間、奨学金を給付します。	
子育て環境整備	—	—	—		
移住定住	住宅支援等 (住宅取得に関する補助を中心にピクアップ)	町内に在住者またはUターンする人および45歳以下の単身または夫婦若しくはそれらと同居する世帯に対して、住宅の新築に係る経費(100万円)、土地造成費(50万円)	定住される方が、町内に新築または中古住宅を購入される場合に、建築費や購入費用の一部を助成(最大200万円)	美郷町内に新築住宅を建設する際の費用の一部を補助(①転入(転入から2年以内):20万 ②子供1人につき20万(第3子まで) ※第4子:30万、第5子以降:50万 ③3世代同居:20万 ④建築の町内事業者利用:50万)	
仕事	就職支援 (市助独自)	—	—	—	
結婚・妊娠・出産	出産祝い金 ※国の「出産・子育て応援交付金事業」と出産育児一時金は除く	新生児出産祝い金:第1~2子は10万円、第3子以降は50万円	—	—	

※医療費の欄について、慢性呼吸器疾患等16疾患に

才) 邑南町、津和野町、吉賀町

■他自治体の取組調査 2023年8月現在

基礎情報 (国設標準)		調査自治体		邑南町	津和野町	吉賀町
		人口(R2)		10,163人	6,875人	6,077人
分野	子育て・教育	保育料(0~2歳) ※副食費含む	有料 【独自】第2子以降の3歳未満児保育料無料、第1子保育料も、各家庭の状況に応じ軽減	無料	無料	無料 【独自】更に一時保育(月12日以内)も無料
		保育料(3~5歳)				
		副食費(3~5歳)	無料	無料	無料	
		医療費(未就学児) 自己負担額	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	
		医療費(小学生) 自己負担額	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	
		医療費(中学生) 自己負担額	入院:助成対象外 入院外(通院・薬局等):助成対象外	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	
		医療費(高校生) 自己負担額	入院:助成対象外 入院外(通院・薬局等):助成対象外	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	入院:0円 入院外(通院・薬局等):0円	
		給食費(幼稚園)	不明	無料	無料	
		給食費(小学校)	有料	有料	無料	
		給食費(中学校)	有料	有料	無料	
	ファミリーサポートセンター	有料	有料	設置無し		
	病児保育	2か所 有料2,000円+食事・おやつ代	病後児保育1か所 無料(定員2名/日)	病後児保育3か所 有料1,200円(食事・おやつ代込み)		
	通学支援	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助 公共交通機関を利用して矢上高校へ通学する場合の通学費を全額補助	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助 JRを利用して、津和野高等学校へ通学する生徒の通学費等に対して補助	遠距離通学をする小中学生の通学に要する費用を補助		
	学習支援 (公営塾等)	邑南町奨学金 卒業後1年以内に町内に住み5年経過した場合、返還免除となる奨学金制度があります。その他、医療福祉従事者確保奨学金、農林業後継者育成奨学金もあります。	—	—		
子育て環境整備	—	—	—			
移住定住	住宅支援等 (住宅取得に関する補助を中心にピックアップ)	—	若者定住向賃貸住宅家賃助成 若者定住促進のため、該当の住宅に居住する者にたいして家賃を助成	Uターン子育て支援事業補助金 中学生以下の子ども同様に転入したUターン世帯に対して補助金を交付します。 《補助金額》転入してから1年経過後に10万円、2年経過後に10万円、3年経過後に10万円		
仕事	就職支援 (市助独自)	—	—	—		
結婚・妊娠・出産	出産祝い金 ※国の「出産・子育て応援交付金事業」と出産育児一時金は除く	—	出産祝い金:第1~2子は5万円分、第3子以降は15万円分のJ-Coin Pay	—		

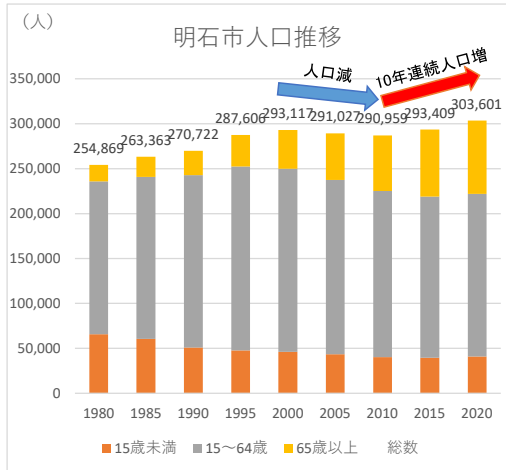
※医療費の欄について、慢性呼吸器疾患等16疾患に

### (3) 先進的取組を行っている自治体の調査結果

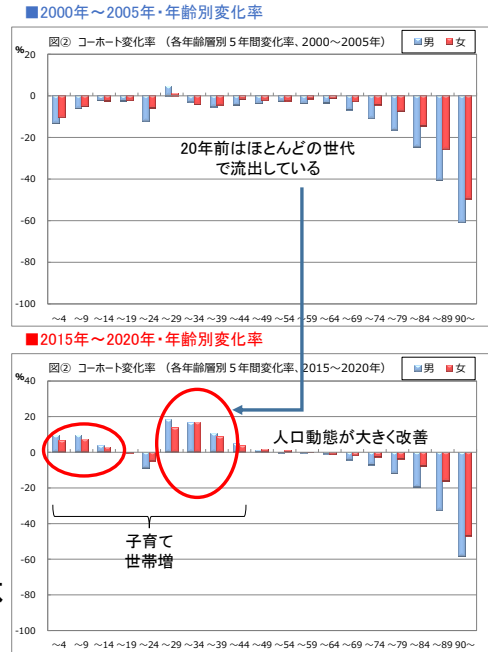
以下、兵庫県明石市と大分県豊後高田市の事例を紹介する。なお、以下の事例については、調査検討委員会内において紹介したパワーポイントスライドより掲載する。

#### ア) 兵庫県明石市

10年連続で人口が増加。子どもだけでなく、全ての人にやさしいまちづくりを進めている明石市。



- ・10年連続人口増
- ・子育て世帯の転入が増加
- ・兵庫県内でも唯一人口増の自治体



5つの無償化と寄り添い支援を始めとした取組により成果を出してきた明石市。

#### ■ 5つの無償化

- ・18歳までの医療費無料
- ・第2子以降の保育料無料
- ・中学校の給食費無料
- ・公共施設の遊び場無料
- ・おむつ定期便(0歳児見守り訪問)無料

#### ■ 寄り添い支援

- ・養育費の立替払い
- ・子ども食堂を全ての小学校区で開催
- ・戸籍のない子どもの支援
- ・優生保護法被害者支援
- ・犯罪被害者支援・更生支援

#### ■ その他支援

- ・本のまち
- ・同性パートナーシップ制度の導入(ファミリーシップ制度)

#### ■ 住民自らの取組

- ・商店街のバリアフリー化



**幼保無償化でも 明石市の子育て支援はまだまだお得!**

【幼保無償化後の保育料 認可保育所利用のイメージ】

	0	1	2	3	4	5(歳)
独自費用なし	無料	無料	無料	無料	無料	無料
1人目	無料	無料	無料	無料	無料	無料
2人目	無料	無料	無料	無料	無料	無料

【例え】3歳と0歳の子がいる家庭の場合  
子どもたちが保育所を卒業するまでで  
**約99万円お得**になります。

保育料 約67万円  
副食費 約32万円

※市内で最も多い保育料の階層(9階層)で試算。明石市の独自支援なしの場合との比較

おかず代 **新たに副食費が無料に**

2019年に始まった国の幼児教育・保育の無償化で、家計への負担はより軽くなりましたが、新たに3～5歳の副食費(おかず代)が保護者の負担となりました。そこで、明石市ではこの副食費も無料にします。

10月以降 国の幼児教育・保育の無償化  
1～5歳の保育料が無料に  
副食費は自己負担に  
※副食費 約4000円  
※今まで支払っていた保育料

明石市は **副食費も無料に**

※三市民税非課税世帯は無料

**親子交流スペース「ハレハレ」**

**明石市民は 利用無料!**

市内在住 小学生以下の子どもと保護者

天文科学館

市内外問わず 中学生以下 (観覧料)

明石海浜プール

市内外問わず 高校生以下 (観覧料)

文化博物館

広報あかし No.1342 10月1日発行

10月半ば親月報

広がっています! あなたの近くに里親さん

4年間23家庭が生まれました

市内には46世帯の里親さんがいます

あなたもはじめてみませんか? 「ときどき、里親」

3日程度から / ショートステイ里親

2-3日 長期里親

子どもたちが安心して暮らせるもう一つの家庭

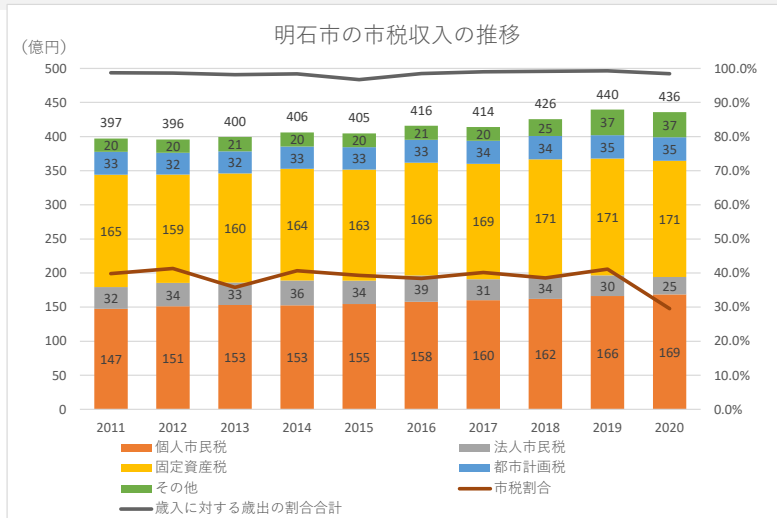
今、明石市が熱い! ~関西圏子育て世代流入NO1  
~市役所がスペース借り上げ、多世代で市民パワー結集



## 「子ども食堂」から高齢者の「集いの場」まで多彩な活動



- 子育て世代流入  
● 土地・建物価値上昇  
● 個人市民税及び固定資産税などの市税は増加。

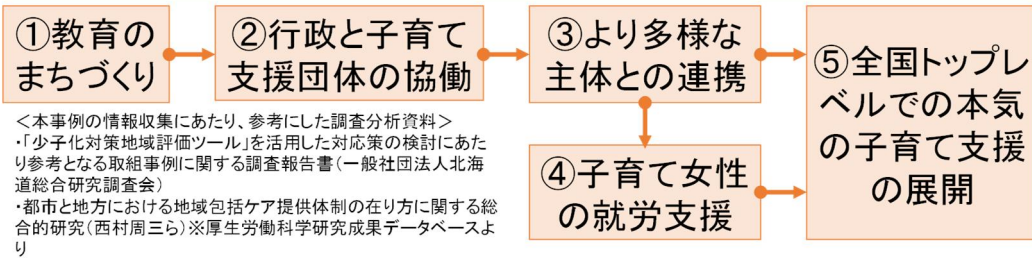


※個人市民税：普通会計の状況シートより個人均等割と所得割の計  
 ※法人市民税：普通会計の状況シートより法人均等割と法人税割の計  
 ※その他：普通会計シートより軽自動車税、市町村たばこ税、鉱産税、特別土地保有税、法定外普通税、入湯税、事業所税、水利利益税等、法定外目的税、旧法による税の計  
 ※市税割合：普通会計の状況シートより歳入の決算額に対する地方税の合計の割合

イ) 大分県豊後高田市



～子育て支援に関する豊後高田市の歩み～



①教育のまちづくり

2002年より、主に小中学生を対象とした無料の公営塾を開設。2022年からは、高校生も対象に展開。

地域が支える市営“塾”で県内TOPクラスの教育水準

### 学びの21世紀塾

自治体が塾を運営する全国でも珍しい取組みです。  
 5歳児から中学生を対象に、  
 放課後や土曜日利用できる様々な講座を準備しています。  
 教員OBや地域の方が講師を務めます。

**受講料 無料**

#### いきいき寺子屋活動

- ◎土曜日の学習をサポート（毎月第1・3・5土曜日）  
国語、社会、算数、数学、理科、英語、英会話、そろばん、合奏などを学ぶ寺子屋講座とタブレット講座
- ◎放課後児童クラブ学習支援  
小学校1・2・3年生向け宿題等の学習支援
- ◎放課後学習支援  
小学校4・5・6年生向け宿題等の学習支援
- ◎水曜日の放課後学習をサポート  
中学校1・2年生向け復習等の学習支援
- ◎夏・冬休みに高校受験対策をサポート  
中学3年生向け集中講座（7日間短期集中）
- ◎幼児期の学習もサポート  
英会話教室・文字教室・体育教室

#### わくわく体験活動

毎月第2・4土曜日

- ◎日頃できない活動を通じた体験学習  
週末子ども育成講座（ものづくり教室、料理教室、環境美化教室、ドミノ崩し、スポーツレクリエーションなど）
- ◎地域の伝統文化に親しむ  
歌舞伎、太鼓、踊り、茶道などの文化体験講座
- ◎自然体験活動を通じた「生きる力」の育成  
宿泊体験“ステップアップスクール”を実施。自然の中での共同生活体験で、自主性や協調性を養います。

市内全小・中学校へタブレット端末を整備  
 教育のまちづくりのさらなる推進に向けて、市内全小・中学校にタブレット端末と無線LANを整備。

寺子屋活動は、教員免許を持っている方々で、有償ボランティアとして各講座を担当。

体験活動は、地区公民館を単位として、公民館活動に携わる方々が協力。地域の大人と子どもとの交流にも繋がっている。

市内唯一の高校に通う高校生も対象に。

## ②行政と子育て支援団体の協働

市民自ら立ち上げた組織による子育て支援活動。

**NPO法人アンジュ・ママン**

当初、市が直営していた地域子育て支援拠点「花っころーむ」について、そこで働く**嘱託職員**や**利用する母親たちが花っころーむに恩返ししたいとの気持ちから任意組織「アンジュ・ママン」**を立ち上げ、運営委託を受ける。その後組織は、2010年にNPO法人格を取得。

市から受託している主な事業

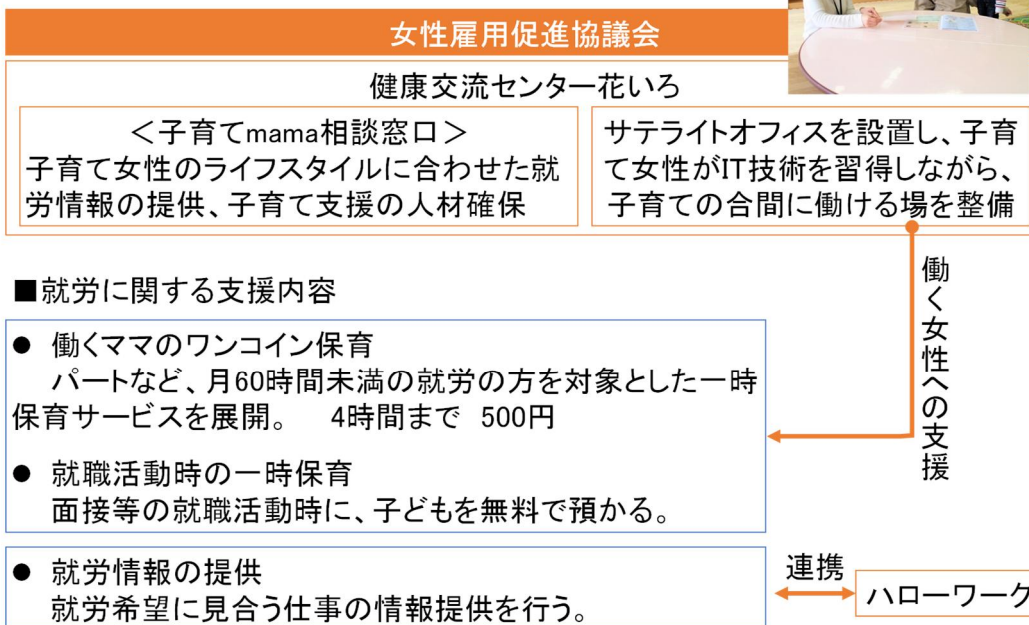
- 子育て応援団「おひさまひろば」
- ファミリーサポートセンター事業
- 一時預かり事業
- 病後児保育事業
- ママ家事サポート事業
- 「子育てmama相談窓口」でのコーディネート事業

等

## ③より多様な主体との連携

### ④子育て女性の就労支援

子育て女性の事情に合わせた相談窓口と支援体制を構築。





## ⑤全国トップレベルでの本気の子育て支援の展開

2018年度以降、数々の経済的な支援策を打ち出す。

### 保育料・幼稚園授業料無料!

市内保育園の保育料、市内幼稚園の授業料は無料です。

### 保育園、幼稚園、小・中学校の給食費無料!

市内在住で市内保育園、市内幼稚園、小学校、中学校に通う子どもたちの給食費は無料です。



### 子育て支援拠点「花っこルーム」

小さなお子さんのいる方が誰でも気軽に利用できる室内公園のような場所です。それぞれ特色あるひろばになっています。その日の気分でお出かけしてみませんか?

【開所時間】9時～16時 ※ルームによって開所日時が異なります。



### 子育て用品レンタル

お子様連れでにぎわう中央公園に隣接する「おひさまひろば」では、購入すると高価なチャイルドシートや、短期間しか使わないベビーカーなど、買うのはちょっと...という子育てグッズを低価格でお貸しします。

【月額料金】チャイルドシート800円、ベビーカー200円など

### 開設「子ども家庭総合支援拠点」「子育て世代包括支援センター」

妊婦から出産、子育て期まで切れ目なく、すべての家庭に寄り添う総合的な相談・支援のワンストップ窓口です。

【場所】健康交流センター花いろ

### 子育て応援誕生祝い金

お子さんの誕生に対し、祝い金を贈呈します。

【祝い金の額】第1子・第2子 10万円  
第3子 50万円  
第4子以降 100万円

※第3子以降は別荘として第1回ずつ支給します。



### 病児保育「なないろ」 病後児保育「天使のやりかご」

病気療養中または回復期のお子さんを仕事等の都合により、家庭で看護できない場合、一時的にお子さんを預かります。

【対象】生後6か月～小学校6年生

【利用料】5時間 750円～



### 高校生までの医療費無料!

【対象】0歳～高校3年生までのお子さん

【助成】入院・通院・歯科・調剤にかかる医療費(保険適用分)

### 妊産婦の医療費無料!

【対象】母子手帳の交付を受けた妊産婦さん

【助成】妊婦届出日の翌月から出産日の翌日までの入院・通院・歯科・調剤にかかる医療費(保険適用分)

### ママ家事サポート

産前産後のママの家事・育児を「家事サガさん」がお手伝いします。食事の準備・後片付け、掃除、洗濯、離乳食、沐浴補助など。

【利用料】1回 2時間 500円(1人5回まで利用可能)

### 充実の保育サービス

保育園や花っこルーム・島田・香々地で、一時的にお子さんを預かります。

◆一時預かり 4時間 800円～

(病児やリフレッシュ等)

◆ワンコイン保育 4時間 500円～

(月6時間未満の短期就労)

◆休日保育 1日 1,500円～

(日曜・祝日の就労等)

◆就職活動時の一時保育 4時間まで無料



## ⑤全国トップレベルでの本気の子育て支援の展開

2018年度以降、数々の経済的な支援策を打ち出す。

### 保育料・幼稚園授業料無料!

市内保育園の保育料、市内幼稚園の授業料は無料です。

### 保育園、幼稚園、小・中学校の給食費無料!

市内在住で市内保育園、市内幼稚園、小学校、中学校に通う子どもたちの給食費は無料です。



### 子育て支援拠点「花っこルーム」

小さなお子さんのいる方が誰でも気軽に利用できる室内公園のような場所です。それぞれ特色あるひろばになっています。その日の気分でお出かけしてみませんか?

【開所時間】9時～16時 ※ルームによって開所日時が異なります。



### 子育て用品レンタル

お子様連れでにぎわう中央公園に隣接する「おひさまひろば」では、購入すると高価なチャイルドシートや、短期間しか使わないベビーカーなど、買うのはちょっと...という子育てグッズを低価格でお貸しします。

【月額料金】チャイルドシート800円、ベビーカー200円など

### 開設「子ども家庭総合支援拠点」「子育て世代包括支援センター」

妊婦から出産、子育て期まで切れ目なく、すべての家庭に寄り添う総合的な相談・支援のワンストップ窓口です。

【場所】健康交流センター花いろ

### 子育て応援誕生祝い金

お子さんの誕生に対し、祝い金を贈呈します。

【祝い金の額】第1子・第2子 10万円  
第3子 50万円  
第4子以降 100万円

※第3子以降は別荘として第1回ずつ支給します。



### 病児保育「なないろ」 病後児保育「天使のやりかご」

病気療養中または回復期のお子さんを仕事等の都合により、家庭で看護できない場合、一時的にお子さんを預かります。

【対象】生後6か月～小学校6年生

【利用料】5時間 750円～



### 高校生までの医療費無料!

【対象】0歳～高校3年生までのお子さん

【助成】入院・通院・歯科・調剤にかかる医療費(保険適用分)

### 妊産婦の医療費無料!

【対象】母子手帳の交付を受けた妊産婦さん

【助成】妊婦届出日の翌月から出産日の翌日までの入院・通院・歯科・調剤にかかる医療費(保険適用分)

### ママ家事サポート

産前産後のママの家事・育児を「家事サガさん」がお手伝いします。食事の準備・後片付け、掃除、洗濯、離乳食、沐浴補助など。

【利用料】1回 2時間 500円(1人5回まで利用可能)

### 充実の保育サービス

保育園や花っこルーム・島田・香々地で、一時的にお子さんを預かります。

◆一時預かり 4時間 800円～

(病児やリフレッシュ等)

◆ワンコイン保育 4時間 500円～

(月6時間未満の短期就労)

◆休日保育 1日 1,500円～

(日曜・祝日の就労等)

◆就職活動時の一時保育 4時間まで無料



## VI 現行施策の効果検証と要因分析

### (1) 目的

大田市の人口減少に関する各事業について、その達成状況や事務事業の実施状況等を的確に把握し、今後の施策立案につなげるために施策の効果検証を行った。

### (2) 効果検証結果

① 定住促進事業		移住定住・結婚に関する施策 〈まちづくり定住課〉
事業概要	市外在住者への大田の魅力情報発信やUターン者・若者を対象とした、移住定住を促進するための支援等を行う。	
事業費(千円)	22,433	
事業内容	①定住フェア等PR事業 ②25歳同窓会開催事業 ③おおだに住もう移住者定住支援事業 ④空き家バンク登録制度 ⑤産業体験者定着支援事業 ⑥婚活事業 ⑦わくわく大田生活実現支援事業	
事業の現状等	<b>R3</b> ①定住相談会(オンライン)への参加 3回相談者 6人、定住支援ガイドブックの印刷(刷新) 1,000部、定住サイト「どがどが」の保守管理、ふるさと情報誌の発行回数年2回(9月、3月)発送希望者数: 1,957人 ②25歳同窓会を開催 ③改修9件、家財処分1件 ④令和3年度登録件数31戸、成約者31戸56人 ⑤5件 ⑥2団体 ⑦1件	<b>R4</b> ①定住相談会(オンライン)への参加 3回相談者 9人、定住支援ガイドブックの印刷(刷新) 1,000部、定住サイト「どがどが」の保守管理、ふるさと情報誌の発行回数年2回(9月、3月)発送希望者数: 1,310人 ②25歳同窓会を開催 ③改修10件、家財処分2件 ④令和4年度登録件数31戸、成約者11戸21人 ⑤R3末で新規廃止 ⑥2団体 ⑦0件
事業の達成状況	順調とはいえない	
成果と課題	移住・定住(Uターン者数)に関する実績については、近年の新型コロナウイルスの影響もあり右肩下がり。近年、移住相談会等はリモート開催となり大田市への相談件数も少ない状況。全国的に「移住」の機運が高まっている中、数多ある地域の中から「大田市」を選んでいただくための「大田市の認知度」はまだ低い。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	アフターコロナにより再開される「対面」での相談会へ、積極的に参加。相談会に訪れる方を増やしていくために、YouTube動画などSNSを活用し、幅広い世代(特に若い世代)に、大田市への移住生活をイメージしてもらえるような情報発信を行っていく必要がある。	
他事業との連携の可能性(重複している国・県の事業)	(国) 地方創生推進交付金、 (県) わくわく島根生活実現支援事業費補助金 (県) しまね定住推進住宅整備支援事業	

②

おおだ縁結びサポート事業

<まちづくり定住課>

事業概要	結婚を希望する独身男女が成婚を実現できる環境づくりを行うため、結婚支援相談員（1名）を配置して、新たな出会いの場を創出する。	
事業費（千円）	2,610	
事業内容	①出会いの場の創出 ②相談・マッチング支援	
事業の現状等	R3 ①情報発信、出張相談会 ②無料相談会4回、マッチング会議4回、出張無料結婚相談会5回、有料会員制結婚支援システム（しまこ）の閲覧回数 88回	R4 ①情報発信、出張相談会 ②無料相談会4回、マッチング会議4回、出張無料結婚相談会5回、有料会員制結婚支援システム（しまこ）の閲覧回数 88回
事業の達成状況	やや順調	
成果と課題	無料相談会などを、地域で実施することで、幅広い地域で相談が可能となり、登録者数も増えている。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	人口減少に関して、重要な取り組みである結婚支援に関して、結婚を望む市民の出会いの場の創出について、はぴこ会の活動支援などについて、県や財団と連携して取り組む。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	（県）市町村結婚支援強化交付金	

③

企業誘致推進事業

<産業企画課>

事業概要	産業振興と雇用促進を図るため、企業誘致活動や誘致企業のフォローアップ、IT人材の誘致等を行う。	
事業費（千円）	3,108	
事業内容	-	
事業の現状等	R3 -	R4 -
事業の達成状況	順調	
成果と課題	波根地区工業団地に出雲村田製作所が進出したことをはじめとして、平成30年度以降立地認定企業8社において、令和8年度までに約160人の雇用増加が計画されている。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	立地認定企業の雇用増加を確実にものにするため、引き続きフォローアップに取り組む必要がある。また、IT企業をはじめとした企業訪問を積極的におこない、引き続き新たな企業誘致に取り組む必要がある。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	企業立地促進助成金（県）	

④

【R5新規】特定地域づくり事業協同組合支援事業（産業企画課）

事業概要	市内外の若者等に安定的な雇用と一定の給与水準を確保した職場環境を提供し、地域産業の担い手を確保するための取り組みを行う協同組合を支援する。	
事業費（千円）	12,011	
事業内容	人口減少に伴う経済の衰退や地域産業における担い手不足など、地域が抱える諸課題の解決に資することを目的に、地域内外から若者を呼び込むことで、定住人口の拡大、安定した雇用確保による地域経済の活性化などの好循環を生み出し、持続可能な地域に向けて取り組みを行う協同組合に対して支援するもの。	
事業の現状等	R3 -	R4 -
事業の達成状況	順調	
成果と課題	令和4年度は創立支援を終え、実際の活動は今年度開始したばかりである。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	国の制度設計に基づき、経済的な支援を継続していくほか、運営状況についても、適宜状況を確認し、島根県と情報共有したうえで必要な助言をする。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	島根県、まちづくり定住課、産業企画課、観光振興課と情報共有を行う。	

⑤

## 持続可能なまちづくり推進事業

＜まちづくり定住課＞

事業概要	持続可能なまちの形成を目指し、「生活機能の確保」「生活交通の確保」「地域産業の振興」「定住対策の促進」などの地域の取り組みを支援する。	
事業費（千円）	28,733	
事業内容	①地域力向上プログラム事業 ②地域力向上プログラム事業審査会開催経費等 ③まちづくりセンター活動等交付金（27まちセン） ④持続可能なまちづくり推進事業総合交付金 ⑤「小さな拠点づくり」モデル地区推進事業	
事業の現状等	R3 ①6事業 ④3地区	R4 ①3事業 ④5地区
事業の達成状況	順調とはいえない	
成果と課題	地域における「持続可能なまちづくり」は継続して実施されているが、令和3年度以降新たな地域運営組織は設立されていない。 引き続き、設立された地域運営組織など地域の活動支援に努めるとともに、地域の機運醸成に努める。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	多様化する地域課題解決を効果的に進めるため、主体的にかつ地域特性を持った地域計画を策定し、それに基づき地域活動に取り組むことが重要との方針に基づき、引き続き「持続可能なまちづくり」に取り組む必要があるため。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	（国）地方創生推進交付金 （公財）協働のまちづくり事業助成金 （県）小さな拠点づくりモデル地区推進事業補助金	

⑥

## 地域おこし協力隊員等受入れ事業

&lt;まちづくり定住課&gt;

事業概要	地域課題の解決や地域の活性化を図るため、地域おこし協力隊員（1名）及び集落支援員（6名）を配置する。	
事業費（千円）	18,358	
事業内容	R5.4現在 ①集落支援員（5名） ②地域おこし協力隊員（0名）	
事業の現状等	R3	R4
	①4名 ②1名	①5名 ②0名
事業の達成状況	やや順調	
成果と課題	①「地域運営組織」の設立・計画づくり・活動支援のため配置する集落支援員については、増えている。 ②地域おこし協力隊員については、任期後の地域でのポジションと活用が課題。	
取組の今後の方向性	拡大	
理由	「持続可能なまちづくり」を進めるうえで集落支援員の力は必要であるため。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	(国) 地域おこし協力隊制度 (国) 集落支援員制度	

⑦

## 産業人財育成・確保促進事業

&lt;産業企画課&gt;

事業概要	市内の企業情報の発信や高校生等を対象としたキャリア教育の支援、Uターン就職を促進するイベントや学生アンバサダーの委嘱等を実施する。	
事業費（千円）	1,670	
事業内容	①おおだで働こう！人財育成事業（WEBサイト運営、企業紹介動画作成） ②Uターン就職促進事業 ③人材確保対策事業負担金	
事業の現状等	R3	R4
	①18,547回のWEBサイト閲覧、動画作成 ②新成人へチラシ配布 ③研修や情報交換会開催	—
事業の達成状況	やや順調	
成果と課題	コロナの影響で就職イベント等の開催が困難な時期もあったが、令和4年度に大田市出身の大学生を「おおだ学生アンバサダー」に委嘱し、就職イベントを開催した。 有効求人倍率が高い状況が続き、市内事業所の人手不足は深刻な問題となっている。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	高校生の市内就職やUターン就職の促進に向けて、引き続き、おおだ学生アンバサダーや島根県の就職アドバイザー、関係機関とともに取組みを進める必要があるため。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	—	

⑧

## 【R5新規】サテライトオフィス等開設支援事業 産業企画課&gt;

事業概要	企業誘致及び創業環境の向上を図るため、民間主体の市外企業向けサテライトオフィス等の設置を支援し、入居・利用を促進する。	
事業費（千円）	57,000	
事業内容	①おおだで働こう！人財育成事業（WEBサイト運営、企業紹介動画作成） ②UIターン就職促進事業 ③人材確保対策事業負担金	
事業の現状等	R3	R4
	－	－
事業の達成状況	順調	
成果と課題	令和5年度開始事業で、成果と課題として特筆すべき点はない	
取組の今後の方向性	拡大	
理由	－	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	－	

⑨

## 自営漁業者自立給付金交付事業

&lt;農林水産課&gt;

事業概要	沿岸自営漁業者を目指す新規就業者に対して、就業時から最大5年間の自立給付金を交付し、漁業への定着を支援する。	
事業費（千円）	2,400	
事業内容	自営漁業者自立給付金	
事業の現状等	R3	R4
	2人	－
事業の達成状況	順調	
成果と課題	漁獲量が安定しない新規沿岸漁業者の自立に向けた支援となっている。5年後の目標水揚げ額（概ね年720万円以上）の達成と所得向上への契機となっている。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	引き続き、担い手の確保をしていく必要があるため。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	島根県と連携して実施している。（県費あり、情報の共有、連携して支援）	

10

## 新規就農者総合対策事業

＜農林水産課＞

事業概要	Uターン者等の就農支援、次世代を担う新規就農者の支援、認定新規就農者の経営に必要な施設等の整備支援により、地域農業の担い手を確保・育成することを目的とする。	
事業費（千円）	26,527	
事業内容	①半農半X支援事業（定住定着助成事業） ②農業次世代人材投資事業 ③農業人材投資事業（経営開始型） ④新規就農総合支援事業	
事業の現状等	R3	R4
	①1人 ②5経営体 ③1人 ④3人	－
事業の達成状況	順調	
成果と課題	認定新規就農者や半農半X実践者への支援により、農業経営の確立及び就農者の定着を図ることができた。認定新規就農者の確保及び中核的担い手へ発展していくため、牛舎改良・素牛導入、農業機械導入等の支援など、関係機関が連携しサポートする必要がある。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	引き続き、担い手の確保をしていく必要があるため。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	島根県と連携して実施している。（県費あり、情報の共有、連携して支援）	

11

## 【R5新規】大田市関係人口拡大事業

＜まちづくり定住課＞

事業概要	地域おこし協力隊制度を活用し、大田市の情報発信、既存移住者の収入確保、来訪者の満足度向上の機会を創出し、関係人口の拡大を図る。	
事業費（千円）	12,400	
事業内容	①関係人口創出	
事業の現状等	R3	R4
	－	①来訪者：39名（R4.11～R5.3） ②情報発信：302件
事業の達成状況	順調	
成果と課題	来訪に関しては順調に申し込みがあり、情報発信を行っている。滞在者の滞在期間の短縮と、他受け入れ地域の拡大に関する予算的・人的な課題	
取組の今後の方向性	維持	
理由	R5年度については引き続き、昨年度と同様に取り組む。併せて新しい地域での取り組みとなるよう、財源の確保等に努める。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	（国）地域おこし協力隊制度	

12

母子健康包括支援事業

<子ども家庭支援課>

事業概要	母子保健法に基づき、母子健康包括支援センターを設置し、妊産婦や乳幼児等に対して切れ目のない相談及び支援を行う。	
事業費（千円）	4,386	
事業内容	①母子健康包括支援センター「おおだっこ」を主として、妊娠・出産・子育てにわたる総合相談および支援を実施 ②産後の早期支援に繋げるため、妊娠後期に妊婦の心身の健康状態、心配事の把握等を行う「妊娠期からの支援強化」を新規に実施	
事業の現状等	R3	R4
	①支援プラン作成87人 ②電話実施116人	-
事業の達成状況	順調	
成果と課題	妊娠届出時から専用相談室にて面接を実施し、信頼関係をつくり、妊娠、出産、子育てと切れ目ない支援を行うことができた。また医療機関とも定期的に連絡会を開催し、情報共有し連携して支援できる体制づくりを行うことができた。出生数は減少しているが、核家族化等の影響もあり育児負担感の強い保護者は増加している。今後も一人一人に寄り添った支援を行っていく。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	妊娠、出産、子育てをすこやかに過ごせるよう、医療機関と連携し、切れ目ない支援を実施するため、事業の維持が必要。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	各市町で実施 <重層的支援体制整備事業交付金> 利用者支援事業 補助率 国2/3、1/6	

13

こんにちは赤ちゃん訪問事業

<子ども家庭支援課>

事業概要	育児に関する悩みや不安の相談、家庭環境の把握を行い、子育ての孤立化を防ぎ適切な育児環境の確保を図る。生後2~4ヶ月の乳児のいる家庭を訪問。	
事業費（千円）	537	
事業内容	-	
事業の現状等	R3	R4
	・出生数176人（令和3年2月～令和4年1月生） ・訪問対象者数156人 ・訪問件数92件	-
事業の達成状況	やや順調	
成果と課題	地域の訪問員が、生後2ヶ月～4か月の児がいる家庭に訪問し、心配ごとなどの確認や子育て支援情報の提供を行っている。コロナ禍では、訪問件数が減少したが、電話訪問に切り替える等、保護者が孤立しないように努めた。近年、外国人も増加しており、言葉の壁がある中、地域とのつながりをどのようにもっていくかが課題。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	子育ての孤立化防止のため、地域の訪問員と連携し、子育て支援を行っていくため、事業の維持が必要。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	各市町で実施 <子ども・子育て支援交付金> 補助率 国1/3、県1/3	



14

乳幼児等医療給付事業

<市民課>

事業概要	子育て世帯の経済的負担の軽減と、安心して必要な医療が受けられるよう、小学校就学前の乳幼児について、医療費の自己負担額を無料とする医療費助成を行う。	
事業費（千円）	43,344	
事業内容	乳幼児の医療費を助成する。	
事業の現状等	R3	R4
	対象者 1,455人 給付件数 32,436件 給付額 39,590千円	-
事業の達成状況	順調	
成果と課題	就学前までの乳幼児にかかる医療費を無料に抑えることで、子育て世帯の負担軽減が図れている。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	支援の内容が県内でも充実しているため、拡大するものではない	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	-	

15

保育所特別事業

<子ども保育課>

事業概要	地域の特性に応じた保育活動を推進し、児童福祉の増進、地域住民の福祉の向上を図る。	
事業費（千円）	60,149	
事業内容	保育園の「一時預かり」「延長保育」「病児・病後児保育」「地域活動」に対して補助を行う。	
事業の現状等	R3	R4
	13園に対して補助 ・一時 延4047人 ・延長 延2301人 ・病児 延227人	11園に対して補助 一時 延べ6,507人 延長 延べ2,552人 病児 延べ200人
事業の達成状況	順調	
成果と課題	各園が保育士や看護師等を十分に配置して預かれる体制を確保したり、今後も体制を維持できるかが課題である。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	引き続き地域の特性に応じた保育活動を行っていくため、現状維持とする	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	-	

16

## 障がい児保育事業補助

&lt;子ども保育課&gt;

事業概要	障がい児等の受け入れに取り組む私立保育所等に対して保育士加配の経費を補助し、障がい児等の保育の推進を図る。	
事業費（千円）	10,368	
事業内容	障がい児保育を実施する保育園への補助を行う。	
事業の現状等	R3	R4
	5園に対して補助 ・年延97人	5施設 日人数9名
事業の達成状況	順調	
成果と課題	待機児童もおらず、障がい児等の受け入れもできているため、取組は順調であるといえる。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	引き続き障がい児等の保育の推進を図っていく	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	-	

17

## 母子保健活動事業

&lt;子ども家庭支援課&gt;

事業概要	母子保健法に基づく、健康教育、健康相談及び母子保健推進員等による家庭訪問を実施する。
事業費（千円）	6,347
事業内容	①乳幼児健康教室 ②1歳6か月児健診フォロー教室 ③乳幼児相談 ④母子手帳交付及び健康相談 ⑤思春期・赤ちゃん交流学習事業 ⑥妊産婦・乳幼児訪問指導 ⑦母子保健推進員活動事業 ⑧一般不妊治療費助成事業
事業の現状等	R3
	①育児サークル等健康教室・相談：実施回数9回参加保護者延人数29人、離乳食教室：実施回数8回参加延組数70組、歯科保健教室：実施回数4回参加保護者延人数26人、授乳サロンごくごく：実施回数10回参加延人数31人（新規20人）、育児教室：実施回数4回参加延組数50組 ②9回、29組 ③10回、126人 ④妊産婦530人、乳児445人、幼児303人、その他27人 ⑤3校で実施 ⑥妊産婦205件、未熟児・乳児185件、幼児72件 ⑦委嘱29人活動件数（妊婦96件、乳幼児288件）、育児サークル47回、参加延組数225組 ⑧助成件数43件

～次頁に続く～

18

## 産後ケア事業

&lt;子ども家庭支援課&gt;

事業概要	産後に精神的不調のある母親を早期に把握し、心理的な安定を図り、健やかな育児ができるよう支援を行う。	
事業費（千円）	1,391	
事業内容	①産後検診 ②産後ケア事業（産後4ヵ月までの産婦を対象に助産師が精神的サポート）	
事業の現状等	R3	R4
	①2週間健診152人受診、1ヶ月健診148人受診 ②通所型28人参加、訪問型8人参加	—
事業の達成状況	順調	
成果と課題	コロナ禍で、利用者減となったが、産後に支援が必要な母親を早期に把握し、支援することで、育児負担の軽減を図ることができた。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	市内には開業助産院もなく、専門的な産後ケアを受けれる場が他にないため、事業の維持が必要。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	各市町で実施 <母子保健衛生費国庫補助金> 補助率 国1/2 <島根県妊娠・出産・子育て支援推進事業費補助金> 補助率 県1/4	

19

## 【R5新規】出産・子育て応援事業

&lt;子ども家庭支援課&gt;

事業概要	全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、継続的な面談及び情報発信等によりニーズに応じた支援に繋ぐ伴走型相談支援と、出産・子育てへの経済的支援を一体的に実施する。	
事業費（千円）	11,331	
事業内容	—	
事業の現状等	R3	R4
	—	—
事業の達成状況	順調	
成果と課題	R5.2月より開始。伴走型相談支援と経済的支援を一体的に実施している。個別支援の充実とともに、子育てアプリおだっこ等での子育て支援情報の周知にも力を入れていく。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	妊娠、出産、子育てに対し、切れ目ない支援を実施していくため、事業の維持が必要。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	各市町で実施 <出産・子育て応援交付金> 補助率 R4年度...国2/3、県1/6 ※システム導入費は国10/10 R5年度...伴走型相談支援 国1/2、県1/4 経済的支援 国2/3、県1/6	

20

## 【R5新規】こども家庭総合支援拠点施設整備事業 &lt;子ども保育課&gt;

事業概要	全ての妊婦・子育て世帯がいつでも安心して相談できる支援体制を構築するため、認定こども園・子育て支援センター・保健センター等を集約した「総合支援拠点」の整備に向けた基本計画を策定する。	
事業費（千円）	18,357	
事業内容	①幼保連携型認定こども園（教育・保育の実施）【機能統合】 ②基幹子育て支援センター（子育て家庭の幅広い相談・支援の実践）【新設】 ③こども家庭センター（母子保健と子育て家庭の個別の相談・支援）【機能統合】 ④市保健センター【移転】	
事業の現状等	R3 -	R4 整備基本構想（案）作成
事業の達成状況	やや順調	
成果と課題	整備基本構想に基づいて、整備基本計画を立てていく。機能及び実施する事業・組織体制・建築面積・事業費等を検討していく。	
取組の今後の方向性	拡大	
理由	本庁移転計画と同時に進めていく。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	-	

21

## 【R5事業再編】不妊・不育症治療バックアップ事業 &lt;子ども家庭支援課&gt;

事業概要	不妊・不育症のため子どもを持つことが困難な夫婦に対し、経済的負担の軽減と治療機会の拡大を図るため、治療費の一部を助成する。	
事業費（千円）	3,000	
事業内容	-	
事業の現状等	R3 -	R4 -
事業の達成状況	順調	
成果と課題	R4～R5年度にかけて助成対象の治療や助成額を拡大して実施。保険適用になった後も高額な治療費に対し、経済的支援を行うことができた。事業の対象者が把握しにくい状況があるため、事業の周知に力を入れていく。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	不妊治療が保険適用になった後も、高額な治療費の自己負担は継続している。不妊治療受診者は精神的、経済的負担を抱えている。子どもを望む夫婦が、不妊治療を継続できるような事業の維持が必要。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	<しまね・結婚子育て市町村交付金> 不妊治療費助成には、県の助成もあり、各市町の助成も様々で制度がわかりにくい現状あり。県に窓口の一本化を要望している。	

22

## 地域子育て応援事業

&lt;子ども保育課&gt;

事業概要	地域子育て支援センター事業やファミリーサポートセンター事業、心身障がい児ミニ療育活動（めだか教室）等により、地域の子育て支援機能の充実を図り、子どもの健やかな育ちを総合的に支援する。	
事業費（千円）	11,996	
事業内容	①心身障がい児ミニ療育活動事業 ②ファミリーサポートセンター事業 ③子育て支援事業 ④こんにちは赤ちゃん絵本事業 ⑤地域子育て支援センター事業 ⑥長久児童公園排水工事	
事業の現状等	R3	R4
	①年間延利用41人 ②年間延利用284人 ③2団体 ④年間延利用2,861人（3施設） ⑤191人へ配布	①年間延利用46人 ②年間延利用317人 ③2団体 ④年間延利用2,415人（3施設） ⑤124人へ配布
事業の達成状況	やや順調	
成果と課題	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、近年の利用者は伸び悩んでいるものの、それぞれの事業の取り組みは順調である。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	それぞれの事業は継続していく必要がある。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	-	

23

## 山村留学推進事業

&lt;山村留学センター&gt;

事業概要	山村留学センターにおいて、長期・短期の山村留学事業、SNSを活用した山村留学の魅力化事業等を実施する。	
事業費（千円）	38,004	
事業内容	-	
事業の現状等	R3	R4
	・長期留学生15人（小学生3人、中学生12人） ・受入農家6軒（年間103泊）	-
事業の達成状況	-	
成果と課題	定員に達していない。 卒園生のほとんどが出身地の高校に進学するなど定住に結びついていない。 施設維持費や運営費の財源確保が必要。	
取組の今後の方向性	-	
理由	「維持」に向けては、効果的な情報発信で定員確保を図るほか、学校課題の解消に繋がるような機能を持たせることも検討。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	-	

24

## 子ども医療費助成事業

&lt;市民課&gt;

事業概要	子育て世帯の経済的負担の軽減と、安心して必要な医療が受けられるよう、義務教育期間の児童生徒について、医療費の自己負担額を無料とする医療費助成を行う。	
事業費（千円）	47,001	
事業内容	児童・生徒の医療費を助成する。	
事業の現状等	R3	R4
	対象者 2,364人 給付件数 18,768件 給付額 42,261千円	—
事業の達成状況	順調	
成果と課題	小・中学生の医療費を無料に抑えることで、子育て世帯の負担軽減が図れている。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	現在のところ維持である。拡大するとすれば、対象を高校生まで拡大するかどうかになる（試算で年2000万円程度増額）	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	—	

25

## 学校・家庭・地域の連携による教育支援事業

&lt;社会教育課&gt;

事業概要	未来を担う子どもたちを健やかに育むため、学校・家庭・地域住民が連携し、様々な地域学校協働活動（学校支援、放課後支援、家庭教育支援）を行う。	
事業費（千円）	2,283	
事業内容	①地域学校協働本部事業 ②放課後子ども総合プラン推進事業 ③家庭教育支援事業	
事業の現状等	R3	R4
	①ボランティア実人数473人 ②毎日型4教室、イベント型7教室、安全管理員延1,003人 ③8回実施、85人参加	—
事業の達成状況	—	
成果と課題	①専任コーディネーターの配置で、学校と地域の繋がりが深まり、地域全体で子育てをする意識が醸成された。地域の大人が学校の環境整備や授業の補助等の形で、学校を支援する輪が広がっている。 ②子ども教室という安心な居場所の確保と体験活動により、豊かな人間性を育てているが、児童減少や児童クラブへの移行等により、教室数は年々減少（R3:11箇所）。 ③健康増進課が実施している育児教室と連携し、教室の中に親学講座を盛り込むなど家庭教育支援の機会を拡大。保護者同士の交流にも繋がっている。	
取組の今後の方向性	—	
理由	②については、図らずも縮小傾向にある。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	・放課後児童クラブとの調整（子ども保育課） ・育児教室との連携（健康増進課）	

26

## 放課後児童健全育成事業

&lt;子ども保育課&gt;

事業概要	両親共働き等で昼間家庭に保護者のいない児童に対し、豊かで安全な放課後における生活の確保を図るため、児童クラブ運営費補助を行う。	
事業費（千円）	145,804	
事業内容	13クラブの運営費補助、新設クラブの整備	
事業の現状等	R3	R4
	13クラブでの受け入れ児童総数 416名	14クラブでの受け入れ児童総数 462名
事業の達成状況	やや順調	
成果と課題	児童クラブは令和5年度当初で15クラブが開設しており、受け入れ可能児童数は増加している。ただし、各児童クラブの受入数には差があり、長期休暇中の利用には、児童クラブによっては、定員に達するところもあり、場合によっては、校区外の児童クラブを利用することになる。	
取組の今後の方向性	拡大	
理由	今後も利用者増に向け、いくつかの児童クラブでは定員を増加予定であり、それに伴う施設改修も実施予定。また、今後も両親共働きによる需要増が見込まれ、利用者が増加した際に十分な受け入れ先を確保する必要があるため。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	学校教育、幼児教育とも連携して事業を実施することを検討する。	

27

## 学力・教育力向上プロジェクト事業

&lt;学校教育課&gt;

事業概要	県学力調査への参加、学力向上支援員の配置などの学習整備を行うとともに教員の授業力向上のための研修会を開催する。また、児童生徒の学ぶ意欲を高めるために、本物（専門家）に触れる豊かな体験や、実験・工作などの体験と読書活動を結び付けた「理科読」の実施等、様々な事業を実施することにより、大田市の教育の魅力化を図る。	
事業費（千円）	4573+人件費	
事業内容	①単式・複式を繰り返す学級に学力向上支援員を配置 ②中学3年生を対象に、自主的に学ぶ習慣をつける場を開設（土曜チャレンジ） ③中学1、2年生を対象に、自主的に学ぶ習慣をつける場を開設（放課後学びの場） ④アンケートQUの実施 ⑤教職員の教育力向上を目的とした研修の実施 ⑥調べ学習用図書購入等 ⑦大田市学力育成プロジェクト事業実施（R4から3か年） ⑧本物（専門家）に触れる豊かな体験活動の実施	
事業の現状等	R3	R4
	①2校に3名配置（鳥井小1人、久屋小2人） ②4校で37回開催 延230人が参加 ③4校で55回開催 延360人が参加 ④各校2回ずつ実施 ⑤各種研修会の開催 ⑥各小・中学校分購入	①2校に3名配置（鳥井小2人、久屋小1人） ②4校で47回開催 延344人が参加 ③5校で36回開催 延355人が参加 ④各校2回ずつ実施 ⑤各種研修会の開催 ⑥各小・中学校分購入 ⑦事業アドバイザーによる授業づくり研修会 24回 延650人が参加、学力育成協議会開催4回、外部機関の活用 ⑧市内12小学校、2中学校で延800人が参加（三瓶自然館サヒメル、松江工業高等専門学校、いわみプログラミン少年団、N PO法人ガリレオ工房、島根県立大学等）

27

## 学力・教育力向上プロジェクト事業

&lt;学校教育課&gt;

～続き～

事業の達成状況	順調
成果と課題	児童生徒の学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む「大田市学力育成プラン」の取組により、授業改善の理解は進み、授業改善への意識は高まってきている。 また、「本物（専門家）に触れる豊かな体験」は、児童生徒の学習への興味・関心、追求意欲を高めるうえで有効であった。 今後も、大田市学力育成プラン（「授業改善」「本物（専門家）に触れる豊かな体験」「家庭学習の充実」等）の取組について評価改善しながら児童生徒の学力育成に取り組む。
取組の今後の方向性	拡大
理由	〈授業改善〉 ・能力ベースの授業づくり研修会計画 ・学びの情報発信 ・教員の学べる場の開発・提供 〈本物に触れる豊かな体験〉 ・体験を取り入れた探究的な学びの充実 ・体験と読書活動を結びつける（理科読） ・児童生徒の科学的探究心と言葉を育む 〈家庭学習の充実〉 ・授業と家庭学習をつなぐ取組 ・取組の共有（校内・小中・家庭） 学力育成の取組をより充実させていくために、②土曜チャレンジ、③放課後学びの場の事業を終了し、「理科読」の取組を新たに開始する。
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	県の「しまねの学力育成プロジェクト」事業（R4～R6）と連携しながら進めていく。

28

## 高校コンソーシアム運営支援事業

&lt;学校教育課&gt;

事業概要	市内県立高校の特色ある教育活動を支援し、教育魅力化を図るため、高校コンソーシアム運営マネージャー2名を配置する。	
事業費（千円）	6,283	
事業内容	①総合的な探究の時間における地域体験活動・地域課題解決型学習の実践〔大田高校〕 ②地域みらい留学への参画〔大田高校〕 ③おおだ共育共創ラボ（ダイコウラボ、課外ラボ）の実施〔大田高校〕 ④総合的な探究の時間における各事業の実践〔邇摩高校〕 ⑤道の駅「ごいせ仁摩」との連携〔邇摩高校〕 ⑥高校魅力化コンソーシアムの取組〔大田高校・邇摩高校〕 ⑦学校説明会による生徒募集〔大田高校・邇摩高校〕	
事業の現状等	R3	R4
	①連携調整、運営の補助 ②4回、延べ224人に対して実施 ③計18回 ④石見銀山保全活動等 ⑤特産品開発参加、加工品販売準備 ⑥各校2回 ⑦県内中学3年生への説明会実施	①連携調整、運営の補助 ②3回、延べ100人に対して実施 ③5プロジェクト活動実施 ④石見銀山保全活動等 ⑤販売、レストランメニュー考案、石見神楽部公演 ⑥各校2回 ⑦県内中学3年生への説明会実施

～次頁に続く～



28

## 高校コンソーシアム運営支援事業

&lt;学校教育課&gt;

～続き～

事業の達成状況	順調
成果と課題	各校の高校コンソーシアム運営マネージャーが、それぞれの特色ある教育活動に地域を巻き込んでしっかり関わることにより、学校と地域との繋がりがより一層強化された。市内県立高等学校において、オープンスクールや市外・県外在住者向けの PR、ホームページによる情報発信等、それぞれの学校の特性をいかした生徒確保の取組により、市内中学生、保護者はもとより市外・県外に住む中学生、保護者へ各校の魅力を伝えることができた。 また、各高校魅力化コンソーシアムが設立されたことにより、地域の大人たちが積極的に高校に関わることができる環境が整った。
取組の今後の方向性	維持
理由	ここ数年における実際の市内県立高等学校への市内中学生の進学率は 6割にとどまっており、総合計画で目標として掲げている 7割にどうやったら近づけるか、これまでの取組を充実させることはもとより、別のアプローチも考えていかなければならない。 R5年4月からこれまで各高校1名配置していた高校コンソーシアム運営マネージャー兼高校魅力化コーディネーターの配置ができなかった。これまでどおり地域・学校・行政の繋ぎ役や小中高との連携等は教育委員会が取り組んでいくが、各高校魅力化コンソーシアムが自走していくことができるよう、これまでの取組を切り捨てることなく連携を強化していく。
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	県の教育人づくり推進事業（各高校コンソ申請事業）と連携しながら進めていく。

29

## 特別支援教育体制推進事業

&lt;学校教育課&gt;

事業概要	発達障がいを含む障がいのある幼児・児童・生徒の適切な教育的支援の推進を図る。	
事業費（千円）	715+人件費	
事業内容	①特別支援教育等支援員の配置 ②特別支援学級介助員の配置 ③就学支援委員会の開催 ④特別支援連携協議会の開催及び相談支援事業の充実 ⑤新設される特別支援学級の備品等整備 ⑥新設学級工事 ⑦幼児期通級指導教室設置	
事業の現状等	R3	R4
	①小学校10校 15名 ②小学校3校 3名 ③4回開催 ④協議会1回、相談支援チーム会議4回 ⑤一中、二中、大田西中、五十猛小 ⑥五十猛小	①小学校7校 14名 ②小学校1校 2名 中学校1校2名 ③4回開催 ④協議会1回、相談支援チーム会議2回 ⑤⑥大田小、長久小

～次頁に続く～

29

## 特別支援教育体制推進事業

&lt;学校教育課&gt;

～続き～

事業の達成状況	やや順調
成果と課題	①②の支援員・介助員の配置事業、⑤⑥の設備の整備・工事から、人的・物的環境を整えることにより、障がいのある児童・生徒が地元の学校で教育を受けることができています。また、幼児期通級指導教室が設置されたことにより、市内で早期からの相談や支援を受けることができています。以上のことで、本市において早期からの切れ目ない支援体制づくりの構築に向けて順調であると言える。
取組の今後の方向性	拡大
理由	全ての子どもの進路保障の視点として、医療的ケア児への支援体制を充実させるため、支援体制整備の取組を新たに開始する。
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	国の「切れ目ない支援体制整備充実事業」等との連携や他市町の情報を共有しながら進めていく

30

## 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業

&lt;学校教育課&gt;

事業概要	今後増加が見込まれるが黒人児童生徒の受入促進、日本語と教科の指導支援、生徒支援等を含めた総合的・多面的な指導の支援を行う。	
事業費（千円）	3,965	
事業内容	①日本語指導支援員の配置 ②日本語指導検討委員会の開催	
事業の現状等	R3 -	R4 ①1名配置 ②4回開催
事業の達成状況	やや順調	
成果と課題	①支援員の配置により対象児童生徒が安心して学校生活を送ったり教育を受けたりすることの成果をあげている。また、②により、共生社会の実現に向け、市の指導体制づくりの構築に向けた取組が軌道にのってきている。	
取組の今後の方向性	維持	
理由	日本語指導が必要な児童生徒の増加に伴い、母語支援員、日本語指導員、日本語支援員の人的な配置が必要になる。また、より支援体制を充実させるため、引き続き大田市日本語指導検討委員会を開催し、該当校と連携しながら取り組む。	
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	国の「帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業」と連携しながら進めていく。	

31

## おおだ教育魅力化推進事業

&lt;学校教育課&gt;

事業概要	地域の特色を活かした魅力ある教育を推進するため、幼小中高の連携による教育、地域と連携した学習活動、地域への愛着や誇りを持てるふるさと教育、未来志向の教育、キャリア教育等に取り組む。	
事業費（千円）	8257+人件費	
事業内容	①ふるさと教育推進事業 ②おおだ教育フェスタ活動費 ③社会科見学等交通費補助 ④長期宿泊体験活動費補助金 ⑤職場体験代替事業（大田市中学校キャリア教育推進事業）の実施 ⑥小・中学校ホームページ管理費 ⑦大田市県立高等学校魅力化事業支援補助金 ⑧学校運営協議会運営交付金（コミュニティ・スクール推進事業） ⑨おおだ教育魅力化推進会議開催（R4～） ⑩ふるさと夢未来講演会開催（R3～）	
事業の現状等	R3 ①各校各学年35時間以上のふるさと教育実施 ②講演会、教室、展示コーナー ③市内15小学校 ④市内2小学校 ⑤市内6中学校対象学年2,3年 ⑦交流事業、情報発信 ⑩遼摩高校を会場に中高連携	R4 ①各校各学年35時間以上のふるさと教育実施 ②講演会、取組発表、展示コーナー ③市内16小学校 ④市内1小学校 ⑤市内6中学校対象学年2,3年 ⑨年2回開催 ⑩あすてらすを会場に中高連携

～次頁に続く～

31

## おおだ教育魅力化推進事業

&lt;学校教育課&gt;

～続き～

事業の達成状況	順調
成果と課題	各小・中学校において、その地域の特色をいかしたふるさと教育等の実施や小・中・高校生交流事業として「ふるさと夢未来講演会」を開催した。これらの事業をとおして、児童生徒のふるさとへの愛着や誇りの高まりや、講演後の児童生徒の感想から自分の「夢・未来」について考え方が希望に満ちたものに大きく変化したことが確認できた。 「おおだ教育月間」では、小・中学校の特色ある取組をぎんざんテレビや大田市公式YouTubeにおいて配信、ふるさと教育広報誌を作成し全戸配布を行うなど、多くの市民にふるさと教育に関わる魅力的な取組を広報する機会を創出することができた
取組の今後の方向性	維持
理由	令和3年度末に大田市における「教育魅力化グランドデザイン」が完成した。これまで見えにくかった「教育魅力化」を見える化したことで、各事業において、関係部署と地域、幼・小・中・高がどのような関わり方をし連携を図っていけばよいか手段・方法を示すことができた。今後は「教育魅力化」を市全体の取組として推進していくことができるよう関係部署と引き続き連携し取り組んでいかなければならない。
他事業との連携の可能性（重複している国・県の事業）	－

(3) 本事業において調査対象とした全 31 事業を一覧に落とし込んだ結果

■大田市における結婚・妊娠・出産・子育て・移住定住に関する施策の現状

結婚/移住定住	妊娠	出産	子育て	教育
		0歳～2歳	3歳～5歳	小学生
<p>①【定住促進事業】 ＜まちづくり定住課＞</p> <p>25歳同窓会開催事業</p> <p>産業体験者定着支援事業</p> <p>婚活事業</p> <p>わくわく大田生活実現支援事業</p> <p>定住フェア等PR事業</p> <p>定住相談会 ・定住支援ガイドブック ・定住サイト「どがどが」 ・ふるさと情報誌</p>	<p>妊産婦への支援プラン作成</p>	<p>⑭【母子健康包括支援センター「おただっこ」 母子健康包括支援センター】＜健康増進課＞</p> <p>⑬【こどもには赤ちゃん訪問事業】 ＜健康増進課＞</p>	<p>⑫【山村留学推進事業】 ＜山村留学センター＞</p> <p>・長期留学生 15人 ⇒小学生 3人、中学生 12人 ・受入農家 6軒 ・学生ボランティアの確保が困難 ⇒県へ支援の要請中</p>	<p>⑮【高校コンソーシアム運営支援事業】 ＜学校教育課＞</p> <p>・大田高校(1名)、 ・瀧摩高校(1名)</p>
<p>②【おただ縁結びサポート事業】 ＜まちづくり定住課＞</p> <p>出合いの場の創出</p> <p>相談・マッチング支援 ・無料相談会 ・マッチング会議 ・出展無料結婚相談会 ・有料会員制結婚支援システム</p>	<p>⑭【乳幼児等医療給付事業】 ＜市民課＞</p> <p>⑮【保育所特別事業】 ⑯【障がい児保育事業補助】＜子ども保育課＞</p>	<p>⑰【母子保健活動事業】＜健康増進課＞</p> <p>乳幼児健康教室 ・育児教室</p> <p>母子手帳交付及び健康相談</p> <p>一般不妊治療費助成事業</p> <p>妊産婦・乳幼児訪問指導等</p>	<p>⑲【子ども医療費助成事業】 ＜子ども保育課＞</p> <p>⑳【放課後児童健全育成事業】 ＜子ども保育課＞</p> <p>㉑【学力・教育力向上プロジェクト事業】 ＜学校教育課＞</p>	<p>⑲【特別支援教育体制推進事業】＜学校教育課＞</p> <p>・特別支援教育等支援員の配置</p> <p>⑳【帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業】＜学校教育課＞</p> <p>・日本語指導支援員の配置</p>
<p>③【大田市企業立地奨励金】 ＜産業企画課＞</p> <p>④【特定地域づくり事業協同組合支援事業】(R5 新規)＜政策企画課＞</p> <p>⑤【持続可能なまちづくり推進事業】 ⑥【地域おこし協力隊員等受入れ事業】＜まちづくり定住課＞</p> <p>⑦【産業人財育成・確保促進事業】 Uターン就職促進事業 人材確保対策事業負担金</p> <p>⑧【サテライトオフィス等開設支援事業】(R5 新規)＜産業企画課＞</p> <p>おただで働こう！人財育成事業 ・企業紹介 WEB サイト運営 ・企業紹介動画の作成</p> <p>⑨【自営漁業者自立給付金交付事業】⑩【新規就農者総合対策事業】 ＜農林水産課＞</p> <p>⑪【大田市関係入孤大事業】(R5 新規)＜まちづくり定住課＞</p>	<p>⑱【産後ケア事業】 ＜子ども家庭支援課＞</p> <p>・産後検診</p>	<p>⑱【出産・子育て応援事業】(R5 新規)＜子ども家庭支援課＞</p> <p>⑲【こども家庭総合支援拠点施設整備事業】(R5 新規)＜子ども保育課＞</p> <p>⑲【不妊・不育症治療バックアップ事業】(R5 事業再編)＜子ども保育課＞</p>	<p>⑲【おただ教育魅力化推進事業】＜学校教育課＞</p> <p>ふるさと教育推進事業</p> <p>おただ教育フェスタ活動費</p> <p>社会科見学等交通費補助</p> <p>長期宿泊体験活動費補助</p> <p>職場体験代替事業</p> <p>小・中学校ホームページ管理費</p> <p>大田市県立高等学校魅力化事業支援補助金</p> <p>学校運営協議会運営交付金(コミュニティスクール推進事業)</p>	<p>⑲【おただ教育魅力化推進事業】＜学校教育課＞</p> <p>ふるさと教育推進事業</p> <p>おただ教育フェスタ活動費</p> <p>社会科見学等交通費補助</p> <p>長期宿泊体験活動費補助</p> <p>職場体験代替事業</p> <p>小・中学校ホームページ管理費</p> <p>大田市県立高等学校魅力化事業支援補助金</p> <p>学校運営協議会運営交付金(コミュニティスクール推進事業)</p>

# Ⅶ 【追加調査】世代をつなぎ、今後のより良い地域づくりに向けた一歩を踏み出すための条件整理（世代別期待・求められる行動について）

## （１）目的

大田市に対する中高校生からのアンケート結果には、地域への愛着とともに、将来的な居住の選択における迷いや、都市機能の不足による魅力の欠如といった意見が寄せられている。さらに、若者や子育て世帯が地域活動に参加しづらい（参加していない）状況もヒアリングにより明らかになっている。これは、忙しい子育ての日々の中で地域活動への関与が難しいことに起因していると考えられる。一方で、地域を支える高齢者世代（おじいちゃん、おばあちゃん世代）は地域の歴史文化の知識に富んでいるが、人口減少の進行とともに、この貴重な知識を次世代に継承する必要性が高まっている。このように各世代が直面する課題を明確にし、各世代が地域社会で果たすべき役割を理解することは、相互理解と協力を深める上で不可欠である。この目的のもと、第5回調査検討委員会において、ワークショップを通じて委員からの意見を集約し、地域活動や生活における各世代の役割や期待、世代間のギャップについて検討した。

## （２）検討結果

	子ども世代	若者・親世代	おじいちゃん・おばあちゃん世代
市全体	<p>地域の資源や魅力との触れ合い</p> <p>ふるさと教育などを通して大田市の資源に触れる</p> <p>子ども達に普段できない特別な体験をさせる</p> <p>学校・家でさせてもらえないこと</p> <p>地域の伝統</p> <p>地引き綱</p> <p>・お茶 ・いちご ・海/山遊び</p>	<p>まずは趣味・同年代の交流から</p> <p>きっかけづくり</p> <p>当委員会以外の人と出会っていき</p> <p>趣味でつながる</p> <p>気負わずゆるくはじめる</p> <p>止めずに続ける（負担にならない間隔で例えば2カ月に1回）</p> <p>形は変えてもOK</p> <p>子育て世帯が楽しめる環境づくり</p> <p>里帰り出産の母子に大田の保育・教育・暮らしを楽しんでもらう体験を</p>	<p>無理なく活動する</p> <p>無理強い</p> <p>義務感</p> <p>最初は役割を作らない（リーダー等）</p> <p>子育て世帯が安心して生活できる雰囲気づくり</p> <p>子育ての方法やカタチを否定しない</p>
各地域	<p>地域の中に子ども達が集える場所を取り戻す</p> <p>駄菓子屋</p> <p>子どもが田んぼで遊べる（勝手に）</p> <p>【付箋凡例】</p> <p>アイデア・期待</p> <p>課題・障害</p>	<p>若者世代ならではの地域活動への参画方法と留意点</p> <p>盆の帰省者に盆踊り実行委員会に入ってもらう（ZOOM参加可）</p> <p>NG:地域のであて職にPTAを多用しない</p> <p>若者世代による地域の魅力発信</p> <p>発信・見える化</p> <p>空気感を伝える！！</p> <p>若者視点からの地域資源掘り起こし・活用</p> <p>地域産物を使用した商品開発</p>	<p>地域の伝統文化の継承</p> <p>祭りや花火は絶やすな。</p> <p>祭りの継承</p> <p>大人世代自ら楽しむ姿を次世代にも見せる</p> <p>若者世代や大人世代が楽しんでいる姿をみせる。しかし、そういう行事はなくなっている</p> <p>気球を上げる！大人世代が心に残ることをもう一度やる！</p> <p>自治会の活性化</p> <p>自地域の自治会活動の活性化</p> <p>子どもや若者の柔軟な受け入れ</p> <p>畑の開放（週末に若者が手伝ったり、子どもが収穫にきたり）</p>

子ども 世代	期待	地域の歴史や文化・魅力に親しみ、 <b>地域への愛着心を深め、大田市に可能性を感じてもらおう。</b>
若者・ 親世代	期待	地域を元気づけ、 <b>若い視点で新たな価値を生み出す。</b>
	求められる 行動	地域活動に <b>気軽に参加し、新しい魅力を見つけて共有・発信する。</b> 新しい方法で地域資源を活用する。
おじい ちゃん・ おばあ ちゃん 世代	期待	誰もが安心して生活できる良い雰囲気をつくる。 <b>様々な世代が交流できる機会を増やす。</b>
	求められる 行動	伝統文化を大切にしつつ、地域の様々な活動を思いやりの心で支える。 <b>後世に伝える責任感と受け入れの姿勢を持つ。</b>

## **第4章 人口減少対策に関する施策 の検討**



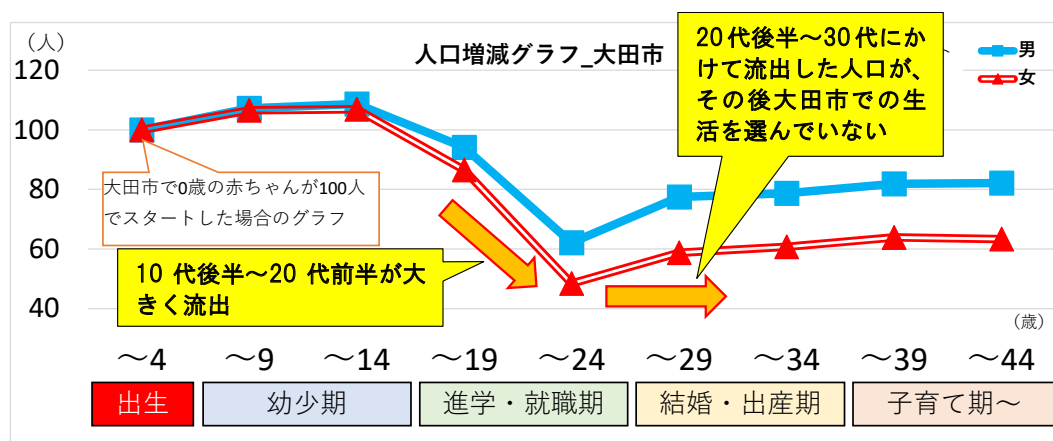


# I 戦略の策定

本項では、人口減少対策に向けた今後の大田市として進むべき方向性について示す。これまでの調査分析結果を踏まえ、次に示す軸と4つの場ごとに現状と課題を整理し、これらを戦略の枠組みとして取りまとめる。

## 1. 戦略を立てる上での前提条件の整理と勘所

人口減少対策に対する戦略を検討する上で最も重要なのは、人口動態を読み解き、弱みとなっている部分にアプローチすることである。冒頭の調査分析では人口動態を5歳階級ごとの状況で示しているが、議論を明確にするために、ライフステージに分けて考えることがより重要である。以下のグラフは、大田市で生まれた100人の子どもが、今後どのように推移していくかを表したものである。「10代後半から20代前半」にかけて人口が減少し、その後「20代後半～30代」にかけて人口が十分に戻っていないことがわかる。つまり、大田市を出た若年世代は、その後のライフステージにおいて大田市に戻っていないことが人口減少につながっているのである。ライフステージでみると、「進学・就職期」「結婚・出産期」「子育て期」における動向が大田市における人口動態を左右するものであることが分かる。



ライフステージをより簡単に捉えると、「進学・就職期」「結婚・出産期」「子育て期」の世代は「若者・親世代」にあたる。そしてそれ以外の世代としては、「子ども世代」「おじいちゃん・おばあちゃん世代」としてまとめることが出来る。

以後、3つの世代区分によって更なる検討を行う。

## 2. ライフステージ軸

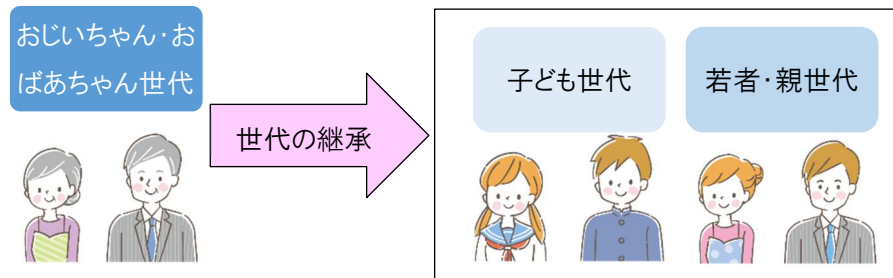
### (1) ライフステージ軸について

「子ども世代」「若者・親世代」「おじいちゃん・おばあちゃん世代」の3つの世代で分析すると、世代間で共有すべきものは、前述の「【追加調査】世代をつなぎ、今後のより良い地域づくりに向けた一歩を踏み出すための条件整理（世代別期待・求められる行動について）」において示されたように、世代の課題あるいは世代間での課題が存在している。そこで共通して見えてきたのは、「世代の継承」と「自己実現性」である。



#### ア) 「世代の継承」について

■ 「おじいちゃん・おばあちゃん世代」⇒「子ども世代」「若者・親世代」に対して文化・資産を受け継ぐものとして、「おじいちゃん・おばあちゃん世代」から、「子ども世代」「若者・親世代」への継承が必要不可欠である。



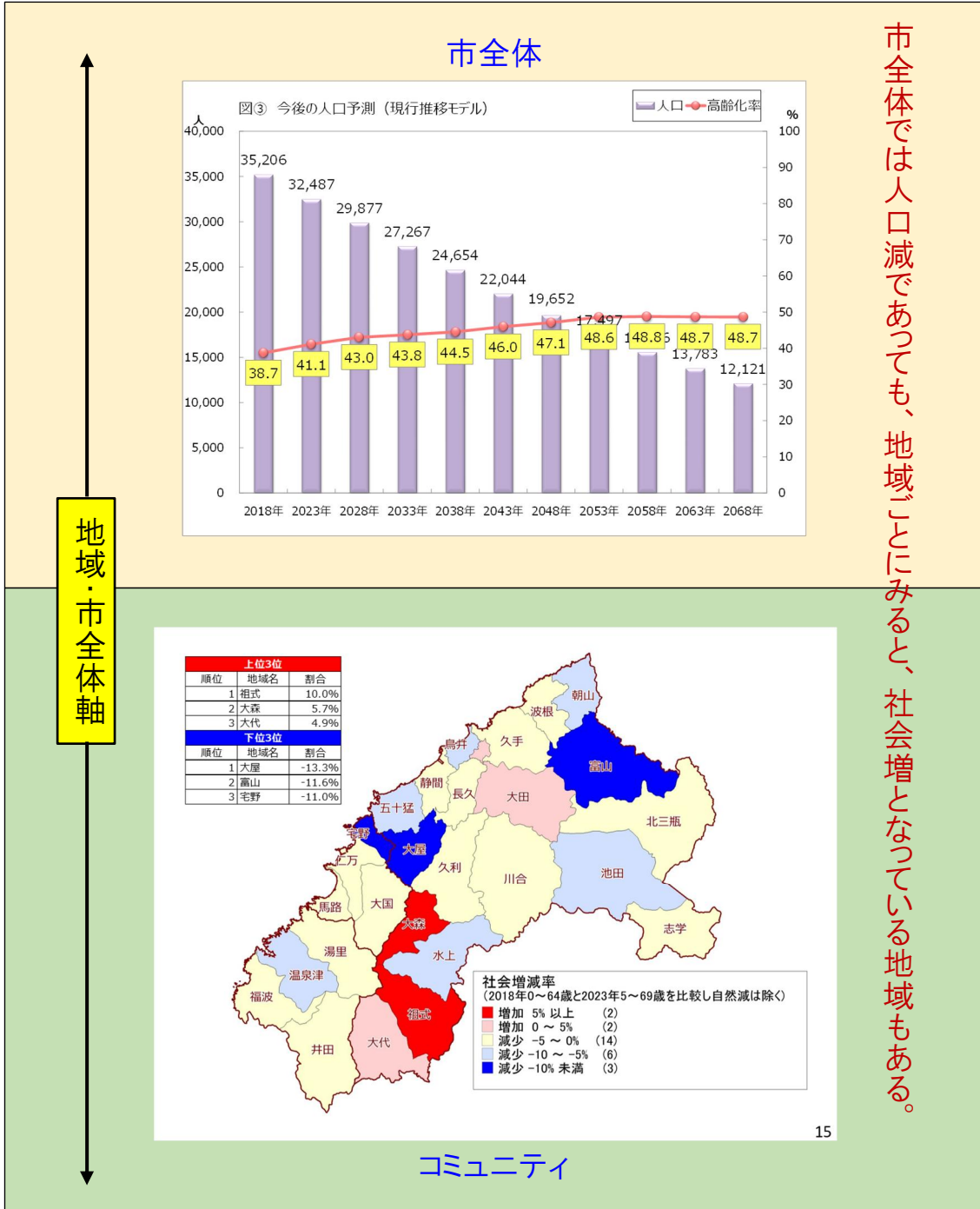
#### イ) 「自己実現性」について

■ 「子ども世代」「若者・親世代」に対してワークショップの意見においても「地域を元気づけ、若い視点で新たな価値を生み出す。地域活動に気軽に参加し、新しい魅力を見つけて共有・発信する。新しい方法で地域資源を活用する。」とあるように、自分のやりたいことを自ら実現していくことが必要不可欠である。



## (2) 地域・市全体軸について

人口減少は大田市で一様に生じているのではなく、地域によって人口動態が良い地区と悪い地区が混在している。このように地域ごとの課題と可能性に応じた取組が必要であるとの示唆が得られている。



### 3. 4つの“場”

#### (1) 4つの場による整理

市民生活を支える「場」は、仕事や日常生活の中心であり、単に場所を指すのではなく、そこでの経験や人々との関わり合いも含む。この観点から、「仕事・生業」と「暮らし」の2つの基本的な要素と地域・市全体軸に基づき、4つの場に分けて現状と課題及び方向性を整理した結果を以下に示す。

#### (2) 要素「仕事・生業」

##### ア) 働く場＝「仕事・生業」×「市全体」

仕事は、その人の居住地寄らず様々な所にある。居住地から時間をかけて別の地区あるいは別の市町に働きに出ていることが、ヒアリング調査結果からも明らかになっている。よって、働く場は、市全体の区分として考えられる。若い人も含め多くの人は地域に紐づいているのではなく、居住地に関係なく仕事先に行っている。

##### イ) 地元の間＝「仕事・生業」×「地域」

一方で、地元の場は、その地域に根差した産業として農林畜産業などがあり、広く地域の伝統や歴史などが紡がれていく場である。ここでの課題は多く、人口減少による担い手の減少や継業が困難であるなどの課題が山積している。

##### ウ) まとめ：「働く場」から「地元の場」へのアプローチ

以上の現状からも、若い人も多く集まっている「働く場」から「地元の場」へ根付いてもらうようなアプローチが必要である。仕事を続けながら、地域とのつながりを育むことが、自分自身の成長につながり、結果的に地域の未来へ希望を育むことが必要である。

#### (3) 要素「暮らし」

##### ア) 居住の間＝「暮らし」×「地域」

何らかの地域コミュニティの中で普段暮らしを営む中で、安心して生活できるような居住の場の形成が求められている。特に子育て世帯であれば、地域ぐるみで子を支え合うような環境が重要である。

##### イ) 交流の間＝「暮らし」×「市全体」

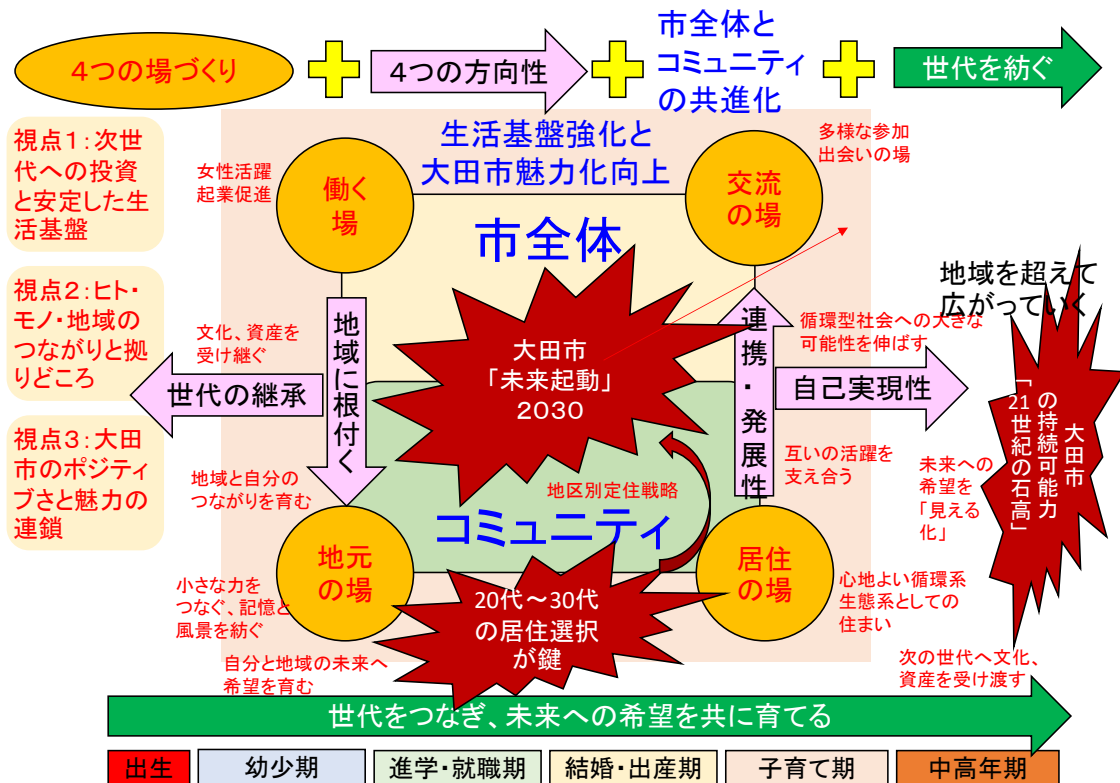
地域の枠を超えた、同世代や多様な世代との出会いと活動への参加を促進する場が望ましい。例えば、育児に関する情報交換を行ったり、独身の若者同士が会える場があるなど、市全体としての交流の場づくりが求められている。

ウ) まとめ：「居住の場」から「交流の場」へのアプローチ

以上の現状からも「居住の場」と「交流の場」それぞれにおいて取組が展開されるのはもちろんであるが、より互いの場の連携や発展を促すような取組が求められている。このアプローチにより、居住する地域内外での交流を活性化させ、市民生活の質の向上と地域社会の活力を高めることが可能になる。地域内での安全で快適な居住環境の提供と、地域外への開かれた交流の場の創出は、市民一人ひとりの生活満足度を高めるとともに、地域全体の魅力を向上させることにつながる。

4. 大田市の戦略

以上のライフステージ軸と4つの場づくり、そしてこれら2つの要素から導かれる4つの方向性を整理した。最終的には、これらが地域・市全体としてコミュニティとして共進化していき、より世代を紡ぐ取組として広がっていくことを目指した枠組みとして以下にまとめた。



## Ⅱ 既存施策のスクラップ&ビルドの検討、提言

### (1) 目的

大田市の人口減少対策を検討する上で、行政施策の意義や目的などの有効性を確認し、時代の変化や社会ニーズに応じたものであるかを評価するために、地元天気図ワークショップという手法を用いて、全31事業についての評価を行った。

なお、スクラップ&ビルドの結果を受けた、具体的な提言については、次項の「Ⅲ具体的な施策検討・提言」に関する内容を参照されたい。

### (2) 実施手法

- ・事業一覧表に掲載している事業について、事業のよし悪しを評価するマークとして「高気圧マーク」「低気圧マーク」、事業に対する認知度を図るものとして「知っているマーク」、分野横断での事業連携が図れているものあるいは連携できると良い事業同士については「前線マーク」を貼り付けた。

- ・人口減少対策に寄与していると思われる事業は「高気圧マーク」 ●
- ・改善する必要がある事業は「低気圧マーク」 ●
- ・知っている事業には「緑色マーク」 ●
- ・既により良い連携が図れていると思われる事業は「温暖前線マーク」 ▲▲▲
- ・連携が弱い（または強めたい）と思われる事業は「寒冷前線マーク」 ▲▲▲

### (3) 結果

#### ア) A班の発表

**A班の発表**

訪問されてもあまり悩みの解決にはならなかった。おばあちゃんが来られた。

・同年代のお母さんと出会える・心配事の気軽な相談

幼小連携研修会が開催され、理科誌についても紹介されたが、子ども保育課管轄の保育所「幼児教育施設」全体で取り組むべき

大事ではあるが、他市と比べると支援は弱い

地域と学校との連携

学生と小さな子どものふれ合いの場がお互いに良いと思う

もっと深堀、もっと強く、より強く

あまり経済的な支援を実感できていない

若者とのつながり

参加者の減少

Uターン者の確保

行政ではない(はびこ)。人々の頑張

結婚につながる出会い

若者(女性)の働き場の創出

関係人口の増加

こんにちは赤ちゃん訪問事業と母子保健活動事業がもっと連携できるのではないかと

もっと深堀、もっと強く、より強く

あまり経済的な支援を実感できていない

学生と小さな子どものふれ合いの場がお互いに良いと思う

イ) B班の発表

### B班の発表

**高** (High Impact) programs include: ①【在宅生活支援】、②【子育て支援】、③【地域子育て支援】、④【子育て支援】、⑤【子育て支援】、⑥【子育て支援】、⑦【子育て支援】、⑧【子育て支援】、⑨【子育て支援】、⑩【子育て支援】、⑪【子育て支援】、⑫【子育て支援】、⑬【子育て支援】、⑭【子育て支援】、⑮【子育て支援】、⑯【子育て支援】、⑰【子育て支援】、⑱【子育て支援】、⑲【子育て支援】、⑳【子育て支援】、㉑【子育て支援】、㉒【子育て支援】、㉓【子育て支援】、㉔【子育て支援】、㉕【子育て支援】、㉖【子育て支援】、㉗【子育て支援】、㉘【子育て支援】、㉙【子育て支援】、㉚【子育て支援】、㉛【子育て支援】、㉜【子育て支援】、㉝【子育て支援】、㉞【子育て支援】、㉟【子育て支援】、㊱【子育て支援】、㊲【子育て支援】、㊳【子育て支援】、㊴【子育て支援】、㊵【子育て支援】、㊶【子育て支援】、㊷【子育て支援】、㊸【子育て支援】、㊹【子育て支援】、㊺【子育て支援】、㊻【子育て支援】、㊼【子育て支援】、㊽【子育て支援】、㊾【子育て支援】、㊿【子育て支援】

**低** (Low Impact) programs include: ①【在宅生活支援】、②【子育て支援】、③【地域子育て支援】、④【子育て支援】、⑤【子育て支援】、⑥【子育て支援】、⑦【子育て支援】、⑧【子育て支援】、⑨【子育て支援】、⑩【子育て支援】、⑪【子育て支援】、⑫【子育て支援】、⑬【子育て支援】、⑭【子育て支援】、⑮【子育て支援】、⑯【子育て支援】、⑰【子育て支援】、⑱【子育て支援】、⑲【子育て支援】、⑳【子育て支援】、㉑【子育て支援】、㉒【子育て支援】、㉓【子育て支援】、㉔【子育て支援】、㉕【子育て支援】、㉖【子育て支援】、㉗【子育て支援】、㉘【子育て支援】、㉙【子育て支援】、㉚【子育て支援】、㉛【子育て支援】、㉜【子育て支援】、㉝【子育て支援】、㉞【子育て支援】、㉟【子育て支援】、㊱【子育て支援】、㊲【子育て支援】、㊳【子育て支援】、㊴【子育て支援】、㊵【子育て支援】、㊶【子育て支援】、㊷【子育て支援】、㊸【子育て支援】、㊹【子育て支援】、㊺【子育て支援】、㊻【子育て支援】、㊼【子育て支援】、㊽【子育て支援】、㊾【子育て支援】、㊿【子育て支援】

**Feedback Comments:**

- 25歳くらいで仕事や結婚につながる
- 運営側として頑張ってくれている制度だと思う。
- 大田で仕事があり子育てでもできて安心だというのがあって初めて結婚したくなる。
- 結婚の意思がある人への支援がある
- 地域おこし協力隊がどこにいるのかわからない
- 知らなかった
- 子どもを望む人が持てるようになる
- 子育てに地域のサポートを必要とするから
- 医療費のサポートがあるから江津市から移住しました!
- 子ども医療費本当に助かっています
- 自分も経験しているし外せない
- 何をやっているのかわからない
- 形式的にやっているように見える
- 参加者の広がりが少ないのでは?
- あまり更新されていないことなので
- 子育てに地域のサポートを必要とするから
- 地域と子育て世帯をつなげる仕組み
- 母性を育むために絶対必要

ウ) C班の発表

### C班の発表

**高** (High Impact) programs include: ①【在宅生活支援】、②【子育て支援】、③【地域子育て支援】、④【子育て支援】、⑤【子育て支援】、⑥【子育て支援】、⑦【子育て支援】、⑧【子育て支援】、⑨【子育て支援】、⑩【子育て支援】、⑪【子育て支援】、⑫【子育て支援】、⑬【子育て支援】、⑭【子育て支援】、⑮【子育て支援】、⑯【子育て支援】、⑰【子育て支援】、⑱【子育て支援】、⑲【子育て支援】、⑳【子育て支援】、㉑【子育て支援】、㉒【子育て支援】、㉓【子育て支援】、㉔【子育て支援】、㉕【子育て支援】、㉖【子育て支援】、㉗【子育て支援】、㉘【子育て支援】、㉙【子育て支援】、㉚【子育て支援】、㉛【子育て支援】、㉜【子育て支援】、㉝【子育て支援】、㉞【子育て支援】、㉟【子育て支援】、㊱【子育て支援】、㊲【子育て支援】、㊳【子育て支援】、㊴【子育て支援】、㊵【子育て支援】、㊶【子育て支援】、㊷【子育て支援】、㊸【子育て支援】、㊹【子育て支援】、㊺【子育て支援】、㊻【子育て支援】、㊼【子育て支援】、㊽【子育て支援】、㊾【子育て支援】、㊿【子育て支援】

**低** (Low Impact) programs include: ①【在宅生活支援】、②【子育て支援】、③【地域子育て支援】、④【子育て支援】、⑤【子育て支援】、⑥【子育て支援】、⑦【子育て支援】、⑧【子育て支援】、⑨【子育て支援】、⑩【子育て支援】、⑪【子育て支援】、⑫【子育て支援】、⑬【子育て支援】、⑭【子育て支援】、⑮【子育て支援】、⑯【子育て支援】、⑰【子育て支援】、⑱【子育て支援】、⑲【子育て支援】、⑳【子育て支援】、㉑【子育て支援】、㉒【子育て支援】、㉓【子育て支援】、㉔【子育て支援】、㉕【子育て支援】、㉖【子育て支援】、㉗【子育て支援】、㉘【子育て支援】、㉙【子育て支援】、㉚【子育て支援】、㉛【子育て支援】、㉜【子育て支援】、㉝【子育て支援】、㉞【子育て支援】、㉟【子育て支援】、㊱【子育て支援】、㊲【子育て支援】、㊳【子育て支援】、㊴【子育て支援】、㊵【子育て支援】、㊶【子育て支援】、㊷【子育て支援】、㊸【子育て支援】、㊹【子育て支援】、㊺【子育て支援】、㊻【子育て支援】、㊼【子育て支援】、㊽【子育て支援】、㊾【子育て支援】、㊿【子育て支援】

**Feedback Comments:**

- 同級生で集う場が少ない中、いい機会だと思う
- 運営に負担はないか? (出会いの場!)
- 実は昔、毎日のように空き家を探していた。
- どこまでマッチングにつながっているか
- 今どきの出会いの機会が提供できている
- 事業名から内容が伝わらない
- 参加された方が、大屋音楽のファンになってました。
- 上記施策以外にここに巡回訪問がもっと知れ渡って充実してほしい
- 産後ケア事業が素晴らしい。私も使いたかった。
- 働く女性が切迫になりやすいこと。経営者みんなに知ってほしい
- 教育と産業系が繋がると、更に良い循環が生まれると思う
- 集まる場所があるということはずっと知っていたが、何となく行きずらかったため、知り合いが居なくとも常にオープンで行きやすい場になって欲しい
- 夫婦関係の危機で妻のケアをしていただいた。
- 子どもが4人いて医療費が無料なのがとってもありがたい
- 同じく5人なので助かる。
- 移住された方がうまく教育とつながって欲しい
- きっと良いことをしてくれているのだから、自分でちゃんと調べないと内容が分からない。子どもを気軽に参加させられることが可能?
- 邇摩高のコーディネーターさんがいなくなったので、児童と生徒さんの関わりが減った。
- 共働きの町に放課後児童クラブが出来て本当に助かっている。子供達も毎日行きたがる素敵な場所です!
- 兄弟がいない、少ない子どもにとって、思春期の時に赤ちゃんを抱っこしたり、一緒に時間を過ごすことが素晴らしいと思った
- HPを見てもどの学校も同じ内容のため特徴が分からない
- 魅力化推進員の配属が今年からなくなった。

エ) 一覧

分野	通し番号	事業名	主管課	事業の細項目	気候				強み (コメント)	弱み・期待 (コメント)	認知数 (緑シールの数をカウント)
					高気圧	低気圧	温暖前線	寒冷前線			
移住定住	①	定住促進事業	まちづくり定住課	25歳同窓会開催事業	3	2	0	0	・若者とのつながり ・25歳くらいで仕事や結婚につながる ・同級生で集まる場が少ない中、いい機会だと思う	・参加者の減少 ・運営に負担はないか? (出会いの場には!)	6
移住定住	①	定住促進事業	まちづくり定住課	定住フェア等PR事業	2	0	1	2	・1・リターン者の確保 ・定住支援ガイドブックで移住相談に来た人に周知しているから ・実は昔、毎日のように空き家を探していた。	・移住された方がうまく教育とつながって欲しい	3
移住定住	⑩	【R5新規】 大田市関係人口拡大事業	まちづくり定住課		2	0	0	3	・関係人口の増加 ・参加された方が、大屋神楽のファンになってました。	・教育と産業系が繋がると、更に良い循環が生まれると思う	2
結婚・妊娠・出産	①	定住促進事業	まちづくり定住課	婚活事業	1	0	0	0	・運営側として頑張ってくれている制度だと思う。	・大田で仕事があり子育てもできて安心だというのがあって初めて結婚したくなる。	4
結婚・妊娠・出産	②	おおだ縁結びサポート事業	まちづくり定住課	全体	2	0	0	0	・行政ではない(はびこ)。人々の縁結び ・結婚につながる出会い ・結婚の意思がある人への支援がある		6
結婚・妊娠・出産	②	おおだ縁結びサポート事業	まちづくり定住課	出会いの場の創出	0	1	0	1		・どこまでマッチングにつながっているか	0
結婚・妊娠・出産	②	おおだ縁結びサポート事業	まちづくり定住課	相談・マッチング支援	1	0	0	0	・今どきの出会いの機会が提供できている		2
結婚・妊娠・出産	⑩	母子保健活動事業	子ども家庭支援課	一般不妊治療費助成事業	1	0	0	0	・子どもを望む人が持てるようになる		2
結婚・妊娠・出産	⑩	産後ケア事業	子ども家庭支援課		1	0	0	0	・産後ケア事業が素晴らしい。私も使いたかった。		3
結婚・妊娠・出産	⑩	【R5新規】 出産・子育て応援事業	子ども家庭支援課		0	1	0	1		・あまり経済的な支援を実感できていない	2
結婚・妊娠・出産	⑪	【R5事業再編】 不妊・不育症治療バックアップ事業	子ども家庭支援課		0	0	0	0			4
結婚・妊娠・出産と子育て・教育	⑩	母子健康包括支援事業	子ども家庭支援課		0	0	0	0			7
結婚・妊娠・出産と子育て・教育	⑩	母子保健活動事業	子ども家庭支援課	母子手帳交付及び健康相談	0	0	0	0			5
結婚・妊娠・出産と子育て・教育	⑩	【R5新規】 こども家庭総合支援拠点施設整備事業	子ども保育課		2	1	0	0		・集まる場所があるということは知っていたが、何となく行きずらかったため、知り合いが居なくとも常にオープンに行きやすい場になって欲しい	2
子育て・教育	⑩	こんにちは赤ちゃん訪問事業	子ども家庭支援課		2	1	0	1	・こんにちは赤ちゃん訪問事業と母子保健活動事業がもっと連携できるのではないかと ・訪問されてもあまり悩み解決にはならなかった。おばあちゃんが来られた。		4
子育て・教育	⑭	乳幼児等医療給付事業	市民課		3	0	1	0	・医療費のサポートがあるから江津市から移住した! ・子ども医療費本当に助かっています ・子どもが4人いて医療費が無料なのがとってもありがたい ・同じく子どもが5人なので助かる		6
子育て・教育	⑯	保育所特別事業	子ども保育課		0	0	1	0			2
子育て・教育	⑯	障がい児保育事業補助	子ども保育課		0	0	0	0			0
子育て・教育	⑰	母子保健活動事業	子ども家庭支援課	乳幼児健康教室	3	1	0	1	・同年代のお母さんとお出える ・心配事の気軽な相談 ・自分も経験しているし外せない	・こんにちは赤ちゃん訪問事業と母子保健活動事業がもっと連携できるのではないかと	4
子育て・教育	⑰	母子保健活動事業	子ども家庭支援課	思春期・赤ちゃん交流学習事業	3	0	0	0	・学生と小さな子どものふれ合いの場がお互いに良いと思う ・母性を育むために絶対必要 ・兄弟がいない、少ない子どもにとって、思春期の時に赤ちゃんを抱っこしたり、一緒の時間を過ごすことが素晴らしいと思った		2
子育て・教育	⑰	母子保健活動事業	子ども家庭支援課	妊産婦・乳幼児訪問指導等	0	0	0	0			3
子育て・教育	⑰	母子保健活動事業	子ども家庭支援課	こんにちは赤ちゃん絵本事業	0	0	0	0			3
子育て・教育	⑳	地域子育て応援事業	子ども保育課	全体	0	0	0	0			2



分野	通し番号	事業名	主管課	事業の細項目	高 低				強み(コメント)	弱み・期待(コメント)	認知数(緑シールの数をカウント)
					高気圧	低気圧	温暖前線	寒冷前線			
子育て・教育	㉒	地域子育て応援事業	子ども保育課	心身障がい児ミニ職業活動事業	0	0	0	0			2
子育て・教育	㉒	地域子育て応援事業	子ども保育課	ファミリーサポートセンター事業	0	0	0	0	・子育てに地域のサポートを必要とするから		3
子育て・教育	㉒	地域子育て応援事業	子ども保育課	地域子育て支援センター事業	0	0	0	0	・地域と子育て世帯をつなげる仕組み		4
子育て・教育	㉒	山村留学推進事業	山村留学センター		1	1	0	0		・きっと良いことをしてくれているのだろうけど、自分でちゃんと調べないと内容が分からない。子どもも気軽に参加させられることが可能?	6
子育て・教育	㉒	子ども医療費助成事業	市民課		2	0	0	0	・子どもが4人で医療費が無料なのがとってもありがたい ・同じく子どもが5人なので助かる		4
子育て・教育	㉒	学校・家庭・地域の連携による教育支援事業	社会教育課		0	0	0	0			2
子育て・教育	㉒	放課後児童健全育成事業	子ども保育課		1	0	0	0	・共働きで町に放課後児童クラブが出来て本当に助かっている。子供達も毎日行きたがる素敵な場所です!		5
子育て・教育	㉒	学力・教育力向上プロジェクト事業	学校教育課		1	2	0	0		・幼小連携研修会が開催され、種別誌についても紹介されたが、子ども保育課管轄の保育所「幼児教育施設」全体で取り組むべき ・形式的にやっているように見える	2
子育て・教育	㉒	高校コンソーシアム運営支援事業	学校教育課		1	2	0	0		・何をやっているのかわからない ・運営者のコーディネーターさんがいなくなったので、児童と生徒さんの関わりが減った。	3
子育て・教育	㉒	特別支援教育体制推進事業	学校教育課		1	0	1	0			4
子育て・教育	㉒	帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業	学校教育課		0	1	0	0		・大事ではあるが、他市と比べると支援は弱い	2
子育て・教育	㉒	おおた教育魅力化推進事業	学校教育課	全体	1	1	0	2	・地域と学校との連携	・参加者の広がりがないのでは? ・移住された方がうまく教育とつながって欲しい ・教育と産業界が繋がると、更に良い循環が生まれると思う	3
子育て・教育	㉒	おおた教育魅力化推進事業	学校教育課	おおた教育フェスタ活動費	0	0	0	0			0
子育て・教育	㉒	おおた教育魅力化推進事業	学校教育課	職場体験代替事業	0	0	0	0			1
子育て・教育	㉒	おおた教育魅力化推進事業	学校教育課	小・中学校ホームページ管理費	0	2	0	0		・あまり更新されていないのこのことなので ・HPを見てどの学校も同じ内容のため特徴が分からない	0
子育て・教育	㉒	おおた教育魅力化推進事業	学校教育課	大田市県立高等学校魅力化事業支援補助金	0	1	0	0		・魅力化推進員の配属が今年からなくなった。	1
子育て・教育	㉒	おおた教育魅力化推進事業	学校教育課	学校運営協議会運営交付金(コミュニティスクール推進事業)	0	0	0	0			1
子育て・教育	その他	にこにこ巡回訪問			0	1	0	0		・もっと知れ渡って充実してほしい	0
仕事	③	企業誘致推進事業	産業企画課		1	0	1	0		・若者(女性)の働き場の創出	0
仕事	④	【R5新規】特定地域づくり事業協同組合支援事業	政策企画課		0	1	0	0		・事業名から内容が伝わらない	3
仕事	⑤	持続可能なまちづくり推進事業	まちづくり定住課		0	0	0	0			1
仕事	⑥	地域おこし協力隊員等受入れ事業	まちづくり定住課		1	1	0	0		・地域おこし協力隊がどこにいるのか分からない	3
仕事	⑦	産業人材育成・確保促進事業	産業企画課	おおたで働こう!人財育成事業	0	3	0	3		・もっと深堀、もっと強く、より強く ・知らなかった ・教育と産業界が繋がると、更に良い循環が生まれると思う	1
仕事	⑧	【R5新規】サテライトオフィス等開設支援事業	産業企画課		1	0	1	4		・教育と産業界が繋がると、更に良い循環が生まれると思う	3
仕事	⑨	自営漁業者自立給付金交付事業	農林水産課		0	0	0	3		・教育と産業界が繋がると、更に良い循環が生まれると思う	0
仕事	⑩	新規就農者総合対策事業	農林水産課		0	0	0	3		・教育と産業界が繋がると、更に良い循環が生まれると思う	0

オ) まとめ

高気圧マークの多かった事業⇒幼少期における事業が注目	
○定住促進事業	まちづくり定住課 25歳同窓会開催事業 (3つ)
○乳幼児等医療給付事業	市民課 (3つ)
○母子保健活動事業	子ども家庭支援課 乳幼児健康教室 (3つ)
○母子保健活動事業	子ども家庭支援課 思春期・赤ちゃん交流学习事業 (3つ)
低気圧マークの多かった事業⇒教育支援に関する事業が注目	
○産業人財育成・確保促進事業	産業企画課 おおだで働こう！人財育成事業 (3つ)
○定住促進事業	まちづくり定住課 25歳同窓会開催事業 (2つ)
○学力・教育力向上プロジェクト事業	学校教育課 (2つ)
○高校コンソーシアム運営支援事業	学校教育課 (2つ)
○おおだ教育魅力化推進事業	学校教育課 小・中学校ホームページ管理費 (2つ)
認知度シールの多かった事業	
○母子健康包括支援事業	子ども家庭支援課 (7つ)
○定住促進事業	まちづくり定住課 25歳同窓会開催事業 (6つ)
○おおだ縁結びサポート事業	まちづくり定住課 全体 (6つ)
○乳幼児等医療給付事業	市民課 (6つ)
○山村留学推進事業	山村留学センター (6つ)
その他	
○“移住定住と子育て”、“子育てと教育”など部門間での連携による合わせ技が必要。	

### Ⅲ 具体的な施策検討・提言

#### 1. 検討の過程

##### (1) 目的

人口減少対策に必要な事業や取組みのアイデア出していただくとともに、市民・事業者と行政の役割分担を検討するために実施する。

##### (2) 実施内容

以下に示す検討の枠組みに沿ったテーマのアクションプランを検討した。

##### 今までの流れと意見交換 <今回まで>

##### <前回まで>

###### データ分析

- ①20歳前後の流出超過、取り戻し弱が最大の人口減少・少子化要因 (特に女性)→中高生～20代への対策
- ②地区別で大きな人口動態の違い →地区別の目標設定や定住戦略が不可欠

###### ヒアリング&ワークショップ

- ①多様な定住チャンネルの重要性 ~移住者が移住者を呼ぶ
- ②多彩な出合いの場づくりの有効性 ~子ども食堂など若者世代が参集
- ③住宅確保が決め手となる ~地域ごとの空き家活用がポイント
- ④子ども・若者が希望を持てるライフプランを描くことが出来る仕掛け

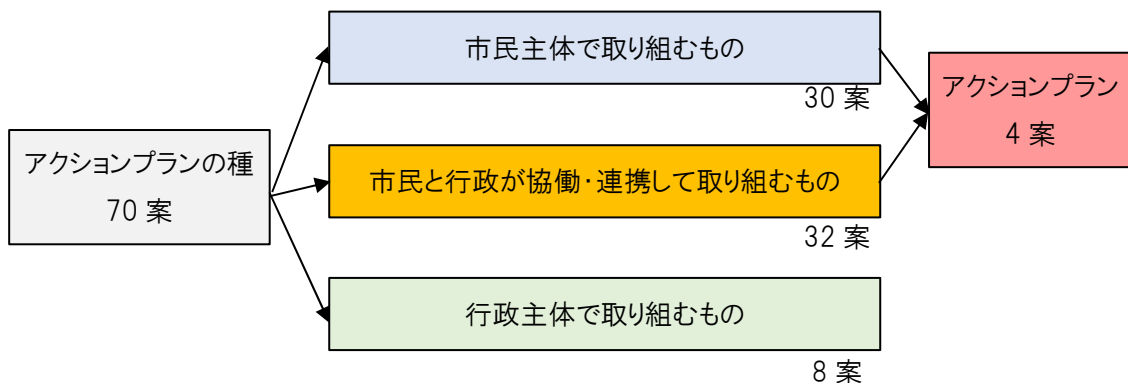
##### アンケート結果

##### <意見交換の枠組み>

見えてきた課題と方向性 「もっと人をつなぐ！」	市全体 ◎市民が主役 ○市民と行政が協働 □行政が条件整備	コミュニティ ◎市民が主役 ○市民と行政が協働 □行政が条件整備
夢の共有 大田市に、「夢」=可能性を感じて、次の世代が帰ってくるために出来ること！	(例えば) ●中高生と若手起業・継業家のリンク塾 ●2050年大田市未来環境ビジョン～先着1万名さま宣言	(例えば) ●中高生×大学生による地元学(魅力再発見) ●地区別定住戦略づくり(地域の魅力と底力を活かすビジョンづくりと定住目標、プラン)
場の創出 こんな楽しみ、出合い、子どもの体験・交流、仕事、支え合い、居住の場所をつくりたい！	(例えば) ●大田市の駅前、こんな広場を！(週末も大田で) ●高校に地産地消食堂	(例えば) ●コミュニティ&子育て広場づくり～地元&子ども食堂の輪
動の連鎖 こんな挑戦や共生の取り組みを起こし、つなげる人を増やしたい！	(例えば) ●起業継業ネットワーク ●定住&子育て支援員配置(施設、各地区)	(例えば) ●地域経営会社で資源活用&課題解決(空き家等) ●地区巡回型マルシェ

##### (3) 検討結果の概要

以下に示すように、最終的に全70のアクションプランの種が完成した。その後、市民主体及び市民行政協働の取組に分類したアクションプランの種の中から4事業を選定し、具体的な内容や取組体制を位置付けたアクションプランを作成した。



## 2. 検討の結果

### (1) 70のアクションプランの種の一覧

通し番号	分野	範囲	テーマ	タイトル	市民主体で取り組むもの	市民と行政が協働・連携して取り組むもの	行政主体で取り組むもの
1	子ども子育て教育	市全体	夢の共有	(仮)空き家を活用した学習場所の提供		●	
2	子ども子育て教育	市全体	夢の共有	市独自の奨学金			●
3	子ども子育て教育	市全体	夢の共有	赤ちゃんふれあい体験		●	
4	子ども子育て教育	市全体	場の創出	ちびっこ広場(屋内)		●	
5	子ども子育て教育	市全体	場の創出	フリースポット	●		
6	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	自治会こども若い者会	●		
7	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	遊びに行こう!		●	
8	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	おはなし会	●		
9	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	子どもたちとゲーム大会	●		
10	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	はなしをしよう!	●		
11	子ども子育て教育	市全体	場の創出	おおだF1会議		●	
12	子ども子育て教育	市全体	場の創出	子育てにやさしいまちづくり		●	
13	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	夏休みのこども食堂	●		
14	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	廃校をレジャー施設へ。			●
15	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	裏山復活プロジェクト		●	
16	子ども子育て教育	市全体	場の創出	子ども・子育て・市民サロン		●	
17	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	(子育てサロン)瑞風ひろば	●		
18	子ども子育て教育	コミュニティ	動の連鎖	神社寺子屋	●		
19	子ども子育て教育	コミュニティ	動の連鎖	親子で学ぶお金の学校	●		
20	子ども子育て教育	市全体	動の連鎖	学ぶ(あそぶ)保育士さん		●	
21	子ども子育て教育	コミュニティ	動の連鎖	チームメタボリクス	●		
22	子ども子育て教育	コミュニティ	動の連鎖	外国の方とキャッチボール		●	
23	子ども子育て教育	市全体	場の創出	高校に地産地消食堂		●	
24	子ども子育て教育	コミュニティ	場の創出	コミュニティ&子育て広場づくり～地元&子ども食堂の輪	●		
25	子ども子育て教育	市全体	動の連鎖	定住&子育て支援員配置			●
26	地域資源	市全体	夢の共有	修学旅行で大田の自慢			●
27	地域資源	コミュニティ	夢の共有	石見神楽教室	●		
28	地域資源	市全体	夢の共有	中高生地域ポイントゲーム		●	
29	地域資源	コミュニティ	夢の共有	地域の写真展	●		
30	地域資源	市全体	場の創出	キャンプ婚活	●		
31	地域資源	市全体	場の創出	マイ農園で野菜を育てよう!		●	
32	地域資源	市全体	場の創出	キャンプ	●		
33	地域資源	市全体	場の創出	自然体験	●		
34	地域資源	市全体	場の創出	郷土料理を食べよう		●	
35	地域資源	市全体	場の創出	月1神楽の日(名称募集:神楽のまちおおだ)	●		

通し番号	分野	範囲	テーマ	タイトル	市民主体で取組むもの	市民と行政が協働・連携して取組むもの	行政主体で取組むもの
36	地域資源	市全体	場の創出	海の広場、山の広場の設置	●		
37	地域資源	コミュニティ	場の創出	レンタル畑、空き地を畑へ		●	
38	地域資源	コミュニティ	場の創出	月1マルシェ まちセン	●		
39	地域資源	市全体	場の創出	地域資源・活用サークル	●		
40	地域資源	市全体	場の創出	不便を楽しむ	●		
41	地域資源	コミュニティ	場の創出	SUP海岸めぐりツアー		●	
42	地域資源	コミュニティ	場の創出	温泉モーニング	●		
43	地域資源	コミュニティ	場の創出	大田市そば茶めぐり	●		
44	地域資源	市全体	夢の共有	2050年大田市未来環境ビジョン〜先着1万名さま宣言			●
45	地域資源	コミュニティ	夢の共有	中高生×大学生による地元学		●	
46	地域資源	コミュニティ	夢の共有	地区別定住戦略づくり			●
47	地域資源	コミュニティ	動の連鎖	地区巡回型マルシェ	●		
48	地域資源	コミュニティ	場の創出	廃校を利利用したお泊り会		●	
49	交流・出会いの場	市全体	夢の共有	中高生と大人たちのカタリバ		●	
50	交流・出会いの場	市全体	夢の共有	おおだ版しゃべり場		●	
51	交流・出会いの場	市全体	夢の共有	令和の時代に未来と拓く生き方		●	
52	交流・出会いの場	コミュニティ	場の創出	石見銀山(店)集結の場	●		
53	交流・出会いの場	市全体	夢の共有	大高女子会 遼摩高校女子会		●	
54	交流・出会いの場	コミュニティ	場の創出	みんなで日本を応援しよう。	●		
55	交流・出会いの場	市全体	場の創出	市民みんなの給食の日	●		
56	交流・出会いの場	市全体	場の創出	学ぶ＝遊ぶ＝出会う		●	
57	交流・出会いの場	市全体	場の創出	25歳同窓会地ビールカンパイ		●	
58	交流・出会いの場	市全体	動の連鎖	移住者メンター・メンティー制度		●	
59	交流・出会いの場	市全体	動の連鎖	パワフルなヒト育成塾(アフター会議)		●	
60	交流・出会いの場	市全体	場の創出	大田市の駅前、こんな広場を！(週末も大田で)			●
61	交流・出会いの場	市全体	動の連鎖	結婚支援課の創設			●
62	交流・出会いの場	市全体	場の創出	フリースペース	●		
63	交流・出会いの場	市全体	動の連鎖	大型イベント・セミナー	●		
64	空き家活用	コミュニティ	夢の共有	空き家活用でシェアオフィス、コワーキングスペース		●	
65	空き家活用	コミュニティ	場の創出	空き家を自由にリノベ		●	
66	空き家活用	コミュニティ	場の創出	日曜大工教室(リフォーム)	●		
67	空き家活用	コミュニティ	場の創出	空き家等解体ワークショップ		●	
68	起業創業	市全体	夢の共有	中高生と若手起業・継業家のリンク塾		●	
69	起業創業	市全体	動の連鎖	起業継業ネットワーク		●	
70	起業創業	コミュニティ	動の連鎖	地域経営会社で資源活用&課題解決		●	

(2) 70 のアクションプランの種の詳細

1	子ども子育て教育	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	<b>(仮) 空き家を活用した学習場所の提供</b>			
概要	子どもの貧困解消のひとつに、教育格差をなくすことが必要。空き家を利用して学習の場、居場所として提供する。			
ターゲット	小中高校生、大人			
市民がやること	場の提供、見守3人、学生ボランティア、学習支援			
行政がやること	場の確保、管理、運営するための資金援助(水道光熱費など)			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】【学校教育課、学事・魅力化推進室】【子ども保育課(R6)】	まちセンや地域運営組織など地域への依頼 児童・生徒への周知		
2	子ども子育て教育	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	○
タイトル	<b>市独自の奨学金</b>			
概要	企業や個人、出身者からの寄付による奨学金制度。※額よりも制度があること自体が安心・セーフティネットになる(例えば月数百円でも…)			
ターゲット	高校生のいる世帯			
市民がやること				
行政がやること				
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【政策企画課(R7)】	既存事業なし 9月議会一般質問で提言あり、制度研究の段階		
他課と連携	【政策企画課(R7)】			
一部協力可	【子ども保育課(R6)】	事業の周知		

3	子ども子育て教育	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	赤ちゃんふれあい体験			
概要	乳児と父母がすべての小中高に行き触れ合う。命の尊さを学ぶ。			
ターゲット	乳児(父母)と小中高生			
市民がやること	ボランティアスタッフ			
行政がやること	保健師による伴走			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【子ども家庭支援課(R6)】	持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業) 思春期・赤ちゃん交流学習事業		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】【学校教育課、学事・魅力化推進室(R6)】	場の提供、参加者募集など 赤ちゃんふれあい体験		
4	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	ちびっこ広場(屋内)			
概要	まだ公園で遊べない年齢(0~1歳くらい)の子どもたちが自由に遊べて親同士の交流ができるような空間。			
ターゲット	小さい子を持つ親同士。			
市民がやること				
行政がやること				
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【まちづくり定住課】	持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業) 子育てにかかる総合支援拠点施設整備事業 子育て支援センター事業		
他課と連携	【子ども家庭支援課(R6)】【子ども保育課(R6)】			
一部協力可	【都市計画課(R6)】	場の提供(総合体育館)。市事業でなければ有料。市事業の場合も通常の利用者優先のため、頻度が多いと難しい		

5	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	フリースポット			
概要	中高生が放課後や休みの日に、自由に来て勉強や読書、待ち合わせのできるスポットを作る（学生だけでなく、市民も自由に利用できる）。			
ターゲット	中高生と地域住民			
市民がやること	見守り			
行政がやること	場所の確保、提供。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【まちづくり定住課】	持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）		
他課と連携				
一部協力可	【学校教育課、学事・魅力化推進室】 【子ども家庭支援課】	児童・生徒への周知 本庁舎・子育てにかかる総合支援拠点施設 建設		
6	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	自治会子ども若い者会			
概要	夏休みの終わりに夕方集まってBBQや花火をする。			
ターゲット	自治会の子ども、若手。			
市民がやること	買い出し、準備			
行政がやること				
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】 【都市計画課（R6）】	場の提供（仁摩健康公園バーベキュー場など）。花火等の火器の使用は不可		



7	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	遊びに行こう!			
概要	遊べる場、雨天でも日曜日でも親子で遊べる場所作り。色々なコーナー、ままごと、絵本、体を動かせる。親は子ども遊ばせながら話が出る。			
ターゲット	子育て世代			
市民がやること	遊ばせる時は親として責任をもつ。			
行政がやること	場所の提供、管理。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業） 子育てにかかる総合支援拠点施設整備事業 子育てサロン、子育て支援センター事業		
他課と連携	【まちづくり定住課】【子ども家庭支援課（R6）】			
一部協力可	【子ども保育課（R6）】【都市計画課（R6）】	事業の周知 場の提供（総合体育館）。市事業でなければ有料。市事業の場合も通常の利用者優先のため、頻度が多いと難しい		
8	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	おはなし会			
概要	月1回野音等の広場で紙芝居やお話を聞く。			
ターゲット				
市民がやること				
行政がやること				
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可	【子ども家庭支援課】【都市計画課（R6）】	情報発信 場の提供（都市公園施設）。市事業でなければ有料。市事業の場合も通常の利用者優先のため、頻度が多いと難しい		

9	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	子どもたちとゲーム大会			
概要	子どもたちが夢中になっているオンラインゲームを巨大スクリーンに映して大人も楽しもう！（まずは相手を知ることから始める）			
ターゲット	子どもたちと大人（保護者以外の方も）			
市民がやること	会場の準備。集客。怒らないなどのルール作り。			
行政がやること	備品類の準備。怒らないなどのルール作り。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【政策企画課】	持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業） 類似イベント～R5.12/10「大田eスポーツフェスティバル」実施済み		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】【学校教育課、学事・魅力化推進室（R6）】	場所の提供、参加者募集など 児童・生徒への周知		
10	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	はなしをしよう！			
概要	地元で働く若者と中高生、大学生が交流。地元で働いている若者がどんな生活をしているのか、キッチンカーなどを利用して飲み食いしながらざっくばらんにこれから何をやっていきたいのか、夢やすてにしていること、悩んでいること等を語り合う。			
ターゲット	中高大学生と若者			
市民がやること	会の運営、進行（これは行政と一緒に）			
行政がやること	場の確保、広報、会の運営、進行			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【産業企画課（R6）】	持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業） UIターン就職促進事業 総合計画・総合戦略等推進事業（ワークショップ）		
他課と連携	【まちづくり定住課】【学校教育課、学事・魅力化推進室（R6）】【政策企画課（R6）】			
一部協力可	【子ども家庭支援課】	児童・生徒への周知 保健師等 語り手として		

11	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	おおだF1会議			
概要	流出率の高い若年女性たちが集まり、つながりづくりを兼ねつつ、当事者視点で、こんな町になったら住み続けたいとか、具体的に事業化出来そうなことを考え、行動化できるようにする。			
ターゲット	10代後半～20代の女性たちと行政をつなぐ。			
市民がやること	参加する。参加する層に周知する。			
行政がやること	当事者の想いや意見を具現化するための予算確保。受容する姿勢。場の確保。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業） 総合計画・総合戦略等推進事業（ワークショップ）、広報広聴事業（市長と語る会）		
他課と連携	【まちづくり定住課】【政策企画課（R6）】			
一部協力可	【子ども家庭支援課】	保健師等 語り手として、No45との連携		
12	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	子育てにやさしいまちづくり			
概要	子育て世代を対象に、満足していること、課題に感じていることや要因を話せる機会を提供する（不満を言うだけでなく、提案が出来るように。）。つながりづくり。			
ターゲット	子育て世代同士。			
市民がやること				
行政がやること				
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業） 子育てにかかる総合支援拠点施設整備事業 乳幼児相談？ 総合計画・総合戦略等推進事業（ワークショップ）		
他課と連携	【まちづくり定住課】【子ども家庭支援課（R6）】【政策企画課（R6）】			
一部協力可	【子ども保育課（R6）】	事業の周知		

13	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	夏休みのこども食堂			
概要	各地区で、夏休みの子どもたちの食事の場を提供。曜日ごとに交代で開催。各地区の特産品やおばあちゃんの自慢料理をつくる。			
ターゲット	地域と子ども			
市民がやること	料理、生産（野菜など）			
行政がやること	スクールバスの巡回			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】	場所の提供、地域活動（事業費）支援		
14	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	廃校をレジャー施設へ。			
概要	雨の日に遊ぶところが少ないので、屋内を利用したレジャー施設をつくる（迷路、ボールがいっぱい など）			
ターゲット	子ども、親、地域			
市民がやること	管理			
行政がやること	公共施設の提供			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		まちづくりセンター改修事業		
他課と連携	【まちづくり定住課】			
一部協力可				

15	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	裏山復活プロジェクト			
概要	地域で昔は子供達の遊び場になっていた山林・野山を使える状態に復活させる。①おじいちゃん、おばあちゃん、おじちゃん、おばちゃんにヒアリング。②動けるメンバーで開拓。③毎年そこで焚火とかする。			
ターゲット	開拓作業時には世代間。開拓してからは子ども同士、親同士。			
市民がやること	開拓する。			
行政がやること	ほめて広めてくれる。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業（地域力向上P事業）		
他課と連携	【まちづくり定住課】			
一部協力可				
16	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	○
タイトル	子ども・子育て・市民サロン			
概要	地域で子育てサロンが開催されているが、子どもとその親だけでなく、地域の子どもに関わりたい人が集まってわいわい会話や食事をしたりする。			
ターゲット	子育ての親と地域の人。			
市民がやること	サロンの企画、運営。			
行政がやること	若干の資金と発信。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		子育てサロン、子育て支援センター事業		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】 【子ども家庭支援課】 【子ども保育課 (R7)】	場所の提供 育児サークルとの調整、情報発信 事業の周知		

17	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	(子育てサロン) 瑞風ひろば			
概要				
ターゲット	鉄オタと大田			
市民がやること				
行政がやること				
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		場所の提供なら…		
他課と連携				
一部協力可				
18	子ども子育て教育	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	神社寺子屋			
概要	神社で〇〇教室を実施。これからの時代を生きるために必要な知識をメインに学ぶ。IT、お金など			
ターゲット	地域の子どもをターゲット。町と講師。			
市民がやること	運営			
行政がやること	補助金、後援			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業（地域力向上P事業）		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】	「〇〇教室」実施主体が地域で、場所が神社だけなら		

19	子ども子育て教育	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの
タイトル	親子で学ぶお金の学校		
概要	月1あるいは2月に1回程度のペースで、親子でお金の勉強をする。お金の基礎知識から投資とは何か、税金など。最終的に神社のお祭りでお店を出してもらおう。売上目標、仕入れ量、粗利なども教えてもらう。		
ターゲット	小学校3年位～中学生、地域の子どもと住民		
市民がやること	会の運営、子供達のサポート		
行政がやること	補助金。教育委員会の後援。		
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等	
主課		持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）	
他課と連携			
一部協力可	【まちづくり定住課】【学校教育課、学事・魅力化推進室】	場所の提供、参加者募集など 児童・生徒への周知	
20	子ども子育て教育	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの
タイトル	学ぶ(あそぶ)保育士さん		
概要	暮らしも仕事も全力で楽しみたい人を応援!!		
ターゲット	大田と転入保育士さん		
市民がやること	地域の魅力を伝える。		
行政がやること	広報、できれば予算確保。		
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等	
主課		持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）	
他課と連携			
一部協力可	【まちづくり定住課】	場所の提供、参加者募集など	

21	子ども子育て教育	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	チームメタボリクス			
概要	脂肪を燃やせばビールがおいしい。子どもを連れて参加すれば妻はうれしい。父の背中にあこがれることもは愛おしい。			
ターゲット	父と父、新婚夫と父、子ども			
市民がやること	バスケットをして共に脂肪を燃やす!!			
行政がやること	共に脂肪を燃やす!!			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】【都市計画課（R6）】	場所の提供、参加者募集など場の提供（総合体育館）。市事業でなければ有料。市事業の場合も通常の利用者優先のため、頻度が多いと難しい		
22	子ども子育て教育	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	外国の方とキャッチボール			
概要	空き家を外国の方に見せ方を工夫して買ってもらう。安く譲る分、必ず地域と英会話教室、自国の文化紹介、観光案内を行ってもらう。			
ターゲット	市民と外国の方。			
市民がやること	見せることを職にする人。			
行政がやること	空き家の発掘。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【まちづくり定住課】	持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）		
他課と連携				
一部協力可				



23	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	高校に地産地消食堂			
概要	地域の食材を使ったメニューを提供する高校内の食堂を開設。食育の一環として、学生がメニュー開発や運営に関わり、地元農家との連携を深めることを目指す。			
ターゲット	高校生、地元農家。			
市民がやること	食材の提供、食堂運営。			
行政がやること	運営のサポート、地産地消の推進。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		高校コンソーシアム運営支援事業		
他課と連携				
一部協力可	【学校教育課、学事・魅力化推進室】	生徒への周知・探究活動		
24	子ども子育て教育	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	コミュニティ&子育て広場づくり～地元&子ども食堂の輪			
概要	地元の食材を活用した子ども食堂を含む、親子が集まれるコミュニティスペースを創設。安心安全な食育と子育て支援の情報を提供し、地域の子育てネットワークを強化する。			
ターゲット	子育て世代。			
市民がやること	施設の利用、ボランティア活動。			
行政がやること	施設の整備、運営のサポート。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可	【子ども家庭支援課（R6）】 【子ども保育課（R6）】	情報提供		

25	子ども子育て教育	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	定住&子育て支援員配置			
概要	移住者や子育て世代に対して、住宅情報の提供、地域イベントへの参加案内、育児支援などのサービスや情報を提供する専門員を配置。			
ターゲット	移住者、子育て世代。			
市民がやること	専門員との積極的なコミュニケーション。			
行政がやること	専門員の配置、事前研修の実施、専門員へのケア。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		定住促進事業		
他課と連携	【まちづくり定住課】			
一部協力可	【子ども家庭支援課】 【子ども保育課 (R6)】	定住支援員配置済み 情報提供		
26	地域資源	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	修学旅行で大田の自慢			
概要	大田で学んで外で発表。			
ターゲット				
市民がやること				
行政がやること	交通費を少し支援。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		おおた教育魅力化推進事業		
他課と連携	【学校教育課、学事・魅力化推進室】			
一部協力可		学びの発信		

27	地域資源	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの
タイトル	石見神楽教室		
概要	波根町には石見神楽団が無いが、神楽が好きなのは多い。定期的な神楽教室を開いて、子ども神楽への熱量を高めて、神楽同好会⇒神楽社中を作る。浜田や江津では「神楽」がつかから地元に残るとい人も多いらしい。		
ターゲット	地域の子どもと子どもを応援する親。支援してくれる町民		
市民がやること	運営		
行政がやること	補助金、後援		
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等	
主課		持続可能なまちづくり推進事業（地域力向上P事業）	
他課と連携			
一部協力可	【まちづくり定住課】		
28	地域資源	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの
タイトル	中高生地域ポイントゲーム		
概要	スマホアプリで市内の食事場所、名所に行く地域で使えるポイントがゲットできる。		
ターゲット	若者と地域		
市民がやること	受入れ側は中高生が好むサービスの提供。		
行政がやること	アプリの開発、管理、運営		
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等	
主課			
他課と連携			
一部協力可			

29	地域資源	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	地域の写真展			
概要	自治会単位で実施(つながりを強めるはじまり)。自治会館で写真展を開く。狭いところからの郷土愛を育む。近所さんの顔を知る。			
ターゲット	自治会の中の人々。			
市民がやること	我家(自分)のお気に入りの写真、動画を提供する。			
行政がやること	取組が広がれば、とりまとめて、写真展を実施。基本、特に無し。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可	【子ども家庭支援課】	育児関連の展示写真の提供		
30	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	キャンプ婚活			
概要	同じ趣味を持つ人が集まってワイワイする。大田の自然を有効に活用。			
ターゲット	キャンプ初心者。			
市民がやること	人集め、参加			
行政がやること	広報			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【まちづくり定住課】	縁結びサポート事業		
他課と連携	【政策企画課 (R6)】			
一部協力可				

31	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	マイ農園で野菜を育てよう!			
概要	休耕田や年をとって使わなくなった畑を活用して、マイ農園で野菜を育てる。子育て世代は野菜の育て方を教わったり、収穫を楽しむ。土地の地主は畑の活用が出来る。			
ターゲット	子育て世代、農家、お年寄り。			
市民がやること	畑で野菜を育てる。畑の提供、苗(種)の調達。			
行政がやること	土地の確保、仕組み作り、参加者の募集			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業)		
他課と連携	【まちづくり定住課】			
一部協力可				
32	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	キャンプ			
概要	週末大田市内で過ごす時間を持つために市内の公園等でキャンプ。同じ街に住む人同士ゆっくり語ろう!			
ターゲット	市内外の人。キャンプ教えられる人。			
市民がやること	まずは参加。そしてロコミ。			
行政がやること	許認可関連の情報提供。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】	場所の提供		

33	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	自然体験			
概要	原っぱ、海、山、田んぼ、畑、動物などその地域でしか体験できないような事を子供達に体験する機会を作る。			
ターゲット	地域の人、施設の人たちと家族層（親子）			
市民がやること				
行政がやること				
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【まちづくり定住課】	持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）		
他課と連携				
一部協力可				
34	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	○
タイトル	郷土料理を食べよう			
概要	今の時代、グーグル等で調べればすぐに分かるが、大田の郷土料理（例えば箱寿司）の作り方を教えてもらい、一緒に食べる。酢加減、味付けのちょっとしたコツは実際にやってみないと分からない。また、家庭各々の味付けもあり、自分の味を見つけることができる。月1回どこかの地域へ行けば何かやっているのも楽しい。マイ農園を利用している人で、自分たちで育てた野菜を使っの調理もできる。			
ターゲット	若者、子育て世代、地域のお年寄り等。			
市民がやること	郷土料理を応援してくれる人、レシピ作り、材料の調達。			
行政がやること	場所の提供（例えば空き家）、調理実習するための手続き支援（検便必要？）			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【まちづくり定住課】【産業企画課（R7）】	持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）道の駅（指定管理）の活用		
他課と連携				
一部協力可	【子ども家庭支援課】	保健師等 食育としての参加		

35	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	月1神楽の日(名称募集:神楽のまちおおだ)			
概要	市内4カ所で毎週末どこかで神楽が見られるように定期公演を実施。現状では、温泉津、多根、仁摩の3箇所があるが、定期的にはばらつきがあり、やっている日がわかりずらかったり、重なってしまっていたりもつたいない。			
ターゲット				
市民がやること				
行政がやること				
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可				
36	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	海の広場、山の広場の設置			
概要	山、海を利用したイベントや花火、食事場を提供し、人々が楽しみ出会う場とする。パームクーヘンとか、パン、あなごめし。			
ターゲット	次世代の移住定住者			
市民がやること	購入の〇手			
行政がやること	情報発信			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業)		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】 【子ども家庭支援課】	参加者募集 情報発信		

37	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	レンタル畑、空き地を畑へ			
概要	使わなくなった荒地を畑へ再生。畑を持っていない人が、気軽に畑ができるようになる。第一次産業への興味、関心へとつなげていきたい。			
ターゲット	他地区の方との交流。			
市民がやること	土地を貸す。畑のノウハウを教える。			
行政がやること	仕組づくり、広報			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可				
38	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	月1マルシェ まちセン			
概要	商店の無い地域にて日用品、食品を目の前で選んで買い物してもらう。			
ターゲット	商店と地域高齢者等			
市民がやること	自由に買い物。			
行政がやること	商店への働きかけ。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業（地域力向上P事業）		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】	実施主体がまちづくり団体などであれば		



39	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	地域資源・活用サークル			
概要	若者が市内各所のフィールド(資源)を活用し、若者向けの遊びを開発し市民にも参加してもらう。			
ターゲット	若者の男女、企画運営することで男女の出会いの場を作る。			
市民がやること	若者の自主的な活動。			
行政がやること	(委託)			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業(地域力向上P事業)		
他課と連携	【政策企画課(R6)】			
一部協力可	【まちづくり定住課】	場所の提供など		
40	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	不便を楽しむ			
概要	多様な商品やサービスがある中、あえて時間をかけ、手間暇をかけることを楽しむ。大田市の資源を知りながら、交流を深める。Ex)DIY、農園、たき火。			
ターゲット	地域と子ども、地域と移住者、移住者同士。			
市民がやること	それぞれの分野の達人を用意する。			
行政がやること	運営と補助金取り。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【まちづくり定住課】	持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業)		
他課と連携				
一部協力可				

41	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	SUP海岸めぐりツアー			
概要	SUPで大田市の東から西まで北前船のように主要な港をめぐり体的にハードなツアーを実施。			
ターゲット	20代~30代の独人男女、移住者			
市民がやること	海沿いに面している地区同士の連絡調整、給水所の開設。			
行政がやること	活動費の補助、情報発信。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可				
42	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	温泉モーニング			
概要	大田市内の各温泉施設の空きスペースで、温泉に浸かったあとに簡単な朝食を提供する。スタンプラリー的に実施し、全温泉施設を制覇すれば地域の特産品詰め合わせセットがもらえる。			
ターゲット	市内…若者・高齢者、市外…温泉好きの人			
市民がやること	企画、運営。			
行政がやること	地区間の調整。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可				

43	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	大田市そば茶めぐり			
概要	隠れたそば茶をめぐる。			
ターゲット	健康志向の高い人。観光客。			
市民がやること	農家からの提供。			
行政がやること	情報発信。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可				
44	地域資源	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	2050年大田市未来環境ビジョン～先着1万名さま宣言			
概要	大田市に存在する地域資源（米の生産量など）から、ポテンシャルを明らかにし、大田市としての真に持続可能な循環型社会のあり方を検討する。同時に市民からは広く環境に関するアイデアや取り組みを募集。これらをもとに、2050年に向けた持続可能な市のビジョンを作成。施策の目玉として、大田市で受け入れることが可能な量を提示し、大田市としての戦略的な移住定住戦略につなげる。			
ターゲット	市民全員。			
市民がやること	環境に関するアイデアや取り組み案の提出。環境保護活動への積極的な参加。			
行政がやること	広報活動。ビジョンの策定。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		総合計画・総合戦略等推進事業（ワークショップ、シンポジウム）		
他課と連携	【政策企画課（R6）】			
一部協力可				

45	地域資源	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	中高生×大学生による地元学			
概要	学校の授業や課外活動と連動し、地域固有の歴史や文化、課題について地元で現地調査してまとめ、地域にフィードバックする学習を推進する。			
ターゲット	中高生、大学生。			
市民がやること	地元学への参加、調査協力。			
行政がやること	運営支援、地元学で得られた発見を地域振興策へ反映。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）		
他課と連携	【学校教育課、学事・魅力化推進室（R7）】			
一部協力可	【まちづくり定住課】【子ども家庭支援課】	場の提供・生徒への周知 参加者として		
46	地域資源	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	地区別定住戦略づくり			
概要	各地区の特色や魅力を活かした定住促進策を策定。地域資源や地域独自のルール、慣習などを整理するとともに、移住希望者と地元住民との交流の場を設け、地区毎に独自性のある戦略を立案する。			
ターゲット	地域住民、移住者。			
市民がやること	戦略立案への参画、地区のPR。			
行政がやること	事業全体の運営、地域との調整、戦略づくりの支援。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【まちづくり定住課】	持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業） 総合的な人口減少対策事業		
他課と連携	【政策企画課（R6）】			
一部協力可	【子ども家庭支援課】	策定は地域主体で作成が条件 参加者として		

47	地域資源	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	○
タイトル	地区巡回型マルシェ			
概要	地域の特産品や工芸品などを販売する巡回型マルシェを開催。地元の生産者が直接消費者と交流し、地域の活性化を図るとともに、地元産品のPRにつなげる。			
ターゲット	地域の生産者、地域住民。			
市民がやること	商品の出展、マルシェ参加。			
行政がやること	マルシェの運営、宣伝。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		<small>持続可能なまちづくり推進事業（まちゼン事業）</small> お買い物サポート事業の中に移動販売の支援メニューがあるので、移動販売絡めたアレンジは考えられるかもしれない。ただし、制度がそのまま援用できるわけではないので改組は必要。		
他課と連携	【産業企画課（R7）】	<small>場所の提供はこ</small> 宣伝、地域の生産者や加工事業者への案内は、道の駅こいせ仁摩や各種事業を通じて実施可能		
一部協力可	【まちづくり定住課】	マルシェが巡回型であるということから移動販売の支援を組み合わせるべくアレンジは考えられるが、各地域でマルシェを展開するコミュニティ活動的な支援には対応していないのでサポート的な連携に留まる。		
48	地域資源	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	廃校を利用したお泊り会			
概要	廃校を利用し、例えば季節ごとにお泊り会を開く。ターゲットは子育て家族、若者、女子会、シニア会等、趣味の会等、色々あっても良い。食事は、キャンプ飯あり、キッチンカーありで自由とし、日が暮れば校庭で焚火をしてお酒を飲みながら話をする場を設けるなど、交流できる場所を作る。例えば子育て世代なら、子どもを寝かしつけた後に交流の場を持つとすれば、子どもを寝かしつけた教室の一角で子どもを寝かせ、自分達もそれを見ながら話すこともできる。			
ターゲット	色々な世代の市民			
市民がやること	参加、会の企画・運営			
行政がやること	場の整備、提供、参加者の募集、広報、飲食するための準備			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可				

49	交流・出会いの場	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	中高生と大人たちのカタリバ			
概要	ワールドカフェ形式で席替えをしながら中高生と多様な大人たちが”大田で暮らす”ことについて語り合える場づくり			
ターゲット	中高生と地域の人			
市民がやること	ロールモデルとなるキーパーソン探し(中高生相手に話れるようになる)			
行政がやること	場所の提供、キーパーソン探し			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業) おおだ教育魅力化推進事業、高校コンソーシアム運営支援事業 おおだで働こう人財育成事業 総合計画・総合戦略等推進事業(ワークショップ)		
他課と連携	【まちづくり定住課】【学校教育課、学事・魅力化推進室】【政策企画課(R6)】			
一部協力可	【子ども家庭支援課】【産業企画課(R6)】	場所の提供、参加者募集など 生徒への周知、コーディネーターによるキーパーソンコーディネート 語り手として キーパーソン探し		
50	交流・出会いの場	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	おおだ版しゃべり場			
概要	高校生と市内企業の新人が夢について語り合う。「なぜ大田市を選んだのか」			
ターゲット	高校生と社会人			
市民がやること	夢と大田の魅力を語る			
行政がやること	場の提供			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業) おおだ教育魅力化推進事業、高校コンソーシアム運営支援事業 総合計画・総合戦略等推進事業(ワークショップ)		
他課と連携	【まちづくり定住課】【学校教育課、学事・魅力化推進室】【政策企画課(R6)】			
一部協力可	【子ども家庭支援課】【産業企画課(R6)】	場所の提供、参加者募集など 生徒への周知、コーディネーターによるキーパーソンコーディネート 保健師等 語り手として 市内企業への周知		

51	交流・出会いの場	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの
タイトル	令和の時代に未来と拓く生き方		
概要	高齢者の寛容性を高め、若者たちの動きを見守り、協力できる町の土台を作るための意識改革。		
ターゲット	地域の高齢者		
市民がやること			
行政がやること			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等	
主課		持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）	
他課と連携			
一部協力可	【まちづくり定住課】【子ども家庭支援課】	場所の提供 保健師等 語り手として	
52	交流・出会いの場	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの
タイトル	石見銀山(店)集結の場		
概要	大田市の魅力である銀山(温泉津)でお店を展開している人たち、または石見銀山の地区で何かしていた人たちが集まって新たな企画を考える。(より活気を。)		
ターゲット	魅力を感じ、移住してきた人をつなぐ。		
市民がやること	参加、購入、食べる。		
行政がやること	アピール。		
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等	
主課		持続可能なまちづくり推進事業	
他課と連携			
一部協力可	【まちづくり定住課】	場所の提供	

53	交流・出会いの場	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	大高女子会 邇摩高校女子会			
概要	多様なキャリアを持つ子育てをする女性と話をすることでキャリア設計を考える。外からの事を聞くことで地域の愛着を築く。			
ターゲット	保育園留学で大田に滞在中のキャリアママが高校行き、女子と交流。			
市民がやること	高校と留学ママをつなぐ。			
行政がやること	出来たらおいしいスイーツの差し入れ。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		高校コンソーシアム運営支援事業		
他課と連携				
一部協力可	【学校教育課、学事・魅力化推進室】	生徒への周知		
54	交流・出会いの場	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	みんなで日本を応援しよう。			
概要	オリンピックやワールドカップなどの試合を集めてみる。(パブリックビューイングを小地域で。同じチーム、人を応援することで交流が深められる。)			
ターゲット	20代～40代くらいの男女。			
市民がやること	PRと人集め。			
行政がやること	場所(まちセン)の提供			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【まちづくり定住課】	持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業)		
他課と連携				
一部協力可				



55	交流・出会いの場	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	<b>市民みんなの給食の日</b>			
概要	給食の配膳に参加してもらい、子供達と給食を食べてもらう。併せて学校までの登校経路の点検。			
ターゲット	小学生と仕事をリタイヤされた方くらいの年齢の方。			
市民がやること	参加できる日に学校へ。			
行政がやること	参加された方の給食費の負担。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可	【学校教育課、学事・魅力化推進室（R6）】	場の提供・会食		
56	交流・出会いの場	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	<b>学ぶ＝遊ぶ＝出会う</b>			
概要	産業振興の名のもとに、市内のいくつかの企業の若手社員を集めて、異業種交流会を開く。輪番制でテーマを決めて横展開を図る。実は出会いの場にするという目的。			
ターゲット	市内の若年層同士。			
市民がやること	企業…参加者を募る。社員…学びながら楽しみながら。			
行政がやること	周知、スタッフ。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【産業企画課（R6）】	UIターン就職促進事業 おおだで働こう人財育成事業		
他課と連携				
一部協力可				

57	交流・出会いの場	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの
タイトル	25歳同窓会地ビールカンパイ		
概要	大田市内の地ビールを同窓会にリアル参加できない25歳に送ってオンラインで一緒にカンパイ!!		
ターゲット	大田と他県に住む25歳をつなぐ。		
市民がやること	地ビールをつくる。		
行政がやること	全ての25歳をリアルとオンラインでつなぐ。		
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等	
主課	【まちづくり定住課】	定住促進事業	
他課と連携			
一部協力可			
58	交流・出会いの場	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの
タイトル	移住者メンター・メンティー制度		
概要	せっかく大田市に移住した人が孤立しないよう、先輩移住者や地域住民が一定期間サポートする（もろもろの相談対応や情報提供）。		
ターゲット	移住者同士、移住者と地域。		
市民がやること	仲間意識を高める。		
行政がやること	先輩移住者等の登録・研修。		
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等	
主課	【まちづくり定住課】	持続可能なまちづくり推進事業（まちセン事業）	
他課と連携			
一部協力可			

59	交流・出会いの場	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	パワフルなヒト育成塾(アフター会議)			
概要	地域を引っ張る人を育てる。地域を引っ張る人を支える人を育てる。これらの人達が寄って(集まって)モチベーションを上げる会議でも良い。研修会(事例)の実施。			
ターゲット	地域を持ち上げたい人。			
市民がやること	取組のじゃまをしない。			
行政がやること	なし(アフター補助)。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業)		
他課と連携	【まちづくり定住課】			
一部協力可				
60	交流・出会いの場	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	大田市の駅前、こんな広場を!(週末も大田で)			
概要	駅前に市民や観光客が集うコミュニティスペースを設置。マーケット、イベント、展示など多様な用途に対応し、週末には地域の農家や地元企業、学生が活動できる場を提供する。			
ターゲット	市民、観光客。			
市民がやること	イベント企画、スペースの活用。			
行政がやること	スペースの提供、イベントのサポート。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業)		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】 【子ども家庭支援課 (R6)】 【産業企画課 (R6)】	【都市計画課】	<small>情報発信</small> <small>参加者として</small> 将来的な活用を見据えて、駅通り沿いの市有地に広場を整備。整備にあたっては産業振興部と調整が必要。整備後の広場管理等は所管外	

61	交流・出会いの場	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	結婚支援課の創設			
概要	あたりまえの暮らしの選択肢の一つとして結婚があるべき。婚活も福祉の一環として生活を助ける手段の一つとして対応する。結婚したいがどうしたらよいか分からない人の相談。適齢期の子どもを持つ家族からの相談。ふるさと教育の一環として、ふるさと大好き!結婚っていいなー!教育			
ターゲット	市民			
市民がやること				
行政がやること	結婚支援課の創設			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可				
62	交流・出会いの場	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	フリースペース			
概要	ひとりであるより他の人と居る事が楽しいと思えるような場。行くと必ず得られるものがある場(見えるものでお徳を感じられると行動は次に繋がしやすい)			
ターゲット	20代・30代・40代の男女			
市民がやること	PR			
行政がやること	場所の提供、他人と他人をつなぐ仕掛けを			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可				

63	交流・出会いの場	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	大型イベント・セミナー			
概要	男女の出会いの場の創出			
ターゲット	結婚を希望する独身男女			
市民がやること	PR・集客			
行政がやること	企画・運営			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携	【政策企画課（R6）】			
一部協力可				
64	空き家活用	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	空き家活用でシェアオフィス、コワーキングスペース			
概要	空き家をリノベーションして、シェアオフィスやコワーキングスペースとして再生。5年後くらいには島根にもフリーランスや副業といった「個」の時代ブームが来るので、その受け入れ先。			
ターゲット	ワーケーションに取り組む事業者。フリーランス、ノマドワーカーなど。			
市民がやること				
行政がやること				
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		ワーケーション実証事業補助金（令和2～3年度） IT系人材誘致補助金（令和4年度～） サテライトオフィス等開設支援事業（令和5年度～）		
他課と連携				
一部協力可				

65	空き家活用	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	空き家を自由にリノベ			
概要	自分の好きなように理想の家にリノベーションする。住む、利用する場合はお金を支払わないといけない。リノベされた家を購入・借りることができる。			
ターゲット	地元地域住民・地元企業とIターン者・市内企業。地元地域住民・地元企業と地元住民etc。			
市民がやること	空き家の提供。			
行政がやること	補助金(リノベ代)、所有者・購入者の仲介。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可				
66	空き家活用	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	日曜大工教室(リフォーム)			
概要	材料の選び方。道具の使い方を学ぶ。大工さんやホームセンターとのコラボ。			
ターゲット	UIターン者。日曜大工が好きな人。			
市民がやること				
行政がやること				
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		持続可能なまちづくり推進事業(まちセン事業)		
他課と連携				
一部協力可	【まちづくり定住課】	場所の提供など		

67	空き家活用	場の創出	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	空き家等解体ワークショップ			
概要	古い家をみんなで解体(解説つき)。			
ターゲット	地元と学生。			
市民がやること	教える人を探す。学生の確保。			
行政がやること	広報、周知。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課				
他課と連携				
一部協力可				
68	起業創業	夢の共有	令和6年度の事業に考え方を取り込みそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	中高生と若手起業・継業家のリンク塾			
概要	メンター制度を通じて、地元企業の若手経営者や継業家から直接学び、経営や起業の実践的スキルを身につけるワークショップを定期的で開催。また、キャリア教育の一環として、中学校・高校と連携し、起業創業への理解と意識の向上を図る。			
ターゲット	中高生、若手起業家、継業家。			
市民がやること	プログラムへの参加、取組の共有。			
行政がやること	メンターの手配、事業設計と運営支援。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課		事業承継された方の情報は補助金を通じて把握しているので、直接学べる仕組みを作ることで連携は可能。		
他課と連携	【産業企画課 (R6)】			
一部協力可	【学校教育課、学事・魅力化推進室 (R6)】	生徒への周知		

69	起業創業	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		市全体	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	起業継業ネットワーク			
概要	起業を目指す人や継業を考えている人のためのネットワークを構築。ビジネスプランの作成、資金調達、マーケティングなどに関するセミナーや相談会を定期的に開催。			
ターゲット	起業家、継業家。			
市民がやること	参加、取組の共有。			
行政がやること	運営、資金提供。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【産業企画課（R6）】	おおだ創造未来塾、ふるさと大田起業・創業支援事業等の改組、組み合わせが必要。		
他課と連携				
一部協力可				
70	起業創業	動の連鎖	令和6年度の事業に考え方を取り込めそうなもの	○
		コミュニティ	令和7年度に取り組みそうなもの	
タイトル	地域経営会社で資源活用&課題解決			
概要	地域の資源を活用し、地域社会の課題を解決するための地域経営会社を設立。地域住民の協働による事業展開を促進し、地元発のオリジナルにあふれる事業の構築と地域内の雇用創出を目指す。			
ターゲット	地域住民。			
市民がやること	事業参加、アイデア提供。			
行政がやること	起業支援、法的手続き等の支援。			
	当該課	関連事業・場所や人材、ノウハウ等		
主課	【産業企画課】	持続可能なまちづくり推進事業、地域おこし協力隊員等受け入れ事業		
他課と連携	【まちづくり定住課】 【政策企画課（R6）】			
一部協力可				

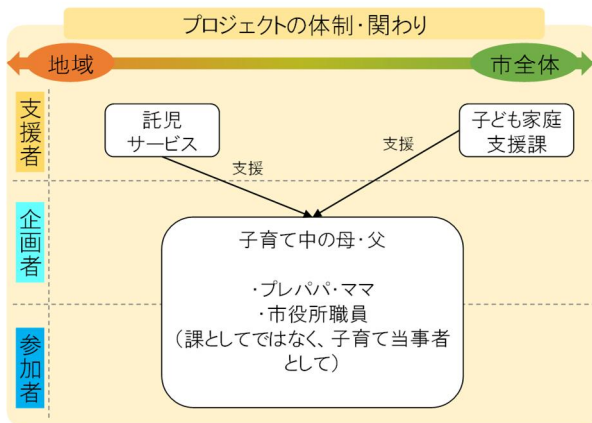


### (3) アクションプランの具体化

A班の発表

## 子育て世代にやさしい まちづくり

子育て世代を対象に、満足していること、課題に感じていることや要因を話せる機会を提供する(不満を言うだけでなく、提案が出来るように)つながりづくり。



- プロジェクトのポイント
- 積極的な託児を促すことで、子育てする親自身の個人の時間が確保できる。
  - 頑張らない・リフレッシュ・何もしない日を作る
  - R10年からは駅前でも
  - 遊び目的+相談可
- プロジェクトの懸念点・今後の検討課題等
- 託児してもらえる場所の把握
  - 参加しやすい場所・日程調整
  - ファシリテーション

81

### 4コマ漫画



こんな楽しく取り組む声が聞こえてきます

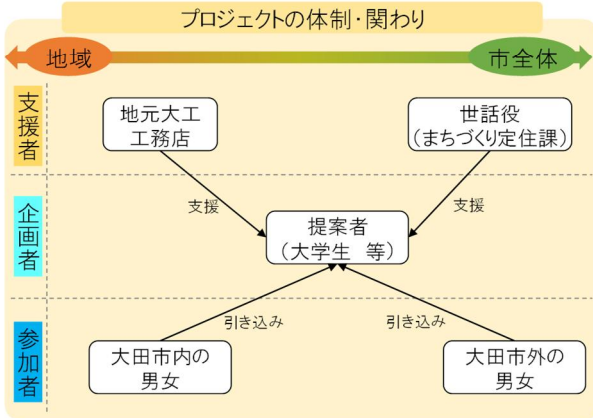
- 1コマ目 両親がピングで疲れた様子で座り込んでいます。周りにはおもちゃが散らばり、日々の育児の大変さを物語っています。表情からは子育ての重圧が感じられます。
- 2コマ目 両親が「子育て支援お試しチケット」のチラシを手にしています。少し使ってみようかなと前向きな気持ちになっているようです。
- 3コマ目 両親が他の親たちと交流し、子どもたちが安全に遊んでいる様子が描かれています。この交流を通じて、子育ての悩みを共有したりしているようです。また、時には、美容院や病院なども行き、気持ちをリフレッシュしています。
- 4コマ目 家族がピングで幸せなひとときを過ごしています。子育て支援を受けたことで明るい笑顔と新たな希望が感じられます。

82

# 地域資源活用サークルで 男女の出会い創出

廃材を利用して机や椅子などの家具を男女が協力して手作りする過程で、自然な形で交流と出会いを促します。このプロジェクトを通じて、参加者同士が協力し合いながら何かを創り出す過程で、新たなつながりや、人生を共にするパートナーとの出会いに繋がることに期待しています。

特にこの世代にアプローチしたい！



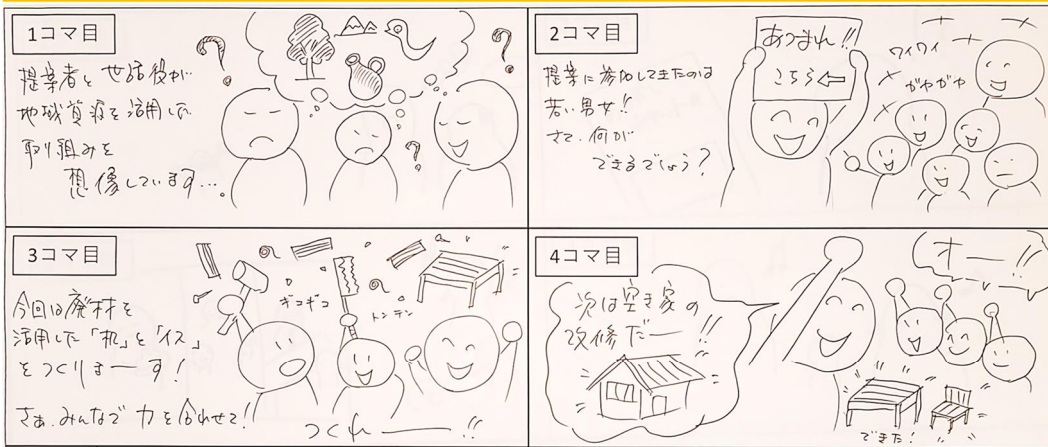
## プロジェクトのポイント

- モデル地区選定(行政の協力)
- 実行委員会立ち上げ(市民主体を促す)
- 春に立ち上げ(内容例 テーブルとイス)
- 宣伝のち、夏1回目の企画として実施

## プロジェクトの懸念点・今後の検討課題等

- 男女の出会いの場をおわせない宣伝方法

## 4コマ漫画



こんな楽しく取り組む声が聞こえてきます。

**1コマ目** 提案者と世話役が地域資源を活用した取り組みについて熱心にアイデアを出し合っています。

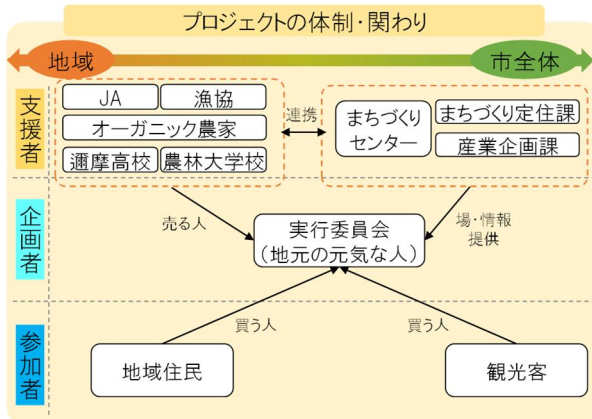
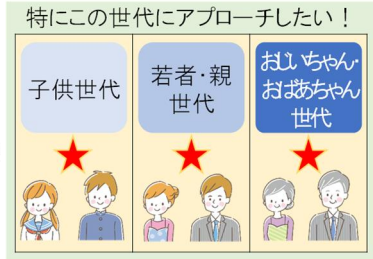
**2コマ目** 提案に応じて集まったのは、意気揚々とした若い男女たち。彼らにはどんなことができるのでしょうか。

**3コマ目** 今回のプロジェクトでは廃材を利用して「机」と「イス」を作ります。地元の大工さんを講師に迎え、一緒に力を合わせて創作に取り組みましょう。

**4コマ目** 各自の作品が無事完成し、参加者同士の絆が深まりました。中には良い関係を築き始めている男女も。実は、この家具作りに使われた場所は以前から空き家だったのです。作品作りで絆が深まった彼らは、次は空き家の改修に意気込んでいます。

# 地区巡回型 マルシェ

地域の特産品や工芸品などを販売する巡回型マルシェを開催。地元の生産者が直接消費者と交流し、地域の活性化を図るとともに、地元産品のPRにつなげる。



- プロジェクトのポイント
- 各まちづくりセンターで月1回の開催(持ち回り)
  - まちづくりセンターを通じて地域の元気な人を呼ぶ
  - 実行委員会を設立し、地域の子供やより多くの地域団体を巻き込む。

- プロジェクトの懸念点・今後の検討課題等
- 持続可能なやり方
  - 入荷商品の品揃え・数の安定を考えると、地区持ち回りとした方が良い。
  - 商品がきちんと集まるかどうか。

## 4コマ漫画



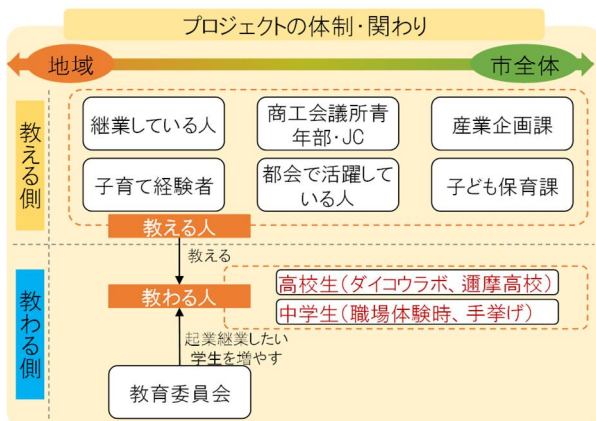
こんな楽しく取り組む声が聞こえてきます

- 1コマ目** 地元の元気な大人3人が、地元で何か新しいことを始めようと何やら話し込んでいるようです。
- 2コマ目** 行政と高校生も議論に加わり、地域全体でマルシェをやってみよう意気込んでいます。
- 3コマ目** マルシェ開催に向けての準備面で不安そうな表情を浮かべる大人と、それに対してワクワクしている高校生がいます。大人の一人が、各地区持ち回りでやったらいいのではないかと提案し、やっと次に進むことが出来そうです
- 4コマ目** 若者を含む多くの人々が、地元の食材に触れ、その魅力を再発見している様子。このマルシェを通じて、参加者たちの中で大田市への愛着が深まったようです。

# 中高生と若手起業継業家のリンク塾

メンター制度を通じて、地元企業の若手経営者や継業家から直接学び、経営や起業の実践的スキルを身に付けるワークショップを定期的に開催。また、キャリア教育の一環として、中学校・高校と連携し、起業創業への理解と意識の向上を図る。

特にこの世代にアプローチしたい！



## プロジェクトのポイント

- 大田らしきとして、子育てと仕事の両方のノウハウを伝えるために、特に女子学生を狙ったプログラムを展開
- 教育委員会が窓口となり、年間で学生が活動できる日を調整
- 教える側においても可能な日を調整

## プロジェクトの懸念点・今後の検討課題等

- 高校生が忙しすぎる。
- 学校と起業人をどうつなげるか(日程調整等において、教育委員会および産業企画課が関わることができると心強い)
- この取り組み自体をどう継続させるか(数年では効果が見えない。)

## 4コマ漫画



こんな楽しく取り組む声が聞こえてきます。

- 1コマ目 放課後のある日、女子高生がマイウェイカフェで、仕事と子育てを両立する大人の話聞き、自分の未来について夢を膨らませています。しかし、結婚や子育てに関する具体的なイメージはまだ持っていないようです。
- 2コマ目 高校卒業後、彼女は以前聞いた大人の話に影響を受け、自分も都会で起業することを決意します。
- 3コマ目 時が流れ、彼女は無事に就職し、結婚し、子どもにも恵まれました。そして夢だった起業も実現。家族と共に幸せそうに暮らし、彼女の人生が順調に進んでいるように見えます。
- 4コマ目 しかし、仕事と育児の両立の難しさに直面し、思い描いていた人生とは異なる現実と直面している姿があります。そんなある日、ふと、大田で仕事と子育てを楽しむ大人の話思い出します。そして、「そうだ、大田に帰ろう」と決意。故郷の風景や温かい人々に囲まれ、家族とずっと幸福な人生を送ることを願うようになります。

## 第5章 各種協議について



# I 調査検討委員会

## 1. 委員名簿

	分野	所属機関	委員氏名
1	有識者	公立大学法人島根県立大学 講師	村岡 詩織
2	保育所関係者	大田市保育研究会 副会長（あゆみ保育園 園長）	海原 泉
3	学校教育関係者	大田市校長会 会長（大田市立第一中学校 校長）	和田 美佐
4	子育て支援団体	大田市子育て支援団体連絡会 会長 （森のどんぐりくらぶ 代表）	松場 奈緒子
5	労働者代表	連合島根西部地域協議会大田地区会議 （帝人コードレ労働組合 組合員）	尾崎 楓
6	子育て当事者	大田市青年協議会 会長（JAしまね石見銀山青年連盟）	渡邊 徹
7	子育て当事者	保育園保護者会（あゆみ保育園父母の会）	中村 沙也加
8	子育て当事者	大田市立公立幼稚園PTA 連合会 会長 （大田市立大田幼稚園PTA 会長）	尾原 智貴
9	子育て当事者	大田市PTA 連合会 会長（大田市立大森小学校 PTA 会長）	小野寺 久美子
10	結婚支援	大田はぴこ会 会長	平田 久美子
11	女性政策	公益財団法人しまね女性センター	漆谷 佑美子
12	公募委員		宮里 陽子
13	公募委員		壺倉 祐磨

## 2. 協議の経過

回	日時	テーマ	主な議論
1	6/19	人生グラフの作成と人口動態の共有	現状の把握
2	7/31	ヒアリング調査結果の共有と行政施策天気図 ワークショップ	現状の把握、行政施策評価
3	10/27	アンケート調査結果の共有とアクションプランの 検討	現状の把握、対策の検討
4	12/19	アクションプランの具体化と次なる一歩を踏み 出すために	対策の検討、提言
5	2/19		

### 3. 記録

#### (1) 第1回 調査検討委員会

日付	2023年6月19日(月) 14時00分～15時30分
タイトル	第1回 調査検討委員会
内容	<p><b>1. 事業趣旨説明</b></p> <p><b>■あいさつ</b></p> <p>[田中政策企画課長]</p> <p>日頃より大田市の市政全般にご協力いただきありがとうございます。今回、委員の就任を皆様にお願ひさせていただき、ありがとうございました。これまでの経過やお願ひしたいことを申し上げます。</p> <p>日本の人口は減少の一途です。大田市においても、全国の流れに先駆け人口減少が進んでいる状況です。1947年が人口のピークでありそこから人口減少の一途です。人口減少によって、何が困るかという、消費の落ち込み、労働力不足、地域活動・社会活動の担い手不足等により地域活力の低下につながると考えています。</p> <p>税収は減少するため、福祉、介護サービスの提供が難しくなり、インフラの老朽化の対応がなかなかできないといった行政サービスの低下が懸念されます。</p> <p>大田市においては、平成27年に大田市まち・ひと・しごと総合戦略を策定し、人口減少をいかに食い止めるのか、スピードを抑えるか、各担当課において様々な事業に取り組んでまいりました。市の事業としてもIT企業の誘致を行い、20～30代女性の働く場もいくらかはできました。しかし、人口減少自体に歯止めはかかっているという状況です。特に年間240人くらいの出生数を維持してきましたが、平成30年には200人を割り込み、昨年度は約170人の出生数となりました。</p> <p>こうした中、今年度においては、専門機関の支援を受けながら、委員の皆様のご意見をいただきながら、これまで大田市がいろんな事業を行ってきたが、その検証や再構築することを一緒になって考えていただきたいと思ひこうした場を設けさせていただきました。皆さんにご負担をおかけすることもあるかと思ひます。しかし、市民一人一人の生活において大切な問題になりますので、一緒になって考えていただきたいと思ひますし、忌憚なきご意見を願ひいたします。</p> <p><b>■正副委員長の選出</b></p> <p>[桑野政策企画課長補佐]</p> <p>事務局としましては、委員長には地域計画の分野でご活躍いただいている、県立大学の「村岡先生(村岡 詩織 氏)」、副委員長には結婚支援活動を</p>



しておられる大田はびこ会の「平田会長（平田 久美子 氏）」がそれぞれ適任かと考えておりますがいかがでしょうか。（拍手）ありがとうございます。皆様の拍手よりご異論なく承諾いただいたと思います。この会の総意として、お二人に正副委員長をお願いいたします。改めて拍手をお願いいたします。

それでは村岡先生には座長ということでこの会の進行をお願いしたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

#### 〔村岡座長〕

改めまして村岡ですよろしくお願い申し上げます。今日はクーラーが効いていないので皆さん熱くご議論いただきたいですが、無理がないように。また、ものが言いやすい空気にするということが私の仕事になっておりますので、皆さんも一緒にいろんなご意見交わさせていただきたいと思っております。

では、進行に移らせていただきたいと思います。

お手元に資料がございましてファイルになっています。右下にページ番号がありますのでそちらをご参照いただきながら聞いていただけたらと思っています。資料たくさんありますが、本編が70ページくらいの構成で、残りはお自宅の方でもご確認いただけるような内容になっていると聞いています。

では早速ですが事務局の方に説明をお願いします。

## 2. 本事業の取組方針

- ・大田市総合的な人口減少対策事業の全体としての方針やスケジュールについて、持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩氏より説明いただいた。

## 3. 人口分析及びヒアリング結果（一部）等の共有

- ・持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩氏より、大田市全体の人口分析結果を他市との比較をふまえて説明いただいた。次に、ライフステージを通じた年代人口の長期的変化について、男女ごと、外国人人口を考慮した場合、しなかった場合で詳細に説明がなされ、その要因を「人口循環率」という考え方に基づいて解説いただいた。そして、そうして明らかになった人口減少の要因をさらに追及するため、現在の若い人の就労状況を分析した、産業別人口分析の結果について解説いただいた。
- ・続いて、地区別の人口分析結果について解説いただき、地区ごとにかなりの違いがあることを共有した。こうした違いの中から、人口分析結果の良いところと課題の多いところへそれぞれヒアリングを行った結果について、分析の途中経過を報告いただいた。
- ・そして、本会の後半へ橋渡しとして、大田市の施策については資料を見ながらこの後の討議の場でご意見をいただきたい旨、アンケートについては

婚姻世帯、独身世帯、中高生の3種類それぞれのポイントを解説いただいた後、グループ討議でご意見いただきたい旨をご説明いただいた。  
・最後に、今後のモデル地区への調査予定についてご提案をいただいた。

**[村岡座長]**

先ほどの解説について簡単に要点を説明させていただきたいと思います。

事業スケジュールについてですが、検討委員の皆さんは水色の帯にご所属いただいています。検討委員会とは別に行政の中の会議（庁内連絡会議）が同時に進んでおり、黄色の帯で書かれています。両者が相乗りするのがオレンジの帯という風にご理解いただけたらと思います。ですので、皆さんが本日を合わせて5回会議に出ていくイメージを持っていただけたらと思います。

その中で後半に話にありました、大田市の中でも地区によって特徴が違うことがご理解いただけたと思いますが、そのモデル地区でいったいどういうことが起きていてお互いに学べる場所はどうかというところがあるのかという分析が進む作業と、アンケートで実際に市民感覚を世代別、暮らし方別に聞いていくことも同時に進んでいくというイメージです。最後に、今年度の分析結果を市民フォーラムでお返しするというのが流れとなっています。

ですので、検討会議の場は市民の皆さんは市民感覚として、「今までの大田市こういう取組をしていたここら辺どうだったのかな」ということや、「こういうポイント足りてないんじゃないかな」みたいなことを、率直に当事者目線で情報も含めていただく形になるかなと思います。この場に行政の皆さんも来られていますが、担当課の立場としての情報提供はもちろんですが、同時に大田市民でもいらっしゃるので、市民感覚としてもご意見いただけたらなと思います。

議論の中の説明の振り返りですが、「大田市ならでは」という言葉が再々ありましたが、同じ市内でも全然特徴が違うということが分かったかと思います。特に大田市のことですと女性の流出がとても多く、一方でなかなか取り戻せていない部分があるということで、実際に大田に住まわれている方で希望されている方はお子さんをお持ちですが、そもそも人数が少なくなっているということで、そこら辺が子どもの数に直結していないということが特徴としてありました。もう一つは高校の時から出てしまう傾向にあるということで、進路選択のかなり早い段階から大田市の外と環境を接することで、そのまま出られる傾向があることがわかりました。そうした中で、兆しとして、子育て世代の流入が見えてきているという紹介もありました。そういう良い兆しをどう生かしていくかということ、この会一年間を通じて詳細を議論していけたらなと思っています。

## ■質疑応答

[委員]

人口が減っているのは聞いていましたが、年代別であったりどのくらい帰ってきているかを数値化して見たのは初めてでした。

[村岡座長]

ありがとうございます。もう一人手上げていただいていた方はどういったところですか。

[委員]

かなり詳細にいろんなデータが細かく提供されていて、初めて見るのがいっぱいでした。すごくショックだったのが、私は大屋町出身なんですね。大屋は本当にこのままでは消滅してしまうんじゃないかと思う情報がたくさん出ていて、すごく悲しい気持ちになりました。とはいえ、私は43歳に今度なるんですが、私も卒業してから大屋を出て今大田町内に住んでいます。実際私がそうなので、「えーなんで大屋がこんななってるの？」なんて言える立場じゃないんですけど。自分が出てしまった要因や他の同級生も出てしまった要因とか考えて、ある意味大屋は人口減少の先進地でもあるので、なぜなのかというところを私も一人の当事者としてとらえ直して、それを大田市全域でじゃあどうしていったらいいかというのを考えないといけないのかなと考えながら聞いていました。一つ思い当たったのが、大田市内で小学校の統合が一番最初になされたのが大屋だったと思うんです。私が6年生の時に久利の小学校と統合して大屋の小学校がなくなって、久利にある久屋小学校に通うようになりました。そのときに高山小学校が一緒くらいにできて、その後朝波小学校という感じでなっていったので、やはり小学校がなくなるというのはすごく大きいことだなと考えながらお話を伺っていました。

[村岡座長]

ありがとうございます。まさしく小学校の議論は事務局の事前の会議の中でもやはり出ていて、人口減少でセットで考えていけないといけないことというのは、学校のこともそうですし、仕事の雇用のこともそうです。ていうセットで考えていけないといけない部分は本当に大いにあると思います。今日は初回ですので、どこまでがこの会議でもつ範囲なのかとか、会議の中でも行政で引き取れるところ、地区の方で引き取れるところ、今日は混ざっていますが、今後会を続けながらどんどん分割して、皆さんに考えていただきたい範囲はよりクリアになっていくという風にイメージしていただけたらと思います。

[藤山所長]

大屋地区のより具体的な人口分析の様子は資料編の方にありますので、またぜひ併せてみていただけたらと思いますし、私どももこないだ大屋を通らせていただいたのですが、割と（市役所と）近いですよ。たた、たぶんおじいちゃんおばあちゃん世代の次の世代が市内へ出ていっちゃうような

形なのかなとお見受けしましたので、ぜひそういうのを大屋に足を運んで、どうことが起きているか、どこに可能性があるのかという議論に進めていけたらと思います。

**〔村岡座長〕**

まさしく先ほどご発言いただいたような観測、地区ごととか、世代とか、自分の周りはどうだったのかということを経験としてたくさんいただけると、どこが市の事業として支えどころのポイントかということがより具体的にわかってくるので、ぜひこの議論続けていただきたいなと思っております

1点質問があるのですが、12ページの出生率のところ、この現在1.62とありますが、これは大田市という風に思ったらよいですか。

**〔藤山所長〕**

これは住民基本台帳でやると1.62ですが、実際に住んでいる人で国勢調査だと1.88になります。ですので、レベルとしてはかなり高いということになります。

**〔村岡座長〕**

ありがとうございます。2人の人が結婚して2人子どもを持つことで人口はプラスマイナス0と言われている中で1.88というのはすごく高い方ですよ。ですので、これは数字で見たときの傾向ですが、感触として第1子のところに課題感があるのかとか、第2子第3子希望するときにもう少し支えどころがあるのかとか、こういった観点でもいろいろ皆さんのご経験や周りの方の情報もあると思いますので、またそういう議論が来た時にはそういう情報もおとしていっていただけたらなと思います。

では、このあと一旦休憩に入らせていただきます。ご案内ありましたけれども後半はグループに分かれて、作業しながら皆さん自身の情報をたくさん落としていただくような会となっております。同じテーブルに行政の方も入っていただいて、お互いにコミュニケーションとって、お互いの考えや感覚のすり合わせの機会にも使っていただけたらなと思っています。先に席の配置のご案内をお願いしてもよろしいでしょうか。

**〔野村研究員〕**

10分ほど休憩をいただいた後にグループに分かれて皆さんでお話させていただければと思っています。グループですが、こちらに入ってこられた際に、小さな紙でA、B、Cの3つのグループ名が書かれた紙をお渡しさせていただいています。そちらがグループの班になります。今から机で島を作りますので、お荷物は手に持っていただいて、後ろに机を設けますので、そちらに荷物を置くなりお願いさせていただけたらと思います。

前の村岡さんがいらっしゃるところがAグループ、副委員長の平田様がいらっしゃるところら辺りがBグループ、村岡さんの後ろの辺りにCグループを作りますので、休憩の後席の方へお座りいただければと思います。

#### 4. グループワーク発表

##### [A グループ]

まず、幼少期のところで、このあたりにマイナスが出ていますが、特に共感が多かったところはここに皆で「〇印」をつけていますので、それを中心に紹介します。地域の公共交通の便が悪いことによって通学や大田市の中心部に出ることにストレスを感じたり、市外や県外に就職するのは、自宅から通える高等学校や大学がないということを要因として挙げています。

それから、結婚・出産から子育て期のところにたくさん付箋が貼られていて、マイナス面としては、地域での自治会などの付き合いがあったり、一番多かったのはかかりつけ医が決められない、小児科の選択肢がない、開業医が少ないこと。女性が稼げる仕事がない、転職先がしづらかったり、そもそも仕事先の選択肢が少ないということがありました。プラスの面としては出産から子育て期のところで、医療費が無料である、育児への職場の理解がある、都市部に比べて土地が安価なので格安で家を建てられる、インターネットの整備が進んでいる、保育園に入りやすいといったことが挙げられました。

##### [藤山所長]

ありがとうございました。トップバッターは充実のご発表でとても具体的に書いていただいていたいました。

##### [C グループ]

C グループは時系列順に進めていきたいと思います。

まず目立ったのが中学高校くらいにキャンパスライフをしくじった人とそうでない人と分かれるみたいなところがありました。中学校時代が楽しくなかった人は痛いや、一方でバンドでボーカルになってスターになったという人もいました。その後で進学で大学に行かれた方は大学時代が楽しかったという意見が多くありました。

就職期に入ると、初期のころは一旦沈みました。言わなくてもわかるかと思いますが、皆さん職場で仕事がなかなか身につかなかったり、最初の内は比較的沈んでいる要素が多かったようです。20代後半から30代前半にかけて、皆さん転職をしたり、ある程度今の働き方がわかってきたとこともあり、人生グラフとして平均的に回復してきた傾向にあります。その頃に目立った意見としては、結婚であったり、出産して子どもができたり、といったことが目立った意見だったかなと思っています。

##### [藤山所長]

だんだんとV字回復してきたんですね。最後はBグループさんよろしくお願いします。

**[B グループ]**

B グループ、基本的にプラス思考の方が多く、黄色を書きたくてもかけないことが多かったんですけど、基本楽しかったというのが前提です。

ポイントだと思われたのは、進学や就職のときに一旦大田を出ないといけなかったと思ったときに、この地区から出るときの悲しい・寂しい気持ちと、一人暮らしができるというワクワク感の両方の気持ちを持ちながら進んだのが、18、19歳のときでした。

一旦外に出るのですが、皆さん自分が何をしたいか考えたり、少しマイナスになりますが、帰ってきて気持ちがプラスに向いてきます。大きく分けてあんまり共通したことがなかったのですが、結婚・出産で楽しい気持ちになったのが、この地域で結婚・出産ができたということで、周りの皆知り合いなので、出産や子育てに対して不安を抱える要素が少なかったのではないかなと女性の気持ちとしてもあると思います。これがもし都会で出産して一人で子育てをしていたら、結構黄色が多いのではないかなと思いました。

あと、皆さんコロナ禍ということもあったからか、基本的に大田市から出たくないという人が多かったので、帰ってこれて、出なくてずっと今も楽しいという人が多かったです。

**[藤山所長]**

ありがとうございます。

いかがでしたでしょうか。全くりハーサルなしでここまでということで、村岡先生いかがでしたか。

**[村岡座長]**

やはり傾向がでてくるなあと思いました。大田を一旦出るときの気持ちやその前。あと、帰ってきて今日はまぜこぜでしたが、Uターンの方とIターンの方との違いが出てきて、外から見えてびっくりしたことと、中にいるからこそ気づく居心地とか、たぶん皆さん意識されてないけど自然と行政サービスに支えられていたり、ご近所力に支えられている部分がきっと根底にあってこの付箋が出てきたかなと思いますので、今日は短かったですが、今後何がポイントとしてよかったのかなということが見つけられたらいいなと思いました。

**5. 次回について**

**[藤山所長]**

ありがとうございました。ということで初回にしてここまでいろいろ具体的にいい雰囲気のできたことは素晴らしいと思います。ただ、我々と市役所の連携不足で私共は3時間とっていたところが2時間となりましたので、残りは宿題ということになるのですが、今回は時間を間違えないように、おそらく2時間半から3時間のご案内を差し上げたいと思います。

2回目は、市役所がいろいろ頑張っていることが後半に一覧表と各

具体的な説明があります。次回、天気図風に「ここが高気圧マークだな、いいな」「低気圧、もうちょっと頑張ってほしいな」というのを、今日のこの雰囲気ですりたいなと思います。

それから今日は本当はアンケートにも踏み込みたかったのですが、これについては、皆さんもしご意見ありましたら、市役所の方にご連絡をいただいて、私どもの方でそれらの意見を反映させていただき作成してまいりたいと思います。

**〔桑野政策企画課長補佐〕**

本日は、私ども市役所の方で不備があり皆さまには大変申し訳ありませんでした。今後はこのようなことのないようにしてまいりたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

本日は、大変お忙しい中ありがとうございました。また今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## (2) 第2回 調査検討委員会

日 付	2023年7月31日(月) 14時00分～16時30分
タイトル	第2回 調査検討委員会
内 容	<p><b>1. 前回委員会の振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山氏より、前回第1回検討委員会の内容の振り返りの説明をいただいた。大田市全体の人口動態、地区ごとの人口増減・4歳以下の増減率・小学生の増減率の違いを再確認した。</li></ul> <p><b>2. ヒアリング結果の共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大田市内の8地区のまちづくりセンター、高校、子育て支援団体へのヒアリング結果について、持続可能な地域社会総合研究所 主任研究所 野村氏より報告いただいた。</li><li>・その後、検討委員は各グループでヒアリング結果について振り返り、共有の時間をもち、各グループで話題に上がった内容について発表を行った。</li></ul> <p><b>【村岡座長】</b></p> <p>冒頭始まって40分間いろんな情報をいただきました。皆さんに関係することとそうでないこと、たくさんあったと思いますので、ここで一旦「どういう情報が印象に残ったか」、「ここがわからなかった」ということを、主語を自分のところに引き寄せてもらいたいと思います。</p> <p><b>【振り返りの方法】</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>①ピンク付箋に「わたしの目から見た良い傾向」、黄色い付箋に「知りたい・わからないこと」を各自記入する。(約10分間)</li><li>②グループごとに共有する。(約10分間)</li><li>③グループ内で話された内容を進行役が全体に向け発表する。(約10分間)</li></ol> <p><b>【各グループの発表内容】</b></p> <p><b>[Aグループ]</b></p> <p>まずIターンに関しては良い傾向があるけど、Uターンはどうだろうという話がありました。地域活動もたくさん良い傾向がたくさん良いものが生まれつつも、実は大田市民が知らなかったり、そこら辺の情報発信どうなんだろうという話がありました。空き家も実は空き家を使うことが全体解ではなくて、特に若い人にとって新しい住みたくなるようなところに住みたいというところと、大田市の思いとして空き家を上手に使ってほしいという、ここがたぶんまだ噛み合っていないんじゃないか、選択肢も含めもうちょっとあった方が良くないかなみたいな話がありました。高校に関しても良い予感が増えてきているんですが、一方でもっともっと下の子育ての環境の</p>



ことやもっと前の産前産後ケアのこと、ひとり親のこと、そこからずっと妊娠出産期から 18 歳になるまで縦軸でつながったときに接続ができていたのかなといったらまだ検討の余地があるのかなという話をしていました。

#### [B グループ]

いろんな意見が出てきましたが、I ターン者の動きが活発で良いなという意見がよく出ていました。そういうやりたいことがあるから来てくれているんだよねとか、はたらく場所があるから大森とかも入ってきてくれているんだよねという考えからそうなんだろうなと考えたところでした。疑問も色々ありますが、入ってきてくださる人たちが入る空き家はどうなっているんだろう、住宅支援はどうなっているんだろうという疑問ができました。居場所に関しては、楽しめる場所づくりがあつていいよねとか、子ども食堂とかいいよねという意見がある一方で、そういう居場所を作ったときに、若い人が出ているという現象が大田市全体としてある中で、こういう居場所を作ったときに若い人って来てくれるんだろうか、若い人って居場所を求めているんだろうかというような疑問が一方ではあつたり、未婚者の集まりを作ったときにそういうところに実際にきてもらうのって難しいよねといった課題感が出てきました。あとは、中高生の結果について聞いた中で、将来に対して強いビジョンを持っている学生が少ないというのはどういうことなんだろう、自分たちが子どもだった時もそんなにもっていたっけ？という疑問も実感として疑問に出てきました。探求学習って充実しているそうだけど何をしているの？という疑問が出てきました。

#### [C グループ]

高校生は大田が好きという割合が高いということについては良いな、共感するという意見がありましたが、一方で「本当にそれが正しい今の感覚なのか？」という意見も出ています。また、若い世代に対して地域活動を継承していくというのがどういうふうに機能しているのか、朝山地区において若い世代の活動が継承がうまくいっていないという意見を聞いたとあつたが「その辺をもう少し深掘った方がいいのではないか」という意見をいただいています。まずは教育環境について多様な教育環境をいかに広げておくかについての意見の中で、通信高校へのネガティブな空気、これが「今は色んな選択肢があることを示しながら子どもたちも自分の思いや考えに合わせた対応ができる教育環境が必要なのではないか」という意見をいただいています。あとは、不登校児童が増えているという資料に載っている情報がありますが、「それが本当なのか？」という意見もいただいています。ただ、こうしたベースがあつての「その後のライフキャリアのあたりでもっと深掘った方がいいのではないか」という意見をいただいています。あとは、遊び・居場所づくりに関しては、もっと具体的に I ターン者と地元住民が協力して何をし

ているのかというのを深掘った方が他の地域に役立てるのではないかという意見をいただいています。あとそもそも、遊びというのが施設に入って建物内で遊ぶだけでなく、散歩や体験も遊びや居場所づくりとしてうまく繋がりたいんじゃないかというご意見をいただいています。

#### 【藤山所長】

やはり点に留まっただけではだめで、次のような連鎖反応が起きるかどうかなのだらうと思いました。「空き家なら空き家だけがあればいいかというところではない、繋がって他の住宅も含めたものになるか。」「IターンUターンのお互い刺激し合い、それに地域住民も含めた和になっているか。」「特定の高校生世代だけでなく生まれたときからの繋がり。」「情報が大田市内でも繋がっていない。」「肝心の若い世代ってそれを望んでいるの？そこの反応がなければ肩透かし。」

こうした連鎖反応が起こりそうで起こらないことが、大きな意味で、人口減少や子育て支援において、地域レベルでも政策レベルでも共通した課題なのではと感じたところです。

### 3. 大田市の施策

- ・大田市と他自治体の施策について情報提供をいただき、その後大田市の事業について各グループで議論を行った。
- ・具体的には大田市の施策については、大田市役所の各課より、本委員会へ情報提供としていただいている事業の中でも、特に一押しの事業について簡単にご説明いただいた。
- ・他自治体の施策については、持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山氏より、他自治体の施策の事例をご紹介いただいた。
- ・その後行われたグループワークでは、各グループでそれらの施策について、現時点での感覚として「良い施策」か「イマイチ」か感じていることを見える化しながら、現状の施策に対する評価や期待を話し合っただき、最後に各グループから話し合った内容を発表していただき、全体として共有した。

#### 【各課より一押し事業の説明】

##### ■政策企画課：該当事業番号④

大田市にはたくさん課題がありますが、産業の担い手不足、雇用の場の確保・拡大などありますが、こういう課題を解決するために協同組合が設立されたときにその組合を支援する事業です。

昨年度8つの事業者が集まった協同組合が一つ設立されました。この協同組合の仕事は人材派遣事業となっています。仕組みとしては、協同組合で人材を雇って、参画する企業に人を派遣し、派遣を受けた事業者は協同組合に

利用料を支払う。協同組合は利用料収入で運営し、派遣人材へ賃金を払う、というのですが、やはり赤字になってしまうので、市が運営費助成をするというのが事業内容です。事業者の立場からすると、人材は不足しているが、通年を通して雇う仕事や余裕はない。繁忙期に人が欲しいというニーズがあり、複数の事業者が集うことで通年の仕事内容が生まれるため、そこへ人材を派遣して通年の仕事を与えるという仕組みになっています。

ねらいとして大きいのは定住の促進や交流人口の拡大の視点です。市外、県外から人材を雇い入れて人材派遣を行い、その人にはゆくゆくは大田市内の他の企業等での正社員としての働き場を見つけてもらい定住していただき、そうすると人材派遣の枠が一つ空くことになるため、また新たに外部から人を雇い入れる、このような外部から人を雇い定住に繋げる循環を生み出すことをねらいとして行っている事業です。

#### ■まちづくり定住課：該当事業番号①②⑤⑥⑩

人口減少対策は連鎖してやらなければいけないというところを一つの課でやっていますので、一つに絞って話すのは難しいので簡単に流れをご説明させていただきます。

まず、定住促進事業はIターンUターンの促進、迎え入れを行う事業の中で、「25歳同窓会」というのは、大田市から出ていった人、残った人含めて交流の場をつくりUターンに繋げていくという事業です。空き家対策も定住促進事業に含まれます。大田縁結びサポート事業では、結婚する人が少なくなっている中で出会いを求める男女のお手伝いをするという事業で、令和元年から結婚相談員を配置し相談を行ったり、各企業を回って説明をしたりという結婚支援活動を行っています。子どもたちに地域とのつながりを強くして大田市から出さない、出たとしても返ってきてもらえるように、いろんな地域活動の支援を行っています。関係人口拡大事業は、民間事業者に市外から大田市に旅行者が訪れてくれるためのサイトを解説してもらい、それを見てきてくれた旅行者が地域をただ見て回るだけでなく、地域の人とつなげることによって関係人口として繋がっていくという事業です。昨年度は半年間で30数名の方が市外から大田市に訪れてくださり、今年度も多くの方に来ていただいています。

#### ■産業企画課：該当事業番号⑦⑧

⑦は若い人たちに大田で働く魅力を感じてもらうために、若い人に大田をどうアピールするかに主眼をおいていろいろ行っている事業です。これは地味ですが外せない、やり続ける必要がある事業だと思っています。

対して⑧は、サテライトオフィスの開設展開事業です。企業誘致の一環として、会社ごともってくるのではなく、仕事の一部を持ってきてもらって大田市でビジネスをしませんか？というサテライトオフィスの誘致を行って

います。ねらいとしては、大田市で新しい職場づくり、仕事づくりを行うことで、具体的な事業内容としては、働き場を増やすための箱（場所）、仕事とともに大田市に来てくれる人への宿舎を整備すること、さらにそれらの施設整備だけでなく、サテライトオフィスを活用してもらうための営業も含めて行っています。地域のいろんな企業と繋げ、大田市内でこれをやったらおもしろそうだと思う企業を誘致する事業です。今年度からスタートしており、今年度が整備、来年度からいろんな仕事を組み立てていくことになります。

#### ■子ども家庭支援課：該当事業番号⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑

妊娠から出産子育てに関わること全体への事業を行っていますが、いくつか絞ってお話させていただきます。出産というところで重要だと思っているのは「出産子育て応援事業」ということで母子手帳を発行するとき5万円、子どもが生まれたときに5万円を支給しています。ただお金だけでなく、お父さんお母さんとお話をしてケアが必要なところにはケアをしていくことが大切なところだと考えています。

また、人口減少対策ということになると、不妊・不育治療の支援事業があります。こちらは子どもが欲しいけれどなかなか生まれない・育たないという方に対して不妊治療費を助成する（最大年間30万円）制度と不育症の治療に対する治療費補助（5万円）制度をつくっています。島根県全体として給付支援を均一化するはたらきかけが行われていますが、難しいのは結婚したんだから生みなさいという風に捉えられてしまわないよう、望む方・本当に必要だと感じている方に対してこの制度を伝えていくことです。デリケートな話なので難しいところですが大切なことだと感じています。

#### ■子ども保育課：該当事業番号㉒

保育園と児童クラブ、子育て世帯の手当てを所管しています。中でも一押しは㉒子ども家庭総合支援拠点施設整備事業です。こちらはハード整備事業になっており、4つの機能を一つの建物に集約する整備を行います。一つはこども園、一つは子育て支援センター、一つは子ども家庭センター、一つは市の保健センター、この4つの機能を集約して、本庁舎の移転も計画されていますが、その移転した本庁舎の横に併設して、令和10年度オープンを目指しています。「保育園に通っていない子どもの平日遊ぶ場所がない」、「雨の日に遊ぶ場所がない」、「Iターンで来たが友達がいらないという方は、検診の機会だけでは友達になりにくいいため、繋がる場所が欲しい」、こうしたニーズを把握しています。そのため、4つの機能が集約されることを生かして、できるだけお母さん、子育て世帯が立ち寄りやすい施設にして、悩みを相談しやすい場を作って、必要であれば医療機関や専門機関に繋がられる機能を充実させていきたいと考えています。今年度は基本計画を策定することになって

いますので、また聞く機会も設けたり、パブリックコメントも設け、広く意見を拾い集めながら作りたいと考えておりますので、子育て世代や女性からご意見をいただければと思っております。

#### ■学校教育課：該当事業番号⑦

しっかりと学べる教育の質の向上を高めた教育を提供することが大切だと考えていあおり、大田市の子どもたちの学力を育成することに力を入れています。実は大田市の子どもたちの学力は全国や県の平均よりやや低いため、しっかりと学力を身に着けさせることが大切だと考えています。

そこで、⑦にある昨年度から3か年で大田市の学力育成プロジェクト事業を立ち上げており、島根県立大学の齋藤先生をお招きして、今までは教員が教科書を教えるのが授業でしたが、どんな力を身につけさせたいのかに重点をおき、子どもたちが主体的に学ぶ授業を行うという方向に教員の授業改善を図っており、齋藤先生を中心に各校を回っていただき、授業改善を行っています。

今求められている学力は知識や技能ではなく、問題を解決する力なので、「理科読」というものを行っており、これは例えば「なんで空は青いのだろう」という疑問に対して自分でそれを調べる、問題解決力を育てる教育ですが、そうした力を身に着けさせるために教育課は頑張っています。そうして学力を伸ばすことによって、卒業したときに何をしたいか、主体性をもって未来を切り開いていく子どもを育成したいと考えています。

#### ■学事魅力化推進室：該当事業番号⑩

大田市の教育魅力化というのは、0～18歳までの子どもの継続的・系統的学びの充実をはかるための事業を行っており、幼児施設、小中学校、市内の県立高等学校での特色ある教育の推進のために、地域や関係機関と連携しながら様々な取組を行っています。取組内容としては、「⑩ふるさと教育推進事業」は小中学校では少なくとも年間35時間以上、ふるさと教育に取り組んでいます。大田市ならではの自然や歴史行事等に理解を深めて、ふるさとへの愛着や誇りをはぐくみながら、それぞれの地域の特性を生かしたふるさと教育を行っています。

また、先ほど高校のヒアリング結果の中で「何かこういうことをやりたいと考える学生が少ない」とありましたが、教育魅力課では令和3年度から未来志向の教育という視点で取組を進めており、令和3年度から⑩ふるさとゆめ未来講演会を開催しています。これは中高校生の交流事業として、「夢を持つこと」、「夢の実現に向かって努力することの大切さ」を学ぶことをねらい開催しています。ちなみに令和4年度は海洋生物の研究をされている局長さんに来ていただき、講演会を開催しました。子どもたちの感想を見ると、「知らない情報だったが、すごく新鮮で刺激を受けた」という感想をいただい

おり、直接最先端で活躍している当人の夢や体験に触れることによって、自らの未来、夢の実現に向けて考えるととても良い機会になっていると思っています。来年度以降も継続して行い、未来を実現している大人に出会う機会をこれからも作っていきたいと思います。

#### 4. ワークショップの発表内容

##### [A グループ]

どんな事業が知られていたかという、行政の方もいらっしゃったのでほぼ二人でシールを張っていきました。私は保育園に務めているのでほぼ事業のことは知っていました。関心が高いことは子育てに関するところが多かったです。母子保健活動事業、産後ケア辺りが関心が高かったです。また、高気圧もありますが低気圧もあり、「こんにちは赤ちゃん訪問事業」や「母子保健活動事業」「乳幼児健康教室」、前回話をしたときにお母さん同士の交流の場がないという話もありましたが、今この中では同年代のお母さんと出会える場所でもある、気軽に相談ができる場所であるということが分かりました。また、低気圧については、「こんにちは赤ちゃん訪問事業」と「母子保健活動事業」、保健士さんが行うものと、母推（母子保健推進員）さんが行うものだと思うんですが、もっと連携できるんじゃないかなと思いました。中には訪問してほしいという方があったり、訪問されても何がわからないかわからないという話が出ていました。また、低気圧が集まっていたところとして、例えば⑦学力向上プロジェクト事業、具体的に言うと幼小連携の研修会等も行われるようになって、子ども保育課と教育委員会の連携がとれるようになってきたなと感じますが、「理科読」という話がありましたが教育委員会管轄のところでそういうことを中心にされていて、先生が来られて一緒にやる形ではなくても、紹介いただいて見学させていただくような形でも保育園や他の教育施設でもできるのでは連携してもいいのではと思いました。また、外国人に対するきめ細かな事業のところでは他市に比べて支援が弱いのではないかと思います。

##### [B グループ]

こちら半分が市役所の職員の方だったので、残りの女性3人で主にシールを貼っていきました。皆さん子育てを経験されているということで、子育て関係と意外と定住関係の事業についても皆さん知っておられました。一番知られていたのは、「母子手帳の交付」「25歳同窓会事業」「定住フェア」についても皆さんご存知でした。ただ、名前は知っているけど詳しくは知らないという事業も中にはいっぱいありました。

高気圧、低気圧ですが、女性の皆さんなので子育て関係は自分も経験しているしこれらの事業は外せないよねという意味で高気圧が至る所に貼られています。定住の方も市の方も頑張ってくれているんじゃないかとい

うことで、高気圧を貼ってくださっていて、定住のところと子育てのところ  
で、移住してくださる方に子育て支援が充実していることが伝わっていると  
いいよねという話が出ましたが、移住してくださる方にはこういう情報を提  
供していますよということを市役所の方が教えてくださったので、住んでい  
る自分たちは知らないけど、移住して来られる方には伝わっているんだなと  
いうことが今日、わかりました。

低気圧が貼られている所は、「高校コンソーシアム運営支援」というのはど  
ういうことをやっているのかよくわからないという意味で低気圧が貼られ  
ています。「学力向上プロジェクト」も外から見ていると何となく形式的にや  
っているんじゃないかな、どういう成果が出ているんだろうという意味で低  
気圧が貼られました。

全体的に見ると産業の部分に緑のマークや高気圧低気圧が少ないですが、  
自分たちが暮らす中で産業への支援は経験していないし、何をやっているの  
か正直よくわからないという意味でシール等が少なくなりました。しかし、  
ここが充実しているとすれば、ここが定住のところと繋がるといいよね  
という意味で寒冷前線を貼らせていただきました。

#### [C グループ]

まず初めに、大田市から配布されたアンケートを我が家でもやってみまし  
たが、一番最初に思ったのは事業名を言われただけでは答えられない。「一般  
人にはわからないので、地域子育てセンター事業を使っていることがあります  
か? はい・いいえ」で答える問いがありましたが、例えばを記入しておいて  
ほしいと思いました。行政の人しかわからないので、以後、改善してくれた  
ら嬉しいです。

C グループでも子育ては全体的に高気圧を貼っています。3 人とも子育て  
をしている人たちだったので、知名度も高かったです。B チームと一緒に産  
業系は知らないというものが多かったと思います。一番知られていた事業は  
子育てに関することでした。

高気圧も子育てに関することでした。

低気圧はここですが、移住者の方が子育て支援について情報がキャッチで  
きているかというところではなくて、例えば小学校中学校の HP を調べたと  
きに更新されてないし、中身がどの小学校を見ても同じ内容なので、特徴が  
わからない。せっかく一つ一つふると教育を各学校特色をもってやっている  
のに、それが市外の人には伝わらないというのが大変もったいないなと思  
いました。その教育とキャリア教育になりますが産業企画が繋がればさらに  
いい好循環が生まれるんじゃないかなという期待をしています。あと、働く  
女性が多いのですが、切迫が多いです。なので、働く女性をもっと社会で妊  
娠しやすい社会になればいいなと思いますので、経営者の皆さんには働きな  
がら妊娠するという大変なことを知っていただけたらいいなと思ったので

ここを繋げました。

## ■総括

### 【村岡座長】

今日も含めて2回目とは思えないくらい濃密な話し合いだったかなと思います。こういう場で行政の方と住民の方が一緒にやる場で大切なことがいくつかあるかなと思って聞いていました。

一つ目が新しく情報を知ることということで、既にされている行政の事業の話がありました。また前半は各地域のヒアリングの結果や皆さんの思いなど、今日新しく知れたことがすごくあったかなと思ってそういう場になったかなと思っています。あと、後半のワークで知っていることを棚卸するというのがこういう場所の2つ目の大事なことで、そういう場が今日実現したかなと思います。最終的にはこれを皆さんのそれぞれの持ち場に持ち帰ってもらいたいという思いの中でやる中で、そこがまだ遠い、いろいろわかったけどじゃあどうしたら良いのかなというところが距離があるかなと思います。

特にここの班でもありましたが、地域ごとに課題が違うからここからどうしたら良いの？というところが距離があるから後半の秋の陣で詰めていくべきところかなと思って話を聞いていました。

今日その作戦の中でヒントがあるとすれば、各事業のあて先というところを意識すれば、研ぎ澄ませ方が変わってくるかなと思います。例えば、先ほど小学校とかホームページの話がありましたが、先生は定期更新されているだけという意識かもしれないですが、実は移住者というあて先を考えると、もっと磨きようがあるかもしれませんし、訪問型でいろいろやられているところもあるが、もう少し最近の子育て層の思いをあて先として考えていけば、訪問以外のやり方やもう少し工夫できるところもあるかなと思ってますので、秋の陣では各事業のあて先をもう少し意識して、皆さんと一緒に考えていけたら良いかなと思って聞いておりました。

## 5. 次回について

- ・ 次回の開催は10月を予定
- ・ 委員の皆さんへの宿題として、委員の皆さん自身の所属団体の活動状況等についてお聞きするアンケートを配布する。本日は紙媒体で配布しているが、メールで回答いただけるようデータも後日お送りさせていただく。8月中に回答・返信をお願いします。
- ・ 秋の陣では、今までの議論、アンケート、現場での活動、市役所での新たな事業展開、この4つをより結び付けながら、あて先という視点をもって積み上げていく



**[桑野政策企画課長補佐]**

今日で夏の陣は終わりということになります。今までは風呂敷を広げているような情報を収集していたという状況です。今後それを一つずつ絞って形にしていきたいと考えております。そのために、皆さんへの活動状況把握シートと既に発送したアンケートも大事な声となりますので、是非周りの方へアンケートやってねというご協力の声掛けをいただけるとありがたいです。

次回 10 月の日にちはまだ決まっておりませんが、決まり次第ご連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。

### (3) 第3回 調査検討委員会

日 付	2023年10月27日(金) 13時30分～16時30分
タイトル	第3回 調査検討委員会
内 容	<p><b>1. あいさつ</b> [田中政策企画課長] この調査検討委員会も今回が3回目になります。本日は、この間、アンケートやヒアリング調査で情報を収集してきましたので、そちらの報告とワークショップにも取り組んで参りたいと思います。市としてもこれから皆さんの意見を次の施策に反映させていただくこととなりますので、この度は大事な会になります。よろしくお願いいたします。</p> <p><b>2. 前回調査検討委員会の振り返り</b> ・ 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山氏より、前回の振り返りとして、委員会で出た意見をまとめた以下4項目についてご説明いただいた。 ・ 1. 多様な移住ルート：大田市へのアクセスチャネル ・ 2. 多様な出会いの場づくり ・ 3. 移住定住の決め手の一つである空き家の活用 ・ 4. 希望を持てる将来のライフプランを立てるために</p> <p><b>3. 各種アンケート調査結果の報告</b> 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山氏より、2023年7月～8月に実施した市民アンケート調査結果および10月に実施した高校生アンケートの結果について、特に注目すべき点をご紹介いただいた。その後、A～Cの3グループに分かれ、アンケート結果を聞いた感想について意見交換を行い、各グループで意見交換された内容について発表し共有した。</p> <p><b>【各グループでの意見交換内容】</b> [Aグループ] 子どもたちの遊び場やお気に入りの場所・行事のところを見たときに、高校生は勉強する派と遊ぶ派とで分かれているという話がでましたが、子どもがどこで遊んでいるかに焦点を当てると、誰かの友達の家でゲームを持ち寄って集まるけれど、友達と話したり関わるといよりも、何とかごっこということではなく、個々でゲームをやることが多いのではないかという意見が出ました。 また、どういう遊びをもって遊び場が少ないかということに焦点を当てると、ゲームや例えばお気に入りの場所が出雲市のゆめタウンだったりすると、行ってもう何かすることができる施設で遊ぶということやイベントに行ってみようということになります。しかし、そうではなく、大田市なら三瓶</p>

山とかでボール一つ持って行って親子で身体を動かして遊ぶということも遊びだと思いますが、親が求めている遊びってどういったものなんだろうという話が出ていました。

あとは、アンケートの中では子育て支援に関しては満足度が高いんですが、まだ周知されていないことがあったり、利用しにくいものもあるんだなということもわかったという話をしました。

#### [B グループ]

高校生の親の世代に対して愛着を持っているかどうかを今一度問うべきではないかという意見がありました。ただし、理由は少し異なり、子どもたちが愛着を持つというのは、親が愛着が持っているのが子どもたちに伝わる部分もあるのでということからそういう意見が出ました。

地域に対して交通の不便や子育てをしていると親の時間がないとか、そういった不満の声が出るけど、昔だったらそういうこともありながら、あるのが当たり前という考え方でいたよねというのが、今ここで不満として出ているのは何故だろうという意見がありました。例えば、そういう不便だとかがありつつも、メリットの部分もあって全体を含めて幸せだねというような考え方に行くことができないだろうかという話がでました。

あとは、こういったアンケートを今回実施して、今こうした課題が見えてきているけれど、大田市としてはこれまでもこういった課題に取り組んできていたのだろうか。取り組んできているのだとしたら、今こうやって見えている課題に対してこれから改めて取り組んでいくときにも、この取組がどうなったのかという振り返りも今後していけたらいいよねという話が出ました。

#### [C グループ]

高校生の愛着に関する意見として、高校生に聞いたところで比較対象がないというところで、一回外に出て戻ってきた親世代に併せて愛着を聞くことで、良い比較ができるのではないかと。一旦外に出ていたからこそ大田市の良さが分かってくるのではないかとという検証が、今後機会があればいかがですかという意見が出ました。

#### 4. 本日のワークショップに関するまとめ・事例紹介等

・持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山氏より、本日のワークショップに向けた情報提供も含めこれまでの流れのおさらいと本日ワークショップの進め方についてのご説明いただいた。事例紹介では村岡座長からも阿武町の事例についてご紹介いただいた。

### 【これまでの流れと内容のおさらい】

- ・ 前回まででデータ分析、ヒアリング、WS を実施。
- ・ 人口分析結果から、大田市全体での一番の少子化、人口減少の要因としては、20 歳前後で出て行って帰ってこない、特に女性の方が目立つことが根幹の問題であることが明らかとなった。
- ・ また、地区別でも人口動態が大きく違うことから、それぞれの地域の状況に応じた取組が必要であると分析されることが明らかとなった。
- ・ 大田市内でも頑張っている地域はある。
  - 大森地区「石見銀山まちを楽しくするライブラリー」
  - 温泉津地区「再生する温泉津と更なる魅力の連鎖」

### 【本日のワークショップの進め方】

#### 〔藤山所長〕

アンケートの結果で出てきた結果を捉え直したときに、次の3つの課題もしくは方向性に帰着すると考えられます。「夢の共有」「場の創出」「動の連鎖」です。この3つをテーマに市全体あるいはコミュニティ（各地区レベル）としては何ができるのかについてアイデアを出し合っていたいただきたいと思います。

「夢の共有」だと、特に次の世代が「夢」＝可能性を感じて帰ってくるために何ができるのかという視点で考えていただきたいと思います。

「場の創出」だと、今は大田市のアンケート結果から見ると、市民の皆さんは楽しみにしても大田市の外に目が向いています、中でもっと出会いや支え合いの場をつくることのできるのではないかとこの視点で考えていただきたいと思います。

「動の連鎖」だと、「場の創出」のために、それを維持したり、増やしたりするために、どういうアクションを起こしたらいいのか、どういう人の繋がりを作らないといけないかという視点で考えていただきたいと思います。

市全体としてはこういう仕組みが必要ではないか、コミュニティではこういった取組が必要なのではないかを考えていただきたいと思います。

### 【事例紹介：山口県阿武町の取組】

#### 〔村岡座長〕

山口県阿武町は、2015年時点で人口3,600人くらいのまちで、毎年20人程度の子どもが生まれていましたが、ここ数年は一桁まで落ちました。亡くなる方は80人、毎年90～100人近いペースで人口が落ちていました。

大田市と似ていて、中学生は学年の8割は町外に進学し、そのまま町外に出ていってしまう状況でした。その要因として中高生の86%が町内で働くイメージを持っておらず、女性の7割が20代前半で町外に出てしまう状況でした。ちなみに、こうした状況をヒアリングで抑えながら、こういう構成に

なっているということをイラストで描いて直感的にわかりやすくし、問題の共有を進めていきました。

若い20代の世代が男女合わせて10人いるかいないかの世界でしたが、週末に町内でデートをしていたらすぐに見つかってしまうので、絶対週末は遠くに行く（福岡・キャナルシティ）そうです。このように、町の中で過ごさないと、出会いもなければ好きになるきっかけもないので、そこはまずいだろうということで、町でちょっとご飯食べたり、遊んだりできるような町になったらいいねというところから、とても少ない若い人たちが頑張り始めたのが今から説明することです。

大田市が今やろうとしているようなのと一緒に、阿武町も町の方針・計画をつくるということをきっかけに活動を始めました。

行政の計画書ではありますが、大切にしたい考え方が2つあります。

一つ目は、「縮充」です。縮小は仕方ないので、縮小しながらも充実させていくような濃い地域づくりをしていこうという考え方です。

二つ目は、「活動人口」です。リアルな人口は減るけど、中で活動する人は増やしていきたいという考え方です。

こうした考え方を、行政文章だけでなく、先ほどのイラストも含めた中高生でもわかるような、授業で使えるような副読本も作りながら、おじいちゃんおばあちゃんから子どもたちみんなで町のことを考える土壌づくりを始めていきました。

その中で特に大事だと思うプロジェクト8つを立ち上げました。町を動かす「てこ」になるようなプロジェクトです。

大事にした考え方は、まずプロジェクトの一步目で自分たちで動き始められるものを必須にしました。行政が動かないとできないこと、予算がつかないといけないこと、人数がたくさん集まらないとできないことなど、せっかく大事なことなのにハードルが上がってしまわないよう、自分たちが始められる粒感で始めようということで8つのプロジェクトを掲げました。

21世紀の暮らし方研究所、見守る町民、阿武町役場、専門家といったプレイヤーで進めようということで始めています。

どういうプレイヤーでプロジェクトを進めるかの考え方として、いろんな人たちが関わりながらやる、どこか1か所が頑張るのではなく、お互いみんなが力を出し合おうという体制を作っていました。

21世紀暮らし方研究所（ラボ）とは、8つのプロジェクトを興味ある人手上げてで集まってもらったことをゆるい活動ラボと呼んでいました。月に1回いろんなテーマを掲げて集まって自分たちで町のことを知ったり・活動するようなことをしていきました。（まちあるき、インタビュー、活動拠点を構えてみないか、空き家解体してみよう等動きながらやっていった）⇒最初は村岡座長が入ってテーマを掲げて段取りをしてやっていましたが、1年を待たずしてメンバーの中で教え合うという関係が出てきました。自分たちで障

子を貼るのを教えられる人は教え教えられという形が緩やかに始まり、外からの人が関わらなくても自分たちで自信をもって空き家の改修などを始めていった形でした。

町の予算が立ち上げ時には入っていましたが、活動は町民だけに限定しませんでした。そのため、町外の人が遊びにきたり、ラボのメンバーを決めないよう・風通しの良い形にしたため、誰かがリーダーに引っ張るとかではなく、関心が中心にあってそれを求心力に人が集まるといった体制をとったため、細く長く続いています。今なお5年間経ってもラボは続いています。

阿武町は小さい街なので不動産業はないので、自分たちで口コミで家を融通するという事になっていましたが、活動を重ねるうちに、ラボだけでなく、ラボに来ている子どもたちの子どもラボが立ち上がったたり、リサイクルショップを始めたり、バーを始めたりとそういうことを面白いと思った人たちが活動を始めたり、それだけでなく、元々地元に住んでいたおばあちゃんたちが一念発起してお店を始めたり、活動している様子を見てちょっと元気が出てきた人たちに伝播する現象が起きてきました。

地道に活動を続けていった結果「ずっと見たかった町の風景」が見れるようになりました。2~3年くらいかかりました。

今は、次の段階にきています。最初に活動が始まったのは役場のある中心街（奈古）での活動だったのが、今では町全体の動きになってきています。森・海・里で資源を回したり、道の駅を拠点に中心としていろんな資源を集約してここに行けば阿武のものが食べれる、阿武で働く人たちのプライドを感じ取れる場所になればいいということで道の駅がリニューアルされ、横にキャンプ場も併設され、暮らしを横に見ながらちょっと長居できるような場所ができました。⇒このように地のものをちゃんと使って循環できるようにということがリアルに実現するようになったのがここ 1~2年のことです。それだけでなく、保育園の給食もより地元のものを使ったり、教育でも猟師や農家さんのことを教育現場で地元の人たちと学んだり、地場の木を使おう・仕事をどんどん創設しようというような、保育・教育・仕事・住まいみたいな形で資源をうまく循環させるということができています。

0~3歳までの保育料無償化ということで今の町長さんが振り切って経済的な部分もサポートしてくださっています。

実際に結果が伴い始めています。もちろん人口減少は全国で始まっているので、町のサイズは小さくなっていますが、社会増減で見ると、だんだん入ってくる人が多くなってきています。これは本当にすごいことで、どこの地域も頑張っている中で、阿武という小さな地域がこれだけ踏ん張っているというのは、大田市にとっても希望になるのではないのでしょうか。

#### ■宮崎県美郷町の挑戦～地区別定住戦略

- ・地区別で違う状況があるので、地区ごとに定住戦略を作成した。⇒地区の皆で話し合っ、強み・弱みを見定め目標を立てることから始めた。

#### ■明石市のみんな食堂

- ・子ども食堂がやがてはみんな食堂になっていった。⇒皆で支え合える場所づくりは非常に重要である。

#### ■三次市の女性起業支援と地域での移住支援

- ・女性に特化した起業支援センターをつくり、企業をしたい女性同士がネットワーク化され励まし合う関係ができ、それぞれの地区の定住の取組も始まっている。

#### ■地域経営会社をつくる～邑南町出羽地区

- ・地域で会社をつくり、個人プレーの限界を超え、コミュニティ組織と表裏一体で会社組織で人を雇い、農業を支援する、空き家を紹介するしくみで課題解決をはかっている。

#### ■子育てを助ける奨学金制度

- ・経済的負担をカバーするために、「ぶり奨学金制度」のように高校・大学のための奨学金を戻ってきてくれたら返済する奨学金ローンを補填する制度も全国で出てきている。⇒高校や大学の進学が一番家庭の支出で大きい(中山間地域研究センター有田研究員の研究より)

#### ■「21世紀の石高」、「疎開保険」、「未来環境会議」

- ・困っているから帰ってきてという考え方は間違っている、これからの時代は自然の資源で暮らす考え方が重要になってくる。  
⇒大田市は自然資源も豊かで、安心して長続きする地域だということを見える化してあげることが重要。  
⇒南海トラフや首都直下型地震が起きたときのための疎開保険のしくみを。
- ・子どもたちがこれからの主役になっていくのだから、長い目で見て大田市が未来に伸びていくことを子どもたちを主役に考えてもらう機会も必要。

#### 5. アクションプラン検討ワークショップの実施

- ・前段で行った持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山氏の説明を踏まえ、3 グループに分かれてアイデアを出し合うワークショップを行い、成果を発表した。

## 【ワークショップで出た主な意見の発表】

### [A グループ]

A グループは「場の創出」というところに集中して意見が出ました。

自然、子どもとの交流、食、神楽も大切ということでもっと広く知ってほしいということもありました。

「夢の共有」というところで絞り出したのが、大田の自慢というところで修学旅行に行ったときに県外で大田の自慢を発表するという。どこかの自治体で既にやっているらしく、市としてはそういうことをやってくれるのであれば交通費を少しだけ支援しますよというもので、面白いアイデアだなということでイチオシにしました。

「場の創出」はすごくいっぱい意見が出ましたが、空き家を活用するということで、空き家を自由にリノベするや日曜大工教室ということで日曜大工が大好きな人や UI ターンの人と一緒にすることや、空き家等解体ワークショップで、解体するときに大工さんや学生を呼んで、解体の解説付きで建物の構造を見ながら解体するワークショップがあっても面白いと思いました。

人が集まる場所が必要ということで、中高生が放課後に勉強する場所がないということや、小さいお子さんが遊ぶスペースがないということがありますが、どこかの自治体で見ましたが、市役所の1回をフリースペースにして、午前中であれば地域の皆さんが散歩がてらに来る、子どもを連れてきたり、放課後になったら子どもたちが勉強するとか、そういうフリーで遊べたり勉強できるスポットがあると良いなという話が出ました。

### [B グループ]

B グループはグルーピング迷いました。ターゲットでグルーピングするのか、事業の質でグルーピングするのか、ただこのグルーピングはあまり気にせずに見ていただければと思います。

この中で割と多かった意見はカタリバみたいな場をつくることが多くありました。いろんなところで活動されているので、イメージがつくかと思います。子どもと大人が語るなどいくつかパターンが出てきましたが、特に面白いと思ったのは、これから新しい活動をしていく若い方と高齢者の方が語る場をつくろうというアイデアが一つあり、これはとても大事だと思いました。私の暮らす波根町でも高齢の方と若い方の意識の乖離が結構あり、若い方が新しいことを始めようとしても高齢の方に阻まれてしまう傾向があり、そこを改善するために高齢者の方と若い方が話していく機会があるという話がカタリバの中で面白い話でした。

共通して出ていたところと言うと、地域資源というか、空いている施設を活用していこうという話は結構ありました。空き家が増えていることを使ってシェアオフィスやコワーキングスペースのような、先ほど話のあったフリ



スペースみたいなところを作ろうということだったり、学校が合併によって空いているところも大田市には結構あるので、そこを子どもたちが遊び場が少ないというところに対するレジャー施設として活用したりすることで、しっかりした遊具を入れるほどでなくても立ち絵場ボールプールを設置するとか、体育館であれば親が見渡せて安心だということも含めて、活用していく。

もう一つは僕の関係するところですが、僕は大田市波根町の波根八幡宮という神社の宮司なのですが、神社寺子屋をやって子どもたちが学べる場所を作ってはどうかというのを考えています。

あと、お金の学校から子どもたち、親子で学べるお金の学校という意見が一つあり、その最終系として子どもたちに地域でお店を出してもらおうという意見が2件あり、これが繋がったら素敵だねという話をして終わりました。

### [C グループ]

大きく人とのつながり、地域資源、子育て・教育という3つのカテゴリーに分けることができました。

人とのつながりの中で押しの取組ですが、「大高女子会」「仁摩高女子会」ということで、今滞在中の大田市出身ではない方、保育園留学で来ている方のお母さんのお話を高校生たちが聞く機会を設け、どういう気持ちで大田に来たとか、大田に住んでいる女子高生が、どう大田を見ているのかとかを客観的に知る機会、単純に大人の方と交流できるいい機会があったらいいのではないか。そこでは行政としてはできたらおいしいスイーツの差し入れをしてほしいなという話が出ました。

学ぶ＝遊ぶ＝出会いということで、市内の若手社員が交流する機会を多く設け、横のつながりを広げて学びながら交流を深めながら出会いの場やコミュニティをつくる場に繋がれたらという意見も出ました。

地域資源の話では、サップ海岸巡りということで、大田市の海岸を東から西まで一気にサップで行くという過酷ですがニッチな人には響きそうなツアーのアイデアがありました。

中学生・高校生の地域ポイントゲームということで、市内のいろんな名称へ行ってご飯を食べたり、体験したりすれば市内で使えるポイントがもらえるというアイデアがありました。市がやることとしてはアプリの開発。

地域の写真展ということで、小さいコミュニティが対象の写真展をやって、阿武町で出たような写真みたいなのが、きっと大田市の各地域ごとに素敵な場面があると思うので写真展をすることで、それが外にどんどん広がるようなことになれば楽しいという話もありました。

子育てのところでは、今やっているチームメタボリクスという脂肪を燃やしてバスケをするという取組で、人とのつながりもできて、その父を見た子も父にあこがれを抱くということで、脂肪と一緒に燃やすという素晴らしい

取組もあったので、僕もぜひ行ってみたいと思いました。

## ■総括

### 〔藤山所長〕

素晴らしい意見をありがとうございました。ただ、これで終わりではなく、我々はすぐに今日出た意見を皆さんや欠席者へお返ししたいと思います。皆さんも他グループの発表を聞いて、それならこういった取組もということもあると思いますので、それを11月中でまたご意見をお寄せいただけるようお願いしたいと思います。そして、それらのご意見を予めまとめたものを12月19日の第4回調査検討委員会開催の一週間前には皆さんにお送りし、拝見いただいた上で、第4回を迎えるような段取りをしたいと思います。また、本日のアイデアの中で、行政としてもこれはやってねというのが出てきましたので、こちらは11月中に2回庁内検討委員会がありますので、その中でできるものから検討していくという流れになっていくと思います。

Cグループの意見にあったように、大田市の魅力としても鏡が必要ですので、せっかく今来ていただいている方が鏡となって、次の世代に伝えていくことや、また、人との出会いにおいてもいきなり対面するというよりも、一緒に自然を楽しむ、汗を流すという共通のものがある中でだんだんと距離が縮んでいくようなことも大切ではないかという発表をいただいたと思います。

今日いただいた意見を麴に意見を充実させていけたらいいなと思います。

### 〔村岡座長〕

本日おそらく20分くらいの作業時間で、今日のこの人数で40~50くらいアイデアが出ていますよね。このダイナミズムを皆さんで共有できていることが今日の会素晴らしかったなと思います。この中もおそらく発表があったものだけでもいろんなタイプのものであり、よく見ると、行政が引っ張っていくような力強いものがあったり、ちょっとしゃべろっかぐらいのところから始められるものもあって、こういう複合的にたくさんある方が結果として町として強いと思います。しっかりがつつりやるものしかできない町はその力強さもあるかもしれないけど、一方でそこがダメになったらどうするのというところもあります。こうしたささやかなものも含め、サンゴ礁的にいろんなタイプのものでこれだけ並ぶということが、実現できる可能性が、力強さになると考えてみていました。

個人的に見ていて気持ちがいいなと思ったのは、発表する皆さんも聞いている皆さんもニヤニヤして聞いていたじゃないですか？笑顔がすごい今までの会の中でも一番多かったと思って、町のことを考えるのって楽しいなという実感を共有できたら嬉しいなと思っています。この会自体も前半は大田のシビアな数字を見てグッてなる部分もありますが、一方でまだできるこ

とあるよねという視点で考えたらこれだけアイデアも出ますし、皆さんもニヤニヤするというところに現れていたのではないかと思います。

皆さん今思想的には、使えるもの使える人はどこかにいないかしらという目になっていると思いますので、今日この会が終わった後もそういう視点で町で過ごされると思いますので、皆さん自身のこういった経験もできれば帰ってからご家族や友人と共有して、そういうのって阿武の事例でも言いましたが伝搬するので馬鹿にならないので、そういうところから是非ニヤニヤしながらあれできないかこれできないかなというささやかな作戦会議をこの場以外でも始めていただけたらいいかなと思いました。

#### (4) 第4回 調査検討委員会

日 付	2023年12月19日(火) 13時30分～16時30分
タイトル	第4回調査検討委員会
内 容	<p><b>1. あいさつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本日はアクションプランの仕分けと具体化を行う予定である。</li><li>・後半のワークショップに時間を取りたいが、前回から今までのところで中学生のアンケート結果を抜粋して説明し、ワークショップを行う。</li></ul> <p><b>2. 中学生アンケート結果の報告</b></p> <p><b>[藤山所長]</b></p> <p>11月に庁内連絡会議で議論し、それをふまえて今回は前回の取組案をブラッシュアップさせる場として設定しています。</p> <p>以前天気図ワークショップをしましたが、今回は行政の既存の取組もにらみつつ、皆さんの取組案をブラッシュアップしていきたいと思いますので、頭の片隅に置いておいていただければと思います。</p> <p>中学生は各学校の2年生を対象にアンケートし、約8割の回収となりました。2年生を対象としているため、今後の自分の進路を考える年ということで参考になる意見だと思っています。</p> <p>大田市への愛着は基本的には感じている方が多く、進学・就職先は中学生なので基本進学という回答が多くなっています。</p> <p>人口分析のときに高校に入る段階から一部市外に出てしまう子がいるという結果もありました。アンケートでもだいたい2割程度が市外の高校進学の希望を持たれているという結果でした。</p> <p>大田市への居住意向については、高校生と同じ傾向で、4割くらいが大田市外に出る意向を持っていました。</p> <p>大田市に将来居住すると答えた理由の中には、示し合わせたように、高校生と同じ項目を選ぶ人が多い結果となりました。</p> <p>居住しない理由は、行きたい大学、専門学校がないからというのが多かったのと、都会の生活に憧れがあるからという項目についても注目すべきで、高校生の2倍近く中学生の方が多い結果となりました。</p> <p><b>3. 本日のワークショップ</b></p> <p><b>■前回の振り返り</b></p> <p><b>[野村研究員]</b></p> <p>これまで我々から示した分析結果を基に、大田市であつたらいい取組を取組カードに書いて出していただいた。最終的には前回で60案、その後追加にいただき全部で70案になりました。今回カード形式にして並べています。</p> <p>11月の庁内連絡会議で、皆さんから出していただいた70案について、大</p>

田市の各課において、自分の課の事業の範疇か、他課と協力すればできる、一部協力できる、取り組むのが難しいもの、に振り分けていただきました。行政の既存の事業の用紙の中で星印が付いているものは、皆さんが出した取組シートアイデアに関連している事業です。星印が付いている事業の中でも関わり方に濃淡はありますが、関連しているということで、見ていただければと思います。

なお、本会議の前に、庁内において令和6年度と令和7年度に取り組むことが可能そうな事業はあるかということで整理いただきました。特に、令和6年度については、全く新しい事業に取り組むのは難しいものの、令和7年度については、来年度準備して、令和7年度からはスタートできるのではないかとと思われるものを整理しています。

#### 4. 発表

##### [A グループ]

##### ■市民みんなの給食の日

まずスケジュールですが、令和6年度は実行委員会の立ち上げ、モデル地区の選定を考えています。

課題としてどれくらいの参加があるか、給食センターで作ってもらうための費用負担（市がもつのか、参加者が支払うのか?）、通学路をある程度剪定する必要があります。

市民だけではできないので、行政の協力が必要と考えていますが、子どもたちが食べている給食に市民の理解が必要であると思います。ただ、市民主体でやるのは難しく、では誰が主体になるかが一番難しいです。そのため、実行委員会を市民主体で立ち上げ、学校や教育委員会との調整が必要であると思っています。また、給食関係を想定したものではありますが、通学路を使用するため警察との調整も必要であると思っています。更に、自治会を通すのか通さないのかについても検討が必要と思っています。

##### ■子育てにやさしいまちづくり

父親母親たちのリアルな声を市役所も交えた話し合いの場を想定しています。一方で、市役所の方ばかりが集まるだけだとやりづらいため、市民と一緒に参加してもらうことで、固くなりすぎず、愚痴も吐くけど、提案として市の職員の人に動いてもらえるようにしたいと思います。それにあたり、子どもたちの託児をしてもらえる託児サービスのサポートが必要です。また、託児してもらえる場所の把握、参加してもらいやすい場所や日程調整が課題です。

## [B グループ]

### ■地域資源活用サークルで男女の出会い

地域資源というテーマは幅広いため、大田市でもかなり問題になっている空き家を活用しようと考えました。

その際に、空き家等解体ワークショップは単に解体するだけでなく、解体資材を使った何かが出来ればと思っています。

空き家を活用したワークショップなので、大田市が誇る大工さん、森林組合の方にも入ってもらえないかなと思いました。大田市の若い男女が誰なのかというのは残りつつ、解体ワークショップなので、その空き家をどう集めるか。

## [C グループ]

### ■きまぐれマルシェ & 地区巡回型マルシェ

まず、この取組は、すぐに出来そうという視点で選びました。

市民主体のため地元の元気な人（松場さんや宮里さん）がいたらいいと思っています。また、各まちづくりセンターで実施するとなると、足がない人のお手伝いができるかなと思いました。マルシェなのでいろんなものがあると良いので、オーガニック農家さんなどテーマに沿っていろんなものが揃うと良いなと思いました。仁摩高校は既に商品開発をしているので、そういった形で関わることができればいいなと思いました。農林大学校も野菜やお花をつくっているのので、そこに協力を得られたらいいなと思いました。

スケジュールはやりたと思ったときにすぐできるので気まぐれと書きました。

### ■中高生と若手企業継業家のリンク塾&企業継業ネットワーク

定住にも関連すると思い、68 番の取組と 69 番の取組を組み合わせて考えました。

取組の体制と役割は、産業企画課からビジコンのような形で広報し、起業したいというモチベーションを中高生に持たせられるように教育委員会と一緒に出来たらいいなと思います。また、市内の商工関係者、事業を継承している人や起業した人にメンターになってもらうことが必要と思っています。特に、女性経営者にとっては子育てと仕事の両立がとても難しい社会なので、子どもの時から自分のライフワークをイメージしてもらいたい。

## 5. その他

### [村岡座長]

今回の調査検討委員会は、検討のボリュームが大変多かったと思いますが、皆さんスムーズに作業いただいたかと思います。一方で、本日の作業を通じて前回で勢いよく取り組もうと考えたものの中で実際にやろうとして考えた際

に、実現に向けて少しハードルを感じる部分が見えてきた会だと思いました。

最後の話を受けて、個人的な思いとしては、何か特定の事業を強調することを恐れなくて検討して欲しいと思います。取組を検討する中で、どの街にも当てはまるようなことが出てくるとは思います。それに加えて大田市にとってこれは外せないという特色をつけていく、メッセージをつけていくことに勇気をもって次回を迎えていただけたらと思います。

**【藤山所長】**

次回2月の委員会では今までやってきたことのまとめ、大田市ならではの人口減少対策についてご提案したいと思います。そのために皆さんには事前に骨子をお配りして、すぐに議論に移れるようにできたらと思います。

そうした今年の調査分析のまとめ、踏み出すとしたらこういった方向になる、そしてその具体策をもって、3月の市民フォーラムに臨めたらと思っています。

(5) 第5回 調査検討委員会

日 付	2024年2月19日(月) 13時30分～16時30分
タイトル	第5回調査検討委員会
内 容	<p><b>1. はじめのあいさつ</b> [野村研究員]</p> <p>これまで検討してきた内容を市民フォーラムにて発表させてもらおうと思いますので、今日の最後で決めたいことご意見いただきたいこともありますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>市民フォーラムに向けての建付けをまず説明させていただきまして、それに向けて本日何をするかを説明させていただけたらと思います。</p> <p><b>2. 市民フォーラムについて</b> [野村研究員]</p> <p>市民フォーラムの内容は、まず人口推計の結果、アンケート調査、ヒアリング調査の調査結果を弊所より発表します。3番目、4番目は皆様にご協力させていただきたいところで、40分間で発表したいと思います。最初に村岡座長より委員会の全体像や主な流れをご説明いただきたいと思います。その後アクションプランの提案について、皆さまの中からどなたかにご発表いただきたいと思います。村岡さんを始め、委員の皆様から2、3名ほどご登壇いただきたいと思います。</p> <p>また、アクションプランをふまえて、改めて大田市に必要なこと、方向性についてをパネルディスカッション形式で議論いただきたいと思います。</p> <p>村岡委員長、委員の中から2名、高校生2名、地域のIターンの方もしくは地域の方1名にご登壇いただきたいと思います。</p> <p>この会の最後にご登壇いただく委員さんを決めさせていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p><b>3. これまでの振り返り</b> [野村研究員]</p> <p>これまで、大田市の人口分析に始まり、地区別の人口動態についても見ってきました。社会増減率一つをとっても、必ずしも縁辺部から状況が悪くなっているのではなく、地域によっては人が逆に入ってきているところ、様々な結果があったかと思います。</p> <p>そういったところの状況を見て皆様と共有させていただきました。それから、モデル地区調査として、地元関係図を作成し、地域の様々な組織、団体を明らかにしました。そして、その際に、地域の人口の増減についてを分析させていただきました。そして、高校と各市民団体の皆様にヒアリング調査をさせていただいて、その結果を共有させていただきました。これがまず第</p>



一にあります。

次に、行政の既存事業の調査を実施しました。大田市で取り組んでいる行政の事業がどのように強弱があるのか、期待の強弱を関係図で表していきましました。

人口減少の要因についてもまとめていきましたが、人口減少については女性の流出がかなり多い、出ていってからの取り戻しが弱いところが要因として見えてきました。しかし、地域によってかなり異なっていることもわかりました。これについてはむしろ、地域ごとの違いが大田市としての多様な地域の特色とすることができるのではないかということ議論してきました。

これまでの調査結果をふまえてどういった取組が必要なのかを皆様の方に考えていただきました。

前回 70 あるアイデアの中から皆さんの方で 6 つのアクションプランを挙げていただきました。この内容を市民フォーラムで市民の皆様に対して提言していきたいなと思っております。

**【村岡座長】**

今回のアクションプランを改めて何のために取り組むのかについて教えていただきたいです。

**【藤山所長】**

後半で、以前見ていただいた分ですが、地元根付いて守り育てることがあるのですが、4つの場づくりが大事だと思っており、働く場、交流の場、地元の場、居住の場があり、この場のどこにこのアクションプランが応えようとしているのが大事になってくる部分です。そしてこれからアクションプランの具体化を図る中で、合わせ技で具体化を図る部分もあろうかと思えます。それぞれのアクションプランが市全体なのかコミュニティなのかといったどこをターゲットにしているのかについて皆様に検討いただきたいところでは。

それから、補足して申し上げますと、先ほどのデータ分析からもかなりはっきりした傾向がでており、大田市に限ったことではないが、20代女性の居住選択が鍵になってくるだろうと分析しています。特にこのアクションプランが若年層の女性に大田市の魅力や地元の良さについてを伝え、もっと魅力を増していくことが大事であると思っておりますので、若年層の女性に対して、大田市に入ってきてやすいようにしていくにはどうしたらいいのかについてご配慮いただきながら検討いただければと思っております。

#### 4. 本日のワークショップ①

**【Aグループ】**

##### ■市民みんなの給食の日

大人が給食に来て配膳するというのはなかなか難しいなと話していて、地域食堂のようなものがないのではないかと議論になりました。

地域の多様な世代が集まり、子ども大人で食事をつくる、一緒に食べながらコミュニケーションをとって子どもも故郷の良い事を知り、戻ってくることに繋がるのではないかなというイメージで作りました。

#### ■子育てに繋がるまちづくり

子育て世代であったり、今後子育て世代になるプレママやプレパパは様々な悩みを抱えていると思いますが、そういった方々が集まって話せる場ができるようになればいいと思い提案しました。現状では、行政でもいろんな取組をする相談の場はありますが、来る方は来るがなかなか来られない方がいることと、子どもがいると大人同士の話し合いができないので、子どもを預ける場が必要と考えました。有料だと利用しづらいので、無料で預けられて、その間自由になれて、髪を切りに行っても良く、時間内に戻ってきても良く、元気になって帰っていくような場面を想定しています。

#### 【Bグループ】

#### ■地域資源活用サークルで男女の出会い創出

主体をどこにするかを前回からすぐく悩みましたが、行政がある程度主体となって、キーパーソンとして大学生と繋がって、森林組合や大工さんたちを巻き込んで、その人たちにどうやって地域資源の活用のイベントをやるかっていうところを計画してもらおうという感じでスタートしました。

行政が世話役になって、この若い学生さんや大工さん、森林組合の人たちが企画の提案者となって、若い男女を巻き込んで一緒に地域資源を活用したイベントをやるという流れを考えました。

この素晴らしい4コマ漫画を見ながら説明させていただきますと、まず1コマはスタートとして、この今立ち上げの時の世話役や提案者の皆さんがアイデアを持ち寄って、大田にはこんな資源があるが、これを使ってどんなイベントをしようと企画するのが1コマ目です。

2コマ目はじゃあこんな風に宣伝をしようという様子です。3コマ目はいよいよイベントを実施した様子です。海辺の漁師小屋や空き家を使って、流木等を使って皆で使えるテーブルや椅子を作ろうというのをみんなで楽しく集まってやる様子です。最後4コマ目のところでは次は何するってということで、せっかくテーブルと椅子を作ったから、今度はそれを置くための、この今会場となっている小屋をみんなでなんか素敵に直してみないかといった場面を描きました。

## 【Cグループ】

### ■地区巡回マルシェ

過去にやっているやっていないにも関わらず巡回型で各地区持ち回りで年1回くらいやることを考えています。

実施するためにはまずはまちづくりセンターでまとめてもらい、地元の元気な人たちに声をかけながら、地元の地域団体をまき込んでいく流れを想定しています。

4コマ漫画ですが、1コマ目は地元の元気な人たちが「こんなのあったらいいな」という場面を想定しています。2コマ目は地元の高校生などが集まって皆で考える様子、そして3コマ目は「そんな大変じゃないさ!」となり、4コマ目で実際にやってみることで、地元の物を食べてもらった参加者に地元の良さを感じ、愛着を持ってもらうことで、若い人に大田市にまた帰ってきてもらいたいと思ってもらえる場面を想定しています。

### ■中高生と若手企業継業家のリンク塾

特に20代、30代の女性を対象とした、中高生と若手企業家を繋ぐリンク塾を提案します。この取組では、女子生徒をメインターゲットとし、彼女たちが将来、子育てと仕事を両立させる際のノウハウを学べる環境を提供したいと考えています。

具体的には、教育委員会と産業企画課が連携し、既に起業している事業者や起業を志す中高生、社会人を繋げる体制を構築することを想定しています。このプログラムでは、実際の職場体験を通じて、仕事の知識だけでなく、生活全般にわたる知見も共有できるようなカリキュラムを考えています。ここでのポイントは、授業時間外の活動として、例えば大高ラボのような既存の施設を活用し、実際に職場体験を行っている中学校の取組に連携することです。この種の教育活動は、即効性は期待できませんが、教える側と学ぶ側双方にとって長期的な視点から見たときのメリットは大きいと考えています。企業側にとっては、地域への貢献やモチベーションの向上といった形で、良い循環が生まれることを期待しています。

また、このプロジェクトを通じて、4コマ漫画「放課後マイウェイカフェ」を作成しました。この漫画は、キャリアと私生活の両立に悩む女性の物語を描いており、キャリア教育だけでなく、人生相談の重要性を訴えかけています。この取組から得た教訓として、「子育てがどれほど大変か」や「仕事と家庭のバランスの取り方」など、実生活における課題についても、教育の場で取り上げるべきだという点が挙げられます。さらに、転職や移住を伴わないキャリア形成のサポートも、今後のデジタル時代において重要になってくると考えています。

このリンク塾を通じて、将来的には地元へのUターンや、地域社会への貢献という形で、参加者が自身のキャリアを地元で継続できるような環境を整

えたいと考えています。地元としても、このような取組を積極的にサポートしていきたいと思います。

#### 5. 本日のワークショップ②

(時間が不足したため、発表は未実施。)

#### 6. 本日のワークショップ③

(時間が不足したため、発表は未実施。)

#### 7. その他

[藤山所長]

本日の会議を締めくくるにあたり、多忙の中、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。時間の制約により、一人ひとりからのコメントを伺うことができなかつた点は残念に思いますが、次回の会議に向けての重要なポイントを共有させていただきます。

次回の会議は3月30日に予定しております。年度末の忙しい時期ではありますが、万全の準備をもって、皆様のご参加をお待ちしております。今回ご推薦いただいた案件に加え、パネルディスカッションの準備も進めておりますので、積極的なご参加とご意見をお願いいたします。また、楽しいキーワード方式を取り入れた形式で進めていく予定ですので、ご期待ください。

また今後についてですが、本委員会の活動は今後も続けていく必要があると感じていますので、引き続きご協力をお願いいただければと思います。

今年度の活動を通して、多くのアイデアや情報が交換され、非常に有意義な時間を過ごすことができました。村岡座長をはじめとする皆様の貢献に深く感謝しています。報告書の作成も進めており、皆様の意見を反映させてさらに内容を充実させたいと思います。

今後のスケジュールや方針については、3月30日の会議で詳細を報告し、市民の皆さんにもご理解をいただく予定です。そのためにも、皆様の引き続きのご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、この一年間、大変お世話になりました。残りわずかな期間も、引き続きご協力をお願いいたします。本日は長時間にわたり、本当にありがとうございました。

## II 庁内連絡会議

### 1. 委員名簿

	課名	業務	人口減少対策との関連	委員氏名
1	政策企画課	・事務局		田中課長
2	まちづくり定住課	・定住促進、空家の利活用 ・出会いの場創出 ・結婚支援	・転入増加、 転入者の住まい ・出生数増へ	梶野課長
3	都市計画課	・市営住宅	・住まい	石田課長
4	産業企画課	・企業誘致、産業支援 ・事業所支援、労働者福祉	・雇用創出、雇用拡大、 所得拡大 ・労働者福利厚生	森安課長
5	子ども家庭支援課	・母子保健	・妊産婦支援、出産支援 ・乳幼児支援、発達支援	安田課長
6	子ども保育課	・子育て支援施策、保育園	・子育て支援	中村課長
7	学校教育課	・学校運営、教育の魅力化	・学校・家庭・地域連携 ・ふるさと教育、 市内高校進学	川津課長

### 2. 協議の経過

回	日時	テーマ	主な議論
1	5/24	本事業の取組方針・スケジュール 人口分析等の共有 人口減少対策に関する大田市の事業について 今後の調査等に関する方向性について	人口動態に関する意見交換 イチオシの事業に関する共有
2	11/7	各種調査結果の振り返り アクションプランの実現に向けた方向性の検討	アクションプランに対する今後の方向性についての検討
3	11/21	各種調査結果の振り返り アクションプランの実現に向けた支援体制に関する検討ワークショップ	アクションプランの検討

### 3. 記録

#### (1) 第1回庁内連絡会議

日付	2023年5月24日(水) 14時00分～16時00分
タイトル	第1回 庁内連絡会議
内容	<p>1. 本事業の取組方針・スケジュール</p> <p>■取組の方針(大田市の人口分析と定住戦略を進める「4つの勘所」)</p> <p>・藤山所長より、取組の方針について以下の「4つの勘所」が解説された。</p> <p>① 綿密な分析によるエビデンスに基づいた政策形成</p> <p>② 大田市と各地区の特色、強み、固有性を生かすポジティブな定住誘導</p> <p>③ 女性・男性、子ども～高齢者を横断する4つの多様な居場所づくり</p> <p>④ 100年先を見据えた循環型社会の中での大田市</p> <p>2. 人口分析等の共有</p> <p>&lt;全体編&gt;</p> <p>■人口推計結果</p> <p>・藤山所長より、大田市全体の人口推計結果について解説された。</p> <p>■ライフステージ(出生～幼少期～進学・就職期～結婚・出産期～子育て期)を通じた年代人口の長期的変化</p> <p>・持続可能な地域社会総合研究所・所長・藤山氏より、資料と基に考え方と大田市の分析結果について解説された。</p> <p>■人口循環率算定と要因分析</p> <p>・持続可能な地域社会総合研究所・所長・藤山氏より、資料と基に要因の中で何が人口の再生産に効いているのか考え方と想定される要因が解説された。</p> <p>■人口循環率の良い自治体の取組～兵庫県明石市の事例～</p> <p>・藤山所長より、明石市の事例が紹介され、その後大田市の人口分析結果を含め庁内委員による質疑応答・意見交換が行われた。</p> <p>【質疑応答・意見交換】</p> <p>・過去5年間で地域の状況が改善されているかについての意見交換が行われた。一部では他市と比べて地域の努力が評価される意見が示されたが、改善を感じていないとの声もあった。20代30代の増加に関連して、IT誘致施策が効果を発揮しているとの評価が紹介された。男性の増加理由については、新しい工業団地や企業の関与による雇用増加が指摘された。地元就職を選ぶ高校生が増加していること、および進学を望む生徒が増えている</p>

が、将来的には地元に戻ってくるという展望も共有された。この情報交換を通じて、地域の現状のプラス面とマイナス面を分析し、さらなる改善策を探る必要性が強調された。

#### <地区別編>

##### ■地区別の人口分析結果について

- ・持続可能な地域社会総合研究所・所長・藤山氏より、資料と基に全27地区の現状分析、予測、安定化シナリオが解説された。その後、27地区の比較地図を見ながら、意見交換を行った。また、藤山所長より、なぜ各地区でこれだけ結果が違うのか、目立っている地区を中心にヒアリングをかけること、市民や地区の方向けにわかりやすくかわら版にまとめ、広報で発信することの2点提案がされた。

##### 【意見交換】

- ・村田製作所の関係者が多いこと、長久のアパートへの入居者が目立つ状況が指摘された。池田地区では農村 RMO の取組が進められているが、高齢化率の高さや山間部での社会増減率のばらつきが課題として挙げられた。特に祖式地区の高い社会増減率の理由について、まちづくりセンターへのヒアリングを提案された。意外にも祖式地区は、その地域性からは想像できない結果が出ており、これといった産業がないにもかかわらず、勇気づけられる結果と評価された。市民や職員もこの結果についてはあまり感じていない可能性が高く、特に祖式地区と大屋地区の結果は予想外であった。大屋地区については、人口が減少していることが意外な結果として捉えられた。

#### 1. 人口減少対策に関する大田市の事業について

各課より、所管事業について紹介された。

- ・産業企画課では、大田市独自の事業についての議論が行われ、村田製作所をはじめとした企業の影響力に触れ、どの年代や性別に効いているかの情報共有に関する話を紹介された。
- ・学校教育課では、「おおだ教育魅力化推進事業」を中心に、地域の特色ある資源を活用したふるさと教育の実施や、高校での地域探求学習、情報化社会への対応、市外への進学生に対する大田に戻ってきたくなるような政策案などが紹介された。
- ・子ども家庭支援課は、不妊治療の助成や、補助金利用の周知方法、虐待ケースの事前把握などについて話し合わせ、UI ターン促進への取組が紹介された。
- ・子ども保育課では、手当関連や「地域子育て支援センター事業」の施設整備、社会全体での子育て支援、出産傾向の変化などについて紹介された。
- ・企画政策課では、「特定地域づくり事業協同組合支援事業」についての話題

があり、大森地区での協同組合による効果、今後の展望等について紹介された。

- ・まちづくり定住課では、定住移住の実績、新型コロナウイルスの影響、リモート開催の移住相談会、SNS を活用した情報発信、25 歳同窓会の開催などが紹介された。

#### **【意見交換】**

- ・ 中学から高校への進学で生徒が市外へ流出している状況についての話があり、これについて学校に対して大田市の情報が届きずらくなっている問題を指摘した。コロナ以前は直接学校に訪れて情報提供を行っていたが、コロナ禍でその活動が途絶えた。産業企画課では、IT 人材を誘致する事業を進め、数名の業者が大田市に移ってきていることが示され、これが地域に新たな活力をもたらしている例として挙げられた。
- ・ それから、地域の小さな成功事例を積み重ねる重要性を強調し、NHK の番組で取り上げられた大森地区の例を挙げた。地域全体としての情報発信の重要性と、その影響力について言及された。また、多角的な政策の必要性や、異なる年代や分野間での連携の大切さが説明された。
- ・ 補足情報として、子育てにかかるコストや、生活設計に基づいた政策展開の重要性が話された。広島県三次市の事例を引き合いに出し、地域ごとの取組や成功事例の共有の重要性が強調された。特に、女性特化の起業支援センターの設置や、移住者同士及び地元住民との交流を通じた女性の起業支援の成功事例が紹介された。
- ・ 全体を通じて、大田市における多様な政策の必要性、連続性の確保、そして地域固有の取組を活かした政策づくりの重要性が話し合われた。

### **3. 今後の調査等に関する方向性について**

- ・ 持続可能な地域社会総合研究所・所長・藤山氏より、今後の調査の方向性について、現時点でのたたき台が示された。今後は検討委員も交えた場で、具体的な調査手法や調査項目を検討し、意見を盛り込みながら決めていくという方向性が説明された。

#### **■長期的な持続可能性の視点**

- ・ 持続可能な地域社会総合研究所・所長・藤山氏より、今後の循環型社会に向け、長い目で見た安心な地域づくりを示すことが、次世代を担う今の若い世代や子どもたちにとって必要であることと解説された。



#### 4. 今後の協議スケジュールの確認

##### ■今後の調査、次回の調査について意見

- ・ 次回の議論では、人口分析結果の共有、産業部門の追加、ヒアリングやアンケート、モデル地区に関する方法や手法についての議論が予定されている。特に産業に関しては、各年代がどういった雇用を支えているかを5歳刻みで男女別に分析し、大田市の雇用状況を詳しく見ていくことが目指されている。現在、医療福祉、製造業、卸売り・小売りが主な雇用分野であることが指摘され、特に子育て世代の雇用支援に焦点を当てる。また、誘致企業の具体的な実績も議論の対象となる予定である。
- ・ 外国人住民に関しては、今日の議論では触れられていないが、教育現場での外国語話者の子どもたちの支援や、その家族の雇用に関する市全体でのサポートの必要性が語られた。大田市における外国人労働者の実態や、特にブラジル人住民が直面している問題についても話された。これらの事例を踏まえ、外国人住民の状況を統計的に分析し、地域に溶け込むための工夫や労働条件の改善の両面を見ていくことが提案された。

##### ■閉会のあいさつ

###### [桑野政策企画課長補佐]

4月に事業趣旨を説明しましたが、今日の藤山所長の話をお聞きいただき、桑野はあれが言いたかったのではというのがお分かりいただけたのではと思います。この事業は始まったばかりで、とりあえずは今年度調査分析、次年度以降の検討としていますが、かなりタイトなスケジュールになっています。その中で今後も色々なデータや資料を政策企画課で取りまとめ提出という場面もあるかと思しますので、引き続きご協力をお願いいたします。各課の事業についても、この後色々ヒアリングをしていくこともありますので、よろしくお願ひします。

関係機関の委員さんを各課でぜひこの人をというのを抽出、打診をしていただいています。委員が出席されるのが6月19日になりますので、今14人の枠のうち10人は出そろいつつありますので、声掛けが終わったところから委嘱のお願いなどの手続きに入っていこうと思いますので、できるところから進めていけたらと思います。いつまでかというと目安今月と思っています。

それでは第一回目の庁内連絡会議はこれで終了いたします。ありがとうございました。

## (2) 第2回庁内連絡会議

日付	2023年11月7日(火) 14時00分～16時30分
タイトル	第2回庁内連絡協議会
内容	<p><b>1. あいさつ</b></p> <p>[桑野政策企画課長補佐]</p> <p>10月27日に全体委員会を開催しました。そのときにグループワークをした際に具体的なアイデアを出していただいたところです。本日は、出していただいたアイデアを所管課で持ち帰っていただき、それぞれご担当課において、これについては自分の所管課で取り組めるのではないかと、他の課と連携すればできるといったことを分類仕分けていただくことが一番大きなところだと思います。持ち帰っていただいて、それぞれの職場内でもんでいただき、その結果を出していただくということにしようと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p><b>2. 各種調査結果の振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・持続可能な地域社会総合研究所 主任研究員 野村氏より、これまでの流れの振り返りとしてヒアリング結果のまとめ以下4項目についてご説明いただき、続けて各種アンケート結果についてもご説明いただいた。<ol style="list-style-type: none"><li>1. 多様な移住ルート：太田市へのアクセスチャネル<ul style="list-style-type: none"><li>・移住定住がポイント</li><li>・アンケート結果からも、回答者の半数がUIターン者 ⇒人口が流動的になっている。如何に外から呼んでくるか。</li></ul></li><li>2. 多様な出会いの場づくり<ul style="list-style-type: none"><li>・アンケートにおいても子ども同士で集まって遊ぶ場が少ないという結果が出ている<ul style="list-style-type: none"><li>・世代同士横に繋がったり、子どもからお年寄りまで縦のつながり</li></ul></li></ul></li><li>3. 移住定住の決め手の一つである空き家の活用</li><li>4. 希望を持てる将来のライフプランを立てるために</li></ol></li><li>・前回の調査検討委員会で出たアイデアを改めて説明した。</li></ul> <p><b>3. 今後の方向性について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・所管課で取り組んでいただく作業についての説明を行った。</li><li>・作業の実施にあたり、持続地域総研からExcelのデータを送信する。その後、所管課にてエクセルデータ上に作業した結果を記入し提出いただく。</li></ul>

(3) 第3回庁内連絡会議

日付	2023年11月21日(火) 10時00分～12時00分
タイトル	第3回庁内連絡会議
内容	<p>1. 各種調査結果の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山より、これまでの流れの振り返りとして各種アンケート結果について説明。</li></ul> <p>2. ワークショップについて</p> <p>■ワークでの作業内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・調査検討委員会で出された取組案及びその後の追加案も加えた全70案について、「来年度実施を想定している事業に対して、考え方などを取り入れることが出来そうなもの」と「令和7年度事業として実施が出来そうなもの」の2つに分類する作業を庁内所管課ごとに実施した。</li></ul> <p>■ワークの作業結果</p> <p>作業したのち、各課より検討内容の発表を行った。その結果についての概要を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・産業企画課では、教育現場との連携強化や若者とのコミュニケーション、地産地消、地域資源を活用した地域課題の解決などについて話し合われた。起業支援に関しても継続可能な経営を目指した支援の必要性が語られた。</li><li>・学校教育課では、実施されている教育プログラムや健康増進との連携、eスポーツフェスティバル、地元で働く若者との交流、給食会、職場体験学習などが話題になった。また、バーチャル技術を活用したミュージアム運営への協力も検討された。</li><li>・都市計画課では、都市公園や総合体育館の提供、駅前エリア整備など「場の提供」に関する内容が中心となった。市有地を活用し、市民に使ってもらえる空間の設計・整備の計画があった。</li><li>・子ども保育課は、保育所運営の公的枠組み内での活動や、保育士との連携の必要性、子育てサロンでの親子活動や市民の参加について語られた。</li><li>・政策企画課では、地域経営会社や特定地域づくり事業協同組合の関連、まちづくりワークショップ、出会いの場の提供、地区別の定住戦略作りなどが議論された。また、奨学金制度の研究状況やイベントの周知方法についても話し合われた。</li><li>・全体を通じて、教育、起業支援、都市開発、子ども保育、政策立案における様々な取組が提案され、それぞれの課での連携や具体的な事業計画について話し合われた。</li></ul>

### ■まとめ

藤山所長より、以下の点についてまとめをいただいた。

- ・大田市には注目すべき資源がある。無い物ねだりは不要。資源や人材が出会い繋がるのが、大田市のポテンシャルを活かすことになる。こういうところから実現を図っていくべき。
- ・駅前整備は、「出会い」「集い」「起業創業」の場づくりに大きく寄与すると思う。
- ・定住や子育てのあり方は、市全体だけでなく、地区レベルで考え細かな取組を進める必要がある。その際には地域経営会社の存在も必要で、「特定地域づくり事業協同組合」なども含め分野横断的な取組が必要と考えられる。
- ・一連の取組には、注目されるような名前を付け、発信することが求められる。
- ・70の取組案を「行政だけがやらなければならない」ということではなく、市民レベル、地区レベル、市全体レベルでできることに分類し、取り組むものを考えれば良い。12月には市民が取り組めるもの、市民と行政が共同して取り組めるものなどを、議論し整理したい。
- ・そのため、庁内関係課には、是非関係各所に対して周知をしていただきたい。また、全27地区で走り出すことが理想だが、動きがある地区、脈がある地区、必要性がある地区に参加してもらいたい。代表者のほか、現場で活動されている方も参加していただけるよう、各地区にアプローチが出来ると良い。

## **第6章 議員・職員研修及び市民フ ォーラムについて**



# I 研修会

本事業によって明らかになった大田市の課題や方向性について、議員及び職員への意識啓発を目的とした報告会を実施した。

## 1. 職員研修会

### (1) 実施概要

- ・日時：2023年11月21日13時30分～15時

### (2) 報告内容

1. 人口シミュレーション～大田市全体と他自治体比較
2. 地区別人口分析と現場ヒアリング
3. 各種アンケート調査結果（ハイライト版）
4. 大田市内外の取組事例



### (3) 主な意見

- 性的少数者を含めた多様なライフスタイルや価値観を考慮して、将来予測を立てることが重要ではないか。人口の約1割が性的少数者であり、全員が結婚するわけではない現実を踏まえると、公共政策や地域計画において、これらのコミュニティのニーズを考慮することが、より包括的で持続可能な社会づくりにつながると思う。
- 空き家の活用によるIターン支援の取組や、福岡から移住して開業した歯科医師の事例は、地域活性化の成功例として素晴らしい。地域に新しい活力をもたらす世話人制度の導入など、移住者をサポートする仕組み作りは、他地域からの移住を促し、地域経済やコミュニティの活性化につながっていると思う。
- 人口動態のことを聞いていると日本全体で考えたときに、単なる人口の取り合いになっているのではないかと感じたところである。また、大田市は出雲市のベットタウンのようにになっているが、ベットタウンで強みがあまりないと感じている。このように、大田市として他のまちとの違いを出していく必要がある。

## 2. 議員研修会

### (1) 実施概要

・日時：2023年12月21日10時～11時30分

### (2) 報告内容

1. 人口シミュレーション～大田市全体と他自治体比較
2. 地区別人口分析と現場ヒアリング
3. 各種アンケート調査結果（ハイライト版）
4. 大田市内外の取組事例

### (3) 主な質疑とその回答

質問：市外への進学問題への対応について良い考えはあるか。

回答：「出て行くな」とは言わず、大田市内で可能なことを若者に知らせることが重要である。

質問：人口再生産率の改善要因は何か。

回答：製造業への就労者増加と大森への移住者増加が要因と考えている。

質問：首長のリーダーシップについてどうあるべきか。

回答：派手さよりも、持続可能な仕組み作りが重要である。

質問：畜産業への投資についてどう思うか。

回答：市民主導での投資と取組が望ましい。

質問：地方分権と人口分布の影響について考えを聞きたい。

回答：分権化は地方の自然資源活用を促し、循環型社会への転換を促しているものと思われる。

質問：学校再編とソフト事業の重要性についての考えを聞きたい。

回答：子ども数の安定化と分野横断的な取組が必要。

質問：循環型社会構築への示唆と観光投資について何かアドバイスが欲しい。

回答：大田市には観光から巡礼への転換の可能性があり、宿泊を重視した経済的効果が期待される。



## Ⅱ 市民フォーラム（大田市未来展望フォーラム）

### 1. 開催概要

#### （1）目的

人口減少対策事業において実施した各種調査分析結果及び大田市の今後の方向性について市民に伝え、今後の取組の参考としていただくことを目的に市民フォーラムを開催した。

#### （2）開催日時/場所

- ・日 時 2024年3月30日 13:30～16:00
- ・場 所 島根県立男女共同参画センター あすてらす

#### （3）実施内容

地区別人口分析結果ポスター作製、当日の配布資料の作成、会の運営支援を行った。

#### （4）当日の流れ

13:30 開会 事業概要等の説明

13:40 第一部 調査分析結果の報告

- ・大田市の人口推計結果等について
- ・各種アンケート調査結果について
- ・全国の事例紹介
- ・質疑応答

14:15 休憩

14:25 第二部 調査検討委員会の報告

- ・委員会内での主な意見とその集約結果
- ・アクションプランの提案

15:00 第三部 パネルディスカッション

- ・①大田市の人口減少の要因とその課題
- ・②大田市全体で実践する取組みとその戦略
- ・③大田市全体及び各地元で実践する取組みとその戦略
- ・④未来に向けての提言

15:55 閉会 挨拶

16:00 終了

## 2. 開催の様子

### (1) 第一部 調査分析結果の報告

#### ア) 登壇者

- ・一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩

#### イ) 講演項目

- ・人口シミュレーション～大田市全体と他自治体比較
- ・地区別人口分析と現場ヒアリング
- ・各種アンケート調査結果（ハイライト版）
- ・全国の関連事例紹介

#### ウ) 講演の様子



#### エ) 主な質疑

質問：多文化共生の関係で、外国人材に注目した分析が無かったように思う。大田市には2%ほどの外国人材がおり、各企業もこれから必要不可欠な人材である中で、この点についてどのように考えているか。

回答：分析の方は進めており、特に20代を中心に大田市に来ていただいているといった状況である。全国を見ても、単に労働力としてみるのではなく互いにリスペクトして相互交流することが必要であると考えている。

質問：山陰中央新報の一面に消滅集落の一覧が出ており、その中で大田市の集落が多かったように記憶しているが、このことについてどう思われるか。

回答：まずこの記事は、あくまでも消滅“可能性”ということ論じられている話かと思われる。地域づくりの基本的な単位について、集落単位で考えるのではなく、卵を囲む卵パックのように、より近隣の公民館や小学校区でまとまって取り組むことが必要であると思う。ご紹介した地区別定住戦略についてもこういったイメージを持ってご理解いただきたい。大田市としても、集落同士が広域連携として取り組んでいくことに期待したいところである。

## (2) 第二部 調査検討委員会の報告

### ア) 登壇者

- ・村岡座長（調査検討委員会委員長）
- ・尾崎委員（調査検討委員会委員）
- ・尾原委員（調査検討委員会委員）
- ・松場委員（調査検討委員会委員）
- ・宮里委員（調査検討委員会委員）
- ・野村研究員（持続地域総研）

### イ) 発表項目

- ・委員会内での主な意見とその集約結果
- ・アクションプラン「子育て世代にやさしいまちづくり」
- ・アクションプラン「地域資源活用サークルで男女の出会い創出」
- ・アクションプラン「地区巡回型マルシェ」
- ・アクションプラン「中高生と若手起業継業家のリンク塾」
- ・第二部のまとめ

### ウ) 発表の様子



## エ) 村岡座長のまとめ

### ■アクションプラン「子育て世代にやさしいまちづくり」について

- ・このアクションプランのポイントとしては、大田市には様々な子育てサービスがある中で、いわゆるプッシュ型と言われる直接消費者に声を届ける手法を取っていることと、相談を目的としない気軽に立ち寄れる相談所というのを設けているという点である。

### ■アクションプラン「地域資源活用サークルで男女の出会い創出」について

- ・このアクションプランのポイントとしては、出会いを目的としすぎない交流の場という点であったかと思う。また、試しに自分達で作ってみるというユニークなアプローチでの提案であった。

### ■アクションプラン「地区巡回型マルシェ」について

- ・まさに“食は人を繋ぐ”ということで、マルシェという小さな経済循環を作ることにもつながる提案であったかと思う。巡回型にすることで、訪問側にとっても各地区を回ることができ、また、運営側にとっても、持ち回りで取組むことで、持続可能な運営を目指すことに繋がる提案であったかと思う。

### ■アクションプラン「中高生と若手起業継業家のリンク塾」について

- ・このアクションプランについては、エンパワメントという言い方をする場合もあると思うが、まとめると個人に力を付けるということがポイントであったかと思われる。また、着眼点としてはライフイベントにおいて様々な出来事が起こりうる女子学生を対象としており、自分の人生、大田での暮らしを自分事として能動的に決めることを促すような提案であった。

### ■今後について

- ・先日、大田市の中で本屋が無くなってしまおうというショックなニュースがあったり、出生数の減少、学校や校舎の老朽化や統廃合など様々な問題が報じられているところである。
- ・このような中で、今後皆さんが行動する上で意識してもらいたいポイントが2点ある。1つ目は徹底的に取り組んでみるといった視点であり、宮崎県美郷町のような取組など先んじてそういった世界に飛び込んでいくというのが一つの取りうる方法かと思う。
- ・2つ目が危機感と同じぐらい日々の生活の楽しさの面を共有するということが必要である。つまり、何をやっても実らないかもしれないという、ある意味“心の過疎”をなるべく起こさないように楽しく取り組んでいくことも大切だと思われる。
- ・会場の外にはパネル展示もあるが、今回のフォーラムのバトンを自分のピースにどう当てはめていくのか引き続き持ち帰って考えてもらえればと思う。

### (3) 第三部 パネルディスカッション

#### ア) 登壇者

- ・モデレーター（進行役）：藤山所長（持続地域総研）
- ・尾原委員（調査検討委員会委員）
- ・松場委員（調査検討委員会委員）
- ・笠松 奈々氏（島根県立瀬摩高等学校 2 年生）⇒現役高校生の立場として、2 人 1 組で参加。
- ・田中 瑠一氏（島根県立瀬摩高等学校 2 年生）⇒笠松氏と同様。
- ・安食 賢一氏（I ターンの立場として参加：and people）
- ・村岡座長（調査検討委員会委員長）

#### イ) テーマ

- ①大田市の人口減少の要因とその課題
- ②大田市全体あるいは各地元で実践する取組とその戦略
- ③大田市の価値と魅力の再発見・共有
- ④未来に向けての提言

#### ウ) テーマに対する回答

- ①大田市の人口減少の要因とその課題

回答者	キーワード	内容
尾原委員	地域への愛着	地域への愛着が増えることで人口減少対策につながる。楽しく豊かな経験があることで地域が好きになる、ずっといたいという想いが生まれる。
松場委員	ナナメの関係が減少	子どもにとって「ナナメの関係」とは近所のおじちゃん、おばちゃん、お兄さん、お姉さんである。人口減少やコミュニティの衰退により、昔は当たり前だった近所との付き合いが減少。逆に大人側は近所の子どもの名前を言うことができるのだろうか？
高校生	高校生の流出	就職は大田市の企業が多いが、進学になると大田市外・県外に出ていってしまう。ビジネスを学べる学校が県内にも少ない。
安食氏	魅力の伝え方	とても暮らしやすく良いものがある大田市。しかしその魅力を十分伝えきれていないのではないかな。
村岡座長	思い切り	中途半端だと 1 ピンも倒れない。どこかとがらせる思い切りが必要である。一点突破する勇気を！

②大田市全体あるいは各地元で実践する取組とその戦略

回答者	キーワード	内容
尾原委員	みんな家族（写真展とか）	小さな単位でつながりを深めたい。
松場委員	チャレンジする大人の背中	大田市は仕事場と暮らしの場が近い。つまり、まちで仕事をする大人と出会う場面が多いと言える。
高校生	不便解消	高校の授業で行ったアンケート調査結果において「不便だ」という声が多く挙がっていた。Uターンしてもらうには不便を解消していったらいいのではないかな。
安食氏	つながりネットワークづくり	個人で頑張っている人を繋げていきたい。区内、あるいは地区同士の繋がりづくりが必要。
村岡座長	大田を使い倒す	一つの場所にたくさんの役割を設けることが大切である。大田市の中で出来ないことは無いのではないかな。能動的に様々な人や市内にある資源を探し求めていくべき。

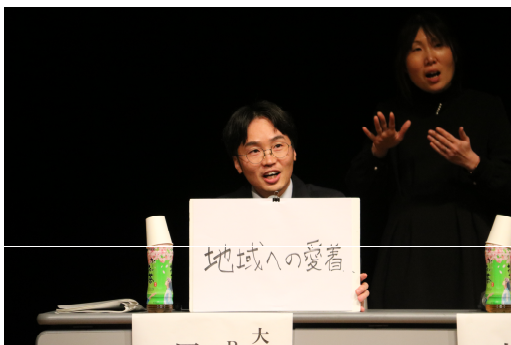
③大田市の価値と魅力の再発見・共有

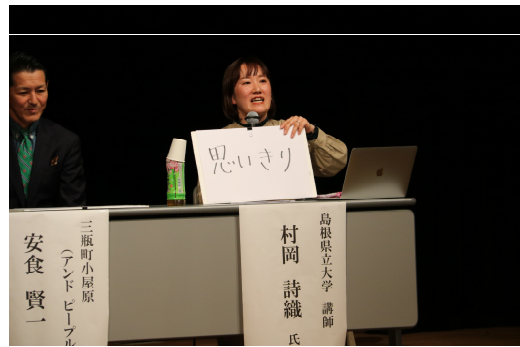
回答者	キーワード	内容
尾原委員	近さ	自然や文化や歴史が詰まっている大田市。人と人の距離が近い心地よさ。
松場委員	旅人を受け入れる心	日々大田市にいられている観光客（旅人）をまちが受け入れている中で、地域の良い部分を旅人が見つけ、結果的に地域の愛着が高まっている。
高校生	大森町の町	大田市にある世界遺産「石見銀山」。そして大森町は昔の空間を保ったままの暮らしが営まれている。
安食氏	宝が眠っている	宝はたくさんあるが、まだ眠っている。呼び覚ましたい（伝えたい、生かしたい）。
村岡座長	旧+新	大田市には“古い”歴史や文化の文脈が脈々と流れている。こうした旧来の誇りもあるが、“新しく”誇りをつくっていてもいいのではないかな。

④未来に向けての提言（漢字一文字）

回答者	キーワード	内容
尾原委員	愉	大人が楽しむ。その背中を見せることで次につながる。
松場委員	誇	時代を超え、地域を超え、国境も超える。
高校生	未	大田市は市としてはまだまだ未熟である。しかし、明るい未来もある。
安食氏	発	大田市をPR（発信）していくためのエネルギーが大事。大田の良いところを発見した伝えていくことで、大田市が発展していくのではないだろうか。
村岡座長	個	人口減少は目の前の一人一人が取り組むべきことでもある。外から入ってくる人も大事ではあるが、自分自身（個人）も大切にしていける必要がある。

エ) パネルディスカッションの様子







## 第7章 政策提言



# I 全体のまとめ

## 1. 地区別人口分析等から見る大田市の現状

大田市における人口動態の課題は、10代後半～20代前半の若者の流出と20代～30代のUターン・Iターン者が少ないことによる社会減にある。流出は中学卒業後世代を中心に始まっており、流出した人口はほとんど地元には戻らず、その後も40代後半世代まで流出傾向が続いている状況である。

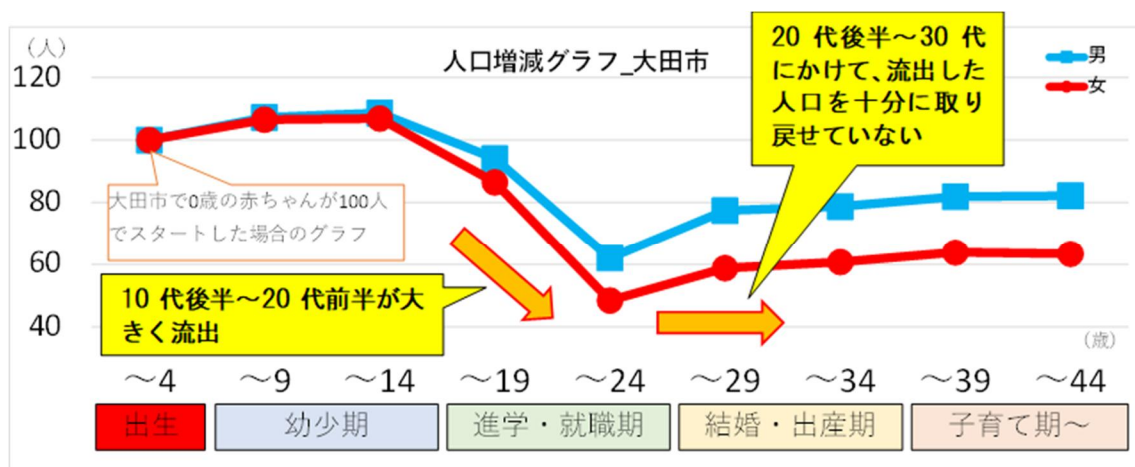
またアンケートやヒアリング結果からも、中学校・高校へ進学するタイミングにおいて、市外に出ていることが分かっている。このように、20代～30代の女性を含む若者世代の取り戻しが急務となっており、大田市全体としての魅力と求心力の向上が求められている。

一方で、地区別に人口をみると、大森地区や祖式地区では、社会増、移住者の増加がみられる。特に大森地区では、以前より地域全体で住みやすい環境づくりを進めている。このことは、地区によって異なる人口動態があり、地域の特性に合わせた特色ある地域づくりが求められていることを示している。

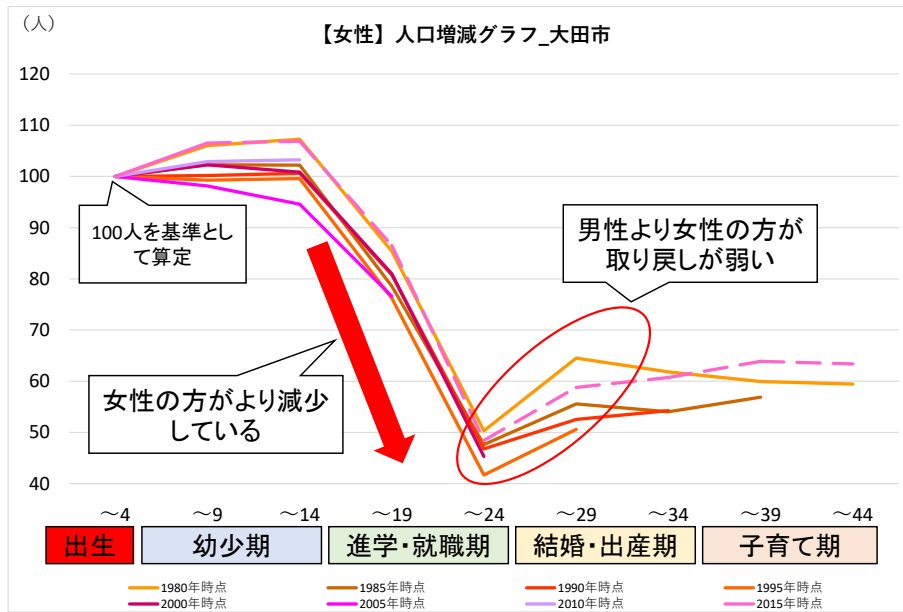
大田市における人口減少の要因は以下に集約できる。なお、このことは、第3章各種調査分析結果の人口に関する発展的分析結果において、弊所の独自試算により定量的にも明らかとなっている。

[大田市における人口減少の要因]

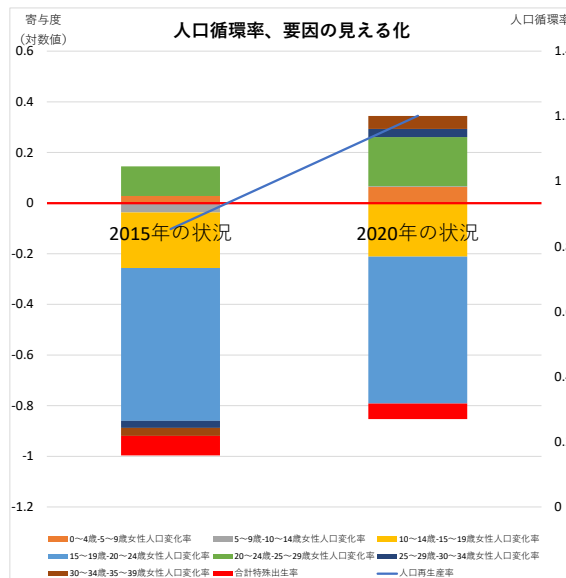
若者の流出	進学や就職を契機とした、若者の流出が見られる。更に、過去40年間と比較して、流出の傾向が強まっていることが分かっている。
20・30代でのUIターン者の少なさ	流入人口が少なく、特に若年層のUターン・Iターン者の動きが限定的であることが人口減少の一因となっている。



## ■大田市におけるこれまでの人口増減数【女性】(国勢調査より)



## ■算出結果(大田市)



大田市における人口再生産率については、2015年は**0.85**、2020年は**1.20**となっており改善はしているが、人口が置換可能な水準である「2」には到達していない。

最もマイナスに寄与しているのは、**15～19歳-20～24歳女性人口変化率**である。

つまり、出産期以前における流出超過の累積が少子化・人口減少の一番の要因となっている。

※対数変換による数値のプラスマイナスを表現するため、ここでの合計特殊出生率は、子ども女性比に2を掛けた数字としている。

データの諸元		0～4歳-5～9歳女性人口変化率	5～9歳-10～14歳女性人口変化率	10～14歳-15～19歳女性人口変化率	15～19歳-20～24歳女性人口変化率	20～24歳-25～29歳女性人口変化率	25～29歳-30～34歳女性人口変化率	30～34歳-35～39歳女性人口変化率	合計特殊出生率
2015	0.853507453	0.028529146	-0.03712052	-0.21916398	-0.60381849	0.116146141	-0.02787492	-0.0313462	-0.07689936
2020	1.201736431	0.063397245	0.003125112	-0.2113138	-0.58053304	0.194159544	0.032205781	0.051158785	-0.061517

## 2. アンケート調査結果から見た大田市の現状

アンケート調査を通じて、大田市が直面する人口動態の変化と都市機能の現状に関して重要な知見が得られた。特に、市内外からのUIターン者の背景や、子育てと仕事の両立、地域コミュニティへの参画、若者の地元に対する視点に関して前述の人口減少要因につながる示唆が得られた。また、都市機能に対する評価と市民が感じる不足点なども明らかとなり、今後の課題と改善への方向性につながる結果を得られた。

### ライフステージからみた現状

- 回答の**約半数近くがUIターン者**となっており、人口は流動的となっている。
- ふたり親世帯1ターナーは**結婚出産を機**に来ており、独身世帯は**転勤等のタイミング**で来ている。
- パートナーとの出会いは、市内市外ともに半数の割合であるが、大田市に住みながらパートナーを見つけた人も半数以上存在する(ただし、出会いの場が大田市内であるとは限らない)。
- 子育てに関して、**仕事と家庭の両立が難しい**世帯も見受けられ、夫(男性)の3割は子育てで職場を休むことが出来ない状況にあるなど、男女差が存在している。
- 子育てに関する支援状況は、**祖父母からの支援が大きく**、居住関係が近いほど、その支援は手厚い。
- 特に**経済的問題**は、結婚期・子育て期の両方において意思決定に強く作用→所得確保と適切な支援。
- **高校生アンケート**では、大田市に愛着を持っているものの、**将来の居住可能性には迷いも見られる**。

### 都市機能からみた現状

- 大田市に不足している点として、**都市娯楽機能、職場、交通**の3つの要因が挙げられている。
- 中心部と郊外部で、上記3つの要素に対する評価の違いがあまり見受けられない。すなわち、**大田市全体としての求心力が低い**状態となっている。
- 都市機能の集積が弱いため、**子育て世帯からは子どもが遊べる場所が少ない、若者からも娯楽施設が少ない**などの声があり、近隣市町へ出かける方が多い。
- 一方で、**大田市において自然と触れ合う場や機会、種々の社会施設を望む**声も多い。

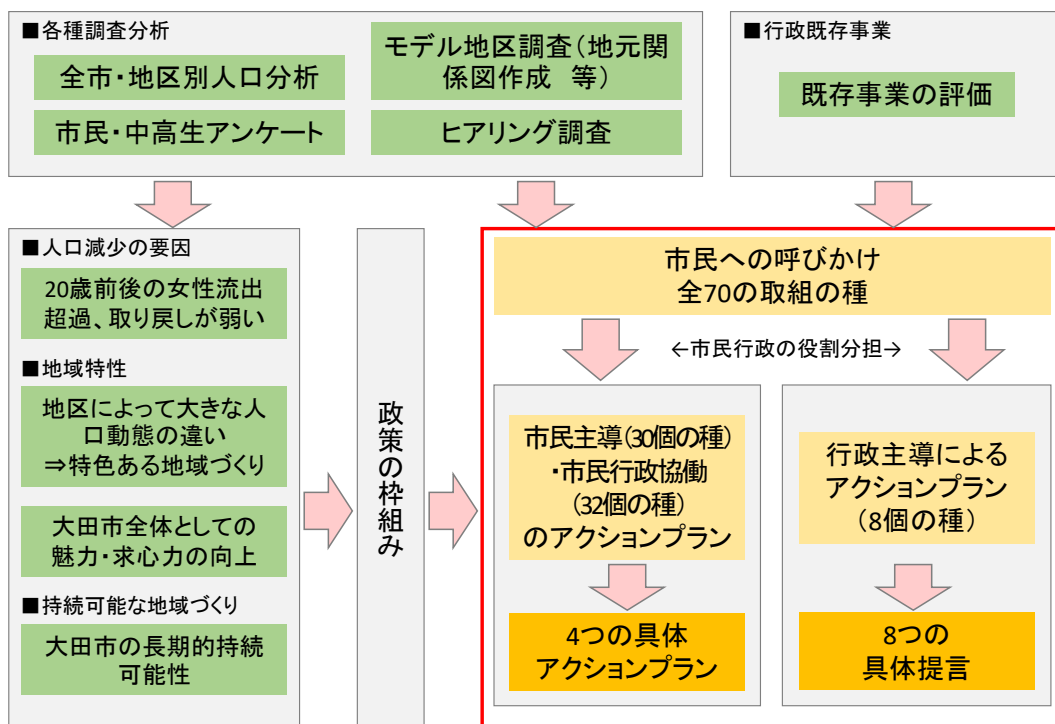
### 3. ヒアリング結果から見た大田市の現状

ヒアリング調査から、大田市の移住促進と地域活性化に向けた有益な示唆が得られた。多様な移住ルートが存在、出会いの場づくり、空き家活用の重要性、そして子どもたちが希望を持てる将来のライフプランを描くための取組など、4つのポイントとして整理した。これらの知見は、大田市が直面する課題への対応策を検討し、より良いまちづくりへの方向性を示すものである。

1. 多様な移住ルート：大田市へのアクセスチャネル
・移住定住サイトなどがどがからの流れ ・移住者が移住者を呼ぶ流れもある
2. 多様な出会いの場づくり
・地域食堂や砂浜でのコンサートなど、地域資源を活かした多様な場づくりができつつある ・今後より大田市内で若者や子育て世帯が集まれる場づくりを進めていく必要がある
3. 移住定住の決め手の一つである空き家の活用
・いかに条件の良い空き家があるのかが移住の決め手に ・課題として実際に住める空き家はどの程度あるか、そしていかに空き家の流通を活性化させるかがポイント
4. 希望を持てる将来のライフプランを立てるために
・子どもたちがいかに自身の将来を描くのか、その力が問われている ・大田市の未来形まちづくりへ

## 4. 検討の歩み

本事業において実施した各種調査分析及びそれを受けての具体的なアクションプランに至るまでの検討の流れについて、以下のように整理できる。



## 5. まとめ

大田市における人口分析結果を基に、様々な知見が得られた。上記の検討の歩みにもあるように、市民主導、市民と行政の協働、行政主導の各アプローチによる全70もの取組が今後の大田市の課題解決のヒントになるだろう。

ただ、これらの取組を行うにあたり、常に最新の人口動態を理解しておくことが必要不可欠である。先の地区別の人口動態に関しては、たとえ1年間という短期間であっても、顕著な変化が観察されることがある。特に、人口規模が小さい行政区では、一家族の定住増加が人口の安定化に向けた重要な一歩となるためである。このことから、本事業においても実施した2つの診断は、是非継続して取り組んで欲しい。

### (1) 継続的な人口診断の必要性

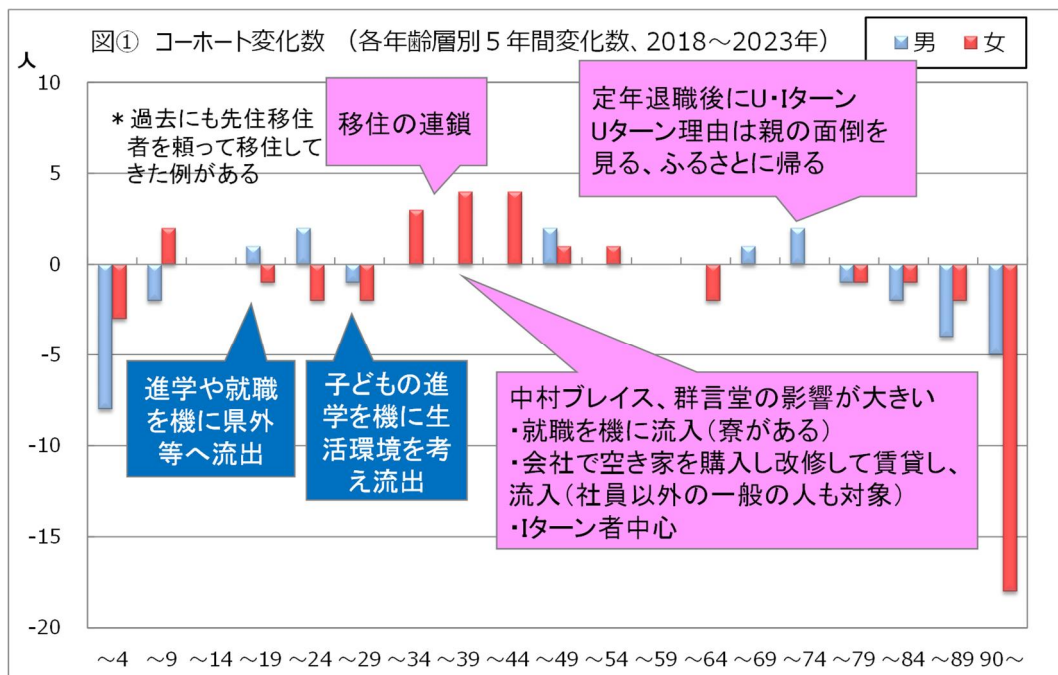
市民フォーラムを契機に、本事業での提案を受けて、各地の取組がより一層進んでいくことを期待する。その際に、地区全体で手応えを共有するためにも、継続的な人口診断を提案したい。また、同時に地区間比較が可能な形でデータ集約を行うことで、定住に効果を上げている地区や人口減少が加速している地区がそれぞれ浮き彫りとなり、優良な取組の共有化や重点的な支援体制の構築に素早く取り掛かることが出来る。

人口診断の方法は、第一章でも述べているように、2時点間の5歳階級別のデータをもとにコーホート変化率法によって分析する手法が理解しやすくかつ計算方法も単純で分かりやすいものとなっている。

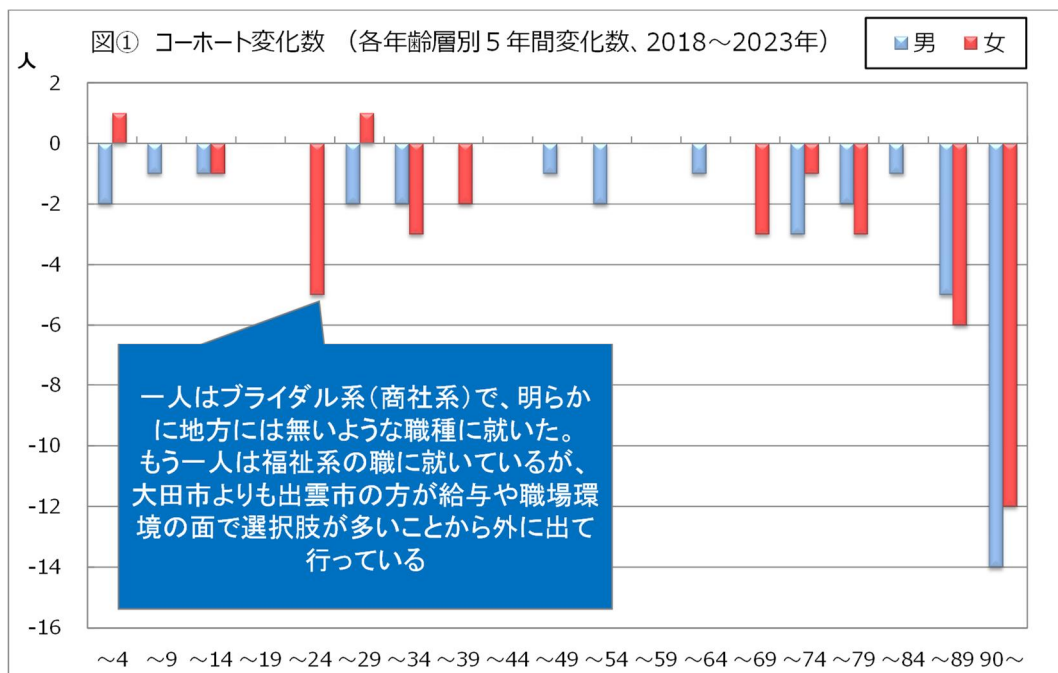
その際に特に重要なのが、ヒアリング調査結果においても示した以下のグラフ「コーホート変化数」（もしくは変化率）のグラフを確認することである。

このグラフによって、どの年代でどのくらいの住民が流入したのか流出したのかが一目で分かるものとなっている。このような徹底的な分析を行うことが、地域づくりの一步につながるのである。

[大森地区（人口動態の良い地区）のコーホート変化数のグラフ]



[大屋地区（人口動態に課題のある地区）のコーホート変化数のグラフ]



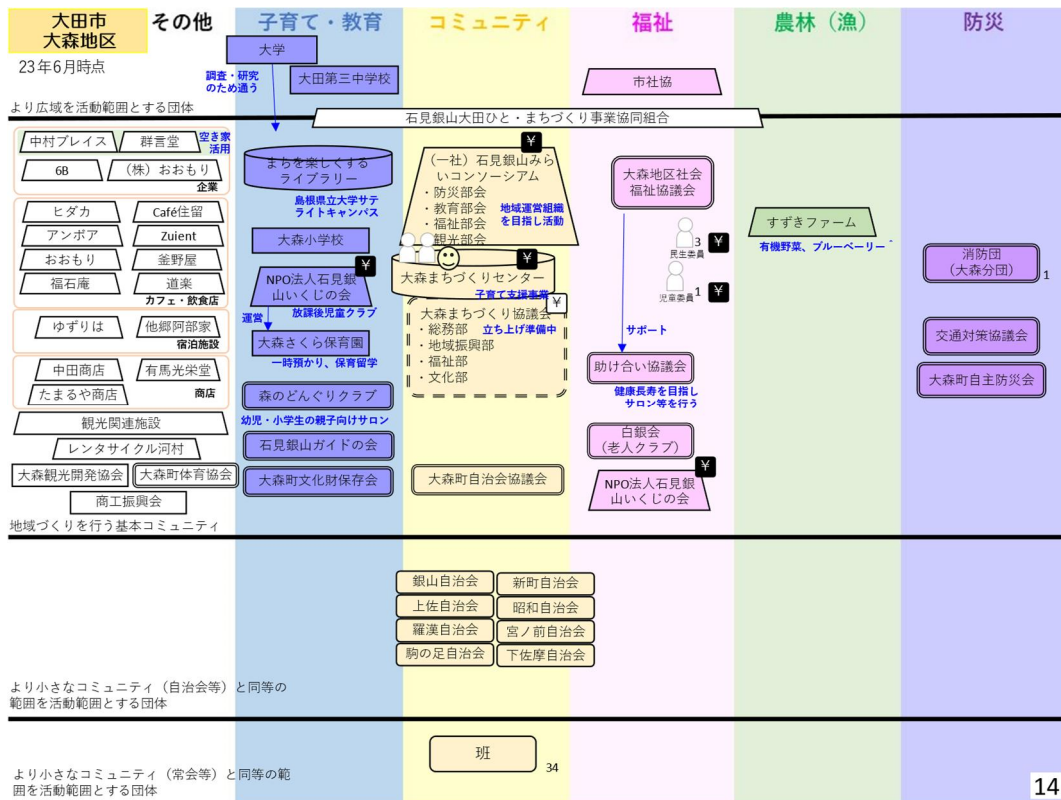


## (2) 地域構造の診断の必要性

人口診断と並んで重要なのが、地域の構造的な診断である。地域の人口増減の背景を深く理解するためにも、本事業でも実施した「地元関係図」の作成を全27地区全てで作成されることをお勧めしたい。

地元関係図の作成は、地域内の組織やその連携を可視化し、地域の現状や課題を明確に把握するのに役立つものとなっている。また、その背景にある仕組みを理解することで、私たちが住む地域の発展に向けた戦略を構造的に表現することが可能となる。更に、他地域と比較することで、互いの地域構造の把握が容易となり地域同士の学び合いを促進することにもつながる。このように、徹底的な診断を通じて、地域の実情を的確に把握することが、未来への方向性を定める第一歩となる。

[大森地区の地元関係図]



## II 持続可能な大田市の実現に向けた具体提案

### 1. 女性の起業、定住支援

アンケートやヒアリング結果より、20代～30代の女性を含む若者世代の取り戻しが急務であることが明らかとなっており、このことを受け、特に女性を対象とした起業、定住を支援する仕組みづくりが不可欠であると言える。

加えて調査検討委員会においても、アクションプラン「中高生と若手起業家・継業家のリンク塾」においてこの問題に対応する形で重点的な検討が行われており、具体的にはメンター制度を通じて地元企業の若手経営者や継業家から直接学び、経営や起業の実践的スキルを身につけるワークショップを定期的を開催することが提案されている。

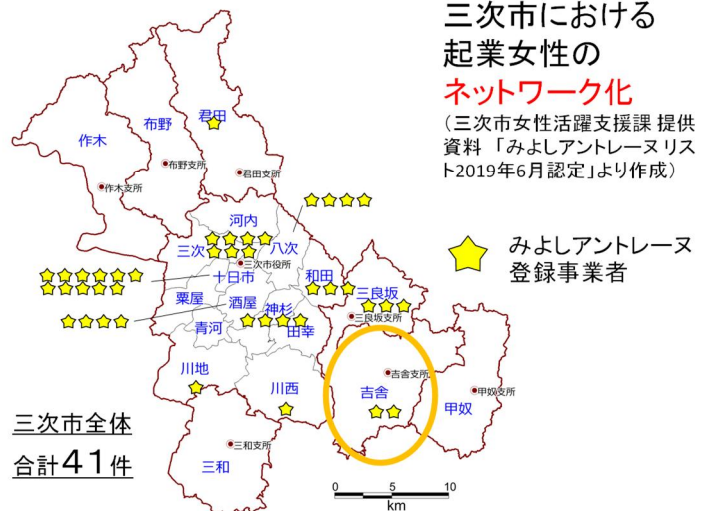
このように、大田市民から選ばれた構成員からなる調査検討委員会においても、重要な課題として認知されていることが伺える。

この点において、広島県三次市の取組が参考になる。三次市では、女性起業家の社会的認知度を高めるとともに、多くの女性の起業を支援する目的で、「女性起業家認定制度」を設け、「みよしアントレヌ」<sup>①</sup>として女性起業家を認定している。この市の取組は、女性起業家同士のネットワーク形成にも寄与している。

[みよしアントレヌの取組]

広島県三次市  
女性活躍プラットフォーム  
(起業支援センター)

専門的な相談や仲間づくりに対応。子連れにも優しい空間づくり。



## 2. 地区別定住戦略の策定と地域への愛着の醸成

### (1) 地区同士で学び合い、進化する「リーグ戦」方式を

地域別人口分析の結果などを見ると、次世代の定住の実現が待ったなしで求められている。一方で、地域によって人口の動態は様々であることから、地域の特性に応じた定住活動が実施されることが不可欠である。そして、このような取組は、その地域だけで完結するのではなく、横展開することでお互いに学び合うことが出来る仕組みも必要である。

そこで、各地区の主体性に基づくオリジナリティあふれる取組が出てくることを期待しつつ、その一方で、地区ごとの孤軍奮闘に終わらないよう、各地区の取組の成果と課題を共有する「リーグ戦」方式による取組方式を提案する。

宮崎県美郷町では、地区別戦略と題して、各地区がお互いに学び合い、全体としてより良い地域にするための戦略づくりを始めているところであり、大田市においても参考いただきたい事例となっている。



[宮崎県美郷町で実施している地区別戦略の例]

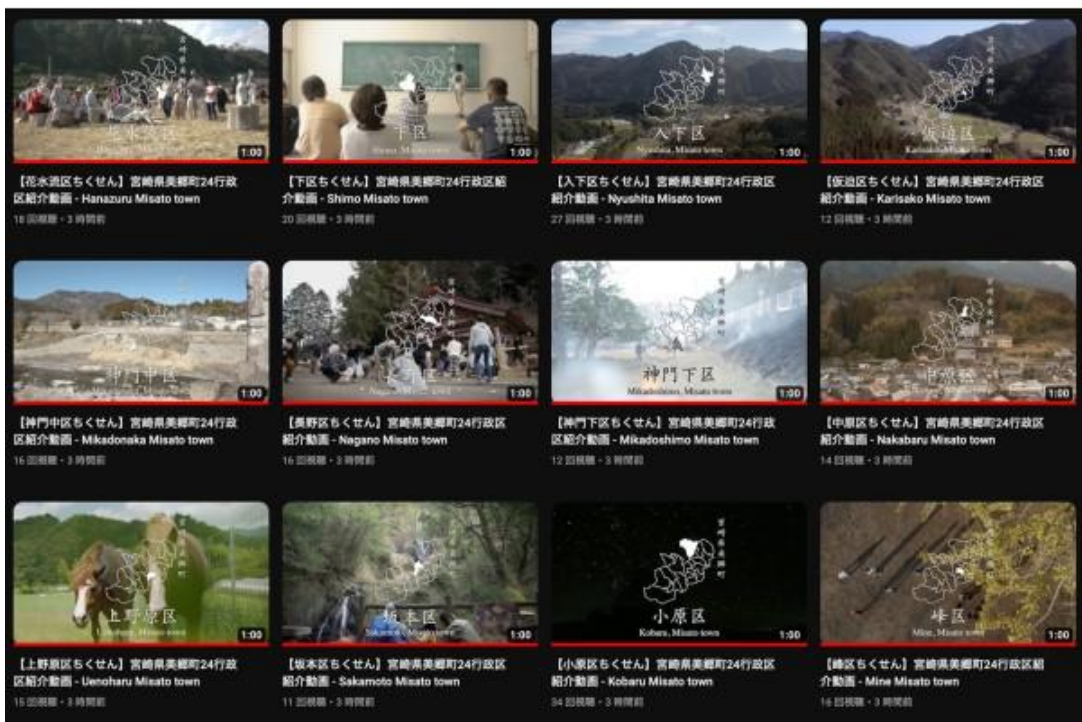
そしてこの取組を通じて、地元住民自らが地区の魅力を変えて発見し、移住する上での地域のルールや年間行事、地域住民が思い描くありたい地域の姿などを記したパンフレットを作ってはいかがだろうか。実際に、宮崎県美郷町においては、「暮らしの手引き」と題した地域のいわばガイドブックを町内全24地区において作成し、移住定住などの場面において地域の情報発信ツールとして使用している。

さらに、情報発信の面で注目したい取組として、以下に示すように、全24地区の特徴を色と漢字一文字に集約し、町として地区それぞれの魅力を情報発信していることである。加えて、地区の住民を主人公にした1分動画も作成するなど、充実した情報コンテンツを作成している。

## 24地区の色&漢字を揃えて、多彩な美郷町の魅力を発信！



## 全24地区で、住民を主人公にした1分間動画が完成・公開中！



## (2) 地元学による愛着の醸成

アンケート調査結果から明らかになった通り、大田市には豊富な地域資源が存在しているにもかかわらず、大田市の強みや魅力としての自己評価が低い傾向にあることが明らかとなっている。地元住民、特に未来を担う若者世代に大田市への愛着を深めてもらい、彼らが大田市へ戻ってくることを望むような、魅力ある体験などを通じて誇りや愛着を醸成することが急務である。そこで、地域の魅力を再発見し、大田市民の自己肯定感を高める仕掛けとして、当研究所が全国で展開する「地元学」の実施をお勧めしたい。

[地元学について]

### 地域の新たな魅力の発見につながる「地元学」の実施

#### 地元学とは？

「地元学」とは、地域に住む住民の皆様が案内人（先生役）となり、地域外からの訪問者が地元の暮らしのさまざまな姿を学ぶ取組のことである。外からの新鮮な目により、地元の方にとっては当たり前のことでも、そこに深い知恵や技、想いを明らかにし、地域の魅力を再認識することがねらいである。

現地案内人（地域住民）から知恵や技、想いを伺う

職人技をその場で披露



学生

案内人

案内人



立派な箱寿司が完成!!



[完成した作品例]



### 3. 安心して子育てできる環境づくり

#### (1) 地域ぐるみでの子育て支援

第5回調査検討委員会において明らかとなったように、子育て世帯も含めた多様な世代が地域で安心して生活できる雰囲気づくりと具体的な行動が求められている。この点に関して、島根県益田市真砂地区の取組が参考になる。真砂地区は、人口減少をはじめとする中山間地域特有の課題を抱えつつも、地域の生活基盤である農業を活かした食育活動の推進や、住民を巻き込んだ里山保育などに取り組む地区である。

里山保育においては、子どもたちが地域の人々と積極的に交流することで、保育所の中だけに留まらない地域全体での保育を実現している。例えば、毎日の散歩時には、その日のコースで訪れた地区の家庭や養護施設で、お年寄りとの交流の機会を持つなどの取組が行われている。



#### 真砂の里山保育とは？

地域全部が園庭 地域住民みんなが保育士



また最近では、小学校、保育所、公民館、診療所の機能を兼ね備えた複合施設を整備している。「ゼロ歳から100歳までの住民が一緒に過ごす地域活性化の拠点にしたい」との関係者の願いを込めた施設で、地域全体での取組がなされている。

[真砂地区 益田市立地域活性化交流館]



## (2) 地区を横断した子育てのネットワークづくり

地域のよりきめ細やかなニーズを専門性を持って対応するため、子育て分野に特化した地域横断的なネットワークを形成することも有効である。

これに関連する事例として、子育て分野におけるネットワークづくりを行っている益田市の取組を紹介したい。益田市では、各地区の公民館が事務局として、「つろうて子育て協議会」を立ち上げており、「つろうて」は益田の方言で「みんなで」という意味を持ち、このスローガンのもと、地域の大人たちが学校に頼るだけでなく、地域が一丸となって子どもたちの成長を支えるための活動に取り組んでいる。

実際に、益田市内の匹見上地区、匹見下地区、道川地区のそれぞれにある「つろうて子育て協議会」によって、3地区合同で子どもたちの川遊び体験などの活動を実施している。このように、まちづくりセンターの枠組みを超えた専門性のあるネットワークを通じて、地域全体で子どもたちの育成と地域活性化に取り組んでいる例は、大田市においても参考になるだろう。



## 4. 大田市としての都市の求心力の向上と周辺地域の活性化

### (1) 中心部の取組：駅前複合施設の整備

大田市では、「おおだ子育てにかかる総合支援拠点施設（仮称）」の整備を進めており、市役所機能を核とした交流や子育て支援機能を備えた事業を展開している。アンケート調査結果からは、大田市の求心力が弱く、市民が買い物や子どもを遊ばせるために出雲市など近隣市町に足を運んでいる現状が明らかになっている。この状況を踏まえ、大田市としては、市の魅力を再び高め、求心力を強化するために、魅力的な施設の整備が急務である。

この点で参考になるのが、兵庫県明石市の取組である。明石市には「あかしこども広場」という複合施設があり、妊娠期から中高生までの幅広い年齢層を対象とした地域での子育て支援を目的としている。この施設には、子育て支援センターや室内遊び場が無料で利用できるほか、中高生向けの交流スペースや多目的ホールも併設されており、多くの注目を集めている。

さらに、「あかしこども広場」の利用者は、施設内の活動に留まらず、図書館で読書をしたり、周辺の飲食店で食事を楽しむなど、地域全体の経済活動にも寄与している好循環が生まれている。大田市が目指すべきものは、このような施設によって支えられた地域コミュニティの活性化であり、市全体の魅力向上と求心力強化に繋がる施策を進めることが重要である。





## (2) 周辺部の取組：空き家の活用促進

地域の人口維持と活性化のためには、空き家の活用が今後の重要な課題の一つである。祖式地区では、地元の大工により丁寧に管理された魅力的な空き家に移住者が住む流れがヒアリング結果から明らかになっている。しかし、その後、地区内で空き家バンクに登録されている空き家がなく、移住者を確保することが困難な状況に陥っている。このような状況は大田市内の他の地域においても同様に見られ、未活用の空き家をどのように活用していくかの仕組み作りが求められている。

この問題に対する一つの解決策として、空き家の「サブリース」方式を紹介する。サブリース方式は所有者と移住者の間に自治体やまちづくり協議会等が入り、リスクヘッジをした上で貸し出し・借り受けができるという取組である。

鳥取県鳥取市の NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会では、地域経営会社としてまちづくり協議会自身が空き家を借り上げ、入居希望者に対して空き家を貸し出している。

### NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会（鳥取県鳥取市）



#### 概要 (H13.10 法人設立)

平成6年から取り組み始めた街なみ環境整備を契機として、平成13年10月にそれまで各々で活動していた多くの住民・グループが集まり、「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」が設立された。空き家活用をはじめとして、様々な活動に取り組んでいる。

#### 取組のPoint

空き家のサブリース事業

まちづくり協議会がサブリース事業に取り組むこととなった背景に、そもそも中山間地域では地元不動産が少ない事情がある。また、まちづくり協議会が仲介役になることで、空き家所有者側も地元の地縁の団体に貸すという安心感につながっている。

#### 主な取組

- 景観事業
- 賑わい事業
- 研修事業
- 空き家活用事業
- 地域連携事業
- 交流事業



鹿野芸術祭



週末だけのまちのみせ  
告知

#### 空き家のサブリース事業

空き家所有者と入居希望者の仲介役を本組織が担うサブリースという形で空き家の活用を行っている。



#### 週末だけのまちのみせ

鹿野町内の空き家・空きスペースを活用して、飲食や工芸品などが立ち並ぶイベント。地域活性化に寄与している。



令和4年現在、NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会では鹿野町全域で約40戸の空き家を管理しており、そのうち直接店舗などで利用する空き家は6戸、サブリース事業で利用するのは26戸、入居希望者と空き家所有者が直接賃貸契約を結ぶ際に協力したのが2戸となっている。

なお、サブリース事業の運用自体に対して行政からの補助は一切受け取っていない。



[サブリース事業で運用する住宅]



[サブリース事業で運用する店舗]

■サブリース事業において収支バランスを取るための秘訣！

(NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会への取材より)

【その1】

契約後入居者が決まってから、空き家所有者に家賃を支払い始める。

【その2】

まち協が借主に空き家を貸し出すときと、空き家所有者からまち協が空き家を借りるときとで一定の差額を設けることで収入を得ている。そのため、空き家所有者から借りる際の金額設定については慎重に設定している。

【その3】

鳥取市の空き家活用事業を活用することで、まち協の財政的負担を軽減している。この事業により、空き家の利活用に必要な改修工事に要する費用のうち、上限はあるが対象経費の半分を市が負担し、もう半分は空き家所有者に負担を求める内容となっている。

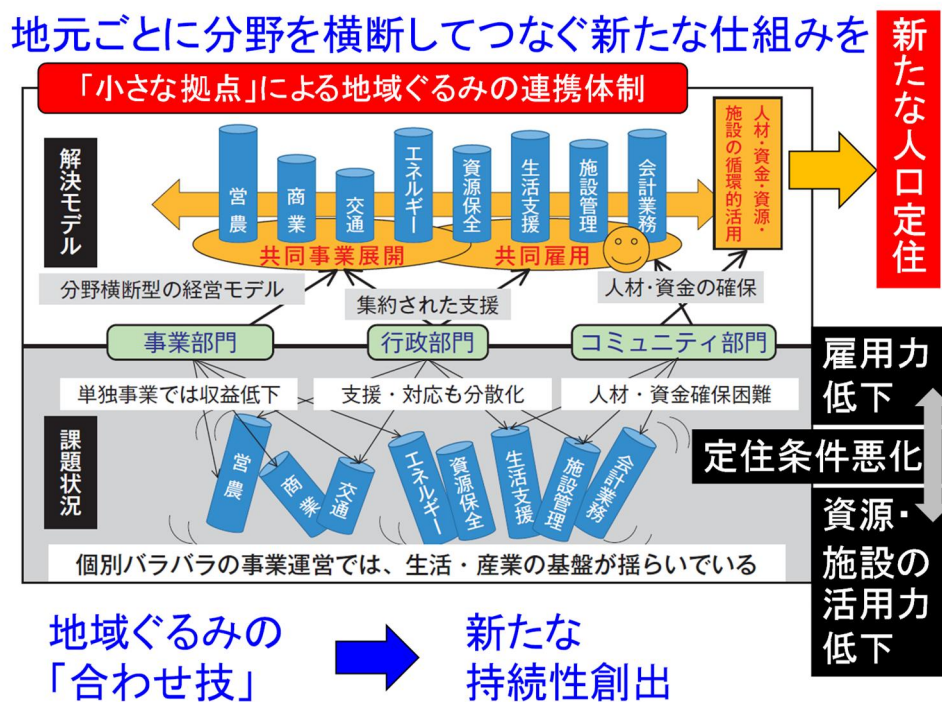
## 5. 仕組みづくりと体制づくり

### (1) まちづくりセンターの活用

大田市における真に持続可能な取組を進めるには、一元化された体制の構築が必要である。現在、大田市は各 27 地区にまちづくりセンターを設置し、地域活動を支援しているが、これらのセンターを地域活動の中核拠点としての役割をさらに強化することが求められている。具体的にはこれらのセンターが中心となって、定住促進戦略や地域全体での子育て支援など、中心的な組織や拠点として機能するべきものとする。

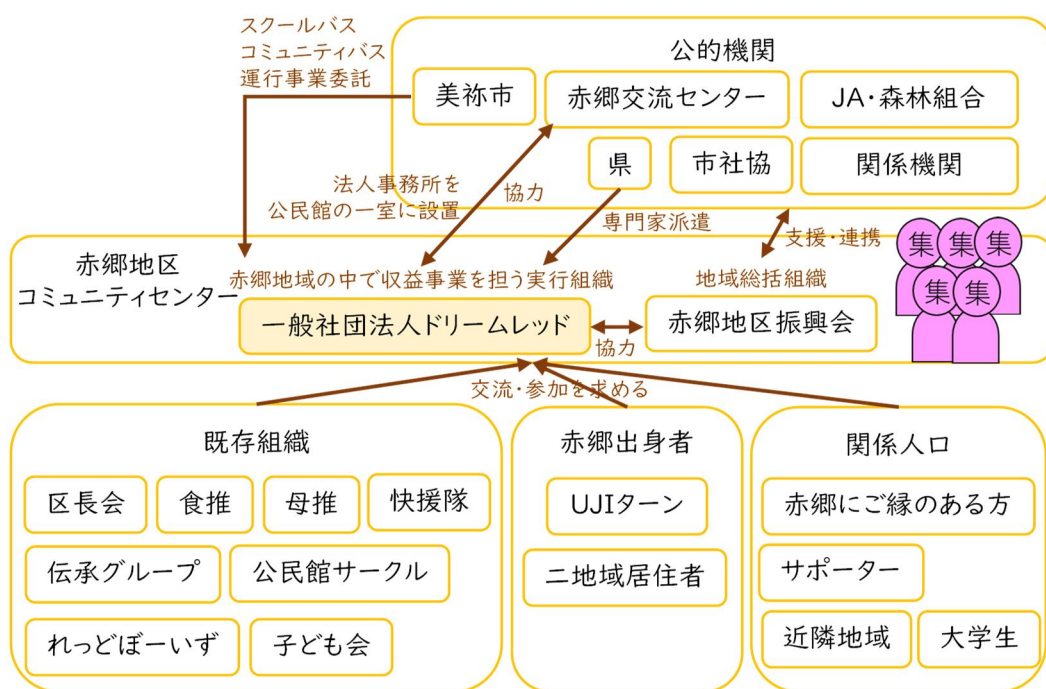
この背景として、地区別の人口動態からも明らかなように、人口規模が小さい地区では、分野別に縦割りされた拠点の運営により収益や利用率が低下し、安定した雇用の提供が難しくなることが予想されるためである。また、自治組織や生活支援、公民館などのコミュニティ機能も、個別に運営することで人材や資金の確保が困難となり、行政からの支援も効果的に提供されにくくなる恐れがある。

この「縦割り」や「バラバラ」な状況を放置すれば、地域全体の雇用力低下や定住条件の悪化が懸念される。そこで、まちづくりセンターが分野横断的な組織として地域の中心的役割を果たすことが改めて求められている。

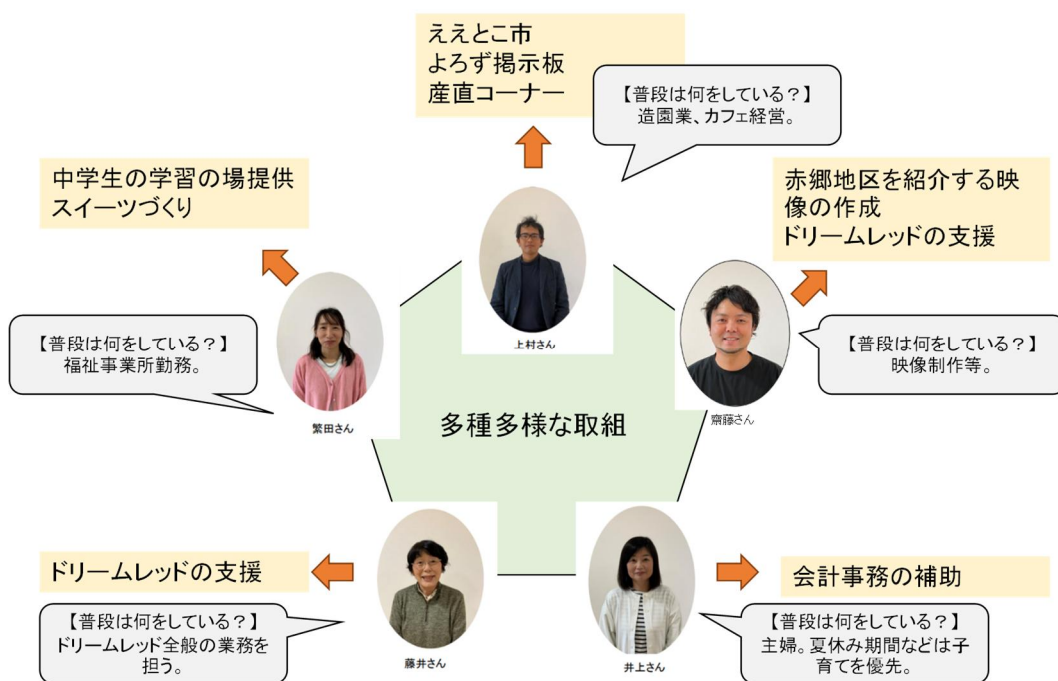


この点で参考になるのが山口県美祢市赤郷地区の取組である。赤郷地区では、赤郷地区振興会という大田市のまちづくりセンターと同様の組織があり、後述する地域経営会社（一般社団法人ドリームレッド）や集落支援員が配置され、様々な分野を横断した取組が展開されている。この例からも、大田市内のまちづくりセンターが地域の様々な組織や人々をつなぐ核心的な役割を担うべきであると考えられる。

[赤郷地区の体制図]



[確固たる地域の拠点があることで、集落支援員自らの特技を生かして様々な形で地域に貢献]



## (2) 地域経営会社の設立へ

近年、全国の中山間地域では、さまざまな分野を横断して事業を展開する「地域経営会社」の設立事例が増加している。この「地域経営会社」とは、地域の住民が主体となり、地域社会全体が安定、進化、持続可能な発展を目指す法人組織と定義される。

今後、自ら自走できる地域づくりを進めていくためには、まちづくりセンターのような地域を代表した組織を法人化することで、これまでに実施が困難と考えられていた取組をより深いレベルで、かつ多角的に展開させることができる可能性がある。

島根県邑南町出羽地区では、地区内の12集落の広域連携を契機として、地区全体として営農や空き家活用を展開する事業主体として、住民有志の出資により地域経営会社として合同会社が設立され、個人の努力だけでは実現できない起業支援や空き家活用にまで事業を展開している。また、近年開業したパン屋さんについても、空き店舗を国の補助金を活用して改修するまでは、合同会社の事業として取り組まれている。



## 成果物について

本業務の成果物として、以下のファイルを別途CD-ROMで納品する。

ラベル名：【令和5年度 大田市総合的な人口減少対策事業少子化対策に係る調査研究等業務 成果物】

- 大田市全体の将来人口推計・分析結果 × 1ファイル
- 大田市まちづくりセンター単位の将来人口推計・分析結果 × 27ファイル
- 地元関係図（2地区） × 2ファイル
- 報告書【本編】の電子データ（PDF・WORD） × 各1ファイル
- 報告書【概要版】の電子データ（PDF・WORD） × 各1ファイル

## 執筆者リスト

業務代表者 藤山 浩

（一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長）

業務協力者 森山 慶久

（一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 理事）

業務協力者 野村 秀一郎

（一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 主任研究員）

業務協力者 田中 宏美

（一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 研究マネージャー）

令和5年度

大田市総合的な人口減少対策事業  
少子化対策に係る調査研究等業務

発行年月：令和6年3月

発行：一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所

〒699-3671 島根県益田市津田町 1401